第三十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十五條　本令ニ依リ樺太廳長官ニ提出スル文書ハ所轄樺太廳支廳ヲ經由スヘシ但シ漁業ノ場所カ二以上ノ支廳ノ管轄ニ亙ルトキハ其ノ關係最モ重キ樺太廳支廳ヲ經由スヘシ

第三十六條　本令ノ規定ハ官公署ニ於テ調査又ハ試驗ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

水產動植物ニ關スル學術研究其ノ他特別ノ事由ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合亦前項ニ同シ

附　則

第三十七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

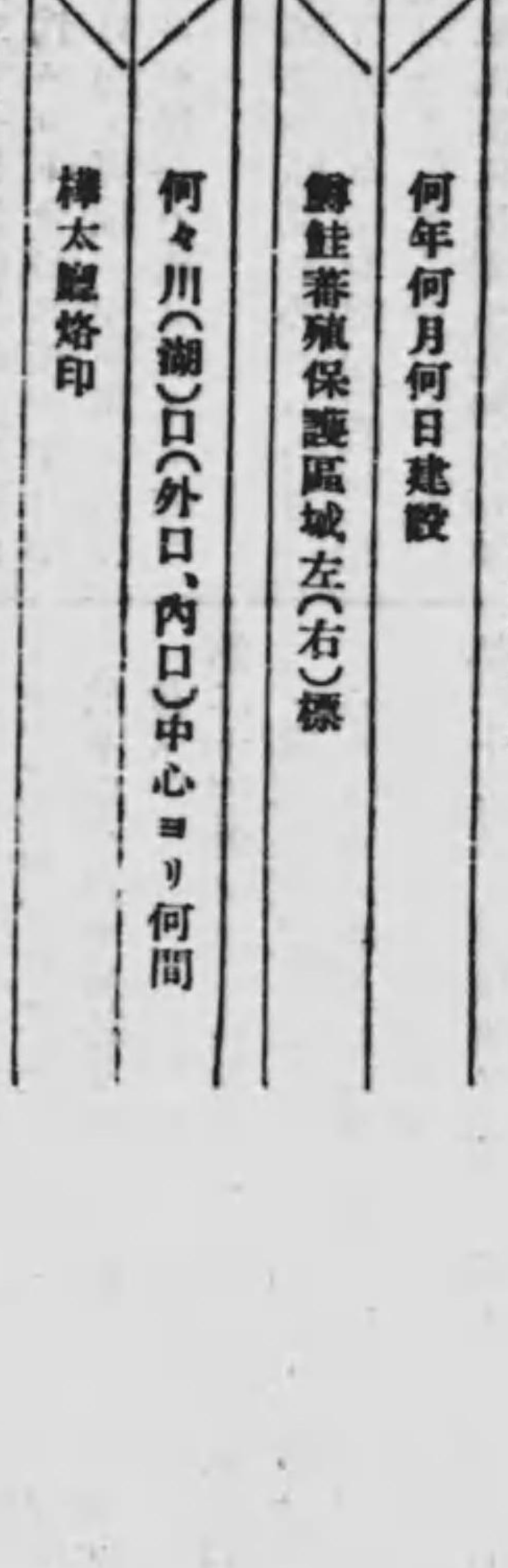
第三十八條　從前ノ規定ニ依リ公布シタル告示ハ本令ニ依リ廢シタルモノト看做ス

第三十九條　本令ニ依リ許可ヲ受クヘキ漁業ニシテ從前ノ規定ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

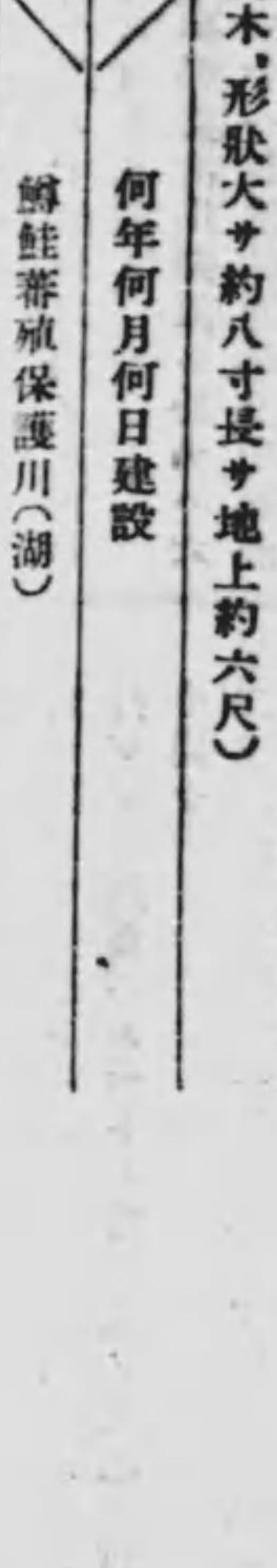
本令ニ依リ屆出ツヘキ漁業ニシテ從前ノ規定ニ依リ屆出テタル者ハ本令ニ依リ屆出テタルモノト看做ス

第四十條　從前ノ規定ニ依リ鰊待網漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ大正十一年ニ限リ從前ノ規定ニ從ヒ仍其ノ漁業ヲ爲スコトヲ得

樣形第二號（材質木、形狀大サ約八寸長サ地上約六尺）



樣形第三號（材質木、形狀大サ約八寸長サ地上約六尺）



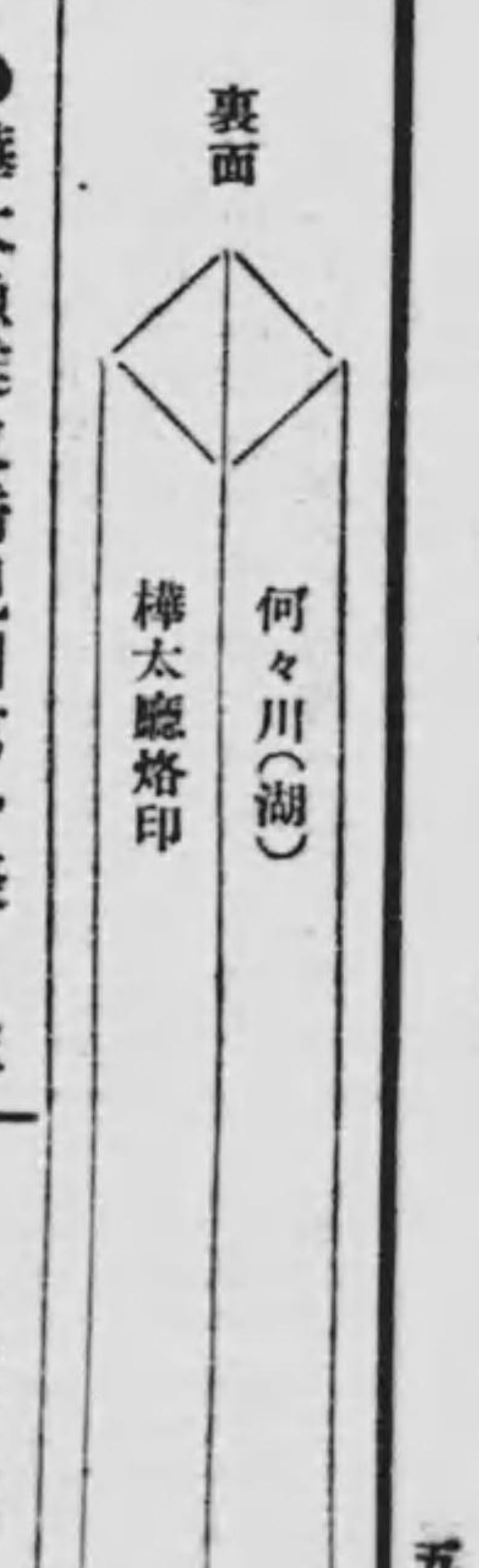
樣形第一號（用紙厚紙美濃四切）

表　面

第　號
漁業許可證
住所
氏名
年　月　生
一、漁業ノ名稱
二、漁獲物ノ種類
三、漁具ノ名稱及數
四、漁船ノ種類及數
五、漁業ノ場所
六、漁業ノ時期
七、許可期間
右漁業ヲ許可ス
年　月　日
樺太廳又ハ支廳名

裏　面

制限及條件



●樺太漁業取締規則第一條ニ依ル出願手數料（大正二年三月樺太廳令第九號）

改正　大正七年第六七號

樺太漁業取締規則第一條ニ依ル漁業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金五拾錢ヲ納付スヘシ許可證ノ再下付、書換又ハ許可證謄本ノ下付ヲ受ケムトスル場合亦同シ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土人ノ共有スル漁業權貸付ノ件（明治四十一年十二月樺太廳令第四十號）

土人ノ共有スル漁業權ハ樺太廳長官ノ認可ヲ得テ之ヲ他人ニ貸付スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州漁業規則（大正十四年八月二十八日關東廳令第五十一號）

改正　大正一五年第一五號

關東州漁業規則左ノ通定ム

關東州漁業規則

第一條　本令ニ於テ漁業ト稱スルハ公共ノ用ニ供スル水面ニ於テ營利ノ目的ヲ以テ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

第二條　本令ハ關東州内ニ於テ漁獲物ノ處理ヲ爲シ又ハ食料、燃料其ノ他操業上必要ナル物品ノ積込ヲ爲ス者ニモ之ヲ適用ス

第三條　左ニ掲クル漁業ヲ爲サムトスル者ハ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　一定ノ水面ニ漁具ヲ建設又ハ敷設シテ爲ス漁業
二　一定ノ水面ヲ漁場ト爲シ曳揚又ハ追込ヲ爲ス漁業
三　一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲シ又ハ築磯若ハ漬場ヲ設クル漁業
四　一定ノ水面ヲ區劃シテ爲ス養殖業
五　汽機又ハ發動機附船舶ヲ以テ爲ス漁業
六　捕鯨業又ハ海獸漁業
七　潛水器漁業
八　海藻採取業
九　漁場二以上ノ民政署又ハ管轄區域ニ跨ル前各號ニ掲ケタル漁業

第四條　漁業ノ許可期間ハ十年以内トシ關東長官之ヲ定ム

前項ノ期間ハ漁業者ノ申請ニ依リ更新スルコトアルヘシ

第五條　關東長官ハ漁業ノ許可ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトアルヘシ

第六條　第三條第一號乃至第四號ノ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ漁場ニ近キ沿岸ニ別記樣形ノ漁場標識ヲ建設スヘシ

前項ノ漁場ニ於テハ魚類ノ通路ヲ遮斷シ又ハ魚類ヲ散逸セシメ其ノ他當該漁業ヲ妨害スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　左ノ場合ニ於テハ關東長官ハ漁業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　錯誤ニ因リ許可ヲ與ヘタルトキ
二　漁業ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一年内ニ漁業ニ著手セス又ハ著手後一年以上休業シタルトキ

第八條　左ノ場合ニ於テハ關東長官ハ漁業ノ許可ヲ取消シ又ハ漁業ヲ制限若ハ停止スルコトアルヘシ

一　本令又ハ本令ニ基ク處分ニ違反シタルトキ

二　水產動植物ノ蕃殖、保護其ノ他公益上必要アリト認メタルトキ

第九條　第三條ノ漁業ニ該當セサル漁業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ漁場ヲ管轄スル民政署長又ハ民政支署長ニ屆出テ漁業鑑札ヲ受クヘシ

漁業鑑札ノ有效期間ハ三年以内トス

第十條　第三條ノ許可願ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　漁業ノ名稱
二　漁獲物又ハ養殖物ノ種類
三　漁具ノ名稱及數
四　漁船ノ種類、大サ、數及乘組人數
五　漁場ノ位置及區域
六　漁業ノ時期
七　漁業根據地

前項ノ許可願ニハ漁場ノ位置及區域ヲ表示シタル圖面二通ヲ添附シ且機關ヲ有スル船舶ヲ使用スルモノニ在リテハ別記樣式ノ船舶件名書ヲ添附スヘシ

第十一條　第九條ニ該當スル漁業ノ屆出ニハ一漁業每ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　漁業ノ名稱
二　漁獲物ノ種類
三　漁具ノ種類及數
四　漁船ノ大サ及乘組人數
五　漁場ノ位置及區域
六　漁業ノ時期

第十二條　漁業許可證又ハ漁業鑑札ハ出漁ノ際之ヲ携帶スヘシ

第十三條　漁業許可證又ハ漁業鑑札ハ之ヲ賣買、讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ス

第十四條　漁業許可期間更新ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ期間滿了三月前ニ之ヲ申請スヘシ

第十五條　漁業ノ許可ヲ受ケタル者死亡シ相續人其ノ漁業ヲ繼續經營セムトスルトキハ三月内ニ漁業許可證ニ相續者タルコトノ證明書ヲ添ヘ名義ノ書換ヲ申請スヘシ

第十六條　漁業許可證又ハ漁業鑑札ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ其ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ事由ヲ具シ其ノ再下付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第十七條　漁業許可期間若ハ漁業鑑札ノ有效期間滿了シタルトキ又ハ其ノ效力ナキニ至リタルトキ若ハ漁業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク漁業許可證又ハ漁業鑑札ヲ返納スヘシ

漁業者死亡シタルトキハ其ノ家族、解散シタルトキハ其ノ清算人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ第十五條ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　漁業ノ許可ヲ與ヘタルトキ又ハ之ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ關東廳廳報ニ公示ス

第十九條　本令ニ依リ關東長官ニ提出スヘキ書類ハ其ノ漁場ヲ管轄スル民政署又ハ民政支署ヲ經由スヘシ但シ其ノ漁場ノ管轄明確ナラサルトキハ漁業ノ根據地ヲ管轄スル民政署又ハ民政支署ヲ經由スヘシ

第二十條　關東長官ハ漁業者ニ對シ水產上ノ調査又ハ書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條　有毒物又ハ爆發物ヲ使用シテ水產動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ捕鯨又ハ海獸漁業ニシテ特ニ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　河川又ハ灣口ヲ閉塞遮斷シテ水產動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ關東長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　旅順港内及大連港内黄白嘴ノ岬端ヨリ北長山見通シノ線以内ニ於テハ網具ヲ使用シテ水產動植物ヲ採取スルコトヲ得ス但シ許可ヲ受ケテ敷設セル定置網具ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　左ニ掲クル水產動植物ハ各號ニ定ムル期間之ヲ採捕スルコトヲ得ス

一　海鼠　自六月一日　至七月三十一日
二　鮑　自七月十五日　至九月三十日
三　赤貝　自七月十五日　至九月三十日
四　イタヤガヒ　自六月一日　至七月三十一日
五　蛤　自七月一日　至八月三十一日
六　フノリ　自六月一日　至翌年三月十日
七　テングサ　自九月一日　至翌年五月三十一日

第二十五條　左ニ掲クル水產動物ハ之ヲ採捕、所持又ハ販賣スルコトヲ得ス

一　鮑　殼長二寸五分未滿ノモノ
二　赤貝　殼長二寸未滿ノモノ
三　イタヤガヒ　殼長三寸未滿ノモノ
四　蛤　殼長一寸未滿ノモノ
五　鯛　體長四寸未滿ノモノ

第二十六條　漁具ノ建設又ハ敷設ハ左ノ各號ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一　桝網、壺網、角網及之ニ類似ノ定置漁網ハ其ノ網ノ基部ヨリ沖出ノ間數直線距離百二十間以上ヲ最長限度トス
二　大敷網、大謀網、根搾網及之ニ類似ノ定置漁網ハ其ノ網ノ基部ヨリ沖出ノ間數直線距離五百間ヲ以テ最長限度トス
三　建干網、張網及駄袋類漁具ハ其ノ建設延長限度ヲ一千間トス
四　駐木網及之ニ類似ノ漁業ハ其ノ漁場ニ於ケル直線距離延長限度ヲ六百間トス

第二十七條　汽船『トロール』漁業ハ左ノ區域内ニ於テ操業スルコトヲ得ス

普蘭店管内西中島拉脖子岬角北西十五海里ノ點ヨリ旅順管内蜂島西側岬角西十五海里ノ點、老鐵山西角正南十海里ノ點、大連管内南三山島南端岬角正南十五海里ノ點ヲ經テ海洋島南端岬角ニ至ル線以内及海洋島北砣子ノ北端ヨリ五馬島ノ西端岬角ヲ經テ貔子窩管内碧流河會子島子ニ至ル線以内

第二十八條　機船底曳網漁業ハ左ノ區域内ニ於テ操業スルコトヲ得ス

普蘭店管内西中島拉脖子岬角西十海里ノ點ヨリ旅順管内蜂島西側岬角正西五海里ノ點、老鐵山西角西南五海里ノ點、大連管内南三山島南端岬角正南五海里ノ點、廣鹿島洪東子東端岬角及大長山島西端岬角ヲ經テ貔子窩管内碧流河會子島子ニ至ル線以内

第二十九條　五月一日ヨリ六月三十日迄ノ間ニ渤海灣ニ於テ汽船『トロール』漁業及機船底曳網漁業ヲ爲サムトスル者ハ一年每ニ關東長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三十條　第二十一條乃至第二十九條ノ規定ハ學術研究其ノ他特別ノ事由ニ依リ關東長官ノ認可ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セス

第三十一條　第三條、第六條第二項及第二十一條乃至第二十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　第九條、第十二條、第十三條、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條　漁業者ハ其ノ代理人、家族、雇人

說明セル書類

三　總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付テハ船舶國籍證書寫及船舶檢査證書寫又ハ漁船檢査證書寫、總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ付テハ船舶鑑札寫又ハ漁船檢査證書寫

出願人カ法人ナルトキハ前項ニ揭クル書類ノ外定款及社員名簿又ハ株主名簿、組合ナルトキハ契約書及組合員ノ名簿ヲ願書ニ添附スヘシ但シ其ノ法人若ハ組合ハ帝國臣民ノミヲ以テ組織スルモノナルコトヲ定款又ハ契約書ニ於テ明示セル場合又ハ之ニ關スル地方長官ノ證明アル場合ニ於テハ社員名簿又ハ組合員名簿ヲ添附スルコトヲ要セス

第二條　漁船奬勵金ヲ受ケムトスル者ハ樣式第三號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一　樣式第二號ニ依ル業務目論見書
二　樣式第四號ニ依ル船舶件名書
三　圖面
四　仕樣書

前條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第一項第三號ノ圖面ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作成シ各圖面ニハ寸法ヲ附記スヘシ但シ汽機圖ニハ汽機縱橫平面、各截面及冷汽器附屬唧筒ノ截面ヲ、汽罐圖ニハ縱橫截面、前面及背面ヲ記入スヘシ

一　船舶ヲ新造スル場合ニ在リテハ船體線圖、船體中央橫截面圖、船體中心線縱截面圖、船體各甲板平面圖、艙內平面圖、船體中心線縱截面竝各甲板及艙內平面ノ鋼材配置圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖又ハ發動機圖、保藏ニ使用スル機械圖、保藏設備圖、處理用機械裝置圖、無線電信原動機圖又ハ無線電話原動機圖、無線電信裝置圖又ハ無線電話裝置圖

二　船舶ニ新造ノ機關ヲ据附クル場合ニ在リテハ機關室ノ橫截面圖、船體各甲板平面圖、艙內平面圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖又ハ發動機圖

三　船舶ニ保藏設備ヲ施設スル場合ニ在リテハ保藏室及保藏ニ使用スル機械室ノ橫截面圖及縱截面圖、船體各甲板平面圖、艙內平面圖、保藏ニ使用スル機械圖、保藏設備圖

四　船舶ニ新造ノ副漁具ヲ据附クル場合ニ在リテハ副漁具圖、副漁具ノ運轉ニ主トシテ使用スル機械圖、副漁具ノ運轉ニ要スル裝置圖

五　船舶ニ無線電信裝置又ハ無線電話裝置ヲ施設スル場合ニ在リテハ無線電信室圖又ハ無線電話室圖、無線電信原動機圖又ハ無線電話原動機圖、無線電信裝置圖又ハ無線電話裝置圖

六　船舶ヲ改造スル場合ニ在リテハ改造部ノ改造前後ニ於ケル對照圖

計畫總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ新造シ又ハ總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ改造スル場合ニ於テ農林大臣必要ト認メタルトキハ左ノ書類ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

一　樣式第四號ノ二ニ依ル船舶重量及重心ノ位置計算表
二　排水量及橫「メタセンター」曲線圖
三　乾舷高及橫「メタセンター」高計算表

遠洋漁業奬勵法第五條第一項第一號乃至第三號ニ該當スル場合ヲ除クノ外漁船奬勵金ヲ受ケムトスル者ハ前各項ニ依ル書類ノ外船體、機關、保藏設備、無線電信裝置、無線電話裝置、副漁具及屬具ノ新造又ハ改造ニ要スル豫定經費明細書ヲ差出スヘシ

遠洋漁業奬勵法第五條第一項本文ニ依ル出願ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二條ノ二　計畫總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ新造スル場合ニ於テ漁船奬勵金及漁業奬勵金ヲ併セ受ケムトスル者ハ樣式第三號ノ二ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一　第二條第一項第二號乃至第四號ノ書類
二　第二條第五項ノ書類
三　漁業奬勵金ヲ受ケムトスル年度ニ於ケル第一條第一項第一號及第二號ノ書類

農林大臣必要ト認メタルトキハ前項ノ添附書類ノ外第二條第四項第一號乃至第三號ノ書類ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

第一條第二項ノ規定ハ第一項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第二條ノ三　遠洋漁業奬勵法第五條ノ奬勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ保藏設備ハ冷藏設備、殺菌設備又ハ防熱設備ニ限ル

第二條ノ四　遠洋漁業奬勵法第五條第二項ノ改造ニ對スル奬勵金ハ其ノ改造費中船體ノ改造費カ其ノ船體ノ時價ノ四分ノ一以上ナルトキ又ハ機關ノ改造費カ其ノ機關ノ時價ノ四分ノ一以上ナルトキニ限リ其ノ改造費ニ對シ之ヲ下付ス

第三條　農林大臣第一條ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁業奬勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ但シ業務設備又ハ船舶ヲ檢査スル必要アリト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル檢査員又ハ管海官廳ヲシテ遠洋漁船檢査規程ニ依リ檢査ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條　農林大臣第二條ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁船奬勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第四條ノ二　農林大臣第二條ノ二ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁船奬勵金及漁業奬勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第五條　農林大臣前三條ニ依リ奬勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付シタルトキハ其ノ旨ヲ出願人ノ住所所在地ノ管轄地方長官ニ通知スヘシ

第六條　第四條又ハ第四條ノ二ノ許可指令書ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ指定シタル時期ニ於テ船舶ノ新造若ハ改造、機關、處理用機械若ハ副漁具ノ据附又ハ保藏設備ノ施設ニ關シ遠洋漁船檢査規程ニ依リ管海官廳又ハ主務大臣ノ指定シタル檢査員ノ檢査ヲ受クヘシ

農林大臣必要ト認メタルトキハ第二條又ハ第二條ノ二ノ出願人ニ對シ奬勵金下付ノ許否ノ處分前ト雖前項ノ檢査ノ一部ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七條　第四條又ハ第四條ノ二ノ許可指令書ヲ受ケタル者其ノ船舶ノ新造若ハ改造、機關、處理用機械若ハ副漁具ノ据附又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ノ施設ニ關スル仕樣ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ農林大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ檢査員カ其ノ變更ニ因リ船體、機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ要部ニ著シキ相違ヲ生セサルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ農林大臣ハ變更ノ程度ニ應シ其ノ許可シタル漁船奬勵金ノ率ヲ變更スルコトアルヘシ

第八條　第六條ニ依ル檢査ヲ終リタルトキハ管海官廳又ハ主務大臣ハ樣式第五號ニ依ル竣工證明書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第九條　農林大臣必要アリト認メタルトキハ漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可期間內、漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニ對シ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間何時ニテモ其ノ船舶ノ業務設備檢査ヲ執行スルコトアルヘシ

農林大臣ニ於テ業務設備ヲ不完全ナリト認メタルトキハ其ノ補充ヲ爲スヘキ旨ヲ業務主ニ命スルコトアルヘシ

第十條　漁業奬勵金若ハ漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間內ニ、漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年內ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日內ニ其ノ旨農林大臣ニ屆出ツヘシ

一　船舶カ日本船舶ノ資格ヲ喪失シタルトキ
二　船舶カ滅失、沈沒シ若ハ行衞不明トナ

リタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
三　法人若ハ組合カ解散又ハ破產シタルトキ
四　船舶檢査證書又ハ船舶鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ
五　前各號ノ外奬勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

法人若ハ組合カ解散又ハ破產シタル場合ニハ其ノ淸算人又ハ破產管財人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲スヘキ者カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ、行衞不明トナリタルトキハ其ノ戶主又ハ家族ヨリ屆出ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　漁業奬勵金又ハ漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間內ニ、漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年內ニ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ死亡シ若ハ行衞不明トナリタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相續人ヨリ、行衞不明ノ場合ニ於テハ其ノ戶主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年內ニ其ノ船舶ヲ讓渡シタルトキハ遲滯ナク樣式第六號ニ依ル屆書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第十三條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間內ニ、漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年內ニ船體、機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ現狀ニ重大ナル變更ヲ爲サムトスルトキハ樣式第十號ニ依ル願書ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ機關、處理用機械若ハ副漁具ヲ除去若ハ据替ヘムトスルトキ又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ヲ除去若ハ施設替ヘセムトスルトキ亦同シ

第十四條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ船舶奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年內ニ業務目論見書ニ記載シタル業務ノ種類、期間又ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ船舶ヲ使用シテ其ノ變更セムトスル業務目論見ニ從テ爲ス漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ付漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ遠洋漁業奬勵法第九條ノ規定ニ依リ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシムルコト能ハサルトキ又ハ漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間內ニ於テ業務ヲ廢止若ハ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者每業務期間ニ於ケル業務ヲ開始シ若ハ終了シタルトキハ業務主又ハ船長ヨリ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ

第十七條　業務期間內ニ於テ避難ノ爲又ハ薪水、糧食ノ積入、漁獲物ノ陸揚若ハ船舶、漁具ノ修繕ニ要シタル日數及農林大臣ノ必要ト認メタル航行碇泊ノ日數ハ就業日數ト看做ス

第十八條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者業務期間ヲ終リタルトキハ樣式第七號ニ依ル請求書ニ業務日誌ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出シ奬勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者奬勵金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ竣工證明書ヲ添ヘ樣式第八號又ハ樣式第九號ニ依ル請求書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ施設又ハ施設替ニ對スル奬勵金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ私設無線電信規則第九條ニ依ル檢定證書又ハ假檢定證書ノ寫ヲ添附スヘシ

第二十條　漁業奬勵金又ハ漁船奬勵金下付ノ許可ニ因リテ生シタル效力ハ事業ト共ニスル場合ニ限リ農林大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ漁業奬勵金又ハ漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者及讓受人連署シ且其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

前項ノ認可申請書ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二十一條　遠洋漁業奬勵法第七條ノ場合ニ於テ奬勵金ノ下付ヲ請求セムトスルモノハ漁業奬勵金請求書ニ其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第二十二條　遠洋漁業奬勵法又ハ本則ノ規定ニ違反シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判ノ確定スル迄奬勵金ノ下付ヲ中止スルコトヲ得

第二十三條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者每業務期間ヲ終リタル日ヨリ二月內ニ業務收支計算書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ年度ノ終了後二月內ニ之ヲ差出スコトヲ得

第二十四條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間其ノ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシメタル業務ニ關シ每年一回樣式第十一號ニ依ル業務報告書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

遠洋漁業奬勵法第五條第一項本文ニ依リテ奬勵金ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ書類ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二十五條　漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ許可期間內、漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニ在リテハ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ業務ニ關スル收支ヲ記載シ帳簿閉鎖ノ時ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ

農林大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ前項ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得

第二十六條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年內ニ於テ天災其ノ他抗拒スヘカラサル强制ニ因リ航行ニ堪ヘサル場合ニ其ノ船舶ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供シタルトキハ所有者又ハ船長ヨリ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ屆出ツヘシ

第二十七條　遠洋漁業奬勵法第十條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ乘組マシメタル船舶ノ船長ハ練習生ヲシテ航海及漁獵ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ每業務期間ニ於ケル業務ヲ終リタル後遲滯ナク其ノ狀況ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第二十八條　遠洋漁業奬勵法第十條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間內ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十九條　第十條乃至第十四條、第二十三條乃至第二十六條ノ規定ニ違反シ、第十五條ニ依ル認可申請ノ手續ヲ爲サス若ハ帳簿ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本則ハ大正七年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前奬勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（樣式）

第一號

漁業奬勵金下付願

今般遠洋漁業奬勵法ヲ遵守シ所有（何縣何郡何村何番地何某所有）ノ汽（帆）船何丸ヲ以テ漁獵業（漁獲物處理運搬業）ニ從事致候ニ付漁業奬勵金下付許可相成度成規書類ヲ添ヘ此段相願候也

年　月　日

族籍住所
氏　名　㊞

農林大臣　殿

第二號

業務目論見書

一　船種、船名、總噸數、實（純）馬力、進水年

其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第三十四條　法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

附　則

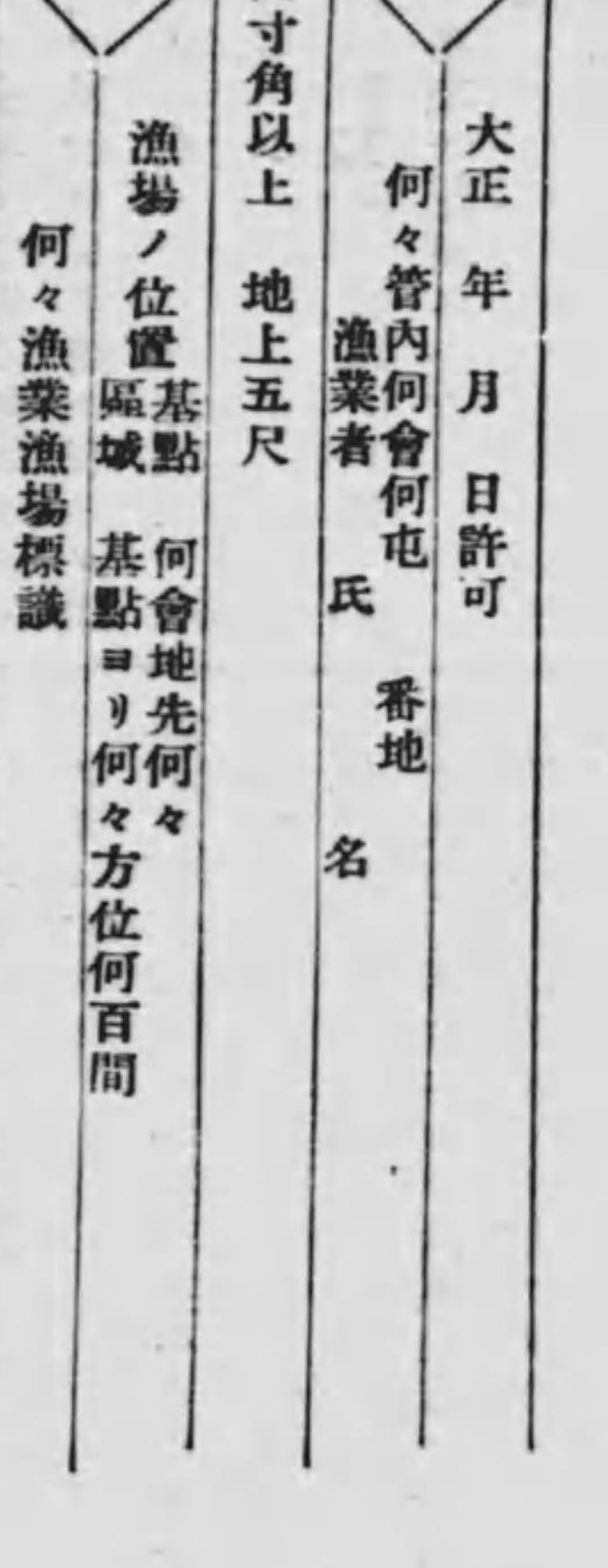
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州漁業取締規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ大正十年六月一日以前ニ於テ漁業ノ許可ヲ受ケタル者及第九條ニ該當スル漁業者ハ本令施行ノ日ヨリ一年內ニ更ニ願出テ又ハ屆出テ漁業許可證又ハ漁業鑑札ヲ受クヘシ若該期間內ニ其ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ漁業ヲ廢止シタルモノト看做ス

別記

（標形）



（樣式）

船舶件名書

一	船舶番號	第何號
二	船籍港	何々
三	船種及船名	何船何丸
四	船體ノ長、幅及深	長何呎何吋、幅何呎何吋、深何呎何吋
五	總噸數	何噸
六	機關ノ種類及數	何々何箇
七	純馬力又ハ實馬力若ハ公稱馬力	何馬力
八	速力	何浬
九	副漁具ノ種類及數	何々何箇
十	船體製作年月日及造船所名	何年何月何々造船所ニ於テ製作
十一	機關製作年月日及鐵工所名	何年何月何々鐵工所ニ於テ製作
十二	所有者ノ住所氏名	所有者何々

（備考）

船舶ノ現在セサルモノニ在リテハ其ノ計畫ニ依リ記載スヘシ

（汽船「トロール」及機船底曳網禁止區域圖略ス）

●水產業奬勵規則

（大正十一年九月一日　南洋廳令第二十二號）

改正　大正一三年第六號

水產業奬勵規則左ノ通定ム

水產業奬勵規則

第一條　水產業者ニシテ南洋廳長官ニ於テ適當ト認ムル者ニハ左ノ費用ニ對シ補助金ヲ下付ス

一　漁具又ハ漁船費

二　技術員費

三　水產製造設備費

南洋廳長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助金ニ代ヘ現品ヲ下付又ハ貸付スルコトヲ得

第二條　南洋廳長官ノ指示スル漁業ニ從事シ指定數量以上ノ漁獲ヲ爲ス者ニハ奬勵金ヲ下付スルコトヲ得

第三條　補助金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ毎年三月末日限リ左ノ事項ヲ具シ南洋廳長官ニ願出ツヘシ

一　出願者ノ住所、氏名、年齡

二　漁業ノ種類

三　漁業地又ハ漁場

四　漁具費ニ在リテハ漁具ノ名稱、構造、箇數、價額、使用目的

五　漁船費ニ在リテハ船種、船體ノ構造、石數又ハ噸數、機關ノ種類製造年月日、價格、使用目的

六　技術員費ニ在リテハ技術員ノ氏名、給與額、履歷書、雇傭ノ目的

第四條　奬勵金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ毎年三月末日限リ第三條第一號乃至第三號ノ事項及漁獲豫定數量ヲ具シ南洋廳長官ニ願出ツヘシ

第五條　左ノ場合ニ於テハ十日內ニ南洋廳長官ニ屆出ツヘシ

一　補助金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニシテ漁具、漁船ヲ整ヘ又ハ技術員ノ雇傭ヲ了シ業務ヲ開始シタルトキ

二　現品ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタル者ニシテ業務ヲ開始シタルトキ

第六條　補助金ノ下付ヲ受ケ又ハ現品ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタル者ハ翌年四月中ニ前年度ニ於ケル業務ノ成績及收支決算ヲ南洋廳長官ニ屆出ツヘシ

第七條　奬勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ハ毎月ノ漁獲數量ヲ翌月十日限リ南洋廳長官ニ屆出ツヘシ

第八條　補助金奬勵金ノ下付又ハ現品ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタル者ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ當該年度間其ノ業務ヲ休止又ハ廢止スルコトヲ得ス

第九條　下付又ハ貸付ヲ受ケタル現品ハ之ヲ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第十條　現品ノ貸付ヲ受ケタル者故意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ亡失毀損シタルトキハ南洋廳長官ノ指定シタル價格ヲ辨償セシム

第十一條　南洋廳長官ハ補助金奬勵金ノ下付ヲ受ケ又ハ現品ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタル者ニ對シ必要ナル事項ニ付命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條　第八條第九條又ハ第十一條ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキハ補助金又ハ奬勵金ノ下付ヲ取消シ若ハ減額シ既ニ交付シタル補助金又ハ奬勵金ノ一部若ハ全部ノ

返納ヲ命シ又ハ下付若ハ貸付シタル現品ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　本令ニ依リ南洋廳長官ニ提出スル願及屆ハ所轄支廳ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第三條、第四條ノ補助金又ハ奬勵金下付出願期限ハ十月三十一日迄トス

第四款　遠洋漁業

●遠洋漁業奬勵法

（明治三十八年三月一日　法律第四十號）

改正　明治四二年第三七號、四三年第二〇號、大正三年第六號、七年第一一號、一二年第三一號、一四年第二六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遠洋漁業奬勵法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務、遞信大臣副署）

遠洋漁業奬勵法

第一條　政府ハ遠洋漁業ヲ奬勵スル爲毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第二條　本法ニ依リ奬勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員又ハ株主トシテ帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人ニ限ル

第三條　主務大臣ハ遠洋漁船檢査規程ニ定ムル構造ニ適合シタル日本船舶ヲ以テ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物處理運搬業ニ從事スル者ニ對シ業務ノ種類、場所、期間若ハ方法又ハ漁獲物ノ處理若ハ販路ニ付條件ヲ附シ漁業奬勵金ヲ下付スルコトヲ得

第四條　削除

第五條　主務大臣ハ遠洋漁船檢査規程ニ定ムル構造ニ適合シタル日本船舶ヲ新造シ又ハ日本船舶ニ新造ノ機關、副漁具ヲ据附ケ若ハ新造ノ保藏設備、無線電信裝置、無線電話裝置ヲ施設シタル船舶所有者ニ對シ左ノ區別ニ從ヒ漁船奬勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ計畫總噸數六十噸以上ノ船舶ニ在リテハ第一號乃至第三號ノ規定ニ拘ラス其ノ船體、機關及屬具ノ評價額ノ十分ノ二以內ノ漁船奬勵金ヲ下付スルコトヲ得

一　船體總噸數毎一噸　鋼製六十圓以內　木製四十五圓以內

二　蒸汽機關實馬力毎一馬力　二十二圓以內

三　發動機關純馬力毎一馬力　四十圓以內

四　保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置　評價額ノ十分ノ三以內

五　副漁具　評價額十分ノ三以內

主務大臣ハ漁船ノ改良ニ關シ適當ト認メタル設計ニ依リ日本船舶ヲ新造シ又ハ改造シタル船舶所有者ニ對シ其ノ船舶新造費又ハ改造費ノ三分ノ一以內ノ漁船奬勵金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ船舶新造費又ハ改造費ハ保藏設備、無線電信裝置、無線電話裝置及副漁具ノ新造費又ハ改造費ヲ包含ス

同一ノ船舶ニ付第一項及第二項ノ漁船奬勵金ヲ併セ下付スルコトヲ得ス

第六條　遠洋漁船檢査規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條　漁業奬勵金ヲ受クヘキ者第三條ノ條件ヲ履行セサルトキ又ハ毎業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキハ主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ニ限リ奬勵金ノ全部又ハ一部ヲ下付スルコトヲ得

第八條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間之ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ既ニ受ケタル漁船奬勵金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルニ至リタルトキ又ハ主務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ奬勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ヲ除クノ外毎年業務期間ノ四分ノ三以上遠洋ニ於ケル漁獵又ハ漁獲物處理運搬ノ爲之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス

第十條　主務大臣ハ漁業奬勵金ヲ受クル者又ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ及漁業奬勵金ヲ受クル者ノ使用スル船舶又ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ニ遠洋漁業練習生ヲ乘組マシムルコトヲ得

第十一條　遠洋漁業ノ指導監督又ハ遠洋漁業練習生ノ養成ノ爲必要ナル費用ハ第一條ニ依ル豫算定額中ヨリ之ヲ支出スルコトヲ得

主務大臣ハ必要ト認メタル場合ニ於テ第一條ニ依ル豫算定額中ヨリ公共團體其ノ他ノ營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ遠洋漁船船員ノ養成又ハ遠洋漁業者若ハ海外出漁者ノ利益增進ノ爲必要ナル費用ノ全部又ハ一部ヲ下付スルコトヲ得

第十二條　主務大臣ハ漁業奬勵金ヲ受クル者又ハ漁船奬勵金ヲ受ケタル者及其ノ承繼人ノ業務ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　主務大臣ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ又ハ主務大臣ノ命令ニ從ハサル者ニ對シ奬勵金ノ下付ヲ廢止シ又ハ其ノ既ニ受ケタル金額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

第十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ奬勵金ヲ受ケタル者又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十五條　主務大臣ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ奬勵金ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ因テ得タル金額、第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ既ニ受ケタル金額ヲ償還セシムヘシ

第十六條　第十三條及前條ノ償還金ハ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十七條　當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

第二十一條　本法ハ大正二十二年三月三十一日迄效力ヲ有ス

附　則（大正十二年法律第三十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十二年勅令第三百六十五號ヲ以テ同年八月十五日ヨリ施行）

附　則（大正十四年法律第二十六號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十四年勅令第二百二十五號ヲ以テ同年六月十五日ヨリ施行）

●遠洋漁業奬勵法施行細則

（大正七年四月一日　農商務省令第九號）

改正　大正一二年第一九號、一四年農林省令第一九號

遠洋漁業奬勵法施行細則左ノ通改正ス（遞信大臣連署）

遠洋漁業奬勵法施行細則

第一條　漁業奬勵金ヲ受ケムトスル者ハ樣式第一號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一　樣式第二號ニ依ル業務目論見書

二　業務ノ種類、場所、期間若ハ方法又ハ漁獲物ノ處理若ハ販路ニ付特異ナル點ヲ

說明セル書類

三　總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付テハ船舶國籍證書寫及船舶檢查證書寫又ハ漁船檢查證書寫、總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ付テハ船鑑札寫又ハ漁船檢查證書寫

出願人カ法人ナルトキハ前項ニ掲クル書類ノ外定款及社員名簿又ハ株主名簿、組合ナルトキハ契約書及組合員ノ名簿ヲ願書ニ添附スヘシ但シ其ノ法人若ハ組合ハ帝國臣民ノミヲ以テ組織スルモノナルコトヲ定款又ハ契約書ニ於テ明示セル場合又ハ之ニ關スル地方長官ノ證明アル場合ニ於テハ社員名簿又ハ組合員名簿ヲ添附スルコトヲ要セス

第二條　漁船獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ様式第三號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一　様式第二號ニ依ル業務目論見書

二　様式第四號ニ依ル船舶件名書

三　圖面

四　仕様書

前條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第一項第三號ノ圖面ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作成シ各圖面ニハ寸法ヲ附記スヘシ但シ汽機圖ニハ汽機縱横平面、各截面及冷汽器附屬喞筒ノ截面ヲ、汽罐圖ニハ縱横截面、前面及背面ヲ記入スヘシ

一　船舶ヲ新造スル場合ニ在リテハ船體線圖、船體中央横截面圖、船體中心線縱截面圖、船體各甲板平面圖、艙内平面圖、船體中心線縱截面並各甲板及艙内平面ノ鋼材配置圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖又ハ發動機圖、保藏ニ使用スル機械圖、保藏設備圖、處理用機械裝置圖、無線電信原動機圖又ハ無線電話原動機圖、無線電信裝置圖又ハ無線電話裝置圖

二　船舶ニ新造ノ機關ヲ据附クル場合ニ在リテハ機關室ノ横截面圖、船體各甲板平面圖、艙内平面圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖又ハ發動機圖

三　船舶ニ保藏設備ヲ施設スル場合ニ在リテハ保藏室及保藏ニ使用スル機械室ノ横截面圖及縱截面圖、船體各甲板平面圖、艙内平面圖、保藏ニ使用スル機械圖、保藏設備圖

四　船舶ニ新造ノ副漁具ヲ据附クル場合ニ在リテハ副漁具圖、副漁具ノ運轉ニ主トシテ使用スル機械圖、副漁具ノ運轉ニ要スル裝置圖

五　船舶ニ無線電信裝置又ハ無線電話裝置ヲ施設スル場合ニ在リテハ無線電信室圖又ハ無線電話室圖、無線電信原動機圖又ハ無線電話原動機圖、無線電信裝置圖又ハ無線電話裝置圖

六　船舶ヲ改造スル場合ニ在リテハ改造部ノ改造前後ニ於ケル對照圖

計畫總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ新造シ又ハ總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ改造スル場合ニ於テ農林大臣必要ト認メタルトキハ左ノ書類ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

一　様式第四號ノ二ニ依ル船舶重量及重心ノ位置計算表

二　排水量及横「メタセンター」曲線圖

三　乾舷高及横「メタセンター」高計算表

遠洋漁業獎勵法第五條第一項第一號乃至第三號ニ該當スル場合ヲ除クノ外漁船獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ前各項ニ依ル書類ノ外船體、機關、保藏設備、無線電信裝置、無線電話裝置、副漁具及屬具ノ新造又ハ改造ニ要スル豫定經費明細書ヲ差出スヘシ

遠洋漁業獎勵法第五條第一項本文ニ依ル出願ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二條ノ二　計畫總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ新造スル場合ニ於テ漁船獎勵金及漁業獎勵金ヲ併セ受ケムトスル者ハ様式第三號ノ二ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一　第二條第一項第二號乃至第四號ノ書類

二　第二條第五項ノ書類

三　漁業獎勵金ヲ受ケムトスル年度ニ於ケル第一條第一項第一號及第二號ノ書類

農林大臣必要ト認メタルトキハ前項ノ添附書類ノ外第二條第四項第一號乃至第三號ノ書類ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

第一條第二項ノ規定ハ第一項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第二條ノ三　遠洋漁業獎勵法第五條ノ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ保藏設備ハ冷藏設備、殺菌設備又ハ防熱設備ニ限ル

第二條ノ四　遠洋漁業獎勵法第五條第二項ノ改造ニ對スル獎勵金ハ其ノ改造費中船體ノ改造費カ其ノ船體ノ時價ノ四分ノ一以上ナルトキ又ハ機關ノ改造費カ其ノ機關ノ時價ノ四分ノ一以上ナルトキニ限リ其ノ改造費ニ對シ之ヲ下付ス

第三條　農林大臣第一條ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁業獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ但シ業務設備又ハ船舶ヲ檢査スル必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ指定シタル檢査員又ハ管海官廳ヲシテ遠洋漁船檢査規程ニ依リ檢査ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條　農林大臣第二條ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁船獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第四條ノ二　農林大臣第二條ノ二ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁船獎勵金及漁業獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第五條　農林大臣前三條ニ依リ獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付シタルトキハ其ノ旨ヲ出願人ノ住所所在地ノ管轄地方長官ニ通知スヘシ

第六條　第四條又ハ第四條ノ二ノ許可指令書ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ指定シタル時期ニ於テ船舶ノ新造若ハ改造、機關、處理用機械若ハ副漁具ノ据附又ハ保藏設備ノ施設ニ關シ遠洋漁船檢査規程ニ依リ管海官廳又ハ主務大臣ノ指定シタル檢査員ノ檢査ヲ受クヘシ

農林大臣必要ト認メタルトキハ第二條又ハ第二條ノ二ノ出願人ニ對シ獎勵金下付ノ許否ノ處分前ト雖前項ノ檢査ノ一部ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七條　第四條又ハ第四條ノ二ノ許可指令書ヲ受ケタル者其ノ船舶ノ新造若ハ改造、機關、處理用機械若ハ副漁具ノ据附又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ノ施設ニ關スル仕様ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ農林大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ檢査員カ其ノ變更ニ因リ船體、機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ要部ニ著シキ相違ヲ生セサルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ農林大臣ハ變更ノ程度ニ應シ其ノ許可シタル漁船獎勵金ノ率ヲ變更スルコトアルヘシ

第八條　第六條ニ依ル檢査ヲ終リタルトキハ管海官廳又ハ主務大臣ハ様式第五號ニ依ル竣工證明書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第九條　農林大臣必要アリト認メタルトキハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可期間内、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニ對シ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間何時ニテモ其ノ船舶ノ業務設備檢査ヲ執行スルコトアルヘシ

農林大臣ニ於テ業務設備ヲ不完全ナリト認メタルトキハ其ノ補充ヲ爲スヘキ旨ヲ業務主ニ命スルコトアルヘシ

第十條　漁業獎勵金若ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日内ニ其ノ旨農林大臣ニ屆出ツヘシ

一　船舶カ日本船舶ノ資格ヲ喪失シタルトキ

二　船舶カ滅失、沈沒シ若ハ行衞不明トナリタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

三　法人若ハ組合カ解散又ハ破產シタルトキ

四　船舶檢查證書又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ

五　前各號ノ外獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

法人若ハ組合カ解散又ハ破產シタル場合ニハ其ノ清算人又ハ破產管財人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲スヘキ者カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ、行衞不明トナリタルトキハ其ノ戶主又ハ家族ヨリ屆出ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ死亡シ若ハ行衞不明トナリタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相續人ヨリ、行衞不明ノ場合ニ於テハ其ノ戶主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條　漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ其ノ船舶ヲ讓渡シタルトキハ遲滯ナク様式第六號ニ依ル屆書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第十三條　漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ船體、機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ現狀ニ重大ナル變更ヲ爲サムトスルトキハ様式第十號ニ依ル願書ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ機關、處理用機械若ハ副漁具ヲ除去若ハ据替ヘムトスルトキ又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ヲ除去若ハ施設替ヘセムトスルトキ亦同シ

第十四條　漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ船舶獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ業務目論見書ニ記載シタル業務ノ種類、期間又ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ船舶ヲ使用シテ其ノ變更セムトスル業務目論見ニ從テ爲ス漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ付漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ遠洋漁業獎勵法第九條ノ規定ニ依リ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシムルコト能ハサルトキ又ハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ於テ業務ヲ廢止若ハ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者毎業務期間ニ於ケル業務ヲ開始シ若ハ終了シタルトキハ業務主又ハ船長ヨリ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ

第十七條　業務期間内ニ於テ避難ノ爲又ハ薪水、糧食ノ積入、漁獲物ノ陸揚若ハ船舶、漁具ノ修繕ニ要シタル日數及農林大臣ノ必要ト認メタル航行碇泊ノ日數ハ就業日數ト看做ス

第十八條　漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者業務期間ヲ終リタルトキハ様式第七號ニ依ル請求書ニ業務日誌ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ竣工證明書ヲ添ヘ様式第八號又ハ様式第九號ニ依ル請求書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ施設又ハ施設替ニ對スル獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ私設無線電信規則第九條ニ依ル檢定證書又ハ假檢定證書ノ寫ヲ添附スヘシ

第二十條　漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ニ因リテ生シタル效力ハ事業ト共ニスル場合ニ限リ農林大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者及讓受人連署シ且其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

前項ノ認可申請書ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二十一條　遠洋漁業獎勵法第七條ノ場合ニ於テ獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルモノハ漁業獎勵金請求書ニ其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第二十二條　遠洋漁業獎勵法又ハ本則ノ規定ニ違反シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判ノ確定スル迄獎勵金ノ下付ヲ中止スルコトヲ得

第二十三條　漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ毎業務期間ヲ終リタル日ヨリ二月内ニ業務收支計算書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ年度ノ終了後二月内ニ之ヲ差出スコトヲ得

第二十四條　漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間其ノ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシメタル業務ニ關シ毎年一回様式第十一號ニ依ル業務報告書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

遠洋漁業獎勵法第五條第一項本文ニ依リテ獎勵金ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ書類ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二十五條　漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ許可期間内、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニ在リテハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ業務ニ關スル收支ヲ記載シ帳簿閉鎖ノ時ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ

農林大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ前項ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得

第二十六條　漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ於テ天災其ノ他抗拒スヘカラサル强制ニ因リ航行ニ堪ヘサル場合ニ其ノ船舶ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供シタルトキハ所有者又ハ船長ヨリ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ屆出ツヘシ

第二十七條　遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ乘組マシメタル船舶ノ船長ハ練習生ヲシテ航海及漁獵ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ毎業務期間ニ於ケル業務ヲ終リタル後遲滯ナク其ノ狀況ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第二十八條　遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間内ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十九條　第十條乃至第十四條、第二十三條乃至第二十六條ノ規定ニ違反シ、第十五條ニ依ル認可申請ノ手續ヲ爲サス若ハ帳簿ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本則ハ大正七年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（様式）

第一號

漁業獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ所有（何縣何郡何村何番地何某所有）ノ汽（帆）船何丸ヲ以テ漁獵業（漁獲物處理運搬業）ニ從事致候ニ付漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添ヘ此段相願候也

年　月　日

族籍住所
氏　名　㊞

農林大臣　殿

第二號

業務目論見書

一　船種、船名、總噸數、實（純）馬力、進水年

月日及奬勵金ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ付テハ其ノ年月日
二　業務ノ種類（漁獵業ニ在リテハ漁獵ノ種類）
三　漁獲物ノ種類（處理運搬業ニ在リテハ處理運搬ノ目的物ノ種類及處理運搬ノ方法）
四　漁獵具、保藏設備、處理用機械及副漁具ノ構造、使用竝其ノ他ノ必要ナル設備ニ關スル說明
五　業務期間（漁獵ノ種類二種以上ナルトキハ各其ノ業務期間）
六　事業年度ヲ定メタル者ニ在リテハ事業年度
七　業務ノ場所（漁獵業ニ在リテハ各漁獵別ノ業務場所、處理運搬業ニ在リテハ航路ヲ定メタルトキハ其ノ航路）
八　漁獲物ノ販路
九　船員職務別及員數（漁業奬勵金下付出願ノ場合ニハ海技免狀ヲ有スル船員ノ免狀ノ種類、番號及氏名ヲ記シ又船員中外國人アルトキハ其ノ員數）
十　業務豫算
　一　起業費
　二　收支
　三　損益

年　月　日

族籍住所
氏　名　印

農林大臣　殿

第三號

漁船奬勵金下付願

今般遠洋漁業奬勵法ヲ遵守シ遠洋漁船新造（改造又ハ新造機關若ハ副漁具ヲ据附又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ヲ施設）候ニ付漁船奬勵金下付許可相成度成規書類ヲ添ヘ此段相願候也

年　月　日

族籍住所
氏　名　印

農林大臣　殿

第三號ノ二

漁船奬勵金及漁業奬勵金下付願

今般遠洋漁業奬勵法ヲ遵守シ遠洋漁船ヲ新造シ漁獵業（漁獲物處理運搬業）ニ從事致候ニ付漁船奬勵金及漁船竣工後一（二又ハ三）年間（各年）ノ業務ニ對スル漁業奬勵金下付許可相成度成規書類ヲ添ヘ此段相願候也

年　月　日

族籍住所
氏　名　印

農林大臣　殿

第四號

船舶件名書

一　船種及船名
二　船體ノ長、幅、深
三　外板及船骨材料
四　總噸數（計畫又ハ現在）
五　速力（計畫又ハ現在）
六　機關ノ種類及數
七　實馬力又ハ純馬力（計畫又ハ現在）
八　保藏設備ノ種類但シ冷藏機械ニ在リテハ其ノ方式及冷却力製氷量（計畫又ハ現在）
九　處理用機械ノ種類及數
十　無線電信裝置、無線電話裝置ノ發電機ノ負荷容量（計畫又ハ現在）
十一　副漁具ノ種類及數
十二　業務設備
十三　豫定起工年月日
十四　豫定竣工年月日
十五　船體、機關、無線電信裝置、無線電話裝置、保藏設備及副漁具ノ製造者又ハ改造者ノ住所、氏名又ハ名稱
十六　製造、改造、据附又ハ施設ノ場所

備考　改造ノ場合ニ於テハ現在及新計畫ニ區別シテ記載スヘシ

第四號ノ二

船舶重量及重心ノ位置計算表

項目	重量（噸）	基線上ヨリ重心ノ高（呎）	力率（呎噸）
一、船體部			
イ、船殼			
龍骨			
船首材			
船尾骨材			
外板			
肋骨			
梁			
鋼甲板、木甲板			
支水隔壁			
固定壓艙物			
其ノ他			
ロ、艤裝及屬具			
揚錨機			
揚荷機			
副漁具			
無線電信又ハ無線電話			
錨、錨鎖及其ノ他			
其ノ他			
ハ、タンク類（空）			
水タンク			
油タンク			
其ノ他			
ニ、保藏設備			
冷藏機			
配管裝置			
防熱裝置			
其ノ他			
二、機關部			
イ、主機關			
機關			
汽罐			
車軸			
螺旋推進器			
其ノ他			
ロ、補助機關			
補助機關			
補助汽罐			
發電機			
蓄電池			
其ノ他			
空荷狀態　計			
水			
油			
石炭			
氷			
漁獲物			
漁具			
綱索類			
乘組員及其荷物			
食糧品			
其ノ他			
滿載狀態　計			

第五號

竣工證明書

一　奬勵金下付許可ノ目的物
二　船種、船名及資格
三　總噸數
四　機關ノ種類及數
五　實馬力又ハ純馬力
六　保藏設備ノ種類
七　處理用機械ノ種類及數
八　無線電信裝置、無線電話裝置ノ數
九　副漁具ノ種類及數
十　竣工年月日
十一　製造者又ハ改造者ノ住所、氏名又ハ名稱
十二　所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

右檢査ヲ遂ケ遠洋漁船檢査規程ニ合格セルコトヲ證ス

年　月　日

農林省（若ハ管海官廳名）　印

第六號

船舶所有權移轉屆

一　本船番號（船舶檢査證書又ハ船鑑札記載ノ番號）
二　船種、船名

右ハ年月日遠洋漁業奬勵法ニ依リ漁船奬勵金ヲ受ケタル船舶ニシテ今般私共兩人ノ間ニ於テ所有權ヲ授受候ニ付テハ同法ノ規定遵守可仕此段及御屆候也

年　月　日

族籍住所
（賣主）　氏　名　印

族籍住所
（買主）　氏　名　印

農林大臣　殿

第七號

漁業奬勵金請求書

一金　　圓　漁業奬勵金

何年何月何日附農林省指令水第　　號ヲ以テ漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケ漁獵業（漁獲物處理運搬業）ニ從事致候處今般業務ヲ終了候ニ付前記奬勵金御下付相成度關係書類相添ヘ此段及請求候也

年　月　日

住所
氏　名　印

農林大臣　殿

第八號

漁船奬勵金請求書（遠洋漁業奬勵法第五條第一項本文ニ依ルモノ）

一金　　圓　漁船奬勵金

汽（帆）船　　丸

内
金　　圓　船體總噸數何噸ニ對スル分
金　　圓　機關實（純）馬力何馬力ニ對スル分
金　　圓　保藏設備ニ對スル分
金　　圓　無線電信裝置、無線電話裝置ニ對スル分
金　　圓　副漁具何々何臺ニ對スル分

何年何月何日附農林省指令水第　　號ヲ以テ漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケ遠洋漁船建造（機關、若ハ副漁具ヲ据附又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ヲ施設）中ノ處今般竣工致候ニ付前記奬勵金御下付相成度關係書類相添ヘ此段及請求候也

年　月　日

住所
氏　名　印

農林大臣　殿

第九號

漁船奬勵金請求書（遠洋漁業奬勵法第五條第一項但書及第五條第二項ニ依ルモノ）

一金　　圓

何年何月何日附農林省指令水第　　號ヲ以テ漁船奬勵金下付ノ許可ヲ受ケ遠洋漁船建造（改造）中ノ處今般竣工致候ニ付前記奬勵金御下付相成度關係書類相添ヘ此段及請求候也

年　月　日

住所
氏　名　印

農林大臣　殿

第十號

船體（機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置）變更（除去、据替若ハ施設替）認可願

汽（帆）船何丸船體（機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置）

右ハ何年何月何日漁船奬勵金（漁業奬勵金下付ノ許可）ヲ受ケタルモノニ有之候處今般左記ノ事由ニ依リ該船體（機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置）變更（除去、据替若ハ施設替）致候ニ付御認可相成度此段相願候也

年　月　日

住所
氏　名　印

農林大臣　殿

記

何々

第十一號

業務報告書

年度

一　船名
二　漁船奬勵金交付年月日
三　業務ノ種類
四　漁獵具ノ種類及數
五　從業ノ期間及場所
六　出漁日數
七　從業者數
八　業務ノ概要
九　收支及損益
十　無線電信裝置、無線電話裝置ノ使用度數及其ノ效果
十一　副漁具、保藏設備ノ效果

右遠洋漁業奬勵法施行細則第二十四條ニ依リ及報告候也

年　月　日

住所
氏　名　印

農林大臣　殿

●漁獵職員試驗規程

（明治四十二年八月四日農商務省告示第三百四十一號）

漁獵職員試驗規程左ノ通改正ス

漁獵職員試驗規程

第一條　漁獵職員試驗ハ本規程ニ依リ之ヲ行フ

第二條　漁獵職員試驗志願者ニハ別表丙號ニ依リ體格檢査ヲ行フ

前項ノ體格檢査ニ合格シタル者ニハ更ニ學術試驗ヲ行フ但シ場合ニ依リテハ實地試驗ヲモ行フコトアルヘシ

第三條　學術試驗ノ科目ハ左ノ如シ

一　漁獵
二　航海術
三　漁船運用術
四　其ノ他試驗委員ニ於テ必要ト認メタル事項

漁獵ニ關スル試驗ニ付テハ志願者ハ別表甲號ノ種類中一種以上ヲ選擇シ之ヲ試驗願書ニ附記スヘシ

第四條　前條第二項ニ依リ選擇シタル種類ノ合格、不合格ハ各種毎ニ之ヲ定ム

漁獵職員免狀ヲ有スル者ハ既ニ合格シタル以外ノ他種ノ漁獵ニ付試驗ヲ受クルコトヲ得

前項ノ志願者及海技免狀ヲ有スル志願者ニ付テハ前條第一項第二號、第三號ノ試驗ヲ省略スルコトヲ得

第五條　學術試驗ハ別表乙號ノ項目ニ付甲種漁獵長試驗及乙種漁獵長試驗ニ在リテハ筆記及口述ノ方法ニ依リ丙種漁獵長試驗及漁獵手試驗ニ在リテハ口述ノ方法ニ依リ之ヲ行フ

實地試驗ハ漁船運用、漁獵具ノ構成又ハ使用ニ付之ヲ行フ

第六條　漁獵職員試驗期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條　漁獵職員試驗委員ハ其ノ都度農商務

大臣之ヲ命ス

第八條　不正ノ方法ヲ以テ合格シタルトキハ合格ノ效ナキモノトス

別表

（甲號）

帆船鯨獵業
汽船流網漁業
帆船「トロール」漁業
汽船一本釣漁業
帆船鰹釣漁業
汽船旋網漁業
帆船流網漁業
汽船延繩漁業
帆船一本釣漁業
帆船旋網漁業
汽船「トロール」漁業
帆船延繩漁業
汽船鰹釣漁業

（乙號）

	甲種漁獵長試驗	乙種漁獵長試驗	丙種漁獵長試驗	漁獵手試驗
漁獵	一　漁獲物ノ種類習性及漁場 二　漁獵船ノ特長及設備 三　漁獵具竝漁獲物處理具ノ構成及用法 四　漁獲物處理法	一　漁獵船ノ設備 二　漁獵具ノ構成及用法 三　漁獲物處理法及處理具ノ用法	一　漁獵船ノ設備 二　漁獵具ノ構成及用法 三　漁獲物處理法	一　漁獵具ノ構成及用法 二　漁獲物處理法
航海術	一　緯線航法 二　漸長緯度航法 三　流潮航法 四　航海日誌算法 五　太陽ノ子午線高度又ハ子午線ニ近キ高度ニ依ル緯度ノ算法 六　太陽ノ出沒方位及方位角ニ依ル羅針儀違差ノ算法 七　時辰儀及太陽ノ高度ニ依ル經度及時辰儀違差ノ算法 八　兩時辰儀法ニ依ル經緯度ノ算法 九　潮時算法 十　六分儀ノ矯正及用法 十一　羅針儀ノ違差解明 十二　羅針儀自差ノ測定及算法 十三　海圖ノ用法	一　航海日誌ノ記載 二　航海日誌ノ算法 三　羅針儀及海圖ノ用法	一　羅針儀及海圖用法ノ大意	一　羅針儀用法ノ大意
漁船運用術	一　檣、帆架及帆ノ取扱 二　測程具及測深具ノ解明竝其ノ用法 三　錨其ノ他屬具ノ取扱 四　汽船ノ常時及荒天運用法（汽船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル） 五　帆船ノ常時及荒天運用法（帆船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル） 六　航海中船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ際スル應急ノ處置 七　颶風大意及避難法 八　海上衝突豫防法 九　萬國船舶信號法	一　檣、帆架及帆ノ取扱 二　測程具及測深具ノ解明竝其ノ用法 三　錨其ノ他屬具ノ取扱 四　汽船ノ常時及荒天運用法（汽船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル） 五　帆船ノ常時及荒天運用法（帆船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル） 六　航海中船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ際スル應急ノ處置 七　海上衝突豫防法 八　萬國船舶信號法大意	一　檣及縱帆ノ取扱 二　測程具及測深具ノ用法 三　汽船ノ常時運用法（汽船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル） 四　帆船ノ常時運用法及漂蹰法（帆船漁業ニ關スル受驗者ニ限ル） 五　海上衝突豫防法ノ大意	一　漁船各部ノ名稱

（丙號）

一　眼ノ現狀　眼瞼下垂、顆類性結膜炎、斜視、角膜及虹彩諸病ノ有無ヲ檢査ス
二　視力　「スネレン」氏試視力表ニ依リ六「メートル」距離ニ於テ兩眼ニ付各別ニ檢査ス
三　辨色　著色毛絲ヲ用ヰ黑、紅、綠、青、黃、紫、白、灰、褐、淡綠、淡紅、淡青、淡紫ノ各色ニ付檢査ス
四　耳ノ現狀　內外聽道ノ疾病殊ニ鼓膜穿孔、耳漏、片耳又ハ兩耳耳聾ノ有無ニ付檢査ス
五　聽覺　懷中時計ノ秒時音ヲ聽キ得ル距離ヲ兩耳ニ付各別ニ檢査ス
六　體格　發育ノ狀態、畸形ノ有無、諸關節ノ運轉ニ付檢査ス
七　疾病　心肺ノ疾患、心悸亢進（著シキモノ）、聲音ノ嘶嗄、肋膜炎後ノ障碍、精神異常、言語障害、吶吃其ノ他著シキ疾病ノ有無ニ付檢査ス

●遠洋漁船新造注意方

（明治四十年五月十一日農商務省訓令第十一號）

道廳　府縣

近時【韓國】、關東州及樺太等沿海ニ出漁スル者著シク增加シ又一般沖合ノ漁業大ニ進步シ漸次遠距離ノ海洋ニ出漁スル者增加セリト雖モ其ノ漁船ハ尙ホ從來ノ日本形船ナルヲ以テ一朝風波ニ會セシカ其ノ耐波力ノ薄弱ナル往々船體ヲ破壞シ或ハ覆沒セシメ爲ニ勇敢ナル漁夫ヲ失ヒ生產力ヲ減殺スルコト鮮少ナラス而シテ此ノ危險ハ遠海ニ出漁スル鰹釣船、珊瑚採取船、繩船等ニ於テ其ノ多キヲ見ル又寒地ニ出漁スル漁船ニシテ甲板ノ設ナク漁夫ハ防寒具ヲ備ヘサルヲ以テ凍傷ノ爲メ動作ノ自由ヲ失シ終ニ其ノ生命財產ヲ毀損スルモノ亦多大ナリ曩ニ長崎縣及鹿兒島縣下ニ於ケル鰹釣船、珊瑚採取船及大連附近ニ於ケル出漁船遭難ノ慘禍ヲ現出スルニ至リタルカ如キ畢竟日本形漁船ハ其ノ船體ノ脆弱ナルト設備ノ不完全ナルトニ基因セルモノト謂フヘシ依テ左ニ遠洋出漁者ノ注意スヘキ事項ヲ擧示ス宜シク右ニ準據シ當業者ヲ督勵シ遭難ヲ未然ニ豫防セシメンコトヲ期スヘシ

一　從來ノ日本形漁船ハ遠航ノ漁業ニ適セサルヲ以テ樺太、關東州及【韓國】等ノ沿岸ニ根據地ヲ設ケ移住出稼ノ漁業ヲ爲スモノヲ除クノ外漁期ニ方リ內地ヨリ往復スル漁船及內地ニ於ケル鰹釣、鱶釣、流網等ニ使用スル大形漁船ヲ新造セントスルモノハ可成遠洋漁船檢査規程ニ準據シ西洋形漁船ト爲サシメ若シ日本形漁船ナルトキハ左ノ規格ニ適フコトヲ要ス

（イ）少クトモ船長三分ノ一間水密甲板ヲ張リ船室ヲ設クルコト但シ鰹釣船ノ如キ甲板ヲ不便トスルモノハ大ナル艙口ヲ作リ「カンバス」及門ヲ以テ必要ノ際水密ト爲シ得ルノ構造トナスコト

（ロ）船首部及必要ノ箇所ニ肋骨又ハ仕切板ヲ設クルコト

（ハ）戶立ハ根曲材又ハ鐵曲材ヲ以テ敷及棚ニ堅固ニ固著スルコト

（ニ）船首ニ可成檣其ノ他ノ堅材ノ肘材ヲ取付クルコト

（ホ）鰹釣船ニ於テ生餌槽ヲ用フルモノハ可成活間トスルコト

二　西洋形漁船ヲ新造スル者ニハ遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ與フルノ途アルヲ以テ命令ノ規定ニ從フトキハ此ノ特典ヲ享クルコトヲ得ヘシ

三　風土懸殊ノ海洋ニ出漁スル者ハ衞生上ノ注意ヲ爲スハ勿論寒地ニ赴ク者ハ必ス防寒具ヲ備ヘシムルコトヲ要ス

第五款　水產製品檢查及取締

●鮑及海鼠製品取締規則

（大正五年八月九日農商務省令第二十五號）

鮑及海鼠製品取締規則左ノ通定ム

鮑及海鼠製品取締規則

第一條　乾鮑、罐詰鮑及海參ハ別表ニ揭クル重量以上ノモノニ非レハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二條　乾鮑、罐詰鮑及海參ヲ販賣スル者ハ其ノ容器又ハ包裝ニ品名及原產地名ヲ表示スヘシ

第三條　第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ所有シ又ハ所持スル製品ハ之ヲ沒收ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條ノ規定ニ違反シ又ハ虛僞ノ表示ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

海參ニ付テハ大正六年六月三十日迄本則ノ規定ヲ適用セス

別表

	鮑製品		
種類	ゑぞあはび（青森縣、岩手縣及宮城縣產ヲ除ク）	まだか	其他
乾鮑一箇ノ重量（上乾）	明鮑　一匁五分 灰鮑（臟腑付）　二匁 灰鮑（臟腑拔）　一匁六分	明鮑　四匁 灰鮑（臟腑付）　五匁 灰鮑（臟腑拔）　四匁三分	明鮑　二匁八分 灰鮑（臟腑付）　三匁五分 灰鮑（臟腑拔）　三匁
罐詰鮑一箇ノ重量	三匁	七匁五分	五匁五分

	海鼠製品	
產地	沖繩縣	其他
海參一箇ノ重量（上乾）	五匁	二匁

●「イバラ」蟹ノ雌蟹及稚蟹捕獲竝販賣禁止

（大正三年十二月七日農商務省令第二十九號）

大正三年農商務省令第四號左ノ通改正ス

第一條　「イバラ」蟹（北海道方面方言「タラガニ」又ハ「タラバガニ」）ノ雌又ハ胸甲ノ幅五寸未滿ノ雄ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ漁具ニ羅リタルモノニシテ生活力ヲ失ヒタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ蟹ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ製品ト爲スコトヲ得ス

前條ノ蟹又ハ其ノ製品ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所有シ若ハ所持スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ前條但書ニ該當スル蟹又ハ其ノ罐詰以外ノ製品ニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノニ之ヲ適用セス

第三條　前二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ所有シ若ハ所持スル蟹又ハ其ノ製品ハ之ヲ沒收ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ罐詰ニ關スル規定ヲ除クノ外當分ノ內北海道ニ限リ之ヲ施行ス

●輸出「イバラ」蟹罐詰取締規則

（大正十三年十月二十一日農商務省令第十九號）

輸出「イバラ」蟹罐詰取締規則左ノ通定ム

輸出「イバラ」蟹罐詰取締規則

第一條　「イバラ」蟹（北海道方面方言「タラガニ」又ハ「タラバガニ」）罐詰ハ農商務大臣ノ定ムル檢査標準ニ依リ日本蟹罐詰業水產組合聯合會ノ行フ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出シ又ハ保稅地域ヨリ外國ニ向ケ搬出スルコトヲ得ス但シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ檢査標準及檢査ノ表示ニ用ヰル印章ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則公布ノ際既ニ日本蟹罐詰業水產組合聯合會ノ輸出檢査ニ合格シタル蟹罐詰ニシテ未タ輸出セス又ハ保稅地域ヨリ外國ニ向ケ搬出セサルモノハ本則ニ定ムル檢査標準ニ依ル檢査ニ合格シタルモノト見做ス

大正三年農商務省令第七號ハ之ヲ廢止ス

（大正十三年十月二十一日農商務省告示第二百十二號　改正　昭和二年農林省告示第五二號）

輸出「イバラ」蟹罐詰檢査標準及檢査ノ表示ニ用ヰル印章左ノ通定ム

一、檢査標準

甲(崩肉鑵詰以外ノモノ)

檢査事項	合格			格外	廢品
	ファンシー	チョイス	フェヤー		
一 鑵ノ表示	鑵蓋ニ製造者ノ記號ヲ打出セルモノ	同上	同上	同上	同上ニ反スルモノ
二 鑵ノ外觀	卷締鑵ニシテ外觀良好且打檢善良ナルモノ	同上	同上	鑵形不完全ナルモノ、銹ヲ生セルモノ其ノ他鑵ノ不完全ナルモノ	密封不完全ナルモノ又ハ打檢不良ナルモノ
三 品位	鮮度、肉質及形態優良ナルモノヲ使用シ香味優良、加熱適度ニシテ且黑變ナキモノ	鮮度優良、肉質形態佳良ナルモノヲ使用シ香味佳良、加熱適度ニシテ且黑變ナキモノ	鮮度、肉質又ハ形態稍〻劣リタルモノヲ使用シ加熱過度ナルモ相當香味ヲ有スルモノ又ハ黑變少キモノ	鮮度、肉質劣リタルモノヲ使用シ加熱不足若ハ甚シク過度ナルモノ又ハ黑變稍〻多キモノ	省令規定ニ適合セサル蟹ヲ原料トセルモノ、腐敗セルモノ若ハ其ノ徵候アルモノ又ハ黑變甚シキモノ
四 肉量	一封度鑵ハ肉量百匁以上ニシテ一番脚肉三十四匁以上及崩肉二十匁未滿ノモノ半封度鑵及四分ノ一封度鑵ハ之ニ準ス	同上	同上	同上ニ反スルモノ	
五 鑵材	鑵材ハ米國製チャコール又ハ之ニ相當スル良質ノ錻力ニシテ適當ノ厚サヲ有シ且塗漆完全ナルモノ	同上	同上	同上ニ反スルモノ	
六 荷造	函材ハ良質ノ乾燥板ニシテ妻木正六分以上、蓋、底及胴板ハ正五分以上ノ厚サヲ有シ且構造堅牢ナルモノ	同上	同上	同上ニ反スルモノ	

乙(崩肉鑵詰)

檢査事項	合格		格外	廢品
	A級	B級		
一 鑵ノ表示	鑵ノ蓋ニ製造者ノ記號ヲ打出セルモノ	同上	同上	同上ニ反スルモノ
二 鑵ノ外觀	卷締鑵ニシテ外觀良好且打檢善良ナルモノ	同上	鑵形不完全ナルモノ、銹ヲ生セルモノ其ノ他鑵ノ不完全ナルモノ	密封不完全ナルモノ又ハ打檢不良ナルモノ
三 品位	鮮度及香味佳良、加熱適度ニシテ且黑變ナキモノ	A級ニ比シ加熱稍〻過度ナルモ相當香味ヲ有スルモノ又ハ黑變アルモ其ノ程度少キモノ	鮮度劣リタルモノ、加熱不足若ハ甚シク過度ナルモノ又ハ黑變稍〻多キモノ	省令規定ニ適合セサル蟹ヲ原料トセルモノ、腐敗セルモノ若ハ其ノ徵候アルモノ又ハ黑變甚シキモノ
四 肉量	一封度鑵ハ肉量百匁以上ヲ有スルモノ半封度鑵及四分ノ一封度鑵ハ之ニ準ス	同上	同上ニ反スルモノ	
五 鑵材	鑵材ハ米國製チャコール又ハ之ニ相當スル良質ノ錻力ニシテ適當ノ厚サヲ有シ且塗漆完全ナルモノ	同上	同上ニ反スルモノ	
六 荷造	函材ハ良質ノ乾燥板ニシテ妻木ハ正六分以上、蓋、底及胴板ハ正五分以上ノ厚サヲ有シ且構造堅牢ナルモノ	同上	同上ニ反スルモノ	

本表中合格B級ニ該當スルモノハ支那ニ輸出シ又ハ保税地域ヨリ支那ニ向ケ搬出スル場合ニ限リ合格トス

二、檢査ノ表示ニ用キル印章

合格品ニハ樣式第一號又ハ第二號ノ合格印章ヲ、格外品ニハ樣式第三號ノ格外印章ヲ、廢品ニハ樣式第四號ノ廢品印章ヲ箱ノ妻板外側ニ押捺スヘシ

樣式(略ス)

●水産製品檢査規則

大正七年五月二十一日
朝鮮總督府令第五十六號
改正 大正九年第八五號、一二年第一〇七號、一三年第六一號、第八四號
昭和二年第三八號

水産製品檢査規則左ノ通定ム

水産製品檢査規則

第一條 本令ニ於テ水産製品ト稱スルハ左ノ食用乾製品、食用鑵詰品、肥料及海藻ヲ謂フ

食用乾製品
海參、鱶鰭、乾蝦、乾玉筋魚、鰑、乾鱈、乾鮑、乾牡蠣、淡菜、乾鰈、乾竹蟶、乾北寄貝、乾鳥貝、乾貝柱、乾海苔(但シ岩海苔ヲ原料トスル製品ヲ除ク)

食用鑵詰品
鮑鑵詰、鯖鑵詰、鰆鑵詰、蝦鑵詰、蟹鑵詰、貝柱鑵詰、北寄貝鑵詰、鰻鑵詰、蠑螺鑵詰

肥料
鰯搾粕、鰊搾粕、太刀魚搾粕、鱈荒粕、干鰛、干鰯、干鰊、鰊卵其ノ他ノ水産肥料

海藻
石花菜、海蘿、銀杏草、櫻草、小凝草、礒草、於期菜

第二條 營利ノ目的ヲ以テ水産製品ヲ輸出又ハ移出セントスル者ハ本令ニ依リ稅關ノ檢査ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ檢査ヲ行フ檢査所ノ名稱及位置ハ別ニ之ヲ告示ス

特別ノ事由アル場合ニ於テ檢査ヲ受ケントスル者ノ請求アルトキハ現品所在地ニ就キ檢査ヲ行フコトヲ得

第四條 檢査ヲ受ケントスル者ハ水産製品ノ品名、箇數、數量、價格、生産地、仕向地及製造人ノ氏名、住所(法人ニ在リテハ名稱、事務所ノ所在地及代表者ノ氏名)ヲ記載シタル第一號樣式ノ檢査請求書ヲ檢査所ニ差出スヘシ

輸出セントスル水産製品ノ檢査ニ付テハ輸出申告書ニ前項ノ事項及檢査ヲ請求スル旨ヲ記載シ檢査請求書ニ代フルコトヲ得

檢査ヲ受ケントスル者代理人ナルトキハ檢査請求書ニ其ノ權限ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

第五條 檢査ヲ受ケントスル者ハ包裝一箇ニ付左ノ檢査手數料ヲ納ムベシ

一 肥料 五錢
二 鯖味附鑵詰 五錢
三 前各號以外ノ製品 十錢

檢査手數料ハ收入印紙ヲ檢査請求書又ハ輸出申告書ニ貼附シ納ムベシ

第六條 檢査ハ品質、結束、重量、製鑵、容量、包裝竝第八條及第九條ノ規定ニ依リ表示スベキ事項ニ付之ヲ行ヒ合格不合格ヲ定ム

第七條 檢査ノ標準ハ品質、結束、重量及製鑵ニ付テハ第一號表ニ、容量及包裝ニ付テハ第二號表ニ依ル但シ容量及包裝ニ付テハ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ右ノ標準ニ依ラザルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ稅關ヲ經由シテ之ヲ申請スベシ

第八條 檢査ヲ受ケントスル食用鑵詰品ノ鑵ニハ製造者ノ記號ヲ、鑵又ハ鑵ノ標紙ニハ內容物ノ品名及正味量ヲ表示スベシ

第九條 檢査ヲ受ケントスル水産製品ノ包裝ニハ其ノ品名及原産地名ヲ表示スベシ

前項ノ外乾海苔ニ在リテハ一箱ノ枚數及判ノ種類ヲ、食用鑵詰品ニ在リテハ一箱ノ鑵數及一鑵ノ內容物ノ正味量ヲ表示スベシ

第十條 第七條ニ規定スル標準ニ適合セズ又ハ前二條ノ規定ニ違反スルモノハ不合格トス

不合格品ハ輸出又ハ移出スルコトヲ得ズ

第十一條 合格品ニハ等級ヲ附ス但シ海參、乾鮑及乾玉筋魚ニ在リテハ其ノ形態ニ依リ大中小ニ區別シテ等級ヲ附ス

等級ノ標準ハ第三號表ニ依ル

第十二條 檢査ハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ行フ

第十三條 檢査ハ包裝及第九條ノ規定ニ依リ表示スベキ事項ニ付テハ包裝一箇毎ニ之ヲ行フ

前項以外ノ事項ニ付テハ左ノ方法ニ依ル

一 食用乾製品、肥料及海藻ニ在リテハ包裝三十箇迄毎ニ三箇以上ノ割合ヲ以テ其ノ內容物ニ付抽出檢査ヲ行フ
二 食用鑵詰品ニ在リテハ包裝三十箇迄毎ニ三箇以上ノ割合ヲ以テ抽出シ其ノ包裝ヲ開キ一鑵毎ニ鑵ノ外觀ニ付檢査ヲ行ヒ更ニ包裝三十箇迄毎ニ一鑵以上五鑵以下ノ割合ヲ以テ其ノ抽出品ニ付鑵ヲ開キ一鑵毎ニ其ノ內容物ニ付檢査ヲ行フ

第十四條 前條第二項ノ場合ニ於テ抽出品ノ全部ガ檢査ノ標準ニ適合シ且第八條ノ規定ニ違反セザルトキハ檢査請求品ノ全部ヲ檢査ノ標準ニ適合シ且第八條ノ規定ニ違反セザルモノト看做シ抽出品中檢査ノ標準ニ適合セザルモノ又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモノアルトキハ檢査請求品ノ全部ヲ檢査ノ標準ニ適合セザルモノ又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモノト看做ス

合格品ニ附スベキ等級ハ前條第二項ノ規定ニ依リ檢査ヲ行ヒタル抽出品中ノ最低位ノ等級ニ依ル

第十五條 稅關ニ於テ合格品ノ內容物ニ付異狀アリト認ムルトキハ再檢査ヲ行フコトヲ得

第十六條 合格品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ更ニ檢査ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出又ハ移出スルコトヲ得ズ

一 包裝ニ異狀ヲ呈シタルモノ
二 磨滅、汚損其ノ他ノ事由ニ因リ檢査證印、等級證印、大小別證印又ハ封印ノ識別シ難キニ至リタルモノ
三 檢査（再檢査ヲ除ク）後食用乾製品ニ在リテハ二箇月、食用鑵詰品ニ在リテハ六箇月、肥料及海藻ニ在リテハ三箇月ヲ經過シタルモノ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅關ハ檢査ヲ取消スコトヲ得

一 第十五條ノ規定ニ依リ再檢査ヲ行ヒタル場合ニ於テ檢査ノ標準ニ適合セザルトキ
二 不正ノ手段ニ依リ檢査ニ合格シタルトキ又ハ合格品ニ不正ノ手段ヲ施シタルトキ

第十八條 檢査ヲ行ヒタル水産製品ニハ其ノ包裝ニ檢査證印ヲ押捺ス

合格品ニハ前項ノ證印ノ外等級證印及大小別證印ヲ押捺シ其ノ包裝ニ封印ヲ施ス

第十五條ノ規定ニ依リ再檢査ヲ行ヒ檢査ノ標準ニ適合シタルトキハ其ノ包裝ニ再檢査ノ封印ヲ施ス

第十六條ノ規定ニ依リ更ニ檢査ヲ行ヒタルトキハ前檢査ニ基ク證印ニ消印ヲ押捺ス

前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ檢査ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

前各項ノ證印、消印及封印ハ第二號樣式ニ依ル

第十九條 前條ノ規定ニ依ル證印ヲ押捺シタル包裝材料ハ其ノ印影ヲ抹消スルニ非ザレバ更ニ水産製品ノ輸出又ハ移出ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第二十條 檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ニ立會ヒ且檢査請求品ノ取扱ニ付テハ檢査官吏ノ指揮ニ從フベシ

前項ノ規定ハ第十五條ノ規定ニ依ル再檢査ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 檢査ノ決定ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第二十二條 輸出又ハ移出セントスル水産品ノ包裝ニハ檢査證印、等級證印、大小別證印又ハ消印ニ類似スル商標、記號其ノ他ノ標記ヲ附スルコトヲ得ズ

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケズシテ水産製品ヲ輸出又ハ移出シタル者
二 第十條第二項又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者
三 不正ノ手段ニ依リ檢査ヲ受ケタル者
四 檢査濟ノ水産製品又ハ其ノ容量、包裝、檢査證印、等級證印、大小別證印若ハ封印ニ不正ノ手段ヲ施シタル者

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十四條 再檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者又ハ第十九條、第二十條若ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ大正七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

海藻檢査規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前海藻檢査規則ニ依リ檢査ヲ受ケタルモノニシテ本令施行ノ日以後ニ於テ輸出セムトスルモノハ本令ニ依ル檢査ヲ受ケタルモノト看做ス

本令ニ依リ檢査スヘキモノニシテ本令施行前輸出申告ヲ爲シタルモノハ本令ニ依ル檢査請求書ヲ差出シタルモノト看做ス

附 則（昭和二年朝鮮總督府令第三十八號）

本令ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ當分ノ內滿洲ニ輸出スル乾蝦ニ限リ之ヲ適用セズ

第十一條ノ規定ハ當分ノ內海參、鱶鰭、乾鮑、乾鰈、乾竹蟶、乾鳥貝、乾貝柱、水産肥料(鰯搾粕、鰊搾粕、太刀魚搾粕、鱈荒粕、干鰛、干鰯、干鰊、鰊卵ヲ除ク)、銀杏草、櫻草、小凝草、礒草及於期菜ニ之ヲ適用セズ

從前ノ規定ニ依ル合格品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル封印ハ當分ノ內仍之ヲ使用スルコトヲ得

第一號表

品質、結束、重量及製鑵標準

一 食用乾製品

品質
結束
重量

原料適當ニシテ固有ノ色澤ヲ有シ形態（乾海苔ニ在リテハ大判ハ長七寸五分幅六寸五分小判ハ長六寸八分幅六寸）整正ニシテ大小ニ著シキ不同ナク且煮熟（鱶鰭、乾鯣、鯣、素乾蝦及鱶、乾海苔ヲ除ク）鹽分（鯣、乾海苔ヲ除ク）及乾燥適度ニシテ夾雜物（海參、乾鮑、鱶鰭、鯣、乾鯣ヲ除ク）少キモノ	鯣（甲附鯣ヲ除ク）及乾海苔ニ在リテハ適正ナルモノ 乾海苔ニ在リテハ十枚ヲ一帖トシ十帖毎ニ紙質強靱ナル帶紙ヲ以テ結束シタルモノ

乾鮑	エゾ鮑類	一粒ノ重量	一匁以上
	マダカ	同	四匁以上
	其ノ他ノ鮑	同	二匁八分以上
海參		同	二匁以上
淡菜		同	一匁以上
乾蟶		同	一分三厘以上
乾海苔	大判	百枚ノ重量	七十匁以上
	小判	同	五十匁以上

二　食用罐詰品

品質	重量			製罐
原料適當ニシテ香味及色澤佳良ニ加熱適度ニシテ裝塡良好ナルモノ	鮑　エゾ鮑類	一粒ノ重量	二匁以上	完全ナルモノ但シ鯖、鰆、蟹及蝦ノ水煮罐詰ニ在リテハ製罐法ハ卷締又ハ外嵌トシ罐材ハ鉄力板一箱ノ重量八十五封度以上トス歐米向タラバ蟹罐詰ニ在リテハ製罐法ハ卷締トシ罐材ハ米國製チャーコール又ハ之ニ相當スル良質ノ鉄力板ニシテ適度ノ厚サヲ有シ且塗漆完全ナルモノ 鮑、貝柱及北寄貝ノ水煮罐詰ニ在リテハ製罐法ハ適宜トシ罐材ハ鉄力板一箱ノ重量八十五封度以上トス
	鮑　マダカ	同	七匁五分以上	
	鮑　其ノ他ノ鮑	同	五匁五分以上	
	水煮　鯖、鰆	一封度罐肉量	百匁以上	
		半封度罐同	五十匁以上	
	水煮　タラバ蟹（一名イバラ蟹）	一封度罐肉量	百匁以上	
		歐米向ニ在リテハ右肉量中一番脚肉三十四匁以上崩肉二十匁未滿ノモノ		
		半封度罐右ニ準ズ		
		崩肉罐詰ニ在リテハ脚肉ノ規定ヲ除ク外同右		
	水煮　其ノ他ノ蟹	一封度罐肉量	八十匁以上	
		半封度罐同	四十匁以上	
	水煮　蝦	一封度罐肉量	五十匁以上	
		半封度罐同	二十五匁以上	
	水煮　鮑	一封度罐肉量	三十匁以上	
	水煮　貝柱	同	七十匁以上	
	水煮　北寄貝	同	六十匁以上	

三　肥料

品質
原料適當ニシテ過度ニ變色セズ且鹽分（落肥料ヲ除ク）少ク乾燥適度ニシテ苦汁、鋸屑又ハ糠ヲ混入セズ土砂其ノ他ノ夾雜物少キモノ

四　海藻

品質
產地及採取ノ季節ヲ異ニセズ藻體ノ發育適當乾燥及晒白（原藻ヲ晒白シタルモノニ限ル）適度ニシテ鹽分、苦汁及土砂ヲ混入セズ異種ノ海藻其ノ他ノ夾雜物少ク形態整正（抄製品ニ限ル）ナルモノ

第二號表

容量及包裝標準

一　食用乾製品

品名	容量（風袋込重量）	包裝		
		種類	材料	荷造方法
乾海苔		大箱（內規） 長 二尺八寸 幅 一尺三寸 高 一尺六寸	松其ノ他適材ニテ板ノ厚サ正四分以上、鐵帶ノ幅五分以上、鐵線ノ太サ十三番乃至十五番、掛繩ノ徑三分以上、筵ハ適當ナルモノ	吸濕ヲ防護シ箱ノ兩緣ヲ鐵帶又ハ鐵線（鐵線ハ荷造機ヲ使用スルモノニ限ル）ヲ以テ緊縛シ（之ヲ筵包ト爲スコトヲ得）更ニ縱二箇所、横三箇所及側面一箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
		小箱（內規） 長 二尺 幅 一尺三寸 高 一尺六寸	同右	掛繩ヲ横二箇所トスル外同右
		小包郵便ト爲スモノ	金屬製、厚紙製又ハ木製ノ適當ナル箱	吸濕ヲ防護スル外適宜
海參、鱶鰭、乾蝦、乾玉筋魚、鯣、乾鱈、乾鮑、乾牡蠣、淡菜、乾蟶、乾竹蟶、乾北寄貝、乾鳥貝、乾貝柱		大箱（內規） 長 二尺九寸 幅 一尺四寸 高 一尺七寸	松其ノ他ノ適材ニテ板ノ厚サ正六分（乾鳥貝及皮附蝦ニ在リテハ正四分）以上、掛繩ノ徑三分以上、筵ハ適當ナルモノ	箱ノ外部ヲ筵包トシ縱二箇所、横四箇所及側面二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
		中箱（內規） 長 二尺七寸 幅 一尺四寸 高 一尺五寸	同右	横ノ掛繩ヲ三箇所トスル外同右
		小箱（內規） 長 二尺四寸 幅 一尺四寸 高 一尺一寸	同右	縱、横各二箇所及側面一箇所ニ掛繩ヲ施ス外同右
鯣　甲附鯣及於多福鯣	百十斤	筵包	筵ハ適當ナルモノ 掛繩ノ徑三分以上 風袋重量十斤以上	筵二重包トシ兩小口ニ口筵ヲ當テ横三箇所及縱四方掛トシ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
鯣　其ノ他ノ鯣	百五十斤			
乾鱈　開鱈	二百十斤	同右	同右	角造筵一重包トシ横三箇所、縱ノ一面二箇所及縱ノ他面一箇所ニ掛繩ヲ施ス外同右
乾鱈　棒鱈	百三十斤			

品名	容量（風袋込重量）	包裝		
		種類	材料	荷造方法
乾玉筋魚　小羽	百三十斤又ハ百斤	同右	百三十斤及百五十斤入ニ在リテハ風袋重量八斤以上、百斤入ニ在リテハ內紙袋外筵トシ風袋重量六斤以上トスル外鯣ニ同ジ	百三十斤及百五十斤入ニ在リテハ丸造トシ百斤入ニ在リテハ角造トシ共ニ筵一重包トスル外鯣ニ同ジ但シ角造ニ在リテハ乾鱈ト同樣ノ掛繩ヲ施スコトヲ得
乾玉筋魚　中羽及大羽	百五十斤又ハ百斤			
海參、剝蝦、乾鮑、乾牡蠣、淡菜、乾鳥貝、乾貝柱		同右	鯣ニ同ジ但シ麻袋（乾鳥貝ニ在リテハ麻袋又ハ紙袋）ヲ以テ內筵ニ代用スルコトヲ得其ノ風袋重量六斤以上	丸造（內紙袋外筵包トスルトキハ角造）トスル外鯣ニ同ジ但シ角造ニ在リテハ乾鱈ト同樣ノ掛繩ヲ施スコトヲ得
鱶鰭		同右	風袋重量九斤以上トスル外鯣ニ同ジ	筵一重包トスル外鯣ニ同ジ
皮附蝦（櫻蝦及乾鰕ヲ含ム）		同右	風袋重量八斤（內紙袋外筵トスルトキハ六斤）以上トスル外鯣ニ同ジ	丸造（內紙袋外筵包トスルトキハ角造）筵一重包トスル外鯣ニ同ジ但シ丸造ニ在リテハ横四箇所、角造ニ在リテハ乾鱈ト同樣ノ掛繩ヲ施スコトヲ得
乾蟶、乾竹蟶、乾北寄貝	八十斤乃至百五十斤	麻袋入又ハ叺入	麻袋入ニ在リテハ麻織物（ドンゴロス）掛繩ノ徑三分以上、風袋重量二斤半以上、叺入ニ在リテハ叺ハ適當ナルモノ、掛繩ノ徑三分以上、風袋重量四斤以上	縱及横各二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス

二　食用罐詰品

品名	容量（一箱ノ罐數）	包裝		
		種類	材料	荷造方法
鮑、鯖、鰆、蝦、蟹、貝柱、北寄貝、鰻、蠑螺罐詰	一封度罐四打 半封度罐及角罐六打又ハ八打	箱入	松其ノ他ノ適材ニテ棧板ノ厚サ正六分以上蓋底及胴板ノ厚サ正五分以上但シ棧板ノ兩端ニ添ヒ適當ナル棧木ヲ施シテ補強シタルモノニ限リ板ノ厚サヲ各一分ヅツ低減スルコトヲ得鐵帶ノ幅五分以上、鐵線ノ太サ十三番乃至十五番、掛繩ノ徑二分以上	箱ノ兩緣ヲ鐵帶又ハ鐵線（鐵線荷造機ヲ使用スルモノニ限ル）ヲ以テ緊縛ス但シ右ノ外縱ニ一箇所及横二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施スコトヲ得

三　肥料

品名	容量（風袋込重量）	包裝		
		種類	材料	荷造方法
鰯搾粕、鰊搾粕、太刀魚搾粕、鱈荒粕、鰊卵	百六十斤	筵包	筵ハ適當ナルモノ掛繩ノ徑三分以上風袋重量八斤以上	丸造筵一重包トシ兩小口ニ口筵ヲ當テ中貫繩ヲ施シ横三箇所及縱四方掛トシ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
干鰯、干鰊、干鯡	百三十斤	同右	風袋重量六斤以上トスル外同右	同右
干玉筋魚、胴鰊	百十斤	同右	同右	干玉筋魚ニ在リテハ同右、胴鰊ニ在リテハ角造トシ中貫繩ヲ施サザル外同右
其ノ他ノ水產肥料	百斤乃至百七十斤（粉末肥料ヲ除ク）	筵包、麻袋入又ハ叺入	筵包ニ在リテハ同右、麻袋入及叺入ニ在リテハ食用乾製品乾蟶ニ同ジ	筵包ニ在リテハ中貫繩ヲ施サザルコトヲ得ル外干鰯ニ同ジク麻袋入及叺入ニ在リテハ食用乾製品乾蟶ニ同ジ

四　海藻

品名	容量（風袋込重量）	包裝		
		種類	材料	荷造方法
石花菜、海蘿、銀杏草、櫻草	百二十斤	筵包又ハ箱入	筵包ニ在リテハ筵ハ適當ナルモノ、掛繩ノ徑三分以上、風袋重量九斤以上箱入ニ在リテハ箱ハ松其ノ他ノ適材、掛繩ノ徑同右、麻袋入ニ在リテハ食用乾製品乾蟶ニ同ジ	筵包ニ在リテハ丸造一重包トシ兩小口ニ口筵ヲ當テ横四箇所及縱四方掛トシ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス 箱入ニ在リテハ箱ノ外部ヲ筵包トセザル外食用乾製品ノ中箱ニ同ジ麻袋入ニ在リテハ横三箇所及縱二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
	五十斤乃至七十斤	麻袋入		
小凝草、礒草、於期菜	百十斤	筵包又ハ箱入	同右	同右
	五十斤乃至七十斤	麻袋入		
抄製海蘿	百三十斤以內	筵包又ハ箱入	麻袋入ノ規定ヲ除ク外同右	麻袋入ノ規定ヲ除キ且筵包ニ在リテハ角造トシ適當ノ掛繩ヲ施スコトヲ得ルノ外同右

抄製銀杏草及標草	百五十斤	筵包	箱入及麻袋入ノ規定ヲ除ク外石花菜ニ同ジ	箱入及麻袋入ノ規定ヲ除キ且角造トスル外石花菜ニ同ジ
晒海藻	百斤	同右	同右	箱入及麻袋入ノ規定ヲ除ク外石花菜ニ同ジ

備考

一　本表ニ依リ包裝シタルモノニ更ニ適當ノ掛繩ヲ施シテ二箇合ト爲スコトヲ得

二　風袋込重量ニ付テハ乾海苔及食用罐詰品ヲ除クノ外十斤以內ノ過不足アルヲ妨ゲズ

第三號表

等級標準

品名	形態ノ大小	一等	二等	三等	四等
海參	大（一斤ノ粒數二十箇以內） 中（同四十箇以內） 小（同四十一箇以上）	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ炭末ノ附著叉ハ鹽分少ク且內臟異物ノ除去完全煮熟適度ナルモノ	上記ノ事項一等ニ次グモノ		
乾鮑	大（一斤ノ粒數十五箇以內） 中（同三十箇以內） 小（同三十一箇以上）	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ鹽分少ク且內臟異物ノ除去完全煮熟適度ナルモノ	上記ノ事項一等ニ次グモノ		
鱶鰭		ヤジ、マブカ及之ニ類スルモノニシテ色澤及乾燥優良形態整正ニシテ鹽分少ク鰭根ニ贅肉ナキモノ	鰭根ノ贅肉及鹽分ニ付テハ同上、小鱶鰭ニ在リテハ肛鰭脊鰭ヲ混入セズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	鰭根ノ贅肉鹽分及小鱶鰭ノ肛鰭脊鰭ニ付テハ同上、其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
剝蝦		原料勾曲色澤乾燥及香味優良除殼完全ニシテ鹽分少ク夾雜物ナキモノ	夾雜物百分ノ二ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物百分ノ五ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
皮附蝦		原料勾曲色澤乾燥及香味優良ニシテ頭尾離脫セズ夾雜物ナキモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ五ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ六ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
乾玉筋魚	大（體長二寸四分ヲ超エタルモノ） 中（同二寸四分以下） 小（同一寸九分以下）	原料色澤乾燥及香味優良形態整正等大ニシテ鹽分少ク魚屑ヲ混入セザルモノ	魚屑ノ混入百分ノ五ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ		
鰑		原料色澤乾燥及香味優良形態及結束（甲附鰑ヲ除ク）整正且等大ナルモノ	形態及結束ニ付テハ同上、其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	上記ノ事項二等ニ次グモノ	
乾鱈		原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且鹽分少ク開鱈ニ在リテハ體長一尺四寸以上ノモノ但シ右以外ノ歐米向乾鱈ニ在リテハ體長一尺以上ノモノ	上記ノ事項一等ニ次グモノ但シ開鱈以外ノ歐米向乾鱈ニ在リテハ體長同上	上記ノ事項二等ニ次グモノ但シ開鱈以外ノ歐米向乾鱈ニ在リテハ體長同上	
乾牡蠣		原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ鹽分少ク夾雜物及肉片ヲ混入セズ一斤ノ粒數二百五十箇ヲ超エザルモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ一竝一斤ノ粒數四百箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ三ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
淡菜		原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ鹽分少ク夾雜物及肉片ヲ混入セズ一斤ノ粒數六十箇ヲ超エザルモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ一竝一斤ノ粒數九十箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ三ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
乾蟶		原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雜物及肉片ヲ混入セズ一斤ノ粒數五百箇ヲ超エザルモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ一竝一斤ノ粒數八百箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ三ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
乾竹蟶		原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雜物及肉片ヲ混入セズ一斤ノ粒數六百箇ヲ超エザルモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ一竝一斤ノ粒數千二百箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ三ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
乾北寄貝		原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ鹽分少ク夾雜物及肉片ヲ混入セズ一斤ノ粒數三十箇ヲ超エザルモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ二竝一斤ノ粒數四十箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ五ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
乾鳥貝		原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ鹽分少ク夾雜物及肉片ヲ混入セザルモノ	夾雜物及肉片ヲ混入セズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物及肉片ノ混入百分ノ二ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
乾貝柱		原料色澤及乾燥優良形態整正等大ノ丸粒ニシテ鹽分少ク夾雜物及肉片ヲ混入セザルモノ	丸粒及割ヲ區別シ夾雜物及肉片ノ混入百分ノ一ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	丸粒及割ニ付テハ同上夾雜物及肉片ノ混入百分ノ二ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
乾海苔		原料色澤及乾燥香味優良形態及結束整正ニシテ夾雜物ナキモノ	形態及結束ニ付テハ同上其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上其ノ他ノ事項三等ニ次グモノ
鮑水煮罐詰		原料香味及色澤優良內臟異物ノ除去及形態完全等大ニシテ中性又ハ弱[illegible]性ノ反應ヲ呈シ液汁著シク溷濁セズ有害物及殘渣ヲ含マズ一罐ノ肉量六十匁以上ノモノニ在リテハ其ノ粒數十二箇ヲ超エザルモノ（六十匁以下粒數之ニ準ズ）	內臟異物ノ除去性ノ反應及有害物ニ付テハ同上其ノ他ノ事項一等ニ次ギ一罐ノ肉量六十匁以上ノモノニ在リテハ其ノ粒數二十箇ヲ超エザルモノ（六十匁以下粒數之ニ準ズ）	內臟異物ノ除去性ノ反應及有害物ニ付テハ同上其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
蟹水煮罐詰		原料香味色澤及充塡優良ニシテ脚肉多ク有害物及殘渣ヲ含マズ中性又ハ弱アルカリ性ノモノ	性ノ反應有害物及殘渣ニ付テハ同上其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	性ノ反應有害物及殘渣ニ付テハ同上其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
蝦水煮罐詰		原料香味及色澤優良形態完全等大柔軟適度ニシテ有害物ヲ含マズ中性又ハ弱アルカリ性ノモノ	性ノ反應及有害物ニ付テハ同上其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	性ノ反應及有害物ニ付テハ同上其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
其ノ他ノ水煮罐詰		原料香味色澤及充塡優良形態完全且等大（貝柱北寄貝蟶螺罐詰ニ限ル）ニシテ有害物ヲ含マズ液汁著シク溷濁セズ殘渣ナク一罐ノ肉量充實セルモノ	有害物及殘渣ニ付テハ同上其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	有害物ニ付テハ同上其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
味附罐詰		原料香味色澤及充塡優良形態完全且等大（貝柱北寄貝蟶螺鮑罐詰ニ限ル）ニシテ有害物ヲ含マズ一罐ノ肉量充實セルモノ	有害物及肉量ニ付テハ同上其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	有害物ニ付テハ同上其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
搾粕肥料		原料色澤及乾燥優良ニシテ異種ノ魚肉其ノ他ノ夾雜物ナキモノ	異種ノ魚肉（雜魚搾粕ヲ除ク）ヲ混入セズ其ノ他ノ夾雜物百分ノ三ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	異種ノ魚肉（雜魚搾粕ヲ除ク）ノ混入少ク其ノ他ノ夾雜物百分ノ五ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
素干肥料		原料色澤及乾燥優良ニシテ異種ノ魚體ヲ混入セズ其ノ他ノ夾雜物極メテ僅少ナルモノ	異種ノ魚體（雜魚素干ヲ除ク）ヲ混入セズ其ノ他ノ夾雜物百分ノ五ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	異種ノ魚體（雜魚素干ヲ除ク）ノ混入少ク其ノ他ノ夾雜物百分ノ十ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
其ノ他ノ水產肥料		原料色澤及乾燥優良ニシテ異種ノ原料其ノ他ノ夾雜物ヲ混入セザルモノ	異種ノ原料（雜肥ヲ除ク）其ノ他ノ夾雜物少ク其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	上記ノ事項二等ニ次グモノ	
石花菜及海蘿		產地及採取ノ季節ヲ異ニセズ藻體ノ發育及乾燥優良ニシテ夾雜物ナキモノ	產地及採取ノ季節ニ付テハ同上夾雜物ハ石花菜ニ在リテハ百分ノ三海蘿ニ在リテハ百分ノ二ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	產地及採取ノ季節ニ付テハ同上夾雜物ハ石花菜ニ在リテハ百分ノ五海蘿ニ在リテハ百分ノ三ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	

其ノ他ノ海藻	産地及採取ノ季節ヲ異ニセズ藻體ノ發育及乾燥優良ニシテ夾雜物ナキモノ	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上、夾雜物百分ノ二ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上、夾雜物百分ノ三（櫻草ニ限リ百分ノ五）ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
晒海藻	藻體ノ發育及乾燥優良ニシテ晒白ノ程度同ジク夾雜物ナキモノ	夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物百分ノ一ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	
海藻ノ抄製品（乾海苔ヲ除ク）	原料抄製晒白色澤及乾燥優良ニシテ夾雜物ナキモノ	夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物百分ノ一ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	

第一號様式

番號

水産製品檢査請求書

下記水産製品御檢査相成度水産製品檢査規則第四條ノ規定ニ依リ此段及請求候也

檢査請求年月日

收入印紙貼附欄

	仕向地	生産地	箇數	包裝種類	包裝記號	品名	數量	價格	檢査手數料	檢査成績	備考
1								圓	圓		
2											
3											
4											
5											
合計									圓	檢査官認印	

檢査請求人住所氏名捺印

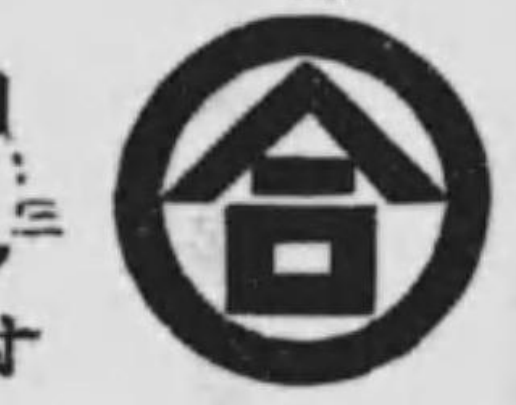
製造人住所氏名

注意 一 品名中品質ノ種類ヲ分チタルモノニ在リテハ各欄ニ區別シテ記載スヘシ
二 雙線内ニハ記入スヘカラズ

第二號様式

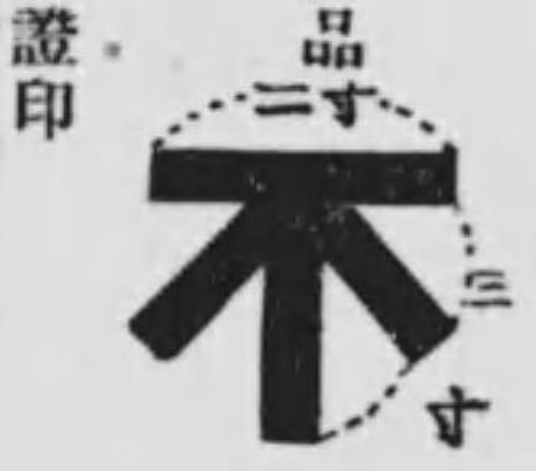
一 檢査證印

合格品



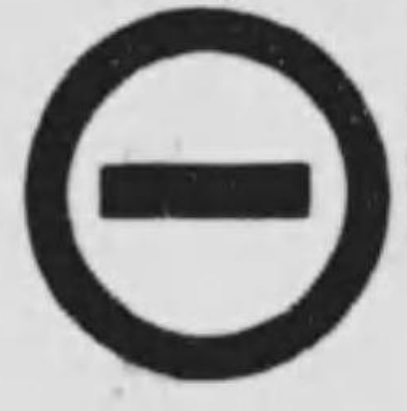
直徑三寸 肉幅三分

不合格品



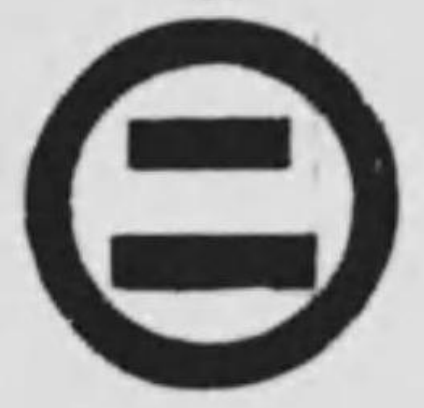
二 等級證印

一 等



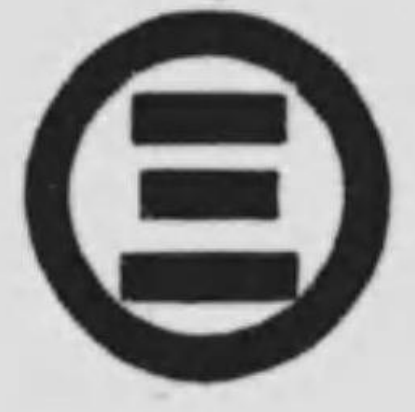
直徑三寸 肉幅三分

二 等



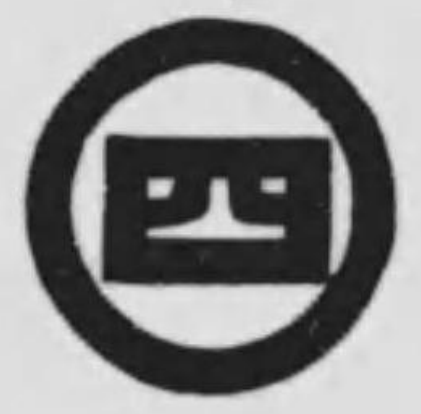
同上

三 等



同上

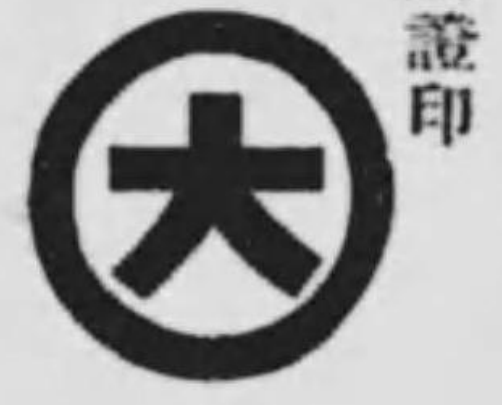
四 等



同上

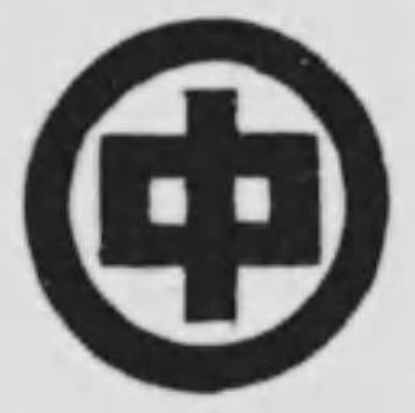
三 大小別證印

大



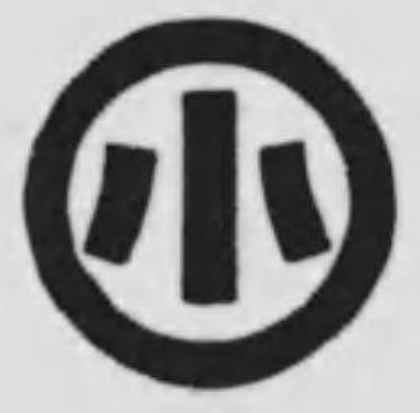
直徑三寸 肉幅三分

中



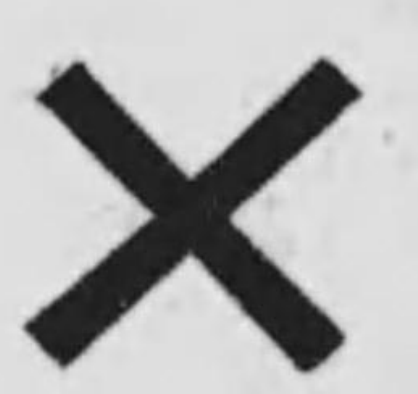
同上

小



同上

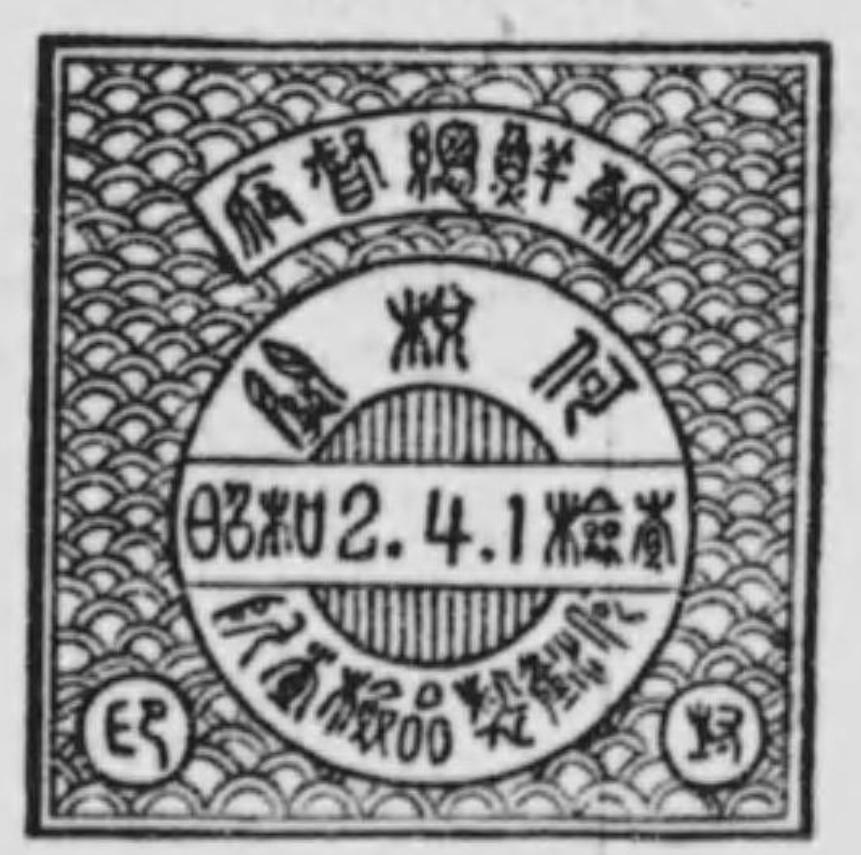
四 消印



各片ノ長サ三寸 肉幅三分

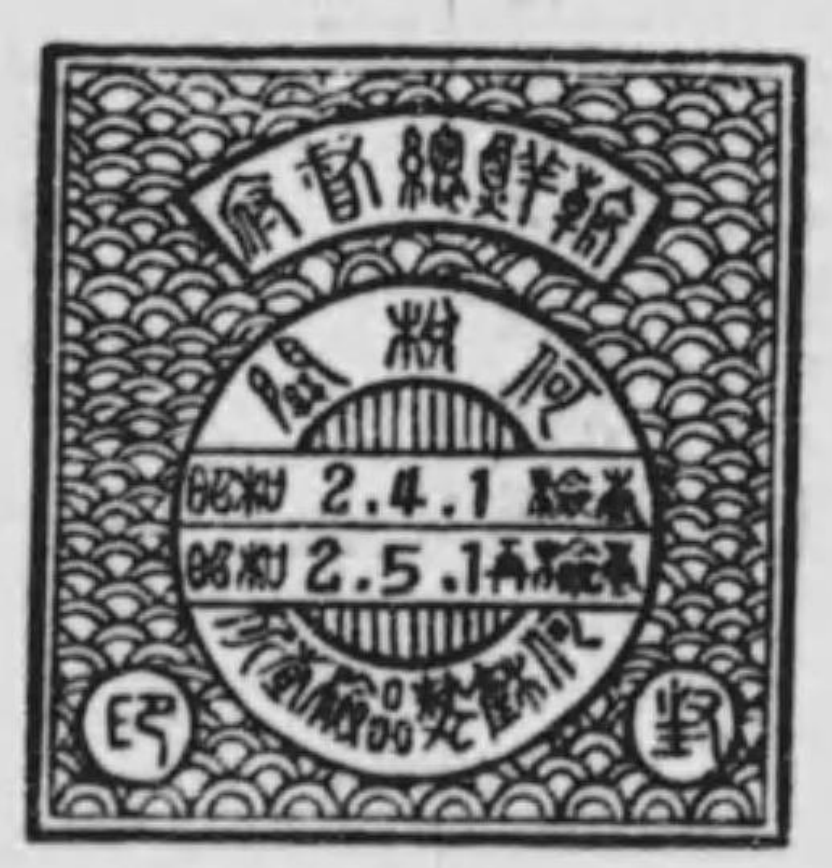
五 封印

食用乾製品、肥料及海藻



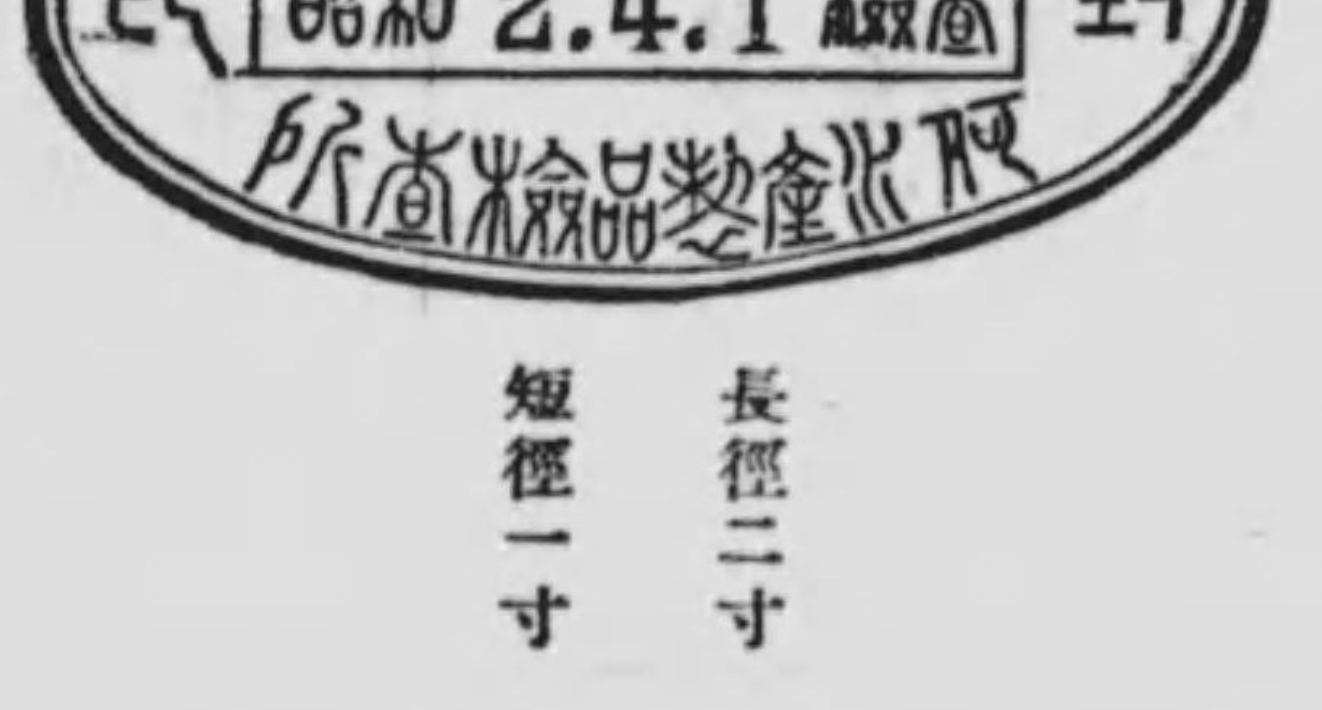
一寸角

同上 再檢査品



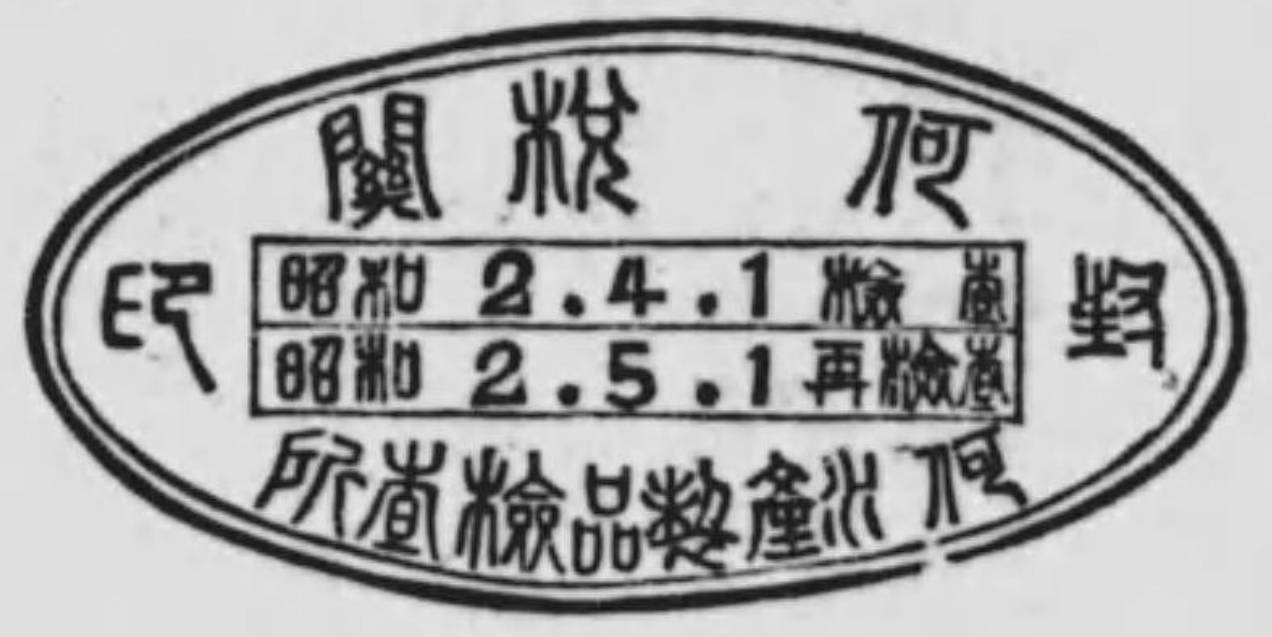
同上

食用罐詰品



長徑二寸 短徑一寸

同上 再檢査品



同上

備考

一 乾海苔合格品中小包郵便ト爲スモノニ在リテハ檢査證印及等級證印ハ直徑一寸五分肉幅一分五厘トス

二 檢査證印、等級證印、大小別證印及消印ノ肉色ハ釜山稅關ニ在リテハ赤色、仁川稅關ニ在リテハ紫色、新義州稅關ニ在リテハ青色トス

三 封印ノ文字、模様及輪廓ハ赤色トス但シ再檢査品ノ分ハ青色トス封印ノ數字ハ年月日ノ順序ニ記入スルモノトス

●内地移出石花菜檢査規則

（明治四十一年四月十四日 臺灣總督府令第二十號）

内地移出石花菜檢査規則左ノ通相定ム

内地移出石花菜檢査規則

第一條 本島産石花菜ヲ内地ニ移出セムトスル者ハ其ノ包裝前檢査手數料ヲ添ヘ檢査所ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

檢査所ノ名稱、位置及檢査手數料ノ額ハ之ヲ告示ス

第二條 檢査ハ檢査所所在地ニ於テ檢査員之ヲ行フ但シ時宜ニ依リ石花菜ノ所在地ニ就キ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第三條 檢査ハ屆出ノ順序ニ依リ晝間之ヲ行フ但シ臨時急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 石花菜ノ等級ハ臺灣總督府ノ定ムル標本ニ依リ品質ノ優劣乾燥ノ程度、混入物料ノ多少ニ從ヒ一等、二等、三等及等外ノ四種トス

第五條 石花菜ニシテ乾燥十分ナラサルカ又ハ石花菜以外ノ海藻、土砂其ノ他ノ物料ノ混入アリタルトキハ檢査員ハ之カ再調ヲ命スルコトヲ得

第六條 移出者ハ檢査濟ノ石花菜ヲ檢査員ノ立會ヲ求メ一捆百斤ノ建包トスヘシ

第七條 檢査ヲ行ヒタルトキハ等級ニ應シタル別記雛形ノ證印ヲ各包裝面ニ押捺ス

第八條 檢査ノ證印アル古建ハ檢査所ノ消印ヲ受クルニアラサレハ石花菜ヲ内地ニ移出スル爲之ヲ再用スルコトヲ得ス

第九條 檢査員ハ必要ト認ムルトキハ再檢査ヲ行フコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條、第六條及第八條ニ違反シタル者

二 再檢査ヲ拒ミタル者

三 檢査ヲ免カルル目的ヲ以テ詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者

四 檢査濟ノ石花菜又ハ其ノ包裝ニ不正ノ手段ヲ施シタル者

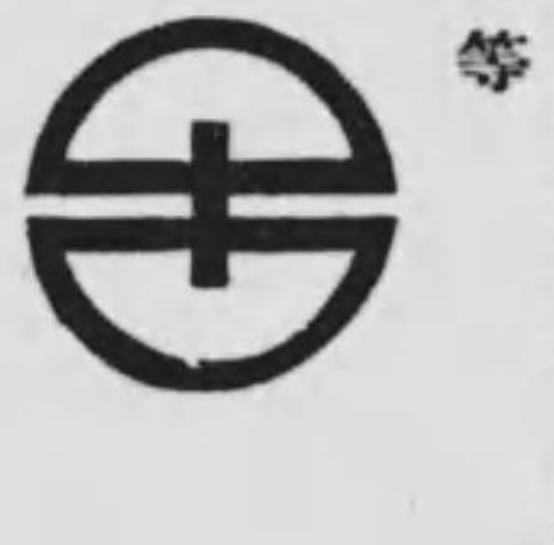
附 則

本令ハ明治四十一年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

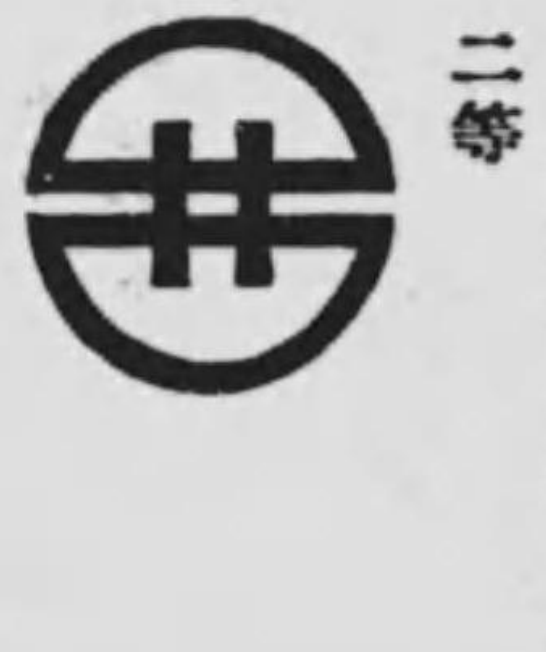
（別記雛形）

證印（外徑四寸、肉幅二分、等級線ノ長サ二寸、同上間隔四分）

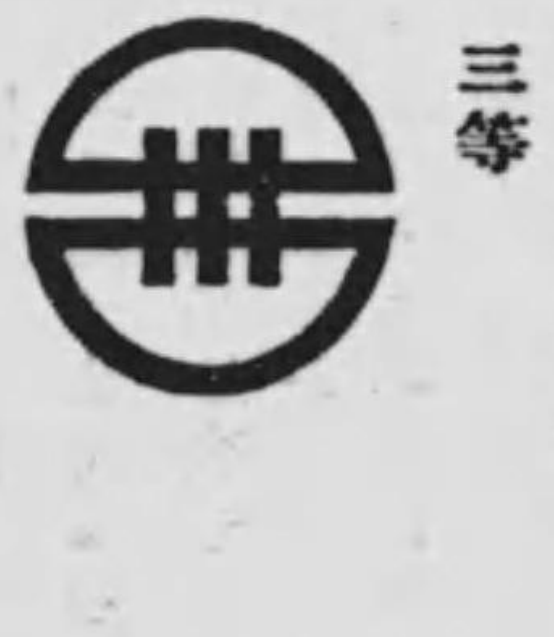
一等



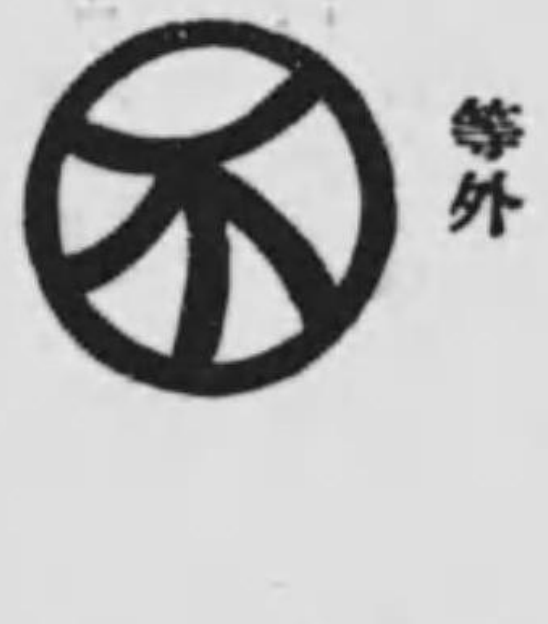
二等



三等



等外



●水産製造物檢査規則

（大正十五年三月三日 樺太廳令第五號 改正 昭和二年第一三號）

水産製造物檢査規則左ノ通改正ス

水産製造物檢査規則

第一條 水産製造物ノ檢査ハ本令ニ依ル

第二條 檢査ヲ受クヘキ水産製造物ノ種類左ノ如シ

一 水産肥料
二 身欠鰊、外割鰊、鰊鯑
三 鹽鱒、鹽鮭、鹽鱈、鹽鰊、鱒及鮭ノ筋子
四 開鱈、開鯳、棒鱈、棒鯳、乾鮑
五 魚油
六 昆布、銀杏草
七 海參、乾貝、剝蝦、鯣、鮫鰭
八 鯡、玉筋魚及小鰊ノ煮乾又ハ素乾
九 「タラバ」蟹、蝦、北寄貝、鱒及鮭ノ水煮罐詰

第三條 水産製造物ハ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ若ハ讓受ケ又ハ製造場外ニ搬移スルコトヲ得ス但シ荷造又ハ結束一箇未滿若ハ其ノ數一束未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 荷造又ハ結束一箇未滿若ハ其ノ數一束未滿ノ水産製造物ヲ讓受ケタル場合ニ於テ其ノ荷造又ハ結束カ一箇以上若ハ其ノ數一束以上ニ達シタルトキハ前條ノ規定ヲ適用ス

第五條 水産製造物ノ檢査ハ水産物檢査員之ヲ行フ

水産物檢査員ハ左襟ニ別記ノ徽章ヲ附スヘシ

第六條 水産製造物ノ檢査ヲ受クル者ハ手數料ヲ納ムヘシ但シ再檢査ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

檢査手數料ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 水産製造物ノ荷造及結束ノ方法、量目、等級其ノ他檢査ノ標準ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 水産物檢査員ニ於テ水産製造物ノ品質、荷造、結束又ハ量目成規ニ適合セスト認ムルトキハ之カ改造若ハ改修又ハ増減ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 水産物檢査員ニ於テ必要アリト認ムルトキハ檢査ノ場所ヲ指定シ水産製造物ノ搬移ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 水産物檢査員ニ於テ再檢査ヲ行フノ必要アリト認ムルトキハ其ノ旨水産製造物ノ所有者又ハ占有者ニ通告シ檢査ヲ行フコトヲ得

再檢査ノ通告ヲ受ケタル者ハ其ノ檢査ノ終了迄水産製造物ヲ他ニ搬移スルコトヲ得ス

第十一條 檢査濟水産製造物ノ品質、荷造又ハ結束ヲ改造若ハ改修セムトスルトキハ水産物檢査員ノ承認ヲ受クヘシ

水産製造物ノ品質、荷造又ハ結束ヲ改造若ハ改修シタルトキハ更ニ檢査ヲ受クヘシ

第十二條 水産製造物ノ檢査ヲ受クル者又ハ其ノ代理人ハ檢査ニ必要ナル勞力ヲ提供シ且檢査施行中ハ現場ニ立會スヘシ

第十三條 水産製造物ノ檢査ヲ受ケタル者檢査ニ對シ異議アルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ再檢査ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 水産物檢査員水産製造物ノ檢査ヲ終リタルトキハ檢印ヲ押捺シ且受檢者ニ檢査證ヲ交付スヘシ

水産製造物ノ檢査ヲ受ケタル者檢査證ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク檢査濟水産製造物ニ之ヲ添附スヘシ

檢査證及檢印ノ雛形ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第三條及第四條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　檢査ヲ拒ミ又ハ檢査ヲ免ルル目的ヲ以テ水産製造物ヲ隱匿シタルトキ

二　第十條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三　檢査證若ハ檢印ヲ塗抹シ又ハ毀棄シタルトキ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一　第八條又ハ第九條ノ命ニ從ハサルトキ

二　第十二條又ハ第十四條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條　水産製造物ノ所有者又ハ占有者ノ代理人、戸主、家族、同居人、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違反シタルトキハ水産製造物ノ所有者又ハ占有者ヲ處罰ス

第十九條　水産製造物ノ所有者又ハ占有者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス

第二十條　法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者ニシテ法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ法人ヲ處罰ス

第二十一條　本令ノ規定ハ官公署ニ於テ調査又ハ試驗ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

水産製造物ノ改良其ノ他特別ノ事由ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合亦前項ニ同シ

附　則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

水産物檢査員徽章

檢　徑四分（金屬製）

●罐詰及壜詰製造業取締規則

（大正十五年一月二十日 樺太廳令第一號）

罐詰及壜詰製造業取締規則左ノ通定ム

罐詰及壜詰製造業取締規則

第一條　蟹罐詰又ハ壜詰製造業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　本籍、住所、氏名及生年月日（法人ニ在リテハ事務所ノ所在地、名稱及代表者ノ氏名以下之ニ倣フ）

二　製造ノ場所（船舶ニ依ル場合ニ在リテハ船名及根據地）

三　事業ノ計畫

第二條　行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ出願又ハ届出ヲ爲シタル者ニ對シ書類ノ提出、訂正又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　蟹罐詰又ハ壜詰製造業ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ生産スル罐詰又ハ壜詰ノ蓋又ハ底ノ睹易キ箇所ニ樺太廳長官ノ指定スル數字ヲ附スヘシ

第四條　蟹罐詰又ハ壜詰製造業ノ許可ヲ受ケタル者ハ毎月ノ生産高及移出高ノ種類、數量並移出先ヲ翌月十日迄ニ所轄樺太廳支廳長ニ届出ツヘシ

第五條　左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク樺太廳長官ニ届出ツヘシ

一　住所、氏名ヲ變更シタルトキ

二　相續ニ依リ業務ヲ承繼シタルトキ

三　著業又ハ休業シタルトキ

四　廢業シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ戸籍謄本ヲ添附スヘシ

第一項第四號ノ場合ニ於テ死亡又ハ解散ニ依ルトキハ相續人又ハ法定代理人ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第六條　蟹罐詰又ハ壜詰製造業許可ノ日ヨリ九十日以內ニ著業セサルトキ又ハ引續キ二年以上休業シタルトキハ樺太廳長官ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條　許可ヲ受ケスシテ蟹罐詰又ハ壜詰製造業ヲ爲シタル者又ハ本令ノ規定ニ違反シタル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條　蟹罐詰又ハ壜詰製造業ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第九條　蟹罐詰又ハ壜詰製造業ノ許可ヲ受ケタル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者ニシテ法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ法人ヲ處罰ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ蟹罐詰製造業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

罐詰製造業取締規則ハ之ヲ廢止ス

第六章　畜産

第一款　畜産

●種牡牛檢査法

（明治四十年四月十日 法律第四十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル種牡牛檢査法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

種牡牛檢査法

第一條　牡牛ハ本法ニ依リ檢査ヲ受ケ合格シタルモノニ非サレハ種付ニ使用スルコトヲ得ス

第二條　檢査ニ合格シタル種牡牛ニハ體ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付ス

第三條　證明ノ效力ハ滿一箇年トス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

前項期間內ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡牛ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ效力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第四條　檢査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第五條　本法ハ官廳所有ノ種牡牛ニ之ヲ適用セス

第六條　學術研究ノ爲牡牛ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトヲ得

第七條　檢査ニ合格セサル牡牛又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡牛ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　種牡牛檢査ノ標準ハ農商務大臣之ヲ定ム

附　則

第九條　本法ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　農商務大臣必要ト認ムルトキハ當分ノ內島嶼ニ限リ本法ヲ施行セサルコトヲ得

第十一條　本法施行前ニ與ヘタル種牡牛ノ免許ハ其ノ免許期間效力ヲ有ス

（明治四十一年三月七日 農商務省告示第二十八號 改正 大正二年第九三號）

種牡牛檢査法第十條ニ依リ當分ノ內左ノ島嶼ニ限リ同法ヲ施行セス

一　北海道利尻郡、禮文郡、奧尻郡、苫前郡ノ內燒尻島天賣島、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡、紗那郡、振別郡、擇捉郡及蘂取郡

一　鹿兒島縣薩摩郡ノ內甑島、熊毛郡ノ內屋久島並口永良部島

●種牡牛檢査法施行規則

（明治四十年六月十七日 農商務省令第十七號 改正 明治四二年第二二號 大正元年第一七號、三年第二六號、四年第二三號）

種牡牛檢査法施行規則左ノ通相定ム

種牡牛檢査法施行規則

第一條　種牡牛ノ檢査ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ願出ツヘシ但シ同一廳府縣ニ於テ前回ノ檢査ニ合格シタルモノハ直ニ檢査所ニ牽付檢査ヲ受クルコトヲ得

第二條　種牡牛ノ檢査ハ地方長官毎年一回之ヲ行フ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ臨時檢査ヲ行フコトヲ得

前項ノ檢査ハ地方長官所屬ノ官吏若ハ待遇官吏又ハ産牛業ニ經驗アル者ノ中ヨリ二人以上ノ檢査員ヲ命シ之ヲ行フ但シ檢査員ノ一人ハ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ有スル者タルコトヲ要ス

臨時檢査ノ場合及島嶼ニ於テハ檢査員一人ヲ以テ檢査ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項但書ノ規定ヲ適用セス

第三條　種牡牛檢査ノ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　年齡十八箇月以上ナルコト

一　體格強健ニシテ性質善良ナルコト

一　惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト

地方長官ハ前項ノ標準ニ依リ檢査合格ノ資格ヲ定ムヘシ

第四條　檢査ニ合格シタル種牡牛ハ其ノ左角ニ烙印シ同時ニ所有者又ハ管理者ニ別記樣式ノ證明書ヲ下付ス但シ左角ナキ牛ニ付テハ前肢左蹄ニ烙印ス

第五條　證明書ハ其ノ道府縣限リ有效トス

地方長官ハ特ニ優良ト認ムル種牡牛ニ限リ滿三箇年以內ニ於テ證明書ノ有效期間ヲ伸長スルコトヲ得

第六條　左ノ場合ニ於テハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ三十日以內ニ證明書ヲ地方長官ニ返納スヘシ

一　證明書ノ有效期間滿了シタルトキ

一　種牡牛斃死シタルトキ

一　種牡牛ノ用ヲ廢シタルトキ

一　種牡牛檢査法第三條第二項ニ依リ證明ヲ取消サレタルトキ

第七條　種牡牛ノ種付ヲ爲ストキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ證明書ヲ携帶スヘシ

證明書ハ當該官吏又ハ種付ヲ受ケムトスル牝牛ノ所有者若ハ管理者ヨリ其ノ閲覽ヲ請求スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　種牡牛ノ所有者又ハ管理者ノ異動ヲ生シ又ハ其ノ住所、氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官ニ届出テ證明書ノ書換ヲ受クヘシ但シ種牡牛ノ所有者ニ異動アリタルトキハ讓渡人ノ連署ヲ要ス

證明書ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ之ヲ地方長官ニ届出テ其ノ再渡ヲ受クヘシ但シ毀損ニ因リ再渡ヲ受クル場合ニハ原證明書ヲ返納スヘシ

第九條　種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ帳簿ヲ調製シ種付ケヲ受ケタル牝牛ノ種類、年齡、毛色、高サ、特徵、種付ケタル年月日及其ノ所有者又ハ管理者ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ

第十條　牝牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ其ノ仔牛ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ正當ノ事由ナクシテ之カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　削除

第十二條　地方長官ハ當該官吏ヲシテ種牡牛ノ狀況、仔牛ノ成績及第九條ノ帳簿ヲ調査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ種牡牛及仔牛ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ調査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　地方長官ハ第二條第一項又ハ前條ニ依リ行ヒタル檢査又ハ調査ノ成績及狀況ヲ翌年一月三十一日限リ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ檢査成績報告ハ別記樣式ニ依ルヘシ

第十四條　第六條第七條第二項第八條乃至第十條又ハ第十二條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ明治四十年七月一日ヨリ施行ス

（別記樣式）

縱四寸　橫五寸五分

第　　號

種牡牛證明書

所有者（管理者アルトキハ管理者共）　住所氏名

一種類　　名號

檢査年月日及有效期間	檢査員官氏名印

表

一年齡

一高サ

一毛色及特徵

右種牡牛タルコトヲ證明ス

年　月　日

道府縣

裏

自大正　年一月一日至同　年十二月三十一日種牡牛檢査成績報告書ノ一

種類				
檢査出願頭數	新出願			
	繼續出願			
	計			
檢査頭數	合格	新出願		
		繼續出願		
		計		
	不合格	新出願		
		繼續出願		
		計		
不參及取消頭數				

一　種牡牛檢査員ノ官職職業氏名

二　不合格ノ事由

三　檢査ノ狀況

四　種牡牛ニ關スル一般ノ狀況

自大正　年一月一日至同　年十二月三十一日種牡牛檢査成績報告書ノ二

合格種牡牛種類別頭數

郡市＼種類			合計
何種	頭		
何種	頭		
何種	頭		
何種	頭		
何種	頭		
何種	頭		
何種	頭		
何種	頭		
何種	頭		
計	頭		

備考　種類欄中外國種ハ單ニ外國種ト記載セスシテ其種類名ヲ記載シ雜種ハ總テ種牡牛ノ種名ヲ冠スルヲ要ス

●種畜種付規則（明治四十年五月二十一日農商務省令第十三號 改正 明治四二年第三二號、四三年第一一號、大正四年第三號）

種畜種付規則左ノ通相定ム

種畜種付規則

第一條 左ニ揭クル資格ヲ有スル牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ノ所有者又ハ管理者ハ種畜牧場、種牛所ニ種牡牛、種牡豚、種牡緬羊又ハ種牡山羊ノ種付ヲ出願スルコトヲ得

一 牝牛ニ在リテハ年齡滿二歲以上牝豚ニ在リテハ年齡滿十箇月以上牝緬羊又ハ牝山羊ニ在リテハ年齡滿十八箇月以上ナルコト

一 牝牛ニ在リテハ身幹四尺以上ニ達シ又ハ體格均稱宜シキモノナルコト

一 惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト

一 體格優等、體質健全ナルコト

前項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ第一號樣式ニ依ル願書ヲ種畜牧場長、種牛所長ニ差出スヘシ

第二條 種付ヲ行フ種畜牧場、種牛所竝種付ヲ行フヘキ種牡牛、種牡豚、種牡緬羊及種牡山羊ノ種類ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第三條 第一條ノ出願アリタルトキハ種畜牧場長、種牛所長ハ期日及場所ヲ定メ出願人ヲシテ牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ヲ牽付ケシメ第一條第一項各號ノ事項ヲ檢査シ檢査ニ合格シタル牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ付種付合格證ヲ交付スヘシ

前項ノ期日及場所ニ牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ヲ牽付ケサルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ

種付合格證ハ牝牛ニ在リテハ百日間牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ在リテハ五十日間有效トス

種付ヲ受クヘキ牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊カ種付合格證下付後第一條第一項ノ資格ヲ喪失シタルトキハ種付合格證ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 種畜牧場長、種牛所長ハ前條第一項ノ檢査ニ合格シタル牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ付種付ヲ行フヘキ日時及場所ヲ定メ之ヲ出願人ニ通告スヘシ

第五條 牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ付種付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ種付ヲ受クル際種付合格證ヲ携帶シ之ヲ當該吏員ニ示スヘシ

第六條 牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊第一回ノ種付ヲ以テ受胎セサル場合ニ於テハ第一回種付ノ日ヨリ牝牛ニ在リテハ六十日以內牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ在リテハ三十日以內ニ於テ第二回ノ種付ヲ請求スルコトヲ得

第九條ニ依リ種付施行ヲ延期シタル日數ハ前項ノ期間ニ之ヲ算入セス

第三條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ種付合格證ノ有效期間ヲ經過シタルモノノ外牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ノ檢査ヲ行ハス

第七條 種付ヲ受クル者ハ第一回ノ種付ヲ受ケムトスル際種付料トシテ牝牛ニ在リテハ一頭ニ付金二圓牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ在リテハ一頭ニ付金一圓ヲ納付スヘシ但シ和種、改良和種及雜種牡牛ノ種付ニ付テハ種付料ヲ要セス

前條ニ依ル第二回ノ種付ニ付テハ種付料ヲ要セス

第八條 種付料ヲ納付セントスル者ハ第二號樣式ニ依ル納付書ニ種付料ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シ之ヲ種畜牧場長、種牛所長ニ差出スヘシ

前項ノ納付アリタルトキハ種畜牧場長、種牛所長ハ其ノ適法ナルコトヲ認メタル後納付書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ

既納ノ種付料ハ之ヲ還付セス其過剩アル場合亦同シ

第九條 種畜牧場長、種牛所長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ檢査又ハ種付ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

一 種畜牧場、種牛所ニ於テ指定ノ期日ニ檢査又ハ種付ヲ施行スルコト能ハサルトキ

一 牝牛、牝豚、牝緬羊若ハ牝山羊ノ飼養地又ハ其ノ附近又ハ牽付ノ際經過スヘキ地方ニ於テ獸畜傳染病ノ發生又ハ流行スルトキ

一 種牡牛、種牡豚、種牡緬羊若ハ種牡山羊又ハ檢査若ハ種付ヲ受クヘキ牝牛、牝豚、牝緬羊若ハ牝山羊ノ疾病、傷痍其ノ他ノ事由ニ因リ檢査又ハ種付ヲ行フコト能ハス又ハ種付ニ害アリト認メタルトキ

一 疾病又ハ傷痍ニ因リ牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ヲ牽付クルコト能ハサルトキ

檢査又ハ種付ヲ受クル者其ノ牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊カ前項第三號又ハ第四號ニ該當スル爲其ノ延期ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ檢査又ハ種付ヲ受クヘキ期日ヲ豫定シテ種畜牧場長、種牛所長ニ屆出ツヘシ

第四條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 種畜牧場長、種牛所長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ種付ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一 種付ヲ行フヘキ期日及場所ニ牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ヲ牽付ケサル者

一 第七條ニ依リ種付料ヲ納付セサル者

一 種付ヲ受クヘキ者種付施行ニ付異議ヲ述ヘ又ハ當該吏員ノ指揮ニ從ハサル者

第十一條 種牡牛、種牡豚、種牡緬羊又ハ種牡山羊ノ斃死、疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ種付ヲ行フコト能ハサルトキハ種畜牧場長、種牛所長ハ種付ヲ受クヘキ者ノ同意ヲ得テ種牡牛、種牡豚、種牡緬羊又ハ種牡山羊ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ種付ヲ受クヘキ者種牡牛、種牡豚、種牡緬羊又ハ種牡山羊ノ種類ノ變更ニ同意セサルトキハ種付ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十二條 種付ヲ受ケタル者ハ種付ニ因リ生シタル損害ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ種付ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ其ノ仔牛、仔豚、仔緬羊又ハ仔山羊ニ付血統證ノ下付ヲ種畜牧場長、種牛所長ニ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ種畜牧場長、種牛所長ノ指定ニ從ヒ仔牛、仔豚、仔緬羊又ハ仔山羊ノ檢査ヲ受クヘシ

第十四條 種付ヲ受ケタル牝牛、牝豚、牝緬羊若ハ牝山羊又ハ其ノ仔牛、仔豚、仔緬羊若ハ仔山羊ノ所有者又ハ管理者ハ遲滯ナク左記ノ事項ヲ種畜牧場長、種牛所長ニ屆出ツヘシ

一 牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ノ分娩前之ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、讓受人ノ氏名、住所、牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由

一 牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊分娩シタルトキハ生產ニ在リテハ其ノ年月日、仔牛ノ性、毛色又ハ仔豚、仔緬羊又ハ仔山羊ノ數及性、死產ニ在リテハ其ノ年月日、數、性及事由

一 仔牛、仔豚、仔緬羊又ハ仔山羊ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、價額、讓受人ノ氏名、住所、仔牛、仔豚、仔緬羊又ハ仔山羊斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由

第十五條 種畜牧場長、種牛所長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ種付出願ヲ許可セサルコトヲ得

一 種付ヲ受ケタル牝牛、牝豚、牝緬羊若ハ牝山羊又ハ其ノ仔牛、仔豚、仔緬羊若ハ仔山羊ノ飼養其ノ他ノ管理ヲ怠リタル者

一 第十條ニ依リ種付ノ許可ヲ取消サレタル者

一 前條ノ屆出ヲ怠リタル者

第十六條 種牡牛ノ種付ハ種畜牧場、種牛所吏員各地ニ出張シテ之ヲ行フコトアルヘシ

第十七條 前條ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル種畜牧場長、種牛所長ノ職務ハ出張吏員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ種付ヲ行フヘキ期間、場所及種牡牛ノ種類竝願書差出期間及場所等ハ豫メ之ヲ公告スヘシ

第十八條 削除

第十九條 明治三十七年農商務省令第二號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式ノ一

種牡牛種付願

一 何種牝牛　名號
毛色　生年月　身幹
產地
血統　父何種 毛色 產地
母何種 毛色 產地

右種畜種付規則ヲ遵守致候間何種種牡牛ノ種付御許可相成度此段相願候也

年　月　日
住所
所有者又ハ管理者　氏　名　印

種畜牧場長、種牛所長宛

第一號樣式ノ二

種牡豚（緬羊）（山羊）種付願

一 何種牝豚（緬羊）（山羊）
毛色　生年月
產地
血統　父何種 毛色 產地
母何種 毛色 產地

右種畜種付規則ヲ遵守致候間何種種牡豚（緬羊）（山羊）ノ種付御許可相成度此段相願候也

年　月　日
住所
所有者又ハ管理者　氏　名　印

種畜牧場長、種牛所長宛

第二號樣式

種牡牛（豚）（緬羊）（山羊）種付料納付書

一 金何圓也　收入印紙

但シ何種種牡牛（豚）（緬羊）（山羊）種付料

右納付候也

年　月　日
住所
所有者又ハ管理者　氏　名　印

種畜牧場長、種牛所長宛

注意

一 收入印紙ハ消印スヘカラス

●種牡牛馬種付料ニ關スル件（明治三十九年五月十四日勅令第百四號 改正 明治四三年第二五五號）

朕種牡牛馬種付料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（農商務大臣副署）

種馬所種馬牧場【種牛所及】種畜牧場ノ保管ニ屬スル種牡牛馬ノ種付ヲ受クル者ハ種付料ヲ納付スヘシ但シ國又ハ公共團體ニ於テ種付ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

種付料ヲ納付スヘキ種牡牛馬及其ノ種付料ハ主務大臣之ヲ定ム

種付料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●種牡緬羊及種牡山羊種付料ニ關スル件（明治四十二年七月六日勅令第百八十一號）

朕種牡緬羊及種牡山羊種付料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

種畜牧場ノ保管ニ屬スル種牡緬羊及種牡山羊ノ種付ヲ受クル者ハ種付料ヲ納付スヘシ

種付ヲ爲スヘキ種牡緬羊及種牡山羊竝其ノ種付料ハ主務大臣之ヲ定ム

種付料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●種豚種付料ニ關スル件（明治三十九年十二月二十五日勅令第三百十七號）

朕種豚種付料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（農商務大臣副署）

【種牛】牧場ノ保管ニ屬スル種豚ノ種付ヲ受クル者ハ種付料ヲ納付スヘシ

種付料ヲ納付スヘキ種豚及其ノ種付料ハ主務大臣之ヲ定ム

種付料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●種牡牛貸付規則（大正十四年六月十三日農林省令第十六號）

種牡牛貸付規則左ノ通定ム

種牡牛貸付規則

第一條 畜產試驗場長ハ牛ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲本則ニ依リ其ノ保管スル種牡牛ヲ道府縣又ハ畜產組合若ハ畜產組合聯合會ニ無償貸付スルコトヲ得

第二條 種牡牛ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ樣式第一號ニ依ル貸付願ニ左ノ書類ヲ添附シ畜產試驗場長ニ差出スヘシ

一 貸付種牡牛飼養管理ノ方法、設備及支出豫算ヲ記載シタル書類

二 貸付種牡牛ニ配スヘキ牝牛ノ資格標準及檢査方法竝種付料ヲ徵收セムトスル場合ニ於テハ其ノ金額及徵收方法ニ關スル規程

第三條 種牡牛ノ貸付期間ハ四年以內トス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

繼續貸付ヲ受ケムトスル者ハ期間滿了ノ日ヨリ二月前畜產試驗場長ニ出願スヘシ

第四條 貸付種牡牛ノ受領又ハ返納ハ畜產試驗場長ノ指定スル期日及場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第五條 貸付種牡牛飼養管理ノ場所若ハ設備、飼養管理人又ハ第二條第二號ノ規程ヲ變更セムトスルトキハ畜產試驗場長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 借受人ハ種付臺帳ヲ設ヘ貸付種牡牛ニ配シタル牝牛ノ種類、名號、血統、生年月、毛色、體高、產地、特徵、種付ノ年月日及受胎ノ有無竝所有者又ハ管理人ノ住所氏名ヲ記入スヘシ

第七條 借受人ハ貸付種牡牛ノ前年ニ於ケル種付成績ヲ樣式第二號ニ依リ每年一月三十一日迄ニ畜產試驗場長ニ報告スヘシ

借受人貸付種牡牛ヲ返納シ又ハ其ノ讓與ヲ受ケタルトキハ一年以內ニ前項ノ報告ヲ爲スヘシ

第八條 貸付種牡牛ニ付盜難、失踪、疾病、斃死其ノ他重大ナル事故アリタルトキハ借受人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ畜產試驗場長ニ屆出ツヘシ但シ斃死ノ場合ニ在リテハ獸醫ノ檢案書ヲ添附スヘシ

第九條 貸付種牡牛ニ配シタル牝牛ノ所有者又ハ管理人ノ請求アリタルトキハ借受人ハ種付證又ハ產犢ノ血統證ヲ交付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル血統證ハ產犢檢査ヲ爲シ正當ト認メタル場合ニ之ヲ交付スヘシ

第十條 畜產試驗場長ハ貸付種牡牛、其ノ飼養管理ノ狀況及種付臺帳ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條 畜產試驗場長ハ借受人ニ對シ貸付

種牡牛ノ種付、飼養管理其ノ他ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ命スルコトヲ得

第十二條　借受人第十條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ前條ノ命令ニ違反シタルトキハ畜産試驗場長ハ貸付種牡牛ノ返納ヲ命スルコトヲ得

第十三條　繼續シテ四年以上種牡牛ヲ借受ケ其ノ成績良好ナリト認ムルトキハ畜産試驗場長ハ借受人ニ其ノ種牡牛ヲ讓與スルコトヲ得

第十四條　本則ニ依リ畜産組合又ハ畜産組合聯合會ヨリ畜産試驗場長ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

種牡牛貸付規程ハ之ヲ廢止ス

種牡牛貸付規程ニ依リ現ニ種牡牛ノ貸付ヲ受クル者ハ第十三條ノ規定ニ依リ其ノ種牡牛ノ讓與ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ本令公布ノ日迄其ノ繼續飼養管理シタル期間ハ第十三條ノ期間ニ之ヲ通算ス

様式

第一號

種牡牛貸付願

一　何種　何頭
一　何種　何頭

右貸付相成度左記事項ヲ具シ此段相願候也

年　月　日

住所
借受人　名稱
右代表者　氏　名印

畜産試驗場長宛

記

一　借受期間
二　飼養管理ノ場所
三　飼養管理人ノ住所氏名
四　種牡牛ニ配スヘキ一年間ニ於ケル牝牛ノ種類別見込頭數
五　種付ヲ行フ場所

第二號

貸付種牡牛種付成績表（大正　年分）

種牡牛ノ種類　名　號　飼養管理人　住所　氏名

配合牝牛		種付回數	受胎頭數	産犢頭數						備考
種類	頭數			前年ノ種付ニ因ルモノ		其ノ年ノ種付ニ因ルモノ		計		
				牡	牝	牡	牝	牡	牝	

注意

備考欄ニハ前年産犢ノ價格（最高、最低、平均價格）其ノ他特記スヘキ事項ヲ記載スヘシ

●種緬羊貸付規則

（大正七年四月二十日農商務省令第十二號）

種緬羊貸付規則左ノ通相定ム

種緬羊貸付規則

第一條　種羊場長ハ緬羊ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲本則ニ依リ其ノ保管ニ屬スル種牡緬羊ヲ左ニ掲クル者ニ無償貸付スルコトヲ得

一　種牝緬羊五頭以上ヲ所有スル者
二　二人以上ノ者ニシテ種牝緬羊ノ總數五頭以上ヲ所有シ共同シテ貸付ヲ受ケムトスル者
三　畜産組合又ハ畜産組合聯合會
四　農會
五　道府縣又ハ郡
六　農商務大臣ニ於テ適當ト認メタル者

前項ノ貸付ヲ爲スヘキ種牡緬羊ノ種類ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第二條　前條ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ヲ經テ毎年三月末日迄ニ第一號様式ニ依ル貸付願ヲ種羊場長ニ差出スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ期限經過後ニ於テモ貸付ヲ願出ツルコトヲ得

第三條　種牡緬羊貸付ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二號様式ニ依ル借受證ヲ種羊場長ニ差出シ種牡緬羊ヲ受領スヘシ

第四條　種牡緬羊ノ貸付期間ハ三年以内トス

貸付期間滿了後繼續シテ貸付ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ヲ經テ期間滿了ノ日ヨリ二月前ニ繼續貸付願ヲ種羊場長ニ差出スヘシ

第五條　貸付種牡緬羊ヨリ生スル果實ハ借受人ノ所得トス

第六條　借受人ハ種羊場長ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外貸付種牡緬羊ヲ他人ニ貸付スルコトヲ得ス

第七條　貸付種牡緬羊ノ受領又ハ返納ハ種羊場長ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第八條　貸付種牡緬羊ノ借受、返納及飼養管理ニ關スル一切ノ費用ハ借受人ノ負擔トス

第九條　貸付種牡緬羊ニ付失踪、盜難、疾病、斃死其ノ他重大ナル事故アリタルトキ又ハ其ノ飼養ノ場所ヲ變更シタルトキハ借受人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ種羊場長ニ屆出ツヘシ

但シ斃死ノ場合ニ於テハ獸醫ノ檢案書ヲ添附スヘシ

借受人死亡シタルトキハ相續人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ種羊場長ニ屆出ツヘシ

第十條　借受人故意又ハ重大ナル過失ニ因リ貸付種牡緬羊ニ損害ヲ與ヘタルトキハ種羊場長ハ借受人ヲシテ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

二人以上共同シテ借受ヲ爲シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル義務ハ之ヲ連帶トス

第十一條　借受人ハ貸付種牡緬羊ヲ配シタル種牝緬羊ノ五月末日迄ノ蕃殖成績ヲ第三號様式ニ依リ毎年六月末日迄ニ種羊場長ニ報告スヘシ貸付種牡緬羊ヲ返納シタル後ニ於ケル其ノ種牡緬羊ヲ配シタル蕃殖成績ニ付亦同シ

第十二條　農商務大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ借受人ニ就キ貸付種牡緬羊及之ニ配スヘキ種牝緬羊竝其ノ仔羊ノ飼養管理ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十三條　農商務大臣又ハ種羊場長必要ト認ムルトキハ借受人ニ對シ貸付種牡緬羊及之ヲ配スヘキ種牝緬羊竝其ノ仔羊ノ飼養管理ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十四條　繼續シテ三年以上貸付種牡緬羊ヲ飼養管理シ其ノ成績善良ナルトキハ種羊場長ハ借受人ニ對シ無償ニテ其ノ種牡緬羊ヲ付與スルコトヲ得

相續人カ引續キ借受ケタルトキハ其ノ借受ケタル期間ニ被相續人ノ借受ケタル期間ヲ通算シテ前項ノ期間ヲ定ム

第十五條　借受人本則ノ規定又ハ第十三條ノ命令ニ違反シ若ハ第十二條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ貸付種牡緬羊ノ飼養管理ヲ怠リタルトキハ種羊場長ハ種牡緬羊ノ返納ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條　二人以上共同シテ借受ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ代表者ヲ定メ之ヲ種羊場長ニ屆出ツヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條中三月末日トアルハ大正七年ニ限リ六月末日トス

第一號様式

種牡緬羊貸付願

一　何種　何頭
一　何種　何頭

右貸付御許可相成度此段相願候也

年　月　日

住所
借受人　氏　名印

種羊場長宛

記

一　借受期間　自何年何月至何年何月
二　借受種牡緬羊飼養ノ場所　何府縣何郡市何町村大字何字何
三　所有種牝緬羊ノ種類別頭數　何種　何頭
四　種付ヲ行ハムトスル種牝緬羊ノ種類別見込頭數
　自己ノ所有ニ屬スルモノ　何種　何頭
　他人ノ所有ニ屬スルモノ　何種　何頭

備考　第三號ノ事項ニ付テハ市町村長ノ證明ヲ要ス

第二號様式

收入印紙

種牡緬羊借受證

一　種類　記號　何年何月生　評價價格
　何種　何號　年　月生　何圓
　、、　、、　、、　、、
一　借受期間　自何年何月何日至何年何月何日

右貸付御許可相成受領候ニ付テハ種牡緬羊貸付規則ヲ遵守可致仍テ借受證如斯候也

年　月　日

住所
借受人　氏　名印

種羊場長宛

第三號様式

借受種牡緬羊蕃殖成績表

借受種牡緬羊				貸付種牡緬羊ヲ配シタル種牝緬羊		受胎	流産	死産	生産頭數					生産
種類	記號	生年月	借受年月日	種類	頭數	頭數	頭數	頭數	生後一月以内ニ斃死シタル仔羊頭數		生後一月以上生存シタル仔羊頭數		合計	率
									牝	牡	牝	牡		
何種	何號	何年何月	何年何月何日	（何種 、、	（何頭 、、	（何頭 、、	（何頭 、、	（何頭 、、	（何頭 、、	（何頭 、、	（何頭 、、	（何頭 、、	（何頭 、、	何割何分
摘要														

備考
一　生後一月以内ニ斃死シタルモノニ付テハ斃死ノ原因ヲ摘要欄ニ記載スヘシ
二　生産率欄ニハ配シタル種牝緬羊ノ頭數ニ對スル生産頭數ノ割合ヲ示スヘシ

●種牡牛、種牡馬及種緬羊竝種緬羊ノ果實讓與ノ件

（大正十四年一月十二日勅令第一號）

朕種牡牛、種牡馬及種緬羊竝種緬羊ノ果實讓與ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務、大藏大臣副署）

種牡牛、種牡馬若ハ種緬羊ノ無償貸付ヲ受ケタル者又ハ種緬羊ノ飼育ノ委託ヲ受ケタル者農商務大臣ノ定ムル期間其ノ定ムル條件ニ從ヒ種牡牛、種牡馬又ハ種緬羊ヲ飼育管理シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ者ニ對シ之ヲ讓與スルコトヲ得

農商務大臣ハ飼育ノ委託ヲ爲シタル種緬羊ノ果實ヲ其ノ委託ヲ受ケタル者ニ對シ條件ヲ附シ讓與スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年勅令第二百三十三號ハ之ヲ廢止ス

●種畜拂下規則

（大正七年十月十一日農商務省令第三十九號　改正　大正一三年第二五號）

種畜拂下規則左ノ通定ム

種畜拂下規則

第一條　本則ニ於テ種畜ト稱スルハ種牛、種豚及種緬羊ヲ謂フ

第二條　種畜ノ種類及拂下場所ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第三條　種豚ハ道廳府縣種畜場、府縣立農事試驗場又ハ道府縣農會ニ、種緬羊ハ農商務大臣ノ指定スル道府縣ノ同一市町村又ハ之ニ準スヘキモノノ區域ニ於テ各別ニ緬羊ヲ飼育セムトスル者五人以上ニテ出願アリタル場合ニ其ノ拂下ヲ爲スモノトス

畜産試驗場長又ハ種羊場長必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ラス種豚又ハ種緬羊ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

第四條　種畜ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ種牛又ハ種豚ニ在リテハ隨時畜産試驗場長ニ、種緬羊ニ在リテハ四月一日ヨリ六月末日迄ニ種羊場長ニ別記様式ニ依リ拂下願書ヲ提出スヘシ

第五條　前條ノ出願アリタルトキハ畜産試驗場長又ハ種羊場長ハ左記各號ノ事項ヲ定メ之ヲ出願人ニ通知スヘシ

一　拂下クヘキ種畜ノ種類、性、生年月日及頭數
二　拂下代價及代金納付ノ期限
三　種畜引渡ノ期限及場所
四　拂下ヲ受クルヤ否ヲ申出ツヘキ期限

出願人前項第四號ノ期限迄ニ拂下ヲ受クヘキ旨ヲ申出テサルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ

畜産試驗場長又ハ種羊場長ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ拂受人ニ通知シテ引渡ノ期限又ハ場所ヲ變更スルコトヲ得

第六條　拂受人種畜ノ引渡ヲ受ケムトスルトキハ畜産試驗場長又ハ種羊場長ニ代金納付ノ證書ヲ呈示スヘシ

拂受人前項ノ證書ヲ呈示セサル場合ト雖畜産試驗場長又ハ種羊場長ニ於テ拂下代金ヲ納付シタルモノト認ムルトキハ拂下ケタル種畜ノ引渡ヲ爲スコトヲ得

第七條　拂受人引渡ノ期限經過後一週間内ニ拂下ケタル種畜ノ引渡ヲ請求セサルトキハ[illegible]

第八條　拂下ケタル種畜ニシテ斃死、疾病其[illegible]

第九條　畜産試驗場長又ハ種羊場長拂受人ノ請求ニ依リ拂下ケタル種畜ヲ運送取扱人又ハ運送人ニ引渡シタルトキハ其ノ引渡ノ時[illegible]

ニ於テ引渡ヲ了シタルモノトス

第十條　畜產試驗場長又ハ種羊場長ハ拂受人ノ請求アリタルトキハ種畜引渡ノ際其ノ血統證ヲ交付スヘシ但シ畜籍謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

拂受ケタル種畜ニシテ喪失若ハ斃死シタルトキ又ハ之ヲ撲殺若ハ屠殺シタルトキハ拂受人ハ三十日內ニ拂下ヲ受ケタル畜產試驗場長又ハ種羊場長ニ其ノ旨ヲ届出テ且其ノ血統證又ハ畜籍謄本ヲ返納スヘシ

第十一條　種牛又ハ種豚拂受人ハ毎年一月末日迄ニ前年ニ於ケル其ノ飼育及蕃殖ノ成績ヲ、種緬羊拂受人ハ毎年九月末日迄ニ前年九月一日ヨリ其ノ年八月末日迄ニ於ケル其ノ飼育及蕃殖ノ成績ヲ拂下ヲ受ケタル畜產試驗場長又ハ種羊場長ニ届出ツヘシ

第十二條　數人共同シテ種畜ノ拂受ヲ爲サムトスルトキハ代表者ヲ定メ之ヲ畜產試驗場長又ハ種羊場長ニ届出ツヘシ

附　則

第一條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

種畜牧場種畜拂下規程ハ之ヲ廢止ス

第二條　第四條中六月末日迄トアルハ大正七年ニ限リ十月末日迄トス

第三條　種畜牧場種畜拂下規程ニ依リ拂下ヲ受ケ又ハ拂下ノ許可ヲ受ケタル者ハ本則ニ依リ拂下ヲ受ケタル者ト看做ス

種畜牧場種畜拂下規程ニ依リ現ニ種畜ノ拂下ヲ出願シタル者ハ本則ノ規定ニ牴觸セサル限リ本則ニ依リ出願シタル者ト看做ス

（別記様式）

種牛（豚）（緬羊）拂下願

一何種　牡（牝）牛（豚）（緬羊）　頭
一同　同　頭

右御拂下相成度種畜拂下規則ニ依リ此段相願候也

住所　職業
年　月　日　氏　名㊞

畜產試驗場長（何種羊場長）宛

（大正十三年十二月二日農商務省告示第二百六十二號）

種畜拂下規則ニ依リ種畜ノ種類及拂下場所左ノ通定メ大正十三年十二月十五日ヨリ之ヲ施行シ大正七年十月農商務省告示第三百二十七號ハ之ヲ廢止ス

一、畜產試驗場
種牛　エーアシャー種　ホルスタイン種
種豚　バークシャー種　ヨークシャー種
一、種羊場
種牝緬羊　ランブーイエ・メリノ種　シュロップシャー種　サウスダウン種　ロムニーマーシュ種　リンコルン種　濠洲メリノ種　コリデール種　雜種

●種狐拂下規程

（大正九年五月十五日農商務省告示第百十七號）

種狐拂下ニ關スル規程左ノ通定ム

種狐拂下規程

第一條　種狐ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ拂下願書ニ拂下ヲ受ケムトスル種狐ノ種類、性、頭數及拂下代金ヲ記載シ履歷書及事業計畫書ヲ添附シ前年九月十五日迄ニ農商務省ニ提出スヘシ但シ本年ニ限リ六月十五日迄ニ提出スヘシ

法人ニ在リテハ前項ノ拂下願書ニ定款、收支豫算書、財產目錄及事業計畫書ヲ添附スヘシ

第二條　農商務省ハ前條ノ出願ニ對シ拂下ノ必要アリト認メタル場合ニハ左記各號ノ事項ヲ定メ之ヲ出願人ニ通知スヘシ

一　拂下クヘキ種狐ノ種類、性、年齡及頭數
二　拂下代金及代金納付ノ期限
三　種狐引渡ノ期限及場所
四　其ノ他拂下ニ關スル條件
五　拂下ヲ受クルヤ否ヤヲ申出ツヘキ期限

第三條　出願人前條第五號ノ期限ニ拂下ヲ受クヘキ旨ヲ申出テサルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ

●種禽種卵拂下規程

（大正二年三月七日農商務省令第一號　改正　大正二年第一〇號）

種禽種卵拂下規程ヲ左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

種禽種卵拂下規程

第一條　種禽又ハ種卵ヲ拂受ケムトスル者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ種畜牧場長ニ出願スヘシ

第二條　拂下クヘキ種禽及種卵ノ種類竝其ノ代金ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第三條　拂下クヘキ種禽及種卵ハ一回ニ付各一種類トシ種禽ニ在リテハ五羽以內種卵ニ在リテハ十箇トス

種畜牧場長ハ政府ノ設立シタル學校及農事試驗場、道廳、府縣、郡、市町村又ハ之ニ準スヘキモノ又ハ其ノ設立シタル學校、農事試驗場、農事講習所、種畜場及農會又ハ產業組合中央會ノ出願其ノ他公益事業ノ爲必要ナリト認メタル出願ニ對シテハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四條　種畜牧場長出願ヲ許可シタルトキハ種禽又ハ種卵ノ種類、數量、代金及其ノ納付期限ヲ指定シ之ヲ出願者ニ通知スヘシ

出願者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ代金納付期限迄ニ拂下代金ニ相當スル收入印紙ヲ受領書ニ貼付シ消印ヲ爲サスシテ之ヲ納付シ種禽又ハ種卵ノ引渡ヲ受クヘシ

種畜牧場長受領書ヲ收受シタルトキハ之ヲ調査シ種禽又ハ種卵ノ引渡ト同時ニ受領書ノ紙面ト貼付印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ

第五條　拂受人種禽又ハ種卵ノ輸送ヲ受ケムトスルトキハ其ノ託送ヲ請求スルコトヲ得

前項輸送ニ要スル荷造費及運搬費ハ拂受人ノ負擔トシ輸送ヲ引受ケタル者ニ之ヲ支拂フヘシ

輸送ヲ引受ケタル者ニ種禽又ハ種卵ノ交付ヲ爲シタルトキハ其ノ引渡ヲ了シタルモノトス

第六條　拂受人ニシテ納付期限迄ニ拂下代金ヲ納付セス又ハ拂下代金ヲ納付シタル後三箇月ヲ經過シテ尙其ノ引渡ヲ受ケサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條　拂受人拂下ノ出願ヲ爲シタル後一箇年以內ニ許可ノ通知ヲ受ケサルトキハ其ノ出願ハ效力ヲ失フ

第八條　拂受人種禽又ハ種卵ノ引渡ヲ受ケタル後ハ如何ナル事由アルモ代金ノ返還又ハ減額、代物ノ交付若ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

附　則

本規程施行以前ニ受理シタル出願ニ付テハ數量及代金ニ限リ仍從前ノ規程ヲ適用ス

（大正二年三月七日農商務省告示第七十四號　改正　大正二年第二五九號、一〇年第三一號、一三年第三號）

種禽種卵拂下ニ關スル件左ノ通相定ム

一　種禽種卵拂下規程第一條ニ依ル出願ハ月寒種畜牧場澁谷分場長ニ之ヲ爲スヘシ

二　種禽ハ當分ノ內政府ノ設立シタル學校及農事試驗場、道廳、府縣又ハ其ノ設立シタル農學校若ハ農科ノ設ケアル學校、農事試驗場、農事講習所、種畜場及農會又ハ產業組合中央會ノ出願其ノ他公益事業ノ爲必要ナリト認メタル出願ニ限リ之ヲ拂下ク

三　拂下ヘクキ種禽及種卵ノ種類竝其ノ代金左ノ如シ

種類
一單冠褐色レグホーン種
一單冠白色レグホーン種
一黑色ミノルカ種
一アンダルシアン種
一黑色ハムバーグ種
一漣斑プリマスロック種
一白色プリマスロック種
一白色ワイヤンドット種

一黑色オーピントン種
一バフ色オーピントン種
一ラングシャン種
一淡色ブラマ種
一名古屋種
一單冠ロードアイランドレッド種

代金
一種禽　一羽ニ付　金三圓乃至七圓
一種卵　一箇ニ付　金二十錢

四　拂下ケタル種禽及種卵ノ引渡ハ月寒種畜牧場澁谷分場ニ於テ之ヲ行フ

明治四十二年農商務省告示第三百十號ハ之ヲ廢止ス

●種禽及種卵ノ拂下代金納付ニ關スル件

（明治三十九年十二月二十五日勅令第三百十六號）

朕種禽及種卵ノ拂下代金納付ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（農商務大臣副署）

【種牛】牧場ノ保管ニ屬スル種禽及種卵ノ拂下代金ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●畜產獎勵規則

（大正八年四月十七日農商務省令第十二號　改正　大正一二年第九號　昭和二年農林省令第三號）

畜產獎勵規則左ノ通定ム

畜產獎勵規則

第一條　農林大臣ハ畜產ノ改良發達ヲ圖ル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ賞金、獎勵金及功勞賞ヲ授與ス

第二條　本則ニ於テ家畜ト稱スルハ種牛、乳牛、肉牛、種馬、種緬羊、肉緬羊、種山羊、種豚及肉豚ヲ謂ヒ家禽ト稱スルハ種鷄、卵鷄及種鶩ヲ謂フ

第三條　賞金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル共進會ニ於テ一等乃至三等ノ褒賞ヲ受ケタル家畜又ハ家禽ノ出品者ニ對シ之ヲ授與ス

一　道府縣聯合共進會
二　道府縣、道府縣農會又ハ畜產組合、畜產組合聯合會其ノ他畜產ノ改良發達ヲ目的トスル團體ノ開設シタル一府縣以上又ハ一支廳管內以上ヲ出品區域トスル共進會

第四條　前條ノ共進會ノ開設者賞金授與ノ申請ヲ爲サムトスルトキハ申請書ニ共進會規則、共進會ノ經費豫算及出品ノ種類別見込點數ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前年度二月末日迄ニ地方長官ヲ經テ農林大臣ニ差出スヘシ

第五條　賞金ヲ授與スヘキ家畜又ハ家禽ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一　種牛及乳牛ニ在リテハ生後十八月以上ニシテ出品者ニ於テ引續キ一年以上所有又ハ管理シ且現ニ所有又ハ管理スルモノ
二　種馬ニ在リテハ年齡明二歲以上明六歲以下ニシテ出品者居住ノ道府縣內ニ生產シタルモノハ出品者ニ於テ引續キ六月以上、出品者居住ノ道府縣外ニ生產シタルモノハ出品者ニ於テ引續キ一年以上所有又ハ管理シ且現ニ所有又ハ管理スルモノ但シ明二歲ノ種馬ニ在リテハ農林大臣特ニ必要ト認ムルモノニ限ル
三　種緬羊、種山羊、種豚及家禽ニ在リテハ生後十月以上ニシテ出品者ニ於テ引續キ六月以上所有又ハ管理シ且現ニ所有又ハ管理スルモノ
四　肉牛、肉緬羊及肉豚ニ在リテハ其ノ年齡ニ拘ラス出品者ニ於テ引續キ三月以上所有又ハ管理シ且現ニ所有又ハ管理スルモノ

第六條　第三條第二號ノ共進會ノ出品者ニ對スル賞金ハ左ノ區別ニ依リ賞牌及綬ヲ添ヘ之ヲ授與ス但シ肉牛、肉緬羊又ハ肉豚ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一等褒賞ヲ受ケタル者	金牌	綬紫白
二等褒賞ヲ受ケタル者	銀牌	綬紅白
三等褒賞ヲ受ケタル者	銅牌	綬綠白

第七條　同一ノ出品ニ付同時ニ第三條ノ褒賞二箇以上ヲ受ケタル場合ニ於テハ優等ナルモノニ、同等ナルトキハ其ノ一方ニ對シ賞金ヲ授與ス

第八條　同一年度內ニ於テ既ニ開設シタル第三條ノ共進會ノ出品區域內ノ者ニシテ其ノ共進會ノ出品ノ範圍ニ屬スル出品ヲ爲シタルトキハ之ニ對シ賞金ヲ授與セス但シ既ニ開設シタル同條第二號ノ共進會ノ出品區域ノ全部又ハ一部カ左ノ各號ノ一ニ該當スル共進會ノ出品區域ノ一部タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　第三條第一號ノ共進會
二　第三條第二號ノ共進會ニシテ四府縣以上又ハ北海道一圓以上ヲ出品區域トスルモノ

第九條　賞金ヲ受ケタル家畜又ハ家禽ヲ更ニ第三條ノ共進會ニ出品シ同一種類ノ出品トシテ前ニ受ケタル褒賞ノ等級ニ達セサル褒賞ヲ受ケタル場合ハ賞金ヲ授與セス但シ同條第二號ノ共進會ニ出品シタル家畜又ハ家禽ヲ同條第一號ノ共進會ニ出品シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條第一號ノ共進會ニ於テ賞金ヲ受ケタル家畜又ハ家禽ヲ同條第二號ノ共進會ニ出品シ同一種類ノ出品トシテ同一等級ノ褒賞ヲ受ケタル場合亦前項ニ同シ

第十條　賞金授與ノ申請ヲ認可シタル共進會ノ審查長ハ農林大臣之ヲ定ム但シ必要ト認ムルトキハ審查官ヲモ定ムルコトアルヘシ

第十一條　獎勵金ハ優良ナル家畜若ハ家禽ヲ生產シタル者又ハ畜產ノ改良ニ功績アリタル家畜若ハ家禽ヲ所有シ又ハ管理スル者ニ對シ之ヲ授與ス

第十二條　功勞賞ハ畜產ノ改良發達ニ關シ功勞アリト認ムル者ニ對シ之ヲ授與ス

第十三條　功勞賞ハ賞金又ハ賞杯トス

地方長官功勞賞ヲ授與スルニ適當ナル者アリト認ムルトキハ其ノ事蹟調查書及履歷書ヲ添ヘ前年度三月末日迄ニ農林大臣ニ申請書ヲ差出スヘシ

第十四條　功勞賞ヲ授與セラルヘキ者授與前死亡シタルトキハ其ノ功勞賞ハ之ヲ其ノ遺族ニ交付ス

附　則

第十五條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

產牛獎勵規程ハ之ヲ廢止ス

第十六條　產牛獎勵規程ニ依リ爲シタル申請ハ本則ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第十七條　產牛獎勵規程ニ依リ賞金ヲ受ケタル者ハ第九條ノ適用ニ付テハ本則ニ依リ賞金ヲ受ケタル者ト看做ス

第十八條　第四條及第十三條中前年度三月末日トアルハ大正八年度ニ限リ大正八年五月末日迄トス

附　則（大正十二年農商務省令第九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

產馬獎勵規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ爲シタル產馬獎勵規程ノ適用ヲ受クヘキ共進會開設ノ申請ハ之ヲ本則第四條ノ規定ニ依ル申請ト看做ス

產馬獎勵規程ニ依リ賞金ヲ受ケタル者ハ第九條ノ規定ノ適用ニ付テハ本則ニ依リ賞金ヲ受ケタル者ト看做ス

大正十二年度ニ限リ種馬ノ授賞ニ付テハ第五條第二號ノ規定ニ定ムル六月以上ノ制限ハ之ヲ適用セス

大正十二年度ニ限リ第三條第二號ノ共進會ニ於テハ明二歲ノ種馬ニ對シテモ賞金ヲ授與スルコトアルヘシ

●種牡牛馬設置獎勵規則

（大正十四年五月十八日農林省令第十五號）

種牡牛馬設置獎勵規則左ノ通定ム

種牡牛馬設置獎勵規則

第一條　農林大臣ハ種牡牛馬ノ設置ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條　獎勵金ハ道府縣、畜產組合又ハ畜產組合聯合會ニ於テ生後滿一年以上三年以下ノ種牡牛又ハ明ケ三歲以上明ケ八歲以下ノ種牡馬ヲ購入スル場合ニ於テ之ヲ交付ス種牡牛馬ニ關スル組合ニ於テ共同種付ノ目的ヲ以テ購入スル場合亦同シ

前項ノ獎勵金ハ種牡牛馬ノ購入價格及輸送費ノ四分ノ一以內トス

第三條　獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ樣式第一號ニ依ル購入豫定書ヲ二月末日迄ニ

農林大臣ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ受ケタル者種牡牛馬ヲ購入シタルトキハ様式第二號ニ依ル奨勵金交付申請書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ道府縣ノ購入シタル種牡牛馬ヲ除クノ外其ノ種付區域ヲ管轄スル地方長官又ハ種馬所長ノ檢査證明書ヲ添附スヘシ

第四條　奨勵金ノ交付ヲ受ケテ購入シタル種牡牛馬ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ購入ノ日ヨリ二年間之ヲ屠殺、讓渡又ハ輸移出スルコトヲ得ス

第五條　奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條ノ規定ニ違反シ又ハ詐欺ノ手段ヲ以テ奨勵金ノ交付ヲ受ケタルトキハ農林大臣ハ奨勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ種牡牛馬購入ノ日ヨリ二年以内ニ於テ種付シタル頭數及其ノ生産頭數ヲ毎年十月三十一日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第七條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ大正十四年度ニ限リ六月三十日迄トス

様式

第一號

種牡牛馬購入豫定書

左記豫定ニ依リ種牡牛(馬)何頭購入致度候ニ付種牡牛馬設置奨勵規則第三條ニ依リ御承認相成度此段相願候也

年　月　日

住所
名稱
右代表者　氏　名　印

農林大臣宛

記

種類	年齢	購入價格	輸送費	購入地	種付場所	種付區域	種付見込頭數	備考
合計								

注意

一　馬ニ在リテハ其ノ役種ヲ種類欄ニ記入スヘシ

二　現ニ種牡馬ヲ供用セルモノニ在リテハ其ノ頭數及次年ニ於テ供用セムトスル頭數ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第二號

奨勵金交付申請書

大正何年何月何日附畜第何號ヲ以テ種牡牛(馬)購入ノ儀承認相成候處左記ノ通購入ヲ了シ候ニ付奨勵金交付相成度別紙檢査證明書相添此段及申請候也

住所
名稱
右代表者　氏　名　印

年　月　日

農林大臣宛

記

名稱	種類	生年月日	産地	毛色	體高	胸圍	管圍	特徴	血統	購入年月日	購入價格	輸送費	購入地	賣渡人ノ住所氏名	種牡馬檢査ニ合格シタルモノニ在リテハ其ノ合格證明書ノ番號及所有者又ハ管理者ノ住所氏名

●緬羊飼育奨勵規則

（大正八年一月四日農商務省令第一號）
（改正　大正八年第三〇號、一一年第一三號、一四年農林省令第二六號）

緬羊飼育奨勵規則左ノ通定ム

緬羊飼育奨勵規則

第一條　農林大臣ハ緬羊ノ飼育ヲ奨勵スル爲毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ニ掲クル者ニ奨勵金ヲ交付ス

一　五人以上ノ者ニシテ同一市町村又ハ之ニ準スヘキモノノ區域ニ於テ各別ニ緬羊ノ飼育ヲ行フ爲種牝緬羊ヲ其ノ生産者ヨリ讓受ケタル者

二　同一市町村又ハ之ニ準スヘキモノノ區域ニ於テ各別ニ緬羊ノ飼育ヲ行フ者五人以上アルトキ其ノ區域ニ於テ緬羊ノ飼育ヲ行フ爲種牝緬羊ヲ其ノ生産者ヨリ讓受ケタル者

三　種緬羊ヲ輸入シテ飼育スル者

農林大臣必要ト認ムルトキハ前項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テ緬羊ノ飼育ヲ行フ者五人ニ達セサルトキ又ハ種牝緬羊ヲ其ノ生産者ニ非サル者ヨリ讓受ケタルトキト雖奨勵金ヲ交付スルコトアルヘシ

第二條　奨勵金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付スルモノトス

一　前條第一項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ讓受ケタル時ニ於テ生後五月以上明ケ五歳以下ノ種牝緬羊ニ付毎一頭五圓

二　前條第一項第三號ノ場合ニ於テハ輸入シタル時ニ於テ生後五月以上明ケ五歳以下ノ種緬羊ニ付支那又ハ西比利亞ヨリ輸入シタルモノハ毎一頭十五圓、濠洲又ハ新西蘭ヨリ輸入シタルモノハ毎一頭四十圓、南北亞米利加ヨリ輸入シタルモノハ毎一頭六十五圓、歐羅巴ヨリ輸入シタルモノハ毎一頭百三十圓

第三條　第一條第一項第一號又ハ第二號ノ奨勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ種牝緬羊ヲ讓受ケタル後一月内ニ第一號様式ニ準シ願書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三條ノ二　第一條第一項第三號ノ奨勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第二號様式ニ準シ輸入豫定書ヲ地方長官ヲ經テ農林大臣ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ受ケタル者種緬羊ヲ輸入シタルトキハ遲滯ナク第二號様式ノ二ニ準シ申告書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

農林大臣ハ輸入種緬羊ヲ檢査シ合格シタルモノニ付奨勵金ヲ交付ス

第四條　奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ奨勵金ノ交付ヲ受ケタル緬羊ヲ屠殺、讓渡又ハ輸移出スルコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第三號様式ニ準シ申請書ヲ差出スヘシ

第五條　農林大臣又ハ地方長官ハ詐欺ノ行爲ヲ以テ奨勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ既ニ交付シタル金額ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

緬羊飼育奨勵金下付願

左記ノ通種牝緬羊ヲ讓受ケ候ニ付テハ緬羊飼育奨勵規則遵守可致候條奨勵金御下付相成度此段相願候也

年　月　日

住所職業
氏　名　㊞

地方長官宛

記

一　讓受ケタル種牝緬羊

種類	生年月	讓受ケタル年月日	讓渡人ノ住所氏名
何種	何年何月	何年何月何日	何縣何（郡市）何（町村）何字何某
、、	、、、、	、、、、、、	、、、、、、、、、、

備考　讓渡人生産者ナルトキハ其ノ旨ヲ讓渡人ノ欄ニ記入スルコトヲ要ス

讓受タル種牝緬羊ニ付テハ讓受地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ緬羊ヲ讓受ケタル旨ノ證明ヲ要ス

第二號様式

種緬羊輸入豫定書

緬羊飼育奨勵規則第一條第一項第三號ノ奨勵金ヲ受クヘキ種緬羊トシテ左記豫定ニ依リ輸入致度候ニ付テハ御承認相成度此段相願候也

年　月　日

住所職業
氏　名　㊞

農林大臣宛

記

種類	性	頭數	購買先	購買價格		輸入港	到著豫定日
				單價	合計		
何種	何	何頭	何國	何圓	何圓	何縣何港	年月日
、、	、	、、	、、	、、	、、	、、、、	、、、
合計	—	何頭	—	—	何圓	—	—

備考　輸入種緬羊ノ蕃殖及飼養管理ニ關スル設備竝飼育ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

第二號様式ノ二

種緬羊輸入申告書

大正何年何月何日種緬羊ノ輸入方御承認相成候處何月何日何頭何府縣何港ニ到著致候ニ付テハ御檢査相成度此段及申告候也

年　月　日

住所
氏　名　㊞

農林大臣宛

第三號様式

緬羊屠殺(讓渡、輸出、移出)許可願

一　何種牝(牡)何年何月何日讓受(輸入)
　　何年何月何日奨勵金受領
　　、、、、、、、、、、
一　屠殺(讓渡、輸出、移出)ヲ要スル事由
　　何
　　何

右ノ通種緬羊ヲ屠殺(讓渡、輸出、移出)致度候ニ付テハ御許可相成度此段相願候也

年　月　日

住所職業
氏　名　㊞

地方長官宛

●養鶏奨勵規則

（昭和二年三月三十日農林省令第五號）

養鶏奨勵規則左ノ通定ム

養鶏奨勵規則

第一條　農林大臣ハ鶏ノ改良增殖ヲ圖リ鶏卵ノ增産ヲ奨勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ奨勵金ヲ交付ス

第二條　奨勵金ハ道府縣、農會、産業組合、産業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ左ニ掲グル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ交付ス

一　養鶏ニ關スル專任技術員ノ設置ニ要スル費用

二　養鶏ニ關スル共進會、競技會、講習會、講話會其ノ他養鶏知識ノ普及向上ニ關スル施設ニ要スル費用

三　鶏ノ飼養、孵卵、育雛、産卵能力ノ檢定又ハ飼料ノ貯藏若ハ調製ニ要スル建物、工作物又ハ器具機械ノ設備ニ要スル費用

第三條　奨勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

一　事業計畫

二　事業ニ關スル收支豫算

前條第三號ノ費用ニ對スル奨勵金ノ交付ヲ受ケムスル者ハ前項ノ書類ノ外設備ノ設計書ヲ添附スベシ

前二項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第四條　第二條第三號ノ費用ニ對スル奨勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者奨勵金ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ設備完了後請求書ニ精算書ヲ添ヘ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

第五條　奨勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者第三條第一項及第二項ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條　第二條第一號又ハ第二號ノ費用ニ對スル奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業成績及收支決算ヲ翌年七月三十一日迄ニ農林大臣ニ報告スベシ

第二條第三號ノ費用ニ對スル奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三年間毎年度ノ事業成績ヲ其ノ年度終了後二月内ニ農林大臣ニ報告スベシ

第七條　第二條第三號ノ費用ニ對スル奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年間農林大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ奨勵金ノ交付ヲ受ケテ爲シタル設備ヲ讓渡シ又ハ其ノ用途ヲ變更スルコトヲ得ズ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ奨勵金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル奨勵金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二　奨勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四　支出額ガ豫算額ニ達セザルトキ

第九條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ昭和二年度ニ限リ六月三十日迄トス

●乳肉卵共同處理奨勵規則

（大正十五年五月七日農林省令第七號）

乳肉卵共同處理奨勵規則左ノ通定ム

乳肉卵共同處理奨勵規則

第一條　農林大臣ハ牛乳、肉類及鶏卵ノ共同處理ヲ奨勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ奨勵金ヲ交付ス

第二條　奨勵金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其ノ設備ヲ爲ス者ニ對シ其ノ費用ノ二分ノ一以内ヲ交付ス設備ノ改造又ハ擴張ニ付農林大臣特別ノ必要アリト認ムルトキ亦同シ

一　畜産組合、畜産組合聯合會、産業組合、産業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ於テ牛乳ノ搾取、檢査、淨化、冷却、殺菌、貯藏、包裝又ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

二　畜産組合、畜産組合聯合會、農會、産業組合、産業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ於テ肉類若ハ鶏卵ノ加工又ハ之ニ伴フ檢査、選別、貯藏、包裝又ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

三　農會、産業組合、産業組合聯合會又ハ十人以上ヲ以テ組織スル養鶏[illegible]組合ニ於テ鶏卵ノ檢査、選別、貯藏、包裝又ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

第三條　奨勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ二月末日迄ニ農林大臣ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　事業計畫書

二　設備要領書

三　設備費豫算書

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第一項各號ニ掲クル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘムトスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第四條　奨勵金交付ノ承認ヲ受ケタル者設備ヲ了シタルトキハ奨勵金交付申請書ニ設備費ノ精算書ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第五條　奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三年間毎年ノ事業成績ヲ翌年二月末日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第六條　獎勵金ノ交付ヲ受ケテ爲シタル設備ハ其ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年間農林大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ其ノ用途ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ
二　獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

第八條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鷄卵共同處理獎勵規則ハ之ヲ廢止ス

鷄卵共同處理獎勵規則ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前鷄卵共同處理獎勵規則ニ依リ爲シタル申請ハ本則ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條中二月末日迄トアルハ第二條第一號及第二號ノ設備ニ對スル獎勵金ノ申請ニ付テハ大正十五年度ニ限リ大正十五年六月三十日迄トス

●畜産物販賣斡旋及受託販賣獎勵規則

（大正十五年五月七日 農林省令第八號）

畜産物販賣斡旋及受託販賣獎勵規則左ノ通定ム

畜産物販賣斡旋及受託販賣獎勵規則

第一條　農林大臣ハ畜産物ノ販賣斡旋及受託販賣ニ關スル事業ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條　獎勵金ハ畜産組合聯合會若ハ之ニ準スヘキ畜産組合、産業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル組合畜産物ノ販賣斡旋及受託販賣ニ關スル事業ヲ行フ場合ニ於テ左ニ掲クル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以內ヲ交付ス

一　事業ニ從事スル專任職員ノ俸給及旅費
二　事業ニ要スル事務費

前項ノ規定ハ道府縣農會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人畜産物ノ販賣斡旋ニ關スル事業ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第三條　獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一　事業計畫
二　事業ニ關スル收支豫算

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條ノ書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨農林大臣ニ報告スヘシ

第五條　獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業成績及收支決算ヲ翌年度四月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第六條　獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ獎勵金ノ全部ヲ當該年度內ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ要スル費用ニ對シ支出スル義務アルモノトス

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ
二　獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

第八條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ大正十五年度ニ限リ大正十五年六月三十日迄トス

●道廳府縣種畜場規程

（明治三十五年四月三十日 農商務省令第六號 改正 明治四二年第七號 大正元年第一三號、八年第一四號、九年第一六號、一三年第三號）

道廳府縣種畜場規程左ノ通相定ム

道廳府縣種畜場規程

第一條　本規程ニ於テ道廳府縣種畜場ト稱スルハ北海道地方費又ハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル種畜場ヲ謂フ

第一條ノ二　道廳府縣種畜場ノ産業職員左ノ如シ

場長
技師
技手
主事補

北海道廳種畜場ニ在リテハ事務ノ都合ニ依リ主事ヲ置クコトヲ得

場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二條　道廳府縣種畜場ハ畜産ノ改良發達ヲ圖ル爲左ノ業務ヲ行フモノトス

一　種畜、種禽及種蜂ノ蕃殖竝育成
二　種畜、種禽、種蜂及種卵ノ配付竝種畜ノ種付
三　畜産ニ關スル講習、講話、實地指導、傳習及質問應答

第三條　道廳府縣種畜場ハ畜産ニ關スル試驗、調査又ハ家畜、家禽及蜜蜂ノ衛生ニ關スル事項其ノ他畜産ノ改良發達ニ必要ナル業務ヲ行フコトヲ得

第四條　道廳府縣種畜場ハ農商務大臣ノ指定シタル事項ニ付キ試驗又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　道廳府縣種畜場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一　名稱及位置
二　業務ノ項目
三　用地ノ種類、面積及平面圖
四　建物ノ種類、坪數、配置圖及平面圖
五　職員ノ職名、其ノ員數及俸給額
六　收支豫算書

第六條　前條各號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月末日現在ヲ翌月末日迄ニ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第七條　道廳府縣種畜場前年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ毎會計年度後二箇月內ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

道廳府縣種畜場ノ業務ニ關スル報告書ハ之ヲ發行スル毎ニ地方長官ヨリ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第八條　道廳府縣種畜場又ハ其ノ分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

第九條　本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　本規程施行前ニ設立シタル道廳府縣種畜場ニ付テハ地方長官ハ施行ノ日ヨリ一箇月內ニ第五條ニ掲ケタル事項ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

●道廳府縣種畜場補助金交付規則

（大正八年四月二十六日 農商務省令第十五號）

道廳府縣種畜場補助金交付規則左ノ通定ム

道廳府縣種畜場補助金交付規則

第一條　農商務大臣ハ畜産ノ改良增殖ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ左ニ掲クル道廳府縣種畜場ノ費用ニ對シ道廳府縣ニ之ヲ交付ス

一　家畜、家禽若ハ蜜蜂ノ蕃殖、育成又ハ種畜、種禽、種蜂若ハ種卵ノ配布ニ要スル費用
二　畜産ニ關スル講習、講話、實地指導又ハ傳習ニ要スル費用
三　畜産ニ關スル試驗又ハ調査ニ要スル費用
四　專ラ畜産ノ改良增殖獎勵ノ業務ニ從事スル技術員ノ俸給

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル道廳府縣ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前年度二月末日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

一　補助金ノ交付ヲ受クヘキ事業ノ計畫
二　補助金ノ交付ヲ受クヘキ事業ノ收支豫算
三　補助金ノ交付ヲ受クヘキ技術員ノ擔當スル業務

第四條　前條ニ掲クル事項ニ變更アリタルトキハ道廳府縣ハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第五條　補助金ノ交付ヲ受ケタル道廳府縣ハ其ノ種畜場ノ事業成績及收支決算ヲ翌年度八月末日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條　補助金ノ交付ヲ受ケタル道廳府縣種畜場ノ費用ノ支出額カ第三條ニ依リ申請書類ニ記載シタル豫算額ニ達セサルトキ又ハ事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキハ農商務大臣ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　馬及緬羊ニ關スル費用ニ對シテハ本則ニ依ル補助金ヲ交付セス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ大正八年度ニ限リ五月末日迄トス

●畜産試驗場分析及鑑定規則

（大正九年二月二十日 農商務省令第一號）

畜産試驗場分析及鑑定規則左ノ通定ム

第一條　畜産試驗場ニ畜産ニ關スル物料ノ分析又ハ鑑定ヲ依頼セムトスル者ハ附屬様式ニ準シタル依頼書ニ現品ヲ添ヘテ之ヲ差出スヘシ

第二條　分析又ハ鑑定一件毎ニ差出スヘキ現品ノ分量左ノ如シ但シ畜産試驗場長必要ト認ムルトキハ之ヲ增加セシムルコトアルヘシ

飼料	
一　乾草類	百五十匁
二　生草類	五百匁
三　葉菜類	六百匁
四　根菜類	八百匁
五　稿稈類	百五十匁
六　稃皮、麩、糠類	百五十匁
七　穀菽其ノ他ノ子實類	百匁
八　粕類	百匁
九　前各號ニ掲ケサル植物莖葉ノ類（乾燥セルモノ）	百五十匁
十　同上（乾燥セサルモノ）	五百匁
畜産物及畜産物加工品	
一　乳	五合
二　「バター」、煉乳其ノ他乳製品	二罐又ハ一斤（百六十匁）
三　肉類	一斤
四　肉罐詰其ノ他肉製品	二罐又ハ一斤
水	
一　定性分析ヲ要スルトキ	二升
二　定量分析ヲ要スルトキ	五升

廐肥	五百匁

第三條　前條ニ掲ケサル物料ノ分析又ハ鑑定一件毎ニ差出スヘキ現品ノ分量ハ前條ノ規定ニ準シ畜産試驗場長之ヲ指定ス

第四條　分析又ハ鑑定ヲ特ニ時日ヲ限リ急速ニ施行スルコトヲ依頼スル者ハ依頼書ニ其ノ旨ヲ明記スヘシ但シ畜産試驗場ノ都合ニ依リ遲延スルコトアルモ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第五條　畜産試驗場長分析又ハ鑑定ヲ爲スノ必要ナシト認ムルトキハ其ノ依頼ニ應セサルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ現品返還ニ要スル費用ハ依頼者之ヲ負擔スヘシ

第六條　分析又ハ鑑定ノ爲差出シタル現品ノ殘餘ハ之ヲ返還セス

第七條　分析又ハ鑑定ノ成績ハ依頼者ニ之ヲ交付ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（様式略ス）

●畜産試驗場分析及鑑定手數料ノ件

（大正九年二月二十日 勅令第三十一號 改正 大正一一年第二一六號）

朕畜産試驗場分析及鑑定手數料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

第一條　畜産試驗場ニ分析ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　定性分析

畜産物、畜産物加工品又ハ廐肥	毎一件一成分一圓
水	毎一件一成分二圓一成分ヲ增ス毎ニ一圓ヲ加フ
右ニ掲クル物料ノ普通含有セサル成分	毎一件一成分三圓

二　定量分析

飼料又ハ廐肥	毎一件一成分二圓一成分ヲ增ス毎ニ一圓ヲ加フ
畜産物、畜産物加工品又ハ水	毎一件一成分三圓一成分ヲ增ス毎ニ二圓ヲ加フ
右ニ掲クル物料ノ普通含有セサル成分	毎一件一成分十圓

三　前各號ニ掲クルモノノ外畜産ニ關係アル物料ノ分析手數料ノ額ハ前各號ノ規定ニ準シ畜産試驗場長之ヲ定ム

第二條　畜産試驗場ニ鑑定ノ依頼ヲ爲ス者ハ前條ノ規定ニ準シ畜産試驗場長ノ定ムル額ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三條　畜産試驗場ニ分析又ハ鑑定ヲ特ニ日時ヲ限リ施行スルコトヲ依頼スル者ハ前二條ノ規定ニ依ル額ノ三倍ノ手數料ヲ納ムヘシ

第四條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●家畜市場法

（明治四十三年三月十八日 法律第一號 改正 明治四五年第二〇號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル家畜市場法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

家畜市場法

第一條　本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ謂フ

第二條　家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ市場業務規程ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ市場業務規程ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　家畜市場ノ開設許可ノ期間ハ二十年以內ニ於テ地方長官之ヲ定ム但シ期間更新ノ出願ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノ又ハ產牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ市場ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條　市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニ於テ常設家畜市場ヲ開設スルトキハ地方長官ハ其ノ申請ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ經テ必要ト認ムル地區內ニ於ケル私設家畜市場ノ廢止ヲ命スルコトヲ得但シ產牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ市場ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　前條ノ場合ニ於テハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ廢場ヲ命セラレタル私設家畜市場ノ開設者ニ對シ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六條　家畜市場ニ於テハ其ノ場內又ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ニ非サレハ之ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第七條　家畜ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ業トスル者若ハ屠肉販賣ノ目的ヲ以テ家畜ノ買入ヲ爲ス者ハ家畜市場附近ノ區域內ニ於テハ市場開催日及其ノ開催日前後ノ期間中其ノ市場ノ取扱フ家畜ヲ賣買交換スルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ區域及期間ハ地方長官之ヲ指定ス

第八條　常設家畜市場ニ付主務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官ノ指定シタル區域內ニ於テハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ市場ノ取扱フ家畜ニ付市場ヲ開設スルコトヲ得ス

第九條　地方長官必要アリト認ムルトキハ常設家畜市場ニ付其ノ市場ノ取扱フ家畜ニ關シ指定シタル區域內ノ牛馬宿ニ於ケル賣買交換ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十條　前三條ノ區域及期間ノ指定、變更又ハ取消ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十一條　家畜市場開設者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ市場ノ取扱フ家畜ノ賣買交換ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　家畜市場ニ於テ家畜ノ賣買交換ニ關スル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ市場ノ業務規程ヲ知ラサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ其ノ市場業務規程中ニ五十圓以下ノ過怠金ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　家畜市場及其ノ附屬建設物ノ構造、設備、市場ノ取引方法、仲立業者ノ資格其ノ他市場ノ監督及衛生上必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ家畜市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ臨檢シ市場開設者若ハ仲立業者ノ帳簿、書類其ノ他ノ物品ヲ檢査シ又ハ市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ヲ診斷シ又ハ其ノ移動ヲ停止セシムルコトヲ得

第十五條　家畜市場ノ休場又ハ廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

家畜市場開設許可ノ際指定シタル期間內ニ開場セサルトキハ之ヲ休場ト看做ス

第十六條　家畜市場開設者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ開設ノ許可ヲ取消シ又ハ業務ノ停止若ハ制限ヲ命スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官公益上必要アリト認ムルトキハ家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置、構造、設備又ハ市場ノ業務規程ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十七條　許可ヲ受ケスシテ家畜市場ヲ開設シ又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル停止若ハ制限ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第六條、第七條第一項、第十一條、第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者、第九條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十四條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者又ハ臨檢ノ際當該官吏吏員ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　家畜市場開設者又ハ家畜ニ關スル營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　家畜市場開設者又ハ家畜ニ關スル營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條　本法ハ帝室、政府、北海道地方費又ハ府縣ノ行フ家畜ノ賣買交換ニ之ヲ適用セス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前地方長官ノ許可又ハ認可ヲ得タル家畜市場ハ本法施行後三年ヲ限リ本法ニ依リ許可セラレタルモノト看做ス但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ許可又ハ認可ノ期間三年以內ナルトキハ其ノ期間ニ依ル

（明治四十三年勅令第四百四十六號ヲ以テ明治四十四年二月一日ヨリ施行）

●家畜市場法施行規則

（明治四十三年十二月一日農商務省令第二十六號）（改正　大正元年第二三號）

家畜市場法施行規則左ノ通相定ム（陸軍大臣連署）

家畜市場法施行規則

第一條　家畜市場ヲ分テ常設家畜市場、定期家畜市場及臨時家畜市場トス

常設家畜市場トハ毎年百日以上開催スルモノヲ謂ヒ定期家畜市場トハ毎年定期ニ開催シ其ノ開催日數百日ニ達セサルモノヲ謂ヒ臨時家畜市場トハ常設家畜市場及定期家畜市場ニ該當セサルモノヲ謂フ

第二條　常設家畜市場又ハ定期家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ家畜市場開設者ノ履歷書、用地ノ面積、建物ノ名稱、構造設備、坪數ヲ記入シタル圖面及市場附近ノ見取圖ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

一　家畜市場ノ名稱及位置
二　入場家畜見込頭數
三　資本金額及收支計算
四　開設期間

家畜市場開設者カ法人ナルトキハ前項書類ノ外尙其ノ定款及事業報告書ヲ差出スヘシ

第三條　臨時家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ前條第一項第一號、第二號及第四號ヲ記載シタル願書ニ家畜市場開設者ノ履歷書及市場附近ノ見取圖ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三條ノ二　家畜市場開設者ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ開設者及新ニ開設者タラムトスル者ノ連署シタル願書ニ新ニ開設者タラムトスル者ノ履歷書（法人ニ在リテハ其ノ定款及事業報告書）ヲ添ヘ其ノ事由ヲ具シテ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　市場業務規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　事務所ノ位置
二　家畜ノ種類
三　開場ノ日時
四　市場ニ於テ徵收スル料金及其ノ種類竝徵收方法
五　仲立業者ノ手數料
六　取引ノ方法、手續
七　違約者處分ノ方法
八　其ノ他業務執行上必要ナル事項

第五條　家畜市場ノ名稱中ニハ其ノ種別ヲ示スヘキ文字ヲ用フヘシ

家畜市場ニ非スシテ其ノ名稱中ニ家畜市場タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第六條　家畜市場開設者市場管理者ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第七條　家畜市場開設者ハ臺帳ヲ調製シ入場シタル家畜ヲ一頭毎ニ其ノ種類、產地、飼養地、性、毛色、高サ（羊豚ニ在リテハ重量）、年齡及用途ヲ記入スヘシ賣買交換シタル家畜ニ在リテハ尙賣買若ハ交換當事者ノ氏名又ハ名稱及住所竝其ノ家畜ノ價額ヲ記入スヘシ

第八條　常設家畜市場ニ於テ賣買交換シタル家畜及其ノ代金ハ市場業務規程ノ定メタル日ニ於テ家畜市場開設者ヲ經テ之ヲ授受スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ家畜市場開設者ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ賣買若ハ交換當事者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ家畜市場開設者其ノ責ニ任スヘシ

第九條　家畜市場ニ於テハ獸醫ヲシテ市場若ハ其ノ附屬地ニ牽入ルル家畜ノ健康檢査ヲ行ハシムヘシ

常設家畜市場ニ於テハ家畜ノ衞生事務ニ從事セシムル爲獸醫ヲ置クヘシ

第十條　家畜市場法第七條第一項但書ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ定メタル行政廳ニ願出ヘシ

第十一條　家畜市場法第八條ノ規定ニ依ル常設家畜市場ノ區域內ニ於テ開設スルコトヲ得ル市場左ノ如シ

一　品評會、共進會、博覽會又ハ競馬會ノ開設スル臨時家畜市場
二　產牛馬組合法又ハ產業組合法ニ依リ設置シタル組合ノ家畜市場
三　家畜市場法施行前ニ開設ノ許可若ハ認可ヲ得タル家畜市場

第十二條　家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置ハ公衆及家畜衞生上妨ケナキ場所ナルコトヲ要ス

常設家畜市場ニ於テハ檢査所、賣場、繫場、畜舍、隔離所及汚物溜ヲ設ケ其ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

一　檢査所ハ家畜ノ健康檢査及治療ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ
二　賣場ハ屋根ヲ設ケ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料（コンクリート、アスフアルト、漆喰敲等）ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ但シ繫場若ハ畜舍ニ於テ賣買交換スル場合ハ賣場ヲ設ケサルコトヲ得
三　繫場ハ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ
四　畜舍及隔離所ハ石材、煉瓦、厚板又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ其ノ內壁ハ石材、煉瓦、金屬板其ノ他不滲透質ノ材料若ハ厚板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲ爲シ適當ノ塞ヲ設ケ欄房ノ前後ニ各三尺以上ノ通路ヲ附シ欄房ハ牛馬一頭毎ニ犢駒羊豚ハ適宜ニ之ヲ區劃シ尿溜ヲ設クヘシ但シ家畜ヲ宿泊セシメサル市場ニ於テハ畜舍ヲ設ケサルコトヲ得
五　汚物溜及尿溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ造リ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ侵入ヲ防クヘシ

定期家畜市場及臨時家畜市場竝其ノ附屬建設物ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ依リ前項各號ノ規定ヲ斟酌シ地方長官之ヲ定ム

第十三條　家畜市場ノ仲立業者タラムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ家畜市場ノ仲立業者タルコトヲ得ス

一　未成年者
二　一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改悛ノ狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
三　家畜市場法、本則又ハ牛馬商取締規則ノ規定ニ違背シテ處罰ヲ受ケ其ノ情狀重キ者
四　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
五　三箇年以上畜產業又ハ牛馬商ニ從事シタル經驗ナキ者
六　素行不良ニシテ公益ヲ害スル虞アル者

第十四條　仲立業者ハ家畜市場開設者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ市場ニ於テ仲立スルコトヲ得ス

第十五條　仲立業者ハ其ノ業務ヲ行フ家畜市場ニ於テハ自己ノ計算ヲ以テ家畜ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十六條　家畜市場ニ於テハ市場ノ名稱、家畜市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ榜示シ市場業務規程ヲ場內ニ備付ケ且其ノ摘要ヲ場內ニ揭示スヘシ

第十七條　常設家畜市場開設者ハ其ノ市場ニ於テ賣買交換セル家畜ノ頭數、價額及其ノ平均、最高、最低價格ヲ種類、牝牡幼壯別ニ分チ其ノ當日又ハ翌日場內ニ揭示スヘシ

第十八條　地方長官常設家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ許可年月日、許可期間、市場ノ名稱及位置、開設者ノ氏名ヲ記載シタル書面ニ市場業務規程ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ其ノ事項及市場業務規程ニ變更アリタルトキ亦同シ

地方長官定期家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ許可年月日、許可期間、市場ノ名稱及位置、開設者ノ氏名、開場ノ日時、取扱フ家畜ノ種類、料金ノ種類及其ノ金額ヲ、臨時家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ市場ノ名稱及位置、取扱フ家畜ノ種類ヲ各一箇年分取纏メ翌年一月三十一日限リ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ其ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

地方長官常設及定期家畜市場ノ開設許可ヲ取消シ、廢止ヲ認可シ又ハ業務ノ停止若ハ制限ヲ爲シタルトキハ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

第十九條　第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス

第二十條　第七條、第八條第一項、第九條、第十四條、第十五條、第十六條又ハ第十七條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條第一項ニ依リ認可ヲ受ケスシテ家畜市場ノ仲立業ヲ爲シタル者又ハ第十七條ニ揭クル事項ニ付虛僞ノ揭示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

附　則

本則ハ家畜市場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●牛馬商取締規則

（明治四十三年十二月一日農商務省令第二十七號）

牛馬商取締規則左ノ通相定ム（陸軍大臣連署）

牛馬商取締規則

第一條　牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ住所所在地ノ地方長官ニ願出テ牛馬商ノ免許ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ免許ヲ與ヘタルトキハ別記鑑形ノ免許鑑札ヲ下付スヘシ

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ牛馬商ノ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一　一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改悛ノ狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
二　免許ヲ取消サレタル後滿一箇年ヲ經サル者
三　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
四　家畜市場法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シテ處罰ヲ受ケタル後滿一箇年ヲ經サル者
五　素行不良ニシテ公益ヲ害スル虞アル者

第三條　牛馬商ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許ノ效力ヲ失フ

一　一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタルトキ
二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三　家畜市場法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シ處罰ヲ受ケタルトキ

第四條　牛馬商ハ免許鑑札ヲ携帶スヘシ

第五條　牛馬商ハ產牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ定款ノ規定ニ依リ組合市場ニ附スヘキ義務ノ履行ヲ終ラサル組合員ノ犢又ハ駒ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲スコトヲ得ス但シ組合ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　牛馬商ハ帳簿ヲ調製シテ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタル年月日、牛馬ノ別、種類、產地、性、年齡、毛色、代價及賣買若ハ交換當事者ノ住所氏名ヲ記入スヘシ

第七條　牛馬商ハ免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ住所、族籍、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ再渡又ハ書換ヲ地方長官ニ願出ヘシ

牛馬商ハ住所ヲ他ノ道府縣內ニ移轉シタルトキハ當初免許ヲ受ケタル地方長官ニ之ヲ届出テ且住所所在地ノ地方長官ニ免許鑑札ノ書換ヲ願出ヘシ

第八條　牛馬商ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ牛馬商ノ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

一　牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ强請シタルトキ
二　牛又ハ馬ノ種類、產地、血統若ハ年齡ヲ僞リ又ハ疾病惡癖ヲ隱蔽シテ之カ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタルトキ
三　獸疫ノ疑アリ若ハ所有者ノ分明ナラサル牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタルトキ
四　其ノ他營業上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ牛馬商ハ遲滯ナク免許鑑札ヲ返納スヘシ

一　第三條ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ失ヒタルトキ
二　免許ヲ取消サレタルトキ
三　廢業シタルトキ

牛馬商ニシテ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第十條　詐僞ノ所爲ヲ以テ免許ヲ受ケ又ハ免許ヲ受ケスシテ牛馬商ヲ營ミタル者若ハ第八條第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

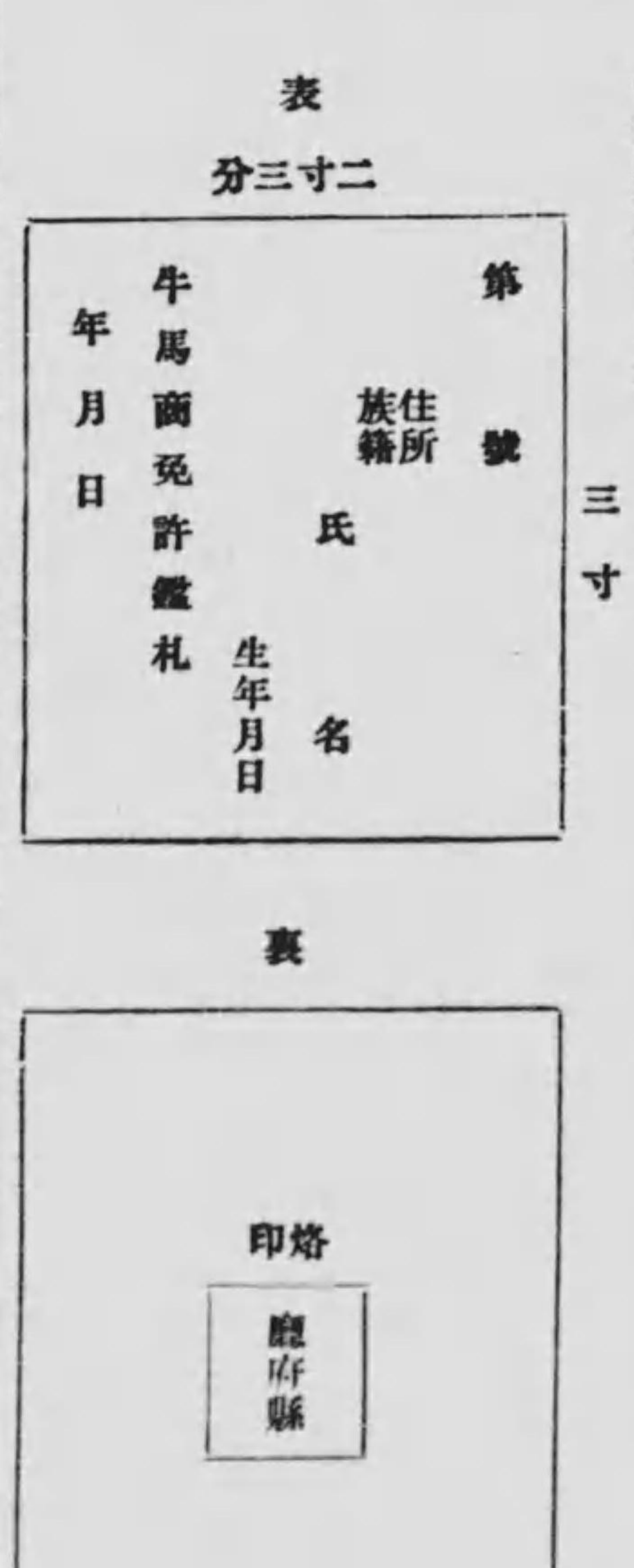
第十一條　第四條、第五條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

牛馬商ニシテ本則施行前地方長官ノ免許ヲ得タル者ハ本則ニ依リ免許セラレタルモノト看做ス

（別記鑑札形）　木製



●保護牛規則

（大正五年七月十日朝鮮總督府令第五十五號）

保護牛規則左ノ通定ム

保護牛規則

第一條　畜牛ヲ改良シ其ノ增殖ヲ圖ル爲地方長官ハ保護牛ヲ設定スヘシ

第二條　地方長官ハ其ノ管內ニ於ケル畜牛ニシテ左記各號ノ資格ヲ具備スルモノニ就キ保護牛ヲ選定スヘシ

一　種類　朝鮮種
二　年齡　牡ハ二歳以上十歳以下、牝ハ二歳以上八歳以下
三　體尺　牡ハ四尺二寸以上、牝ハ四尺以上但シ四歳以下ノモノニ在リテハ五歳迄ニ牡ハ四尺二寸ニ、牝ハ四尺ニ達スル見込アルモノ
四　體格　各部ノ均稱宜シキヲ得テ姿勢正シク且締質堅靭ニシテ歩履確實

ナルモノ

五　體質　強健ニシテ蕃殖能力ニ故障ナキモノ

六　性質　從順ニシテ惡癖ナキモノ

地方長官ハ地方畜牛ノ狀況ニ依リ前項ノ體尺ヲ牡ニ在リテハ四尺、牝ニ在リテハ三尺八寸ト爲スコトヲ得

第三條　保護牛ニ選定セラレタル四歲以上ノ牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ左ノ場合ヲ除クノ外種付ノ請求ヲ受ケタルトキ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一　牡牛ニ疾患アルトキ

二　種付ヲ受ケムトスル牝牛ニ疾患アルトキ

三　一日ノ種付二頭ニ及ヒタルトキ

四　前各號ノ外正當ナル事由アルトキ

第四條　保護牛ニ選定セラレタル牝牛ハ前條ノ牡牛又ハ地方長官ニ於テ種牛ニ指定シタルモノヲ除クノ外交配セシムルコトヲ得ス

第五條　保護牛ニハ左角ニ、角ナキモノニハ前肢左蹄ニ第一號樣式ノ烙印ヲ爲スヘシ

第六條　保護牛ノ所有者ニハ保護料ヲ支給ス

保護料ハ地方費ノ支辨トシ其ノ額及支給ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第七條　保護牛ノ所有者ハ地方長官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ其ノ管理者ヲ變更スルコトヲ得ス

第八條　保護牛ハ之ヲ屠殺スルコトヲ得ス

地方長官ハ保護牛左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ解除スヘシ

一　第二條ノ要件ヲ缺キタルトキ

二　所有者又ハ管理者ヲ不適當ト認メタルトキ

三　保護ノ必要ナシト認メタルトキ

前項ノ解除ヲ爲シタルトキハ第五條ノ烙印ノ側ニ第二號樣式ノ烙印ヲ爲スヘシ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ保護牛ノ所有者ハ十日以內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

一　所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ變更シタルトキ

二　管理者ヲ變更シタルトキ

三　保護牛ヲ讓受ケタルトキ

四　保護牛ノ斃死シ其ノ他亡失シタルトキ

第十條　地方長官ハ保護牛ヲ選定シ、解除シ又ハ前條ノ屆出アリタルトキハ道報又ハ他ノ適當ナル方法ヲ以テ之ヲ公示スヘシ

第十一條　第三條、第四條、第七條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ擅ニ第五條若ハ第八條第二項ノ烙印ヲ抹消シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式省略）

●臺灣總督府中央研究所種畜貸付規則（大正十四年十月二十三日臺灣總督府令第五十九號）

明治四十一年府令第五十七號臺灣總督府種畜貸下規則左ノ通改正ス

臺灣總督府中央研究所種畜貸付規則

第一條　本令ニ於テ種畜ト稱スルハ種牛、種馬及種緬羊ヲ謂フ

第二條　種畜ノ改良蕃殖ヲ計ル爲臺灣總督ハ必要ト認ムル地方ヲ指定シ左ニ揭クル者ニ無償ニテ種畜ノ貸付ヲ爲スコトアルヘシ

一　農會又ハ種畜ノ改良蕃殖ヲ目的トスル團體

二　畜產業ニ關スル經驗アル者

第三條　種畜ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號樣式ニ依リ許可申請書ヲ臺灣總督府中央研究所長（以下單ニ中央研究所長ト稱ス）ニ差出スヘシ

貸付ノ許可ヲ得タル者ハ別記第二號樣式ニ依リ借用證ヲ差出シ種畜ヲ受領スヘシ

前項種畜ノ受授ハ臺灣總督府中央研究所種畜支所ニ於テ之ヲ爲ス但シ必要ノ場合ニ於テハ同支所以外ニ於テ之ヲ爲スコトアルヘシ種畜返納ノ場合亦同シ

第四條　借用人貸付種畜ノ飼養地ヲ定メ又ハ管理人ヲ置キタルトキハ其ノ都度中央研究所長ニ報告スヘシ飼養地ヲ變更シ又ハ管理人ヲ解任シタルトキ亦同シ

第五條　貸付種畜ヨリ生スル果實ハ借用人ノ所得トス

第六條　貸付種畜ノ斃死、撲殺、失踪ノ場合又ハ疾病ニ罹リ使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ其ノ理由ヲ詳具シ遲滯ナク中央研究所長ニ屆出ツヘシ但シ斃死又ハ撲殺ノ場合ニ於テハ獸醫ノ診斷書ヲ添附スルヲ要ス

第七條　借用人ハ貸付種畜ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ遲滯ナク之ニ治療ヲ加ヘ其ノ狀況ヲ中央研究所長ニ屆出ツヘシ

第八條　借用人ハ別記第三號乃至第七號樣式ニ依リ貸付種畜ノ前年ニ於ケル蕃殖狀況、產仔ノ生育狀況及改良ノ成績等ヲ每年一月中ニ中央研究所長ニ報告スヘシ

第九條　種畜ノ貸付期間ハ種牛馬ハ滿十年種緬羊ハ滿五年トス但シ時宜ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第十條　種畜ノ貸付返納ニ要スル費用ハ借用人ノ負擔トス

第十一條　中央研究所長ハ隨時官吏ヲシテ貸付種畜及其ノ產仔ノ狀況ヲ臨檢セシムルコトアルヘシ

借用人ハ前項ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　中央研究所長ハ貸付種畜、其ノ產仔又ハ其ノ管理飼養ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十三條　借用人カ本令ノ規定又ハ前條ニ依リ中央研究所長ノ特ニ發シタル命令ニ違反シタルトキハ中央研究所長ハ借用人ニ對シ貸付種畜ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　借用人カ故意又ハ怠慢ニ因リ貸付種畜ニ損害ヲ與ヘタルトキハ其ノ評定價格ノ全部又ハ一部ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第十五條　種畜ノ貸付ヲ受ケムトスル者又ハ種畜ノ借用人カ中央研究所長ニ差出スヘキ書面ハ所轄州又ハ廳ヲ經由スヘシ

知事又ハ廳長前項ニ依リ許可申請書ヲ受領シタルトキハ其ノ資格ヲ審查シ意見ヲ附シテ中央研究所長ニ送付スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ現在貸付タル種畜ニ之ヲ準用ス

別記

第一號樣式

種畜貸付許可申請書

一　種牛（馬）　牝（牡）　何頭
一　種緬羊　牝（牡）　何頭

右改良蕃殖ノ用ニ供シ度ニ付貸付御許可相成度此段申請候也

大正　年　月　日

住所
氏　名（團體ニ在リテハ其ノ代表者）印

中央研究所長宛

第二號樣式

種畜借用證

一　種牛（馬）　牝（牡）　何頭
一　種緬羊　牝（牡）　何頭

但シ明細表ノ通

右改良蕃殖ノ爲借用候ニ就テハ種畜貸付規則其ノ他御命令ヲ遵守可致萬一違反致候トキハ何時返納ヲ命セラレ候モ異議無之御指定ノ期日及場所ニ牽付返納可仕候也

大正　年　月　日

住所
氏　名（團體ニ在リテハ其ノ代表者）印

中央研究所長宛

第三號樣式

借用種牡牛（馬）蕃殖狀況表（何年分）

借用種牡牛（馬）種類名號	借用年月日	種付頭數	生產				摘要
			牝	牡	計		

備考

一　種付狀況其ノ他種牡牛（馬）ニ關シ必要ナル事項ハ之レヲ摘要欄ニ記載スヘシ

二　種付又ハ生產ニ關スル事項ナキトキハ各相當欄ニ斜線ヲ引キ摘要欄ニ其ノ旨記載スヘシ

第四號樣式

借用種牡牛（馬）何種何號ノ種付ニ依リ生產シタル犢（幼駒）ノ生育狀況表（何年分）

種類	名稱	牝牡ノ區別	毛色	生年月日	種牡牛（馬）ノ種類名號	產地	體格ノ良否、生育ノ狀況		摘要

備考

一　本表ハ種牡牛（馬）一頭每ニ之ヲ作成スヘシ

二　產牛馬改良ノ成績ハ摘要欄ニ記載スヘシ

三　借用種牝牛（馬）ノ種付シテ生產シタルモノニ在リテハ各相當欄ニ之ヲ朱書スヘシ

第五號樣式

借用種牝牛（馬）ノ蕃殖狀況表（何年分）

借用種牝牛（馬）ノ種類名號	借用年月日	種付シタル種牡牛馬ノ種類名號	種付年月日	生產							摘要
				種類	名號	牝牡ノ區別	毛色	產地	體格ノ良否、生育ノ狀況		

備考

一　種付狀況其ノ他種牡牛（馬）ニ關シ必要ナル事項ハ摘要欄ニ之ヲ記載スヘシ

二　官有以外ノ種牡牛（馬）ノ種付ニ因リ生產シタルモノニ在リテハ各相當欄ニ之ヲ朱書スヘシ

三　種付又ハ生產ニ關スル事項ナキトキハ各相當欄ニ斜線ヲ引キ摘要欄ニ其ノ旨記載スヘシ

第六號樣式

借用種牡緬羊蕃殖狀況表（何年分）

借用種牡緬羊ノ種類名號	借用年月日	種付頭數	生產				摘要
			牝	牡	計		

備考

一　種付狀況仔緬羊成育ノ狀況及改良ノ成績其ノ他種牡緬羊ニ關シ必要ナル事項ハ摘要欄ニ之ヲ記載スヘシ

二　種付又ハ生產ニ關スル事項ナキトキハ各相當欄ニ斜線ヲ引キ摘要欄ニ其ノ旨記載スヘシ

第七號樣式

借用種牝緬羊蕃殖狀況表（何年分）

借用種牝緬羊ノ種類名號	借用年月日	種付シタル種牡緬羊ノ種類名號	生產				摘要
			牝	牡	計		

備考

一　種付狀況、仔緬羊成育ノ狀況及改良ノ成績其ノ他種牝緬羊ニ關シ必要ナル事項ハ摘要欄ニ之ヲ記載スヘシ

二　官有以外ノ種牡緬羊ノ種付ニ因リ生產シタルモノニ在リテハ各相當欄ニ之ヲ朱書スヘシ

三　種付又ハ生產ニ關スル事項ナキトキハ各相當欄ニ其ノ旨記載スヘシ

右及報告候也

年　月　日

住所
氏　名（團體ニ在テハ其ノ代表者）印

●臺灣總督府殖產局附屬種畜場種付規程（明治四十二年九月四日臺灣總督府告示第百二十二號　改正　大正八年第一二〇號）

臺灣總督府殖產局附屬種畜場種付規程左ノ通相定ム

臺灣總督府殖產局附屬種畜場種付規程

第一條　本場ハ當分ノ內其ノ所屬種牡牛ノ餘勢アル場合ニ限リ無償ニテ民有牝牛ニ種付ヲ爲スコトアルヘシ

第二條　牝牛ノ所有者又ハ管理人ハ別記樣式ニ依リ本場ニ種牡牛ノ種付ヲ出願スルコトヲ得

第三條　種付ヲ受ケムトスル牝牛ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　年齡滿二歲以上ニシテ發育善良ナルコト

二　體格優等、性質善良、體質健全ナルコト

三　遺傳病又ハ惡癖ナキコト

第四條　第二條ノ出願アリタルトキハ本場ハ檢查ノ時期ヲ定メ出願者ヲシテ本場ニ當該牝牛ヲ牽付ケシメ前條ニ揭ケタル條件ニ付檢查ヲ行ヒ牝牛ニ種付ヲ爲ス

第五條　種付ヲ受ケタル牝牛又ハ其ノ產犢ノ所有者若ハ管理人ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ屆出ヘシ

一　種付ヲ受ケタル牝牛ヲ分娩前讓渡シ又ハ種付ヲ受ケタル牝牛ノ產犢ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、價格及讓受人ノ住所、氏名

二　種付ヲ受ケタル牝牛分娩シタルトキハ生產ニ付テハ其ノ年月日、產犢ノ牝牡別、毛色、特徵、出產當時ノ身幹、死產又ハ流產ニ付テハ其ノ年月日及事由

三　種付ヲ受ケタル牝牛又ハ其ノ產犢斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由

第六條　種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理人ハ其ノ產犢ニ對スル血統證ノ下付ヲ本場ニ出願スルコトヲ得

第七條　前條ノ出願アリタルトキハ本場ハ檢查ノ時期ヲ定メ出願者ヲシテ本場ニ當該產犢ヲ牽付ケシメ檢查ヲ行ヒ血統證ヲ下付ス

第八條　左ニ揭クル場合ニ於テハ牝牛カ第三條ノ條件ヲ具備スト雖本場ハ之カ種付ヲ拒絕スルコトアルヘシ

一　牝牛ノ飼養地若ハ其ノ附近又ハ牽付ノ際經過スヘキ地方ニ於テ獸疫發生又ハ流行スルトキ

二　種牡牛又ハ種付ヲ受ケムトスル牝牛ノ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ種付ヲ行フ能ハス又ハ種付ニ害アリト認ムルトキ

三　種牡牛ニ對シ異議アルトキ

四　種付施行上當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ

第九條　種付出願者又ハ血統證下付出願者カ第四條又ハ第七條ノ時期ニ於テ本場ニ牝牛又ハ產犢ヲ牽付ケサルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ

第十條　種付出願者ハ種付ニ因リ生シタル損害ニ對シテハ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十一條　種付ノ爲牝牛ノ場內繫留ニ要スル費用ハ出願者ノ負擔トス

（別記様式）

種付願

一何種牝牛

名號

生年月日

毛色

身幹

産地

用途別

血統　父　何種　毛色　産地
　　　母　何種　毛色　産地

右明治四十二年九月告示第百二十二號種畜場種付規程遵守候ニ付貴場種牡牛ノ種付相成度此段相願候也

年　月　日

住所

所有者又ハ管理人　氏　名印

種畜場主任宛

●種畜貸付規則

（大正七年四月二十六日樺太廳令第六號）

種畜貸付規則

改正　大正八年第一六號、一三年第二六號

第一條　本令ニ於テ種畜ト稱スルハ種牡牛馬ヲ謂フ

第二條　牛馬ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲農業者又ハ農業者ヲ以テ組織シタル組合若ハ町村ニ對シ本令ニ依リ種畜ヲ貸付スルコトアルヘシ

第三條　種畜ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ第一號書式ニ依リ樺太廳農事試驗場長ニ出願スヘシ但シ農業者ニ在リテハ二名以上ノ保證人ヲ要ス

前項ノ願書ニハ左記事項ヲ具シタル書面及組合ニ在リテハ組合定款ヲ添附スルコトヲ要ス

一　種付ヲ行ハムトスル牝畜ノ見込頭數

二　種付方法

三　種畜ノ飼養管理ニ要スル經費豫算

四　削除

五　畜舍及種付所ノ位置、構造竝坪數

六　飼養者ノ住所氏名

第四條　種畜貸付ノ許可ヲ受ケタル後前條第二項第二號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ樺太廳農事試驗場長ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　種畜貸付ノ許可ヲ受ケタルモノハ第二號書式ノ請書ヲ差出シ種畜ノ引渡ヲ受クヘシ

種畜ノ引渡若ハ返還ノ場所及期日ハ樺太廳農事試驗場長之ヲ指定ス

第六條　種畜ノ貸付期間ハ三年内トス但シ期間滿了ノ日ヨリ二月前ニ出願スルトキハ繼續貸付ヲ爲スコトアルヘシ

第七條　貸付種畜ノ價格ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第八條　貸付シタル種畜ニ餘勢アルトキハ他ノ需用ニ應スヘシ

第九條　樺太廳農事試驗場長若ハ所轄樺太廳支廳長ハ貸付シタル種畜ノ飼養管理、種付ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ指示シ又ハ官吏、吏員ヲシテ之カ檢査ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十條　種畜ノ借受人ハ第三號書式ノ種付臺帳ヲ設備シ必要ノ事項ヲ記入スヘシ

第十一條　種畜ノ借受人ハ毎年一月十日迄ニ前年中ニ於ケル前條種付臺帳謄本ヲ樺太廳農事試驗場長ニ提出スヘシ

第十二條　貸付シタル種畜ニ付斃死、亡失其ノ他重要ノ事故アリタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ樺太廳農事試驗場長ニ屆出ツヘシ但シ斃死ノ場合ハ公獸醫ノ檢案書ヲ添附スヘシ

第十三條　貸付シタル種畜疾病ニ罹リタルトキハ借受人ハ直ニ公獸醫ノ診療ヲ受ケシメ且其ノ診斷書ヲ添ヘ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第十四條　削除

第十五條　相續ニ因リ種畜ノ貸付ニ關スル權利義務ヲ承繼シタルトキハ相續開始後一月内ニ戸籍謄本ヲ添附シ保證人連署ノ上樺太廳農事試驗場長ニ屆出ツヘシ

第十六條　種畜借受人又ハ保證人ニ於テ本籍住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ五日内ニ樺太廳農事試驗場長ニ屆出ツヘシ

第十七條　借受人故意又ハ怠慢ニ因リ貸付シタル種畜ヲ癈疾、不具ニ歸セシメ又ハ斃死、亡失セシメタルトキハ樺太廳農事試驗場長ノ指定スル價格ヲ賠償スヘシ

第十八條　左ノ場合ニ於テハ種畜ノ貸付ヲ取消シ之カ返還ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ因リテ生スル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

一　改良蕃殖ニ效ナシト認メタルトキ

二　借受人本令又ハ貸付ノ條件ニ基ク義務ノ履行ヲ怠リ若ハ指示ニ違反シ又ハ檢査ヲ拒ミタルトキ

三　官ニ於テ必要ト認メタルトキ

第十九條　種畜ノ借受、管理、飼養、種付、治療、返還其ノ他ニ要スル一切ノ費用ハ總テ借受人ノ負擔トス

第二十條　貸付シタル種畜ニ配シテ生産シタル仔畜ニ對シ血統書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ生産後一年内ニ樺太廳農事試驗場長ニ出願スヘシ

第二十一條　本令ニ依リ樺太廳農事試驗場長ニ差出スヘキ書類ハ所轄樺太廳支廳長ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前貸付シタル種牡畜ハ本令ニ依リ貸付シタルモノト看做ス但シ種牝畜ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

（第一號書式）

種畜貸付願

一、種牡牛（馬）　何頭

右種畜貸付規則ニ依リ御貸付相成度此段相願候也

年　月　日

住所

借受人　氏　名㊞

樺太廳農事試驗場長氏名殿

備考　個人借受ノ場合ニ在リテハ本籍住所ヲ記入シ且保證人ノ連署ヲ要ス

（第二號書式）

御請書

許可年月日並番號	畜種	種類	性	名號	生年月	毛色	特徵	價格

右貸付相受候ニ付テハ種畜貸付規則及貸付ノ條件ヲ堅ク相守可申候也

年　月　日

住所

借受人　氏　名㊞

樺太廳農事試驗場長氏名殿

備考　個人借受ノ場合ニ在リテハ本籍住所ヲ記入シ且保證人ノ連署ヲ要ス

（第三號書式）

牝							畜						種付		分娩		所有又ハ管理者	
畜種 貸付 私有	名號	毛色	年齡	體尺	特徵	産地	第一回 月日	第一回 種牡名	第二回 月日	第二回 種牡名	第三回 月日	第三回 種牡名			性	年月日	住所	氏名

●家畜去勢規則

（明治四十二年六月樺太廳令第十五號）

家畜去勢規則

第一條　家畜ノ去勢ヲ受ケントスル者ハ其ノ所有者ヨリ所轄支廳長ニ願出ヘシ

前項ノ出願者ハ支廳長ノ指揮ニ從ヒ家畜ノ檢査ヲ受クヘシ

第二條　去勢スヘキ家畜ハ牛馬及豚ノ三種トス

第三條　去勢ニ要スル費用ハ之ヲ徵收セス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル家畜ニハ去勢ヲ執行セス

一　種畜ノ資質アリト認メタルモノ

二　疾病又ハ體質上去勢ヲ行フニ堪ヘスト認メタルモノ

第五條　去勢ハ樺太廳吏員又ハ公獸醫ヲシテ之ヲ行ハシム

第六條　去勢ノ許可ヲ受ケタル者ハ家畜ノ牽付施術其ノ他施術後ノ取扱ニ就テハ樺太廳吏員又ハ公獸醫ノ指示ニ從フヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●農畜産指導員補助規程

（大正十五年七月二十一日樺太廳令第二十號）

農畜産指導員補助規程左ノ通定ム

農畜産指導員補助規程

第一條　町村ニ於テ農畜産指導ニ關スル技術員ヲ置キタル場合ハ本令ニ依リ其ノ給料ノ二分ノ一以内ヲ補助スルコトアルヘシ

第二條　本令ニ依リ補助ヲ受ケムトスルトキハ町村長ヨリ左ノ書類ヲ添附シ毎年三月三十一日迄ニ願出ツヘシ

一　其ノ年度歳入出豫算表

二　農畜産ニ關スル勸業施設概要書

三　四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル技術員ノ氏名及其ノ給料額調

四　技術員ノ履歴書

第三條　本令ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ハ町村長ハ技術員ヲシテ一年百日以上其ノ部内ヲ巡回指導セシムヘシ但シ年度半ニシテ採用シタルモノハ樺太廳長官ニ於テ適宜其ノ日數ヲ定ム

第四條　樺太廳長官必要ト認ムルトキハ町村長ニ其ノ技術員ヲシテ農畜産ニ關スル調査指導ニ從事セシムヘキヲ命スルコトアルヘシ

第五條　技術員若ハ其ノ給料ニ異動ヲ生シタルトキハ町村長ハ理由ヲ具シ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

新ニ技術員ヲ任命セル場合ハ前項ノ屆出ニ際シテ其ノ履歴書ヲ添附スヘシ

第六條　前條ノ屆出アリタル場合ハ改メテ補助金ヲ廢止シ若ハ變更スルコトアルヘシ

第七條　補助金ハ月割ヲ以テ交付ス

技術員欠員ノ月ハ之ヲ交付セス但シ技術員ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月ノ在職十六日以上ノ場合ハ全月分ヲ、十五日以内ノ場合ハ半月分ヲ支給ス

第八條　本令ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ハ町村長ハ該年度ニ於ケル事業成績ヲ四月三十日迄ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第九條　正當ノ事由ナクシテ第三條及第八條ニ違背シ若クハ第五條ノ屆出ヲ怠リタル場合ハ樺太廳長官ハ補助ヲ取消シ又ハ已ニ交付シタル補助金ヲ返還セシムルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前指導員ヲ置キタル町村ハ本令ニ依リ大正十五年四月一日以降ノ補助ヲ受クルコトヲ得

●牛馬ニ關スル屆出規則

（明治四十年四月樺太廳令第十三號）

改正　大正二年第三七號

牛馬ニ關スル屆出規則左ノ通相定ム

牛馬ニ關スル屆出規則

第一條　牛馬ヲ所有シタルトキハ十日以内ニ第一號書式ニ依リ所轄支廳ニ屆出ヘシ但シ讓受若ハ交換ノ場合ハ双方連署ヲ以テスヘシ

第二條　所有ノ牛馬ニ異動ヲ生シタルトキハ第二號書式ニ依リ十日以内ニ所轄支廳ニ屆出ヘシ但シ讓渡若ハ交換ノ場合ハ双方連署ヲ以テスヘシ

第三條　馬匹ノ所有者ハ毎年十月一日調ヲ以テ第三號書式ニ依リ馬匹ノ現在屆ヲ同月五日マテニ所轄支廳ニ差出スヘシ

第四條　本則ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第五條　本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第六條　明治三十九年三月樺太民政署令第十號ニ依ル屆出ヲ了セサル者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ本則ニ依リ所轄支廳ニ屆出ヘシ

（第一號書式）

牛（馬）所有屆

種類	牝牡	生年月日	寸尺	毛色	特徵	用途	所有權取得ノ事由及年月日
							年月日何某ヨリ讓受又ハ年月日出生若ハ年月日何某ト交換等記載スヘシ

右及御屆候也

年　月　日

現住所

氏　名印

支廳長宛

（第二號書式）

牛（馬）異動屆

種類	牡牝	生年月日	寸尺	毛色	特徵	用途	異動ノ事由年月日
							讓渡、斃死、撲殺、屠殺、逸走、其ノ他異動ノ事由及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

右及御屆候也

年　月　日

現住所

氏　名印

支廳長宛

（第三號書式）

馬匹現在屆　（一枚一匹ニ限ル）

種類	牡牝	年齡	寸尺	毛色	特徵	用途

右及御屆候也

現住所
氏　名印
年　月　日
支廳長宛

●關東廳種畜場種畜貸付竝拂下規程

（昭和二年一月二十日 關東廳令第一號）

關東廳種畜場種畜貸付竝拂下規程左ノ通定ム

關東廳種畜場種畜貸付竝拂下規程

第一條　本令ニ於テ種畜トハ種牛及種豚ヲ謂フ

第二條　關東廳種畜場長（以下種畜場長ト稱ス）ハ家畜ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲本令ニ依リ其ノ保管ニ屬スル種畜ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

第三條　種畜場長ハ畜產組合、農會其ノ他公益團體ノ出願ニシテ畜產獎勵上必要アリト認ムルトキハ種畜ノ無償貸付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ貸付期間ハ牛ニ在リテハ五年以內、豚ニ在リテハ三年以內トス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條　種畜ノ貸付又ハ拂下ヲ受ケムトスル者ハ別記書式ニ依リ種畜場長ニ願出ツヘシ

第五條　種畜場長第二條ノ拂下又ハ第三條ノ貸付ヲ爲サムトスルトキハ拂下又ハ貸付スヘキ種畜ノ種類、性、生年月日及引渡期日（拂下ノ場合ニハ代價及其ノ納付期日ヲモ）ヲ出願人ニ通知スヘシ

第六條　種畜ノ拂下若ハ貸付ノ通知アリタル場合又ハ貸付期間ノ滿了若ハ其ノ他ノ事由ニ依リ種畜ヲ返納スル場合ニ於テハ拂受人又ハ借受人ハ指定ノ期日ニ於テ之ヲ受領又ハ返納スヘシ

前項拂受人ニシテ指定ノ期日迄ニ拂下代金ヲ完納セサルトキハ拂下ハ之ヲ無效トス

第七條　種畜ノ借受、管理、飼養及返納ニ關スル一切ノ費用ハ借受人ノ負擔トス

第八條　種畜場長ハ種畜借受人カ種畜ノ飼養及管理ヲ怠リタル場合其ノ他必要アリト認ムルトキハ種畜ノ返納ヲ命スルコトヲ得

第九條　貸付種畜ニ付失踪、斃死、盜難、疾病其ノ他重要ナル事故アリタルトキハ借受人ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ種畜場長ニ報告スヘシ但シ斃死ノ場合ニ在リテハ獸醫ノ檢案書ヲ添附スヘシ

第十條　種牛借受人ハ種付臺帳ヲ備ヘ配合シタル牝牛ニ關シ主要ナル事項ヲ記入シ前年中種付ヲ爲シタル牝牛ノ頭數、生產頭數及種牛ノ飼養管理ノ狀況ヲ每年一月末日迄ニ種畜場長ニ報告スヘシ

第十一條　種畜ノ借受人繼續シテ種牡牛ニ在リテハ五年以上、種牡豚ニ在リテハ三年以上之ヲ使用シ成績良好ナリト認ムルトキハ種畜場長ハ其ノ種畜ヲ借受人ニ讓與スルコトヲ得

第十二條　種畜場長ハ種畜ノ貸付、拂下又ハ讓與ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ關東長官ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記書式）

種牛（豚）貸付（拂下）願

一　何種牡（牝）牛（豚）　何頭

右ハ種畜トシテ家畜ノ改良蕃殖ニ供用致度候間御貸付（拂下）相成度此段相願候也

年　月　日
住所
職業　氏　名㊞
關東廳種畜場長宛

●關東廳種畜場種禽及種卵拂下規程

（昭和二年一月二十日 關東廳令第二號）

關東廳種畜場種禽及種卵拂下規程左ノ通定ム

關東廳種畜場種禽及種卵拂下規程

第一條　種禽又ハ種卵ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ別記書式ニ依リ關東廳種畜場長（以下種畜場長ト稱ス）ニ願出ツヘシ

第二條　拂下クヘキ種禽及種卵ハ一回ニ付各二種以內トシ種禽ニ在リテハ一種五羽以內、種卵ニ在リテハ一種八箇以內トス

但シ畜產組合、農會其ノ他團體ノ出願ニシテ畜產獎勵上必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　種畜場長第一條ノ拂下ヲ爲サムトスルトキハ種禽又ハ種卵ノ種類、數量、代金及其ノ納付期日ヲ指定シ之ヲ出願人ニ通知スヘシ

第四條　拂受人ニシテ前條ノ通知ヲ受ケ十日內ニ引渡ヲ受ケサルトキハ拂下ハ之ヲ無效トス

第五條　拂受人拂下ノ出願ヲ爲シタル後一年內ニ拂下ノ通知ヲ受ケサルトキハ其ノ出願ハ效力ヲ失フモノトス

第六條　拂下クヘキ種禽及種卵ノ種類竝其ノ代金ハ關東長官之ヲ告示ス

第七條　種畜場長ハ畜產組合、農會其ノ他ノ團體ノ出願ニシテ畜產獎勵上必要アリト認ムルトキハ種禽又ハ種卵ノ無償拂下ヲ爲スコトヲ得

第八條　拂受人種禽又ハ種卵ノ引渡ヲ受ケタル後ハ其ノ交換、代金ノ返還若ハ減額又ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第九條　種畜場長ハ種禽又ハ種卵ノ拂下ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ關東長官ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記書式）

種禽（種卵）拂下願

一　何種種禽　何羽
一　何種種卵　何箇

右ハ家禽ノ改良蕃殖ニ供用致度候間御拂下相成度此段相願候也

年　月　日
住所
職業　氏　名㊞
關東廳種畜場長宛

●關東州家畜市場規則

（大正十二年十二月二十八日 關東廳令第六十七號）

關東州家畜市場規則左ノ通定ム

關東州家畜市場規則

第一條　本令ニ於テ家畜トハ牛、馬、驢、騾、緬羊、山羊及豚ヲ謂フ

第二條　公共團體又ハ之ニ準スルモノニ非サレハ家畜市場ヲ開設スルコトヲ得ス

第三條　家畜市場ヲ分テ定期家畜市場及臨時家畜市場トス

定期家畜市場トハ毎年三回以上定期ニ開催スルモノヲ謂ヒ臨時家畜市場トハ之ニ該當セサルモノヲ謂フ

第四條　家畜市場ヲ開催セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ市場業務規程ヲ添ヘ所轄民政署長又ハ同支署長ヲ經由シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　家畜市場ノ名稱及位置
二　用地面積及附近見取圖
三　構造竝設備
四　資本金
五　收支計算
六　開設期間
七　入場及賣買交換成立見込頭數

前項第一號乃至第四號、第六號及市場業務規程ヲ變更セムトスルトキハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　臨時家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ前條第一號、第二號、第五號及第六號ヲ記載シタル願書ニ市場業務規程ヲ添ヘ所轄民政署長又ハ同支署長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　市場業務規程ニハ左ノ事項ヲ定ムヘシ

一　事務所ノ位置
二　家畜ノ種類
三　市場開催ノ日時
四　市場ニ於テ徵收スル料金及其ノ種類竝徵收方法
五　仲立人ノ手數料
六　取引ノ方法及手續
七　違約者ノ處分方法
八　其ノ他業務執行上必要ナル事項

第七條　家畜市場開設者ハ市場管理人ヲ定メタルトキハ其ノ住所、氏名及年齡ヲ所轄民政署長又ハ同支署長ニ屆出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第八條　定期家畜市場及其ノ附屬建物ハ公衆衞生上妨ケナキ場所ニ之ヲ設ケ檢査所、賣場、繫場、畜舍、隔離舍及汚物溜ヲ築造シ清潔保持竝家畜衞生上必要ナル構造ヲ施スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ斟酌スルコトアルヘシ

第九條　家畜市場ニ於テハ其ノ場內又ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ニ非サレハ之ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十條　家畜ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ業トスル者若ハ屠肉賣買ノ目的ヲ以テ家畜ノ買入ヲ爲ス者ハ家畜市場附近ノ區域內ニ於テ市場開催ノ日及其ノ開催日前後ノ期間中家畜ヲ賣買若ハ交換スルコトヲ得ス但シ所轄民政署長又ハ同支署長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ區域及期間ハ所轄民政署長又ハ同支署長之ヲ指定ス

第十一條　家畜市場開設者ハ正當ノ事由ナクシテ家畜ノ賣買若ハ交換ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　家畜市場開設者ハ臺帳ヲ調製シ賣買若ハ交換シタル家畜一頭毎ニ其ノ種類、產地、性、毛色、特徵、高サ（羊豚ニ在リテハ見込重量）、年齡、用途及賣買若ハ交換當事者ノ住所氏名竝其ノ家畜ノ價格ヲ記入スヘシ

第十三條　家畜市場ニ於テ賣買若ハ交換シタル家畜及其ノ代金ハ市場業務規程ニ定メタル日ニ於テ家畜市場開設者ヲ經テ之ヲ受授スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ家畜市場開設者ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ賣買若ハ交換當事者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ家畜市場開設者其ノ責ニ任スヘシ

第十四條　家畜市場ニ於テハ獸醫ヲシテ市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ牽入ルル家畜ノ健康檢査ヲ行ハシムヘシ

第十五條　家畜市場ノ仲立人タラムトスル者ハ所屬家畜市場開設者ヲ經由シ所轄民政署長又ハ同支署長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル仲立人所屬以外ノ家畜市場ニ於テ仲立人タラムトスルトキハ其ノ市場開設者ノ承認ヲ經ヘシ

第十六條　家畜市場ニ於テハ市場ノ名稱ヲ榜示シ市場業務規程ヲ場內ニ備附ケ且其ノ摘要ヲ場內ニ揭示スヘシ

第十七條　家畜市場開設者ハ其ノ市場ニ於ケル前日ノ入場家畜ノ種類別賣買交換頭數、最高低及平均價格ヲ場內ニ揭示スヘシ

第十八條　所轄民政署長又ハ同支署長必要ト認ムルトキハ職員ヲシテ家畜市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ臨檢シ市場開設者若ハ仲立人ノ帳簿、書類其ノ他ノ物品ヲ檢査シ又ハ市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ヲ診斷セシメ又ハ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十九條　家畜市場ヲ休場セムトスル場合ハ所轄民政署長又ハ同支署長ニ、廢止セムトスル場合ハ關東長官ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第二十條　家畜市場開設者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ又ハ關東長官公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ家畜市場ノ開設許可ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトアルヘシ

關東長官公益上必要アリト認ムルトキハ家畜市場及其ノ附屬建物ノ位置、構造、設備又ハ市場業務規程ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトアルヘシ

第二十一條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前許可ヲ受ケタル家畜市場ハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ本令ニ依リ許可ヲ受クルニ非サレハ引續キ業務ヲ行フコトヲ得ス

●畜產獎勵規則

（大正十一年九月二日 關東廳令第二十一號）

畜產獎勵規則左ノ通定ム

畜產獎勵規則

第一條　家畜ヲ飼養シ其ノ蕃殖ヲ圖ル者ニシテ支廳長ニ於テ適當ト認ムル者ニハ當該年度豫算ノ範圍內ニ於テ獎勵金ヲ下付ス

第二條　獎勵金ヲ下付スヘキ場合及金額ノ範圍左ノ如シ

一　蕃殖用牛二頭以上ヲ飼育スル場合一頭ニ付四十五圓以內
二　蕃殖用豚四頭以上ヲ飼育スル場合一頭ニ付二十圓以內
三　犢牛二頭以上又ハ仔豚十頭以上ヲ生產スル場合
　犢牛一頭ニ付十圓以內
　仔豚一頭ニ付三圓以內

第三條　前條第一號及第二號ニ依リ獎勵金ノ下付ヲ受クヘキ者ノ飼養家畜ハ左ノ要件ヲ具備シ健康ニシテ飼養管理適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス

一　蕃殖用牛ハ生後十八月以上明ケ八才以下ノモノ
二　蕃殖用豚ハ生後六月以上明ケ四才以下ノモノ

第四條　第二條第三號ノ獎勵金ハ生後一月現在ニ於テ健康ナルモノニ付之ヲ交付ス

第五條　支廳長ニ於テ必要ト認ムルトキハ現畜ヲ下付シ又ハ貸付スルコトヲ得現畜ノ下付又ハ貸付ニ關スル規定ハ支廳長之ヲ定ム

第六條　第二條第一號及第二號ニ依リ獎勵金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ畜種、性別、頭數及生年月日ヲ具シ毎年三月三十一日限リ所轄支廳長ニ願出ツヘシ

第七條　第二條第三號ニ依リ獎勵金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ生產仔畜ノ種類、性別、頭數及生產ニ關スル證憑書類ヲ添付シ所轄支廳長ニ願出ツヘシ

第八條　第二條第一號及第二號ニ依リ獎勵金下付ノ指令ヲ受ケ又ハ現畜ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ十日內ニ所轄支廳長ニ屆出ツヘシ

一　分娩シタルトキ畜種、性別、頭數年月日
二　斃死、亡失、其ノ他重大ナル事故發生シタルトキ畜種、性別、事由、年月日

前項ノ屆出ハ獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル家畜ニ付テハ當該年度間、下付ヲ受ケタル現畜ニ付テハ支廳長ノ指定スル期間之ヲ爲スコトヲ要ス

第九條　獎勵金ノ下付ヲ受ケ又ハ現畜ノ下付ヲ受ケタル者ハ所轄支廳長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ左ノ期間其ノ家畜ヲ屠殺、賣買其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

一　獎勵金ノ下付ヲ受ケタル者當該年度間
二　現畜ノ下付ヲ受ケタル者支廳長ノ指定スル期間

第十條　現畜ノ貸付ヲ受ケタル者故意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ損傷若ハ斃死セシメタルトキハ支廳長ハ其ノ價格ヲ指定シ辨償セシム

第十一條　支廳長ハ獎勵金ノ下付ヲ受ケ又ハ現畜ノ下付若ハ貸付ヲ受ケタル者ニ對シ必要ナル事項ニ付命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條　第八條第九條又ハ第十一條ニ依リ發スル命令ニ違反シ若ハ第八條ノ屆出ヲ怠リタルトキハ獎勵金ノ下付ヲ取消シ又ハ獎勵金ヲ減額シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ一部若ハ全部ノ返納ヲ命シ又ハ下付若ハ貸付シタル家畜ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第六條ノ出願期日ハ大正十一年十月三十一日迄トス

第二款　馬政

●種牡馬檢查法

（明治三十年三月二十五日 法律第十二號）
（改正 明治三二年第九二號 大正二年第六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル種牡馬檢查法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

種牡馬檢查法

第一條　牡馬ハ此ノ法律ニ依リ檢查ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ニ使用スルコトヲ得ス

第二條　檢查ニ合格シタル種牡馬ニハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付ス

第三條　證明ノ效力ヲ有スル期間ハ三年以內ニ於テ檢查委員之ヲ定ム

前項有效期間內ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ效力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　檢查ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第五條　此ノ法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス

第六條　學術研究ノ爲牡馬ヲ種付ニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ヲ許可スルコトアルヘシ

第七條　檢查ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條　種牡馬檢查ノ標準及方法檢查委員ノ組織其ノ他此ノ法律施行ノ爲必要ノ規程ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九條　北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ因リ農商務大臣ハ當分ノ內島嶼ニ限リ此ノ法律ヲ施行セサルコトヲ得

附　則

第十條　此ノ法律施行以前ニ與ヘタル種牡馬ノ免許ハ其ノ免許期限間效力ヲ有スルモノトス

第十一條　此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

種牡馬檢查法第九條ニ依リ當分ノ內左ノ島嶼ニ同法ヲ施行セス（大正六年十二月一日 陸軍省令第十一號）（改正 大正八年第二〇號、一一年第二七號）

北海道　利尻郡、禮文郡、奧尻郡、苫前郡ノ內燒尻島及天賣島、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡、紗那郡、振別郡、擇捉郡、蘂取郡、花咲郡齒舞村ノ內水晶島及志發島
長崎縣　上縣郡及下縣郡
鹿兒島縣　大島郡、薩摩郡ノ內甑島、熊毛郡ノ內屋久島及口永良部島
沖繩縣　八重山郡、宮古郡、島尻郡ノ內伊平屋島、渡嘉敷島、粟國島、渡名喜島、久米島及座間味島

●種牡馬檢查法施行規則

（大正十二年七月二十日 農商務省令第十八號）

種牡馬檢查法施行規則左ノ通改正ス

種牡馬檢查法施行規則

第一條　種牡馬ノ檢查ヲ受ケムトスルトキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ旨地方長官ニ願出ツヘシ

第二條　種牡馬檢查ハ定期檢查及臨時檢查ノ二種トス

第三條　定期檢查ハ全國ヲ別表ノ三區域ニ區分シ毎年順次其ノ一區域內ノ牡馬ニ付農商務大臣檢查委員ヲシテ之ヲ行ハシム

檢查委員ハ農商務部內ノ官吏一人及地方長官所屬ノ官吏又ハ待遇官吏一人ヲ以テ組織シ農商務部內ノ官吏タル委員ハ農商務大

臣、其ノ他ノ委員ハ地方長官之ヲ命ス

定期檢査ノ期日及場所ハ檢査期日二十日前迄ニ地方長官之ヲ告示ス

島嶼及種牡馬ノ數寡少ナル地方ニ於ケル定期檢査ハ農商務大臣前二項ノ規定ニ拘ラス之ヲ行フコトアルヘシ

第四條　臨時檢査ハ定期檢査ノ期日經過後輸入シ、移入シ、他ノ道府縣ヨリ牽入レ若ハ第五條第一號ニ該當スルニ至リタル牡馬、疾病、傷痍其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ定期檢査期日ニ檢査ヲ受クルコト能ハサリシ牡馬又ハ證明書ノ有效期間滿了シタル牡馬ニ限リ地方長官檢査委員ヲシテ之ヲ行ハシム

檢査委員ハ一人トシ地方長官其ノ所屬ノ官吏又ハ待遇官吏ノ中ヨリ之ヲ命ス

第五條　種牡馬檢査ノ標準ハ左ノ如シ
一　年齡ハ滿三歲以上ナルコト又ハ次ノ種付期迄ニ滿三歲ニ達スヘキモノナルコト
二　體格及性質善良ナルコト
三　遺傳性闕點ナキコト

第六條　檢査ニ合格シタル種牡馬ハ其ノ前肢左蹄ニ第一號樣式ニ依リ烙印シ且定期檢査ニ在リテハ第二號樣式ニ依ル證明書ヲ、臨時檢査ニ在リテハ第三號樣式ニ依ル證明書ヲ所有者又ハ管理者ニ下付ス

第七條　證明書ノ有效區域ハ一地方廳管內トス

第八條　地方長官ハ種牡馬カ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ效力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得但シ證明ノ效力ヲ取消サムトスル場合ニハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ證明ノ效力ヲ停止シタルトキハ其ノ旨農商務大臣ニ報告スヘシ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ遲滯ナク證明書ヲ地方長官ニ返納スヘシ
一　證明書ノ有效助間滿了シタルトキ
二　種牡馬死シタルトキ
三　種牡馬ノ用ヲ廢シタルトキ
四　前條ノ規定ニ依リ證明ノ效力ヲ取消サレタルトキ

（別表）

第十條　種牡馬ノ種付ヲ爲ストキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ證明書ヲ携帶スヘシ但シ第十一條ノ規定ニ依リ證明書ノ更正又ハ再下付ヲ受クル爲證明書ヲ所持セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　種牡馬ノ所有者又ハ管理者ニ異動アリタルトキ又ハ其ノ氏名、名稱若ハ住所ニ變更アリタルトキハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ旨地方長官ニ届出テ證明書ノ更正ヲ受クヘシ

證明書ヲ毀損シ又ハ亡失シタル場合ニ於テハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ第四號樣式ニ依ル證明書ヲ下付ス

第十二條　種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ第五號樣式ニ依リ帳簿ヲ調製シ種付ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第十三條　牝馬ノ所有者又ハ管理者産駒ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ正當ノ事由ナクシテ之カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條　農商務大臣又ハ地方長官ハ當該ノ官吏又ハ待遇官吏ヲシテ種牡馬ノ狀況ヲ調査シ又ハ證明書若ハ第十二條ノ規定ニ依ル帳簿ノ閲覽ヲ請求セシムルコトヲ得

種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ正當ノ事由ナクシテ前項ノ調査又ハ閲覽ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條　種牡馬ノ所有者又ハ管理者第九條、第十條、第十二條、第十三條又ハ第十四條第二項ノ規定ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

附　則

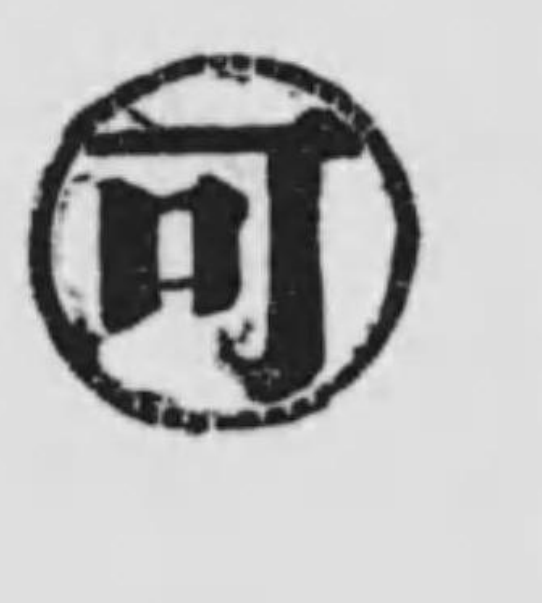
本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則ノ施行前下付シタル證明書ノ有效區域ハ仍從前ノ區域ニ依ル

定期檢査施行區域表

第一區	北海道廳 青森縣 巖手縣 秋田縣
第二區	宮城縣 山形縣 福島縣 栃木縣 群馬縣 茨城縣 千葉縣 埼玉縣 東京府 神奈川縣 靜岡縣 愛知縣 三重縣 山梨縣 長野縣 新潟縣 富山縣 石川縣 福井縣
第三區	岐阜縣 滋賀縣 京都府 大阪府 奈良縣 和歌山縣 兵庫縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 鳥取縣 島根縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣 福岡縣 佐賀縣 長崎縣 大分縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

第一號樣式



備考
一　直徑曲尺四分トス
二　輪廓ナシ

第二號樣式　（縱五寸橫七寸）

表

第　號

種牡馬證明書

住所
所有者（又ハ管理者）氏　名（又ハ名稱）
種類名稱　種　號
生年月日　年　月　日
體尺　尺　寸　分
毛色特徵　毛
有效區域
有效期間　自　年　月　日　至　年　月　日
檢査地
右種牡馬タルコトヲ證明ス
年　月　日
農商務省印

裏

檢査年月日	檢査委員官　氏　名印
年　月　日	

注意
一　本證明書ハ種付ノ際必ス携帶スヘシ
一　本證明書ハ有效期間滿了シタルトキ、種牡馬死シタルトキ、種牡馬ノ用ヲ廢シタルトキ、證明ノ效力ヲ取消サレタルトキハ遲滯ナク地方廳ニ返納スヘシ
一　種牡馬ノ所有者又ハ管理者ニ異動アリタルトキ又ハ其ノ氏名、名稱若ハ住所ニ變更アリタルトキ又ハ本證明書ヲ毀損シ若ハ亡失シタルトキハ地方廳ニ届出テ更正又ハ證明書ノ下付ヲ受クヘシ

第三號樣式　（縱五寸橫七寸）

表

第　號

種牡馬證明書

住所
所有者（又ハ管理者）氏　名（又ハ名稱）
種類名稱　種　號
生年月日　年　月　日
體尺　尺　寸　分
毛色特徵　毛
有效區域
有效期間　自　年　月　日　至　年　月　日
檢査地
右種牡馬檢査法施行規則第四條ニ依リ臨時檢査ニ合格シタルコトヲ證明ス
年　月　日
道廳府縣印

裏

檢査年月日	檢査委員官　氏　名印
年　月　日	

注意
一　本證明書ハ種付ノ際必ス携帶スヘシ
一　本證明書ハ有效期間滿了シタルトキ、種牡馬死シタルトキ、種牡馬ノ用ヲ廢シタルトキ、證明ノ效力ヲ取消サレタルトキハ遲滯ナク地方廳ニ返納スヘシ
一　種牡馬ノ所有者又ハ管理者ニ異動アリタルトキ又ハ其ノ氏名、名稱若ハ住所ニ變更アリタルトキ又ハ本證明書ヲ毀損シ若ハ亡失シタルトキハ地方廳ニ届出テ更正又ハ證明書ノ下付ヲ受クヘシ

第四號樣式　（縱五寸橫七寸）

表

第　號

種牡馬證明書

住所
所有者（又ハ管理者）氏　名（又ハ名稱）
種類名稱　種　號
生年月日　年　月　日
體尺　尺　寸　分
毛色特徵　毛
有效區域
有效期間　自　年　月　日　至　年　月　日
檢査地
右種牡馬檢査法施行規則第十一條第二項ニ依リ本證明書ヲ下付ス
年　月　日
道廳府縣印

裏

注意
一　本證明書ハ種付ノ際必ス携帶スヘシ
一　本證明書ハ有效期間滿了シタルトキ、種牡馬死シタルトキ、種牡馬ノ用ヲ廢シタルトキ、證明ノ效力ヲ取消サレタルトキハ遲滯ナク地方廳ニ返納スヘシ
一　種牡馬ノ所有者又ハ管理者ニ異動アリタルトキ又ハ其ノ氏名、名稱若ハ住所ニ變更アリタルトキ又ハ本證明書ヲ毀損シ若ハ亡失シタルトキハ地方廳ニ届出テ更正又ハ證明書ノ下付ヲ受クヘシ

第五號樣式

種牡馬種付簿

一種牡馬（名稱）　年
住所
所有者（又ハ管理者）氏　名（又ハ名稱）
種類　毛色　生年月日　體尺　産地

種付牝馬				種付月日					産駒		摘要	所有者（又ハ管理者）	
種類名稱	年齡	體尺	毛色特徵	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	分娩月日	性		住所	氏名

注意
摘要欄ニハ流産又ハ血統證ヲ交付シタルコト等ノ事項ヲ記入スヘシ

●國有種牡馬種付規則

（大正四年二月四日 陸軍省令第一號）

國有種牡馬種付規則左ノ通定ム

國有種牡馬種付規則

第一條　左ニ揭クル資格ヲ有スル牝馬ノ所有者ニシテ國有種牡馬ノ種付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ所轄種馬所ニ差出シ牝馬ノ檢査ヲ受クヘシ但シ前回ノ檢査ニ合格シタル牝馬ニ引續キ種付ヲ受ケムトスル者ハ檢査場ニ於テ前回ノ種付合格證ヲ提出シ直ニ牝馬ノ檢査ヲ受クルコトヲ得
一　種付期ニ於テ年齡明ケ四歲以上ノモノ
二　體尺四尺五寸以上ノモノ但シ體格特ニ優等ナルモノハ此ノ限ニ在ラス
三　體格優等性質善良體質健全ナルモノニシテ遺傳病又ハ惡癖ナキモノ

第二條　前條ニ依ル出願又ハ前回ノ種付合格證ノ提出アリタルトキハ種馬所長ハ牝馬ヲ檢査シ種付合格證ヲ下付スヘシ

第三條　種付合格證ハ甲乙ノ二種トシ甲種ハ體格性能優良ニシテ成績及飼養管理ノ良好ナルモノニ、乙種ハ體格性能飼養管理甲ニ次クモノニ之ヲ下付ス其ノ有效期間ヲ定ムルコト左ノ如シ
甲種　有效期間　連續三種付期間
乙種　有效期間　一種付期間

第四條　種付出願期限、牝馬檢査ノ期日、場所、種付所及種付開閉期日其ノ他種牡馬ニ關スル事項ハ種馬所長ノ通告ニ依リ地方長官之ヲ告示ス

種馬所長ハ前項ノ牝馬檢査期日後必要アリト認ムルトキハ臨時ニ牝馬ノ檢査ヲ行フコトヲ得

第五條　甲種合格牝馬ノ所有者ニシテ合格證ノ有效期間中種付ヲ受ケムトスル者ハ種付出願期限內ニ所轄種馬所又ハ牝馬檢査ノ期日ニ於テ其ノ檢査場ニ種付合格證ヲ提出スヘシ

第六條　合格牝馬ヲ種付所ニ牽付クルトキハ其ノ所有者ハ種付合格證ヲ携帶スヘシ

第七條　合格牝馬ニシテ種付ヲ受クルコト能

ハサル事故ヲ生シタルトキハ其ノ所有者ハ直ニ其ノ旨ヲ種馬所又ハ種付所ニ届出ツヘシ

第八條　種牡馬ノ種付料ハ一種付期間牝馬一頭ニ對シ二十圓以內トシ馬政長官ノ認可ヲ經テ種馬所長之ヲ定ム

前項ノ外已ムコトヲ得サル事由アルトキハ種馬所長ハ馬政長官ノ認可ヲ經テ種付料ヲ徵收セサル種牡馬ヲ指定スルコトヲ得

第九條　種付料ハ第二號書式ノ納付書ニ依リ每期初回種付ノ時ニ於テ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

納付シタル種付料ハ之ヲ返還セス

第十條　左ニ揭クル事由ヲ生シタルトキハ種付牝馬ノ所有者ハ其ノ旨ヲ所轄種馬所ニ届出ツヘシ但シ種付合格證ノ種類、年號、番號及種牡馬名ヲ届書中ニ記載スヘシ

一　種付後牝馬ノ所有者ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ所有者ノ住所氏名

二　種付後牝馬斃死シタルトキハ其ノ年月日

三　流產シタルトキハ其ノ年月日

四　出產シタルトキハ其ノ年月日、產駒ノ名稱、性及毛色

五　產駒ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日及價格

第十一條　種付合格證ノ有效期間內其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ合格證ヲ毀損亡失シタルトキハ牝馬ノ所有者ハ所轄種馬所又ハ種付所ニ届出テ合格證ノ更正又ハ再下付ヲ受クヘシ

第一號書式

種付願（葉書ヲ用フルコトヲ得）

一馬　名

種類　毛色　生年月　體尺　產地　父系　母系

右貴所種牡馬種付相願候也

年　月　日　住　所

所有者（又ハ管理者）　氏　名　印

種馬所長宛

（注意）

一、管理者ノ出願スル場合ハ所有者ノ氏名ヲ並記スヘシ

有效期間內牝馬斃死シタルトキハ種付合格證ヲ所轄種馬所又ハ種付所ニ返納スヘシ

第十二條　種付牝馬ノ所有者ハ其ノ產駒血統證ノ下付ヲ種馬所長ニ出願スルコトヲ得

第十三條　左ノ場合ニ於テハ種馬所長ハ種付合格證ノ效力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

一　牝馬ノ疾病其ノ他ノ事由ニ依リ種付ニ不適當ナリト認メタルトキ

二　指定ノ種牡馬ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ

三　當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ

第十四條　種馬所長ハ種牡馬ノ疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事故アルトキハ指定シタル種牡馬ヲ變更シ又ハ種付ヲ爲ササルコトヲ得

第十五條　種馬所長ハ第十條ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第十三條第二號及第三號ニ規定スル事由ニ依リ種付合格證ノ效力ヲ取消サレタル者ニ對シ次年ノ種付ヲ許可セサルコトヲ得

第十六條　本令中牝馬ノ所有者ニ關スル規定ハ其ノ管理者ニ亦之ヲ適用ス

第十七條　本令ノ規定ハ種馬牧場ニ於テ民有牝馬ニ種付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

種馬所種付規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前下付セル大正四年種付合格證ハ本令ニ依ル乙種種付合格證ト看做ス

二、出願者ハ前各項ヲ列記シ便宜連署若ハ總代ヲ以テ又ハ產馬組合組長總代トシテ願出ツルモ妨ケナシ

第二號書式

種付料納付書

住　所

所有者（又ハ管理者）　氏　名

年　月　日

一金　圓　何種種付合格證第　號種付料

指定種牡馬

收入印紙

●種牡馬貸付規則

（大正十四年六月十三日農林省令第十七號）

種牡馬貸付規則左ノ通定ム

種牡馬貸付規則

第一條　種馬所長ハ馬ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲本則ニ依リ其ノ保管スル種牡馬ヲ道府縣又ハ畜產組合若ハ畜產組合聯合會ニ無償貸付スルコトヲ得

第二條　種牡馬ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ四月三十日迄ニ樣式第一號ニ依ル貸付願ヲ所轄種馬所長ニ差出スヘシ

第三條　種牡馬ノ貸付期間ハ五年以內トス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

繼續貸付ヲ受ケムトスル者ハ期間滿了ノ日ヨリ二月前種馬所長ニ出願スヘシ

第四條　貸付種牡馬ノ受領又ハ返納ハ種馬所長ノ指定スル期日及場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第五條　借受人貸付種牡馬飼養管理ノ場所又ハ管理人ヲ變更セムトスルトキハ種馬所長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　貸付種牡馬ニ付盜難、失踪、疾病、斃死其ノ他重大ナル事故アリタルトキハ借受人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ種馬所長ニ届出ツヘシ但シ斃死ノ場合ニ於テハ獸醫ノ檢案書ヲ添附スヘシ

第七條　種馬所長種牡馬ヲ貸付シタルトキハ樣式第二號ニ依ル貸付種牡馬證明書ヲ借受人ニ交付スヘシ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ借受人ハ遲滯ナク貸付種牡馬證明書ヲ種馬所長ニ返納スヘシ

一　貸付種牡馬ヲ返納シ若ハ返納ヲ命セラレタルトキ

二　貸付種牡馬ノ讓與ヲ受ケタルトキ

三　貸付種牡馬死シタルトキ

第九條　貸付種牡馬ノ種付ヲ爲ストキハ借受人又ハ管理人ハ貸付種牡馬證明書ヲ携帶スヘシ但シ第十條ノ規定ニ依リ證明書ノ更正又ハ再下付ヲ受クル爲之ヲ所持セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　貸付種牡馬證明書ノ記載事項ニ異動アリタルトキハ借受人ハ遲滯ナク貸付種牡馬證明書ノ更正ヲ受クヘシ

貸付種牡馬證明書ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ借受人ハ遲滯ナク其ノ再下付ヲ受クヘシ

第十一條　借受人貸付種牡馬ノ種付料ヲ徵收セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ種馬所長ノ承認ヲ受クヘシ種付料ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十二條　貸付種牡馬ニ配シタル牝馬ノ所有者又ハ管理人ノ請求アリタルトキハ借受人ハ種付證又ハ產駒ノ血統證ヲ交付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル血統證ハ產駒檢査ヲ爲シ正當ト認メタル場合ニ之ヲ交付スヘシ

第十三條　借受人ハ樣式第三號ニ依ル種付臺帳ヲ備ヘ種付ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第十四條　借受人ハ貸付種牡馬ノ種付成績ヲ樣式第四號及第五號ニ依リ每年九月三十日

迄ニ、產駒ノ賣却價格ヲ樣式第六號ニ依リ每年十二月三十一日迄ニ種馬所長ニ報告スヘシ

第十五條　種馬所長ハ貸付種牡馬、其ノ飼養管理ノ狀況及種付臺帳ヲ檢査スルコトヲ得

第十六條　種馬所長ハ借受人ニ對シ貸付種牡馬ノ種付、飼養管理其ノ他ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ命スルコトヲ得

第十七條　借受人又ハ管理人第十五條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ前條ノ命令ニ違反シタルトキハ種馬所長ハ貸付種牡馬ノ返納ヲ命スルコトヲ得

第十八條　繼續シテ左ノ年數以上種牡馬ヲ借受ケ其ノ成績良好ナリト認ムルトキハ種馬所長ハ借受人ニ其ノ種牡馬ヲ讓與スルコトヲ得

貸付當時ノ年齡	貸付年數
八歲以下	五　年
十四歲以下	四　年
十五歲以上	三　年

第十九條　本則ニ依リ畜產組合又ハ畜產組合聯合會ヨリ種馬所長ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條中四月三十日迄トアルハ大正十四年度ニ限リ七月十日迄トス

馬匹貸下內規ニ依リ現ニ種牡馬ノ貸付ヲ受クル者ハ第十八條ノ規定ニ依リ其ノ種牡馬ノ讓與ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ本令公布ノ日迄其ノ繼續飼養管理シタル期間ハ第十八條ノ期間ニ之ヲ通算ス

樣式

第一號

種牡馬貸付願

一種牡馬　頭

右貸付相成度左記事項ヲ具シ此段相願候也

年　月　日

住　所

借受人　名　稱

右代表者　氏　名印

種馬所長宛

記

一　種類及其ノ他ノ希望事項

二　借受期間

三　飼養管理ノ場所

四　飼養管理ノ方法及設備

五　管理人ノ住所氏名

六　經費豫算

第二號　（縱四寸五分橫六寸）

第　號

貸付種牡馬證明書

名稱　號

種類

生年月日　年　月　日

體高　尺　寸　分

毛色及特徵

產地

血統　父　種　號　母　種　號

借受人住所名稱

管理人住所氏名

貸付期間　自　年　月　日　至　年　月　日

右貸付種牡馬タルコトヲ證明ス

年　月　日

種馬所印

第三號

貸付種牡馬種付臺帳

年

第四號

種牡馬名稱　號

種類	毛色	年齡	體高	血統
				父　種　號 母　種　號

種付牝馬						種付月日	產駒					所有者（又ハ管理人）		摘要
名稱	種類	毛色	年齡	體高	產地		分娩月日	性	毛色	特徵	產地	住所	氏名	

注意

摘要欄ニハ不受胎、流產、死產若ハ種付證又ハ血統證ノ交付其ノ他產駒ノ良否等必要ノ事項ヲ記入スヘシ

第四號

年　月　日

種馬所長宛

借受人　名　稱

右代表者　氏　名印

貸付種牡馬　年種付牝馬表

種牡馬名稱	種付牝馬頭數				同上縣郡市町村別頭數
	洋種	雜種	和種	計	
計					

注意

一　種付牝馬ノ縣郡市町村別頭數欄ニハ種付シタル牝馬飼養地ノ縣郡市町村別ニ頭數（種類別ニスルヲ要セス）ヲ記入スヘシ

二　種牡馬ヲ種付ニ供用セサルトキ又ハ種付牝馬頭數寡少ナルトキハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

第五號

年　月　日　　借受人　名稱

種馬所長宛　　右代表者　氏名印

貸付種牡馬　年産駒表

種牡馬名稱	前年種付牝馬 種類	前年種付牝馬 頭數	同上受胎頭數	産駒頭數 牡	産駒頭數 牝	産駒頭數 計	摘要
	洋種						
	雜種						
	和種						
	計						
	洋種						
	雜種						
	和種						
	計						
合計	洋種						
	雜種						
	和種						
	計						

注意

一　前年種付牝馬頭數欄ニハ樣式第四號ノ種付牝馬表ノ頭數ヲ記入シ斃死又ハ所在不明ノモノハ其ノ頭數ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

二　流産、死産又ハ雙子ハ其ノ頭數ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

第六號

年　月　日　　借受人　名稱

種馬所長宛　　右代表者　氏名印

貸付種牡馬　年産駒賣却價格表

種牡馬 名稱	種牡馬 種類	産駒 年齡	性	賣却頭數	賣却價格 總額	最高	最低	平均	摘要

	牡	牝	計	牡	牝	計	合計 牡	牝	計
	圓								
	圓								
	圓								
	圓								

●牝馬臨時貸下規程

（明治三十九年一月八日農商務省令第二號　改正　明治四〇年閣令第一號、四三年陸令第一一號）

牝馬臨時貸下規程左ノ通定ム

牝馬臨時貸下規程

第一條　馬匹ノ改良及蕃殖ノ爲農商務大臣ハ地方及頭數ヲ指定シテ臨時ニ牝馬ノ貸下ヲ爲ス

第二條　前條ノ貸下ハ左ニ揭クル者ニシテ地方長官ノ選定シタル者ニ限リ之ヲ爲ス

一　産馬組合又ハ産馬組合聯合會

二　産牛馬組合又ハ産牛馬組合聯合會

三　種畜場

四　縣、郡、縣農會、郡農會

五　産馬業ニ經驗ヲ有シ身元確實ナル者

第三條　前條ニ依リ地方長官ノ選定ヲ受ケタル者ハ地方長官ヲ經由シテ第一號書式ノ願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四條　貸下ノ許可ヲ得タル者ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ第二號書式ノ借受書ヲ差出シテ馬匹ヲ受領スヘシ

前項馬匹ハ地方長官之ヲ指定ス但シ其ノ指定ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五條　借受者貸下牝馬ニ付管理人ヲ置キ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ其ノ都度地方長官ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項管理人ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第六條　借受者ハ明治三十九年ニ於テ一頭四十圓明治四十年ヨリ向五箇年間毎年一頭三十二圓ノ貸下料ヲ四月及十月ノ二回ニ納付スヘシ但シ明治四十三年以後ハ連年蕃殖ノ成績不良ナルモノニ限リ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ貸下料ヲ毎年十月一頭拾六圓宛向四年間ニ納付スルコトヲ得

前項ノ貸下料ハ地方長官ノ發スル納入告知書ニ依リ納付スヘシ

地方長官第一項但書ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ都度陸軍大臣ニ報告スヘシ

第七條　前條ノ貸下料ヲ完納シタルトキハ貸下牝馬ハ借受者ノ所有ニ歸ス

第八條　借受者貸下牝馬ニ種付ヲ爲サムトスルトキハ種付前其ノ種牡馬ニ付監督種馬所長又ハ種馬牧場長ノ認可ヲ受クヘシ但シ監督種馬所長又ハ種馬牧場長ナキトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　借受者ハ第三號書式ノ蕃殖臺帳ヲ備置キ産駒ニ關スル狀況ヲ記載スヘシ

第十條　貸下牝馬分娩シタルトキ又ハ産駒斃死シタルトキハ其ノ都度地方長官ニ報告スヘシ

第十一條　貸下牝馬ノ産駒ハ借受者ノ所得トス

第十二條　産駒ハ明ケ二歳ニ至ラサレハ賣却スルコトヲ得ス但シ特ニ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　貸下牝馬ニ斃死又ハ其ノ他ノ事故ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ速ニ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ斃死ノ場合ニ於テハ獸醫ノ檢案書ヲ添付スヘシ

第十四條　貸下牝馬蕃殖成績不良ナルトキ又ハ老衰セリト認ムルトキハ借受者ハ之ヲ返納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ既納ノ貸下料ハ之ヲ還付セス

第十五條　貸下牝馬ノ借受返納其ノ他ニ要スル一切ノ費用ハ借受者ノ負擔トス

第十六條　貸下牝馬ニ付テハ農商務大臣、地方長官、種馬所長及種馬牧場長之ヲ監督ス

第十七條　農商務大臣、地方長官、種馬所長又ハ種馬牧場長ハ部下ノ官吏ヲシテ隨時貸下牝馬及其ノ産駒ノ狀況竝第九條ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得

借受者ハ陸軍官憲ノ要求アルトキハ何時ニテモ前項ノ檢査ヲ受クヘキモノトス

第十八條　地方長官種馬所長又ハ種馬牧場長ハ貸下牝馬ニ關シ必要ト認ムルトキハ借受者ニ命令ヲ發スルコトヲ得

第十九條　借受者ニ於テ本規程若ハ第十八條ニ基ク命令ニ違背シ又ハ檢査ヲ拒ミタルトキハ貸下牝馬ノ返納ヲ命スルコトヲ得

第二十條　借受者故意又ハ怠慢ニ依リ貸下牝馬ニ損害ヲ與ヘタルトキハ相當ノ價額ヲ賠償セシムヘシ

第一號書式

牝馬貸下願

一牝馬　何頭

右馬匹改良蕃殖ニ供シ度候間貸下相成度此段相願候也

年　月　日

住所

右借受者　氏　名（又ハ團體代表者）印

農商務大臣宛

第二號書式

牝馬借受書

一牝馬　何頭

但シ別紙明細表ノ通リ

右馬匹改良蕃殖ノ爲貸下相成候ニ就テハ牝馬臨時貸下規程ハ勿論左記ノ各項遵守可致萬一違背致候節ハ何時返納ヲ命セラレ候共聊異存無之御指定ノ期日及場所ニ率付返納可仕借受書如此候也

年　月　日

住所

右借受者　氏　名（又ハ團體代表者）印

農商務大臣宛

一　官廳ノ指揮ニ從ヒ常ニ衞生ニ注意シ誠實ニ飼養管理可致事

二　貸下牝馬ハ專ラ蕃殖ノ用ニ供スヘキ事

三　農商務若ハ陸軍官憲又ハ地方長官ノ要求アルトキハ何時ニテモ飼養地ヨリ約六里以內ノ御指定地ニ産駒ト共ニ自費ニテ率出シ御檢査ヲ受クヘキ事

四　疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ速ニ獸醫ノ治療ヲ受クルコト

第三號書式

母馬名

種類	年齡	毛色	身幹	借受年月	飼育地	借受者住所氏名

産駒

年次 事項	種牡馬				種付月日	分娩月日	産駒			事故月日	賣却			備考
	種類	名稱	毛色	年齡			名稱	性	毛色		月日	賣價	地方	
第一年【明治】年														
第二年【明治】年														
第三年【明治】年														
第四年【明治】年														
第五年【明治】年														
第六年【明治】年														
第七年【明治】年														
第八年【明治】年														

（備考）

一　一頁每ニ母馬一頭及其ノ産駒ヲ記載ス

二　事故トハ斃死、撲殺等ヲ云フ

三　借受者ニ於テ管理人ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名ヲ附記スヘシ

●種馬牧場及種馬所馬匹預託規則

（明治三十年一月七日農商務省訓令第一號）

農務局　種馬牧場　種馬所

種馬牧場及種馬所馬匹預託規則左ノ通相定ム

種馬牧場及種馬所馬匹預託規則

第一條　種馬牧場及種馬所ニ於テ飼養スル馬匹ヲ預託飼養セシムルトキハ此規定ニ依ルヘシ

第二條　受託人ハ馬匹ノ飼養ニ熟達シ身元確實ナル者ニ限ル

受託人ハ身元確實ナル保證人ヲ要ス

第三條　馬匹預託期限及馬匹預託飼養料ハ種馬牧場長若クハ種馬所長之ヲ定ム

飼養料ハ飼養ノ結果ニ依リ其金額ヲ增減スルコトヲ得

第四條　馬匹預託飼養料ハ馬匹返納ノ後交付ス但シ時宜ニ依リ數回ニ交付スルコトヲ得

第五條　預託馬匹ノ輸送費ハ種馬牧場長若クハ種馬所長ニ於テ其實費ヲ仕拂フヘシ

第六條　馬匹預託中疾病負傷等ノ爲メ治療ヲ要シタルトキハ種馬牧場長若クハ種馬所長ハ其實費ヲ仕拂フヘシ但シ其原因受託人ノ

不注意ニ出ツルモノハ此限リニアラス

第七條　種馬牧場長若クハ種馬所長ハ馬匹預托中受托人ヲシテ左ノ各項ヲ確守セシムヘシ

一、常ニ衞生ニ注意シ飼料ヲ精選シ誠實ニ管理飼養スルコト

二、適當ノ運動ヲナサシムルノ外使役セサルコト

三、疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ速ニ獸醫ノ治療ヲ受ケ同時ニ種馬牧場若クハ種馬所ニ急報スルコト

四、傳染病發生シ若クハ蔓延ノ兆アルトキハ速ニ適當ノ所置ヲナスコト

五、斃死流產等ノ場合ニ於テハ其狀況ヲ詳記シ診斷書及證明書類ヲ添ヘ速ニ種馬牧場若クハ種馬所ニ届出テ指揮ヲ受クルコト

六、預托馬匹逸走シ又ハ盜奪セラレタルトキハ直ニ最寄警察署、警察分署若クハ巡査駐在所ニ届出テ同時ニ種馬牧場若クハ種馬所ニ急報スルコト

七、前項ノ外種馬牧場長若クハ種馬所長ヨリ特ニ指定シタル事項ヲ遵守スルコト

第八條　種馬牧場長若クハ種馬所長ハ隨時預托馬匹ノ檢查ヲ行フヘシ但シ受托人ヲシテ特ニ指定ノ場所ニ馬匹ヲ牽出サシムルコトヲ得

第九條　預托中ト雖トモ種馬牧場若クハ種馬所ノ便宜ニ依ルカ若クハ受托人ニ於テ此規定ヲ遵守セサル行爲アリト認ムルトキハ何時タリトモ預托ノ馬匹ヲ返納セシムヘシ

第十條　第七條第五項第六項ノ場合ニ於テ損失ノ原因受托人ノ故意又ハ不注意ニ出タルモノト認ムルトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシムルコトヲ得

第十一條　種馬牧場長若クハ種馬所長ハ受托人ヲシテ馬匹受取ノ際左記書式ノ預證ヲ差出サシムヘシ

書式

印紙㊞　何々種馬牧場／何々種馬所　馬匹預證

一馬匹何頭

馬匹明細表

種類	名稱	牝牡	毛色	年齡	寸尺	特徵	一日分飼養料

右ハ種馬牧場及種馬所馬匹預托規則ヲ遵守シ明治何年何月何日ヨリ向フ何箇月間受托致候ニ就テハ誠實ニ飼養管理可仕ハ勿論萬一不行届ノ廉有之御規定ノ御處分有之候トモ決シテ違背不仕候若シ本人ニ於テ此契約ニ背キ候節ハ保證人ニ於テ一切引受ケ處辨可仕候依テ保證人連署證書如斯候也

年　月　日

受托人
何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地住
何府(縣)何族(平民)
氏　名　㊞

保證人
何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地住
何府(縣)何族(平民)
氏　名　㊞

何々種馬牧場／何々種馬所　長官姓名殿

●馬匹去勢法

（明治三十四年四月四日法律第二十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル馬匹去勢法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、農商務大臣副署）

馬匹去勢法

第一條　牡馬ニハ去勢ヲ行フ但シ種牡馬ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　牡馬ニシテ種牡馬タルヘキ資質アリト認メタルモノニハ頭數ヲ限リ去勢ノ施行ヲ猶豫ス

疾病又ハ發育不全ニ因リ去勢ヲ行フニ堪ヘスト認メタルモノ若ハ學術研究ノ爲行政官廳ノ許可ヲ得タルモノニハ去勢ノ施行ヲ猶豫スルコトヲ得

第三條　牡馬ノ去勢年齡ハ明ケ三歲トス

去勢ハ春期又ハ夏期ニ於テ之ヲ行フ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル牡馬ニハ去勢年齡ニ拘ハラス去勢ヲ施行ス但シ明ケ十五歲以上ノモノハ此ノ限ニ在ラス

一　去勢ノ施行ヲ猶豫シ其ノ他已ムヲ得スシテ去勢ヲ施行スルコトヲ得サリシ牡馬ニシテ其ノ事由消滅シタルモノ

二　去勢年齡ヲ經過シタル牡馬ニシテ本法施行後本法ヲ施行セサル島嶼ヨリ牽キ入レ又ハ外國ヨリ輸入シタルモノ

三　本法施行ノ際去勢年齡ヲ經過シタルモノヲ除クノ外種牡馬ニシテ檢查合格ノ證明ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第五條　牡馬ニシテ去勢施行ノ爲斃死シ又ハ從來ノ用途ヲ變更若ハ廢止スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ償金ヲ與フヘシ

第六條　去勢施行ノ費用ニ關スル規定竝前條償金ノ查定ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　牡馬ノ去勢ノ施行ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　本法ハ種牡馬檢查法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ施行セス

（大正五年勅令第二百三十二號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

●馬匹去勢法施行規則

（大正五年十月二十七日陸軍省令第十一號）

改正　大正六年第一〇號、八年第四四號、一〇年第一三號、一二年農商務省令臨第一二號、一三年第二九號、一五年農林省令第一八號

馬匹去勢法施行規則左ノ通定ム

馬匹去勢法施行規則

第一章　總則

第一條　去勢ヲ猶豫スヘキ馬匹ノ檢查及馬匹ノ去勢ハ地方長官之ヲ行フ

第二條　官廳ノ所有ニ屬スル馬匹ノ去勢ニ關シテハ農林大臣本則ノ規定ニ依ラス適宜之ヲ行フコトヲ得

第三條　地方長官去勢施行ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ之ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第四條　去勢ヲ猶豫スヘキ馬匹ノ檢查又ハ去勢ノ施術ニ際シ必要アリト認メタルトキハ市町村長ハ之ニ立會ヒ又ハ當該市町村ノ吏員ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第五條　本則ニ依ル馬匹ノ所有者ノ届出ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條　去勢ヲ行フヘキ馬匹ノ所有者其ノ馬匹ヲ現住地外ノ市町村ニ置クトキ其ノ他必要アルトキハ管理者ヲ設クヘシ

前項ノ管理者ハ馬匹所在地ノ市町村ニ居住スル者ニ限ル

第七條　馬匹ノ所有者前條ノ管理者ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ住所氏名ヲ管理者現住地ノ市町村長ニ届出ツヘシ

第八條　本則中所有者ニ關スル規定ハ馬匹ノ管理者アルトキハ管理者ニ之ヲ適用ス

第九條　本則中町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ町村ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

市制第六條及同第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本則中市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市ニ關スル規定ハ區ニ之ヲ適用ス

第二章　調查

第十條　明ケ二歲ノ牡馬、馬匹去勢法第四條各號ノ一ニ該當スル牡馬及去勢ヲ猶豫セラレタル牡馬ノ所有者ハ其ノ年十二月一日ヨリ同十日迄ノ間ニ去勢馬匹現在届（第一様式）ヲ馬匹所在地ノ市町村長ニ差出スヘシ但シ北海道ニ於テハ翌年一月一日ヨリ同二十日迄ニ本條ノ届出ヲ爲スヘシ

去勢猶豫ノ檢查ヲ請求セムトスル者ハ去勢馬匹現在届ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

去勢馬匹現在届提出後檢查又ハ去勢終了前ニ其ノ馬匹ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ第一項ノ馬匹ヲ所有スルニ至リタルトキハ第二様式ニ依リ直ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第十一條　市町村長ハ前條ノ届出ニ依リ去勢馬匹連名簿（第三様式）及檢查馬匹連名簿（第四様式）ヲ調製シ檢查馬匹連名簿ハ之ヲ檢查前去勢猶豫馬匹檢查員ニ、去勢馬匹連名簿ハ之ヲ去勢施術前去勢技術員ニ交付スヘシ

第十二條　市町村長ハ去勢馬匹頭數表（第五様式）ヲ調製シ十二月三十一日迄ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ但シ北海道ノ町村長ニ在リテハ翌年二月十日迄ニ之ヲ北海道廳支廳長ニ、北海道ノ市長ニ在リテハ翌年二月末日迄ニ之ヲ北海道廳長官ニ提出スヘシ

北海道廳支廳長ハ前項ノ去勢馬匹頭數表ニ依リ管內ヲ通シタル去勢馬匹頭數表ヲ調製シ翌年二月末日迄ニ之ヲ北海道廳長官ニ提出スヘシ

第十三條　地方長官ハ前條ノ去勢馬匹頭數表ニ基キ去勢猶豫馬匹檢查計畫概要書（第六様式ノ一）及去勢計畫概要書（第六様式ノ二）ヲ調製シ翌年一月二十五日（北海道ニ在リテハ翌年三月二十日）迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ

第十四條　市町村長第十條第三項ノ届出ヲ受ケタルトキハ去勢馬匹連名簿及檢查馬匹連名簿ヲ訂正スヘシ

前項ノ届出カ馬匹連名簿交付ノ後ナルトキハ其ノ旨ヲ檢查員又ハ去勢技術員ニ通知スヘシ

第十五條　馬匹檢查又ハ去勢終了後ニ於テ第十條第一項ノ馬匹ヲ所有スルニ至リタル者ハ其ノ旨ヲ馬匹所在地ノ市町村長ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ市町村長ハ之ヲ地方長官ニ報告シ地方長官ハ乙種去勢猶豫證（第八様式）ヲ馬匹ノ所有者ニ交付スヘシ

第十六條　道府縣市町村ノ所有ニ屬スル馬匹ハ地方長官又ハ市町村長ニ於テ之ヲ調查シ第十一條乃至第十五條ノ規定ニ準シ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第三章　檢查

第十七條　馬匹去勢法第二條第一項ニ依リ去勢ヲ猶豫スヘキ馬匹ハ所有者ノ請求ニ依リ檢查ノ上之ヲ決定ス同法第二條第二項ニ依リ學術研究ノ爲去勢ヲ猶豫スヘキ馬匹ニ付亦同シ

第十八條　前條ノ檢查ハ地方長官一人ノ去勢猶豫馬匹檢查員ヲシテ之ヲ行ハシム其ノ期日、場所及區域ハ地方長官之ヲ告示シ其ノ旨ヲ直ニ農林大臣ニ報告スヘシ

檢查員ハ地方長官其ノ所屬ノ官吏又ハ待遇官吏ノ中ヨリ之ヲ命ス

第十九條　檢查ヲ受クヘキ馬匹ノ所有者ハ地方長官ノ告示ニ依リ其ノ馬匹ヲ當該檢查所ニ牽付クヘシ

檢查員ハ檢查ノ上馬匹去勢法第二條第一項ニ該當スル馬匹又ハ同法第二條第二項ニ依リ學術研究ノ爲去勢ヲ猶豫スヘキ馬匹ニハ甲種去勢猶豫證（第七様式）ヲ其ノ馬匹ノ所有者ニ交付スヘシ

第二十條　正當ノ事由ニ依リ馬匹ノ檢查ヲ受クルコト能ハサルトキハ所有者ハ事由ヲ具シ直ニ其ノ旨ヲ馬匹所在地ノ市町村長ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ市町村長ハ之ヲ地方長官ニ報告シ地方長官ハ乙種去勢猶豫證ヲ馬匹ノ所有者ニ交付スヘシ

第二十一條　檢查員馬匹ノ檢查ヲ終リタルトキハ去勢猶豫馬匹檢查成績（第九様式）及去勢猶豫馬匹連名簿（第十様式）ヲ地方長官ニ、地方長官管內ノ檢查ヲ終リタルトキハ第九様式ニ準シタル去勢猶豫馬匹檢查成績報告ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

檢查員馬匹ノ檢查ニ於テ不合格ト爲リタル馬匹又ハ不參ノ馬匹アリタルトキハ其ノ旨ヲ當該市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ去勢猶豫不合格及不參馬匹連名簿（第十一様式）ヲ調製シ去勢技術員ニ交付スヘシ

第二十二條　去勢ノ施行ヲ猶豫セラレタル馬匹ヲ讓渡シタルトキハ馬匹ノ所有者ハ去勢猶豫證ノ裏面相當欄ニ讓受人ノ住所氏名及讓渡ノ事由ヲ記入シテ捺印スヘシ

第四章　去勢

第二十三條　地方長官ハ去勢ノ期日、場所及區域ヲ定メ之ヲ告示シ其ノ旨ヲ直ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第二十四條　去勢ノ施術ハ去勢技術員之ヲ行フ

去勢技術員ハ馬匹去勢術練習生規則ニ依リ修業證書ヲ有スル獸醫又ハ之ト同等以上ノ技能アリト認ムル獸醫ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ス

去勢技術員ハ去勢技術員徽章（附圖）ヲ裝著スヘシ

第二十五條　去勢ノ施術ヲ受クヘキ馬匹ノ所有者ハ地方長官ノ告示ニ依リ其ノ馬匹ヲ當該去勢所ニ牽付クヘシ去勢施術後診斷治療ノ爲去勢技術員ヨリ其ノ馬匹牽付ノ通知ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ馬匹ニシテ治療ノ必要ニ依リ去勢技術員其ノ馬匹ヲ宿泊セシメタルトキハ一頭一夜每ニ一圓以下ノ宿泊手當ヲ馬匹ノ所有者ニ給ス其ノ額ハ土地ノ狀況其ノ他ノ必要ニ依リ地方長官之ヲ定ム

第二十六條　正當ノ事由ニ依リ馬匹ヲ去勢期日ニ去勢所ニ牽付クルコト能ハサルトキハ所有者ハ直ニ市町村長ノ證明ヲ得其ノ旨ヲ去勢技術員ニ届出ツヘシ

前項ノ事由消滅シタルトキハ馬匹ノ所有者ハ直ニ當該去勢所又ハ最寄去勢所ニ其ノ馬匹ヲ牽付ケ去勢ノ施術ヲ受クヘシ

最寄去勢所閉鎖ノ期ニ至ルモ尙第一項ノ事由消滅セサルトキハ馬匹ノ所有者ハ市町村長ヲ經テ乙種去勢猶豫證ノ交付ヲ地方長官ニ願出ツヘシ

第二十七條　正當ノ事由ナクシテ去勢期日ニ去勢所ニ牽付ヲ爲ササル馬匹ノ所有者ハ地方長官指定ノ期日內ニ自己ノ費用ヲ以テ去勢ヲ行フヘシ

詐欺其ノ他ノ不正ノ所爲ヲ以テ去勢ノ施術ヲ免レタル馬匹ノ所有者亦前項ニ同シ

第二十八條　去勢スヘキ馬匹ニシテ疾病又ハ發育不全ニ因リ去勢ヲ行フニ堪ヘスト認メタルトキハ去勢技術員ハ去勢ノ施術ヲ猶豫シ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告シ地方長官ハ乙種去勢猶豫證ヲ馬匹ノ所有者ニ交付スヘシ

第二十九條　警察官吏、馬匹行政ニ關係アル官吏又ハ去勢技術員去勢猶豫證ノ閲覽ヲ求メタルトキハ其ノ馬匹ノ所有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條　去勢猶豫證ノ效力ハ馬匹所在地ニ於ケル翌年ノ去勢期日迄トス

第三十一條　去勢猶豫證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ馬匹ノ所有者ハ市町村長ヲ經テ乙種去勢猶豫證ノ交付ヲ地方長官ニ願出ツヘシ

第三十二條　去勢猶豫證ヲ有スル馬匹ノ所有者ハ種牡馬檢查又ハ去勢猶豫馬匹檢查ニ合格シタル馬匹ニ在リテハ當該檢查員ニ、其ノ他ノ馬匹ニ在リテハ當該去勢技術員ニ其ノ猶豫證ヲ返納スヘシ

去勢猶豫證ノ返納ヲ受ケタル檢查員又ハ去

勢技術員ハ其ノ猶豫證ヲ一括シテ之ヲ地方長官ニ送付スヘシ

第三十三條　去勢所閉鎖ノ期日ニ至ルモ尙去勢施術後ノ治療ヲ要スル馬匹アルトキハ地方長官ハ適宜ノ方法ニ依リ其ノ治療ヲ最寄ノ獸醫ニ委託スルコトヲ得

第三十四條　地方長官去勢ノ施行ヲ終リタルトキハ馬匹去勢成績報告（第十二樣式）ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第三十五條　地方長官前條ノ報告ヲ爲シタル後乙種去勢猶豫證ヲ交付シタル馬匹アルトキハ其ノ頭數ヲ毎年十二月三十一日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第五章　癈斃馬ノ評價及償金

第三十六條　馬匹去勢法第五條ニ該當スル馬匹アルトキハ地方長官ハ去勢馬匹評價書（第十三樣式）及去勢技術員、馬匹治療ノ委託ヲ受ケタル獸醫又ハ地方廳ノ官吏若ハ吏員ニシテ獸醫タル者ノ癈斃馬鑑定書（第十四樣式）ヲ徵シ償金額査定見込書ト共ニ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第三十七條　市町村若ハ之ニ準スヘキモノノ吏員又ハ馬匹ノ賣買ニ關スル經驗アル者ノ中ヨリ命セラレタル馬匹評價員ニハ評價ノ當日ニ限リ二圓以下ノ手當ヲ給ス

第六章　罰則

第三十八條　詐欺其ノ他ノ不正ノ所爲ヲ以テ馬匹去勢ノ施行ヲ免レタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第二十七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條　第十條第一項第三項第十五條第一項第二十六條第一項ノ屆出ヲ怠リタル者第二十五條第一項第二十六條第二項ノ馬匹ノ牽付ヲ爲サザル者又ハ第二十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本則ハ大正五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一樣式

去勢馬匹現在屆

名稱（又ハ番號）何歳何毛（特徵）（檢査請求種牡馬候補學術研究何種猶豫證所持）

右屆出候也

年月日

住所

所有者（管理者）　氏名㊞

市町村長宛

備考

一　去勢ノ猶豫ヲ希望スル者ハ檢査請求及其ノ事由ヲ記載スヘシ

二　去勢猶豫證ヲ所持スル馬匹ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

三　年齡ハ算ヘ年ヲ用ウ

四　星、流星又ハ肢ノ白毛等他ノ馬匹ト區別シ得ヘキ特徵ヲ有スル馬匹ニ在リテハ成ルヘク詳細ニ之ヲ記載スヘシ

第二樣式

去勢馬匹異動屆

名稱（又ハ番號）何歳何毛（特徵）（何月何日斃死、屠殺、失踪、自費去勢施行又ハ何住所何某ニ讓渡何月何日何住所何某ヨリ讓受、何地ヨリ移入又ハ蹤跡發見）

右屆出候也

年月日

住所

所有者（管理者）　氏名㊞

市町村長宛

備考

一　去勢猶豫證ヲ有スル馬匹ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第三樣式

大正　年去勢馬匹連名簿　何郡市町村

名稱又ハ番號	年齡	毛色	特徵	摘要	所有者（管理者）氏名

備考

一　摘要欄ニハ馬匹異動ノ月日及事由其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

二　用紙ハ半紙判罫紙トス

第四樣式

大正　年檢査馬匹連名簿　何郡市町村

猶豫證番號	名稱又ハ番號	年齡	體高	毛色	特徵	檢査成績	摘要	所有者（管理者）氏名

備考

一　猶豫證番號、體高及檢査成績ノ三欄ハ檢査員之ヲ記載スヘシ

二　摘要欄ノ記載方ハ第三樣式ニ同シ

三　用紙ハ半紙判罫紙トス

第五樣式

大正　年去勢馬匹頭數表　何郡市町村

去勢馬匹頭數				檢査請求頭數			
三歳	四歳	五歳以上	計	三歳	四歳	五歳以上	計

備考

一　去勢馬匹頭數欄ニハ屆出馬匹ノ總數ヲ記載スヘシ

二　用紙ハ半紙判罫紙トス

第六樣式ノ一

去勢猶豫馬匹檢査計畫概要書

第何班　檢査員　官職　氏名

檢査所地名	檢査請求頭數	檢査期日	摘要
郡市町村			

備考

一　摘要欄ニハ檢査實施上參考ト爲ルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第六樣式ノ二

去勢計畫概要書

去勢班數及技術員數　何班何人

第何班

去勢所地名	去勢馬匹頭數	去勢馬匹豫定頭數	去勢期日		摘要
郡市町村			開始	終了	

備考

一　去勢馬匹頭數欄ニハ屆出馬匹ノ總數ヲ記載スヘシ

二　摘要欄ニハ去勢實施上參考ト爲ルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第七樣式

表　面

五寸

七寸

第何號

甲種去勢猶豫證

住所

所有者（管理者）　氏名

名稱　何號

年齡　何歳

體高　何尺何寸何分

毛色　何毛

特徵

檢査地

右馬匹去勢法第二條第一項ニ依リ（第二項ニ依リ學術研究ノ爲）去勢ノ施行ヲ猶豫ス

年月日　㊞

道廳何府縣　印

備考

一　紙色ハ白色トス

二　年月日ノ下㊞ハ檢査員ノ認印トス

裏面

年月日	異動

注意

一此ノ證書ハ馬匹牽出ノ際ハ常ニ携帶スヘシ
一此ノ證書ノ效力ハ翌年ノ去勢期日迄トス
一此ノ證書ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ乙種去勢猶豫證ノ下附ヲ地方長官ニ願出ツヘシ
一異動欄ニハ何住所何某ニ讓渡又ハ預入等ヲ記入シ捺印スヘシ
一此ノ證書ハ馬匹ノ讓渡又ハ預入等ノ異動アリタルトキハ馬匹ト共ニ引渡スヘシ

第八樣式

表面

第何號

乙種去勢猶豫證

住所
所有者(管理者)氏名

名稱　何號
年齡　何歲
毛色特徴　何毛
猶豫事由

右馬匹去勢法施行規則第十五條第二項(第二十條第二項第二十六條第三項第二十八條)ニ依リ去勢ノ施行ヲ猶豫ス

年月日 ㊞

道廳何府縣廳

五寸

七寸

備考
一　裏面ハ第七樣式ニ同シ
二　紙色ハ橙黃色トス
三　本則第三十一條ノ場合ニ於テ交付スル乙種去勢猶豫證ニ在リテハ「右」ノ下ヲ「馬匹去勢法施行規則第三十一條ニ依リ此ノ證ヲ交付ス」ト記載ス
四　年月日ノ下㊞ハ取扱主任ノ認印トス

第九樣式

去勢猶豫馬匹檢査成績

檢査所地名		檢査請求				檢査									不參
郡市	町村	三歲	四歲	五歲以上	計	合格				不合格				合計	
						三歲	四歲	五歲以上	計	三歲	四歲	五歲以上	計		
合計															
備考	甲種猶豫合格豫定頭數何頭ニ對スル合格頭數ノ百分比例 學術研究ノ爲去勢ヲ猶豫シタルモノアルトキハ其ノ馬匹ノ頭數ヲ年齡別ニ別記スヘシ														

檢査ノ景況
所感又ハ意見
右提出候也
年月日

道廳何府縣第何班
去勢猶豫馬匹檢査員　官職　氏名 ㊞

地方長官宛

第十樣式

去勢猶豫馬匹連名簿

郡市町村	猶豫證番號	名稱又ハ番號	年齡	體高	毛色	特徴	所有者(管理者)氏名

計何頭
年月日

道廳何府縣第何班
去勢猶豫馬匹檢査員　官職　氏名 ㊞

備考
一　學術研究ノ爲馬匹ノ去勢猶豫ヲ願出タル者アルトキハ其ノ馬匹ノ名稱又ハ番號ヲ朱書スヘシ

第十一樣式

去勢猶豫不合格及不參馬匹連名簿

何郡市町村

名稱又ハ番號	年齡	毛色	特徴	摘要	所有者(管理者)氏名

備考
不參馬匹ハ其ノ事由ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

第十二樣式

馬匹去勢成績報告

去勢馬匹頭數表

道廳何府縣

去勢班	郡名	去勢所地名	去勢豫定頭數	乙種猶豫頭數				去勢頭數	期限內治癒			委託治療			宿泊	癈斃	摘要
				疾病	發育不全	事故	計		頭數	治療日數		頭數	治療日數				
										計	平均		計	平均			
計		何箇所															

備考
一　豫定頭數ハ檢査請求ヲ除キタル屆出頭數ニ檢査不合格及檢査不參馬匹頭數ヲ加ヘタルモノトス
二　期限內治癒ハ去勢技術員ノ治療中ニ癒エタルモノニシテ癈斃馬ノ治療日數及委託治療ノ頭數日數ヲ含マス
三　委託治療ノ日數ハ委託ノ當日ヨリ治癒又ハ癈斃ニ至ル迄ノ日數トス
去勢班ノ組織及技術員氏名
各去勢所開閉期日及日數（去勢計畫概要書ニ同シキモノハ記載ニ及ハス其ノ變更シタルモノハ事由ヲ記載スルコト）
各去勢班ノ採用シタル馬匹保定法及術式
所有者自ラ去勢ヲ行ヒタル馬匹ノ數(年齡別)
自費去勢ヲ命シタル馬匹ノ數(年齡別)
處罰ヲ受ケタル馬匹所有者ノ數
去勢施行上ノ事故
去勢ニ關スル地方人民ノ意嚮
意見

第十三様式

去勢馬匹評價書

名稱又ハ番號	年齡	毛色	特徵	評價		所有者 管理者
				斃廢前	廢役後	

右評價候也

年　月　日

住所
馬匹去勢技術員（治療ノ委託ヲ受ケタル獸醫）　氏　　名㊞

住所
職業　氏　　名㊞

住所
職業　氏　　名㊞

備考

一　管理者アル場合ト雖所有者ノ住所氏名ヲ併記スヘシ

二　地方廳ノ官吏若ハ吏員ニシテ獸醫タル者ノ作製ニ係ル場合ハ官（職）名ヲモ記載スヘシ

第十四様式

斃廢馬鑑定書

住所
所有者
管理者　氏　　名

名稱又ハ番號	
年齡	
體高	
毛色特徵	
用途	
去勢施術及發病年月日	年月日施行 年月日發病
病名及發病事由	
斃死廢疾程度	年月日斃死 廢役　用途變換

右鑑定候也

年　月　日

道廳何府縣
馬匹去勢技術員（治療ノ委託ヲ受ケタル獸醫）　氏　　名㊞

備考

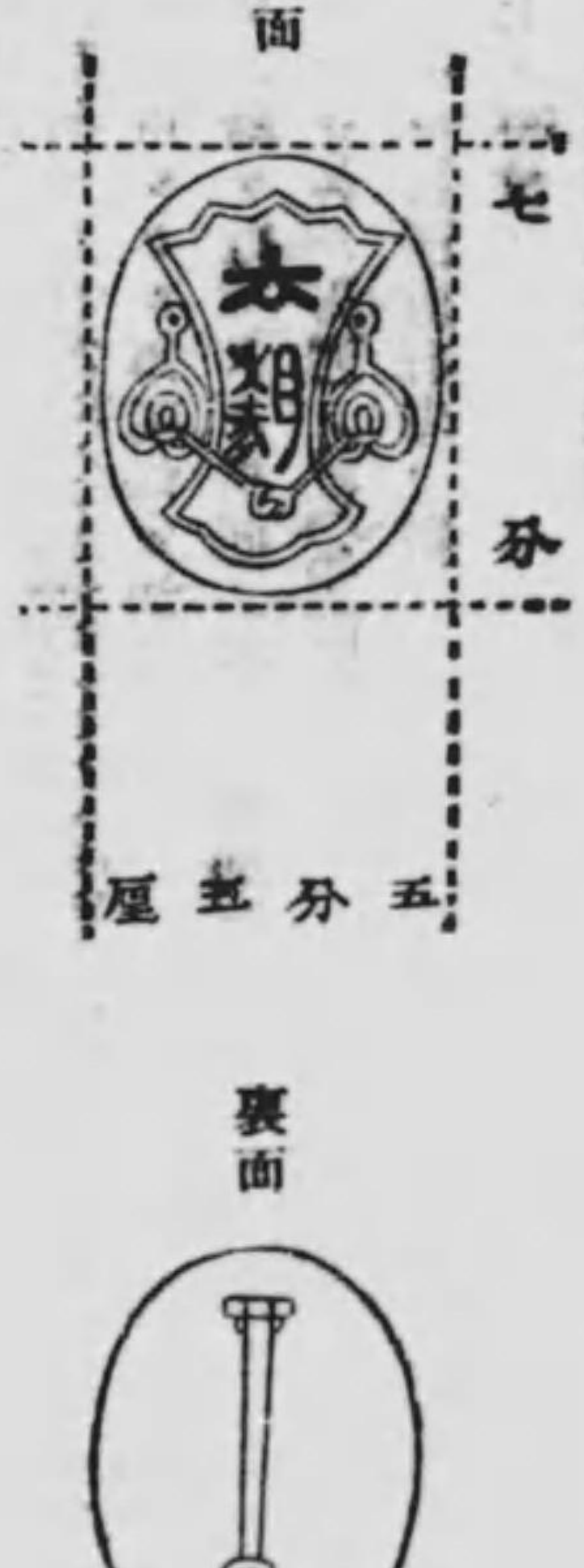
一　特徵ハ白毛、瘢痕、旋毛等ノ內特徵ト爲ルヘキモノ二三點ヲ記載スヘシ

二　管理者アル場合ト雖所有者ノ住所氏名ヲ併記スヘシ

三　地方廳ノ官吏若ハ吏員ニシテ獸醫タル者ノ作製ニ係ル場合ハ官（職）名ヲモ記載スヘシ

附圖

去勢技術員徽章



一　徽章地質ハ洋銀トス驛鈴形並轡形ハ金色トス

二　徽章ハ右胸部ノ見易キ所ニ裝著スヘシ

●馬匹去勢施行ノ費用及馬匹去勢償金ニ關スル件

（大正五年十月二十七日　勅令第二百三十三號）
改正　大正八年第八號、一〇年第二二號
昭和二年第八五號

朕馬匹去勢施行ノ費用及馬匹去勢償金ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

第一條　馬匹去勢法ニ依ル去勢施行ノ費用ハ國庫ノ負擔トス但シ第二條ニ揭クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　左ノ費用ハ馬匹ノ所有者ノ負擔トス

一　去勢猶豫ニ關スル檢査ノ爲馬匹牽付ニ要スル費用

二　去勢施術ニ關シ馬匹牽付ニ要スル費用

三　正當ノ事由ナクシテ去勢期日ニ去勢所ニ牽付ヲ爲ササル馬匹ノ去勢施術ニ關スル費用

四　詐欺其ノ他ノ不正ノ所爲ヲ以テ去勢ノ施術ヲ免レタル馬匹ノ去勢施術ニ關スル費用

第三條　馬匹去勢法第五條ノ償金ハ馬匹評價員ノ評價シタル馬匹ノ價額及馬匹損傷ノ程度ヲ參酌シ農林大臣之ヲ查定ス

前項償金ノ額ハ馬匹一頭ニ付二百圓以下トス

前條第三號若ハ第四號ノ去勢施術ヲ爲シタル馬匹又ハ正當ノ事由ナクシテ去勢施術後ノ診斷治療ヲ受ケタル馬匹ニ付テハ償金ヲ給セス

第四條　馬匹評價員ハ去勢ノ施術又ハ施術後ノ診斷治療ニ從事シタル獸醫師一人、市町村又ハ之ニ準スヘキモノノ吏員一人及馬匹ノ賣買ニ經驗アル者一人トシ地方長官之ヲ命ス

第五條　馬匹評價員又ハ馬匹ノ所有者ニハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ給スルコトヲ得

第六條　本令中馬匹ノ所有者ニ關スル規定ハ馬匹ノ管理者アルトキハ管理者ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●馬匹去勢術練習生規則

（明治三十五年二月二十二日　農商務省令第二號）

明治三十四年法律第二十二號馬匹去勢法施行ニ要スル技術者養成ノ爲メ馬匹去勢術練習生規則左ノ通相定ム

馬匹去勢術練習生規則

第一條　馬匹去勢術練習生ハ年齡滿十八歲以上四十歲以下ニシテ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ有スル者ヨリ試驗ノ上採用スルモノトス

第二條　練習生ノ募集及ヒ試驗ニ關スル手續ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシム

試驗ニ依リテ採用スヘキ人員、試驗ノ期日及ヒ場所ハ地方長官之ヲ公告ス

第三條　練習生ヲ志願スル者ハ制規ノ願書ニ履歷書、獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ證明スルニ足ル書面及醫師ノ體格檢定書ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四條　練習生ハ軍馬補充部ニ委託シテ修業セシム

修業期ハ每年春夏ノ交二箇月ヲ一期トシ二期ヲ以テ了ハルモノトス但時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條　練習生ニハ修業期中一箇月金二十圓以內ノ手當ヲ支給ス但旅費ハ之ヲ支給セス

第六條　練習生規則命令ニ違背シ又ハ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ免スヘシ

第七條　練習生修業ヲ了ヘタルトキハ其成績ヲ考査シ修業證書ヲ交付スヘシ

第八條　練習生ハ修業證書ヲ受ケタル後三年間農商務大臣ノ指定スル所ニ從ヒ去勢技術者トシテ奉職スル義務ヲ有ス

第九條　左ノ場合ニ於テハ修業期中支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

一　修業中自己ノ便宜ニ因リ練習生ヲ辭シタルトキ

二　第六條ニ依リ練習生ヲ免セラレタルトキ

三　第八條ノ義務ヲ履行セサルトキ

四　奉職義務年限中懲戒ニ由リ免官又ハ免職セラレタルトキ

書式

馬匹去勢術練習生志願書

私儀馬匹去勢術練習生志願ニ付御試驗ノ上御採用相成度修業中及ヒ修業後ハ馬匹去勢術練習生規則及ヒ其他ノ御命令堅ク遵守可致且本人身上ニ關スル件ハ保證人ニ於テ一切引受可申此段連署ヲ以テ相願候也

年　月　日

族籍住所職業誰子弟
願人　氏　　名㊞
族籍住所職業
保證人　氏　　名㊞

農商務大臣宛

●輸入馬匹屆出方

（明治四十年七月三十一日　同令第五號）

外國ヨリ馬匹ヲ輸入シタル者ハ其ノ馬匹ノ種類、血統、馬名、性、年齡、毛色、體尺、產地、特徵、價額及購買地ヲ其ノ都度【馬政長官】ニ屆出ツヘシ但シ去勢馬匹ハ此ノ限ニ在ラス

●馬籍法

（大正十年四月二十八日　法律第九十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル馬籍法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

馬籍法

第一條　馬籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

第二條　馬籍ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村內ニ於テ飼養スル馬ニ付一頭每ニ之ヲ作ル

第三條　馬籍ハ編綴シテ帳簿ト爲ス

馬籍ニハ馬ニ付左ノ事項ヲ記載ス

一　名稱
二　性
三　種類
四　毛色
五　特徵
六　產地
七　生年月日
八　體格
九　飼養場所
十　所有者ノ氏名名稱
十一　所有者ノ住所又ハ居所
十二　管理人アルトキハ管理人ノ氏名名稱及住所又ハ居所
十三　履歷

第四條　前條ノ規定ニ依ル馬籍ノ記載ハ屆出ニ依リ之ヲ爲ス但シ體格ノ記載ハ明ケ三歲以上ノ馬ニ付第十一條ノ檢査ノ結果ニ依リ之ヲ爲ス

第五條　馬籍簿ヲ閱覽シ又ハ馬籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ勅令ノ定ムル手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第六條　前條ノ手數料ハ市町村ノ收入トス

第七條　馬ノ所有者第二條ノ規定ニ依ル馬飼養ノ市町村ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサルトキハ屆出及檢査ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ市町村ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ヲ其ノ日ヨリ起算シ三十日以內ニ馬ノ管理人ト定メ其ノ馬籍ヲ管掌スル市町村長ニ之ヲ屆出ツヘシ

第八條　馬出生シタルトキ又ハ本法ノ適用ヲ受ケサル馬其ノ適用ヲ受クルニ至リタルトキハ其ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ三十日以內ニ第三條第一號乃至第七號及第九號乃至第十三號ニ揭クル事項ヲ其ノ馬籍ヲ管掌スル市町村長ニ屆出ツヘシ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ馬ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ三十日以內ニ其ノ旨ヲ其ノ馬籍ヲ管掌スル市町村長ニ屆出ツヘシ但シ第四號ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ際ノ所有者ヨリ屆出ツヘシ

一　馬ヲ所有スルニ至リタルトキ

二　馬ノ飼養場所ヲ他ノ市町村ヨリ移シタルトキ

三　馬死亡シタルトキ

四　第十五條第三號ニ該當スルニ至リタル場合ヲ除クノ外本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキ

五　前四號ニ揭クル場合ヲ除クノ外馬籍ニ關シ屆出ヲ要スル事項ニ變更アリタルトキ

前項第一號又ハ第二號ニ該當スル場合ニ於ケル屆出ニハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外馬籍謄本ヲ添附スヘシ

第十條　前二條ノ規定ニ依ル所有者ノ屆出ノ義務ハ馬ノ管理人ヲ置キタル場合ニ於テハ之ヲ管理人ノ義務トス

第十一條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ馬ノ檢査ヲ行フコトヲ得

市町村長ハ前項ノ檢査ニ立會フヘシ

第十二條　前條ノ檢査ヲ受クル馬ノ所有者又ハ管理人ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス

第十三條　第十一條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條　正當ノ理由ナクシテ第七條乃至第九條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第十五條　本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ニ付之ヲ適用セス

一　國ノ所有ニ係ルモノ

二　陸軍軍人ノ所有ニ係ルモノニシテ其ノ職務上要スルモノ

三　明ケ三十歲以上ノモノ

第十六條　本法ニ於テ市町村又ハ市町村長トアルハ市制第六條ノ市及市制第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區又ハ區長トシ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ在リテハ區又ハ區長トシ市制ヲモ町村制ヲモ施行セサル地ニ在リテハ市町村ニ又ハ市町村長ニ準スヘキモノトス

第十七條　主務大臣ハ特別ノ事情アリト認ムル場合ニ於テハ本法ヲ適用セサル地域ヲ指定スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十九年法律第六十六號ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際現ニ馬ヲ所有スル者ハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三十日以內ニ命令ノ定ムル所ニ依リ第七條及第八條ノ規定ニ準シ屆出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十四條ノ規定ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依ル馬名簿ハ之ヲ本法ニ依ル馬籍ト看做ス但シ本法ニ依リ馬籍ニ記載スヘキ事項ニシテ馬名簿ニ記載ナキモノハ前項ノ屆出ニ依リ之ヲ記載スヘシ

○馬籍法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年勅令第十六號）

●馬籍法施行規則

（大正十一年一月二十八日陸軍省令第一號）

改正 大正一二年三月三一日（農商務陸軍）省令、一五年六月三〇日（農林陸軍）省令

馬籍法施行規則左ノ通定ム

馬籍法施行規則

第一條 馬籍ハ市町村內ニ馬ノ所有者カ飼養場所ヲ定メタル馬ニ付一頭每ニ之ヲ作ルヘシ但シ放牧又ハ使用ノ爲馬ヲ其ノ市町村ヨリ離レシムルモ飼養場所ヲ變更セサルモノト看做スコトヲ得

第二條 馬籍用紙ハ美濃紙ヲ用ヰ第一樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 馬籍ハ牡、騸及牝ノ三部ニ區分シ所有者又ハ管理人ノ住所又ハ居所ノ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シ帳簿ト爲スヘシ

馬籍簿ハ之ヲ分册スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ表紙ニ番號ヲ記載スヘシ

第四條 馬籍簿ノ閱覽ハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第五條 馬籍ノ謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スヘシ

第六條 馬籍ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ受ケムトスル者ハ手數料ノ外郵送料ヲ送付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第七條 馬籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ告示シ其ノ再製又ハ補完ニ付必要ナル處分ヲ爲スヘシ

市町村長ハ前項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ヲ經テ農林大臣ニ報告スヘシ

第八條 馬籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其ノ馬籍ハ之ヲ馬籍簿ヨリ除キ年每ニ編綴シ除籍簿トシテ三年間之ヲ保存スヘシ

前項ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第九條 馬籍及馬籍簿ニ關スル規定ハ第一條、第三條第一項及第七條ヲ除クノ外除カレタル馬籍及除籍簿ニ準用ス

第十條 市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ馬籍及之ニ關スル書類ハ之ヲ當該市町村ニ引繼クコトヲ要ス

第十一條 馬籍ノ記載ハ第一樣式附屬馬籍記載例ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第十二條 體格ハ左ノ各號ノ事項ヲ記載スルモノトス

一 用役

二 體高

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事由及年月日ヲ記載シ當該馬籍ハ朱線ヲ以テ抹消スヘシ

一 馬ノ飼養場所ヲ他ノ市町村ニ移シタルトキ

二 馬死亡シタルトキ

三 馬籍法ノ適用ヲ受クル馬其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキ

前項第一號ニ該當シ馬籍ヲ抹消スルニハ第十八條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキ又ハ馬ノ飼養場所ヲ他ノ市町村ニ移シタル者、前所有者若ハ前管理人ヨリ屆出アリタル場合ニ於テ馬ノ飼養場所ヲ他ノ市町村ニ移シタル後三月內ニ第十八條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケサルトキニ於テ之ヲ爲スモノトス

第十四條 馬籍法第七條乃至第九條ノ屆出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ口頭ヲ以テ屆出ヲ爲スニハ屆出人市役所又ハ町村役場ニ出頭シ屆出ニ具備スヘキ事項ヲ陳述スルヲ要ス

市町村長ハ屆出人ノ陳述ヲ筆記シ屆出人ニ讀聞カセ且屆出人ヲシテ其ノ書面ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第一項及前項ノ書面ハ其ノ受付ケタル年月日ニ依リ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲シ保存スヘシ

前項書面ノ保存期間ニ關シテハ第八條ノ規定ヲ準用ス

第十五條 馬ヲ所有スルニ至リタルモ其ノ馬ノ飼養場所ノ在ル市町村ニ變更ナキトキ又ハ馬籍不明ノ爲馬籍謄本ノ交付ヲ受クルコトヲ得サルトキノ屆出ニハ馬籍ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス

第十六條 馬籍法第八條ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ屆出ニ付參考ト爲ルヘキ書類アルトキハ屆出ノ際之ヲ提出スヘシ

第十七條 馬籍法第七條又ハ第九條第一項ニ該當スル場合ニ於ケル屆出ニ具備スヘキ事項ハ屆出ノ年月日、屆出人ノ氏名、名稱、住所又ハ居所ノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

一 馬ヲ所有スルニ至リタルトキ又ハ馬ノ飼養場所ヲ他ノ市町村ヨリ移シタルトキハ馬籍法第三條各號ニ揭クル事項、年月日及事由但シ馬ヲ所有スルニ至リタルモ其ノ飼養場所ノ在ル市町村ニ變更ナキトキ又ハ馬籍ノ謄本ヲ添附シテ屆出ヲ爲スモノニ在リテハ馬ノ名稱、年月日、事由、飼養場所竝前所有者及前管理人ノ氏名、名稱、住所又ハ居所

二 馬死亡シタルトキハ馬ノ名稱、年月日及事由

三 馬籍法第十五條第三號ニ該當スルニ至リタル場合ヲ除クノ外同法ノ適用ヲ受クル馬其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ馬ノ名稱、年月日及事由

四 馬ヲ去勢シタルトキハ馬ノ名稱及年月日

五 馬ノ管理人ヲ定メタルトキハ年月日、管理人ノ氏名、名稱及住所又ハ居所竝其ノ管理スヘキ馬ノ名稱

六 管理人ヲ變更シタルトキハ年月日、前管理人及新ニ定メタル管理人ノ氏名、名稱、住所又ハ居所竝其ノ管理スル馬ノ名稱

七 管理人ヲ廢止シタルトキハ年月日、廢止シタル管理人ノ氏名、名稱、住所又ハ居所竝管理シタル馬ノ名稱

八 馬ノ所在不明ト爲リタルトキハ馬ノ名稱及年月日

九 所在不明ト爲リタル馬ノ所在分明シタルトキハ馬ノ名稱及年月日

十 所有者ノ氏名、名稱及住所又ハ居所ニ變更アリタルトキハ年月日及事項

十一 前各號ノ外馬籍ニ關シ屆出タル事項ニ變更アリタルトキハ年月日及事項

第十八條 馬籍法第九條第一項第二號ニ該當シ屆出アリタル場合ニ於テ市町村長馬籍ヲ作リタルトキハ其ノ馬ノ飼養場所ノ在リタル市町村長ニ遲滯ナク其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十九條 市町村長ハ每年十月一日調ヲ以テ馬調查表（第二樣式）二通ヲ調製シ町村長ニ在リテハ同月十五日迄ニ所轄警察署長（北海道ニ在リテハ北海道廳支廳長以下同シ）ニ、市長ニ在リテハ同月三十一日迄ニ徵馬管區（馬匹徵發事務細則別表ニ依ル以下同シ）所管ノ師團長ニ送付スヘシ但シ徵馬管區ニ非サル地域ニ在リテハ軍馬補充部本部長ニ送付スルモノトス

警察署長ハ前項ノ規定ニ依リ町村長ヨリ送付シタル馬調查表ヲ取纏メ前項ノ市長ニ關スル規定ニ準シ師團長又ハ軍馬補充部本部長ニ送付スヘシ

第二十條 師團長及軍馬補充部本部長ハ隨時部下ノ官吏ヲシテ馬籍簿ヲ點檢セシムルコトヲ得

第二十一條 師團長ハ所管徵馬管區內ニ於ケル馬ノ檢查ヲ行フヘシ

軍馬補充部本部長ハ徵馬管區ニ非サル地域內ニ於ケル馬ノ檢查ヲ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ行フコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ第二十三條及第二十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 削除

第二十三條 師團長ハ檢查施行三十日前迄ニ所要ノ事項ヲ關係警察署長又ハ市ニ在リテハ市長ニ通知シ同時ニ其ノ旨ヲ當該地方長官ニ通報スヘシ

警察署長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ必要ノ事項ヲ町村長ニ通達スヘシ

市長第一項ノ通知ヲ受ケタルトキ及町村長前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ馬ノ檢查ヲ受クヘキ日割ヲ定メ必要ノ事項ト共ニ檢查ヲ受クヘキ馬ノ所有者又ハ管理人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタル後新ニ檢查ヲ受クヘキ資格ヲ生シタル馬アルトキハ市町村長ハ其ノ都度前項ノ通知ヲ爲スヘシ

馬ノ所有者又ハ管理人第三項又ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ馬ヲ檢查場ニ牽付クヘシ

馬ノ疾病、傷痍、分娩其ノ他ノ事由ニ因リ檢查場ニ牽付クルコト能ハサルトキハ所有者又ハ管理人ハ檢查日時前豫メ其ノ旨市町村長ニ屆出ヘシ

第二十四條 市町村長ハ檢查ノ際出場馬連名簿（第四樣式）ヲ檢查官ニ交付スヘシ

前條第六項ニ依リ屆出アリタル馬ニ付テハ市町村長ハ其ノ名稱、所有者又ハ管理人ノ氏名、名稱及事由ヲ檢查官ニ通告スヘシ

檢查官ハ市町村每ニ檢查終了後三十日以內ニ檢查成績表（第五樣式）ヲ關係市町村長ニ送付スヘシ

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

馬匹調查及檢查施行規則ハ之ヲ廢止ス

馬籍法附則第三項ニ依リ屆出ヲ爲スヘキ事項ハ從前ノ規定ニ依ル馬名簿ヲ有スル馬ニ在リテハ飼養場所、生年月日竝所有者及管理人ノ氏名、名稱及住所又ハ居所トシ其ノ他ノ馬ニ在リテハ馬籍法第七條及第八條ニ規定スル事項トス

馬籍法附則第四項ニ依リ前項ノ屆出事項ヲ記載スル方法ハ左ノ各號ニ依ルモノトス

一 生年月日 馬名簿年齡ノ欄ニ年月日生ト記載ス但シ生年月日不明ノモノハ其ノ旨記載スヘシ

二 其ノ他ノ事項 履歷ノ欄ニ記載ス

附 則（大正十五年六月三十日農林、陸軍省令）

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

馬籍ノ用紙及其ノ記載例ハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第一樣式

二糎	二糎四耗	一糎二耗
馬籍	飼養場所	性
名稱	所有者ノ氏名名稱	
	一糎二耗 一糎二耗 一糎二耗	

二糎四耗	一糎二耗	一糎二耗	一糎二耗	一糎二耗	二糎四耗	
種類	毛色	特徵	產地	生年月日	體格 用役 體高	三糎
						六糎
及住所又ハ居所			管理人ノ氏名名稱及住所又ハ居所			三糎
						一〇糎
一糎二耗 一糎二耗 一糎二耗 一糎二耗 一糎二耗 一糎二耗 一糎二耗 一糎二耗						

一糎二耗	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	
履歷	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日			三糎
														八糎
	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日			三糎
														八糎

注意

一 各區劃ノ廣サハ本樣式欄外記載ノ通トス

二 用紙ハ成ルヘク紙質强靱ナルモノヲ用ヰルコトヲ要ス

第一樣式附屬

馬籍記載例

一　名稱　馬ノ名ヲ記載ス

二　性　「牡」、「騸」又ハ「牝」ト記載ス

三　種類　左ノ各號ニ依リ其ノ名稱ヲ記載ス但シ父母其ノ他ノ血統ヲ附記スルコトヲ得

一　洋種　外國種ノ總稱ニシテ種類ノ原名明瞭ナルモノハ其ノ名稱ヲ用ウ

例

サラブレッド　　アラブ
アングロアラブ　　ギドラン
トロッター　　ハクニー
ノーニウス　　アングロノルマン
ペルシュロン　　ブラバンソン
クライデスデール

各種類ノ馬ニシテ原產地以外ニ於テ同種蕃殖ニ依リ生產シタルモノハ種類名ノ上ニ產地名ヲ冠ス

例

濠洲產サラブレッド　　內國產ハクニー

純血種系ノ種類ニ純血種ヲ配合シテ生產シタルモノハ其ノ種類名ヲ變スルコトナシ、

例

アングロノルマン
サラブレッド　｝ノ子　　アングロノルマン
アングロアラブ
サラブレッド又ハアラブ　｝ノ子　　アングロアラブ
サラブレッド
ハクニー　｝ノ子　　ハクニー

異種蕃殖ニ依リ生產シタルモノ及種類名ナキモノハ單ニ洋種トシ產地名ヲ冠シ又ハ何地產馬トスヘシ

例

サラブレッド
ブラバンソン　｝ノ子
ハクニー
ノーニウス　｝ノ子
濠洲產馬
トロッター　｝ノ子
　　何地產洋種
支那產ノモノ　　支那產馬

二　和種　內國產ニシテ洋種ノ血液ヲ混セサルモノヲ謂フ

三　雜種　和種ト洋種トノ血液相混シタルモノノ總稱ニシテ種類名ノ明瞭ナル洋種ノ血液半以上ヲ有スルモノハ其ノ名ヲ冠ス

例

サラブレッド
和種　｝ノ子　　サラブレッド雜種
ハクニー
サラブレッド雜種　｝ノ子　　ハクニー雜種
アングロノルマン雜種
アングロノルマン雜種　｝ノ子　　アングロノルマン雜種

ハクニー雜種
アングロノルマン雜種　｝ノ子　　雜種
和種
ハクニー雜種　｝ノ子　　雜種
雜種
和種　｝ノ子　　雜種

四　毛色　「青毛」、「鹿毛」、「栗毛」、「蘆毛」等ト記載ス

五　特徵　左ノ各號ノ例ニ依リ記載ス

例

一　白斑

（イ）頭部

星　額ノ白斑ニシテ其ノ小ナルモノハ小星、著シク小ニシテ白斑ヲ爲ササルモノハ額刺毛
流星　星ノ下方ニ延ヒタルモノ
鼻白　鼻ニ存スル白斑
唇白　上又ハ下ヲ冠ス

（ロ）肢ノ下部

左（右）前一白　　前二白　　左（右）二白　　左（右）前右（左）後二白　　左（右）後一白
後二白　　左（右）前後三白　　前左（右）後三白　　四白

但シ白ノ形ニ依リ半白又ハ小白

二　烙印　烙印アルモノハ部位ト形狀トヲ併記ス

三　刺毛、異毛、瘢痕、裂痕、截痕、岩陷及旋毛等ニシテ特徵ト爲ルヘキモノハ種類ト部位トヲ併記ス

六　產地　道（府縣）郡（市）町（村）ヲ記載ス但シ著名ノ地ニ在リテハ之ヲ略記スルコトヲ得

七　生年月日　「何年何月何日」ト記載ス

八　用役　「乘」、「輓」又ハ「馱」ト記載ス但シ明ケ三歲以上ノ馬ニシテ何レノ用役ニモ適セサルモノニ在リテハ其ノ主要ナル失格損徵ヲ擧ケ「何々ニ依リ用役ナシ」又ハ「何々ニ依リ永久用役ナシ」ト記載ス

九　體高　「何年何月何米何々」ト記載ス

十　飼養場所　「（市）町（村）字何何番地」等ト記載ス

十一　所有者ノ氏名、名稱及住所又ハ居所　「道（府縣）郡（市）町（村）字何何番地某」ト記載ス

十二　管理人ノ氏名、名稱及住所又ハ居所　「（市）町（村）字何何番地某」ト記載ス

十三　履歷　記載スヘキ事項ノアリタル年月日ヲ記入シ左ノ例ニ依リ記載ス

例

出生（何縣何郡何村何某ヨリ讓受）ニ付馬籍ヲ作ル
去勢
檢査官ノ檢査ヲ受ク
所在不明
所在分明
斃死（明ケ三十歲ト爲リタル）（軍馬ト爲リタル）（朝鮮ヘ賣却）
（何縣何郡何村何某ニ賣却）（飼養場所ヲ何縣何郡何村ニ移シタル）ニ付除籍

第二樣式（用紙美濃紙大）

大正　年十月一日調　馬調査表

道廳（府縣）郡（市）町（村）
（市）町（村）長　氏名　印

區分　年齡及體高			牡					騸					牝					計					永久用役ナキ馬	所在不明ノ馬	計
			乘馬	輓馬	駄馬	用役未定	計	乘馬	輓馬	駄馬	用役未定	計	乘馬	輓馬	駄馬	用役未定	計	乘馬	輓馬	駄馬	用役未定	計			
當歲																									
二歲																									
三歲																									
四歲以上十六歲以下	一、三五未滿	一、二〇未滿																							
		一、二〇以上一、二五未滿																							
		一、二五以上一、三〇未滿																							
		一、三〇以上一、三五未滿																							
		計																							
	一、三五以上　一、三五以上一、五〇未滿	一、三五以上一、四〇未滿																							
		一、四〇以上一、四五未滿																							
		一、四五以上一、五〇未滿																							
		小計																							
	一、三五以上　一、五〇以上	一、五〇以上一、六〇未滿																							
		一、六〇以上																							
		小計																							
	一、三五以上　計																								
	體高不詳																								
十七歲以上二十九歲以下																									
總計																									
備考																									

注意

一　本樣式中乘馬、輓馬、駄馬ノ區分及體高ハ馬籍ニ記載アルモノヲ記載ス但シ明ケ三歲以上ノ馬ニシテ其ノ記載ナキモノハ見込用役及現在體高ヲ記載スルモノトシ體高ヲ測定シ得サルモノハ體高不詳ノ欄ニ記載スルモノトス

二　年齡ハ明ケ年齡トシ體高ハメートルヲ單位トス

三　馬籍法ヲ適用セサル馬ハ本表ニ計上セサルモノトス

第三樣式　削除

第四樣式（用紙美濃紙大）

大正（十二）年（六）月（一）日　出場馬連名簿（牡）

道廳（府縣）郡（市）
（市）（町）（村）長　氏名　印

番號	見込價額	名稱	種類	毛色	特徵	產地	年齡	體格　用役　馬籍記載時	體格　用役　馬籍檢査時	體格　體高　馬籍記載時	體格　體高　馬籍檢査時	現在用役	所有者（管理人）氏名
一		（岩手）	（ハクニー）（雜種）	（鹿）	（星右二白）	（盛岡市）	（八）	（輓）		（米一、五〇）			（管理人甲野仁吉）
二		（大山）	（內國產）（洋種）	（栗）	（右背異毛）	（鹿兒島縣）	（三）	（ナシ）		（ナシ）			（所有者乙山春子）
		（以下右ニ準ス）											
（計）		（百拾頭）											

注意

一　本連名簿ハ檢査場每ニ牡、騸及牝ノ三部ニ區分調製スルモノトス

二　管理人アル馬ニ就テハ所有者ノ記入ヲ要セサルモノトス

三　本樣式中馬籍記載トアルハ前記檢査ノ結果ニ依リ現ニ馬籍ニ記載セラレアル事項ヲ謂フ

四　本樣式中括弧內ノ文字ハ記註ノ一例ヲ示ス例示ナキ空欄ハ檢査官ニ於テ必要事項ヲ記入スヘキモノトス

五　他ノ法令ニ依リ同時ニ檢査スヘキ馬アルトキハ本表ニ準シ調製スルモノトス

第五樣式（用紙美濃紙大）

大正（十五）年度
道廳（府縣）郡（市）（町）（村）檢查馬成績表

第何師團檢查官　氏　名　㊞

牡				騸				牝			
名稱	體格		摘要	名稱	體格		摘要	名稱	體格		摘要
	用役	體高			用役	體高			用役	體高	
（岩手）	（輓）	（前檢查ニ同シ）	（甲野仁吉所有）	（淺間）	（駄）	米（一、三五）					
（生月）	（乘）	米（一、六〇）									
（岩手）	（同）	（一、四五）	（丙川悌八所有）								
（ガロン）	（老衰ニシテ永久用役ナシ）	（一、六〇）									
（以下右ニ準ス）											

注意

一　記載順序ハ出場馬連名簿ノ順序ニ依ル

二　同一馬名ノモノアルトキハ所有者、管理人又ハ特徵其ノ他ノ事項等ヲ記載シ區別ヲ明瞭ナラシムルモノトス

三　本樣式中括弧內ノ文字ハ記註ノ一例ヲ示ス

●馬籍法ニ依ル手數料、手當及旅費ニ關スル件

（大正十一年一月二十八日勅令第十七號）

朕馬籍法ニ依ル手數料、手當及旅費ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

第一條　馬籍簿ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十錢、馬籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十錢トス

第二條　馬籍法第十二條ノ手當ハ馬一頭ニ付十五錢、同條ノ旅費ハ馬一頭ニ付往復路程ヲ通算シ一里ニ滿ツル毎ニ五錢トス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●競馬法

（大正十二年四月十日法律第四十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル競馬法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、農商務大臣副署）

競馬法

第一條　馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル民法第三十四條ノ法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依ル競馬ヲ行フコトヲ得

第二條　競馬ノ開催ハ年二回ヲ超ユルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ年三回開催スルコトヲ得

競馬開催ノ期間ハ每回四日內トス

第三條　競馬ヲ開催スルトキハ入場者ヨリ入場料ヲ徵收スヘシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ無料入場者ト定メタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　第一條ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一人一枚ヲ限ル

第五條　勝馬投票券ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス

當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人ノ役員又ハ當該競馬ニ關スル開催執務委員、調敎師、騎手、馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前項ニ同シ

第六條　第一條ノ法人ハ勝馬投票的中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該競走ニ付テノ勝馬投票券ノ賣得金ノ額ヲ超エサル範圍內ニ於テ拂戻金ヲ交付スルモノトス但シ其ノ金額ハ勝馬投票券ノ券面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　入場料ノ金額、勝馬投票券ノ券面金額及發賣方法竝前條ノ拂戻金ノ支給方法ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　勝馬投票券ヲ發賣シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ賣得金ノ額ノ百分ノ一以內ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第九條　主務大臣ハ第一條ノ法人ニ對シ馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第十條　第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　第一條ノ法人ハ每事業年度終了後三月內ニ主務大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ

第一條ノ法人ノ理事及監事ノ就任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ他ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十三條　主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　競馬ノ停止

二　勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限

三　役員ノ解任

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二　第十三條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二　第五條ノ規定ニ違反シタル者

三　第五條第二項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ

四　第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者

五　第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非サル券面金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ又ハ第十三條第二號ノ停止若ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ勝馬投票券ヲ購買シタル者

二　第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ購買シタル者

三　第五條第一項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ

四　勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

五　第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依ル競馬ヲ行フ法人ノ數ハ當分ノ內十一以內トス

競馬法ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十二年勅令第三百二十三號）

●競馬法施行規則

（大正十二年六月二十九日農商務省令第十四號）

競馬法施行規則左ノ通定ム

競馬法施行規則

第一條　本則ニ於テ競馬會ト稱スルハ競馬法第一條ノ規定ニ依リ競馬施行ノ認可ヲ受ケタル法人ヲ謂フ

第二條　競馬法第一條ノ規定ニ依ル認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ定款ノ外左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

一　競馬場所在ノ場所

二　競馬場及其ノ附近ノ見取圖

三　馬場、馬見所、下見所、檢量所、勝馬投票券發賣所、拂戻金交付所、厩舍其ノ他ノ工作物ノ位置、構造、設備及圖面

四　競馬場ノ設備ニ要スル費用ノ見積額及其ノ支辨方法

五　競走ノ種類

六　入場料ノ金額

七　無料入場者

八　入場徽章ニ關スル事項

九　勝馬投票券ノ券面金額及發賣方法

十　第十九條第四項ノ規定ニ依リ競馬會ノ定ムル賣得步合

十一　競馬法第六條ノ規定ニ依ル拂戻金ノ支給方法

前項第九號ノ發賣方法ニハ競馬法第四條第二項及第三項ニ規定スル事項ノ取締ニ關スル方法ヲ詳記スヘシ

競馬法第一條ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ競馬法第三條及第七條ノ規定ニ依ル認可アリタルモノト看做ス

第一項第一號及第三號乃至第十一號ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

農商務大臣必要ト認ムルトキハ第一項第三號ニ掲クル事項ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三條　馬場ハ其ノ長一哩以上幅十二間以上ナルコトヲ要ス

第四條　勝馬投票券發賣所及拂戻金交付所ハ競馬場內ニ之ヲ設ケ且競馬法第四條第二項及第三項ニ規定スル事項ノ取締ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第五條　競走ノ種類ハ駈步競走、速步競走及障碍競走トス

第六條　駈步競走ノ距離ハ一哩以上、速步競走ノ距離ハ二哩以上トス但シ明ケ七才以下ノ內國產新馬ノミヲ以テスル駈步競走ニ在リテハ競走ノ距離ヲ四分ノ三哩迄短縮スルコトヲ得

第七條　明ケ三才以下ノ馬及馬ノ改良增殖ニ裨益ナキ馬ハ之ヲ競走ニ用ヰルコトヲ得ス

第八條　競馬會ハ內國產馬ノミヲ以テスル競走ニ對シテハ賞ヲ厚クスヘシ

第九條　競馬會ハ左ニ掲クル事項ニ付競馬施行規程ヲ定メ農商務大臣ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　番組編成ニ關スル事項

二　開催執務委員ノ執務ニ關スル事項

三　競走馬ニ關スル事項

四　負擔重量ニ關スル事項

五　發走及審判ニ關スル事項

六　馬ノ所有者及騎手ニ關スル事項

七　場內ノ取締ニ關スル事項

第十條　競馬ヲ開催セムトスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ定メ出馬登錄締切期日ノ二月前（北海道ニ於ケル秋季競馬ニ付テハ一月前）迄ニ農商務大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

一　開催ノ日時

二　番組ノ要項

三　開催執務委員

前項第二號ノ番組ノ要項トハ各競走ノ番號、種類、名稱、距離、賞金額、賞品ノ種類及負擔重量ノ條件ヲ謂フ

競馬法第二條但書ノ規定ニ依リ競馬ヲ開催セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ出馬登錄締切期日ノ一月前迄ニ農商務大臣ニ許可ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テ第一項ノ認可申請ハ許可ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條　農商務大臣前條第一項ノ認可ヲ爲シタル場合ニ於テ別段ノ意思ヲ表示セサル限リ其ノ競馬ニ於テ明ケ七才ヲ超エサル內國產新馬十五頭以上ノ出馬登錄馬數ヲ有スヘキ條件ヲ附シタルモノトス但シ競馬法第二條但書ノ規定ニ依リ競馬ヲ開催スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　競馬會ハ左ニ掲クル者ニ豫メ農商務大臣ニ屆出テタル各別ノ徽章ヲ交付シ競馬場內ニ於テハ常ニ之ヲ佩用セシムヘシ

一　有料入場者

二　無料入場者

三　競馬法第五條第一項ニ掲クル者

四　競馬法第五條第二項ニ掲クル者

五　勝馬投票券發賣所及拂戻金交付所ノ係員

第十三條　勝馬投票券ハ之ヲ二連切符トシ一片ハ之ヲ購買者ニ交付シ他ノ一片ハ之ヲ競馬會ニ於テ保存スヘシ

二連切符ノ各片ハ其ノ區別ヲ明瞭ニシ各片ニ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　競走施行ノ年月日ヲ示スニ足ルヘキ文字、競走番號及馬ノ番號

二　勝馬投票券ノ券面金額及通番號

第十四條　勝馬投票券ノ發賣及拂戻金ノ交付ハ競馬會自ラ之ヲ爲スヘシ

競馬會ハ勝馬投票券ノ發賣及拂戻金ノ交付ノ事務ニ從事スル者ノ氏名ヲ豫メ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十五條　勝馬投票券ノ發賣ハ當該競走ニ參加スヘキ馬ノ確定シタル後之ヲ開始シ馬カ競走ノ出發點ヲ出發スル前之ヲ締切ルヘシ

第十六條　同一所有者ニ屬スル馬ノミカ競走ニ參加スルコトニ確定シタル場合ニ於テハ競馬會ハ當該競走ニ付勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス

第十七條　勝馬投票券發賣ノ後當該競走ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ヲ生シタルトキハ其ノ投票ヲ無效トシ競馬會ハ券面金額ヲ以テ勝馬投票券ノ買戻ニ應スヘシ發賣シタル勝馬投票券ニ表示セラレタル馬馬場ニ出テサルトキハ其ノ馬ニ對スル勝馬投票券ニ付亦同シ

一　馬場ニ出テタル馬一頭ノミト爲リタルコト

二　同一所有者ノ馬ノミカ馬場ニ出テタルコト

三　競走成立セサルコト

四　競走ニ勝馬ナキコト

第十八條　競馬會ハ各競走ニ付勝馬投票券ノ發賣ヲ締切リタルトキハ遲滯ナク各馬ニ對スル勝馬投票券ノ發賣金額ヲ掲示スヘシ

第十九條　勝馬確定シタル場合ニ於テ當該競走ニ對スル勝馬投票券ノ賣得金額ヨリ競馬法第八條ノ規定ニ依リ政府ニ納付スヘキ金額及競馬會ノ收入スルコトヲ得ヘキ賣得步合金額ヲ控除シタル殘額カ勝馬ニ對スル總勝馬投票券ノ總券面金額ノ十倍ノ金額ヲ超エサルトキハ其ノ殘額ヲ、十倍ノ金額ヲ超ユルトキハ其ノ十倍ノ金額ヲ拂戻金トシテ勝馬ニ對スル勝馬投票券ノ券面金額ニ應シ勝馬投票券引換ニ交付スヘシ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ所有者ヲ異ニスル第一著ノ馬二頭以上アルトキハ共ニ之ヲ勝馬ト看做ス此ノ場合ニ於テハ當該競走ニ對スル勝馬投票券ノ賣得金額ヲ其ノ勝馬ノ頭數ニ等分シタルモノヲ前項ノ賣得金額ト看做シ各勝馬ニ對スル勝馬投票券ノ拂戻金額ヲ算出ス

第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ第一著馬ト所有者ヲ同クスル馬決勝線ニ入リタルトキハ第一著馬ト看做ス此ノ場合ニ於テハ第一著馬ニ對スル總勝馬投票券ノ總券面金額ニ付第一項ノ規定ニ依リ拂戻金ヲ算出シ其ノ金額ヲ以テ其ノ勝馬ニ對スル第一項ノ拂戻金ト看做ス

政府ニ納付スヘキ金額ハ賣得金額ノ百分ノ一ノ金額、賣得步合金額ハ賣得金額ノ百分ノ十四以內ニ於テ競馬會ノ定ムル步合ノ金額トス

第二十條　前條ノ殘額ヨリ前條ノ拂戻金額ヲ控除シタル剩餘金額及勝馬投票的中者ナキ場合ニ於ケル前條ノ殘額ハ競馬會ノ收入トス

第二十一條　競馬會ハ勝馬投票券ノ受拂及勝

馬投票券ノ發賣金ノ出納ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル帳簿ヲ別ニ備フヘシ

第二十二條　競馬會ハ競馬終了後十五日內ニ左ニ掲クル事項ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一　出馬登錄馬數及入場馬數

二　馬場ニ出テタル馬ノ名稱、新古ノ別、種類、性、毛色、年齡、體尺、特徴、産地、血統及所有者

三　各競走ニ於ケル第一著馬ノ名稱、競走距離、速度、負擔重量、騎手及生産者

四　入場者ノ員數及入場料ノ金額ニ付第十二條第一號乃至第三號ニ掲クル者ノ區分

五　發賣シタル勝馬投票券ノ券面金額、枚數、第十七條ノ規定ニ依リ買戾ニ應スヘキ金額、賣得金額及拂戾金額

六　競馬場內諸般ノ狀況

第二十三條　第十六條、第十七條、第十九條及前條ノ所有者トハ番組ニ表示セラレタル所有名義人ヲ謂フ

第二十四條　第十九條及第二十二條ノ賣得金額トハ勝馬投票券ノ發賣金額ヨリ第十七條ノ規定ニ依リ買戾ニ應スヘキ金額ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第二十五條　競馬會ハ毎年二月末日迄ニ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ニ於ケル豫算ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

競馬會豫算ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第二十六條　競馬會ハ會計ニ關スル規則ヲ定メ農商務大臣ニ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十七條　競馬會ハ理事及監事ノ就任ノ認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ履歷書及選任ノ決議ヲ證スル書面ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

理事及監事ノ退職アリタルトキハ競馬會ハ其ノ旨農商務大臣ニ屆出ツヘシ

附　則

本則ハ競馬法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本年度ノ豫算認可ノ申請ハ第二十五條ノ規定ニ拘ラス第二條ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第十條第一項ニ掲クル事項ニ付明治四十一年閣令第一號競馬規程ニ依リ爲シタル認可申請ハ之ヲ同條同項ノ規定ニ依ル認可申請、受ケタル認可ハ之ヲ同條同項ノ規定ニ依ル認可ト看做ス

●競馬規程

（明治四十一年十一月十六日閣令第一號）
（改正　明治四三年第一〇號、四五年第六號大正一〇年陸軍省令第二二號）

競馬規程左ノ通定ム

競馬規程

第一條　競馬ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル競馬會ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

但シ祭典等ニ際シ專ラ娛樂ノ爲ニスルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　競馬ハ毎年二回定期ニ之ヲ行ヒ一回ノ日數ハ四日以內トス

前項ノ外臨時ニ競馬ヲ開催セムトスルトキハ【馬政長官】ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　競馬ノ種類ハ平地競走、速歩競走及障碍競走トス

第四條　馬場ハ長サ一哩幅十二間以下ニ下スコトヲ得ス

第五條　馬場、馬見所其ノ他附屬建造物ハ秩序及風紀ノ維持竝人馬ノ危害豫防ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第六條　競馬ヲ開催セムトスルトキハ二月前ニ開催ノ日時ヲ定メ番組ヲ具シ【馬政長官】ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ番組ニハ各競走ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱

二　種類

三　距離

四　賞金又ハ賞品

五　馬匹ノ負擔量

六　其ノ他必要ノ事項

第七條　競走距離ハ一哩以上トス但シ新馬競走、撫恤競走ニ在リテハ【馬政長官】ノ認可ヲ經テ一哩以下ト爲スコトヲ得

第八條　削除

第九條　年齡明ケ三歲以下ノ馬匹及馬匹改良增殖上ニ裨益ナキ馬匹ハ競走ニ使用スルコトヲ得ス

第十條　各競馬會ハ毎年ノ競馬ニ內國產新馬二十頭以上ヲ出場セシムルコトヲ要ス

前項新馬ハ明ケ八歲ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　各競馬會ハ競馬規則ヲ定メ競走馬匹負擔重量、發馬、審判、騎手ノ選擇其ノ他競馬施行ニ關スル詳細ノ事項ヲ規定シ【馬政長官】ニ屆出ヘシ

第十二條　【馬政長官】ハ必要ニ應シ官吏ヲ派遣シ競馬ノ施行ヲ監督セシム

第十三條　競馬ヲ終リタルトキハ一月以內ニ左ノ事項ヲ【馬政長官】ニ屆出ヘシ

一　登錄馬數及入場馬數

二　新馬及各競走ニ於ケル優勝馬ノ名稱種類性毛色年齡體尺特徴產地血統所有者、抽籤新馬ノ購買價格購買地生產者竝優勝馬ノ競走時間

三　競馬開催ニ關スル經費ノ收支

四　入場參觀者ノ員數

五　競馬場ニ於ケル諸般ノ狀況

第十四條　競馬賞金ハ主トシテ競走距離ニ應シ其ノ額ヲ定ムヘシ

第十五條　競馬賞金又ハ賞品ハ內國產馬ニ厚クスヘシ

第十六條　個人ノ寄附ニ係ル賞金又ハ賞品ニシテ番組ヲ指定シタルモノハ前二條ニ依ラサルコトヲ得

第十七條　【馬政長官】ハ毎期ノ競馬中豫メ番組ヲ指定シ賞金、賞品又ハ賞狀ヲ授與スルコトヲ得

第十八條　【馬政長官】ノ指定シタル聯合競走ニハ特殊ノ賞金、賞品又ハ賞狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十九條　【馬政長官】ハ馬匹改良增殖上必要ト認ムルトキハ競馬會ニ對シ設備費又ハ開催費ヲ補助ス

設備補助金ハ馬場其ノ他ノ設備ノ取得、維持及改修ニ要スル費用ニ充ツル爲之ヲ下付ス

開催補助金ハ競馬賞金其ノ他開催費ニ充ツル爲開催ノ都度其ノ額ヲ定メ之ヲ下付ス

第二十條　競馬場內ノ秩序及風紀ノ維持ニ關スル事項ハ競馬場所在地ヲ管轄スル地方長官（東京ニ在リテハ警視總監）之ヲ管理ス

第二十一條　左ニ掲クル場合ニ於テハ監督官廳ハ競馬ヲ停止シ又ハ相當ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

一　競馬會ニ於テ本令ニ違反シ其ノ他不法不當ノ所爲アルトキ

二　競馬施行ニ關シ危害アリト認ムルトキ

三　競馬場內ノ秩序及風紀ノ維持上必要アルトキ

臨檢官吏ハ急ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ處分ヲ爲シ直ニ所屬長官ニ報告スヘシ

第二十二條　本令ニ定ムルモノノ外【馬政長官】ハ競馬施行ニ關シ必要ノ事項ヲ競馬會ニ命スルコトヲ得

第二十三條　畜産組合法ニ依ル組合又ハ馬匹ノ改良增殖ヲ目的トスル團體ハ前各條ニ依ラス地方長官（東京ニ在リテハ警視總監）ノ許可ヲ得テ競馬ヲ行フコトヲ得

前項ノ競馬ニシテ第五條、第九條、第十四條乃至第十六條ノ規定ヲ準用スルモノニ在リテハ地方長官ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ【馬政長官】ハ開催補助金又ハ賞金、賞品若ハ賞狀ヲ下付又ハ授與スルコトヲ得

前項ニ規定スル競馬ニハ第十一條乃至第十三條、第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ開催ノ屆出ヲ爲シタル競馬ニハ第六條ヲ適用セス

●關東州ニ於ケル競馬ニ關スル件

（大正十二年七月十日勅令第三百四十號）

朕關東州ニ於ケル競馬ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣署名）

關東州ニ於ケル競馬ニ關シテハ競馬法ニ依ル

但シ同法中主務大臣トアルハ關東長官トス

前項ノ規定ニ依リ競馬ヲ行フ法人ノ數ハ一ニ限ル

附　則

本令ハ大正十二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ニ於ケル競馬ニ關スル勅令施行規則

（大正十二年八月二十日關東廳令第三十八號）

關東州ニ於ケル競馬ニ關スル勅令施行規則左ノ通定ム

關東州ニ於ケル競馬ニ關スル勅令施行規則

第一條　本令ニ於テ競馬會トハ大正十二年勅令第三百四十號ニ依ル競馬法（以下單ニ競馬法ト稱ス）第一條ノ規定ニ依リ競馬施行ノ認可ヲ受ケタル法人ヲ謂フ

第二條　競馬法第一條ノ規定ニ依ル認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ定款ノ外左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ關東長官ニ提出スヘシ

一　競馬場所在ノ場所

二　競馬場及其ノ附近ノ見取圖

三　馬場、馬見所、下見所、檢量所、勝馬投票券發賣所、拂戾金交付所、厩舍其ノ他ノ工作物ノ位置、構造、設備及圖面

四　競馬場ノ設備ニ要スル費用ノ見積額及其ノ支辨方法

五　競走ノ種類

六　入場料ノ金額

七　無料入場者

八　入場徽章ニ關スル事項

九　勝馬投票券ノ券面金額及發賣方法

十　第十九條第四項ノ規定ニ依リ競馬會ノ定ムル賣得步合

十一　競馬法第六條ノ規定ニ依ル拂戾金ノ支給方法

前項第九號ノ發賣方法ニハ競馬法第四條第二項及第三項ニ規定スル事項ノ取締ニ關スル方法ヲ詳記スヘシ

競馬法第一條ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ競馬法第三條及第七條ノ規定ニ依ル認可アリタルモノト看做ス

第一項第一號及第三號乃至第十一號ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ關東長官ニ認可ヲ申請スヘシ

關東長官必要ト認ムルトキハ第一項第三號ニ掲クル事項ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三條　馬場ハ其ノ長一哩以上幅十二間以上ナルコトヲ要ス

第四條　勝馬投票券發賣所及拂戾金交付所ハ競馬場內ニ之ヲ設ケ且競馬法第四條第二項及第三項ニ規定スル事項ノ取締ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第五條　競走ノ種類ハ駈步競走、速步競走及障礙競走トス

第六條　駈步競走ノ距離ハ一哩以上、速步競走ノ距離ハ二哩以上トス但シ明ケ八歲以下ノ新馬ノミヲ以テスル駈步競走ニ在リテハ競走ノ距離ヲ四分ノ三哩迄短縮スルコトヲ得

第七條　明ケ四歲以下ノ馬及馬ノ改良增殖ニ裨益ナキ馬ハ之ヲ競走ニ用ヰルコトヲ得ス

第八條　競馬會ハ指定種牡馬ト支那產馬トノ雜種馬ノミヲ以テスル競走ニ對シテハ賞ヲ厚クスヘシ

第九條　競馬會ハ左ニ掲クル事項ニ付競馬施行規程ヲ定メ關東長官ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　番組編成ニ關スル事項

二　開催執務委員ノ執務ニ關スル事項

三　競走馬ニ關スル事項

四　負擔重量ニ關スル事項

五　發走及審判ニ關スル事項

六　馬ノ所有者及騎手ニ關スル事項

七　場內ノ取締ニ關スル事項

第十條　競馬ヲ開催セムトスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ定メ出馬登錄締切期日ノ一月前迄ニ關東長官ニ認可ヲ申請スヘシ

一　開催ノ日割

二　番組ノ要項

三　開催執務委員

前項第二號ノ番組ノ要項トハ各競走ノ番號、種類、名稱、距離、賞金額、賞品ノ種類及負擔重量ノ條件ヲ謂フ

競馬法第二條但書ノ規定ニ依リ競馬ヲ開催セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ出馬登錄締切期日ノ一月前迄ニ關東長官ニ許可ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ第一項ノ認可申請ハ許可ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條　關東長官前條第一項ノ認可ヲ爲シタル場合ニ於テ別段ノ意思ヲ表示セサル限リ其ノ競馬ニ於テ明ケ八歲ヲ超エサル支那產新馬三十頭以上ノ出馬登錄馬數ヲ有スヘキ條件ヲ附シタルモノトス但シ競馬法第二條但書ノ規定ニ依リ競馬ヲ開催スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　競馬會ハ左ニ掲クル者ニ豫メ關東長官ニ屆出タル各別ノ徽章ヲ交付シ競馬場內ニ於テハ常ニ之ヲ佩用セシムヘシ

一　有料入場者

二　無料入場者

三　競馬法第五條第一項ニ掲クル者

四　競馬法第五條第二項ニ掲クル者

五　勝馬投票券發賣所及拂戾金交付所ノ係員

第十三條　勝馬投票券ハ之ヲ二連切符トシ一片ハ之ヲ購買馬ニ交付シ他ノ一片ハ之ヲ競馬會ニ於テ保存スヘシ

二連切符ノ各片ハ其ノ區別ヲ明瞭ニシ各片ニ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　競馬施行ノ年月日ヲ示スニ足ルヘキ文字、競走番號及馬ノ番號

二　勝馬投票券ノ券面金額及通番號

第十四條　勝馬投票券ノ發賣及拂戾金ノ交付ハ競馬會自ラ之ヲ爲スヘシ

競馬會ハ勝馬投票券ノ發賣及拂戾金ノ交付ノ事務ニ從事スル者ノ氏名ヲ豫メ關東長官ニ屆出ツヘシ

第十五條　勝馬投票券ノ發賣ハ當該競走ニ參加スヘキ馬ノ確定シタル後之ヲ開始シ馬カ競走ノ出發點ヲ出發スル前之ヲ締切ルヘシ

第十六條　同一所有者ニ屬スル者ノミカ競走ニ參加スルコトニ確定シタル場合ニ於テハ競馬會ハ當該競走ニ付勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス

第十七條　勝馬投票券發賣ノ後當該競走ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ヲ生シタルトキハ其ノ投票ヲ無效トシ競馬會ハ券面金額ヲ以テ勝馬投票券ノ買戾ニ應スヘシ發賣シタル勝馬投票券ニ表示セラレタル競馬場ニ出テサルトキハ其ノ馬ニ對スル勝馬投票券ニ付亦同シ

一　馬場ニ出テタル馬一頭ノミト爲リタルコト

二　同一所有者ノ馬ノミカ馬場ニ出テタルコト

三　競走成立セサルコト

四　競走ニ勝馬ナキコト

競馬施行規程ニ違反スルカ爲先著ヲ無效トセラレタル馬ニ對スル勝馬投票券ハ券面金額ヲ以テ買戾ニ應スヘシ

第十八條　競馬會ハ各競走ニ付勝馬投票券ノ發賣ヲ締切タルトキハ遲滯ナク各馬ニ對スル勝馬投票券ノ發賣金額ヲ揭示スヘシ

第十九條　勝馬確定シタル場合ニ於テ當該競走ニ對スル勝馬投票券ノ賣得金額ヨリ競馬法第八條ノ規定ニ依リ官ニ納付スヘキ金額及競馬會ノ收入スルコトヲ得ヘキ賣得步合金額ヲ控除シタル殘額カ勝馬ニ對スル總勝馬投票券ノ總券面金額ノ十倍ノ金額ヲ超エサルトキハ其ノ殘額ヲ、十倍ノ金額ヲ超ユルトキハ其ノ十倍ノ金額ヲ拂戾金トシテ勝馬ニ對スル勝馬投票券ノ券面金額ニ應シ勝馬投票券引換ニ交付スヘシ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ所有者ヲ異ニスル第一著ノ馬二頭以上アルトキハ共ニ之ヲ勝馬ト看做ス此ノ場合ニ於テ當該競走ニ對スル勝馬投票券ノ賣得金額ヲ其ノ勝馬ノ頭數ニ等分シタルモノヲ前項ノ賣得金額ト看做シ各勝馬ニ對スル勝馬投票券ノ拂戾金額ヲ算出ス

第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ第一著馬ト所有者ヲ同クスル馬決勝線ニ入リタルトキハ共ニ之ヲ勝馬ト看做ス此ノ場合ニ於テハ第一著馬ニ對スル總勝馬投票券ノ總券面金額ニ付第一項ノ規定ニ依リ拂戾金額ヲ算出シ

其ノ金額ヲ以テ其ノ勝馬ニ對スル第一項ノ拂戻金額ト看做ス

官ニ納付スヘキ金額ハ賣得金額ノ百分ノ一ノ金額、賣得步合金額ハ賣得金額ノ百分ノ十九以內ニ於テ競馬會ノ定ムル步合ノ金額トス

第二十條　前條ノ殘額ヨリ前條ノ拂戻金ヲ控除シタル剩餘金額及勝馬投票的中者ナキ場合ニ於ケル前條ノ殘額ハ競馬會ノ收入トス

第二十一條　官ニ納付スヘキ金額ハ所轄民政署長之ヲ徵收ス

競馬會ハ競馬終了後三日內ニ發賣シタル勝馬投票券ノ券面金額、枚數及賣得金額ヲ所轄民政署長ニ申告スヘシ

第二十二條　競馬會ハ勝馬投票券ノ受拂及勝馬投票券ノ發賣金ノ出納ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル帳簿ヲ別ニ備フヘシ

第二十三條　競馬會ハ競馬終了後十五日內ニ左ニ揭クル事項ヲ關東長官ニ報告スヘシ

一　出馬登錄馬數及入場馬數

二　馬場ニ出テタル馬ノ名稱、新古ノ別、種類、性、毛色、年齡、體尺、體重、特徵、產地、血統及所有者

三　各競走ニ於ケル第一著馬ノ名稱、競走距離、速度、負擔重量、騎手及生產者

四　入場者ノ員數及入場料ノ金額ニ付第十二條第一號乃至第三號ニ揭クル者ノ區分及其ノ等級區分

五　發賣シタル勝馬投票券ノ券面金額、枚數、第十七條ノ規定ニ依リ買戻ニ應スヘキ金額、賣得金額及拂戻金額

六　競馬場內諸般ノ狀況

第二十四條　第十六條、第十七條、第十九條及前條ノ所有者トハ番組ニ表示セラレタル所有名義人ヲ謂フ

第二十五條　第十九條及第二十三條ノ賣得金額トハ勝馬投票券ノ發賣金額ヨリ第十七條ノ規定ニ依リ買戻ニ應スヘキ金額ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第二十六條　競馬會ハ每年二月末日迄ニ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ニ於ケル豫算ノ認可ヲ關東長官ニ申請スヘシ

競馬會豫算ヲ變更セムトスルトキハ關東長官ニ認可ヲ申請スヘシ

第二十七條　競馬會ハ會計ニ關スル規則ヲ定メ關東長官ニ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十八條　競馬會ハ理事及監事ノ就任ノ認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ履歷書及選任ノ決議ヲ證スル書面ヲ關東長官ニ提出スヘシ

理事及監事ノ退職アリタルトキハ競馬會ハ其ノ旨關東長官ニ屆出ツヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令第二十六條ノ規定ニ依ル本年度ノ豫算認可ノ申請ハ同條ノ規定ニ拘ラス第二條ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

大正十二年秋季競馬ニ在リテハ新馬三十頭ヲ除クノ外、同十三年中ノ競馬ニ在リテハ古馬ニ限リ去勢馬タルコトヲ得

第七章　狩獵

●狩獵法（大正七年四月四日法律第三十二號）

改正　大正一一年第七四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、大藏大臣副署）

狩獵法

第一條　狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

狩獵鳥獸ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二條　狩獵鳥類ノ雛及鳥類ノ卵ハ主務大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得ス

第三條　狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務大臣ノ定ムル銃器、網、黐繩、擌、鈎又ハ罠ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

但シ欄、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地域內ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　地方長官必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ規定ニ依ル獵具ノ使用以外ノ方法ヲ以テスル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第五條　狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス

甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免狀ノ有效期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期間內ニ於テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限定スルコトヲ得

前二項ノ期間內ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　未成年者、白痴者又ハ瘋癲者ハ乙種狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又ハ瘋癲者ト爲リタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

第八條　狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等	所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族	五十圓
二等	所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族	三十圓
三等	一等及二等以外ノ者	十五圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第九條　主務大臣又ハ地方長官ハ鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十年以內ノ期間ヲ定メ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十條　地方長官ハ危險豫防ノ爲其ノ他必要ト認ムルトキハ銃獵禁止區域ヲ設クルコトヲ得

第十一條　左ニ揭クル場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

一　御獵場
二　禁獵區
三　公道
四　公園
五　社寺境內
六　墓地

第十二條　學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前數條ノ規定ニ拘ラス鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ下付ス

第十三條　前條第一項ノ規定ニ依リ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　國、道府縣、郡又ハ市町村ハ命令ノ定ムル所ニ依リ獵區ヲ設定スルコトヲ得

第十五條　爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル罠若ハ陷穽ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第十六條　日出前若ハ日沒後、市街其ノ他人家稠密ノ場所若ハ衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　欄柵其ノ他ノ圍障又ハ作物アル土地ニ於テハ占有者、共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條　獵區ニ於テハ獵區設定者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條　狩獵免許ヲ受ケタル者又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取セムトスルトキハ狩獵免狀又ハ許可證ヲ携帶スヘシ

警察官吏、憲兵、森林官吏又ハ市町村長ハ前項ノ規定ニ依リ携帶スヘキ狩獵免狀若ハ許可證又ハ捕獲シタル鳥獸若ハ採取シタル鳥類ノ卵ヲ檢查スルコトヲ得

第二十條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條、第十一條、第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者

二　詐欺ノ行爲ヲ以テ狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者

第三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反スル犯罪ノ用ニ供シタル物件及其ノ犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第十七條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

一　第一條第一項、第二條、第五條第五項、第十三條、第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ違反シタル者

二　第一條第三項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

三　銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者

四　正當ノ事由ナクシテ第十九條第二項ノ規定ニ依ル檢查ヲ拒ミタル者

五　狩獵免狀又ハ第十二條第二項ノ許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者

第二十三條　御獵場、禁獵區、銃獵禁止區域、獵區又ハ共同狩獵地ノ標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條　狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタルトキハ其ノ狩獵免許又ハ許可ハ效力ヲ失フ

第二十五條　第十九條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十六條　本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　明治三十年法律第七號ハ之ヲ廢止ス

第二十九條　舊法ニ依リ爲シタル許可ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

舊法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止ノ區域ハ之ヲ本法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止區域ト看做ス

第三十條　本法施行前爲シタル共同狩獵地ノ免許ハ仍其ノ效力ヲ有ス

前項免許ノ期間ハ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第三十一條　狩獵免許ヲ受ケタル者舊法第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ處罰セラレタルトキハ其ノ狩獵免許ハ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

（大正八年勅令第三百八十一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

●狩獵法施行規則（大正八年八月十六日農商務省令第二十八號）

改正　大正一〇年第三號、一一年第一九號、一二年第二一號、一四年農林省令第二四號、一五年第二二號

狩獵法施行規則左ノ通改正ス

狩獵法施行規則

第一條　狩獵鳥獸ノ種類左ノ如シ

あはうどり　う　ごゐさぎ
あをさぎ　わし　くまたか
はやぶさ　みさご　きじ
やまどり　うづら　えぞやまどり
こじゅけい　てっけい　かも
あいさ　がん　くひな
ばん　だいぜん　むなぐろ
ちどり　しぎ　はと
ひよどり　つぐみ（とらつぐみ及くろつぐみヲ除ク）
しろはら　まみちゃじない　からす（はしがらすヲ除ク）
かけす（るりかけすヲ除ク）　しめ　いかる
いすか　ましこ　あとり
ひわ　かはらひわ　うそ
すずめ　にふないすずめ
ほほじろ　みやまほほじろ　あをじ
くろじ　かしらだか　のじこ

獸類各種但シかもしか及あまみのくろうさぎヲ除ク

第一條ノ二　左ノ鳥獸ハ農林大臣ノ指定シタル區域ニ於テ捕獲スル場合ヲ除クノ外之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

こじゅけい　てっけい　牝じか

農林大臣前項ノ規定ニ依ル指定ヲ爲シタルトキハ鳥獸ノ名稱及區域ヲ告示スヘシ

第二條　左ノ鳥類ノ狩獵期間ハ十一月一日ヨリ翌年二月末日迄トス

きじ　やまどり

左ノ獸類ノ狩獵期間ハ十二月一日ヨリ翌年二月末日迄トス

あなぐま　いたち　かはをそ
きつね　しか　たぬき
てん　むささび　りす

第三條　農林大臣狩獵法第一條第三項ノ規定ニ依リ第一條ノ二第一項ノ規定ニ依ル鳥獸以外ノ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限シタルトキハ鳥獸ノ名稱、禁止又ハ制限シタル獵法、期間及區域ヲ告示スヘシ

地方長官狩獵法第四條ノ規定ニ依リ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條　狩獵法第三條ノ規定ニ依ル獵具左ノ如シ

一　銃器　裝藥銃其ノ他瓦斯力ニ依リ彈丸ヲ發射スル銃器、散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃及刳拔銃身（クリヌキジユウシン）ノ空氣銃

二　網（アミ）　羅罟（ムソウ）、霞網（カスミアミ）其ノ他ノ張網（ハリアミ）、突網（ツキアミ）及投網（ナゲアミ）

三　黐繩（モチナワ）　流黐（ナガシモチ）及張黐繩（ハリモチナワ）

四　擌（ハゴ）　高擌（タカハゴ）及千本擌（センボンハゴ）

五　鈎（ツリバリ）　流鈎（ナガシバリ）

六　罠（ワナ）　括罠（ククリワナ）、箱罠（ハコワナ）、箱落（ハコオトシ）、壓（オシ）及虎挾（トラハサミ）

第五條　狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ出願シ狩獵免狀ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ一等免狀ヲ受ケムトスル者ヲ除クノ外狩獵法第八條第一項ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

一　免許ノ種類及等級

二　出願者ノ身分、職業、氏名、住所及生年月日

三　狩獵法又ハ本則ノ規定ニ依リ罰金ニ處セラレタルコトノ有無及罰金ニ處セラレタルコトアルトキハ其ノ年月日

第六條　狩獵法第八條第二項ノ收入印紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼附シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ

第七條　狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ飼養又ハ有害鳥獸ノ驅除ヲ目的トスル場合ニ於テハ地方長官ニ、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣ニ出願シ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　出願者ノ職業、氏名、住所及生年月日

二　捕獲スヘキ鳥獸又ハ採取スヘキ卵ノ種類及員數

三　捕獲又ハ採取ノ目的、期間、區域及方法並學術研究ヲ目的トスルモノニ在リテハ研究ノ事項及方法

狩獵法第十一條ニ揭クル場所又ハ獵區內ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ若ハ卵ヲ採取セムトスル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條　狩獵免許又ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ住所若ハ氏名ヲ變更シタルトキハ二週間內ニ其ノ旨ヲ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

新住所地カ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間內ニ免許ノ種類及等級並身分、職業、氏名、住所及生年月日ヲ新住所地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第九條　狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ遲滯ナク當初之ヲ下付シタル官廳ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ農林大臣又ハ地方長官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十條　狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡ヲ請求スルコトヲ得

狩獵免狀ノ再渡ヲ受ケムトスル者ハ收入印紙ヲ以テ手數料金二圓ヲ納ムヘシ

第十一條　狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日內ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ

前項ノ規定ニ依リ狩獵免狀ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸ノ道府縣別種類別員數ヲ、鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ノ種類別員數及其ノ處置ヲ屆出ツヘシ

前項ノ規定ハ失效前ノ狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條ノ二　飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者ハ左ノ鳥類ニ關スル受渡簿ヲ備ヘ其ノ閉鎖ノ時ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

をしどり　くゎくこう　ほととぎす
かはせみ　みみづく　ふくろう
きつつき　ありすひ　ひばり
せきれい　びんずい　たひばり
ひたき　るり　とらつぐみ
くろつぐみ　あかはら　まみじろ
いそひよどり　あかひげ　こまどり
のごま　よしきり　せっか
うぐひす　めぼそ　きくいただき
みそさざい　れんじゃく　もず
ごじふから　しじふから　やまがら
ひがら　こがら　えなが
ほしがらす　るりかけす　をなが
むくどり　めじろ

前項ノ受渡簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　讓受ケタル鳥類ノ種類及員數、讓渡人ノ職業、氏名、住所及其ノ捕獲者ナリヤ否ヤノ別並讓受ノ年月日

二　讓渡シタル鳥類ノ種類、員數及讓渡ノ年月日

三　前二號以外ノ事由ニ因ル鳥類ノ員數ノ異動、其ノ事由及年月日

四　鳥類ノ員數ノ異動アリタル日ニ於ケル鳥類ノ種類別差引現在員數

第十一條ノ三　地方長官ハ鳥獸又ハ獵具ノ地方名稱ニシテ第一條、第二條、第四條又ハ前條ノ施行ノ爲必要ト認ムルモノハ之ヲ告示スヘシ

第十二條　禁獵區ハ御料地又ハ國有地ヲ其ノ區域トセス且其ノ區域二府縣以上ニ亙ラサル場合ニ於テハ地方長官、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣之ヲ設ク

農林大臣必要ト認ムルトキハ前項前段ノ場合ニ於テモ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十三條　農林大臣又ハ地方長官禁獵區ヲ設ケタルトキハ其ノ區域及存續期間ヲ告示スヘシ禁獵區ヲ廢止シ又ハ其ノ區域若ハ存續期間ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條　農林大臣又ハ地方長官ハ禁獵區ヲ表示スル爲其ノ周圍ノ隅角及見易キ場所ニ百二十間ヲ超エサル間隔ヲ以テ木標ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ其ノ區域分明ナル場合ニ於テハ木標ノ間隔ヲ延長シ又ハ制札ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

土地所有者ノ出願ニ依リ設ケタル禁獵區ニ付テハ農林大臣又ハ地方長官ハ出願者ヲシテ前項ノ木標又ハ制札ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條　地方長官ハ銃獵禁止區域ヲ表示スル爲其ノ場所ニ制札ヲ設クヘシ

第十六條　獵區ノ存續期間ハ二十年以內トス

前項ノ期間ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條　獵區ハ三百町歩以上ノ面積タルコトヲ要ス但シ農林大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　獵區ハ其ノ區域內ノ土地ノ上ニ登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第十九條　獵區設定者第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依リ狩獵者ノ員數ヲ制限シタル場合ニ於テ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル狩獵ノ承認ヲ受ケムトスル者ノ員數其ノ制限ヲ超過シタルトキハ抽籤ノ方法ニ依ルニ非サレハ狩獵者ヲ定ムルコトヲ得ス

第二十條　獵區設定者ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條　獵區設定者狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シタルトキハ承認證ヲ交付スヘシ

第二十二條　獵區設定者ハ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ受クル者ヲシテ承認料ヲ納付セシムルコトヲ得

前項ノ承認料ハ一日ニ付五圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケ學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲鳥獸ノ捕獲ヲ爲ス者ニ對シテハ之ヲ適用セス

第二十三條　獵區內ニ於テ狩獵又ハ狩獵法第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲サムトスルトキハ第二十一條ノ承認證ヲ携帶スヘシ

第二十四條　獵區設定者ハ狩獵日、狩獵者ノ員數又ハ狩獵者ニ對シ其ノ捕獲スヘキ鳥獸ノ種類及員數、獵具、獵法、捕獲區域其ノ他狩獵ニ關スル制限ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　獵區ヲ設定セムトスル者ハ入獵規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　獵區ノ名稱

二　獵區ト爲サムトスル土地ノ地目別面積、水面ノ面積及其ノ面積三百町歩ニ滿タサルトキハ其ノ事由

三　獵區ノ存續期間

四　獵區ト爲サムトスル區域ニ於ケル過去一年ノ季節別鳥獸棲息狀況及其ノ以前ニ於ケル概況

五　一狩獵期間當ノ月別狩獵者(甲、乙種別)及捕獲鳥獸(種類別)見込數

六　鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲スヤ否ヤノ別及之ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ方法

七　獵區內ニ棲息スル鳥獸ニ因ル損害ノ補償ニ關スル事項

八　獵區設定ニ要スル費用及一年當收支概算

九　第二十二條第二項但書ノ規定ニ依ル承認料ヲ納付セシムルモノニ在リテハ其ノ事由

十　管理者又ハ巡守ヲ置クヤ否ヤノ別及之ヲ置クモノニ在リテハ其ノ員數

前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面、第十八條ノ同意ヲ證スル書面並獵區設定ニ關スル決議ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

獵區設定者第一項第三號、第六號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　入獵規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　事務所ノ位置

二　獵區ノ區域

三　第二十四條ノ規定ニ依ル制限

四　入獵申込ノ手續

五　第十九條ノ規定ニ依ル抽籤ノ方法

六　入獵承認ノ通知方法

七　第二十二條ノ規定ニ依ル承認料及其ノ納付ノ方法

八　承認證ノ交付、携帶及提示ニ關スル事項

九　案內者又ハ勢子ヲ置クモノニ在リテハ之ニ關スル事項

十　入獵者、其ノ從者、獵區管理者、巡守、案內者又ハ勢子ニ徽章ヲ佩用セシムルモノニ在リテハ其ノ旨及雛形

十一　退獵ノ手續

十二　入獵規程違反者ニ對スル處置

獵區設定者前項第二號、第三號、第五號、第七號、第九號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ新ニ設ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前條第一項第二號、第四號、第五號、第八號及第二項ノ規定ハ第一項第二號ノ事項ヲ變更セムトスル場合ニ於ケル認可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第二十七條　第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ第十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第二十八條　入獵規程ヲ變更シタルトキハ第二十六條第二項ニ揭クル事項ニ關スルモノヲ除クノ外遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ第二十五條第一項第一號又ハ第十號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十九條　農林大臣獵區ノ設定又ハ其ノ存續期間ノ更新ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ告示スヘシ告示シタル事項ニ付變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一　獵區ノ名稱

二　事務所ノ位置

三　獵區ノ區域

四　獵區ノ存續期間

五　承認料

六　狩獵ニ關スル制限

第三十條　獵區設定者ハ其ノ獵區ニ管理者又ハ巡守ヲ置クコトヲ得

獵區設定者管理者又ハ巡守ヲ置キタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ農林大臣ニ屆出テ且證票ヲ携帶セシムヘシ

第三十一條　獵區管理者又ハ巡守ハ何時ニテモ獵區內ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ對シ第二十一條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條　獵區設定者ハ獵區ノ區域ヲ表示スル爲必要ナル標識ヲ設クヘシ

第三十二條ノ二　獵區設定者ハ前年四月十六日ヨリ其ノ年四月十五日迄ノ間ニ於ケル獵區ノ成績ヲ樣式第一號及第二號ニ依リ毎年四月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第三十二條ノ三　獵區設定者ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間狩獵ノ停止ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期間ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ認可ヲ爲シタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十三條　獵區設定者獵區ヲ廢止セムトスルトキハ廢止ノ日ヨリ三十日前ニ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條　農林大臣必要ト認ムルトキハ獵區設定者ニ對シ獵區設定ノ認可ヲ取消シ第二十五條第一項第三號、第六號、第七號、第十號ノ事項又ハ入獵規程ノ變更、有害鳥獸ノ驅除、一定ノ期間ノ狩獵ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

農林大臣獵區設定ノ認可ヲ取消シ又ハ狩獵ノ停止ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十五條　第九條第一項、第十一條又ハ第十一條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條　本則ニ依リ農林大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十七條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附　則

第三十八條　本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　共同狩獵地ノ免許期間ノ更新ヲ申請セムトスル者ハ其ノ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ區域內ノ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第四十條　共同狩獵地ニ付テハ前條ノ外仍從前ノ例ニ依ル

第四十一條　禁獵區及銃獵禁止區域ノ木標又ハ制札ニシテ本則施行前設ケタルモノハ本則ニ依リ之ヲ設ケタルモノト看做ス

附　則（大正十四年農林省令第二十四號）

本令ハ大正十四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第一號中劍拔銃身ノ空氣銃ニ關スル規定ハ大正十九年四月十五日迄、第十一條ノ二ノ規定ハ大正十四年十一月三十日迄之ヲ適用セス

飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者第十一條ノ二ニ揭クル鳥類ヲ飼養スルトキハ同條ノ規定ニ依ル受渡簿ニ其ノ鳥類ノ大正十四年十一月三十日現在ノ種類別員數ヲ記載スヘシ

本令施行ノ際現ニ存スル獵區ノ設定者ハ大正十四年十二月十五日迄ニ入獵規程及第二十五條第一項第七號ノ事項ヲ定ムルモノニ在リテハ之ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

獵區ニ於ケル狩獵ノ制限ニシテ本令施行ノ際現ニ效力ヲ有スルモノハ入獵規程ニ付前項ノ認可アル迄仍其ノ效力ヲ有ス

樣　式

第一號

大正　年度獵區成績表（其ノ一）　何々獵區

種別	狩獵		捕獲許可		計
	甲種	乙種	有害鳥獸驅除	其ノ他	
開獵日數					
開獵回數					
申込者數					
入獵者數					
捕獲鳥類數　がん					
かも					
きじ					
やまどり					
しぎ					
うづら					
ばん					
はと					
其ノ他					
計					
捕獲獸類數　しか					
ゐのしし					
うさぎ					
其ノ他					
計					

第二號

大正　年度獵區成績表（其ノ二）　何々獵區

收入			支出		
科目	金額	內譯	科目	金額	內譯
承認料			管理者手當		
			書記手當		

	案內料		勢子賃銀		通信料	何々	何々	何々	計

巡守手當	案內者賃銀	傭人料	勢子賃銀	消耗品費	通信料	鳥獸保護蕃殖費	損害補償費	何々	計

●狩獵規則

（明治四十四年四月十二日朝鮮總督府令第四十六號　改正　大正元年第一九號、四年第九九號、一四年第八四號）

狩獵規則左ノ通定ム

狩獵規則

第一條　野生鳥獸ハ左ニ揭クルモノチ除クノ外銃器、網、黐繩、穽又ハ鷹チ使用シテ之チ捕獲スルコトチ得ス

鳩（ハト）、鷭（バン）、黃道眉（ホホジロ）、千鳥（チドリ）、尾長鳥（オナガドリ）、鷲（ワシ）、雁（ガン）、鴨（カモ）（鴛鴦、冠沉紫鴨ヲ除ク）、鴉（カラス）、鵲（カササギ）、樫鳥（カケス）、鶫（ツグミ）（虎鶫、黑鶫ヲ除ク）、鶉（ウヅラ）、鷽（ウソ）、鋸嘴鴨（アイサ）、秧鷄（クヒナ）、花鷄（アトリ）、嵩雀（アヲジ）、雉（キジ）、鴫（シギ）、蠟嘴（シメ）、鵯（ヒヨドリ）、鶸（ヒワ）、鵙（モズ）、雀（スズメ）、鼬（イタチ）、猪（ヰノシシ）、豹（ヘウ）、虎（トラ）、栗鼠（リス）、狼（オホカミ）（ヌクテヲ含ム）、牡鹿（オシカ）、羚羊（カモシカ）、獺（カワウソ）、狸（タヌキ）、兎（ウサギ）、獐（ノロ）、熊（クマ）、山猫（ヤマネコ）、貂（テン）（黑貂ヲ除ク）、貛（アナグマ）、狐（キツネ）、羆（ヒグマ）

鶴（ツル）ハ之チ捕獲スルコトチ得ス

野生鳥類ノ巢、卵又ハ雛ハ之チ採取スルコトチ得ス

第二條　道知事ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲必要アリト認ムルトキハ區域チ定メ鳥獸ノ捕獲チ禁止スルコトチ得

左ノ場所ニ於テハ鳥獸チ捕獲スルコトチ得ス

一　公園
二　社寺、陵、園、廟又ハ祠ノ境內
三　公道

第三條　爆發物、劇藥、毒藥、据銃、陷穽又ハ危險ナル罠チ以テ鳥獸チ捕獲スルコトチ得ス

第四條　日出前、日沒後又ハ市街其ノ他人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵チ爲スコトチ得ス

第五條　欄、檻、圍障若ハ作物植付アル他人ノ占有地ニ於テハ占有者ノ承諾チ得ルニ非サレハ鳥獸チ捕獲スルコトチ得ス

第六條　學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ依リ野生鳥獸チ捕獲シ又ハ野生鳥類ノ巢、卵若ハ雛チ採取スル必要アルトキハ道知事ハ第一條乃至第四條及第七條ノ規定竝第八條ノ期間ニ拘ラス特ニ之チ許可シ又ハ地域チ定メ第一條乃至第四條及第八條ノ制限又ハ禁止チ解除スルコトチ得

第七條　銃器、網、黐繩、穽又ハ鷹チ使用シテ鳥獸チ捕獲セムトスル者ハ道知事ニ願出テ免狀チ受クヘシ但シ欄、檻其ノ他ノ圍障アル邸宅地域內ニ於テ銃器チ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

免狀ハ之チ貸與シ又ハ借受クルコトチ得ス

第八條　免狀チ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ網、黐繩、穽又ハ鷹チ使用シテ鳥獸チ捕獲スル者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器チ使用シテ鳥獸チ捕獲スル者ニ下付ス

免狀ノ有效期間ハ九月十五日ヨリ翌年四月三十日迄トス但シ虎、豹、熊、羆、山猫、狼（ヌクテヲ含ム）、猪、獐以外ノ獸類及雉ノ捕獲ハ十一月一日ヨリ翌年二月末日迄ニ、牡鹿ノ捕獲ハ二月一日ヨリ四月末日迄ニ限ル

第八條ノ二　道知事ハ藥用材料採取ノ爲銃器チ以テ牡鹿、熊其ノ他一定ノ野生獸類チ捕獲セムトスル者ニ對シ前條ノ期間ニ拘ラス特ニ免許チ與フルコトチ得

前項免狀ノ有效期間ハ一年トス但シ牡鹿ノ捕獲ハ二月一日ヨリ八月末日迄ニ限ル

第一項ノ規定ニ依リ免許チ受クル者ハ免許手數料金七十圓チ納付スヘシ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ免狀チ受クルコトチ得ス

一　十七歲未滿ノ者
二　白痴瘋癲者
三　第十五條第一項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ處罰チ受ケ滿一年チ經過セサル者

第十條　第八條ニ規定スル免狀チ受クル者ハ左ノ免許手數料チ納付スヘシ

甲種免狀　金七圓
乙種免狀　金二十圓

第十一條　免狀ハ出獵ノ際之チ携帶スヘシ

警察官又ハ森林官吏ハ何時ニテモ免狀チ檢査スルコトチ得

第十二條　免狀チ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再下付チ請求スルコトチ得此ノ場合ニ於テハ手數料金一圓チ納付スヘシ

第十三條　手數料ハ收入印紙チ以テ納付スヘシ

第十四條　野生鳥類又ハ其ノ剝製品若ハ羽毛ノ輸出又ハ移出ノ營業チ爲サムトスル者ハ道知事ノ許可チ受クヘシ

第十四條ノ二　本令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥獸ノ巢、卵若ハ雛ハ之チ讓渡シ又ハ讓受クルコトチ得ス

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第三號ノ場合ニ在リテハ告訴チ待テ之チ處斷ス

一　第一條、第二條第二項、第三條、第四條、第八條第二項但書又ハ第八條ノ二第二項但書ニ違反シタル者
二　第二條第一項ノ禁止區域ニ於テ鳥獸チ捕獲シタル者
三　第五條ニ違反シタル者
四　免狀チ有セス又ハ第六條ニ規定スル許可ニ依ラスシテ銃器、網、黐繩、穽又ハ鷹チ使用シテ鳥獸チ捕獲シタル者
五　不實ノ申告チ爲シテ免狀チ受ケタル者
六　第十四條ニ違反シタル者
七　第十四條ノ二ニ違反シタル者

前項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ所爲ハ未遂罪チ罰ス

第一項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ處罰チ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力チ失フ

第十六條　第七條第二項、第十一條第一項ニ違反シタル者又ハ第十一條第二項ノ檢査チ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ施行ス

●銃獵取締規則

（明治三十六年六月二十六日臺灣總督府令第四十七號　改正　明治四〇年第三六號　大正元年第一九號、四年第五七號、九年第一二二號、一四年第五五號）

銃獵取締規則左ノ通相定ム

銃獵取締規則

第一條　銃獵チ爲サントスル者ハ所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ニ願出テ免狀チ受クヘシ

前項ノ願書ニハ最近ノ撮影ニ係ル本人ノ寫眞（ベスト形、半身、無臺紙）一葉チ添附スヘシ

第二條　左ニ揭クル者ニハ免狀チ附與セス

一　二十歲未滿ノ者
二　白痴瘋癲者

第三條　第十七條第二項ニ該當スル者ハ滿一箇年チ經過スルニアラサレハ再ヒ免狀チ受クルコトチ得ス

第四條　免狀チ受クル者ハ左ノ區分ニ依リ免許料チ納ムヘシ

營業ノ爲銃獵チ爲ス者　金十圓
其ノ他ノ者　金二十圓

第五條　免狀ノ有效期限ハ毎年九月十五日ヨリ翌年三月三十一日マテトス

前項ノ期間內ニアラサレハ銃獵チ爲スコトチ得ス

第六條　保護チ必要トスル鳥類ハ捕獲スルコトチ禁ス

第七條　左ニ揭クル場所ニ於テハ銃獵チ爲スコトチ得ス

一　市街チ距ルコト五町以內ノ地
二　人家稠密又ハ衆人群集ノ場所
三　公園
四　公道
五　社寺廟境內
六　墓地
七　禁獵ノ制札アル場所

第八條　日出前日沒後ハ銃獵チ爲スコトチ得ス

第九條　銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵チ爲スコトチ得ス

第十條　欄、檻、圍障若ハ作物植付アル他人ノ土地ニ於テハ業主又ハ占有者ノ承諾チ得ルニアラサレハ銃獵チ爲スコトチ得ス

第十一條　出獵ノ際ハ免狀チ携帶スヘシ若シ當該官吏ニ於テ免狀ノ檢査チ爲ストキハ之チ拒ムコトチ得ス

第十二條　免狀ハ貸借讓與チ爲スコトチ得ス

第十三條　免狀チ受ケタル者他管轄內ニ轉住スルトキ又ハ免狀チ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ五日以內ニ所轄官廳ニ屆出ヘシ

轉住ノ場合ニ於テハ書換、亡失毀損ノ場合ニ於テハ再下付チ請フコトチ得

第十四條　免狀ハ效力チ失ヒタルトキヨリ三十日以內ニ所轄官廳又ハ支廳ニ返納スヘシ

第十五條　免狀ハ別記樣式ニ依ル

第十六條　學術研究其ノ他特別ノ理由アル者ハ何時ニテモ知事又ハ廳長ノ許可チ得テ保護鳥其ノ他ノ鳥類チ捕獲スルコトチ得但シ捕獲シタル鳥類ハ之チ賣買スルコトチ得ス

農作物ニ害チ加フル獸類チ驅除セントスルトキ其ノ他特別ノ理由アルトキハ何時ニテモ知事又ハ廳長ノ許可チ得テ獸類ノ捕獲チ爲スコトチ得

第十七條　第一條、第五條第二項、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條及第十六條但書ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第十條ニ付テハ業主又ハ占有者ノ告訴チ待テ處斷ス

前項第六條、第七條、第八條、第九條ニ違背シ處罰チ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力チ失フモノトス

第十八條　第十二條ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條　第十一條、第十三條及第十四條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第十九條ノ二　本令ノ規定ハ空氣銃チ以テ鳥獸チ捕獲スル者ニ之チ準用ス

附　則

第二十條　保護鳥ノ種類ハ別ニ告示ス

第二十一條　本則第六條ハ各種ノ網其ノ他ノ方法チ以テ之チ捕獲スル者ニモ適用ス

第二十二條　明治三十二年府令第百十二號及從前發布シタル銃獵ニ關スル縣令廳令ハ廢止ス

第二十三條　本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス

別記

免狀樣形（用紙鳥ノ子）

第　號

竪五寸

表

寫眞

本籍
住所
職業
氏名
年月日生

銃獵免狀

有效期限　自年月日　至年月日

年月日下付

官廳名

横三寸五分

裏

銃獵取締規則抄錄

第五條　免狀ノ有效期限ハ毎年九月十五日ヨリ翌年三月三十一日マテトス

前項ノ期間內ニアラサレハ銃獵チ爲スコトチ得ス

第六號　保護チ必要トスル鳥類ハ之チ捕獲スルコトチ禁ス

第七條　左ニ揭クル場所ニ於テハ銃獵チ爲スコトチ得ス

一　市街チ距ルコト五町以內ノ地　二　人家稠密衆人群集ノ場所
三　公園　四　公道　五　社寺廟境內　六　墓地
七　禁獵ノ制札アル場所

第八條　日出前日沒後ハ銃獵チ爲スコトチ得ス

第九條　銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵チ爲スコトチ得ス

第十條　欄、檻、圍障若クハ作物植付アル他人ノ土地ニ於テハ業主又ハ占有者ノ承諾チ得ルニアラサレハ銃獵チ爲スコトチ得ス

第十一條　出獵ノ際ハ免狀チ携帶スヘシ若シ當該官吏ニ於テ免狀ノ檢査チ爲ストキハ之チ拒ムコトチ得ス

第十二條　免狀ハ貸借讓與チ爲スコトチ得ス

第十三條　免狀チ受ケタル者他管廳內ニ轉住スルトキ又ハ免狀チ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ五日以內ニ所轄官廳ニ屆出ツヘシ轉住ノ場合ニ於テハ書換、亡失毀損ノ場合ニ於テハ再下付チ請フコトチ得

第十四條　免狀ハ效力チ失ヒタルトキヨリ三十日以內ニ所轄官廳又ハ支廳ニ返納スヘシ

第十六條　學術研究其ノ他特別ノ理由アル者ハ何時ニテモ知事又ハ廳長ノ許可チ得テ保護鳥其ノ他ノ鳥類チ捕獲スルコトチ得但シ捕獲シタル鳥類ハ之チ賣買スルコトチ得ス

第十七條　第一條、第五條第二項、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條及第十六條但書ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス但第十條ニ付テハ業主又ハ占有者ノ告訴ヲ待テ處斷ス

前項第六條、第七條、第八條、第九條ニ違背シ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其效力ヲ失フモノトス

第十八條　第十二條ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十一條、第十三條、第十四條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

銃獵取締規則第二十條ニ依ル保護鳥ノ種類（明治三十八年八月十六日告示第一〇一號）

一　左ニ揭クル鳥類ハ四季ヲ通シテ之ヲ保護ス

鶲、三光鳥、白眉（土名）、鳥秋（土名）、鵯、サンショクヒ、鶺鴒、雲雀、燕、小啄木、杜鵑、郭公、筒鳥、梟、鶴、白鷺（簑毛ノ黃色ノモノヲ含ム）

二　左ニ揭クル鳥類ハ毎年二月十五日ヨリ十月三十一日マテ之ヲ保護ス

鴨、椋鳥、加令（土名）、黃鶯（土名）

三　左ニ揭クル鳥類ハ毎年三月一日ヨリ十月三十一日マテ之ヲ保護ス

雉、鷓鴣、竹雞

明治三十六年六月府令第四十七號銃獵取締規則第二十條ニ依ル保護鳥ノ種類ヲ左ノ通リ相改ム（明治三十八年八月十六日臺灣總督府告示第百一號）

一　左ニ揭クル鳥類ハ四季ヲ通シテ之ヲ保護ス

鶲、三光鳥、白眉（土名）、鳥秋（土名）、鵯、サンショクヒ、鶺鴒、雲雀、燕、小啄木、杜鵑、郭公、筒鳥、梟、鶴、白鷺（簑毛ノ黃色ノモノヲ含ム）

二　左ニ揭クル鳥類ハ毎年二月十五日ヨリ十月三十一日マテ之ヲ保護ス

鴨、椋鳥、加令（土名）、黃鶯（土名）

三　左ニ揭クル鳥類ハ毎年三月一日ヨリ十月三十一日マテ之ヲ保護ス

雉、鷓鴣、竹雞

●樺太狩獵取締規則

（明治四十二年九月樺太廳令第二十八號　改正　大正三年第一二號、七年第三六號、一一年第二六號）

樺太狩獵取締規則

第一條　爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ陷穽其ノ他危險ナル裝置ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第二條　保護鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

前項保護鳥獸ノ種類及保護期間ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　狩獵ヲ爲サムトスル者ハ本籍、住所、職業、氏名、生年月日及狩獵方法ヲ具シ住所地所轄警察官署ノ免狀ヲ受クヘシ但シ銃器、網、黐繩、擌、鈎、罠ノ使用以外ノ方法ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條ノ二　狩獵免狀ハ左ノ二種トス

甲種免狀　銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノ

乙種免狀　銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノ

第四條　狩獵免狀ヲ受クル者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一　甲種免狀　十圓

二　乙種免狀　十五圓

三　甲種免狀ヲ有スル者ニシテ乙種免狀ヲ受クル場合　五圓

四　乙種免狀ヲ有スル者ニシテ甲種免狀ヲ受クル場合　五十錢

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルニ依リ其ノ再下付ヲ請求スル場合又ハ轉居其ノ他ノ事由ニ依リ書換ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料五十錢ヲ納付スヘシ

前各項ノ手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第四條ノ二　樺太在住ノ土人ニシテ免狀ヲ受クル場合ニ於テハ前條ノ手數料ハ之ヲ免除ス

第五條　免狀ノ有效期間ハ九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄トス

第六條　未成年者及白痴瘋癲者ハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　左ノ場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一　公道

二　公園

三　社寺境內

四　墓地

五　禁獵ノ制札アル場所

六　特ニ狩獵ヲ廢止シタル區域

狩獵區域ヲ指定セラレタルトキハ其ノ區域外ニ於テ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　日出前、日沒後又ハ市街其ノ他人家ノ附近、衆人群集ノ場所ニ於テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　出獵ノ際ハ免狀ヲ携帶スヘシ當該官吏ニ於テ免狀ノ檢查ヲ爲ストキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條　免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス

第十一條　免狀ヲ受ケタル者左ノ場合ニハ十日以內ニ届出ヘシ

一　轉居シタルトキ

二　免狀ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ

第十二條　免狀ハ效力ヲ失ヒタルトキヨリ三十日以內ニ所轄警察官署ニ返納スヘシ

第十三條　免狀ハ別記樣式ニ依ル

第十四條　學術研究其ノ他特別ノ理由アル者ハ何時ニテモ樺太廳長官ノ許可ヲ得テ保護鳥獸其ノ他ノ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得

第十五條　第一條及第二條ノ規定ニ違反シ又ハ免狀ヲ受ケスシテ狩獵ヲ爲シタル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第十五條ノ二　第七條乃至第九條、第十一條及第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十六條　免狀ヲ受ケタル者前條ニ依リ處罰ヲ受ケタルトキハ免狀ヲ無效トスルコトアルヘシ

第十七條　本島在住ノ土人ニ限リ其ノ出願及届出ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

附　則

本則ハ明治四十二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月總令第三號貂ノ獵期ニ關スル件ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別記樣式）

（縱四寸五分　橫六寸五分　用紙鳥ノ子）

表　面

第　　號

「何」種狩獵免狀

有效期間　自九月一日　至翌年八月三十一日

本籍

住所

職業

氏名

生年月

年　月　日

「何」警察（分）署

樺太狩獵取締規則抄錄

第一條

第二條

第七條乃至第十二條

第十五條乃至第十六條

裏　面

保護鳥獸ノ種類及期間

●銃獵取締規則

（大正元年九月三十日關東都督府令第七號　改正　大正二年第一〇號、六年第八號、一三年廳令第二六號）

銃獵取締規則左ノ通定ム

銃獵取締規則

第一條　銃獵ハ所轄警察官署ヲ經由シ關東長官ニ願出テ免狀ヲ受クルニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

未成年者及瘋癲白痴者ハ銃獵免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第二條　免狀ノ有效期間ハ毎年八月十五日ヨリ翌年五月三十一日迄トス

前項ノ期間內ニ非ラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　免狀ヲ受クル者ハ免許料金十五圓ヲ納ムヘシ但シ銃獵ヲ職業トスル者ノ免許料ハ金二圓トス

第四條　銃獵中ハ免狀ヲ携帶スヘシ

第五條　免狀ハ他人ニ貸與又ハ讓與スルコトヲ得ス

第六條　免狀ヲ亡失毀損シ又ハ免狀記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ再下附又ハ書替ヲ請ハムトスルトキハ手數料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第七條　免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ二十日以內ニ所轄警察官署ヲ經由シ關東長官ニ返納スヘシ

第八條　左ニ揭クル場所ニ於テハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

一　市街地人家稠密又ハ衆人群集ノ場所

二　公園、道路、社寺境內、公設墓地及火葬場

三　特ニ指定シタル禁獵ノ場所

第九條　日出前日沒後又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、船舶若ハ汽車所在ノ方位ニ向テ發火スルヲ得ス

第十條　欄、柵、圍障又ハ作物植附アル他人ノ土地ニ於テハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　裝彈シタル銃器ヲ携帶シテ街路ヲ通行シ汽車又ハ公衆乘合ノ船舶等ニ搭乘シ又ハ建物內ニ立入ルコトヲ得ス

第十二條　學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲銃獵ヲ爲サムトスル者ハ何時ニテモ免狀ノ下附ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二條及第三條ノ規定ヲ適用セス

第十二條ノ二　裝藥ニ依ラスシテ彈丸ヲ發射スル銃ヲ用ヰ獵ヲ爲ス者ニ付テハ免狀ニ關スル規定ヲ適用セス

第十三條　第一條第一項、第二條第二項、第九條乃至第十一條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ第四條乃至第八條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス但シ第十條ニ付テハ土地所有者又ハ占有者ノ告訴ヲ待テ處斷ス

本令ニ依リ罰金ニ處セラレタル者ノ免狀ハ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ免狀ノ返納ヲ命セラレタル者ハ滿一年間ヲ經過スルニ非ラサレハ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正元年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ關東州外鐵道附屬地ニ之ヲ適用セス

●關東州野生鳥獸保護規則

（大正二年四月二十三日關東都督府令第十一號　改正　大正五年第九號、一五年關東廳令第一八號）

關東州野生鳥獸保護規則左ノ通定ム

關東州野生鳥獸保護規則

第一條　野生鳥類ノ巢、卵又ハ雛ハ之ヲ採取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ雀、鴉及鳩鴿ニ之ヲ適用セス

第二條　野生鳥類ハ左ニ揭クルモノヲ除クノ外之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

鶉、山鷄（ヤマウヅラ又ハシヤコ）、沙鷄（サケイ）、杓鷸（シヤクシシギ）、鳩鴿（ハト）、花鷄（アトリ）、交喙（イスカ）、金翅雀（ヒハ）、河原鶸（カハラヒハ）、蠟嘴（シメ）、雀、黃道眉（ホホジロ）、蒿雀、野鵐、頭鳥、黃鳥、鶺鴒、雁、鳧（カモ）、鋸喙鳥（アイサ）、千鳥、計里、鷸、秧雞、鵲、鴉、鷺、鷹、隼、鳶、魚狗、戴勝

第三條　鳥獸ノ繁殖保護ノ爲必要アリト認ムルトキハ關東長官ハ鳥獸ノ種類及保護期間又ハ區域ヲ定メテ其ノ捕獲ヲ禁止スルコトアルヘシ

第四條　銃獵免狀有效期間內ニ在ラサレハ鳥類ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ兎ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　爆發物、劇藥、毒藥又ハ危險ナル罠若ハ陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ警察官署長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ野生鳥獸ヲ捕獲シ又ハ野生鳥類ノ巢、卵若ハ雛ヲ採取スルノ必要アルトキハ警察官署長ハ特ニ之ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第一條乃至第四條ノ規定ヲ適用セス

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス

一　第一條ニ違反シ採取シタル巢、卵若ハ雛

二　第二條又ハ第四條ニ違反シ捕獲シタル鳥類

三　第三條ニ依リ定メタル保護期間內又ハ禁止區域內ニ於テ捕獲シタル鳥獸

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條、第二條第四條第五條又ハ第七條ニ違反シタル者

二　第三條ニ依リ定メタル保護期間內又ハ禁止區域內ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シタル者

三　第六條ニ定ムル許可ニ依ラスシテ鳥獸ヲ捕獲シタル者

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

大正二年告示第六十七號關東州野生鳥獸保護規則第三條ニ依リ鳥獸ノ種類及保護期間ヲ左ノ通改定シ其ノ捕獲ヲ禁止ス（大正三年八月二十七日關東都督府告示第九十四號　改正　大正四年第四〇號）

一　沙鷄、鳩鴿　（自三月一日　至九月三十日）

二　鶉、秧雞、計里、戴勝、黃鳥　（自五月一日　至八月三十一日）

●臘虎膃肭獸獵獲禁止ニ關スル法律

（明治四十五年四月二十二日法律第二十一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臘虎膃肭獸獵獲禁止ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（御名御璽）

第一條　白令海、勘察加海、「オコツク」海及日本海ニ包含スル北緯三十度以北ノ太平洋ニ於テハ臘虎膃肭獸ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超ユル前項ノ海面ニ於テハ臘虎ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　膃肭獸ノ陸上獵獲及帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超エサル範圍內ニ於ケル臘虎ノ獵獲ハ政府ニ專屬ス

第三條　臘虎膃肭獸又ハ其ノ獸皮ハ之ヲ帝國內ニ輸入又ハ移致スルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ必要アリト認ムルトキハ船舶店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ、帳簿物件ヲ檢査シ又ハ本法ニ違反スル行爲アリト認ムルトキハ船舶船具獵具船籍證書若ハ獵獲物ヲ差押ヘ、船員ヲ抑留シ若ハ之ヲ相當官吏ニ引致スルコトヲ得

第五條　第一條ノ規定ニ違反シ又ハ私ニ第二條ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ犯罪若ハ其ノ準備ノ爲土地家屋船舶其ノ他ノ物件ヲ使用シ若ハ使用セシメタル者又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ罰前項ニ同シ

第六條　前條第一項ノ犯罪行爲ニ供シタル船舶船具獵具及本法ニ違反シテ獵獲輸入又ハ移致シタル臘虎膃肭獸又ハ其ノ獸皮ニシテ犯人ノ所有スルモノハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第七條　第四條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條　本法ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「アイノ」人ニ之ヲ適用セサルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臘虎膃肭獸獵法ハ之ヲ廢止ス

●明治四十五年法律第二十一號施行規則

（明治四十五年四月二十二日農商務省令第十一號）

明治四十五年法律第二十一號施行規則左ノ通相定ム

第一條　左ニ揭クル臘虎膃肭獸又ハ其ノ獸皮ハ之ヲ帝國內ニ輸入又ハ移致スルコトヲ妨ケス

一　明治四十四年十二月十四日以前ニ於テ獵獲シタルモノ

二　膃肭獸保護條約各締約國ノ官ノ記號ヲ附シタルモノ

三　「カロルヒヌス、アラスカヌス」「カロルヒヌス、ウルシヌス」若ハ「カロルヒヌス、クリレンシス」ト稱スル種族ニ屬セサルモノ

四　千島「アイノ」人カ第二條ニ依リ獵獲シタルモノ

前項第一號又ハ第四號ニ該當スルモノハ其ノ輸入又ハ移致ノ際所轄警察本署又ハ分署ニ屆出テ其ノ檢印ヲ受クヘシ

第二條　千島「アイノ」人ハ帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超エサル範圍內ニ於テ臘虎ノ獵獲ヲ爲シ又ハ他船ト連絡ナク櫓、櫂又ハ帆ヲ以テ推進スル小舟ニ依リ其ノ乘組員五人以下ニシテ銃器ヲ使用セス慣行ノ方法ニ從ヒ膃肭獸ノ獵獲ヲ爲スコトヲ妨ケス但シ他人ニ雇役セラレ又ハ獵獲シタル臘虎膃肭獸又ハ其ノ獸皮ヲ他人ニ引渡スノ契約ヲ爲ササル場合ニ限ル

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海驢及海豹ノ獵獲禁止方

（大正三年一月十二日農商務省令第二號）

第一條　東經百四十九度以東北緯四十五度以北ノ場所ニ於テハ官廳ノ外海驢又ハ海豹ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル獵獲物及獵具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス

第八章　組合

●産業組合法

（明治三十三年三月七日法律第三十四號）

改正　明治三九年第四五號、四二年第二七號　大正六年第二二號、一〇年第七三號、一二年第四四號、一五年第五四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル産業組合法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

産業組合法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ

一　組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト（信用組合）

二　組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト（販賣組合）

三　産業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セスシテ又ハ之ヲ生産シテ組合員ニ賣却スルコト（購買組合）

四　組合員ヲシテ産業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト（利用組合）

信用組合ハ組合員外ノ者ニシテ組合加入ノ豫約ヲ爲シタルモノノ出資一口ノ金額及出資一口ニ付定款ノ定ムル所ニ依リ加入ニ關シ拂込ムヘキ金額ノ合計額ニ達スル迄ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及組合員ト同一ノ家ニ在ル者、公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

市又ハ主務大臣ノ指定スル市街地カ組合ノ區域ニ屬スル信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ産業若ハ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ノ爲手形ノ割引ヲ爲シ又ハ前二項ノ貯金ノ外組合ノ區域內ニ居住スル組合員外ノ者ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル貯金ハ有限責任組合ニ在リテハ出資總額及準備金其ノ他ノ積立金ノ額ノ合計、保證責任組合ニ在リテハ之ニ保證金額ヲ加ヘタル合計、無限責任組合ニ在リテハ出資總額ノ五倍及準備金其ノ他ノ積立金ノ額ノ合計ヲ超エ之ヲ受入ルルコトヲ得ス

第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合ハ第一項第二號乃至第四號ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

利用組合ノ設備ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

前項ノ設備ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第二條　産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條　産業組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條　産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ウヘシ

産業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條　産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條　産業組合ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

第六條ノ二　命令ノ定ムル所ニ依ル産業組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合ト組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第二章　設立

第七條　産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條　組合ノ設立者ハ定款ヲ作リ之ヲ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘシ

第九條　定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一　目的

二　名稱

三　組織

三ノ二　區域

四　事務所

五　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六　第一回拂込ノ金額

七　剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定

八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九　組合員タル資格ニ關スル規定

十　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

十一　組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

信用組合ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市町村ノ區域內ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條　産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十一條　出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十三條　前條ノ拂込アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條　登記スヘキ事項左ノ如シ

一　第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ揭ケタル事項

二　設立許可ノ年月日

三　理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ揭ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條　行政區劃又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ノ記載ハ變更セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

第十六條　民法第四十五條第二項、第三項及第四十八條ノ規定ハ期間ヲ除クノ外産業組合ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ二　第十二條ノ拂込アリタルトキハ組合ハ二週間內ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出テ同時ニ組合原簿ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依ル屆出及提出アリタルトキハ地方長官ハ遲滯ナク各事務所所在地ノ登記所ニ設立ノ登記ヲ囑託シ且主タル事務所所在地ノ登記所ニ組合原簿ヲ送付スヘシ

第十六條ノ三　第十四條第一項ニ揭ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ組合ハ二週間內ニ變更ノ登記ヲ爲スヘキ事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ但シ登記ノ事由カ地方長官ノ認可其ノ他ノ處分ニ因リテ生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル屆出アリタルトキハ地方長官ハ遲滯ナク各事務所所在地ノ登記所ニ登記ノ囑託ヲ爲スヘシ前項但書ノ場合亦同シ

第十六條ノ四　組合ハ主タル事務所ノ移轉又ハ組織變更ノ登記ニ關スル屆出ヲ爲スト同時ニ組合原簿ヲ地方長官ニ提出スヘシ但シ同一ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ事務所ヲ移轉シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

地方長官ハ主タル事務所所在地ノ登記所ニ前項ノ登記ヲ囑託スルト同時ニ組合原簿ヲ送付スヘシ

第十六條ノ五　組合原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　出資ノ總口數

二　拂込ミタル出資ノ總額

三　無限責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所

四　保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所及保證金額

登記所ノ受理シタル組合原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第十四條第二項及第十五條ノ規定ハ組合原簿ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ六　第十六條ノ三ノ規定ハ組合原簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

組合員ノ加入ノ場合ニ於テハ無限責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名及住所ヲ、保證責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名住所及保證金額ヲ記載シタル組合原簿ヲ加入ノ日ヨリ二週間內ニ地方長官ニ提出シ地方長官ハ遲滯ナク之ヲ主タル事務所所在地ノ登記所ニ送付スヘシ

組合原簿ニ記載シタル事項ノ變更ノ屆出又ハ組合原簿ノ提出ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ事業年度ノ終ヨリ二週間內ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ組合員ノ脫退又ハ保證金額ノ減少ニ付テハ總組合員ノ同意ヲ以テ定款ニ之ヲ定メタル場合ニ限ル

第三章　組合員ノ權利義務

第十七條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ三十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ五十口迄之ヲ增加スルコトヲ得

第十八條　組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條　組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條　組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條　持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條　新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條　組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

第二十四條　組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月內ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章　管理

第二十五條　産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十六條　理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條　理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　理事ハ定款及總會ノ決議錄ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ揭ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條ノ二　組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ

記載スヘシ

一　各組合員ノ氏名、住所

二　各組合員ノ出資口數

三　各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四　出資各口ノ取得ノ年月日

五　保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第三十條　理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條　理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十一條ノ二　産業組合カ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第三十二條　民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十三條　監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十四條　民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十四條ノ二　理事缺ケタルトキハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ

理事カ第二十三條ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲サヽルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ

第三十五條　組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第三十六條　總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條　組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十八條　民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二　組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條　定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條　組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條　債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十二條　前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ但シ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スヘキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

組合員ニ配當スヘキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎ト爲ルヘキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第四十四條　組合ハ損失ヲ塡補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

剩餘金配當ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條　組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條　組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十六條ノ二　信用組合ハ第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ管理スヘシ

前項ノ金額ハ事業年度ニ從ヒ毎六箇月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ定ム

第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ爲シタル者ハ第一項ノ拂戻準備金ノ上ニ先取特權ヲ有ス

第四十六條ノ三　有限責任又ハ保證責任ノ信用組合第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ニ關スル債務ヲ完濟スルコト能ハサルトキハ各理事連帶シテ之ヲ辨濟スルノ責ニ任ス

前項ノ規定ニ依ル理事ノ責任ハ其ノ退任前ノ債務ニ付退任ノ登記後二箇年間仍存續ス

第四十七條　組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十八條　組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五章　加入及脫退

第四十九條　組合員ノ加入ハ無限責任組合ニ在リテハ總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ同意ニ付テハ組合ハ總組合員ニ對シ加入ニ異議アラハ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ異議ヲ述ヘサル者ハ同意ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十條　定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條　組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス

一　組合員タル資格ノ喪失

二　死亡

三　破産

四　禁治産

五　除名

第五十二條　除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條　脫退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條　脫退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脫退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脫退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條　持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脫退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第五十六條　持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完濟スルニ足ラサルトキハ脫退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條　脫退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完濟スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條　無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脫退シタル組合員ハ脫退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脫退ヲ組合原簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル期間ハ總組合員ノ同意アルトキハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セサル限リ之ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四十條及第四十一條ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第六章　監督

第五十九條　産業組合ハ主務大臣、地方長官及北海道廳支廳長之ヲ監督ス

第六十條　監督官廳ハ何時ニテモ理事又ハ清算人ヲシテ組合ノ事業、財産又ハ清算事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合ノ事業、財産又ハ清算事務ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

監督官廳ハ組合清算ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ組合ニ對シ其ノ財産ノ供託ヲ命スルコトヲ得

第六十條ノ二　理事ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ假ニ理事ヲ選任スルコトヲ得

第六十一條　組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ定款若ハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ノ改選ヲ命シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第七章　解散

第六十二條　組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　總會ノ決議

三　組合ノ合併

四　組合ノ破産

五　組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ

第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス但シ無限責任組合カ合併セムトスルトキ又ハ保證責任組合若ハ有限責任組合カ合併ニ因リテ組織變更ト同一ノ結果ヲ生スヘキトキハ其ノ合併ニ付總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十三條　組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ二　合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準用ス

第六十四條　第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　總會ノ決議ニ因ル解散又ハ合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十六條　組合カ合併ヲ爲シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條　組合ハ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ第四十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第六十九條　民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章　清算

第七十條　清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條　清算人ハ就職後遲滯ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作リ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條　清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條　清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十三條ノ二　清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十三條ノ三　重要ナル事由アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十四條　清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ヲ登記スヘシ

第十四條第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ清算人ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス

第七十四條ノ二　清算結了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　民法第七十三條、第七十四條及第七十六條乃至第八十一條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九章　産業組合聯合會及産業組合中央會

第七十六條　産業組合聯合會ハ左ノ目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

一　所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト（信用組合聯合會）

二　所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト（販賣組合聯合會）

三　所屬組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セスシテ又ハ之ヲ生産シテ所屬組合ニ賣却スルコト（購買組合聯合會）

四　所屬組合ヲシテ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト（利用組合聯合會）

産業組合聯合會ハ産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス但シ信用組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行フ聯合會ヲ以テ、販賣組合聯合會及購買組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行ハサル産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得ス

第七十六條ノ二　信用組合聯合會ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、北海道拓殖銀行、農工銀行又ハ産業組合中央金庫ニ對シ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ債務ノ保證ヲ爲シタルトキハ信用組合聯合會ハ銀行又ハ産業組合中央金庫ノ委任ヲ受ケ其ノ債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得

第七十七條　産業組合聯合會ハ法團法人トス

産業組合聯合會ノ組織ハ有限責任及保證責任ノ二種トス

保證責任産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ハ其ノ出資總額ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七十八條　産業組合又ハ産業組合聯合會カ産業組合聯合會ニ加入シ又ハ脫退セムトスルトキハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十九條　産業組合聯合會ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスル二個以上ノ産業組合聯合會カ合併セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

區域カ道府縣ノ區域ヲ超ユル産業組合聯合會ノ監督其ノ他ノ職務ハ其ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ

第八十條　産業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ理事及監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任

ニ付地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

産業組合聯合會設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八十一條　産業組合聯合會ニハ本章ニ規定アルモノヲ除クノ外産業組合ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第七十九條第二項ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ登記スヘキ事項ノ屆出、組合原簿ノ提出及送付竝登記ノ囑託ニ關スル規定中地方長官トアルハ合併後存續スル産業組合聯合會又ハ合併ニ因リテ設立シタル産業組合聯合會ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官トス

第八十二條　産業組合中央會ハ産業組合及産業組合聯合會ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ設立スルコトヲ得

産業組合中央會ハ社團法人トス

産業組合中央會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ事業ノ一部ヲ行フコトヲ得

第八十三條　産業組合中央會ハ其ノ名稱中ニハ産業組合中央會ナル文字ヲ用ウヘシ

産業組合中央會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合中央會タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第八十四條　産業組合中央會ハ全國ヲ通シテ一箇トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

産業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條　産業組合及産業組合聯合會ハ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第八十六條　産業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱
二　事務所
三　會員ノ加入及脱退ニ關スル規定
四　會員ノ權利義務ニ關スル規定
五　資産ニ關スル規定
六　役員ニ關スル規定
七　會議ニ關スル規定
八　事業ノ執行ニ關スル規定
九　定款ノ變更ニ關スル規定
十　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八十七條　産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一　目的及第八十二條第三項ノ規定ニ依ル事業ノ種類
二　第八十六條第一項第一號、第二號及第十號ニ揭ケタル事項
三　資産ノ總額
四　設立許可ノ年月日
五　理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ揭ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條ノ三ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方長官トアルハ主務大臣トス

第八十八條　産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

第八十九條　産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第九十條　産業組合中央會ノ總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第六十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス

第九十一條　産業組合中央會ハ主務大臣之ヲ監督ス

第九十二條　第三條、第五條乃至第七條、第十條、第十五條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、第四十七條、第六十條、第六十一條、第六十二條第一項第一號第二號第四號第五號、第六十三條、第六十五條、第六十九條乃至第七十五條、第八十條第二項、第九十三條ノ二及第九十四條竝民法第六十二條及第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第六十五條、第七十三條ノ二及第七十三條ノ三中竝第六十三條、第七十四條及第七十四條ノ二ニ於テ準用シタル第十六條ノ三中地方長官トアルハ主務大臣トス

第十章　罰則

第九十三條　組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付若ハ手形ノ割引ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合財産ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス

第九十三條ノ二　組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラル

一　本法ニ定メタル屆出若ハ組合原簿ノ提出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ屆出ヲ爲シ若ハ組合原簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
二　官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
三　第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ揭ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ
四　第一條第五項、第四十三條、第四十五條乃至第四十六條ノ二、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ
五　第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ檢査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ
六　民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ
七　民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
八　民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ
九　組合ノ目的タル事業ニ非サル營利事業ヲ營ミタルトキ
十　第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ違背シテ出資一口ノ金額若ハ組合員ノ保證金額ヲ減少シ、第五十八條ノ規定ニ依ル責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ
十一　法令又ハ定款ニ違背シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

第九十三條ノ三　第四條第二項又ハ第八十三條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十四條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第九十五條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十三年勅令第三百一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

第九十六條　産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所産業組合聯合會及産業組合中央會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

第九十七條　各登記所ニ産業組合登記簿、産業組合聯合會登記簿及産業組合中央會登記簿ヲ備フ

第九十八條　登記ノ囑託ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

囑託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　産業組合、産業組合聯合會又ハ産業組合中央會ノ名稱及事務所
二　登記ノ目的及事由
三　年月日
四　登記所ノ表示

第九十九條　設立登記ノ囑託書ニハ定款及屆書ヲ添附シ其ノ他ノ登記ノ囑託書ニハ屆出ニ因ル場合ニ於テハ屆書ヲ添附スヘシ

第百條乃至第百三條　削除

第百四條　本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合原簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百五條　非訟事件手續法第百三十八條、第百三十八條ノ二、第百四十一條乃至第百四十六條、第百四十八條、第百四十八條ノ二、第百五十一條乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條及第百七十五條ノ規定ハ産業組合、産業組合聯合會及産業組合中央會ニ之ヲ準用ス

附　則（大正六年法律第二十二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ登記シタル産業組合及産業組合聯合會ニシテ定款ニ區域ノ定アルモノニ付テハ地方長官ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ區域ノ登記ヲ各事務所所在地ノ登記所ニ囑託スヘシ

（大正六年勅令第百九十九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

附　則（大正十年法律第七十三號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ設立シタル生産組合又ハ生産組合聯合會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル利用組合又ハ利用組合聯合會ト看做ス

（大正十年勅令第三百七十一號ヲ以テ同年八月十日ヨリ施行）

附　則（大正十五年法律第五十四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第五十九條及第百六條ニ關スル規定ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十五年勅令第百三十號ヲ以テ同年五月二十五日ヨリ施行）

●産業組合法施行規則

明治四十二年八月二十一日
農商務省令第三十五號
改正　大正六年第三〇號、一〇年第二四號、一五年農林省令第九號

産業組合法施行規則左ノ通改正ス

産業組合法施行規則

第一條　信用組合ノ區域内ニ住居スル者ニ非サレハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戾ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

豫約者ハ其ノ貯金カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非サレハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三箇年ヲ經過シ尙ホ組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ爲スヘシ

第一條ノ二　利用組合ハ定款ヲ以テ定ムルニ非サレハ組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依リ指定シタル設備ヲ利用セシムルコトヲ得ス

第一條ノ三　産業組合法第一條第七項ニ組合員タルコトヲ得サル者ト稱スルハ法令若ハ定款ノ規定ニ依リ又ハ出資ノ能力ナキ爲組合ニ加入スルコトヲ得サル者ヲ謂フ

第一條ノ四　産業組合法第一條第七項ノ事業ヲ行フ利用組合ノ設立ノ許可ヲ申請スル者ハ定款ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ

一　申請ノ理由
二　設備ノ規模及其ノ能力
三　組合員ノ設備利用ノ程度
四　設備ニ關スル事業施行ノ方法
五　設備費
六　一事業年度ノ收支概算
七　組合員數、組合員戶數、區域内戶數及組合員タルコトヲ得サル者ニシテ設備ヲ利用シ得ルモノノ種類別數

組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依リ指定シタル設備ヲ利用セシムル爲定款ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ認可申請書ニ前項第二號乃至第七號ニ揭クル事項ヲ記載シタル書類、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

組合合併ノ際定款ヲ以テ前項ノ事業ヲ行フ旨ヲ定メムトスル場合ニ於テハ其ノ認可申請書ニ第一項各號ニ揭クル事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ

第一條ノ五　産業組合法第一條第七項ノ事業ヲ行フ利用組合ハ其ノ區域内ニ於ケル組合員タルコトヲ得ル者ノ三分ノ二以上ヲ組合員トスルモノニ限ル

第一條ノ六　組合員タルコトヲ得サル者ニシテ産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依リ指定シタル設備ヲ利用シ得ルモノハ組合ノ區域内ニ居住スル者ニ限ル但シ左ノ各號ニ揭クル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　電氣設備ニ在リテハ組合ノ區域内ニ於テ家屋物件ヲ所有シ使用シ又ハ占有シ之カ爲其ノ設備ヲ利用スル必要アル者
二　其ノ他ノ設備ニ在リテハ前號ニ揭クル者及定款ヲ以テ規定シタル者

第一條ノ七　組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ設備ヲ利用セシムル場合ニ於ケル利用料ハ實費ヲ超ユルコトヲ得ス

第一條ノ八　産業組合法第六條ノ二ニ住宅ト稱スルハ主トシテ住居ノ用ニ供スル家屋及之ニ相應スル門、牆塀、物置、井戶其ノ他居住ノ爲必要ナル附屬設備ヲ謂フ

第一條ノ九　産業組合法第六條ノ二ノ規定ニ依リ地方稅ノ免除ヲ受クヘキ住宅又ハ住宅用地ハ左ノ制限ニ從フコトヲ要ス但シ産業組合ノ住宅ノ建設若ハ購入又ハ住宅用地ノ取得ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　住宅ハ一組合員ニ付一戶ニ限ル
二　前號ノ住宅ハ一戶ニ付家屋各階ノ床面積合計五十坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
三　住宅用地ハ住宅ニ相應スルモノナルコトヲ要ス

第二條　出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　組合若ハ聯合會カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ增加スル者ヨリ增口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員又ハ組合若ハ聯合會ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戾スヘキトキハ其ノ持分ノ殘額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ

第六條　總代會ハ組合ニ在リテハ五百人以上ノ組合員、聯合會ニ在リテハ百人以上ノ所屬組合及所屬聯合會ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選擧ニ關スル規定ヲ設クヘシ

第七條　産業組合法第九十條ノ代表者ハ道府縣每ニ會員之ヲ選擧スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第八條　理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　組合、聯合會及中央會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二　産業組合法第一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リ貯金ノ受入及拂戾ニ付テ

ハ組合員ノ貯金ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第九條ノ三　産業組合法第一條第七項ノ規定ニ依ル利用ニ付テハ組合員ノ利用ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第九條ノ四　登記又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

前項ノ屆書ニハ受附ノ年月日ヲ記載スヘシ地方長官ニ於テ受理シタル組合原簿及聯合會原簿ニ付亦同シ

第九條ノ五　地方長官ニ提出スル組合原簿、聯合會原簿又ハ其ノ記載事項ノ變更ノ屆書ニハ記載事項又ハ其ノ變更ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏、名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ産業組合法第八十七條第二項第三號ノ事項ノ變更ノ屆書ニ之ヲ準用ス

第九條ノ六　登記又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ手續ヲ踐ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十條　理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遅滯ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農林大臣ニ差出スヘシ

第十一條　組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數竝出資口數ノ異動、聯合會ニ在リテハ所屬組合及所屬聯合會ノ種類別ノ數竝出資口數ノ異動

二　出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額

三　損益ノ計算竝借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率

三ノ二　準備金及各種ノ積立金

四　總會又ハ總代會ノ決議

五　事業ノ狀況

六　信用組合又ハ信用組合聯合會ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ヲ爲シタル組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ數竝貯金及貸付金ノ利率、産業組合法第一條第二項ノ豫約ヲ爲シタル信用組合ニ在リテハ豫約者ノ數及其ノ貯金額、販賣組合又ハ販賣組合聯合會ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合又ハ購買組合聯合會ニ在リテハ買入若ハ生産又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數量及價額、利用組合又ハ利用組合聯合會ニ在リテハ利用ノ程度ヲ表示スヘキ事項

六ノ二　産業組合法第一條第三項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ニ在リテハ其ノ貯金者ノ種類別數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ノ利率

六ノ三　産業組合法第一條第四項ノ信用組合ニ在リテハ手形ノ種類別割引枚數、金額及割引ノ歩合、組合員及組合員外ノ職業別及金額別ノ貯金者數及貯金額、受入又ハ拂戻シタル組合員外ノ貯金額及貯金ノ利率、預入先別預入又ハ引出シタル金額及預入金ノ利率竝拂戻準備金ノ管理方法別ノ金額

六ノ四　信用組合聯合會ニ在リテハ産業組合法第七十六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ爲シタル保證ノ金額

七　産業組合法第一條第七項ノ事業ヲ行フ利用組合ニ在リテハ組合員タルコトヲ得サル者ノ利用ノ程度ヲ表示スヘキ事項

八　處務ノ要件

前項ノ規定ハ中央會ノ事業報告書ニ之ヲ準用ス

第十二條　組合、聯合會又ハ中央會カ借入金ヲ爲サムトスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ信用組合又ハ信用組合聯合會カ一事業年度ニ於ケル一組合員又ハ一所屬組合若ハ一所屬聯合會ニ對シテ爲ス貸付額又ハ手形ノ割引金額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農林大臣ニ遅滯ナク報告スヘシ

第十二條ノ二　定款變更ノ認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議録ヲ添附スヘシ

第十二條ノ三　理事又ハ監事ノ變更ノ屆書ニハ其ノ變更カ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議録、其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條ノ四　産業組合法第十六條ノ六第二項及第三項ノ規定ニ依リ無限責任組合ノ提出スル組合原簿ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十三條　出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第十二條ノ二ニ掲ケタル書類ノ外財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十四條　剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量又ハ拂込ミタル出資額ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シ配當スヘキ剩餘金ニシテ出資ノ拂込ニ充テサルモノハ拂込ミタル出資額カ出資總額ノ二分ノ一ニ滿タサル場合ニ限リ配當スヘキ剩餘金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割迄之ヲ增加スルコトヲ得

第十四條ノ二　産業組合法第十六條ノ六第三項又ハ第五十八條第二項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十四條ノ三　産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ屆書ニハ其ノ事由ヲ記載シ解散ノ當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十四條ノ四　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録、財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十五條　合併ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存續スル組合若ハ聯合會又ハ合併ニ因リテ設立スル組合若ハ聯合會ノ定款竝産業組合法第六十三條ノ二ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第六十二條第二項但書ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ前項ニ掲ケタル書類ノ外組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十六條　組織變更ノ認可申請書ニハ組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十六條ノ二　産業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依ル定款變更ノ場合ニ於テ組合又ハ聯合會カ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ踐ミタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附シ遅滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十七條　組合又ハ聯合會カ中央會ニ加入シ又ハ脫退シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十七條ノ二　第十二條ノ三ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ屆書ニ之ヲ準用ス

第十七條ノ三　第十條ノ規定ハ清算人カ産業組合法第七十一條ノ規定ニ依ル承認ヲ經タル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條ノ四　清算結了ノ屆書ニハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

第十八條　北海道廳支廳長カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第十九條　地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第二十條　本則中農林大臣トアルハ大正六年勅令第二百號ニ依リ農林大臣及大藏大臣ノ所管ニ係ルモノニ付テハ農林大臣及大藏大臣トス

附　則

第二十一條　本則ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セス

附　則（大正十五年農林省令第九號）

本令ハ大正十五年法律第五十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ拂込ミタル出資額以外ノ持分ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ行フ旨ヲ定款ヲ以テ定メタル組合又ハ聯合會ノ剩餘金ノ配當ニ付テハ大正十五年十二月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ組合又ハ聯合會前項ノ期日迄ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ剩餘金ノ配當ニ付當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

●産業組合法中主務大臣ノ行フ職務ニ關スル件

（大正六年十月二十七日勅令第二百號）
改正　大正一〇年第三七二號

朕産業組合法中主務大臣ノ行フ職務ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、大藏大臣副署）

産業組合法中主務大臣ノ行フ職務ニシテ左ノ各號ノ一ニ關スルモノハ農商務大臣及大藏大臣協議シテ之ヲ行フ

一　産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合

二　信用組合聯合會及産業組合中央會ノ事業中前號ノ信用組合ニ關スル事業

前項ノ規定ハ樺太ニ付テハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正六年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十年勅令第三百七十二號）

本令ハ大正十年法律第七十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十年法律第七十三號ハ大正十年八月十日ヨリ施行）

●産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依ル利用組合ノ設備指定ノ件

（大正十五年五月二十日勅令第百三十一號）

朕産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依ル利用組合ノ設備指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農林大臣副署）

産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依リ利用組合ノ設備ニシテ組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ利用セシムルコトヲ得ルモノヲ指定スルコト左ノ如シ

電氣設備、水道、浴場、種畜、乾繭裝置

附　則

本令ハ大正十五年法律第五十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●産業組合法第四十六條ノ二ノ規定ニ依ル拂戻準備金ノ管理ニ關スル件

（大正六年十月二十七日勅令第二百一號）
改正　大正一〇年第九四號

朕産業組合法第四十六條ノ二ノ規定ニ依ル拂戻準備金ノ管理ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、大藏大臣副署）

第一條　産業組合法第四十六條ノ二ノ規定ニ依ル拂戻準備金ノ管理ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一　金錢又ハ有價證券ノ供託

二　郵便貯金法ニ依ル貯金又ハ有價證券保管

三　信用組合聯合會ヘノ貯金

前項第三號ノ貯金ハ拂戻準備金總額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　前條ノ有價證券ノ種類ハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

一　國債證券

二　地方債證券

第三條　第一條ノ有價證券ノ見積價格ハ事業年度ニ從ヒ毎六月末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ハ事業年度ニ從ヒ六月毎ニ遅滯ナク第一條ノ規定ニ依ル管理ノ手續ヲ爲シ同法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ額ヲ記載シタル書面及管理ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ屆出ツヘシ

第五條　拂戻準備金ハ地方長官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ引出スコトヲ得ス

前項ノ承認ノ申請ハ其ノ事由ヲ具シタル書面ニ産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ現在額竝證券ヲ引出スモノニ在リテハ證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額及枚數ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ大正六年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●産業組合中央會ノ設立及事業ニ關スル件

（明治四十二年八月二十一日勅令第二百十三號）

朕産業組合中央會ノ設立及事業ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

第一條　産業組合中央會ヲ設立セムトスル者ハ申請書ニ定款ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ期限ヲ定メテ會員ヲ募集シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ創立總會ヲ招集シ定款ヲ議定スヘシ

前項定款ノ議定ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス

第三條　創立總會ノ議決權ハ書面又ハ代理人ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行フ者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第四條　創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ申請書ニ定款及創立總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出シ設立ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　設立ノ許可アリタルトキハ發起人ハ其ノ事務ヲ理事ニ引繼クヘシ

第六條　産業組合中央會ハ産業組合法第八十二條第三項ニ依リ其ノ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ニ對シ同法第一條第一項第三號及第四號ノ事業ヲ行フコトヲ得但シ加工ニ關スル事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●産業組合中央金庫法（大正十二年四月六日法律第四十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル産業組合中央金庫法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、農商務大臣副署）

産業組合中央金庫法

第一章　總則

第一條　産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

第二條　産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トス

産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

産業組合聯合會ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第三條　産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條　産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

産業組合中央金庫ハ資本金全額ノ拂込前ト雖出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ增加スルコトヲ得

第五條　政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス

第六條　産業組合聯合會及産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後每年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

政府ノ産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條　産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

登錄稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第二章　役員

第九條　産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人、理事、監事各三人以上ヲ置ク

第十條　理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條　理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五箇年監事ノ任期ハ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

第十二條　産業組合中央金庫ニ評議員二十名以內ヲ置キ主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半數以上ハ産業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮問ニ應スルモノトス

評議員ノ任期ハ三箇年トス

第三章　業務

第十三條　産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ五箇年以內ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

二　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

三　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト

四　産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト

第十四條　産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條　産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一　國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二　産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條　産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章　産業債券

第十七條　産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

第十八條　産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十九條　産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十七條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以內ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十條　産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　産業債券ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十五箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス

第二十二條　産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第五章　計算

第二十三條　産業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十四條　産業組合中央金庫ハ每事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第六章　監督及補助

第二十五條　主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

本法中主務大臣トアルハ農商務大臣及大藏大臣トス

第二十六條　産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條　産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十九條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十條　産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高步合ハ每事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ事業年度內ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十一條　主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十二條　産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ産業組合中央金庫ニ命シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十三條　産業組合中央金庫ハ創立初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章　罰則

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二　主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三　第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四　第十六條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五　第十七條第一項及第十九條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

第三十五條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第三十六條　主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十七條　設立委員ハ定款ヲ作リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集ス

第三十八條　設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十九條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡スヘシ

第四十條　産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●産業組合中央金庫法施行規則（大正十二年七月五日農商務省令第十六號）

産業組合中央金庫法施行規則左ノ通定ム（大藏大臣連署）

産業組合中央金庫法施行規則

第一條　産業組合中央金庫ニ對シテ政府ノ有スル持分ハ拂込濟資本金ニ對スル政府ノ拂込濟出資額ノ割合ニ依ルモノトス

第二條　資本金增加ノ場合ニ於テ加入金及增口金ヲ徵收セムトスルトキハ産業組合中央金庫ハ農商務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

加入金及增口金ハ準備金ニ組入ルヘシ

第三條　産業組合中央金庫ニ於テ總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選擧ニ關スル規定ヲ設クヘシ

總代ハ道府縣每ニ出資者之ヲ互選スヘシ

第四條　産業組合中央金庫ハ每年總會又ハ總代會ニ於テ一所屬産業組合聯合會又ハ一所屬産業組合ニ對シテ爲ス産業組合中央金庫法第十三條及第十四條ノ規定ニ依ル貸付又ハ手形ノ割引ニ付其ノ金額ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ産業組合中央金庫法第十五條ノ規定ニ依ル貸付ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ屆出ツヘシ

第五條　剩餘金ノ配當ハ拂込濟出資額又ハ所屬産業組合聯合會及所屬産業組合ニ對シ取扱ヒタル事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

拂込濟出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス但シ準備金ノ額カ出資總額ノ四分ノ一ニ達シタルトキハ年八分迄之ヲ增加スルコトヲ得

第六條　産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事及監事ノ報酬又ハ賞與ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

前項役員ノ報酬ノ額ハ農商務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　財産目錄、貸借對照表及事業報告書ニ付總會又ハ總代會ノ承認アリタルトキハ産業組合中央金庫ハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ提出シ且定款ノ定ムル方法ニ從ヒ貸借對照表ヲ公告スヘシ

第八條　産業組合中央金庫ニ於テ事業施行ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●産業組合中央金庫設立ニ關スル件（大正十二年七月四日勅令第三百三十三號）

朕産業組合中央金庫設立ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、大藏大臣副署）

第一條　産業組合中央金庫ニ出資ノ申込ヲ爲サムトスル産業組合聯合會又ハ産業組合ハ出資申立書三通ニ其ノ名稱及住所竝其ノ引受クヘキ口數ヲ記載シ其ノ代表者之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ出資申立書ハ設立委員之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　定款認可ノ年月日

二　目的

三　資本ノ總額

四　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

五　出資第一回ノ拂込金額

六　申込ミ得ヘキ最高出資口數

七　主タル事務所ノ所在地及從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ所在地

八　存立期間

九　公告ノ方法

十　産業組合中央金庫ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用

第二條　出資ノ申込ニ對スル割當ニ付テハ設立委員ハ農商務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ稟請スル場合ニハ出資申立書ノ外各産業組合聯合會又ハ各産業組合ノ出資ノ割當口數ヲ記載シタル書面ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ提出スヘシ

第四條　出資ノ引受ヲ爲シタル産業組合聯合會又ハ産業組合カ出資第一回ノ拂込ヲ爲ササルトキハ設立委員ハ一定ノ期間內ニ其ノ拂込ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間內ニ之ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其ノ産業組合聯合會又ハ産業組合ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ三週間ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ通知アリタルニ拘ラス出資ノ引受ヲ爲シタル産業組合聯合會又ハ産業組合カ其ノ期間內ニ拂込ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ其ノ者カ引受ケタル出資ニ付更ニ出資者ヲ募集スヘシ

第五條　出資第一回ノ拂込ヲ終リタルトキハ設立委員ハ各出資者ノ出資口數、拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日ヲ記載シタル書面竝産業組合中央金庫ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用ノ計算書ヲ提出シ農商務大臣及大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　前條ノ承認アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第七條　創立總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ三週間前ニ各出資者ニ對シテ其ノ通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スヘシ

第八條　設立委員ハ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スヘシ

第九條　創立總會ハ出資者ノ半數以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

創立總會ニ於ケル決議ハ出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第十條　創立總會ニ於ケル出資者ノ議決權ハ平等トス

第十一條　創立總會ニ於テハ出資者ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

代理人タルコトヲ得ル者ハ出資者ニ限ル

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ設立委員ニ差出スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行フ者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第十二條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ屆出ツヘシ

第十三條　産業組合中央金庫理事長ハ設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ二週間內ニ其ノ旨ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ屆出テ同時ニ産業組合中央金庫原簿ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依ル屆出及提出アリタルトキハ農商務大臣及大藏大臣ハ各事務所所在地ノ登記所ニ設立ノ登記ヲ囑託シ且主タル事務所所在地ノ登記所ニ産業組合中央金庫原簿ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●産業債券令（大正十二年七月二十六日勅令第三百五十八號）

朕産業債券令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、大藏大臣副署）

産業債券令

第一條　産業組合中央金庫ノ産業債券ノ發行ハ募集又ハ賣出ノ方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

第二條　産業組合中央金庫ハ前ニ募集シタル産業債券ノ總額ノ拂込前ト雖更ニ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

第三條　産業債券ノ募集ニ應セムトスル者ハ産業債券申込證二通ニ其ノ引受クヘキ産業債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スヘシ

産業債券申込證ハ理事長之ヲ作リ左ニ掲クル事項ヲ之ニ記載スヘシ

一　名稱
二　産業債券ノ總額
三　各産業債券ノ金額
四　産業債券ノ利率
五　産業債券償還ノ方法及期限
六　數回ニ分チテ産業債券ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期
七　産業債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
八　産業組合中央金庫ノ資本金及拂込ミタル出資ノ總額
九　最終ノ貸借對照表ニ依リ産業組合中央金庫ニ現存スル財産ノ額
十　前ニ産業債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額

産業債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ産業債券申込證ニ應募價額ヲ記載スヘシ

第四條　前條ノ規定ハ契約ニ依リ産業債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セス産業債券募集ノ委託ヲ受ケタル者カ自ラ産業債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同シ

第五條　産業債券ノ應募總額カ産業債券申込證ニ記載シタル産業債券ノ總額ニ達セサルトキト雖産業債券ノ發行ヲ成立セシムル旨ヲ産業債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ産業債券ノ總額トス

第六條　産業債券ノ募集カ完了シタルトキハ理事長ハ遲滯ナク各産業債券ニ付其ノ全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第七條　産業債券募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己ノ名ヲ以テ産業組合中央金庫ノ爲ニ第三條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

第八條　産業債券ノ賣出ヲ爲サムトスルトキハ理事長ハ左ニ掲クル事項ヲ公告スヘシ

一　賣出期間
二　産業債券發行ノ價額
三　第三條第二項第一號乃至第五號及第八號乃至第十號ニ掲クル事項
四　第九條ニ規定スル事項

第九條　賣出期間內ニ賣上ケタル産業債券ノ總額カ前條ノ規定ニ依リ公告シタル産業債券ノ總額ニ達セサルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ産業債券ノ總額トス

第十條　第六條ノ拂込アリタルトキ又ハ賣出期間滿了シタルトキハ左ニ掲クル事項ヲ登記スヘキモノトス

一　第三條第二項第二號乃至第五號ニ掲クル事項
二　各産業債券ニ付拂込ミタル金額

前項ニ掲クル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘキモノトス

第十一條　第六條ノ拂込アリタルトキ又ハ賣出期間滿了シタルトキハ理事長ハ二週間內ニ左ニ掲クル書類ヲ添付シ前條第一項ニ掲クル事項ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ屆出ツヘシ

一　最終ノ貸借對照表
二　産業債券ノ引受ヲ證スル書面又ハ賣出期間內ニ於ケル賣上總額ヲ證スル書面
三　産業債券申込證
四　各産業債券ニ付第六條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

前項ノ規定ニ依ル屆出アリタルトキハ農商務大臣及大藏大臣ハ各事務所所在地ノ登記所ニ登記ヲ囑託スヘシ

前項ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ囑託書ニハ第一項ノ屆書及添附書類ヲ添附スヘシ

第十二條　第十條第一項ニ掲クル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ理事長ハ二週間內ニ其ノ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ其ノ事項ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ屆出ツヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル屆出アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　産業債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第十四條　産業債券ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ理事長之ニ署名又ハ記名捺印スヘシ

一　産業債券ノ番號
二　第三條第二項第一號乃至第五號ニ掲クル事項

賣出ノ方法ニ依リ發行スル産業債券ニハ第三條第二項第二號ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要セス

第十五條　理事長ハ主タル事務所ニ産業債券原簿ヲ備ヘ置クヘシ

産業組合中央金庫ノ出資者及債權者ハ業務取扱時間內何時ニテモ産業債券原簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　産業債券原簿ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　産業債券ノ數及番號
二　産業債券發行ノ年月日
三　第三條第二項第二號乃至第六號ニ掲クル事項
四　各産業債券ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日

産業債券ヲ記名ト爲シタルトキハ前項ニ掲クル事項ノ外權利者ノ氏名住所及取得ノ年月日ヲ産業債券原簿ニ記載スヘシ

第十七條　産業債券權利者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ金額ハ各産業債券ニ付同一ニ定メ且券面ニ之ヲ記載スヘシ

第十八條　産業債券應募者ニ對スル通知又ハ催告ハ産業債券申込證ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者カ別ニ其ノ住所ヲ産業組合中央金庫ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●重要物産同業組合法（明治三十三年三月七日法律第三十五號）（改正　大正五年第一五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル重要物産同業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

重要物産同業組合法

第一條　重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條　同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ增進スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條　同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業每ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條　同業組合設置ノ地區內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　同業組合及同業組合聯合會ハ法人トス

同業組合及同業組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　同業組合及同業組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一　組長　一名
一　副組長　若干名
一　評議員　若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ同業組合ニ於テハ組合員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選擧シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ必要アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選擧スルコトヲ得

第九條　組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ補佐シ組長故障アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應シ及業務施行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

第十條　同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ檢査規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ檢査スルコトヲ得

同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十條ノ二　前條第一項ノ檢査ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ニ在リテハ檢査員ヲ置クヘシ

檢査員ノ選任及解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三　同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ檢査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ四　農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ノ申請アルトキ又ハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十一條　同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算及徵收法ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成蹟ハ每年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條　同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮問アルトキハ答申スヘシ

第十三條　農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ經費ノ豫算又ハ其ノ徵收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條　農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會ヘノ加入若ハ同業組合聯合會ヨリノ脫退ヲ命スルコトヲ得

第十五條　同業組合若ハ同業組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　同業組合若ハ同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止
二　役員ノ解職
三　決議ノ取消

第十六條　同業組合若ハ同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　地方長官ハ其ノ管內ニ於ケル同業組合及同業組合聯合會ヲ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フヘシ

第十八條　農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十九條　第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ二　同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ三　同業組合及同業組合聯合會ノ役員檢査員其ノ他事務ニ從事スル者正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキ又ハ職務ノ執行ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ四　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十條　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ檢査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ檢査證ヲ僞造若ハ變造シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十條ノ三　前條第一項ニ掲クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十條ノ四　第二十條ニ掲クル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第二十條ノ二ニ掲クル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附　則

第二十一條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及聯合會ハ本法施行ノ日ヨ

リ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條　他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スヘキモノト定メタル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當スル本法ノ規定ヲ準用ス

附　則（大正五年法律第十五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正五年勅令第百二十三號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行前選任セラレタル檢査員ニ付テハ本法施行後一月內ニ其ノ選任ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ期間內ニ認可ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ期間滿了ノ日、申請ニ對シ不認可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日ニ於テ檢査員ハ解任セラレタルモノト看做ス

檢査員ハ前項解任ノ日迄從前ノ例ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得

前三項ノ規定ハ本法ニ依リタル他ノ法律ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ニ關シ之ヲ準用ス

刑法施行法第二十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　削除

●重要物產同業組合法施行規則

（大正五年五月二十九日　農商務省令第八號）

改正　大正七年第二四號、九年第二五號

重要物產同業組合法施行規則左ノ通改正ス

重要物產同業組合法施行規則

第一條　同業組合ノ名稱中ニハ同業組合ナル文字ヲ用ウヘシ

同業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ同業組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第二條　組合ノ地區ハ一郡市以上一府縣以下ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　組合ヲ設置セムトスルトキハ五名以上ノ營業者發起人ト爲リ組合地區ヲ管轄スル地方長官ニ發起ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一　組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類
二　組合ノ地區
三　組合ノ目的及業務ノ概目
四　組合設置ノ事由
五　組合員タルヘキ者ノ數但シ組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ其ノ營業ノ種類毎ニ之ヲ區別スヘシ
六　組合ノ創立費及收支ノ概算

第四條　發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ組合員タルヘキ者ニ前條第二項ニ掲クル事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

第五條　法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作リ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第六條　定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ前項ノ同意ハ種類毎ニ三分ノ二以上ナルコトヲ要ス

第七條　創立總會ニ於テハ役員ヲ選擧シ最初ノ事業年度ノ經費ノ豫算及徵收法ヲ議決スヘシ

第八條　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第九條　第十九條第一項、第二十條、第二十二條第二項第三項及第二十七條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第十條　創立總會終結シタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款、創立總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

前項ノ認可アリタルトキハ地方長官ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十一條　發起人發起ノ認可アリタル後一年內ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキハ發起ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十二條　農商務大臣組合ノ設置ヲ命シタルトキハ地方長官ハ創立委員ヲ選定シ其ノ氏名及住所ヲ公告スヘシ

創立委員ハ定款ヲ作リ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

組合ノ設置アリタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク組合員ノ總會ヲ招集スヘシ

第五條第二項、第七條、第八條、第十九條第一項、第二十條及第二十二條第二項第三項ノ規定ハ前項總會ニ之ヲ準用ス

第十三條　組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　目的
二　業務
三　名稱
四　地區及組合員ノ營業ノ種類
五　主タル事務所及從タル事務所ノ所在地
六　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
七　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
八　役員ノ定數、權限及任免ニ關スル規定
九　業務ノ執行ニ關スル規定
十　會議ニ關スル規定
十一　會計ニ關スル規定

仲裁判斷又ハ調停ヲ爲ス組合ニ在リテハ之ニ關スル規定ヲ定款ニ記載スヘシ

聯合會ヲ組織スル組合ノ定款ニハ代表員ノ選擧ニ關スル規定ヲ記載スヘシ代表員事故アルトキ之ニ代ルヘキ豫備代表員ヲ設クル場合其ノ選擧ニ關スル規定ニ付亦同シ

第十四條　定款ニ主タル事務所ノ位置ヲ記載セサル組合ニ在リテハ之ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十五條　組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合員中ヨリ選擧シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織ス

代議員ノ定數、任期及選擧ニ關スル規定ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十六條　組合ノ業務ハ組合會ノ決議ニ依リ組長之ヲ行フ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　組長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ每事業年度少クトモ一回一定ノ時期ニ於テ組合會ヲ招集スヘシ

組長必要ト認ムルトキハ組合會ヲ臨時ニ招集スルコトヲ得

代議員定數ノ五分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ組合會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ招集スヘシ評議員會カ第二十四條第二號ノ規定ニ依リ報告ヲ爲ス爲組合會ノ招集ヲ請求シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間內ニ組合會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　組合會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シテ定款ノ定ムル方法ニ依リ其ノ通知ヲ發スヘシ

組合會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ期間ハ定款ノ規定ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十九條　組合會ニ於テハ代議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

前項ニ定メタル員數ノ代議員出席セサルトキハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各代議員ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一月內ニ第二回ノ組合會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二回ノ組合會ニ於テハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第二十條　組合會ノ議決ハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十條ノ二　組合會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ組長ハ書面ニ依ル代議員ノ表決ヲ以テ組合會ノ決議ニ代フルコトヲ得

第二十一條　定款ノ變更ハ組合會ニ於テ代議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

地區又ハ組合員ノ營業ノ種類ノ增減ニ關スル定款ノ變更ハ前項ノ決議ノ外編入又ハ削除セラルヘキ區域若ハ營業ノ種類ニ屬スル組合員タルヘキ者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面及決議錄ノ謄本並第二項ノ場合ニ於テハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第二十二條　組合員ノ少數ナル組合ニ在リテハ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フルコトヲ得

總會ニ於ケル各組合員ノ表決權ハ平等トス

總會ニ出席セサル組合員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

組合會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第二十三條　組合ニ評議員會ヲ置ク但シ組合員少數ナル組合ニ在リテハ評議員會ヲ置カサルコトヲ得

評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十四條　評議員會ノ職務權限左ノ如シ

一　組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト
二　組合ノ財產及業務ノ狀況ヲ監査シ每事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト
三　組長ノ諮詢ニ應スルコト
四　其ノ他定款ノ規定ニ依リ其ノ職務權限ニ屬スル事項

第二十五條　評議員會ハ組長之ヲ招集ス

評議員ノ三分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ招集スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間內ニ評議員會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十六條　第十九條乃至第二十條ノ二ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第二十七條　組合會、總會及評議員會ノ議長ハ決議錄ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺印スヘシ

一　開會ノ日時及場所
二　代議員若ハ評議員ノ定數又ハ組合員ノ數
三　出席者ノ員數
四　議事ノ要領
五　議決シタル事項
六　贊否ノ數

第二十八條　組合ノ役員及檢査員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第二十九條　組合ハ檢査員ノ資格、選任、解任及給與ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十條　組合ノ檢査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

組合ノ檢査員ノ職務ヲ停止シ又ハ給與ヲ減額セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條　組合ノ役員及檢査員ノ解任認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十二條　組合ノ事業年度ハ一年トス

第三十三條　組合經費ノ豫算及徵收法ノ認可申請ハ事業年度二月前ニ、經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後三月內ニ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　組合ニ於テ定款ノ施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條　役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選擧ノ手續ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第三十六條　組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ組合會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

清算人ハ其ノ氏名住所ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十七條　前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官之ヲ選任ス

第三十八條　清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條　清算カ結了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四十條　聯合會ヲ設置若ハ解散シ之ニ加入シ又ハ之ヨリ脫退スルニハ組合會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

脫退ニ關スル組合會ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條　聯合會ヲ設置セムトスルトキハ各組合ニ於テ選定シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ全員ノ同意ヲ以テ定款ノ作成其ノ他必要ナル事項ヲ議定スヘシ

創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ定款、其ノ他議定シタル事項、各組合ノ組合會ニ於ケル聯合會設置ニ關スル決議錄ノ謄本及創立委員會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ農商務大臣ニ設置ノ認可ヲ申請スヘシ

聯合會ノ定款ニハ第十三條第一項第一號乃至第三號、第五號、第八號乃至第十一號ニ掲クル事項竝所屬組合ノ名稱、加入脫退、權利義務、代表員ノ定數及任期ニ關スル規定ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條及第八條ノ規定ハ創立委員會ニ之ヲ準用ス

第四十二條　聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ所屬組合ノ代表員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十三條　第一條、第十二條、第十三條第二項、第十四條、第十六條乃至第二十條ノ二、第二十一條第一項第四項及第二十三條乃至第三十九條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十四條　地方長官ハ組合又ハ聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第四十五條　組合ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一　定款變更ノ認可
二　役員ノ選任竝檢査員ノ選任及解任ノ認可
三　重要物產同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員又ハ檢査員ノ選任又ハ解任
四　重要物產同業組合法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員ノ解任ノ認可
五　檢査員ノ服務ニ關スル規程ノ認可
六　經費ノ豫算及徵收法ノ認可
七　經費ノ豫算又ハ其ノ徵收法ノ變更ヲ命スルコト
八　地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコト
九　重要物產同業組合法第十五條第二號及第三號ノ處分

前項ノ規定ハ一府縣內ヲ區域トスル聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十六條　地方長官ハ前條ノ規定ニ依リテ處理シタルトキハ第一項第五號ノ場合ヲ除クノ外農商務大臣ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ但シ前條第一項第二號乃至第四號ノ報告ハ組長及副組長ニ限ル

第四十七條　本則中地方長官トアルハ主タル事務所所在地ノ地方長官トス

第四十八條　本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ又ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ聯合會ノ區域二以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ於テハ農商務大臣ニ於テ又ハ農商務大臣ニ對シテ之ヲ爲スモノトス

組合又ハ聯合會ノ區域二以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ於テハ關係地方長官ニ於テモ組合又ハ聯合會ニ對シ其ノ管內ニ於ケル業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第四十九條　本則中府縣、郡市トアルハ府縣制、郡制、市制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

第五十條　農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ

地方長官チ經由スヘシ

附　則

第五十一條　本則ハ大正五年七月一日ヨリ之チ施行ス

第五十二條　本則施行前ニ爲シタル發起ノ認可ハ第十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ本則施行ノ日ニ於テ之チ爲シタルモノト看做ス

第五十三條　本則施行前組合又ハ聯合會設置認可ノ申請アリタル場合ニ於テハ本則施行後六月間仍從前ノ例ニ依リ處分スルコトチ得

第五十四條　組合又ハ聯合會ノ定款ニシテ本則ノ施行ニ依リ變更チ要スルモノニ付テハ本則施行後一年內ニ其ノ變更ノ手續チ爲スヘシ

第五十五條　明治三十四年農商務省令第十三號ハ之チ廢止ス

●重要物産同業組合法ニ依ル重要輸出品指定

（大正五年五月二十九日農商務省告示第九十號　改正　大正六年第四八號、七年第二四〇號、第三三三號）

重要物産同業組合法第十條ノ四第三項ノ規定ニ依リ重要輸出品チ指定スルコト左ノ如シ

生絲　絹屑物
羽二重、薄絹及紬絹　琥珀及甲斐絹
縮緬　繻子
白木綿　廣幅綿布
綿縮　浴巾
帶子　絹製品
刺繍絲拔又ハ絓リタル布帛製品
メリヤス製品　眞田
花莚　燐寸
木蠟　賣藥
帽子　貝鈕釦
陶磁器　硝子製品
金屬製品　檜材
箱板　傘柄
竹製品　漆器
時計　洋傘
玩具　紙
ブラッシュ　石鹼
椎茸　柑橘
苹果　豌豆
落花生豆　薄荷
魚介罐詰　昆布
鯣　貝柱
寒天　菜豆
澱粉　除蟲菊及殺蟲粉
百合根　鉛筆
カタン絲　「セルロイド」製品

●輸出組合法

（大正十四年三月三十日法律第二十七號）

朕帝國議會ノ協贊チ經タル輸出組合法チ裁可シ茲ニ之チ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

輸出組合法

第一條　同一種類ノ重要輸出品ノ輸出チ業トスル者又ハ同一市場チ目的トシテ商品ノ輸出チ業トスル者ハ其ノ輸出貿易ノ振興チ圖ル爲共同ノ施設チ爲ス目的チ以テ輸出組合チ設立スルコトチ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之チ指定ス

第二條　輸出組合ハ法人トス

第三條　輸出組合ハ左ノ事業チ行フコトチ得

一　組合員ノ取扱商品ノ委託輸出、輸出ノ斡旋、保管、選別、包裝、荷造其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設
二　組合員ノ營業上ノ弊害チ矯正スル爲必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限
三　海外市場ノ調査、新販路ノ開拓其ノ他組合ノ目的チ達スルニ必要ナル施設

第四條　輸出組合ハ其ノ名稱中ニ輸出組合ナル文字チ用フヘシ

輸出組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合ナル文字チ用フルコトチ得ス

第五條　同一又ハ重複スル地區ニ於テ二個以上ノ同種ノ輸出組合チ設立スルコトチ得ス

但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ノ一部チ組合員ニ分賦スルコトチ得

第七條　輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金チ課スルコトチ得

第八條　營業上ノ弊害チ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ニ對シ必要ナル施設チ命スルコトチ得

第九條　營業上ノ弊害チ矯正スル爲特ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸出組合ノ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格チ有スルモノチシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシムルコトチ得

第十條　本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之チ以テ第三者ニ對抗スルコトチ得ス

第十一條　本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタル後二週間內ニ之チ登記スヘシ

登記スヘキ事項ニシテ主務大臣ノ認可チ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間チ起算ス

第十二條　輸出組合チ設立セムトスルトキハ豫メ地區チ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格チ有スル者ノ過半數ノ同意チ得テ創立總會チ開キ定款其ノ他必要ナル事項チ定メ役員チ選任シ主務大臣ノ認可チ受クヘシ

前項ノ同意チ得ルコト能ハサルトキト雖特別ノ事由アル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可チ受ケ創立總會チ招集スルコトチ得

第十三條　創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意チ以テ之チ爲ス

第十四條　設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人チ以テ其ノ議決權チ行フコトチ得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人タルコトチ得ス

代理人ハ代理權チ證スル書面チ差出スヘシ

第十五條　輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項チ記載スヘシ

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所ノ所在地
五　組合員タル資格ニ關スル規定
六　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
七　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
八　剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
九　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
十　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
十一　事業及其ノ執行ニ關スル規定
十二　役員ニ關スル規定
十三　會議ニ關スル規定
十四　會計ニ關スル規定
十五　存立ノ時期又ハ解散ノ事由チ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十六條　輸出組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記チ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一　前條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ揭ケタル事項
二　事務所
三　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
四　設立認可ノ年月日
五　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ揭ケタル事項中ニ變更チ生シタルトキハ其ノ登記チ爲スヘシ但シ前項第三號ニ揭ケタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月內ニ登記チ爲スコトチ得

第十七條　組合員ハ出資一口以上チ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ五十口チ超ユルコトチ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之チ增加スルコトチ得

第十八條　組合員ノ責任ハ第六條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額チ限度トス

第十九條　組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意チ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由チ記載シタル書面チ理事ニ提出シテ總會ノ招集チ請求スルコトチ得

理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間內ニ總會招集ノ手續チ爲ササルトキハ請求者ハ主務大臣ノ認可チ受ケ之チ招集スルコトチ得

第二十條　輸出組合ニハ理事及監事チ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之チ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之チ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ組合員又ハ設立同意者ニ非サル者ヨリ之チ選任スルコトチ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付主務大臣ノ認可チ受クヘシ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員チ置クコトチ得

第二十一條　組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權チ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一チ超エサル範圍內ニ於テ出資口數ニ應シ二個以上ノ議決權チ有セシムルコトチ得

第二十二條　經費ノ一部チ組合員ニ分賦スル輸出組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決チ經ヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之チ議決スヘシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上チ以テ之チ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　組合員タル資格チ有スル者輸出組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件チ附シ又ハ其ノ加入チ拒ムコトチ得ス

第二十四條　組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告チ爲シ輸出組合ノ承諾チ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトチ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾チ拒ムコトチ得ス

第二十五條　檢査チ行フ輸出組合ニ在リテハ檢査員チ置クヘシ

檢査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可チ受クヘシ

第二十六條　輸出組合ハ檢査員ノ服務ニ關スル規程チ定メ主務大臣ノ認可チ受クヘシ

第二十七條　主務大臣必要ト認ムルトキハ檢査員ノ選任又ハ解任チ爲スコトチ得

第二十八條　主務大臣必要ト認ムルトキハ輸出組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更チ命スルコトチ得

第二十九條　設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之チ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ總會ノ決議錄、出資ノ總口數チ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトチ證スル書面竝理事及監事ノ資格チ證スル書面チ添附スヘシ

第三十條　事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之チ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之チ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格チ證スル書面及登記事項ノ變更チ證スル書面チ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請チ爲シタル申請人カ同一ノ登記所ニ前項ノ申請チ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格チ證スル書面チ添附スルコトチ要セス

出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告チ爲シタルコト及異議チ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟チ爲シ又ハ擔保チ供シタルコトチ證スル書面チ添附スヘシ

第三十一條　解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタル組合ノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之チ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由チ證スル書面及理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格チ證スル書面チ添附スヘシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之チ準用ス

輸出組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ登記チ爲スヘシ

第三十二條　清算結了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之チ爲スヘシ

第三十三條　民法第四十四條第一項、第四十[illegible]條、第五十[illegible]項、第六十[illegible]七十條、第[illegible]條乃至第[illegible]十八條、第[illegible]至第百五[illegible]百五十八[illegible]第百七十[illegible]第五條、第[illegible]十二條、第二[illegible]三條、第三[illegible]至第三十[illegible]第四十三[illegible]五十一條[illegible]六十一條[illegible]ク）、第六[illegible]至第六十[illegible]條、第七十[illegible]條第一項[illegible]條、第九十[illegible]合ニ付之チ準用ス但シ[illegible]項及第四[illegible]チ二週間トシ產業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之チ主務大臣トス

第三十四條　主務大臣ハ本法ニ依ル職權ノ一部チ地方長官ニ委任スルコトチ得

第三十五條　左ノ場合ニ於テハ輸出組合ノ理事監事又ハ清算人チ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ依リ行政官廳ノ認可チ受クヘキ場合ニ於テ其ノ認可チ受ケサルトキ
二　本法ニ依ル登記チ爲スコトチ怠リ又ハ不正ノ登記チ爲シタルトキ
三　行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立チ爲シ又ハ事實チ隱蔽シタルトキ
四　本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告チ差出サス又ハ其ノ檢査チ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ
五　本法ニ依ル總會ノ招集チ怠リタルトキ
六　本法ニ違反シテ其ノ事務所ニ書類チ備ヘ置カス又ハ其ノ書類ニ記載スヘキ事項チ記載セス若ハ不正ノ記載チ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽チ拒ミタルトキ
七　本法ニ違反シテ組合員ノ持分チ拂戻シタルトキ
八　本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分チ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之チ受ケタルトキ
九　本法ニ違反シテ破產ノ宣告チ請求セサルトキ
十　本法ニ違反シテ出資一口ノ金額チ減少シ又ハ組合ノ合併チ爲シタルトキ
十一　本法ニ依ル公告チ爲スコトチ怠リ又ハ不正ノ公告チ爲シタルトキ
十二　清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟チ爲シ又ハ組合財產ノ分配チ爲シタルトキ
十三　法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金チ處分シタルトキ
十四　組合ノ目的ニ非サル營利事業チ爲シタルトキ

第三十六條　第九條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條　第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十八條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十九條　輸出組合ノ證票若ハ檢査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ檢査證ヲ僞造若ハ變造シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　輸出組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十一條　前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十二條　第三十九條ニ掲ケタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第四十條ニ掲ケタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十四年勅令第二百六十九號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

大正十四年八月二十八日
商工省告示第七號

輸出組合法第一條第二項ノ規定ニ依リ重要輸出品ヲ左ノ通指定ス

綿織物（交織物ヲ含ム）　同製品及綿織絲
絹織物（交織物ヲ含ム）　同製品及紡績絹織絲
毛織物（交織物ヲ含ム）　莫大小及同製品
綿縫絲及レース絲　時計
陶磁器　琺瑯鐵器
硝子製品　セルロイド製品
燐寸　護謨製品
紙　化粧品
染料、顏料、塗料及工業藥品
賣藥　漆器
眞田　玩具
鈕釦　刷子
洋傘　帽子
革及同製品　木竹類製品
扇子及團扇　文房具
花莚、野草莚其ノ他敷物
水產物（製造物ヲ含ム）　乾物
罐罎詰食物　果實
百合根　除蟲菊及同製品

●輸出組合法施行規則

大正十四年八月二十八日
商工省令第九號

輸出組合法施行規則左ノ通定ム

輸出組合法施行規則

第一條　輸出組合法ニ依リ組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タルヘキ者發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

一　地區
二　組合員タル資格
三　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
四　經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦セムトスルトキハ組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法
五　事業計畫概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スヘシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ屆出ツヘシ

第二條　輸出組合法第十二條第二項ノ規定ニ依ル創立總會招集ノ認可申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一　特別ノ事由ヲ記載シタル書面
二　組合員タル資格ヲ有スル者及設立同意者ノ數ヲ證スル書面

第三條　輸出組合法第十二條第一項ノ同意者アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ設立同意者ニ通知スヘシ

第四條　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第五條　創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款創立總會ノ決議錄ノ謄本及左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ設立認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

一　事業計畫
二　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法
三　引受アリタル出資ノ總口數
四　理事及監事ノ氏名及住所
五　經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方法

第六條　輸出組合法第二十條第三項ノ規定ニ依ル理事選任ノ認可申請書ニハ履歷書、總會又ハ創立總會ノ決議錄ノ謄本及其ノ選任ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第七條　役員又ハ清算人ノ受クヘキ給與ハ定款又ハ總會若ハ創立總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第八條　定款變更ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

定款ノ變更カ出資一口ノ金額ノ減少ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ前項ニ掲ケタル書面ノ外財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第九條　經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ於テ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ定メタルトキハ組合ハ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ屆出ツヘシ

第十條　財產目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ニ付總會ノ承認アリタルトキハ組合ハ其ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ屆出ツヘシ

第十一條　剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割迄之ヲ增加スルコトヲ得

第十二條　新ニ組合ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ增加スル者ヨリ增口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脫退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戾スヘキコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ殘額ニ付亦同シ

第十三條　組合員組合ニ對シ脫退ノ承諾ヲ求メムトスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ一定期間前ニ書面ヲ以テ脫退ノ豫告ヲ爲スヘシ

前項ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條　檢査員ノ選任認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第十五條　檢査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

檢査員ノ職務ノ停止、給與ノ減額其ノ他懲戒ヲ爲サムトスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄ノ謄本、財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十七條　合併ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄ノ謄本、財產目錄、貸借對照表、合併契約書ノ謄本及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スヘシ

第十八條　左ノ場合ニ於テハ組合ハ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ屆出ツヘシ

一　定款ノ施行ニ關スル規則ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタルトキ
二　事業經營ニ對スル制限ヲ實施シ又ハ之ヲ改廢シタルトキ
三　事務所、理事、監事、清算人、定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因ル解散又ハ清算結了ノ登記ヲ爲シタルトキ

第十九條　輸出組合法第九條ノ規定ニ依ル命令ハ組合及其ノ依ラシムヘキ事項ヲ指定シ豫メ之ヲ通知ス其ノ命令ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキ亦同シ

商工大臣前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ組合ニ通知ス

第二十條　前條第二項ノ通知アリタル後組合ニ於テ當該事項ノ變更セムトスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本則ハ輸出組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●重要輸出品工業組合法

大正十四年三月三十日
法律第二十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル重要輸出品工業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

重要輸出品工業組合法

第一條　重要輸出品ノ製造ニ關スル工業者ハ其ノ工業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條　工業組合ハ法人トス

第三條　工業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　組合員ノ製品、其ノ原料若ハ材料又ハ製造若ハ加工ノ設備ニ對スル檢査其ノ他必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限
二　共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設
三　組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ組合員ノ委託ニ依リ其ノ製品ノ加工若ハ販賣又ハ組合員ノ營業ニ必要ナル物ノ供給ヲ爲スコトヲ得

第四條　工業組合ハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フヘシ

工業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第六條　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第七條　營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ檢査其ノ他ノ施設ヲ命スルコトヲ得

第八條　營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲特ニ必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工業組合ノ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スルモノヲシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシムルコトヲ得

第九條　工業組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物產同業組合法ニ依ル同業組合ニ加入セス又ハ之ヨリ脫退スルコトヲ得

第十條　本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條　本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタル後二週間內ニ之ヲ登記スヘシ

登記スヘキ事項ニシテ行政官廳ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十二條　工業組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合員タル資格ヲ有スル者ノ工業ノ種類二以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト雖特別ノ事由アル場合ニ於テハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第十三條　創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ設立同意者ノ工業ノ種類二以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十四條　設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十五條　工業組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所ノ所在地
五　組合員タル資格ニ關スル規定
六　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
七　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
八　剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
九　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
十　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
十一　事業及其ノ執行ニ關スル規定
十二　役員ニ關スル規定
十三　會議ニ關スル規定
十四　會計ニ關スル規定
十五　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十六條　工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一　前條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ケタル事項
二　事務所
三　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
四　設立認可ノ年月日
五　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前項第三號ニ掲ケタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得

第十八條　組合員ノ責任ハ第五條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第十九條　組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間內ニ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十條　工業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ組合員又ハ設立同意者ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十一條　組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍內ニ於テ出資口數ニ應シ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十二條　經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル

工業組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　組合員タル資格ヲ有スル者工業組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ工業組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　檢査ヲ行フ工業組合ニ在リテハ檢査員ヲ置クヘシ

檢査員ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　工業組合ハ檢査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條　行政官廳必要ト認ムルトキハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳必要ト認ムルトキハ工業組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九條　工業組合聯合會ハ所屬ノ工業組合及工業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ工業組合又ハ工業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

聯合會ハ法人トス

第三十條　工業組合聯合會ヲ設立セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條　創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第三十二條　工業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條　工業組合ニ關スル規定ハ第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外工業組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第三十四條　設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會、總會又ハ創立委員會ノ決議錄、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面竝理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十五條　事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十六條　解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第三十七條　清算結了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

工業組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ行政官廳ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第三十八條　民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第百三十八條、第百三十八條ノ二、第百四十一條乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條、第百七十五條、第百七十六條及第百七十八條竝産業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十八條ノ二乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十七條、第六十條乃至第六十一條、第六十二條（第一項第四號ヲ除ク）、第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十八條、第九十六條、第九十七條及第百四條ノ規定ハ工業組合ニ付之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ産業組合法中主務大臣、地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十九條　左ノ場合ニ於テハ工業組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二　本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

三　行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四　本法ニ依リ行政官廳ノ徴スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ檢査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

五　本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ

六　本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

七　本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

八　本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

九　本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ

十　本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十一　本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十二　清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

十三　法令又ハ定款ニ違反シテ剰餘金ヲ處分シタルトキ

十四　組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ

第四十條　第八條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十一條　第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十二條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十三條　工業組合ノ證票若ハ檢査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ檢査證ヲ僞造若ハ變造シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條　工業組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十五條　前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十六條　第四十三條ニ掲ケタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第四十四條ニ掲ケタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十四年勅令第二百七十號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

（大正十四年八月二十八日商工省告示第六號　改正　大正一五年第三一號）

重要輸出品工業組合法第一條第二項ノ規定ニ依ル重要輸出品ヲ左ノ通指定ス

綿織物（交織物ヲ含ム）
絹織物（交織物ヲ含ム）
毛織物（交織物ヲ含ム）
布帛製品
莫大小及同製品
時計
金屬製品
陶磁器
琺瑯鐵器
硝子製品
セルロイド製品
燐寸
護謨製品
漆器
眞田
玩具
鈕釦
刷子
帽子
鉛筆
人造眞珠
花莚及野草莚
自轉車

●重要輸出品工業組合法施行規則

（大正十四年八月二十八日商工省令第七號）

重要輸出品工業組合法施行規則左ノ通定ム

重要輸出品工業組合法施行規則

第一條　重要輸出品工業組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タルヘキ者發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

一　地區

二　組合員タル資格

三　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

四　經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦セムトスル組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法

五　事業計畫ノ概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スヘシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滯ナク之ヲ主タル事務所設置豫定地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二條　重要輸出品工業組合法第十二條第二項ノ規定ニ依リ創立總會招集ノ認可申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一　特別ノ事由ヲ記載シタル書面

二　組合員タル資格ヲ有スル者及設立同意者ノ數ヲ證スル書面

二種以上ノ工業者ヲ以テ組合ヲ設立セムトスルトキハ前項第二號ノ書面ハ工業ノ種類別ニ之ヲ記載スヘシ

第三條　重要輸出品工業組合法第十二條第一項ノ同意者アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ設立同意者ニ通知スヘシ

第四條　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第五條　創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議錄ノ謄本及左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ設立認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

一　事業計畫

二　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法

三　引受アリタル出資ノ總口數

四　理事及監事ノ氏名及住所

五　經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方法

第六條　總代會ハ組合員百人以上ノ組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

總代會ハ組合員中ヨリ選擧シタル總代ヲ以テ之ヲ組織ス

總代ノ定數、任期及選擧ニ關スル規定ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七條　重要輸出品工業組合法第二十條第三項ノ規定ニ依ル理事選任ノ認可申請書ニハ履歴書、總會又ハ創立總會若ハ總代會ノ決議錄ノ謄本及其ノ選任ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第八條　役員又ハ清算人ノ受クヘキ給與ハ定款又ハ總會、創立總會若ハ總代會ノ決議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第九條　定款變更ノ認可申請書ニハ總會又ハ總代會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

定款ノ變更カ出資一口ノ金額ノ減少ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ前項ニ掲ケタル書面ノ外財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十條　經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ於テ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ定メタルトキハ組合ハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十一條　財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剰餘金處分案ニ付總會又ハ總代會ノ承認アリタルトキハ組合ハ其ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十二條　剰餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スル外之ヲ爲スコトヲ得ス

持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剰餘金ノ配當率ハ年六歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割迄之ヲ增加スルコトヲ得

第十三條　新ニ組合ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ增加スル者ヨリ增口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ殘額ニ付亦同シ

第十四條　組合員組合ニ對シ脱退ノ承諾ヲ求メムトスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ一定期間前ニ書面ヲ以テ脱退ノ豫告ヲ爲スヘシ

前項ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條　檢査員ノ選任認可申請書ニハ履歴書ヲ添附スヘシ

第十六條　檢査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

檢査員ノ職務ノ停止、給與ノ減額其ノ他懲戒ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄ノ謄本、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十八條　合併ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄ノ謄本、財産目錄、貸借對照表、合併契約書ノ謄本及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スヘシ

第十九條　左ノ場合ニ於テハ組合ハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

一　定款ノ施行ニ關スル規則ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二　事業經營ニ對スル制限ヲ實施シ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

三　事務所、理事、監事、清算人、定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因ル解散又ハ清算結了ノ登記ヲ爲シタルトキ

第二十條　重要輸出品工業組合法第八條ノ規定ニ依リ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有シ組合員ニ非サル者ヲシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシメムトスル場合ニ於テハ商工大臣ハ豫メ組合、其ノ依ラシムヘキ事項及組合ノ取締又ハ制限ニ從フヘキ者ノ資格ヲ指定シ之ヲ告示ス

第二十一條　前條ノ規定ニ依リ指定セラレタル資格ヲ有スル者ハ其ノ指定ニ從ヒ組合ノ取締又ハ制限ニ依ルコトヲ要ス但シ特別ノ事由ニ因リ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　第二十條ノ指定アリタル後組合ニ於テ指定セラレタル事項ニ關スル定款ノ施行規則ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條　聯合會ヲ設立セムトスルトキハ所屬ノ各組合及聯合會ノ理事及監事中ヨリ創立委員二名ヲ選任スヘシ

第二十四條　創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ定款、創立委員會ノ決議錄ノ謄本、聯合會設立ニ關スル所屬ノ組合及聯合會ノ總會又ハ總代會ノ決議錄ノ謄本竝左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ商工大臣ニ聯合會ノ設立認可申請書ヲ差出スヘシ

一　事業計畫

二　聯合會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法

三　引受アリタル出資ノ總口數

四　理事及監事ノ氏名及住所

五　經費ノ一部ヲ所屬ノ組合及聯合會ニ分賦スル聯合會ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方法

第二十五條　組合ニ關スル規定ハ第一條乃至第三條、第五條及第六條ノ規定ヲ除クノ外聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ地方長官トアルハ地區カ道府縣ノ區域ヲ超ユル聯合會ニ關スル場合ニ在リテハ商工大臣トス

第二十六條　重要輸出品工業組合法第七條、第二十二條第二項及第三十六條第四項竝第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第六十五條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ商工大臣トス

重要輸出品工業組合法第十九條、第二十條、第二十五條乃至第二十八條及第三十二條竝第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル民法第五十九條、產業組合法第二十四條、第三十九條、第六十條第二項、第六十條ノ二、第六十一條、第七十三條ノ二及第七十三條ノ三ニ於テ行政官廳又ハ主務官廳ト稱スルハ地方長官（解散ニ付テハ商工大臣）トス但シ地區カ道府縣ノ區域ヲ超ユル聯合會ニ關スル場合ニ在リテハ商工大臣トス

重要輸出品工業組合法第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第六十條第一項ニ於テ行政官廳ト稱スルハ商工大臣及組合又ハ聯合會ノ地區ヲ管轄スル地方長官トス

第二十七條　本則中地方長官ト稱スルハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外主タル事務所所在地ノ地方長官トス

第二十八條　組合又ハ聯合會ヨリ商工大臣ニ差出スヘキ書面ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本則ハ重要輸出品工業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品工業組合法施行規則第二十條ニ依リ左ノ通定ム（昭和二年一月十八日商工省告示第一號）

日本洋傘骨製造工業組合ノ地區內ニ於テ輸出品トシテ洋傘骨製造ヲ業トスル者ニシテ其ノ組合ニ加入セサルモノハ昭和二年一月二十四日ヨリ該組合ノ定ムル製品、其ノ原料若ハ材料ニ對スル檢查竝製造數量及販賣價格ニ對スル制限ニ從フヘシ

●重要輸出品工業組合法施行ニ關スル件

（大正十四年八月二十八日商工省訓令第七號）

道廳府縣

重要輸出品工業組合法及同施行規則施行ニ關シ取扱方左ノ通定ム

重要輸出品工業組合法施行ニ關スル件

第一條　重要輸出品工業組合法施行規則第一條第三項ニ依ル屆出アリタルトキハ遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ商工大臣ニ報告スヘシ

一　組合設立ニ關スル意見

二　組合員タル資格ヲ有スル者ノ員數

（二種以上ノ工業者ヲ以テ組合ヲ設立セムトスルトキハ工業ノ種類別ニ記載スヘシ）

三　地區內ニ於ケル當該工業ノ最近三箇年間ニ於ケル每年ノ製造ノ數量、價額竝主ナル販路及其ノ各地ヘ仕向ケタル數量、價額

四　地區內ニ於テ當該工業ニ關シ重要物產同業組合ノ存スル場合ニ在リテハ其ノ同業組合ト組合トノ關係

五　其ノ他同業組合ノ設立ニ關シ參考トナルヘキ事項

第二條　左ノ書面ヲ進達セムトスルトキハ意見書ヲ添附スヘシ

一　創立總會招集ノ認可申請書

二　組合又ハ聯合會ノ設立ノ認可申請書

三　組合又ハ聯合會ノ合併又ハ解散ノ認可申請書

第三條　重要輸出品工業組合法施行規則第二十條ノ規定ニ依ル告示アリタルトキハ組合又ハ一道府縣內ヲ地區トスル聯合會ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ハ當該組合又ハ聯合會ヲシテ指定セラレタル資格ヲ有スル者ニ對シ指定セラレタル事項及之ニ關スル組合又ハ聯合會ノ規則ヲ通知セシムヘシ

第四條　組合ノ地區カ道府縣ノ區域ヲ超ユル場合ニ於テ組合ニ關シ左ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ豫メ關係地方長官ニ協議スヘシ

一　組合ノ地區又ハ組合員タル資格ニ關スル定款ノ變更ヲ命シ若ハ變更ヲ認可セムトスルトキ

二　組合ノ事業ヲ停止セムトスルトキ

第五條　重要輸出品工業組合法第二十條第三項、第二十六條、第二十八條、第三十二條第二項、第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第三十九條、第六十條ノ二、第六十一條、第七十三條ノ二及第七十三條ノ三竝重要輸出品工業組合法施行規則第十條、第十一條、第十九條、第二十二條ノ規定ニ依リ處理シタルトキハ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ報告スヘシ

●畜產組合法

（大正四年一月十四日法律第一號）

（改正　大正一四年第一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル畜產組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、農商務大臣副署）

畜產組合法

第一條　本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ謂フ

第二條　家畜ヲ飼養スル者ハ本法ニ依リ畜產組合ヲ設置スルコトヲ得

第三條　畜產組合ハ法人トシ畜產上ノ改良發達ヲ圖リ組合員ノ利益ヲ增進スルヲ以テ目的トス

第四條　組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス但シ組合ノ經營上必要アル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ畜產上ノ施設ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第五條　組合ハ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ區域內ニ於テ家畜ヲ所有シ又ハ保管スル者ノ委託ニ依リ委託者ノ費用ヲ以テ家畜衞生上必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得

第六條　組合ヲ設置セムトスルトキハ郡市ノ區域ニ依リ組合員タルヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ定款ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ郡市ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ家畜又ハ組合員タルヘキ者ノ種類ニ二種以上アルトキハ其ノ種類每ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ヘシ

前項ノ組合員タルヘキ者ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　組合ノ名稱中ニハ畜產組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウヘシ

組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ畜產組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第八條　組合成立シタルトキハ其ノ區域內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　地方長官必要アリト認ムルトキハ組合ニ對シ種畜ノ供給、種付、家畜ノ系統若ハ能力ノ登錄、家畜衞生ニ關スル施設又ハ家畜市場ノ開設ヲ命スルコトヲ得

第十條　定款ヲ變更セムトスルトキハ總會ニ於テ組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

定款ノ變更カ經費ノ分賦收入ニ關スルトキハ前項ノ出席者及議決權ノ數ハ家畜又ハ組合員ノ種類每ニ之ヲ計算スヘシ

定款ノ變更カ區域ノ擴張又ハ家畜若ハ組合員タルヘキ者ノ種類ノ增加ニ關スルトキハ第一項ノ議決ノ外擴張又ハ增加ニ依リ新ニ組合員タルヘキ者ニ於テ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テハ第六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條　組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ所有又ハ保管ニ係ル家畜、畜產物又ハ畜產上ノ設備ニ付檢查ヲ爲シ又ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ニ限リ無償ニテ物品ヲ收去スルコトヲ得

組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ徵收シ、其ノ違反ニ係ル物品ノ沒收其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條　組合ノ經費ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第十三條　組合ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村、水利組合其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次クモノトス

第十四條　左ニ揭クル事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一　經費ノ收支豫算

二　經費ノ分賦收入方法

三　起債竝其ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法

四　共濟其ノ他ノ基金ノ積立、支出及利用ノ方法

五　事業報告及收支決算ノ承認

六　訴願、訴訟及和解

七　定款ニ定メタル事項

八　其ノ他組合長ニ於テ重要ナリト認メタル事項

第十五條　前條ノ事項ニ付テハ總會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ評議員ヲ以テ組織スル評議員會ニ委任シテ議決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　第十四條第一號又ハ第三號ノ事項ニ關シ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ組合長ハ之ヲ專決處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第十七條　第十四條第一號乃至第四號ノ事項ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條　總會ハ總組合員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十九條　總會ハ組合長之ヲ招集ス

組合員其ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合長ハ十四日以內ニ總會ヲ招集スヘシ

組合長正當ノ事由ナクシテ前項ノ期間內ニ總會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十條　總會ヲ招集スルニハ少クトモ七日前ニ會議ノ日時、場所及目的タル事項ヲ記載シテ各組合員ニ其ノ通知ヲ發スヘシ

總會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決スルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權數ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍內ニ於テ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十二條　總會ノ議事ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十三條　組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ議決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行フ者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第二十四條　組合ハ命令及定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選擧シタル議員ヲ以テ組織スル總代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得但シ組合ノ解散、合併又ハ分割ノ議決ハ此ノ限ニ在ラス

總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外總代會ニ之ヲ準用ス

第二十五條　組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長　一人

組合副長　一人又ハ數人

評議員　數人

役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選擧ス但シ組合長又ハ組合副長ハ特別ノ事情アル場合ニ限リ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選擧スルコトヲ得

役員ノ任期ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

役員ハ任期中ト雖之ヲ解任スルコトヲ得

役員ノ選任又ハ解任ハ總會ニ於テ組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ管理ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アル場合ニ於テ其ノ代理ノ順序ハ定款ノ定ムル所ニ依ル

評議員ハ組合長ノ諮問ニ應シ又ハ業務ノ執行及財產ノ狀況ヲ監查ス

第二十七條　組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條　組合ハ畜產上ノ檢查ニ從事セシムル爲檢查員ヲ置クコトヲ得

第二十九條　組合長ハ定款、組合員名簿、會議ノ議事錄其ノ他組合ニ關スル書類及帳簿ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員又ハ組合ノ債權者ハ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合長ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條　組合ハ左ノ事由ニ因リ解散ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　總會ノ決議

三　組合ノ合併

四　組合ノ分割

五　組合員五人以下ト爲リタルトキ

六　監督官廳ノ處分

第三十一條　組合ニシテ解散、合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ第二項ノ場合ヲ除クノ外之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ總會ニ於テ組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

家畜又ハ組合員ノ種類ニ二種以上アル組合ニ於テハ其ノ一種類ノ組合員ハ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ組合ニ對シ分割ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ組合ハ其ノ權利義務ノ分割ニ付總會ニ關スル規定ニ準シ他ノ種類ノ組合員ノ議決ヲ經テ請求者ト協議スヘシ協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス

第三十二條　組合ノ解散、合併又ハ分割ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條　組合合併シタルトキハ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設置シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十四條　組合分割シタルトキハ其ノ權利義務ハ分割ニ因リテ設置シタル組合之ヲ承繼ス

第三十五條　民法第七十二條乃至第八十條、第八十一條及第八十二條ノ規定ハ組合ノ合併及分割ノ場合ヲ除クノ外清算ニ之ヲ準用ス

第三十六條　組合ハ債權者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ區域ノ除斥又ハ家畜若ハ組合員ノ種類ノ減少ニ關スル定款ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條　組合ノ會議ノ議決又ハ役員ノ行爲カ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ其ノ議決ヲ取消シ、議員若ハ評議員ノ改選ヲ命シ、組合長若ハ組合副長ヲ解任シ又ハ組合ノ業務停止若ハ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十八條　主務大臣又ハ地方長官ハ組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類帳簿、業務ノ執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢查シ、定款又ハ豫算ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　地方長官左ニ揭クル事項ニ付認可ヲ爲シ又ハ前二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

一　組合ノ設置

二　組合ノ區域ノ擴張又ハ家畜若ハ組合員タルヘキ者ノ種類ノ增加ニ關スル定款ノ變更

三　組合ノ解散、合併又ハ分割

四　組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任

第四十條　組合ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲畜產組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

第四十一條　聯合會ヲ設置セムトスルトキハ定款ヲ作リ其ノ區域一府縣以內ノモノニ在リテハ地方長官、二以上ノ府縣ニ亙ルモノニ在リテハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條　聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一人

副會長　一人又ハ數人

評議員　數人

第四十三條　畜産組合ニ關スル規定ハ第二條、第三條、第六條、第八條、第十條第三項、第十三條、第二十三條、第二十四條及第二十五條第一項ノ規定ヲ除クノ外之ヲ聯合會ニ準用ス但シ地方長官トアルハ二以上ノ府縣ニ亙ル聯合會ニ在リテハ主務大臣トシ第十一條及第二十五條第二項中組合員トアルハ聯合會ヲ組織スル組合ノ組合員トシ第三十條第五號中五人以下トアルハ一トス

一府縣以内ノ區域ニ依リタル聯合會ニシテ合併又ハ區域ノ擴張ニ依リ二以上ノ府縣ニ亙ルヘキ場合ニ於テハ其ノ認可ハ主務大臣之ヲ行フ

第四十四條　組合又ハ聯合會ノ役員ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第四十五條　組合又ハ聯合會ノ役員又ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十六條　前條第一項ニ掲クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十七條　本法中府縣、市町村トアルハ府縣制、市制、町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ、郡トアルハ島司又ハ北海道廳支廳長ヲ置キタル地ニ在リテハ其ノ管轄區域ニ該當ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

産牛馬組合法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前産牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ハ本法ニ依リ之ヲ設置シタルモノト看做ス但シ其ノ定款中本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スルモノアルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之カ變更ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

（大正四年勅令第百四十五號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

附　則（大正十四年法律第一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十四年勅令第二百四十九號ヲ以テ同年七月十日ヨリ施行）

●畜産組合法施行規則

（大正四年七月三十一日農商務省令第十七號）

改正　大正一四年農林省令第二二號

畜産組合法施行規則左ノ通定ム（陸軍大臣連署）

畜産組合法施行規則

第一條　畜産組合ノ組合員タルヘキ者ノ種類左ノ如シ

一　生産者

二　飼育者

地方長官必要アリト認ムルトキハ生産又ハ飼育ノ目的ニ依リ組合員タルヘキ者ノ種類ヲ定ムルコトヲ得

第二條　共同生産者又ハ共同飼育者ハ之ヲ一人ト看做ス

第二條ノ二　畜産組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ニ居住セサル組合員ヲシテ其ノ地區内ニ代理人ヲ設ケシムルコトヲ得

組合ハ前項ノ代理人ニ對スル通知ヲ以テ本人ニ對スル通知ニ代フルコトヲ得

第三條　畜産組合ノ組合員タルヘキ者ニ非サレハ組合設置ノ認可申請者ト爲ルコトヲ得ス但シ地方ノ狀況ニ依リ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　定款ニハ畜産組合法又ハ本則ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的

二　事業

三　名稱

四　事務所ノ所在地

五　區域

六　家畜及組合員ノ種類

七　事業ノ執行ニ關スル規定

八　組合員ノ權利義務ニ關スル規定

九　役員ノ定數、資格、權限、選任及解任ニ關スル規定

十　會議ニ關スル規定

十一　財産ニ關スル規定

十二　庶務及會計ニ關スル規定

第五條　組合設置ノ認可申請書ニハ定款ノ外法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面及左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一　同意ノ表示ヲ爲ササル者アルトキハ其ノ事由

二　組合ノ區域カ郡市ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ事情

三　一事業年度ニ要スル經費ノ收支概算

四　組合設置ニ關スル費用及其ノ償却方法

第六條　組合設置ノ認可アリタルトキハ申請者ハ遲滯ナク總會ヲ招集スヘシ

前項ノ總會ニ於テハ役員ノ選任、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及分賦收入方法、組合設置ニ關スル費用及其ノ償却方法其ノ他必要ナル事項ニ付議決ヲ爲スヘシ

第七條　組合長又ハ組合副長ノ選任ノ認可申請書ニハ履歴書ヲ添附スヘシ

組合員ニ非サル者ヨリ選任シタルトキハ前項ノ申請書ニ其ノ事情ヲ記載スヘシ

第八條　組合長ノ就任アリタルトキハ組合設置ノ認可申請者ハ遲滯ナク組合ニ關スル事務ヲ引繼クヘシ

第九條　定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更ノ事由ヲ記載シ會議ノ議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第五條ノ規定ハ第四號ヲ除クノ外畜産組合法第十條第三項ノ定款變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

區域ノ除斥又ハ家畜若ハ組合員ノ種類ノ減少ニ關スル定款變更ノ場合ニ於テハ債權者ノ同意ヲ得又ハ辨濟ヲ爲シ若ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十條　畜産組合法第四條但書ノ規定ニ依ル施設ノ認可申請書ニハ其ノ方法、設備及收支計算ヲ記載スヘシ

第十一條　第二條ノ共同者ハ内一人ノ代表者ヲ定メ組合ニ通知スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ通知ナキトキハ組合ハ共同者ノ一人ヲ代表者ニ指定スヘシ

第十二條　組合ニ於テ檢査員ヲ命シタルトキハ履歴書ヲ添附シ之ヲ免シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

第十三條　組合ニ於テ定款ニ關スル細則ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條　組合員百人以上ノ組合ニ非サレハ總代會ヲ設クルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　總代會ヲ組織スル議員ノ定數、資格、任期及選擧ニ關スル規定ハ之ヲ定款ニ設クヘシ

組合員ニ非サレハ議員タルコトヲ得ス

第十六條　議員ノ議決權ハ平等ナルモノトス

議員ハ總代會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　總代會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス但シ同一事項ニ付再度招集スルモ仍半數ニ充タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　評議員會ハ組合長之ヲ招集ス

評議員定數ノ五分ノ一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合長ハ十四日以内ニ之ヲ招集スヘシ

組合長正當ノ事由ナクシテ前項ノ期間内ニ評議員會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十九條　評議員會ヲ招集スルニハ少クトモ七日前ニ會議ノ日時、場所及目的タル事項ヲ記載シテ各評議員ニ其ノ通知ヲ發スヘシ但シ此ノ期間ハ定款ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

評議員會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ豫メ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　評議員會ノ議事ハ評議員定數ノ半數以上出席シ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第十六條ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第二十一條　總會、總代會及評議員會ノ議長ハ定款ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外組合長之ニ當ル但シ第六條ノ總會ニ在リテハ認可申請者ノ一人、會議ノ招集ヲ請求シタル者ニ於テ招集シタル會議ニ在リテハ組合員、議員又ハ評議員ノ一人之ニ當ル

第二十二條　總會、總代會又ハ評議員會ノ議長ハ會議ノ議事錄ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ之ニ議長及出席シタル組合員、議員又ハ評議員二人以上署名スヘシ

一　開會ノ日時及場所

二　組合員ノ總數又ハ議員若ハ評議員ノ定數及出席シタル者ノ氏名又ハ名稱

三　議事ノ要領

四　議決シタル事項

五　贊否ノ數

第二十三條　役員及議員ハ定款ニ規定アルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス但シ組合員ニ非サル者ヨリ選任シタル役員ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　組合ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第二十五條　經費ノ收支豫算及分賦收入方法ノ認可申請書ハ少クトモ每事業年度一箇月前地方長官ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第二十六條　事業報告及收支決算ハ總會、總代會又ハ評議員會ノ承認ヲ經每事業年度經過後三箇月内ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十七條　組合ニシテ解散、合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ組合長ハ總會ノ議決後又ハ畜産組合法第三十一條第三項ノ規定ニ依リ協議調ヒ若ハ地方長官ノ決定アリタル後認可申請前事業報告書、收支決算書、財産目錄及貸借對照表ヲ作リ總會、總代會又ハ評議員會ノ承認ヲ受クヘシ

第二十八條　總會ノ議決ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ債權者ノ同意ヲ得又ハ辨濟ヲ爲シ若ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面、畜産組合法第三十一條第一項ノ規定ニ依リ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面、總會ノ議事錄ノ謄本及前條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第二十九條　合併ノ認可申請ハ合併セムトスル各組合ノ組合長、分割ノ認可申請ハ分割セムトスル組合ノ組合長之ヲ爲スヘシ

第三十條　合併又ハ分割ノ認可申請書ニハ合併又ハ分割ニ因リテ設置スル組合及合併又ハ分割後存續スル組合ノ一事業年度ニ要スル經費ノ收支概算書ヲ添附スルノ外第二十八條ノ規定ヲ準用ス

合併若ハ分割ニ因リテ設置スル組合又ハ合併若ハ分割後存續スル組合ノ區域カ郡市ノ區域ニ依ラサルニ至ルトキハ前項ノ書類ノ外其ノ事情ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十一條　畜産組合法第三十一條第二項及第三項ノ規定ニ依ル分割ノ認可申請書ニハ分割ニ因リテ設置スル組合及分割後存續スル組合ノ一事業年度ニ要スル經費ノ收支概算書、債權者ノ同意ヲ得又ハ辨濟ヲ爲シ若ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面、權利義務ノ分割ニ關シ協議調ヒタルコトヲ證スル書面、同條第二項ノ同意アリタルコトヲ證スル書面及其ノ同意ヲ以テ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面、同條第三項ノ議決ヲ爲シタル會議ノ議事錄ノ謄本及第二十七條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ但シ畜産組合法第三十一條第三項ノ決定ニ基ク場合ニ於テハ第三十三條ノ規定ニ依リ差出シタル書類ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　畜産組合法第三十一條第三項ノ議決ハ其ノ組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十一條及第二十二條ノ規定ハ前條ノ會議ニ之ヲ準用ス

第三十三條　畜産組合法第三十一條第三項ノ規定ニ依ル決定ノ申請書ニハ目的及事由ヲ記載シ協議ノ顛末書及同條第二項ノ同意アリタルコトヲ證スル書面又ハ同條第三項ノ議決ヲ爲シタル會議ノ議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ謄本ヲ協議ノ相手方ニ交付シ相當ノ期間ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ期間經過シタルトキハ地方長官ハ答辯書ノ差出ヲ待タスシテ決定ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　第六條及第二十一條但書ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因ル組合設置ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　組合カ畜産組合法第三十條第一號又ハ第五號ノ事由ニ因リ解散シタルトキハ組合長ハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第三十六條　清算結了シタルトキハ組合長ハ遲滯ナク清算ニ關スル報告書ヲ作リ之ヲ總組合員ニ報告シ且地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十七條　聯合會ヲ設置セムトスルトキハ各組合ハ總會又ハ總代會ニ於テ各同數ノ委員ヲ選任スヘシ

前項ノ選任ハ組合員又ハ議員定數ノ半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

委員ハ定款ヲ作リ且一事業年度ニ要スル經費

ノ收支概算、聯合會設置ニ關スル費用及其ノ償却方法其ノ他設置ニ關スル必要ノ事項ヲ議決スヘシ

第三十八條　聯合會ノ定款ニハ畜産組合法又ハ本則ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　第四條第一號乃至第五號、第七號及第九號乃至第十二號ニ掲ケタル事項

二　聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱及權利義務ニ關スル規定

三　加入脱退ニ關スル規定

第三十九條　聯合會設置ノ認可申請書ニハ各組合長署名シ定款ノ外第三十七條第三項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

聯合會ノ區域二以上ノ府縣ニ亙ルモノニ在リテハ前項ノ申請書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第四十條　組合カ聯合會ニ加入シ又ハ脱退セムトスルトキハ總會又ハ總代會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

第三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第四十一條　第六條乃至第八條、第九條第一項、第三項、第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第三十六條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ地方長官トアルハ二以上ノ府縣ニ亙ル聯合會ニ在リテハ主務大臣トス

附　則

本則ハ畜産組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

畜産組合法附則第三項但書ノ期間ハ大正五年七月三十一日迄トス

●畜産組合及畜産組合聯合會事業報告書記載事項、經費ノ收支豫算書、收支決算書、組合員名簿及會計帳簿ノ樣式

（大正十四年七月十三日農林省告示第六十五號）

畜産組合及畜産組合聯合會事業報告書記載事項、經費ノ收支豫算書、收支決算書、組合員名簿及會計帳簿ノ樣式左ノ通定メ大正四年月農商務省告示第百九十六號ハ之ヲ廢止ス

一　畜産組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

（一）組合員ノ種類別職業別總數

組合員ノ種類	本年度末現在			前年度末現在			比較		附記
	農	其ノ他	計	農	其ノ他	計	增	減	
牛生産者									
牛飼育者									
馬生産者									
馬飼育者									
牛馬生産者									
牛馬飼育者									
牛生産馬飼育者									
馬生産牛飼育者									
何々									
何々									
計									

備考

一　何々欄ニハ前各項ニ該當セサル組合員ヲ記載スヘシ

二　附記欄ニハ著シキ增減アリタルトキ其ノ事由ヲ記載スヘシ

（二）組合員ノ飼養スル家畜ノ種類、牝牡別、用途別頭數

家畜種類	用途	本年度末現在			前年度末現在			比較		附記
		牝	牡	計	牝	牡	計	增	減	
牛	蕃殖									
	使役									
	肥肉									
	榨乳									
	育成									
	計									
馬	蕃殖									
	使役									
	育成									
	計									
豚										
羊										

備考

一　用途二種以上ノモノハ主タル用途ニ依リ區分スヘシ

二　附記欄ニハ著シキ增減アリタルトキ其ノ事由ヲ記載スヘシ

（三）組合員ノ生産、製造又ハ販賣シタル畜産物ノ數量及價格

生産家畜ノ種類	生産頭數			生産又ハ製造物ノ種類	生産又ハ製造數量	販賣數量及價格	
	牝	牡	計			數量	價格
計				計			

（四）事業執行ノ狀況

（イ）種付

家畜ノ種類	牝牡別　種牡畜ノ所有別	國有	道府縣有	組合有	組合員有	其ノ他	計
牛	種付ニ供用シタル牡畜						
	種付シタル牝畜						
	生産仔畜						
馬	種付ニ供用シタル牡畜						
	種付シタル牝畜						
	生産仔畜						

備考

種付シタル牝畜ニシテ國有牡畜ニ配シタル頭數ハ國有欄ニ、組合有牡畜ニ配シタル頭數ハ組合有欄ニ記載スヘシ

（ロ）放牧地ノ經營

家畜ノ種類	位置	面積	放牧期間	土地所有者	放牧頭數		
					組合及組合員有	其ノ他	計

備考

土地所有者欄ニハ御料有、國有、府縣有、町村有、部落有、社寺有、共有、個人有等ノ別ヲ記入スヘシ

（ハ）家畜、畜産物ノ共同販賣及家畜、物品ノ共同購入

種類	販賣數量	販賣價格	種類	購入數量	購入價格

（ニ）畜産物ノ製造又ハ加工

畜産物ノ名稱	製造數量	價格	加工數量	價格

（ホ）共濟事業

共濟家畜ノ種類		加入頭數	共濟事故				共濟金交付額	共濟料額	共濟料率	共濟料率算出基礎
			斃死	切迫屠殺	何々	計				
牛	種牡牛									
	乳牛									
	何々									
	計									
馬	種牡馬									
	何々									
	計									

備考

同一家畜カ年度內ニ於テ脱退シ更ニ加入スルモ之ヲ一頭ト看做シ加入頭數ヲ算出スルコト

（五）經費ノ分賦收入ノ狀況竝滯納處分ノ件數及金額

分賦金總額	本年度徵收金額	滯納金額	滯納件數	滯納處分件數	附記

（六）借入金額、償還額及年度末現在負債總額

借入金種類	前年度末負債總額	本年度借入額	本年度償還額	本年度末負債總額

（七）基金ノ種類別積立額及支出額並年度末現在基金ノ種類別總額

基金種類	前年度末積立額	本年度支出額	本年度積立額	年度末現在積立金額
計				

備考

羊豚ヲ飼養スル畜産組合ハ右様式ニ準シテ調製スヘシ

二　畜産組合經費ノ收支豫算書ハ左ノ様式ニ依リ調製スヘシ

大正何年度何郡何畜産組合經費收支豫算書

歳入

一金　　歳入

又ハ

一金　　經常部

一金　　臨時部

合計金

歳出

一金　　歳出

又ハ

一金　　經常部

一金　　臨時部

合計金

大正何年度何郡何畜産組合經費收支豫算表

歳入

款	項	目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較		附記
					增	減	
一分賦金							
	一分賦金						
		一組合員數割					
		二家畜頭數割					
		三何々					
二歩合金							
	一歩合金						
		一駒糶賣歩合金					
		二何々					
三使用料及手數料							
	一使用料						
		一放牧地使用料					
		二何々					
	二手數料						
		一共同購買手數料					
		二何々					
四種付料							
	一種付料						
		一種牡牛種付料					
		二種牡馬種付料					
		三何々					
五登錄料							
	一登錄料						
		一能力登錄料					
		二血統登錄料					
		三何々					
六補助金							
	一國庫補助						
		一種牡牛購入補助					
		二種牡馬購入補助					
		三何々					
	二道府縣補助						
		一共濟補助					
		二何々					
	三何々補助						
		一登錄補助					
		二何々					
七財産收入							
	一財産收入						
		一何々					
八寄附金							
	一寄附金						
		一何々					
九組合債							
	一組合債						
		一低利資金借入					
		二何々					
十雜收入							
	一過怠金						
		一何々					
	二不用品賣却代						
		一何々					
	三雜收						
		一何々					
十一繰越金							
	一繰越金						
		一何々					
十二何々							
	一何々						
		一何々					
合計							

歳出

款	項	目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較		附記
					增	減	
一事務費							
	一役員報酬						
		一組合長報酬					
		二何々					
	二事務員俸給						
		一書記俸給					
		二何々					
	三需用費						
		一備品費					
		二圖書及印刷費					
		三消耗品					
		四通信運搬費					
		五何々					
	四旅費						
		一組合長旅費					

		二何々
	五雜給	
		一囑託員手當
		二獸醫雇入日當
		三慰勞費
		四何々
	六雜費	
		一修繕費
		二何々
二會議費		
	一總代會費	
		一議員旅費
		二何々
	二評議員會費	
		一評議員旅費
		二何々
	三役職員會費	
		一何々
	四何々	
三事業費		
	一技術員俸給	
		一技手俸給
		二何々
	二技術員旅費	
		一技手旅費
		二何々

	三品評會費	
		一賞與費
		二何々
	四共進會費	
		一賞與費
		二何々
	五講習會費	
		一會場費
		二何々
	六講話會費	
		一講師手當
		二何々
	七競馬會費	
		一賞金
		二何々
	八種付費	
		一種付所費
		二何々
	九經濟調査費	
		一何々
	十何々	
		一何々
四負擔金諸公課		
	一負擔金	
		一聯合會負擔金
		二何々

	二諸公課	
		一何々
五基金造成費		
	一共濟基金	
		一何々
	二種畜購入資金	
		一何々
	三何々	
		一何々
六組合債費		
	一組合債費	
		一何々債利子
		二何々
七雜支出		
	一諸器具購入費	
		一何々
	二何々	
		一何々
八何々		
	一何々	
		一何々
九豫備費		
	一豫備費	
合計		

大正何年何月何日提出

何郡何畜産組合長　氏名印

備考

（一）歳入及歳出ヲ經常及臨時ノ二部ニ分ツノ必要アルトキハ費目ノ性質ニ從ヒ之カ區分ヲ爲スヘシ例ヘハ補助金、寄附金及組合債ノ如キハ之ヲ歳入臨時部ニ新營費ノ如キハ歳出臨時部ニ編入スヘシ此ノ場合ニ於テハ經常、臨時ノ二部ニ各計ヲ設ケ更ニ合計ヲ掲クヘシ

（二）附記欄ニハ本年度豫算額ノ計算ノ基ク所ヲ說明スヘシ

（三）豫算ノ參考トシテ別ニ說明書ヲ附シ款毎ニ本年度豫算額ト前年度豫算額トヲ比較シ増減ノ事由ヲ說明スヘシ

（四）豫算ヲ變更セムトスルトキハ「本年度豫算額」欄ヲ「追加（更正）豫算額」欄トシ「前年度豫算額」欄ヲ「既定豫算額」欄トシ附記欄ニハ追加（更正）豫算額ノ計算ノ基ク所ヲ記シ別ニ說明書ヲ以テ款毎ニ比較シ増減ノ事由ヲ說明スヘシ

三　畜産組合經費ノ收支決算書ハ經費ノ收支豫算書ニ準シ之ヲ調製シ「本年度豫算額」欄ヲ「決算額」欄トシ「前年度豫算額」欄ヲ「豫算額」欄トスヘシ

四　畜産組合聯合會事業報告書、經費ノ收支豫算書及經費ノ收支決算書ハ前三項ニ準シ之ヲ調製スヘシ

五　畜産組合ノ組合員名簿ハ左ノ樣式ニ依リ調製スヘシ

氏名又ハ名稱	住所	職業	組合員タル資格	組合員トナリタル年月日	組合員タル資格喪失年月日	代表者氏名
何某	何郡何町（村）何番地	農業	牛生産者			
		商業	馬生産者			
		工業	牛馬生産者			
			馬共同生産者			何某
			牛馬生産牛飼育者			
			牛飼育馬生産者			

備考

組合員名簿ハ必要アルトキハ組合員ヲ町村別若ハ家畜ノ種類毎ニ區分シ又ハ共同者ト否トニ依リ之ヲ區分スルコトヲ得

六　畜産組合及畜産組合聯合會ノ會計帳簿ハ左ノ樣式ニ依リ調製スヘシ

（イ）現金出納簿

年月日		摘要	受	拂	殘
15.4	1	何々金何某ヨリ受入	0		
		何々金何某ヘ拂渡		0	0
		四月分合計	0	0	

何々(款)　何々(項)

年月日		摘要	豫算額
5 14.4	1	大正十五年度豫算	0
	3	納入告知書第　號ヨリ第　號マテ	
	4	何某ヨリ納入告知書第　號分領收	
	„	納入告知書第　號分何々ノ事由ニ依リ缺損	
		四月分合計	0

（ロ）徵收簿

何々(目)

調定濟額	收入濟額	不納缺損額	收入未濟額	豫算額ト調定額トノ差
				0
0			0	
	0		0	
		0	0	
0	0	0	0	0

（ハ）經費支出內譯簿

何々(目)　何々(項)　何々(款)

年月日	摘要	豫算額	支出額	豫算殘額

●外國領海水産組合法

明治三十五年三月二十八日法律第三十五號
改正　明治四二年第一七號

朕帝國議會ノ協贊チ經タル外國領海水産組合法チ裁可シ茲ニ之チ公布セシム（總理、農商務、外務大臣副署）

外國領海水産組合法

第一條　條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水産動植物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣チ業トスル帝國臣民ハ本法ニ依リ水産組合チ設置スルコトチ得

第二條　組合ノ區域ハ利害關係アル營業區域又ハ住所區域ニ依リ之チ定ムヘシ

第三條　組合チ設置セムトスルトキハ其ノ區域內ニ於ケル同業者三分ノ二以上ノ同意チ得テ創立總會チ開キ定款チ議定シ外務農商務兩大臣ノ認可チ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リテ組合チ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意チ要ス

第四條　組合ノ區域內ニ於テ組合員ト同一ノ營業チ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ外務農商務兩大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　削除

第六條　第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第七條　前條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定チ準用ス

第八條　組合及組合聯合會ニ關シテハ本法ニ規定アルモノノ外重要物産同業組合法ノ規定チ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ外務農商務兩大臣之チ行フ

附則

第九條　本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之チ施行ス

第十條　本法施行以前ニ於テ條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水産動植物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣ノ業ニ關シ外務農商務兩大臣ノ認可チ經テ設置シタル組合又ハ組合聯合會ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキ發スル命令ノ規定ニ牴觸セサルモノハ第三條ニ依リ設置シタルモノト看做ス

●外國領海水産組合法施行規則

大正五年六月三十日農商務省令第十四號（外務大臣連署）

外國領海水産組合法施行規則左ノ通改正ス

外國領海水産組合法施行規則

第一條　外國領海水産組合法ニ依リ設置スル水産組合又ハ水産組合聯合會ノ名稱ニハ外國領海ノ名稱及水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字チ用ウヘシ

第二條　住所區域ニ依ル組合ノ區域ハ道、府、縣ノ區域ニ依リ之チ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　組合又ハ聯合會ニ總會チ置ク但シ組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合會チ以テ總會ニ代フルコトチ得

組合ノ目的、業務、區域、組合員ノ營業ノ種類、會議及會計ニ關スル定款ノ變更ハ組合會ニ於テ之チ議決スルコトチ得ス

第四條　組合又ハ聯合會ハ總會、組合會及評議員會ノ決議錄ノ謄本チ作成ノ都度遲滯ナク外務、農商務兩大臣ニ差出スヘシ

第五條　組合又ハ聯合會ノ經費ノ豫算及徵收法ノ認可申請ハ事業年度二週間前ニ、經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後一年內ニ之チ爲スヘシ

第六條　組合又ハ聯合會ノ設置チ認可シタルトキハ外務、農商務兩大臣ハ其ノ名稱、組合員ノ營業ノ種類、組合ノ區域及聯合會チ組織スル組合ノ名稱チ公告スヘシ

外務、農商務兩大臣ハ前項ニ揭ケタル事項ニ變更チ生シタルトキハ其ノ事項、組合又ハ聯合會解散シタルトキハ其ノ旨チ公告スヘシ

第七條　組合又ハ聯合會ニ付テハ重要物産同業組合法施行規則第三條乃至第十四條、第十五條第二項第三項、第十六條乃至第二十一條、第二十二條第二項乃至第五項、第二十三條乃至第三十二條、第三十四條乃至第四十四條及第四十九條ノ規定チ準用ス但シ農商務大臣若ハ地方長官ニ於テ又ハ農商務大臣若ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ外務、農商務兩大臣ニ於テ又ハ外務、農商務兩大臣ニ對シテ之チ爲スモノトス

附則

第八條　本則ハ大正五年七月一日ヨリ之チ施行ス

第九條　組合又ハ聯合會ニ付テハ重要物産同業組合法施行規則第五十四條ノ規定チ準用ス

●漁業組合令

明治四十三年十一月十二日勅令第四百二十九號

朕樞密顧問ノ諮詢チ經テ漁業組合令チ裁可シ茲ニ之チ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

漁業組合令

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ組合ト稱スルハ漁業法第四十二條ノ規定ニ依リ設立スル漁業組合チ謂ヒ聯合會ト稱スルハ同法第四十四條ノ規定ニ依リ設立スル漁業組合聯合會チ謂フ

第二條　組合ハ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字チ用ウヘシ

聯合會ハ其ノ名稱中ニ漁業組合聯合會ナル文字チ用ウヘシ

組合又ハ聯合會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字チ用ウルコトチ得ス

第三條　組合又ハ聯合會ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條　本令ニ依リ地方長官ニ屬スル職權ハ郡長、島司、市長、北海道廳支廳長又ハ北海道若ハ沖縄縣ノ區長ニ之チ委任スルコトチ得但シ組合又ハ聯合會設立ノ許可、第二十條第一項第六號、第九號及第十二號ノ事項ニ關スル認可竝第五十條ノ裁決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　本令ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可又ハ認可チ要スルモノハ其ノ許可書又ハ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間チ起算ス

第二章　設立

第六條　組合ノ設立ニハ組合ノ地區タルヘキ區域內ニ住所チ有スル漁業者五人以上ノ發起人アルコトチ要ス

第七條　發起人ハ左ノ事項チ組合ノ地區タルヘキ區域內ニ住所チ有スル漁業者ニ通知シ組合設立ノ同意チ求ムヘシ

一　地區タルヘキ區域
二　目的及事業ノ概要
三　同意表示ノ方法及期間

第八條　組合ノ地區ハ重複スルコトチ得ス

第九條　發起人ハ地區タルヘキ區域內ニ住所チ有スル漁業者三分ノ二以上ノ同意チ得タルトキハ遲滯ナク創立總會チ招集スヘシ但シ組合ノ地區タルヘキ區域カ二部落以上ニ亙ルトキハ各部落毎ニ其ノ區域內ニ住所チ有スル漁業者三分ノ二以上ノ同意チ得ルコトチ要ス

特別ノ事由ニ因リ前項ノ同意チ得ルコト能ハサルトキハ地方長官ノ認可チ得テ創立總會チ招集スルコトチ得

第十條　發起人ハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及分賦收入方法ノ議案チ作リ之チ創立總會ニ提出スヘシ

組合ノ設立費用及其ノ償却ノ方法ハ創立總會ノ承認チ經ヘシ

第十一條　發起人創立總會チ招集スルニハ少クトモ五日前ニ會議ノ目的、日時及場所竝規約案備附ノ場所及閲覽ノ時間チ組合ノ地區タルヘキ區域內ニ住所チ有スル各漁業者ニ通知スヘシ

第十二條　規約ニハ左ノ事項チ記載スヘシ

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所
五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
六　役員ニ關スル規定
七　會議ニ關スル規定
八　會計及財産ノ管理ニ關スル規定
九　組合ノ取得シ又ハ貸付チ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ行使ニ關スル規定
十　前號ノ權利ノ行使ニ關シ特別ノ利益チ受クル組合員ヨリ料金チ納メシムルトキハ之ニ關スル規定
十一　共同施設事業ノ執行ニ關スル規定
十二　存立時期又ハ解散ノ事由チ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十三條　創立總會ノ決議ハ組合ノ地區タルヘキ區域內ニ住所チ有スル漁業者三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之チ爲スコトチ得ス

第十四條　組合ノ地區タルヘキ區域內ニ住所チ有スル漁業者ハ創立總會ニ出席スル他ノ漁業者ニ委任シテ其ノ議決權チ行フコトチ得此ノ場合ニ於テハ其ノ漁業者ハ之チ出席者ト看做ス

前項ノ受任者ハ委任狀チ發起人ニ差出スヘシ

第十五條　創立總會終了シタルトキハ發起人ハ組合設立ノ許可申請書チ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及分賦收入方法、第九條ノ同意チ證スル書面竝創立總會ノ決議錄チ添附スヘシ尙漁業法第四十二條第二項但書ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ理由書チ添附スヘシ

第十六條　組合設立ノ登記ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ之チ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一　第十二條第一號乃至第四號及第十二號ニ揭ケタル事項
二　設立許可ノ年月日
三　理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ揭ケタル事項中ニ變更チ生シタルトキハ二週間內ニ其ノ登記チ爲スヘシ

第十七條　組合設立ノ後新ニ事務所チ設ケタルトキハ其ノ事務所ノ所在地ニ於テハ二週間內ニ前條第二項ニ揭ケタル事項ノ登記チ爲シ他ノ事務所ノ所在地ニ於テハ同期間內ニ新ニ事務所チ設ケタルコトチ登記スヘシ

組合カ其ノ事務所チ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間內ニ移轉ノ登記チ爲シ新所在地ニ於テハ同期間內ニ前條第二項ニ揭ケタル事項ノ登記チ爲スヘシ

同一ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ事務所チ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノミノ登記チ爲スヘシ

第十八條　行政區劃、大字又ハ字ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區劃、大字又ハ字ノ名稱ハ當然之チ變更シタルモノト看做ス

行政區劃、大字又ハ字ノ變更アリタルトキ亦前項ニ同シ但シ組合ノ地區ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　前條ノ規定ハ地區及事務所所在地ニ關スル規約ノ規定ニ之チ準用ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ規約ノ記載チ訂正シ且遲滯ナク其ノ旨チ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三章　會議

第二十條　本令中別ニ規定アルモノノ外左ニ

揭クル事項ハ組合員總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ第八號ニ揭クル事項ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

一　經費ノ收支豫算
二　經費ノ分賦收入方法
三　漁業權又ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪、變更
四　基金ノ支出又ハ其ノ利用方法
五　豫算外ノ支出
六　負債ヲ起スコト
七　組合員ノ除名
八　組合員ニ非サル者ニ對スル漁業權ノ貸付又ハ入漁權ノ設定、得喪若ハ變更
九　規約ノ變更
十　訴願、訴訟又ハ和解
十一　聯合會ニ加入シ又ハ之ヨリ脫退スルコト
十二　組合ノ解散、合併又ハ分割

前項第三號、第六號、第七號、第九號乃至第十二號ニ揭ケタル事項及第三十條第三項但書ノ決議ハ總組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　組合ノ地區ヲ擴張又ハ縮小スル爲規約ヲ變更セムトスルトキハ其ノ擴張又ハ縮小セムトスル區域內ニ住所ヲ有スル漁業者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第九條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　第二十條第一項第二號、第六號、第九號及第十二號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

前項ノ認可ノ申請書ニハ總會ノ決議錄及左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　地區ノ擴張又ハ縮小ニ關スル規約ノ變更ニ付テハ前條ノ同意ヲ證スル書面
二　合併又ハ分割ニ付テハ合併若ハ分割後存續スル組合又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立スル組合ノ規約及第五十一條第二項、第五十二條ノ規定ニ依リ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面

第二十三條　第二十條第一項第四號、第五號、第八號及第十號ニ揭ケタル事項ニ關シ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事ハ專決處分シ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條　總會ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外理事之ヲ招集ス

第二十五條　通常總會ハ每年少クトモ一回之ヲ開クヘシ

理事ハ經費ノ收支決算書、剩餘金ノ處分書、財産目錄及事業報告書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

監事ハ豫メ前項ノ書類ニ付之ヲ調查シ其ノ意見ヲ通常總會ニ報告スヘシ

第二項ノ承認ヲ得タルトキハ組合ハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十六條　臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ招集ス

一　理事カ必要アリト認ムルトキ
二　總組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求シタルトキ
三　第三十六條第三項ノ規定ニ依リ監事カ報告ヲ爲スノ必要アルトキ

前項第二號ノ場合ニハ組合ハ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ二週間內ニ之ヲ招集スヘシ

第二十七條　總會ヲ招集スルニハ少クトモ三日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ各組合員ニ通知スヘシ

總會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノミ決議ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　組合員ハ各一個ノ議決權ヲ有ス

第二十九條　總會ノ決議ハ本令又ハ規約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

組合員ハ他ノ組合員ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス

前項ノ受任者ハ委任狀ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十條　組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ總代會ニ之ヲ準用ス

第二十條第一項第三號、第六號、第七號、第九號及第十二號ニ揭ケタル事項又ハ第七十二條第二項ノ決議ハ總代會ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ起債又ハ規約ノ變更ニ付總會ノ委任アリタル事項ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　總代會ヲ組織スル總代ノ員數、選任、任期及解任ニ關スル規定ハ之ヲ規約中ニ設クヘシ

組合員ニ非サル者ハ總代ト爲ルコトヲ得ス

第四章　組合ノ管理

第三十二條　組合ニハ理事及監事ヲ置ク

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ組合員タルヘキ者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ理事又ハ監事ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條　理事ノ任期ハ三年トシ監事ノ任期ハ一年トス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　理事及監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第三十五條　民法第五十二條第二項、第五十三條及第五十四條ノ規定ハ組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十六條　監事ハ組合ノ財産及事務執行ノ狀況ヲ監查ス

監事組合財産ノ狀況又ハ事務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會及地方長官ニ報告スヘシ

監事ハ前項ノ報告ヲ爲スノ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコトヲ得

第三十七條　監事ハ理事又ハ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十八條　組合ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ス

理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十九條　組合ハ理事其ノ他ノ代理人カ其ノ職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第四十條　組合ハ規約及總會ノ決議錄ヲ各事務所ニ備置キ且組合員名簿、經費ノ收支豫算書、經費ノ收支決算書、財産目錄及事業報告書ヲ主タル事務所ニ備置クヘシ

組合員又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條　組合ハ理事又ハ監事ニ關スル登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及其ノ登記ノ年月日ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第五章　組合ノ會計

第四十二條　組合ノ事業年度ハ一年トシ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ曆年ニ依ラサルコトヲ得

第四十三條　組合ハ經費ノ收支豫算ヲ議決シタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第四十四條　組合ハ每事業年度ノ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ基金トシテ積立ツヘシ

基金ハ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合又ハ著シク組合員共同ノ利益ヲ增進スル爲必要ナル場合ヲ除クノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス

第六章　組合員ノ加入及脫退

第四十五條　組合ノ地區內ニ住所ヲ有スル漁業者組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十六條　組合ハ漁業ニ關シ功勞、學識又ハ經驗アル者ヲ名譽組合員ト爲スコトヲ得

名譽組合員ハ議決權ヲ有セス

第四十七條　組合員ノ死亡ニ因リ家督相續開始シタルトキハ家督相續人ハ相續ノ日ヨリ被相續人ニ代リ組合員ト爲ル但シ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ三月內ニ之ニ異リタル意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條　組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得

第四十九條　組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス

一　組合員タル資格ノ喪失
二　死亡
三　除名

第五十條　正當ノ理由ナクシテ組合ノ加入ニ困難ナル條件ヲ附セラレ若ハ加入ヲ拒マレタル漁業者又ハ不當ニ除名セラレタル者ハ六十日內ニ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第七章　組合ノ分合

第五十一條　組合カ合併又ハ分割ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ分割ヲ爲ス場合ニ於テハ尚分割後設立スル組合カ承繼スヘキ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間內ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間內ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

第五十二條　債權者カ前條第二項ノ期間內ニ合併又ハ分割ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併又ハ分割ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　組合カ合併又ハ分割ヲ爲シタルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併又ハ分割後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併又ハ分割ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第五十四條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル組合ハ第五十一條ノ規定ニ依リテ定メタル限度ニ於テ從前ノ組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第八章　組合ノ解散及清算

第五十五條　組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　規約ニ定メタル事由ノ發生
二　組合員カ五人未滿ニ減シタルトキ
三　總會ノ決議
四　組合ノ合併
五　組合ノ分割
六　組合ノ破産
七　行政官廳ノ處分

第五十六條　組合カ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ組合若ハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組合ハ直ニ破産宣告ノ請求ヲ爲スヘシ

第五十七條　組合ノ清算ハ組合ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル檢查ヲ爲シ又ハ特ニ選任シタル者ヲシテ監督ニ必要ナル檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十八條　組合ハ合併、分割及破産ノ場合ヲ除クノ外解散後二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ清算人ノ氏名、住所及解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ且合併及分割ノ場合ヲ除クノ外之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ但シ行政官廳ノ處分ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ原因及其ノ年月日ノ屆出竝登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要セス

清算中ニ就職シタル清算人アルトキハ組合ハ就職後二週間內ニ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ組合ハ二週間內ニ其ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第五十九條　組合ノ解散ヲ命シタルトキハ行政官廳ハ解散ヲ命シタルコト及其ノ年月日ノ登記ヲ囑託スヘシ

登記所ハ前項ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十條　組合カ解散シタルトキハ合併、分割及破産ノ場合ヲ除クノ外理事其ノ清算人ト爲ル但シ規約ニ別段ノ規定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

清算人ハ其ノ職務ノ範圍內ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第六十一條　清算人ハ就職後遲滯ナク組合財産ノ現況ヲ調查シ財産目錄及貸借對照表ヲ作リ殘餘財産ノ處分方法ヲ定メ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第六十二條　清算中ノ組合ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ殘餘財産ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第六十三條　清算中ノ組合ハ清算人就職ノ日ヨリ二月內ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間內ニ其ノ請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間內ニ申出ヲ爲ササルトキハ其ノ債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スヘシ但シ組合ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

組合ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其ノ申出ヲ催告スヘシ

第六十四條　清算中ノ組合ノ財産カ其ノ債務ヲ完濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ組合ハ直ニ破産宣告ノ請求ヲ爲シ且其ノ旨ヲ公告スヘシ

清算人ハ破産管財人ニ其ノ事務ヲ引渡シタルトキハ其ノ任ヲ終リタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戾スコトヲ得

第六十五條　前二條ノ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十六條　民法第七十三條、第七十五條、第七十六條、第七十八條、第八十條、第八十三條、民法施行法第二條及非訟事件手續法第百三十六條乃至第百三十八條ノ規定ハ組合ノ解散又ハ清算ニ之ヲ準用ス

第九章　聯合會

第六十七條　聯合會ヲ設立セムトスルトキハ各組合ハ創立委員二名ヲ選任スヘシ但シ其ノ一名ハ理事タルコトヲ要ス

第六十八條　創立委員會ニ於テハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及分賦收入方法其ノ他創立ニ關シ必要ナル事項ヲ議決スヘシ

第六十九條　創立委員會終了シタルトキハ聯合會ヲ組織スル組合ハ聯合會設立ノ許可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算書及分賦收入方法其ノ他創立委員會ニ於テ議決シタル事項竝其ノ決議錄ヲ添附スヘシ

第七十條　聯合會ノ總會ハ加入各組合ニ於テ其ノ組合員中ヨリ選任シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ各組合ノ委員中一名ハ理事タルコトヲ要ス

委員ノ員數及任期ニ關スル規定ハ聯合會ノ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七十一條　聯合會ニハ理事及監事ヲ置ク

聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ加入組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スヘシ

第七十二條　聯合會カ負債ヲ起サムトスルトキハ加入各組合ノ負擔ヲ定メ其ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ハ加入各組合其ノ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十三條　加入各組合ハ聯合會ノ債務ニ付前條ノ負擔ヲ限度トシテ保證ノ責ニ任ス

組合ハ脫退ニ因リテ前項ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第七十四條　聯合會ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　規約ニ定メタル事由ノ發生
二　總會ノ決議
三　聯合會ノ破産
四　行政官廳ノ處分

第七十五條　第十二條、第十六條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十八條、第二十九條第一項、第三十三條乃至第四十四條及第五十六條乃至第六十六條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十二條及第十六條ノ地區ハ加入各組合ノ名稱、第二十條第一項第八號ノ組合員ハ加入各組合及其ノ組合員、第二十條第二項及第二十六條乃至第二十九條ノ組合員ハ委員トス

第十章　登記手續

第七十六條　組合又ハ聯合會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第七十七條　各登記所ニ漁業組合登記簿及漁業組合聯合會登記簿ヲ備フ

第七十八條　組合又ハ聯合會設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ規約、創立總會、總會又ハ創立委員會ノ決議錄、設立許可書又ハ合併若ハ分割ノ認可書竝理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

設立許可書又ハ合併若ハ分割ノ認可書ハ地方長官ノ認證アル謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七十九條　事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、其ノ職務ヲ行フ監事若ハ假理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但シ組合ノ合併又ハ分割ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ認可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第八十條　合併又ハ分割ニ因ル解散ノ登記ハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ總會ノ決議錄、第五十一條第二項及第五十二條ノ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面竝合併若ハ分割ノ認可書又ハ地方長官ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

第八十一條　本令ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ

第八十二條　非訟事件手續法第百二十二條、第百四十一條乃至第百五十一條、第百五十四條乃至第百五十七條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ組合又ハ聯合會ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十一章　罰則

第八十三條　組合又ハ聯合會ノ行爲ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ理事、監事、假理事又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
二　官廳ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
三　官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ檢査ヲ拒ミタルトキ
四　本令ニ依ル屆出又ハ報告ヲ怠リタルトキ
五　本令ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ
六　本令ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ
七　本令ニ依ル基金ノ積立ヲ爲サス又ハ之ヲ不當ニ支出シタルトキ
八　本令ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ
九　本令ニ違反シテ殘餘財産ヲ處分シタルトキ
十　第六十三條ノ場合ニ於テ一部ノ債權者ヲ利スルノ目的ヲ以テ期間內ニ辨濟ヲ爲シタルトキ
十一　本令ニ依ル催告若ハ公告ヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

附　則

第八十四條　本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十五條　舊漁業法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本令ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第八十六條　前條ノ漁業組合ハ本令施行後一年內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ第十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ登記スヘシ

前項ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ規約、設置認可書竝理事及監事ノ選任認可書ヲ添附スヘシ但シ地方長官ノ證明書又ハ認證アル謄本ヲ以テ認可書ニ代フルコトヲ得

選任認可書ニ依リ理事及監事ノ氏名ヲ明ニスルコト能ハサルトキハ官廳ノ證明書ヲ以テ其ノ氏名ヲ證スヘシ

第八十七條　舊漁業法ニ依リ設ケタル漁業組合ニシテ清算中ノモノニ付テハ其ノ清算ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ル

●漁業法第五十四條ノ規定ニ依リ準用シタル重要物産同業組合法第十條ノ四第三項ニ依ル重要輸出品指定

（大正五年六月三十日農商務省告示第百二十四號）

漁業法第五十四條ノ規定ニ依リ準用シタル重要物産同業組合法第十條ノ四第三項ノ規定ニ依リ重要輸出品ヲ指定スルコト左ノ如シ

魚介罐詰　昆布　鰑　貝柱　寒天　乾鰕
乾鮑　乾鱒　海參　魚油

●水産組合規則

（大正五年六月三十日農商務省令第十五號　改正　大正九年第二六號）

水産組合規則左ノ通改正ス

水産組合規則

第一條　本則ニ於テ組合ト稱スルハ漁業法第五十一條ノ規定ニ依リ設置スル水産組合ヲ謂ヒ聯合會ト稱スルハ同法第五十三條ノ規定ニ依リ設置スル水産組合聯合會ヲ謂フ

第二條　組合又ハ聯合會ハ漁業權又ハ入漁權ヲ有スルコトヲ得ス

第三條　組合又ハ聯合會ニハ評議員會ヲ置クコトヲ得

第四條　組合又ハ聯合會ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一　設置又ハ解散ノ認可
二　定款變更ノ認可
三　地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコト
四　重要物産同業組合法第十五條第二號及第三號ノ處分
五　重要物産同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員又ハ檢査員ノ選任又ハ解任
六　經費ノ豫算又ハ其ノ徵收法ノ變更ヲ命スルコト
七　役員ノ選任竝檢査員ノ選任及解任ノ認可
八　重要物産同業組合法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員ノ解任ノ認可
九　檢査員ノ服務ニ關スル規程ノ認可
十　經費ノ豫算及徵收法ノ認可

地方長官前項ノ規定ニ依リ處理シタルトキハ第一號乃至第六號ノ場合ハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ第五號中檢査員ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　組合又ハ聯合會ハ定款ノ施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其ノ規則、定款ニ主タル事務所ノ位置ヲ記載セサルトキハ其ノ位置ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ

第一項ノ屆出又ハ前項ノ報告アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條　本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ又ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ組合ノ地區又ハ聯合會ノ區域二以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ於テハ農商務大臣ニ於テ又ハ農商務大臣ニ對シテ之ヲ爲スモノトス

第七條　農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第八條　組合又ハ聯合會ニ付テハ重要物産同業組合法施行規則第一條乃至第十三條、第十五條乃至第二十二條、第二十三條第二項、第二十四條乃至第三十三條、第三十五條乃至第四十四條及第四十九條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第九條　本則ハ大正五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　組合又ハ聯合會ニ付テハ重要物産同業組合法施行規則第五十二條乃至第五十四條ノ規定ヲ準用ス

●茶業組合規則

（明治二十年十二月二十九日農商務省令第四號　改正　明治二二年第五號、二三年第一號、第三號、二四年第二號、二五年第五號、第一四號、二九年第六號、三二年第一七號、四二年第一六號、四四年第三二號）

茶業組合規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但十七年三月第四號達茶業組合準則ハ廢止ス

茶業組合規則

第一章　總則

第一條　此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス

第二條　茶業者ハ製造ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ但農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメサルモ妨ナシ

第三條　組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡區內ニ於テ茶業者小數ナルトキハ近隣郡區ノ同業者ト合併スルコトヲ得

第四條　營業ノ種別ニ依リ各別ニ組合ヲ設クル必要アルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　組合ノ名稱ハ何（府縣）何（郡區）茶業組合ト稱スヘシ

第六條　組合ハ郡區內便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條　組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ、製茶外國貿易ノ發展ヲ圖ル爲メ全國便宜ノ地ニ中央會議所ヲ設クヘシ

第八條　組合ハ此規則ノ範圍內ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議所ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條　組合及聯合會議所ノ規約及豫算ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約及豫算ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

但二府縣以上ノ組合員全部若クハ幾部聯合シテ別ニ規約ヲ設クルノ必要アルトキハ其規約ヲ添ヘ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條ノ二　地方長官ハ茶業組合又ハ聯合會議所ニ、農商務大臣ハ中央會議所ニ對シ規約又ハ區域ノ變更ヲ命シ其他必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲナスコトアルヘシ

第九條ノ三　地方長官ニ於テ第九條ニ依リ聯合會議所又ハ一府縣ヲ區域トスル茶業組合ニ對シテ處分ヲナシタルトキハ規約又ハ豫算書ヲ添付シテ、第九條ノ二ニ依リテ處分ヲナシ若クハ命令ヲ發シ第二十四條ニ依リテ處分ヲナシ又ハ第三十四條ニ依リ議員ノ改選ヲ命シタルトキハ事情ヲ具シテ其都度之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第九條ノ四　經費ノ決算及事業成績ハ次年度ニ於テ茶業組合及聯合會議所ニ在リテハ地方長官ニ、中央會議所ニ在リテハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二章　組合員

第十條　組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條　組合員ハ組合及會議所ノ規約竝ニ二府縣以上ノ聯合組合員ハ其聯合規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條　社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシムヘシ

第三章　役員

第十三條　各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部內ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

但組長ヲ選任又ハ改選シタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ委員ヲ選任又ハ改選シタルトキハ其都度屆出ツヘシ

第十四條　組長ハ委員ト協議シテ部內組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條　組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條　組長ハ部內組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルトキハ其旨會議所ニ通知スヘシ

第十七條　削除

第十八條　聯合會議所ニハ會頭、副會頭各一名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十九條　聯合會議所ノ役員ハ會議ニ於テ部下組合員ニ於テ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條　聯合會議所ノ會頭、副會頭ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條　中央會議所ニハ會頭、副會頭、理事各一名及評議員五名乃至七名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二十二條　中央會議所ノ役員ハ中央會議々員ニ於テ全國組合員中ヨリ定員倍數ノ候補者ヲ選定シ農商務大臣ノ認定ヲ請フヘシ

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖トモ選擧スルコトヲ得

第二十三條　中央會議所ノ會頭、副會頭及理事ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第二十四條　役員ノ任期ハ三箇年トス若シ役員其任ニ適セサルトキハ中央會議所ノ役員ハ農商務大臣ニ於テ聯合會議所ノ役員及組合事務所ノ役員ハ地方長官ニ於テ其改選ヲ命スヘシ

但補闕役員ノ任期ハ前任役員ノ任期ニ依ルヘシ

第二十四條ノ二　茶業組合、聯合會議所又ハ中央會議所ニハ前數條ニ依ル役員ノ外規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第四章　會議

第二十五條　會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

但中央會議定時會ノ會期ハ七日以內臨時會ノ會期ハ三日以內トス若シ會期ヲ延長スルノ必要ヲ生シタルトキハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　聯合會議ニ於テハ會議所所在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スヘキモノトス

第二十七條　聯合會議ノ議員ハ部下各組合ノ委員ニ於テ其組合員中ヨリ選擧スヘシ

中央會議ノ議員ハ聯合會議所議員、聯合會議所ナキ府縣ニ於ケル茶業組合ノ委員及農商務大臣ノ指定スル茶業組合ノ委員ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ

第二十八條第二十九條　削除

第三十條　第二十七條ニ依ル指定竝ニ中央會議ノ議員ノ總數及其配當ハ別ニ之ヲ告示ス

第三十條ノ二　地方長官ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル聯合會議特別議員ヲ命スルコトヲ得

農商務大臣ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル中央會議特別議員ヲ命スルコトアルヘシ

特別議員ハ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

特別議員ニ關スル費用ハ各其會議所ノ負擔トス

第三十一條　議員及特別議員ノ任期ハ三箇年トス補闕議員ノ任期ハ前任議員ノ任期ニ依ルヘシ

第三十二條　會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第三十三條　會議ノ正副議長及議員ノ氏名竝ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ屆出ツヘシ

第三十四條　農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第三十五條　會議ハ議員半數以上出席セサレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得ス

但議員半數以上ノ欠席三日以上ニ渉ルトキハ半數以內ト雖トモ議事ヲ開クコトヲ得

第三十六條　議事ハ出席員過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第五章　規約

第三十七條　各組合ノ規約ハ其部內組合員中ヨリ委員ヲ選定シテ左ノ事項ニ據リ之ヲ定ムヘシ

一　組合ノ位置
一　組合員ノ證票
一　粗惡不正茶取締ノ方法
一　役員選擧ノ方法
一　組合入退者取扱ノ方法
一　違約者處分ノ方法
一　經費賦課徵收支出ノ方法
一　其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十八條　聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一　聯合會議所ノ位置

一製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法

一製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法

一部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法

一聯合會議々員及ヒ役員選擧ノ方法

一聯合會議ニ關スル規程

一違約者處分ノ方法

一經費賦課徵收支出ノ方法

一其他地方ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十九條　中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一中央會議所ノ位置

一製茶外國貿易ノ發展ヲ圖ル方法

一內外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法

一中央會議々員及ヒ役員選擧ノ方法

一中央會議ニ關スル規程

一經費賦課徵收支出ノ方法

一其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第六章　罰則

第四十條　此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金貳圓以上金貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

●茶業組合規則施行停止方

（明治四十二年五月二十日農商務省令第十七號）

改正　明治四四年第一九號

明治二十二年農商務省令第七號ヲ左ノ通改メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

茶業組合規則ヲ施行スル必要ナシト認ムルトキハ其ノ府縣ニ限リ該規則ノ施行ヲ停止スルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ告示ヲ以テ其ノ府縣ヲ指定ス

茶業組合規則ヲ施行セサル府縣ノ茶業者之ヲ施行セル府縣ニ於テ製茶ノ賣買ヲ爲ストキハ其ノ地ノ茶業組合、聯合會議所及中央會議所ノ規約中製茶取締ニ關スル規定竝檢査茶ニ對スル經費賦課徵收ノ規定ヲ遵守スヘシ

前項ノ規定ハ茶業組合規則ヲ施行セル府縣ノ茶業者カ同規則ヲ施行セル他ノ府縣ニ於テ製茶ノ賣買ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

●森林組合令

（明治四十年十二月二十六日勅令第三百四十八號）（總理、農商務大臣副署）

朕森林組合令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林組合令

第一條　本令ニ於テ組合ト稱スルハ森林法第五章ニ依リ設立スル森林組合ヲ謂フ

第二條　組合ハ其ノ名稱中ニ森林組合ナル文字ヲ用ウヘシ

第三條　組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條　組合ノ定款ニハ森林法及本令ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　役員ニ關スル規定

二　會議ニ關スル規定

三　組合員ノ議決權ニ關スル規定

四　財産ノ管理又ハ處分ノ方法ヲ定メタルトキハ其ノ方法

五　組合員ノ義務ニ違反セル場合ニ於ケル違約金ニ關スル規定ヲ定メタルトキハ其ノ規定

六　森林ノ主伐收益ヲ爲ス組合ニ在リテハ立竹木ノ權利及産物ノ處分竝收益分配ニ關スル規定

第五條　定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ總會ニハ總組合員ノ三分ノ二以上ニシテ總議決權ノ三分ノ二以上ニ當ル組合員ノ出席アルコトヲ要ス

第六條　組合設立ノ登記ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一　森林法第六十八條第一項ニ掲クル事項

二　設立許可ノ年月日

三　理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲クル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間內ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條　民法第四十五條第三項及第四十八條ノ規定ハ之ヲ組合ニ準用ス但シ同規定中一週間ノ期間ハ之ヲ二週間トス

第八條　前二條ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ許可書又ハ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第九條　森林法又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ組合員タル森林所有者ニ於テ又ハ之ニ對シテ爲スヘキ手續其ノ他ノ行爲ニシテ其ノ組合ノ事業ニ關スルモノニ付テハ其ノ組合ハ組合員ヲ代表ス

第十條　森林所有者ノ承繼人ハ其ノ承繼シタル權利ノ限度ニ於テ被承繼人カ組合員トシテ有スル權利義務ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ新ニ森林法第二條ニ依リ森林所有者ト爲リタル者又ハ其ノ權利消滅ニ因リテ森林所有者タルモノニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ組合ニ通知ヲ爲スニ非サレハ權利義務ノ承繼ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第一項及第二項ノ規定ニ依リ利益ヲ受ケタル者ハ損失ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ利益ノ限度ニ於テ之ヲ補償スヘシ

第十一條　組合員ニ於テ地區內ノ森林ヲ森林以外ノ土地ト爲シタルトキ又ハ地區內ニ於ケル森林以外ノ土地ヲ新ニ森林ト爲シタルトキハ組合ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條　組合員カ地區內ノ森林ヲ森林以外ノ土地ト爲シタルトキニ於テ組合ト該組合員トノ間ノ計算ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

地區ヲ減少セル場合ニ於テ其ノ減少セル區域內ノ森林ノ屬スル組合員ト組合トノ間ノ計算ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十三條　組合ハ定款及總會ノ決議錄ヲ各事務所ニ備置クヘシ

組合ハ組合員名簿、財産目錄、事業報告書及決算書ヲ主タル事務所ニ備置クヘシ

事業ノ計劃書、設計書、貸借對照表、事業成績書又ハ損益分配計算書ヲ作成シタル場合ニ於テハ其ノ書類ニ付亦前項ニ同シ

前三項ノ書類ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第十四條　組合ハ組合員ヨリ前條ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス組合ノ債權者其ノ他利害關係ヲ有スル者事業計劃書、設計書及事業成績書ヲ除クノ外前條ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキ亦同シ

第十五條　組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合員ノ氏名又ハ名稱及住所

二　組合員ニ屬スル森林ノ所在、地番及面積

三　森林法第二條ニ依ル森林所有者ニ付テハ其ノ權利ノ種類及存續期間

四　組合員ノ出資又ハ費用分擔ノ割合

五　森林ノ主伐收益ヲ爲ス組合ニ在リテハ組合員ニ對スル收益分配ノ割合

第十六條　左ニ掲クル事項ハ總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　經費ノ收支豫算

二　起債

三　重要ナル權利ノ處分

四　事業ノ計劃、設計

五　每事業年度ニ於ケル事業ノ豫定

第十七條　組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

監事ハ理事又ハ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

民法施行法第二十七條ノ規定ハ組合ノ理事及監事ニ之ヲ準用ス

第十八條　理事ノ任期ハ三年以內ニ於テ監事ノ任期ハ一年以內ニ於テ定款ヲ以テ之ヲ定ム但シ任期滿了ノ時ニ於テ再選ヲ妨ケス

第十九條　理事及監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十條　第五條第二項ノ規定ハ理事及監事ノ選任ノ場合竝解任ノ決議ニ之ヲ準用ス

第二十一條　民法第四十四條第一項ノ規定ハ組合ニ、同法第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條ノ規定ハ組合ノ理事ニ、同法第五十九條ノ規定ハ組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第二十二條　組合ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキ又ハ其ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合員中ヨリ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十三條　組合ハ少クトモ每事業年度一回組合員ノ通常總會ヲ開クヘシ臨時總會ハ何時ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得

通常總會ハ財産目錄、事業報告書及決算書ヲ調査ス貸借對照表及事業成績書ヲ作成スル組合ニ在リテハ其ノ書類ニ付亦同シ

前項ノ書類ハ通常總會ノ日ヨリ一週間前監事ニ提出スヘシ

第二十四條　總組合員ノ五分ノ一以上ニシテ總議決權ノ五分ノ一以上ニ當ル組合員カ會議ノ目的タル事項ヲ示シ總會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　民法第六十二條、第六十四條及第六十六條ノ規定ハ組合ノ總會ニ之ヲ準用ス

第二十六條　總會ノ決議ハ本令又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

各組合員ノ議決權ハ一個以上トス但シ議決權總數ノ五分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十七條　組合員ハ書面又ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第一項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニ之ヲ適用セス

第二十八條　組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得

各總代ノ議決權ハ其ノ代表セル組合員ノ有スル議決權ノ數ニ依ル

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散又ハ合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　組合ノ事業年度ハ一年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　總會ノ決議

三　合併

四　破産

五　監督官廳ノ處分

第三十一條　合併及解散ノ決議ハ總會ニ於テ總組合員ノ三分ノ二以上出席シ總議決權ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

合併及解散ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十二條　組合カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間內ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間內ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

第三十三條　債權者ハ前條第二項ノ期間內ニ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條　組合カ解散シタルトキハ組合ハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ清算人ノ氏名、住所及解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ且合併ノ場合ヲ除クノ外之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

清算中ニ就職シタル清算人アルトキハ組合ハ其ノ就職後二週間內ニ其ノ氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

前二項ニ依リ登記シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ組合ハ二週間內ニ其ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十五條　組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十六條　組合カ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ組合若ハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ組合ハ直ニ破産宣告ノ請求ヲ爲スヘシ

第三十七條　清算人ハ就職後遲滯ナク財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作リ財産處分ノ方法ヲ定メ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第三十八條　清算中ノ組合ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第三十九條　清算事務終リタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ總會ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條　清算中ノ組合ハ清算人就職ノ日ヨリ二月內ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間內ニ其ノ請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間內ニ申出ヲ爲ササルトキハ其ノ債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スヘシ但シ組合ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

組合ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其ノ申出ヲ催告スヘシ

第四十一條　前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ組合ノ債務完濟ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　清算中ノ組合ノ財産カ其ノ債務ヲ完濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ組合ハ直ニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其ノ旨ヲ公告スヘシ

清算人カ破産管財人ニ其ノ事務ヲ引渡シタルトキハ其ノ任ヲ終リタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戾スコトヲ得

第四十三條　組合カ前條第一項、第三十二條第二項及第四十條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十四條　民法第七十三條乃至第七十六條、第七十八條、第八十二條及第八十三條ノ規定ハ組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第四十五條　民法施行法第二條、第二十五條及非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第百三十六條乃至第百三十八條ノ規定ハ組合ニ之ヲ準用ス

第四十六條　左ノ場合ニ於テ組合ハ命令ノ規定ニ違反シタルモノト看做ス

一　官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二　第十三條ノ書類ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三　監督官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス、其ノ檢査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

四　第三十二條、第四十條又ハ第四十二條ニ依ル公告ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

五　第四十條ノ期間內ニ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキ

第四十七條　組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所

所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第四十八條　各登記所ニ森林組合登記簿ヲ備フ

第四十九條　組合設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ依リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款及地方長官ノ設立許可書若ハ合併認可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

第五十條　事務所新設及移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事若ハ其ノ職務ヲ行フ者又ハ淸算人ノ申請ニ依リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

假理事カ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　組合解散ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ依リテ之ヲ爲ス

前項登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會ノ決議又ハ合併ニ依リテ解散シタルトキハ地方長官ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

第五十二條　合併ニ依ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第三十二條第二項ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

組合カ監督官廳ノ處分ニ依リテ解散シタルトキハ登記所ハ該官廳ノ囑託ニ依リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第五十三條　第四十九條第一項ノ規定ハ組合ノ合併ニ依ル變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第五十四條　本令ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スヘシ

第五十五條　非訟事件手續法第百四十一條乃至第百五十一條、第百五十四條乃至第百五十七條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●酒造組合法（明治三十八年一月一日法律第八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒造組合法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

酒造組合法

第一條　本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ淸酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ製造スル者ヲ謂フ

第二條　酒類製造者ハ稅務署管內ヲ一區域トシ酒造組合ヲ設クルコトヲ得但シ土地ノ狀況ニ從ヒ特別ノ區域ニ依ルコトヲ得

第三條　酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲ス

第四條　酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域內ニ於ケル酒類製造者三分ノ二以上ノ同意ヲ得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

二種以上ノ酒類ノ製造者組合ヲ設置セムトスルトキハ各種毎ニ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條　酒造組合設置ノ認可アリタルトキハ其ノ區域內ニ於ケル同種酒類ノ製造者ハ當然其ノ組合員ト爲ル

第六條　酒造組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲酒造組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

酒造組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　酒造組合及酒造組合聯合會ハ法人トス

第八條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ノ變更ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　政府ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令若ハ定款ノ規定ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ、其ノ行爲ヲ制止シ、役員ノ改選ヲ命シ又ハ組合若ハ聯合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第十一條　本法ニ規定スルモノノ外酒造組合及酒造組合聯合會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第十二條　本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　酒造稅法ニ依リ設立シタル酒造組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

前項ノ酒造組合ニシテ其ノ區域內ニ於ケル酒類ノ製造者各種毎ニ三分ノ二以上ヨリ成立スルトキハ同區域內ニ於テ未タ組合ニ加入セサル同種酒類ノ製造者ハ本法施行ノ日ヨリ當然組合員ト爲ル

●酒造組合法施行規則（明治三十八年一月一日勅令第八號）

朕酒造組合法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

酒造組合法施行規則

第一條　酒造組合法ニ依リ酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ五名以上ノ同業者ニ於テ其ノ組合ノ區域及酒類ヲ定メ發起ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第二條　酒造組合設立發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ其ノ組合ノ區域內ニ於ケル同業者ニ左ノ事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

一　組合ノ名稱、區域及酒類
二　組合員タルヘキ者ノ數但シ各種酒類毎ニ之ヲ區別スヘシ
三　組合事業ノ概目
四　創立費及經費ノ概算
五　同意表示ノ形式及期間

第三條　法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作リ遲滯ナク創立總會ヲ召集スヘシ

創立總會ヲ召集スルトキハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第四條　定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス但シ二種以上ノ酒類製造者組合員タルヘキ場合ニ於テハ各種酒類製造者毎ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條　創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其ノ表決權ヲ行フコトヲ得

第六條　創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款及創立總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第七條　創立總會ニ於テハ其ノ議定シタル定款ノ規定ニ從ヒ役員ヲ選擧シ又ハ經費ノ豫算竝徵收方法ヲ議定スルコトヲ得

第八條　發起人發起ノ認可アリタル後六箇月以內ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第九條　酒造組合聯合會ノ創立總會ハ其ノ聯合會ヲ組織セムトスル組合ニ於テ選定シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條　酒造組合聯合會ノ創立總會ヲ終リタルトキハ酒造組合聯合會設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第十一條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十二條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ酒造組合聯合會ノ定款ニハ第十二號及第十三號ノ記載ヲ要セス

一　名稱
二　區域
三　酒類
四　事務所ノ所在地
五　事業
六　役員ノ權限及其ノ選任、解任ニ關スル規定
七　總會召集ノ方法
八　會議ノ方法
九　經費ノ負擔及其ノ徵收方法
十　定款違反者處分ノ方法
十一　定款ノ變更ニ關スル手續
十二　酒類製造者ノ造石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法
十三　酒造稅法施行規則第三十一條第一項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於ケル處分方法
十四　加入及脫退ニ關スル規定
十五　解散ニ關スル規定

第十三條　定款ノ變更ヲ議定シタルトキハ認可申請書ニ其ノ變更シタル定款及變更ノ理由書ヲ添附シ地方長官ニ提出スヘシ

第十四條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

組合長又ハ聯合會長　一名
評議員　若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長ハ組合員中ヨリ、聯合會長ハ聯合會ヲ組織スル酒造組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選擧シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第十五條　組合長又ハ聯合會長ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヲ代表シ之ヲ統轄ス

組合長又ハ聯合會長故障アルトキハ定款ノ規定ニ依リ他ノ役員之ヲ代理ス

評議員ハ組合長又ハ聯合會長ノ諮詢ニ應シ又ハ定款ノ規定ニ依リ組合又ハ聯合會ノ事務ノ一部ヲ分掌ス

第十六條　組合長又ハ聯合會長ノ解任アリタルトキ及他ノ役員ノ選任又ハ解任アリタルトキハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヨリ其ノ氏名ヲ地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十七條　組合又ハ組合聯合會ニ於テ定款ノ執行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其ノ都度地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十八條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ組合員ノ製品ヲ檢査スルコトヲ得

酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第十九條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ經費ノ豫算竝徵收方法ハ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ每年少クトモ一回酒造組合ニ在リテハ組合員ニ、酒造組合聯合會ニ在リテハ其ノ組合ニ公示シ且地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第二十條　役員ノ闕ケタル場合ニ於テ補闕選擧ノ手續ヲ行フヘキ者アラサルトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第二十一條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散シタルトキハ組合長又ハ聯合會長ヲ以テ其ノ淸算人トス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　前條ノ規定ニ依リテ淸算人タル者アラサルトキハ地方長官之ヲ選任ス

第二十四條　淸算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ淸算人ヲ改任スルコトヲ得

第二十五條　淸算結了シタルトキハ其ノ結果ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十六條　酒造組合法第十條ノ處分ハ地方長官之ヲ行フ

第二十七條　本令中酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ關シ地方長官ニ屬スル事務ニシテ二府縣以上ニ涉ルモノハ大藏大臣之ヲ行フ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前酒造組合規則ニ依リ爲シタル酒造組合設置ノ手續ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ定款ニ記載スヘキ事項ニシテ組合契約書ニ記載ナキモノハ之ヲ議定シ本令施行後三箇月以內ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

●住宅組合法（大正十年四月十二日法律第六十六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル住宅組合法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、內務大臣副署）

住宅組合法

第一條　住宅組合ハ組合員ニ住宅ヲ供給スルヲ以テ目的トス

住宅組合ハ法人トス

第二條　住宅組合ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一　住宅用地ノ取得、造成若ハ借受又ハ組合員ニ對スル貸付若ハ讓渡
二　住宅ノ建設又ハ購入

第三條　本法ニ於テ住宅ト稱スルハ住居ノ用ニ供スル家屋及其ノ附屬設備ヲ謂フ

前項ノ附屬設備ノ種類及範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　組合ノ供給スル組合員ノ住宅ハ一組合員ニ付一戶ニ限ル

第五條　住宅組合ノ供給スル住宅ニ關スル坪數其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　組合員ノ持分ハ之ヲ相續スルコトヲ得

第七條　組合員住宅ノ所有權ヲ取得シタル後出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ住宅ノ所有權ヲ組合ニ讓渡スルコトヲ請求スルコトヲ得

一　出資拂込ノ義務ヲ怠リタルトキ
二　組合ノ定ムル住宅使用條件ニ違反シタルトキ

第八條　組合員ハ前條ノ規定ニ依リ其ノ住宅ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ組合ヲ脫退ス

第九條　組合員出資拂込ノ完了前住宅ノ所有權ヲ取得シタルトキハ組合ハ組合員ヲシテ未拂込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定セシムルコトヲ得

第十條　住宅ハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ火災保險ニ付スヘシ

第十一條　住宅組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合ト組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十二條　北海道地方費、府縣又ハ市町村ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ住宅組合ニ對シ住宅資金ヲ貸付スルコトヲ得

第十三條　國、北海道地方費、府縣、郡又ハ市町村ノ所有ニ屬スル土地ハ隨意契約ニ依リ住宅組合ニ之ヲ賣拂又ハ貸付スルコトヲ得

第十四條　住宅組合ハ主務大臣、地方長官、郡長及市長之ヲ監督ス

第十五條　本法中郡、郡長トアルハ郡長ヲ置カサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトシ市町村、市長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第十六條　民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條乃至第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ同法第四十五條第三項及第四十八條第一項中期間ニ關スル規定ヲ除クノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

產業組合法ハ第一條、第五條、第十六條、第三十二條、第三十四條、第三十八條、第四十三條、第四十四條、第四十六條乃至第四十六條ノ三、第五十九條、第六十九條、第七十五條、第七十六條乃至第九十二條及第百六條ノ規定ヲ除クノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

住宅組合法ハ大正十年七月十日ヨリ之ヲ施行

ス（大正十年勅令第三百三號）

●住宅組合法施行規則

（大正十年七月六日内務省令第二十一號）

住宅組合法施行規則左ノ通定ム

住宅組合法施行規則

第一條　住宅組合ノ區域ハ住宅ヲ供給スル地域ニ依リ道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條　住宅組合ノ設立許可ノ申請書ニハ定款ノ外事業方法書ヲ添附スヘシ

前項ノ事業方法書ニ記載スヘキ事項ハ地方長官之ヲ定ム

第三條　住宅組合ハ設立當初ノ組合員全員ニ對スル事業計畫ヲ完了スヘキ時期ニ據リ其ノ存立期間ヲ定ムヘシ

第四條　住宅組合法第三條ニ規定スル附屬設備ハ家屋ニ相應スル門、牆塀、物置、井戸其ノ他居住ノ爲必要ナル設備ニ限ル

第五條　住宅組合ノ供給スル住宅ハ一戸ニ付家屋各階ノ床面積合計五十坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　住宅組合ハ定款ヲ以テ住宅ノ使用及讓渡ノ時期及手續ヲ定ムヘシ

第七條　住宅ノ所有權ノ讓渡ニ關シテハ出資金ヲ以テ其ノ對價トス

第八條　組合員タル資格ニ關スル定款ノ規定ニハ他ノ住宅組合ノ組合員ニ非サルコトヲ要スル旨ヲ定ムヘシ

第九條　住宅組合ハ持分ノ相續又ハ讓受ニ依ル場合ヲ除クノ外新ニ組合員ヲ加入セシムルコトヲ得ス但シ現ニ供給スヘキ住宅アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　住宅組合法第二條ノ規定ニ依ル住宅用地ノ貸付又ハ讓渡ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十一條　出資一口ノ金額ハ二百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　第一回拂込ノ金額ハ出資一口ニ付其ノ金額ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ五十分ノ一迄下スコトヲ得

第十三條　事業方法書ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　住宅組合出資拂込ノ完了ニ至ラサル組合員ニ住宅ノ所有權ヲ讓渡スル場合ニ在リテハ組合ハ之ニ對シ讓渡ノ條件トシテ未拂込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定シ又ハ相當ノ擔保ヲ提供セシムヘシ

第十五條　住宅組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ルヘシ

第十六條　住宅組合ノ理事ハ毎年度豫算及事業計畫書ヲ調製シ年度開始ノ二月前迄ニ總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ初年度ノ豫算及事業計畫書ニ付テハ設立許可ノ後二月内ニ總會ノ決議ヲ經ヘシ

第十七條　住宅組合ノ理事ハ毎年度決算書ヲ調製シ次ノ通常總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十八條　住宅組合ノ豫算、事業計畫書、決算書及事業報告書ハ總會ノ決議又ハ承認ヲ經タル後一月内ニ地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

第十九條　定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更理由書及總會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

定款變更ニシテ總組合員ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十條　登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

第二十一條　地方長官ニ提出スル組合原簿ニハ其ノ記載事項ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ其ノ記載事項變更ノ屆書ニ付亦同シ但シ組合員ノ氏、名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

無限責任組合ニ於テ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第十六條ノ六第二項ノ規定ニ依ル組合原簿提出ノ場合ニ在リテハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲモ添附スヘシ

第二十二條　理事又ハ監事ノ變更ノ屆書ニハ其ノ變更カ總會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議錄其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第二十三條　出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第十九條ニ揭ケタル書類ノ外財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第二十四條　登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ手續ヲ踐ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十五條　住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第二十三條ニ揭ケタル書類ヲ添附スヘシ

第二十六條　組織變更ニシテ組合員ノ責任ヲ減少スル場合ニ在リテハ其ノ認可申請書ニハ第二十三條ニ揭ケタル書類ヲ添附スヘシ

第二十七條　組合員ノ保證金額ヲ減少シ又ハ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依ル責任期間ノ短縮ヲ爲シタル場合ニ於テ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ終リタルトキハ遲滯ナク之ヲ證スル書面ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第二十八條　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會決議錄、財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第二十九條　住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ屆書ニハ其ノ事由ヲ記載シ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第三十條　合併ノ認可申請書ニハ第二十三條ニ揭ケタル書類竝合併契約書、合併後存續スル住宅組合又ハ合併ニ因リテ設立スル住宅組合ノ定款及設立者ハ各住宅組合ニ於テ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

合併ニ付總組合員ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ前項ノ書類ノ外其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十一條　第二十二條ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ屆書ニ之ヲ準用ス

第三十二條　清算人ハ財產目錄及貸借對照表ニ付總會ノ承認ヲ得タルトキハ遲滯ナク地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

第三十三條　清算結了ノ屆書ニハ總會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

附　則

本令ハ住宅組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海外移住組合法

（昭和二年三月三十日法律第二十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海外移住組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、内務大臣副署）

海外移住組合法

第一條　海外移住組合ハ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ヲ助成スルヲ以テ目的トス

第二條　組合ハ法人トシ其ノ組織ハ有限責任トス

組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ併セ行フ

一　組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ニ必要ナル資金ヲ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ貸付スルコト

二　組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ、海外移住ニ必要ナル貯金ノ便宜ヲ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ得セシムルコト

三　組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ニ必要ナル土地、建物其ノ他ノ物件ヲ取得シ又ハ借受ケ之ヲ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ讓渡シ又ハ利用セシムルコト

組合ハ前項ニ規定スルモノノ外學校、病院、倉庫其ノ他組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ海外移住ニ必要ナル事業ヲ行フコトヲ得

組合ハ第一項ノ規定ニ依リ取得シ又ハ借受ケタル土地、建物其ノ他ノ物件ヲ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ讓渡シ又ハ利用セシムルニ至ル迄利用スルコトヲ得

第三條　組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者以外ノ者ニシテ海外ニ在住スル者ニ對シ前條第一項及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得

第四條　組合ハ一區域一個ニ限リ之ヲ設立スルコトヲ得

第五條　組合員ハ組合ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理スベキ者ヲ定メ之ヲ組合ニ屆出デタル後ニ非ザレバ海外ニ移住スルコトヲ得ズ

組合員前項ニ規定スル代理人ヲ組合ニ屆出デズシテ海外ニ移住シタルトキハ組合ノ會議及組合ノ爲ス通知又ハ催告ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス

前二項ニ規定スル代理人ハ當該組合ノ區域内ニ居住スル組合員タルコトヲ要ス

第六條　組合ノ理事及監事ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ海外ニ移住スルコトヲ得ズ

第七條　海外移住組合ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲海外移住組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第八條　聯合會ハ法人トシ其ノ組織ハ有限責任トス

聯合會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ併セ行フ

一　海外移住組合ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ルコト

二　所屬海外移住組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト

三　所屬海外移住組合ガ組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ニ讓渡シ又ハ利用セシムベキ土地、建物其ノ他ノ物件ヲ取得シ又ハ借受ケ之ヲ所屬海外移住組合ニ讓渡シ又ハ利用セシムルコト

第二條第二項、第三項及第三條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス

第九條　聯合會ハ全國ヲ通ジテ一個トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十條　海外移住組合以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ聯合會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第十一條　聯合會ノ理事及監事ハ會員タル海外移住組合ノ理事及監事竝ニ前條ノ規定ニ依リ會員ト爲リタル者ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任スベシ但シ特別ノ事由アルトキハ其ノ他ノ者ヨリ選任スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十二條　聯合會ハ主務大臣之ヲ監督ス

第十三條　第六條ノ規定ハ聯合會ノ理事及監事ニ之ヲ準用ス但シ地方長官トアルハ主務大臣トス

第十四條　產業組合法第一條、第二條第一項、第四條第一項、第六條ノ二、第九條第二項、第十六條ノ六第二項、第四十二條、第四十六條ノ二、第四十六條ノ三、第四十九條、第五十八條、第六十八條、第七十六條乃至第七十七條、第七十九條、第八十條第一項、第八十一條但書及第八十二條乃至第九十二條ノ規定ヲ除クノ外產業組合法中產業組合ニ關スル規定ハ海外移住組合ニ、同法中產業組合聯合會ニ關スル規定ハ海外移住組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ海外移住組合聯合會ニ付テハ同法第八十一條ノ規定ニ依リ準用スル產業組合ニ關スル規定中地方長官トアルハ主務大臣トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和二年勅令第百號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

●海外移住組合法施行規則

（昭和二年四月三十日内務省令第二十八號）

海外移住組合法施行規則左ノ通定ム

海外移住組合法施行規則

第一條　組合ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外道府縣ノ區域ニ依ル

第二條　組合又ハ聯合會ノ設立許可ノ申請書ニハ定款ノ外事業方法書ヲ添附スベシ

第三條　出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第五條　準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ズ

第六條　剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物件ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量又ハ拂込ミタル出資額ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ

取扱ヒタル物件ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シ配當スベキ剩餘金ニシテ出資ノ拂込ニ充テザルモノハ拂込ミタル出資額ガ出資總額ノ二分ノ一ニ滿チザル場合ニ限リ配當スベキ剩餘金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第七條　總代會ハ二百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非ザレバ之ヲ設クルコトヲ得ズ

總代會ヲ設ケントスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選擧ニ關スル規定ヲ設クベシ

第八條　理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非ザレバ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ズ

第九條　組合及聯合會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　登記ニ關スル屆書又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載事項ノ變更ノ屆書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スベシ

地方長官ガ前項ノ屆書又ハ組合原簿ヲ受理シタルトキハ之ニ受附ノ年月日ヲ記載スベシ

第十一條　地方長官又ハ内務大臣ニ組合原簿又ハ聯合會原簿ヲ提出スルトキハ其ノ記載事項ニ關スル監事ノ證明書、其ノ記載事項ノ變更ノ屆書ヲ提出スルトキハ其ノ變更ニ關スル監事ノ證明書ヲ添附スベシ

第十二條　出資一口ノ金額ヲ減少シタル場合ニ於ケル登記ニ關スル屆書ニハ產業組合法第四十條第二項ノ手續ヲ經タルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

前項ノ屆書ニハ異議ヲ述ベタル債權者アリタル場合ニ於テハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スベシ

第十三條　理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後產業組合法第三十條第一項ニ揭ゲタル書類ヲ組合ニ在リテハ地方長官ニ、聯合會ニ在リテハ内務大臣ニ遲滯ナク差出スベシ

第十四條　組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數竝出資口數ノ異動、聯合會ニ在リテハ所屬組合ト海外移住組合法第十條ニ依ル會員トヲ區別シ其ノ數竝出資口數ノ異動

二　出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額

三　損益ノ計算竝借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率

四　準備金及各種ノ積立金

五　總會又ハ總代會ノ決議

六　組合員又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ移住數

七　組合又ハ聯合會ガ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額、人員及件數、受入又ハ拂戾シタル貯金額及人員竝貯金及貸付金ノ利率

八　組合又ハ聯合會ガ取得シ又ハ借受ケタル海外移住ニ必要ナル土地、建物其ノ他ノ物件ノ種目別ノ數量及價額

九　組合又ハ聯合會ガ讓渡シ又ハ利用セシメタル土地、建物其ノ他ノ物件ノ種目別ノ數量及價額

十　組合又ハ聯合會ガ海外移住組合法第二條第二項ノ事業ヲ行フトキハ其ノ狀況

十一　組合又ハ聯合會ガ海外移住組合法第二條第三項ノ規定ニ依ル利用ヲ爲ストキハ其ノ狀況

第十五條　組合又ハ聯合會ガ借入金ヲ爲サントスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額及利率ノ最高限度ヲ議決スベシ

前項ノ規定ハ組合又ハ聯合會ガ一事業年度ニ於ケル一組合員（若ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者）又ハ一所屬組合ニ對シテ爲ス貸付額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ組合ニ在リテハ地方長官ニ、聯合會ニ在リテハ内務大臣ニ遲滯ナク報告スベシ

第十六條　理事ハ毎年度豫算ヲ調製シ年度開始ノ二月前迄ニ總會又ハ總代會ノ決議ヲ經ベシ但シ初年度ノ豫算ニ付テハ設立許可ノ後二月内ニ總會又ハ總代會ノ決議ヲ經ベシ

第十七條　理事ハ毎年度決算書ヲ調製シ次ノ通常總會又ハ通常總代會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムベシ

第十八條　豫算及決算書ハ總會又ハ總代會ノ決議又ハ承認ヲ經タル後組合ニ在リテハ地方長官ニ、聯合會ニ在リテハ内務大臣ニ遲滯ナク之ヲ報告スベシ

第十九條　定款變更ノ認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議錄ヲ添附スベシ

前項ノ規定ハ海外移住組合法第十一條第二項ノ規定ニ依ル認可申請書ニ之ヲ準用ス

第二十條　理事又ハ監事ノ變更ノ屆書ニハ其ノ變更ガ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議錄、其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スベシ

第二十一條　理事又ハ監事ノ海外移住許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ渡航ノ日ヨリ二月以前ニ之ヲ提出スベシ

一　移住地

二　移住期間

三　移住ノ理由

第二十二條　出資一口ノ金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會又ハ總代會ノ決議錄、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スベシ

第二十三條　合併ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表、合併契約書及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款並産業組合法第六十三條ノ二ノ場合ニ於テハ申請者ガ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第二十四條　産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ屆書ニハ其ノ事由ヲ記載シ解散ノ當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附スベシ

第二十五條　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スベシ

第二十六條　第二十條ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ屆書ニ之ヲ準用ス

第二十七條　清算人ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後産業組合法第七十一條ニ揭ゲタル書類ヲ組合ニ在リテハ地方長官ニ、聯合會ニ在リテハ内務大臣ニ遲滯ナク差出スベシ

第二十八條　清算結了ノ屆書ニハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スベシ

第二十九條　地方長官ガ産業組合法第六十一條ノ規定ニ依リ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ内務大臣ニ報告スベシ

附　則

本令ハ海外移住組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同業組合準則

（明治十七年十一月二十九日農商務省達第三十七號）
改正　明治三〇年省令第六號

府縣

同業者組合ヲ結ヒ規約ヲ定メ營業上ノ福利ヲ增進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不尠候處往々其目的ヲ達スルヿ能ハサル趣ニ付今般同業組合準則相定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ作リ認可ヲ請フ者アル𪜈ハ此準則ニ基ツキ可取扱此旨相達候事

但認可ノ都度當省ニ屆出ツヘシ

同業組合準則

第壹條　農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスル𪜈ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作リ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

第貳條　同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

第三條　同業組合ノ規約ニ揭クヘキ事項ハ左ノ如シ

第壹項　組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第貳項　組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項　目的及方法

第四項　役員ノ選擧法及權限

第五項　會議ニ關スル規程

第六項　加入者及退去者ニ關スル規程

第七項　費用ノ徵收及賦課法

第八項　違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條　削除

第五條　同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヿヲ得ス

第六條　同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ

第七條　規約ヲ改正スル𪜈ハ更ニ認可ヲ請フ可シ

第八條　分立又ハ合併スル𪜈ハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ請フ可シ

第九條　同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ル𪜈ハ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

但其聯合二府縣以上ニ渉ル𪜈ハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

●朝鮮産業組合令

（大正十五年一月二十五日制令第二號）

朝鮮産業組合令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮産業組合令

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ産業組合ト稱スルハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ニ揭クル事項ノ全部又ハ一部ヲ目的トシテ設立スル社團法人ヲ謂フ

一　組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト

二　産業若ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セスシテ組合員ニ賣却シ又ハ産業若ハ經濟ニ必要ナル物ヲ生産シテ組合員ニ賣却スルコト

三　組合員ヲシテ産業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト

第二條　産業組合ノ組合員ハ組合ノ區域内ニ居住スル者ニ限ル

第三條　産業組合ノ住所ハ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條　産業組合ノ名稱中ニハ産業組合ナル文字ヲ用フヘシ

産業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條　産業組合ニハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條　本令ニ規定スルモノノ外産業組合ノ業務ノ取締ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二章　設立

第七條　産業組合ヲ設立セムトスル者ハ定款ヲ作リ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　定款ニハ本令ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一　目的

二　名稱

三　區域

四　主タル事務所ノ所在地

五　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六　第一回拂込ノ金額

七　剩餘金處分ニ關スル規定

八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九　組合員タル資格ニ關スル規定

十　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

十一　組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第九條　産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十條　出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

出資一口ノ金額ノ最高限ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十一條　産業組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十二條　前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一　第八條第一號乃至第三號、第五號及第十二號ニ揭クル事項

二　主タル事務所

三　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四　設立許可ノ年月日

五　組合長、理事及監事ノ氏名住所

前項ニ揭クル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前項第三號ノ事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十三條　前條ノ登記前ニ在リテハ組合ノ設立又ハ登記事項ノ變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條　行政區劃又ハ土地ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

前項ノ變更アリタルトキハ産業組合ハ遲滯ナク之ヲ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ記載ヲ變更スヘシ

第一項ノ規定ハ組合ノ區域及事務所所在地ニ關スル定款ノ規定ニ之ヲ準用ス

第十五條　民法第四十七條及第四十八條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス但シ同法第四十八條中一週間トアルハ二週間トス

第三章　組合員ノ權利義務

第十六條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

第十七條　組合員ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

第十八條　組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條　組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

組合員ノ持分ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二十條　組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條　持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條　組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ組合長ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ組合長ハ二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　組合員總會招集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法カ本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ定款ニ違反スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ道知事ニ請求スルコトヲ得

第四章　管理

第二十四條　産業組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長

理事　一人又ハ數人

監事　二人以上

組合長、理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

組合長及理事ノ選任ハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

産業組合設立當時ノ組合長、理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十五條　組合長、理事及監事ノ選任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十六條　組合長及理事ノ任期ハ三年トス但シ定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ決算期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄其ノ任期ヲ伸長スルコトヲ得

監事ノ任期ハ二年トス但シ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　組合長ハ産業組合ヲ代表ス

組合長ハ總會ノ議長ト爲ル

組合長事故アル場合又ハ闕員ノ場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事之ヲ代理シ又ハ其ノ職務ヲ行フ

第二十八條　組合長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ業務ヲ執行ス

第二十九條　民法第四十四條第一項、第五十四條、第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス但シ同條中理事トアルハ組合長トス

第三十條　監事ハ其ノ他ノ役員又ハ組合ノ職員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十一條　民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十二條　組合長及理事闕ケタルトキハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ

組合長カ第二十二條第一項ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ

第三十三條　組合カ組合長又ハ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト組合長又ハ理事トノ間ニ於ケル訴訟ニ付亦同シ

第三十四條　第二十四條ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合ニ評議員ヲ置クコトヲ得

評議員ハ評議員會ヲ組織ス

評議員會ハ定款ニ定ムル事項ヲ決議ス

評議員會ノ招集、決議ノ方法其ノ他評議員會ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　總會ノ決議ハ本令又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十六條　組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

代理人ハ組合員又ハ同居ノ親族ナルコトヲ要ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十七條　組合長ハ定時總會ノ會日ヨリ少クトモ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ揭クル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十八條　組合長ハ前條第一項ニ揭クル書類及監事ノ意見書ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

組合長ハ前項ノ承認ヲ得タルトキハ二週間内ニ其ノ書類ヲ道知事ニ提出シ且貸借對照表ヲ公告スヘシ

第三十九條　産業組合カ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第四十條　民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ產業組合ニ之ヲ準用ス

第四十一條　定款ノ變更ハ總會ノ決議ヲ經朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ決議ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　產業組合ハ定款ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　各組合員ノ氏名及住所
二　各組合員ノ出資口數
三　出資各口ニ付拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
四　出資各口ノ取得ノ年月日

組合員及組合ノ債權者ハ第一項ニ揭クル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條　產業組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ財產目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

產業組合ハ前項ノ期間內ニ其ノ債權者ニ對シ異議アルトキハ一定ノ期間內ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十四條　債權者カ前條第二項ノ期間內ニ出資ノ減少ニ對シ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十五條　組合員カ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ

前項ノ配當スヘキ剩餘金ノ計算ニ付テハ計算上不便ナル拂込金ノ端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第四十六條　產業組合ハ損失ヲ塡補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

剩餘金配當ニ關スル制限ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十七條　產業組合ハ定款ヲ以テ定ムル準備金ノ額ニ達スル迄每事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十八條　產業組合ハ組合員ノ持分ヲ取得スルコトヲ得ス

第五章　加入及脫退

第四十九條　新ニ組合員ト爲リタル者ハ持分ノ讓受ニ依ル場合ヲ除クノ外定款ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク第一回ノ出資拂込ヲ爲スヘシ

第五十條　組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得但シ三月前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條　組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス

一　組合員タル資格ノ喪失
二　死亡
三　破產
四　禁治產
五　除名

第五十二條　除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ評議員會ノ決議ヲ以テ總會ノ決議ニ代フルコトヲ得

除名ハ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十三條　脫退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ拂戻ノ請求權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第五十四條　脫退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脫退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財產ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脫退當時ノ財產ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條　持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財產ヲ以テ組合ノ債務ヲ完濟スルニ足ラサルトキハ脫退シタル組合員ハ出資額ヲ限度トシテ其ノ負擔ニ歸スヘキ金額ヲ拂込ムヘシ

第五十六條　脫退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完濟スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第六章　監督

第五十七條　產業組合ハ朝鮮總督及道知事之ヲ監督ス

第五十八條　監督官廳ハ何時ニテモ產業組合ヲシテ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ之ヲ檢査スルコトヲ得

監督官廳ハ產業組合ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ組合ニ對シ財產ノ供託ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

道知事必要アリト認ムルトキハ府尹、郡守又ハ島司ヲシテ第一項ニ規定スル監督權ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十九條　組合長及理事ノ闕ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ道知事ハ假ニ組合長又ハ理事ヲ選任スルコトヲ得

第六十條　產業組合カ本令、本令ニ基キテ發スル命令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、定款ニ違反シタルトキ、公益ヲ害スルノ虞アルトキ又ハ組合ノ事業ノ繼續困難ナルトキハ監督官廳ハ總會ノ決議ヲ取消シ、組合長、理事若ハ監事ノ改選ヲ命シ又ハ組合ノ事業ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ朝鮮總督ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第七章　解散

第六十一條　產業組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款ニ定ムル存立時期ノ滿了又ハ事由ノ發生
二　總會ノ決議
三　合併
四　組合員ノ缺亡
五　破產
六　前條第二項ノ命令

第六十二條　解散及合併ノ決議ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス

前項ノ決議ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第六十三條　產業組合カ解散シタルトキハ合併及破產ノ場合ヲ除クノ外二週間內ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十四條　合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十二條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準用ス

第六十五條　第四十三條及第四十四條ノ規定ハ產業組合ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條　產業組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間內ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ在リテハ變更ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ在リテハ解散ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ設立シタル組合ニ在リテハ第十二條第一項ノ登記ヲ爲スヘシ

第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條　產業組合カ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ組合長若ハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ組合長ハ遲滯ナク破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條　解散シタル產業組合債務ヲ完濟シ殘餘ノ財產アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處分ス

第八章　清算

第七十條　清算人ハ就職後遲滯ナク組合財產ノ狀況ヲ調査シ財產目錄及貸借對照表ヲ作リ總會ヲ招集シ之ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十一條　清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合ノ財產ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十二條　清算事務終リタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ總會ヲ招集シ之ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十三條　清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ道知事ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十四條　監督官廳ハ清算事務及財產ノ狀況ヲ檢査シ、財產ノ供託ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ道知事ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十五條　清算人ハ就職後二週間內ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名及住所ノ登記ヲ爲スヘシ

前項ノ登記事項ニ變更アリタルトキハ清算人ハ二週間內ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十三條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十六條　清算結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ清算ノ顚末ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第七十七條　民法第七十三條、第七十四條、第七十八條乃至第八十一條及非訟事件手續法第百三十八條ノ規定ハ產業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス但シ民法第七十四條中理事トアルハ組合長トス

第九章　登記

第七十八條　產業組合ノ登記ニ付テハ主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳若ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第七十九條　登記所ニ產業組合登記簿ヲ備フ

第八十條　第十二條第一項ノ登記申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第八十一條　登記事項變更ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八十二條　出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ其ノ事實ヲ證スル書面ノ外第四十三條第二項ノ規定ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八十三條　產業組合解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十四條　產業組合朝鮮總督ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ其ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第八十五條　產業組合ニ關シ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ

第八十六條　非訟事件手續法第百四十一條乃至第百四十三條、第百四十七條乃至第百四十九條、第百五十條ノ二、第百五十一條乃至第百五十一條ノ四、第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十七條及第百七十五條乃至第百七十八條ノ規定ハ產業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十章　產業組合聯合會

第八十七條　產業組合ハ左ニ揭クル事項ノ全部又ハ一部ヲ目的トシテ道ノ區域ニ依リ產業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

一　所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト
二　所屬組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セスシテ所屬組合ニ賣却シ又ハ所屬組合ノ購買スル物ヲ生產シテ所屬組合ニ賣却スルコト
三　所屬組合ヲシテ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト

產業組合聯合會ハ所屬組合ニ對シ業務上ノ指導ヲ爲シ並所屬組合相互ノ聯絡及事業上ノ斡旋ヲ爲スコトヲ得

第八十八條　產業組合聯合會ハ社團法人トス

第八十九條　產業組合聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

理事長
理事　一人又ハ數人
監事　二人以上

理事長及理事ハ所屬產業組合ノ組合長及理事ノ中ヨリ、監事ハ所屬產業組合ノ監事ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス

理事長及理事ノ選任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

產業組合聯合會設立當時ノ理事長、理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九十條　理事長ハ產業組合聯合會ヲ代表シ其ノ業務ヲ執行ス

理事長ハ總會ノ議長ト爲ル

理事ハ理事長ヲ補佐シ理事長事故アル場合又ハ闕員ノ場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務ヲ代理シ又ハ其ノ職務ヲ行フ

第九十一條　產業組合カ產業組合聯合會ニ加入シ又ハ脫退セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第六十二條第一項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第九十二條　產業組合聯合會ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ道知事ヲシテ其ノ監督權ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得但シ第五十八條第二項及第六十條ノ規定ニ依ル監督權ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條　第三條乃至第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十九條乃至第三十三條、第三十五條乃至第四十二條、第四十五條乃至第五十一條、第五十三條乃至第五十六條、第五十八條第一項、第二項、第五十九條乃至第八十一條及第八十三條乃至第八十六條ノ規定ハ產業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第二十三條、第三十八條、第七十三條及第七十四條中道知事トアルハ朝鮮總督、第十二條、第二十二條、第二十五條、第二十六條、第二十九條、第三十二條、第三十三條、第三十七條、第三十八條、第五十九條、第六十條、第六十八條及第七十七條中組合長トアルハ理事長トス

第十一章　罰則

第九十四條　第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條　左ノ場合ニ於テハ產業組合ノ組合長、理事、監事若ハ清算人又ハ產業組合聯合會ノ理事長、理事、監事若ハ清算人ハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
二　登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
三　官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
四　第十一條、第三十八條、第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條第一項、第四十七條、[illegible]又ハ[illegible]ノ規定ニ違反シタルトキ
五　本令[illegible]定款ニ[illegible]
六　第三[illegible]ヲ閲覽セシメサルトキ
七　第五[illegible]
八　[illegible]
九　清算ノ場合ニ於テ[illegible]債權申立期間滿了前ニ債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シタルトキ
十　監督官廳ノ檢査ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキ

十一　監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

第九十六條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（大正十五年朝鮮總督府令第五號ヲ以テ同年三月一日ヨリ施行）

●朝鮮産業組合令施行規則

（大正十五年一月二十五日朝鮮總督府令第四號）

朝鮮産業組合令施行規則左ノ通定ム

朝鮮産業組合令施行規則

第一條　産業組合（以下組合ト稱ス）カ其ノ業務ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク道知事ニ届出ツヘシ

組合設立ニ關スル費用ハ組合成立ノ後組合費ヲ以テ支辨スヘシ

第二條　組合カ主タル事務所以外ノ事務所ヲ設置セムトスルトキハ其ノ名稱、位置及業務ノ種類ヲ定メ道知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更シ又ハ事務所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ設置シタル事務所ニ於テ業務ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク道知事ニ届出ツヘシ

第三條　組合ノ出資一口ノ金額ハ五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　組合ノ第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　組合ノ準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第六條　組合ノ剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スル外之ヲ爲スコトヲ得ス

持分ノ全部又ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年七分ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ道知事ノ認可ヲ受ケ年一割迄之ヲ增加スルコトヲ得

第七條　組合カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收シ又ハ新ニ出資口數ヲ增加スル者ヨリ附口金ヲ徴收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ヘシ脱退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第八條　組合ノ業務上ノ餘裕金ハ一時國債證券若ハ地方債證券ヲ買入レ、郵便貯金ト爲シ又ハ朝鮮總督ノ指定スル銀行若ハ金融組合若ハ金融組合聯合會ニ預入ヲ爲スノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第九條　組合ノ事業年度ハ暦年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　組合ノ役員ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　組合借入金ヲ爲サムトスルトキハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ借入金額、利率、期限、償還方法及借入先ヲ記載スヘシ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ組合ハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　業務、給與、服務及懲戒ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ
二　毎事業年度ノ業務上ノ計畫及經費豫算ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ
三　準備金其ノ他ノ積立金ヲ使用セムトスルトキ
四　業務用ノ土地若ハ建物ヲ取得シ又ハ業務用建物ヲ新築、改築若ハ移築セムトスルトキ
五　國債證券又ハ地方債證券ヲ買入レ又ハ之ヲ賣却セムトスルトキ
六　財産目錄ニ掲クル財産ノ價額ヲ增加セムトスルトキ

第十三條　役員ニ異動アリタルトキハ朝鮮産業組合令第二十四條第三項ノ場合ヲ除クノ外其ノ登記前ニ遲滯ナク其ノ事由、氏名及住所ヲ道知事ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ總會ノ決議ニ依ラサル場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十四條　組合總會ヲ開カムトスルトキハ少クトモ十日前ニ會議ノ目的タル事項、開會ノ日時及場所ヲ道知事ニ届出ツヘシ

第十五條　組合ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月五日迄ニ道知事ニ之ヲ提出スヘシ

第十六條　組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合員ノ職業別ノ數及出資口數ノ異動
二　出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額
三　借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率
四　損益ノ計算
五　準備金其ノ他ノ積立金
六　總會ノ決議及評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ評議員會ノ決議
七　事業ノ狀況

第十七條　組合ノ公告ハ所轄道廳ノ發行スル道報及組合事務所ニ於ケル掲示場ニ之ヲ爲スヘシ

第十八條　組合ノ出資一口ノ金額ノ減少ノ認可申請書及總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十九條　道知事朝鮮産業組合令第五十八條第二項、第五十九條又ハ第六十條第一項ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ報告スヘシ

第二十條　組合カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第二十一條　朝鮮産業組合令第六十一條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ解散當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ道知事ニ届出ツヘシ

第二十二條　合併ノ認可申請書ニハ合併契約書、財産目錄、貸借對照表及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款並朝鮮産業組合令第六十四條第一項ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條　組合ノ清算人ハ朝鮮産業組合令第七十條ノ規定ニ依リ總會ノ承認ヲ得タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

第二十四條　組合ノ清算人ハ毎月清算事務報告書及貸借對照表ヲ調製シ翌月十日迄ニ朝鮮總督ニ差出スヘシ

第二十五條　産業組合聯合會（以下聯合會ト稱ス）ノ出資一口ノ金額ハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十六條　組合ノ加入ヲ承諾シタルトキハ聯合會ハ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第二十七條　左ノ場合ニ於テハ聯合會ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　業務、給與、服務及懲戒ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ
二　毎事業年度ノ業務上ノ計畫及經費豫算ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ
三　準備金其ノ他ノ積立金ヲ使用セムトスルトキ
四　國債證券又ハ地方債證券ヲ買入レ又ハ之ヲ賣却セムトスルトキ

第二十八條　左ノ場合ニ於テハ聯合會ハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　業務用ノ土地若ハ建物ヲ取得シ又ハ業務用建物ヲ新築、改築若ハ移築セムトスルトキ
二　財産目錄ニ掲クル財産ノ價額ヲ增加セムトスルトキ

第二十九條　聯合會ハ毎年一回以上所屬組合ニ就キ業務ノ調査ヲ爲スヘシ

前項ノ調査ヲ爲シタルトキハ其ノ調査ノ要領ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第三十條　所屬組合カ法令又ハ定款ニ違反シ其ノ他道知事又ハ朝鮮總督ノ處分ヲ必要トスル場合ニ於テハ聯合會ハ其ノ事由ヲ道知事又ハ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第三十一條　本令又ハ朝鮮産業組合令ニ依リ朝鮮總督又ハ道知事ニ提出スル書類ニシテ總會ノ決議ヲ經ヘキ事項ニ係ルモノハ其ノ決議錄ヲ添附スヘシ

定款ノ定ムル所ニ依リ評議員會ノ決議ヲ經ヘキ事項ニ係ルモノニ付亦同シ

第三十二條　第一條、第四條乃至第十一條、第十三條乃至第十八條及第二十條乃至第二十四條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第一條、第六條、第十一條、第十三條乃至第十五條及第二十一條中道知事トアルハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ朝鮮産業組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮重要物産同業組合令

（大正四年七月十三日制令第三號）

朝鮮重要物産同業組合令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮重要物産同業組合令

第一條　重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル業ヲ營ム者ハ其ノ生産、製造又ハ販賣上ノ弊害ヲ矯正シ共同ノ利益ヲ增進スル爲同種ノ業ヲ營ム者又ハ之ニ密接ノ關係ヲ有スル業ヲ營ム者相集リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル業ノ種類ハ朝鮮總督ノ認定ニ依ル

第二條　同業組合ハ法人トス

同業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　同業組合ヲ設置セムトスルトキハ組合員タルヘキ者五人以上發起人ト爲リ定款ヲ作リ地區及業ノ種類ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ其ノ業ヲ營ム者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ業ノ種類ヲ異ニスル者同業組合ヲ設置セムトスルトキハ業種每ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第四條　同業組合ハ設置ノ認可ヲ受ケタルトキ成立ス

第五條　同業組合ノ地區内ニ於ケル同業者ハ其ノ組合員トス但シ特別ノ事由ニ因リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　同業組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長	一人
組合副長	一人又ハ數人
評議員	數人

役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選任スヘシ但シ組合長又ハ組合副長ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

役員ノ選任及解任ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

役員ノ選任又ハ解任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

同業組合ハ役員ノ選任ヲ朝鮮總督ニ申請スルコトヲ得

同業組合設置ノ認可後役員ノ就職前ニ於ケル同業組合ノ必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ

第七條　組合長ハ同業組合ヲ代表シ同業組合一切ノ事務ヲ擔任ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アル場合ニ於ケル代理順序ハ定款ノ定ムル所ニ依ル

評議員ハ組合長ノ諮問ニ應シ又ハ業務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

組合副長又ハ評議員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ組合長及組合副長事故アルトキ定款ノ定ムル順序ニ依リ組合長ノ職務ヲ代理ス

第八條　同業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ生産、製造又ハ販賣ニ係ル物品ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督必要ト認ムルトキハ同業組合ニ對シ前項ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

同業組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ物品檢査ノ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第九條　同業組合ハ前條ノ檢査ニ從事セシムル爲特ニ檢査員ヲ置クコトヲ得

第六條第四項及第五項ノ規定ハ檢査員ニ之ヲ準用ス

第十條　同業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ請求ニ因リ物品ノ加工ヲ爲シ又ハ物品ノ販賣若ハ原料品ノ購入ヲ媒介スルコトヲ得

第十一條　同業組合ハ其ノ組合員、役員又ハ檢査員ニシテ定款ニ違反スル行爲アリタル者ニ對シ定款ノ定ムル所ニ依リ過怠金ヲ課シ其ノ所有ニ屬スル違反物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十二條　同業組合ノ經費ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第十三條　同業組合ノ經費ノ收支豫算及其ノ徴收方法ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　組合費、手數料又ハ過怠金ノ徴收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十五條　同業組合定款ノ變更ヲ爲シ又ハ解散、合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ分割ノ場合ニ於テハ分割後ノ各組合ノ組合員タルヘキ者ニ付其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

同業組合地區ノ擴張又ハ業ノ種類ノ增加ヲ爲サムトスルトキハ定款變更ノ手續ニ依ルノ外新ニ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十六條　同業組合合併シタルトキハ合併ニ因リテ解散シタル同業組合ノ權利義務ハ合併後存續スル同業組合又ハ合併ニ因リ設置シタル同業組合之ヲ承繼ス

第十七條　同業組合分割シタルトキハ其ノ定ムル所ニ從ヒ分割ニ因リテ設置シタル同業組合其ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

第十八條　同業組合解散シタルトキハ合併又ハ分割ノ場合ヲ除クノ外清算ヲ爲スヘシ

民法第七十二條、第七十三條、第七十八條乃至第八十條及第八十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　朝鮮總督ハ同業組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ、定款又ハ豫算ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條　朝鮮總督公益上必要ト認ムルトキハ同業組合ノ合併又ハ分割ヲ命スルコトヲ得

同業組合又ハ其ノ役員若ハ檢査員法令若ハ定款ニ違反シ、本令ニ基キテ爲ス命令若ハ處分ニ從ハス又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ役員若ハ檢査員ヲ解任シ又ハ組合ノ業務ヲ停止シ若ハ解散ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　同業組合ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

第二十二條　同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ之ヲ組織スヘキ同業組合共同シテ定款ヲ作リ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條　朝鮮總督必要ト認ムルトキハ同業組合ニ對シ同業組合聯合會ヲ設置シ又ハ同業組合聯合會ニ加入スルコトヲ命スルコトヲ得

第二十四條　同業組合聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一人
副會長	一人又ハ數人
評議員	數人

第二十五條　同業組合ニ關スル規定ハ第一條、第三條、第五條、第六條第一項及第十五條第二項ノ規定ヲ除クノ外之ヲ同業組合聯合會ニ準用ス但シ第六條第二項及第八條第一項中組合員トアルハ同業組合聯合會ヲ組織スル組合ノ組合員、第十條及第十一條中組合員トアルハ同業組合聯合會ヲ組織スル組合又ハ其ノ組合員トス

第二十六條　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ檢査證ヲ不正ニ使用シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員若ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又

ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十八條　前條第一項ニ揭クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十九條　朝鮮總督ハ本令ニ規定スル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ存スル重要物產ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ニシテ官廳ノ認可ヲ受ケ設置シタルモノハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ第三條又ハ第二十二條ノ規定ニ準シ定款ヲ作リ其ノ認可ヲ朝鮮總督ニ申請スルコトヲ得

前項ノ認可アリタルトキハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ハ本令ニ依リ設置シタルモノト看做ス

●朝鮮重要物產同業組合令施行規則

（大正四年朝鮮總督府令第八十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

大正四年八月十二日
朝鮮總督府令第八十一號
改正　大正一四年第六四號

朝鮮重要物產同業組合令施行規則左ノ通定ム

朝鮮重要物產同業組合令施行規則

第一條　重要物產同業組合設置ノ認可申請書ニハ定款ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　設置理由書

二　組合員タルヘキ者ノ數ヲ記載シタル書面但シ業ノ種類二以上ヲ包含スル場合ニ於テハ業種每ニ其ノ數ヲ記載スヘシ

三　創立費豫算、一年度經費ノ豫定額及其ノ徵收ノ豫定方法ヲ記載シタル書面

四　法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面

第二條　同業組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的及事業

二　名稱及事務所ノ所在地

三　地區及業ノ種類

四　組合員ノ權利義務ニ關スル規定

五　役員ノ定數、權限、任期、選任及解任ニ關スル規定

六　會計ニ關スル規定

七　定款違反者ノ處分ニ關スル規定

八　決議ノ方法ニ關スル規定

九　朝鮮重要物產同業組合令第八條又ハ第十條ニ規定スル事業ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル規定

第三條　朝鮮重要物產同業組合令ニ依リ設置スル同業組合ノ名稱ニハ同業組合ナル文字ヲ用ウヘシ

第四條　同業組合設置ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク組合員ノ集會ヲ開キ其ノ執行シタル事務ヲ報告シ且創立費ノ承認ヲ求ムヘシ

前項ノ集會ニ於テハ役員ノ選任ヲ行ヒ經費ノ豫算及其ノ徵收方法ノ決議ヲ爲スヘシ

發起人第一項ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第五條　役員又ハ檢查員選任ノ認可申請書ニハ重任ノ場合ヲ除クノ外履歷書、其ノ解任ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添附スヘシ

役員又ハ檢查員ノ退任アリタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及氏名ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第六條　經費ノ收支豫算及其ノ徵收方法ノ認可申請書ハ同業組合ノ會計年度開始一月前ニ之ヲ差出スヘシ但シ設置ノ年度ニ於テハ第四條第二項ノ決議後七日內ニ差出スヘシ

經費ノ收支決算ハ會計年度經過後三月內ニ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

同業組合ノ事業成績ハ前項ノ期間內ニ地方長官ヲ經テ之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第七條　定款變更又ハ解散ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　理由書

二　法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面

第八條　合併又ハ分割ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　理由書

二　財產目錄及貸借對照表

三　合併若ハ分割ニ因リテ設置スル同業組合又ハ合併若ハ分割後存續スル同業組合ノ定款、一年度經費ノ豫定額、其ノ徵收ノ豫定方法及組合員ノ數ヲ記載シタル書面但シ業ノ種類二以上ヲ包含スル場合ニ於テハ業種每ニ其ノ數ヲ記載スヘシ

四　法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面

五　分割ノ場合ニ於テハ權利義務ノ分割ノ方法ヲ記載シタル書面

第九條　第四條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因ル組合設置ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　同業組合解散シタルトキハ組合長及組合副長ヲ以テ其ノ淸算人トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依ル淸算人ハ其ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第一項ノ規定ニ依リ淸算人タル者ナキトキハ地方長官之ヲ選任ス

第十一條　淸算人ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ行爲ヲ停止シ又ハ淸算人ヲ解任スルコトヲ得

第十二條　淸算結了シタルトキハ淸算人ハ遲滯ナク其ノ結果ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第十三條　左ノ事項ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

一　同業組合ノ設置

二　同業組合ノ地區又ハ業ノ種類ノ變更

三　同業組合ノ解散、合併又ハ分割

第十四條　同業組合聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　第二條第一號第二號及第五號乃至第九號ニ揭ケタル事項

二　聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱及其ノ權利義務ニ關スル規定

三　加入脫退ニ關スル規定

第十五條　同業組合聯合會設置ノ認可申請書ニハ定款ノ外創立費豫算、一年度經費ノ豫定額及其ノ徵收ノ豫定方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十六條　左ノ事項ハ地方長官之ヲ處理スヘシ但シ第三號ノ報告及檢查ニ關スル事項ハ事宜ニ依リ朝鮮總督之ヲ行フ

一　役員又ハ檢查員ノ選任又ハ解任ニ關スル事項

二　經費ノ收支豫算及其ノ徵收方法ノ認可ニ關スル事項

三　朝鮮重要物產同業組合令第十九條第一項ノ規定ニ依ル業務ニ關スル報告及業務又ハ財產狀況ノ檢查ニ關スル事項但シ本令第六條第三項ノ規定ニ依ル事業成績報告ヲ除ク

第十七條　同業組合ノ地區カ二道以上ニ亙ル場合ニ於テハ本令ニ規定スル地方長官ノ職權ハ朝鮮總督之ヲ行フ

第十八條　第三條乃至第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ハ之ヲ同業組合聯合會ニ準用ス

第十九條　朝鮮重要物產同業組合令ニ依ル同業組合又ハ同業組合聯合會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ同業組合又ハ同業組合聯合會ナル文字ヲ用ヰタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ朝鮮重要物產同業組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮重要物產同業組合令附則第二項ノ規定ニ依ル同業組合又ハ同業組合聯合會設置ノ認可申請書ニハ定款ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　同業組合ニ付テハ現ニ組合員タル者ノ數及新ニ組合員タルヘキ者ノ數ヲ記載シタル書面但シ業ノ種類二以上ヲ包含スルモノニ在リテハ業種每ニ其ノ數ヲ記載スヘシ

二　一年度經費ノ豫定額及其ノ徵收ノ豫定方法ヲ記載シタル書面

三　同業組合又ハ同業組合聯合會設置ニ關シ官廳ノ認可アリタルコトヲ證スル書面

四　財產目錄及貸借對照表

五　同業組合ニ付テハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面

●水產組合規則

明治四十五年二月二十三日
朝鮮總督府令第十三號

水產組合規則左ノ通定ム

水產組合規則

第一條　本令ニ於テ組合ト稱スルハ漁業令第十八條ノ規定ニ依リ設立スル水產組合ヲ謂フ

第二條　組合ノ名稱中ニハ水產組合ナル文字ヲ用ウヘシ

組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ水產組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第三條　組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　組合設立ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ發起人ハ組合區域ヲ定メ其ノ區域內ノ組合員タルヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ定メタル定款、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及賦課徵收方法ヲ具シ願出ツヘシ但シ二種以上ノ營業者ヲ以テ組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ各種營業每ニ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條　定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的及業務

二　名稱

三　組合ノ區域及組合員ノ資格

四　事務所ノ所在地

五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

六　役員ニ關スル規定

七　會議ニ關スル規定

八　會計及財產ニ關スル規定

九　業務ノ執行ニ關スル規定

十　違約者ノ處分ニ關スル規定

十一　存續期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

十二　淸算ニ關スル規定

第六條　組合ハ設立ノ許可アリタルトキ成立ス

組合成立シタルトキハ其ノ區域內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ定款ニ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　組合ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

組合長

理事

監事

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ組合員總會ニ於テ之ヲ選任スヘシ但シ設立ノ際ニ限リ發起人ニ於テ之ヲ選任スルコトヲ得

監事ハ他ノ役員又ハ事務員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第八條　組合長ハ組合ノ業務ヲ執行シ組合ヲ代表ス

理事ハ組合長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理シ組合長故障アルトキハ之ヲ代理ス

監事ハ組合ノ財產及業務執行ノ狀況ヲ監査ス

組合長、理事共ニ故障アルトキハ監事之ヲ代理ス

組合長ハ定款ノ規定ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ他ノ役員ニ委任スルコトヲ得

第九條　役員ノ選任及解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ役員ノ改選又ハ解任ヲ命スルコトヲ得

役員ノ死亡又ハ任期滿了ニ因ル退任ハ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十條　役員ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ假ニ役員ヲ選任シ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十一條　左ノ事項ハ組合員總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ初年度ニ於ケル第一號及第二號ノ事項ハ此ノ限ニ在ラス

一　經費ノ收支豫算

二　經費ノ賦課徵收方法

三　起債及償還ノ方法

四　定款ノ變更

五　組合ノ解散

前項第三號乃至第五號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ總組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項第一號及第二號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ地方長官、第三號乃至第五號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十二條　組合員總會ハ組合長之ヲ招集ス

總組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及事由ヲ示シテ組合員總會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合長ハ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三週間內ニ之ヲ招集スヘシ

監事ハ組合財產又ハ業務執行ノ狀況ニ付報告ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ組合員總會ヲ招集スルコトヲ得

第十三條　總會ヲ招集スルニハ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ定款ノ定ムル所ニ依リ各組合員ニ通知シ又ハ之ヲ公告スヘシ

第十四條　組合長ハ每年經費ノ收支決算書、財產目錄及業務報告書ヲ調製シ監事ノ審査ヲ受ケ之ヲ組合員總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

前項ノ承認ヲ得タルトキハ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十五條　組合員ハ其ノ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス

組合員總會ノ決議ハ本令又ハ定款ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

組合員ハ他ノ組合員ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス

前項ノ受任者ハ委任狀ヲ組合ニ差出スヘシ

第十六條　組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員總會ニ代ルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得

總代會ヲ組織スル總代ノ員數、選任、任期及解任ニ關スル規定ハ之ヲ定款中ニ設クヘシ

第九條ノ規定ハ之ヲ總代ニ、組合員總會ニ關スル規定ハ前條第三項及第四項ノ規定ヲ除クノ外之ヲ總代會ニ準用ス

第十七條　組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　存續期間ノ滿了

二　定款ニ定メタル事由

三　組合員總會ノ決議

四　解散ノ命令

前項第一號又ハ第二號ニ揭ケタル事由ニ因リ解散シタルトキハ其ノ旨直ニ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第十八條　組合ハ解散ノ後ト雖淸算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第十九條　組合カ解散シタルトキハ組合長其ノ淸算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ規定アルトキ又ハ組合員總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

淸算人ノ選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ淸算人ノ改選若ハ解任ヲ命シ又ハ之ヲ選任スルコトヲ得

第二十條　淸算人ハ現務ノ結了、債權ノ取立、債務ノ辨濟及殘餘財產ノ處分其ノ他淸算ニ關シ必要ナル行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十一條　淸算人ハ就職後遲滯ナク組合財產ノ現況ヲ調査シ財產目錄及貸借對照表ヲ作リ殘餘財產ノ處分方法ヲ定メ組合員總會ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十二條　淸算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ殘餘財產ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　淸算カ結了シタルトキハ淸算人ハ遲滯ナク淸算報告書ヲ作リ組合員總會ノ承認ヲ經タル後之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十四條　地方長官ハ何時ニテモ組合ノ業務及財產ニ關シ報告書ヲ徵シ又ハ其ノ狀況ヲ檢查シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ組合ニ對シ定款ノ變更又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第二十六條　組合ハ相互ノ利益ヲ圖ル爲朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ聯合會ヲ設クルコトヲ得

前項ニ依リ聯合會ヲ設ケムトスルトキハ必要ナル事項ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ各組合ノ

連署ヲ以テ願出ツヘシ

第二十七條　組合ノ區域カ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ跨カルトキハ本令中地方長官ニ屬セシメタル職權ハ朝鮮總督又ハ朝鮮總督ノ指定シタル地方長官之ヲ行フ

第二十八條　第二條第二項又ハ第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

組合ノ證票若ハ檢查證ヲ營業品ニ僞リテ附シタル者亦前項ニ同シ

第二十九條　組合ノ行爲ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ役員又ハ清算人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　官廳ニ對シ不實ノ申告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
二　官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ檢查ヲ拒ミ其ノ他官廳ノ命令ニ從ハサルトキ
三　本令ニ依ル屆出ヲ怠リタルトキ
四　本令ニ依ル組合員總會ノ招集ヲ怠リタルトキ
五　文書帳簿ニ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ故意ニ必要ノ事項ヲ記載セサルトキ
六　監事ノ調查ヲ妨ケタルトキ
七　本令ニ違反シテ殘餘財產ヲ處分シタルトキ

附　則

本令ハ漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

漁業令第三十五條ニ規定スル水產組合ハ本令ノ規定ニ依リ定款ヲ變更シ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ朝鮮總督ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

●漁業組合規則

（明治四十五年二月二十三日朝鮮總督府令第十四號）

漁業組合規則左ノ通定ム

漁業組合規則

第一條　本令ニ於テ組合ト稱スルハ漁業令第十六條ノ規定ニ依リ設立スル漁業組合ヲ謂フ

第二條　組合ノ地區ハ面ノ區域又ハ面內ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定メ重複スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　組合ノ名稱中ニハ漁業組合ナル文字ヲ用ウヘシ

組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第四條　組合設立ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ發起人ハ組合ノ地區タルヘキ區域內ニ居住スル漁業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ定メタル規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及賦課徵收方法ヲ具シ願出ツヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ區域內ノ漁業者ノ一部ヲ以テ組合ヲ設立セムトスルトキハ其ノ組合員タルヘキ漁業者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テスヘシ

組合員タルヘキ漁業者ハ他ノ漁業者ニ委任シテ前項ノ同意ヲ表スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受任者ハ委任狀ヲ發起人ニ差出スヘシ

第五條　規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的
二　名稱
三　地區及前條但書ノ規定ニ依リ設立スル場合ニ在リテハ組合員ノ資格
四　事務所ノ所在地
五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
六　役員ニ關スル規定
七　會議ニ關スル規定
八　會計及財產ニ關スル規定
九　組合ノ取得シ又ハ貸付ヲ受ケタル漁業權ノ行使及組合員ニ非サル者ノ入漁ニ關スル規定
十　共同施設事業ノ執行ニ關スル規定
十一　違約者ノ處分ニ關スル規定
十二　存續期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由
十三　清算ニ關スル規定

第六條　組合ハ設立ノ許可アリタルトキ成立ス

組合成立シタルトキハ其ノ地區內ニ居住スル漁業者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ第四條但書ノ規定ニ依リ組合ヲ設立シタル場合ニ於テ其ノ組合員タルヘキ漁業者亦同シ

第七條　組合ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

組合長
監事

前項ノ役員ノ外規約ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ組合員總會ニ於テ之ヲ選任スヘシ但シ設立ノ際ニ限リ發起人ニ於テ之ヲ選任スルコトヲ得

監事ハ他ノ役員又ハ事務員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第八條　組合長ハ組合ノ業務ヲ執行シ組合ヲ代表ス

監事ハ組合ノ財產及業務執行ノ狀況ヲ監查ス

組合長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員之ヲ代理ス

第九條　左ノ事項ハ組合員總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ初年度ニ於ケル第一號及第二號ノ事項ハ此ノ限ニ在ラス

一　經費ノ收支豫算
二　經費ノ賦課徵收方法
三　漁業權ノ得喪、變更又ハ借受
四　基金ノ支出又ハ其ノ利用方法
五　起債及償還ノ方法
六　組合員ノ除名
七　組合員ニ非サル者ニ對スル漁業權ノ貸付
八　規約ノ變更
九　組合ノ解散

前項第三號、第五號及第七號乃至第九號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ總組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項第一號、第二號、第四號及第六號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ地方長官、第五號、第八號及第九號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十條　組合長ハ每年經費ノ收支決算書、剩餘金ノ處分書、財產目錄及事業報告書ヲ調製シ監事ノ審查ヲ受ケ之ヲ組合員總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

前項ノ承認ヲ得タルトキハ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十一條　組合ハ每事業年度ノ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ基金トシテ積立ツヘシ

基金ハ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合又ハ著シク組合員共同ノ利益ヲ增進スル爲必要ナル場合ヲ除クノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス

第十二條　組合ニ關シテハ水產組合規則第九條、第十條、第十二條、第十三條、第十五條乃至第二十六條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第十三條　第三條第二項又ハ第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條　組合ノ行爲ニシテ本令ニ依ル基金ノ積立ヲ爲サス又ハ之ヲ不當ニ支出シタルトキハ其ノ役員又ハ清算人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一定ノ地區內ニ居住スル漁業者ニシテ漁業令第十七條第一項ニ規定スル目的ヲ以テ本令施行前主務官廳ノ許可ヲ受ケ組合ヲ設立シタルモノハ本令施行後六月內ニ本令ノ規定ニ依リ組合設立ノ許可ヲ願出ツヘシ

前項ニ規定スル本令施行前ノ設立ニ係ル組合ハ前項出願ノ許否處分ヲ受クル迄ノ間仍從前ノ例ニ依ル

●漁業組合補助規則

（大正十一年四月二十七日朝鮮總督府令第七十四號）　改正　大正一四年第四八號、第七四號

漁業組合補助規則左ノ通定ム

漁業組合補助規則

第一條　漁業組合ニシテ組合員ノ漁獲物ノ共同販賣其ノ他著シク組合員ノ利益ヲ增進スヘキ共同施設ヲ爲スモノニ對シテハ本令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ノ交付ヲ受クヘキ漁業組合ハ左ノ各號ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一　組合員數百人以上タルコト
二　總組合員一年ノ漁獲高二萬圓ニ達シ又ハ達スル見込アルコト

第三條　組合員ノ漁獲物ノ共同販賣ヲ行フ漁業組合ニ對シテハ理事者一人ノ給料豫算年額ノ半額以內ノ補助金ヲ交付ス但シ其ノ年度ノ共同販賣價額カ組合員ノ總漁獲物ノ價額ノ二分ノ一以上ニ達スル見込アルモノニ限ル

前項ノ補助金ハ一組合ニ付五百四十圓ヲ限度トス

第一項ノ補助金交付期間ハ一組合ニ付三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　前條ニ規定スルモノノ外著シク組合員ノ利益ヲ增進スヘキ共同施設ヲ爲ス漁業組合ニ對シテハ其ノ施設費豫算年額ノ半額以內ノ補助金ヲ交付ス

前項ノ補助金ハ一組合ニ付二千圓ヲ限度トス

第五條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ道知事ヲ經テ每年四月末日迄ニ朝鮮總督ニ申請スヘシ

一　組合員數
二　組合員ノ漁業狀態（漁業資金ノ關係、最近三年間ニ於ケル組合員ノ漁業別及魚種別漁獲物數量價格竝本年度同見込額ヲ附記スヘシ）
三　事業計畫（共同販賣ニ在リテハ其ノ方法、見込販賣價額及漁獲物ノ全部ヲ共同販賣ニ付スルコト能ハサルトキハ其ノ理由、工事ニ在リテハ設計ノ概要ヲモ附記ス）
四　第三條ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ認可ヲ受ケタル經費豫算書、第四條ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ施設費豫算年額及其ノ支辨方法竝之ニ關スル組合員總會又ハ總代會ノ決議錄寫

第六條　第四條ノ規定ニ依リ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル漁業組合共同施設事業ニ著手シタルトキハ其ノ期日及完了豫定期日ヲ具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

前項ノ共同施設事業完了シタルトキハ其ノ施設費決算書及事業ノ經過ヲ具シ遲滯ナク道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第七條　補助ヲ受ケタル漁業組合ハ每會計年度經過後遲滯ナク左記事項ヲ詳具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スヘシ

一　共同施設事業ノ實施成績
二　種類別漁獲物ノ數量價格
三　組合員ノ經濟狀態
四　經費決算書
五　年度末現在基本財產表

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ朝鮮總督ハ補助金ヲ受クルモノニ對シ補助金ノ全部若ハ一部ノ交付ヲ停止若ハ廢止シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ

一　組合解散シタルトキ
二　組合ニ關スル法令又ハ補助金交付ノ條件ニ違背シタルトキ
三　組合事業ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ
四　補助金額決定ノ基礎ト爲リタル事項ニ著シキ異動ヲ生シタルトキ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●森林組合補助規則

（昭和二年一月十二日朝鮮總督府令第二號）

森林組合補助規則左ノ通定ム

森林組合補助規則

第一條　森林組合ニ對シテハ本令ノ定ムル所ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ優秀ナル技術員ヲ置カシムル目的ヲ以テ交付スルモノニシテ一組合ニ付技術員給料年額ノ二分ノ一以內トス

第三條　指定技術員（補助金ノ交付ヲ受ケ置ク技術員）ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル農業學校林業科又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シタル者
二　尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル農業學校林業科又ハ朝鮮ニ於ケル官公立農業學校ヲ卒業シ一年以上官公署又ハ森林組合ニ於テ林業事務ニ從事シタル者
三　五年以上林業事務ニ從事シ技術上ノ經驗ヲ有スル者

第四條　森林組合補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ前年度二月末日迄ニ左ニ揭クル事項ヲ具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ申請スヘシ

一　組合規約
二　組合ノ現況（組合員數、組合加入林野面積、組合經費負擔ノ方法、基本財產ノ有無竝役員及職員ノ員數及其ノ配置狀況）
三　事業計畫及收支豫算
四　第三條各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ證スル書類及給料年額

法人ニ非サル森林組合ニ在リテハ前項各號ニ揭クル事項ノ外申請書ニ代表者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第五條　補助金ノ交付ヲ受ケタル森林組合指定技術員ノ命免ヲ爲サムトスルトキハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　朝鮮總督及道知事必要アリト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受ケタル森林組合ニ對シ業務執行ノ狀況ヲ隨時監查シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七條　補助金ノ交付ヲ受ケタル森林組合ハ每會計年度經過後遲滯ナク左ニ揭クル事項ヲ詳具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スヘシ

一　事業ノ實績
二　技術員給料ニ對スル收支決算
三　指定技術員ノ勤務狀況

第八條　補助金ノ交付ヲ受ケタル森林組合左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滯ナク道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スヘシ

一　組合解散シタルトキ
二　組合ノ名稱ヲ變更シタルトキ
三　組合ノ代表者ノ住所氏名ヲ變更シタルトキ
四　指定技術員ヲ命免シタルトキ
五　組合規約ヲ變更シタルトキ

第九條　森林組合左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ朝鮮總督ハ補助金ノ交付ノ指令ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一　組合解散シタルトキ
二　本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
三　補助金交付ノ目的又ハ條件ニ違反シタルトキ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條第一項中前年度二月末日迄トアルハ（大正十五　昭和元）年度ニ限リ昭和二年二月末日迄トス

●臺灣產業組合規則

（大正二年二月十日律令第二號）　改正　大正七年第一號、九年第二〇號、一五年第八號

臺灣產業組合規則明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

臺灣產業組合規則

第一條　產業組合ニ關シテハ產業組合聯合會及產業組合中央會ニ關スル規定ヲ除クノ外產業組合法ニ依ル但シ同法中勅令トアルハ臺灣總督府令、主務大臣トアルハ臺灣總督、北海道廳支廳長トアルハ郡守、區裁判所又ハ其ノ出張所トアルハ地方法院、其ノ支部又ハ出張所、市町村トアルハ市、街庄又ハ區トス

第二條　組合員ノ有スヘキ出資口數ハ特別ノ事由ニ依リ臺灣總督ノ認可ヲ受ケタル場合ニ限リ三十口ヲ越ユルコトヲ得

第三條　理事及監事ノ選任及解任ニ付テハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ大正二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣産業組合規則施行規則

（大正六年十一月二十二日臺灣總督府令第六十六號）

改正　大正九年第八六號、一〇年第一七一號、一五年第八五號

臺灣産業組合規則施行規則左ノ通改正ス

臺灣産業組合規則施行規則

第一條　信用組合ノ區域內ニ住居スル者ニ非サレハ組合ニ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戾ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

豫約者ハ其ノ貯金カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非サレハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三年ヲ經過シ尚組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ爲スヘシ

第一條ノ二　産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依リ利用組合ノ設備ニシテ組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ利用セシムルコトヲ得ルモノヲ指定スルコト左ノ如シ

電氣設備、水道、種畜

第一條ノ三　利用組合ハ定款ヲ以テ定ムルニ非サレハ組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ前條ノ設備ヲ利用セシムルコトヲ得ス

第一條ノ四　産業組合法第一條第七項ニ組合員タルコトヲ得サル者ト稱スルハ法令若ハ定款ノ規定ニ依リ又ハ出資ノ能力ナキ爲組合ニ加入スルコトヲ得サル者ヲ謂フ

第一條ノ五　産業組合法第一條第七項ノ規定ニ依リ設備ヲ利用セシムル利用組合ノ設立ノ許可ヲ申請スル者ハ定款ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ

一　申請ノ經由

二　設備ノ規模及其ノ能力

三　組合員ノ設備利用ノ程度

四　設備ニ關スル事業施行ノ方法

五　設備費

六　一事業年度ノ收支概算

七　組合員數、組合員戶數、區域內戶數及組合員タルコトヲ得サル者ニシテ設備ヲ利用シ得ルモノノ種類別數

組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ第一條ノ二ニ依リ指定シタル設備ヲ利用セシムル爲定款ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ認可申請書ニ前項第二號乃至第七號ニ揭クル事項ヲ記載シタル書類、財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

組合合併ノ際定款ヲ以テ前項ノ事業ヲ行フ旨ヲ定メムトスル場合ニ於テハ其ノ認可申請書ニ第一項各號ニ揭クル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第一條ノ六　産業組合法第一條第七項ノ規定ニ依リ設備ヲ利用セシムル利用組合ハ其ノ區域內ニ於ケル組合員タルコトヲ得ル者ノ三分ノ二以上ヲ組合員トスルモノニ限ル

第一條ノ七　組合員タルコトヲ得サル者ニシテ第一條ノ二ニ依リ指定シタル設備ヲ利用シ得ル者ハ組合ノ區域內ニ居住スル者ニ限ル但シ左ノ各號ニ揭クル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　電氣設備ニ在リテハ組合ノ區域內ニ於テ家屋物件ヲ所有シ使用シ又ハ占有シ之カ爲其ノ設備ヲ利用スル必要アル者

二　其ノ他ノ設備ニ在リテハ前號ニ揭クル者及定款ヲ以テ規定シタル者

第一條ノ八　組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ設備ヲ利用セシムル場合ニ於ケル利用料ハ實費ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　出資一口ノ金額ハ五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　出資第一回ノ拂込金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　組合カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ增加スル者ヨリ增口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脫退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戾スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第六條　總代會ハ五百人以上ノ組合員ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選擧ニ關スル規定ヲ設クヘシ

第七條　理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　産業組合法第一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ受入及拂戾ニ付テハ組合員ノ貯金ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第九條ノ二　産業組合法第一條第七項ノ規定ニ依ル設備ノ利用ニ付テハ組合員ノ利用ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第十條　登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

前項ノ屆書ニハ受附ノ年月日ヲ記載スヘシ

知事又ハ廳長ニ於テ受理シタル組合原簿ニ付亦同シ

第十一條　知事又ハ廳長ニ提出スル組合原簿又ハ其ノ記載事項ノ變更ノ屆書ニハ記載事項又ハ其ノ變更ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏、名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ二　登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ手續ヲ踐ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十二條　理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滯ナク産業組合法第三十條第一項ニ揭クル書類ヲ知事又ハ廳長ニ提出スヘシ

第十三條　組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合員ノ職業別ノ數竝出資口數ノ異動

二　出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額

三　損益ノ計算竝借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率

四　準備金及各種ノ積立金

五　總會又ハ總代會ノ決議

六　事業ノ狀況

七　信用組合ニ在リテハ組合カ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂戾シタル貯金額及貯金ヲ爲シタル組合員ノ數竝貯金及貸付金ノ利率、産業組合法第一條第二項ノ豫約ヲ爲シタル信用組合ニ在リテハ豫約者ノ數及其ノ貯金額、販賣組合ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合ニ在リテハ買入若ハ生產又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數量及價額、利用組合ニ在リテハ利用ノ程度

八　産業組合法第一條第三項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ニ在リテハ其ノ貯金者ノ種類別數、受入又ハ拂戾シタル貯金額及貯金ノ利率

九　産業組合法第一條第四項ノ信用組合ニ在リテハ手形ノ種類別割引枚數、金額及割引ノ步合、組合員及組合員外ノ職業別及金額別ノ貯金者數及貯金額、受入又ハ拂戾シタル組合員外ノ貯金額及貯金ノ利率、預入先別預入又ハ引出シタル金額及預入金ノ利率竝拂戾準備金ノ管理方法別ノ金額

十　産業組合法第一條第七項ノ規定ニ依リ設備ヲ利用セシムル利用組合ニ在リテハ組合員タルコトヲ得サル者ノ利用ノ程度ヲ表示スヘキ事項

十一　處務ノ要件

第十四條　組合カ借入金ヲ爲サムトスルトキハ每年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決ス可シ

前項ノ規定ハ信用組合カ一事業年度ニ於ケル一組合員ニ對シテ爲ス貸付額又ハ手形ノ割引金額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ遲滯ナク知事又ハ廳長ニ報告スヘシ

第十五條　定款變更竝理事及監事ノ選任及解任ノ認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

第十六條　理事又ハ監事ノ變更ノ屆書ニハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ其ノ變更カ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十六條ノ二　産業組合法第十六條ノ六第二項及第三項ノ規定ニ依リ無限責任組合ノ提出スル組合原簿ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十七條　剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量又ハ拂込ミタル出資額ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シ配當スヘキ剩餘金ニシテ出資ノ拂込ニ充テサルモノハ拂込ミタル出資額カ出資總額ノ二分ノ一ニ滿タサル場合ニ限リ配當スヘキ剩餘金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割二分迄之ヲ增加スルコトヲ得

第十八條　出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第十五條ニ揭ケタル書類ノ外財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十九條　産業組合法第十六條ノ六第三項又ハ第五十八條第二項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第十八條ニ揭ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十九條ノ二　産業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依ル定款變更ノ場合ニ於テ組合カ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ踐ミタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附シ遲滯ナク其ノ旨ヲ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

第二十條　産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ屆書ニハ其ノ事由ヲ記載シ解散ノ當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第二十一條　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第二十二條　合併ノ認可申請書ニハ第十八條ニ揭ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リ設立スル組合ノ定款竝産業組合法第六十三條ノ二ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第六十二條第二項但書ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ前項ニ揭ケタル書類ノ外總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條　組織變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ尙第十八條ニ揭ケタル書類ヲ添附スヘシ

第二十四條　清算人ノ變更及選任ノ屆書ニハ其ノ變更カ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議錄、其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第二十五條　第十二條ノ規定ハ清算人カ産業組合法第七十一條ノ規定ニ依ル承認ヲ經タル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　清算結了ノ屆書ニハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

第二十七條　郡守カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十八條　知事又ハ廳長カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨臺灣總督ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年臺灣總督府令第八十五號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ拂込ミタル出資額以外ノ持分ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ行フ旨ヲ定款ヲ以テ定メタル組合ノ剩餘金ノ配當ニ付テハ大正十五年十二月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ル但シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケタルトキハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

●重要物産同業組合法施行規則

（大正十二年一月一日臺灣總督府令第一號）

改正　大正一四年第八八號

重要物産同業組合法施行規則左ノ通相定ム

重要物産同業組合法施行規則

第一條　同業組合ノ名稱中ニハ同業組合ナル文字ヲ用ウヘシ

同業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ同業組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第二條　組合ノ地區ハ一郡市又ハ一支廳以上一州廳以下ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　組合ヲ設置セムトスルトキハ五人以上ノ營業者發起人ト爲リ組合地區ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ發起ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一　組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類

二　組合ノ地區

三　組合ノ目的及業務ノ概目

四　組合設置ノ事由

五　組合員タルヘキ者ノ數但シ組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ其ノ營業ノ種類每ニ之ヲ區別スヘシ

六　組合ノ創立費及收支ノ概算

地區二以上ノ州廳ニ亙ルトキハ事務所豫定地ノ知事又ハ廳長ヲ經テ發起ノ認可ヲ臺灣總督ニ申請スヘシ

事務所豫定地ヲ變更シタルトキハ前項豫定地ノ知事又ハ廳長ヲ經テ其ノ旨臺灣總督ニ屆出ツヘシ

第四條　發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ組合員タルヘキ者ニ對シ前條第二項ニ揭クル事項ヲ通知シ組合設置ノ同意者ヲ求ムヘシ

第五條　法定ノ數ノ同意者アルトキハ發起人ハ定款ヲ作リ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第六條　定款ハ創立總會ニ於テ同意者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ前項ノ同意者ハ各種營業每ニ三分ノ二以上ナルコトヲ要ス

第七條　創立總會ニ於テハ役員ヲ選擧シ最初ノ事業年度ノ經費豫算及徵收法ヲ議定スヘシ

第八條　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第九條　第十九條第一項第二十條第二十二條第二項第三項及第二十七條ノ規定ハ創立總

會ニ之ヲ準用ス

第十條　創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書類、定款及創立總會ノ決議錄謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可ヲ臺灣總督ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ認可シタルトキハ第十三條第一項第一號乃至第五號ニ掲クル事項ヲ告示ス

第十一條　發起人發起ノ認可アリタル後六月內ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ知事又ハ廳長ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地區二以上ノ州廳ニ亙ルトキハ臺灣總督發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十二條　臺灣總督組合ノ設置ヲ命シタルトキハ知事又ハ廳長ハ創立委員ヲ選定シ其ノ氏名及住所ヲ公告スヘシ

創立委員ハ定款ヲ作リ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

組合ノ設置アリタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク組合員ノ總會ヲ招集スヘシ

第五條第二項第七條第八條第十九條第一項第二十條及第二十二條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ總會ニ之ヲ準用ス

第十三條　組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　目的
二　業務
三　名稱
四　地區及組合員ノ營業ノ種類
五　主タル事務所及從タル事務所ノ所在地
六　組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
七　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
八　役員ノ定數、權限及選任並解任ニ關スル規定
九　業務ノ執行ニ關スル規定
十　會議ニ關スル規定
十一　會計ニ關スル規定

仲裁判斷又ハ調停ヲ爲ス組合ニ在リテハ之ニ關スル規定ヲ定款ニ記載スヘシ

聯合會ヲ組織スル組合ノ定款ニハ代表員ノ選擧ニ關スル規定ヲ記載スヘシ

第十四條　定款ニ主タル事務所ノ位置ヲ記載セサル組合ニ在リテハ之ヲ臺灣總督ニ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十五條　組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合員中ヨリ選擧シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織ス

代議員ノ定數、任期及選擧ニ關スル規定ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十六條　組合ノ業務ハ組合會ノ決議ニ依リ組長之ヲ行フ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　組長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度少クトモ一回一定ノ時期ニ於テ組合會ヲ招集スヘシ

組長必要ト認ムルトキハ組合會ヲ臨時ニ招集スルコトヲ得

代議員定數ノ五分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ組合會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ招集スヘシ評議員會カ第二十四條第二號ノ規定ニ依リ報告ヲ爲ス爲組合會ノ招集ヲ請求シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間內ニ組合會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　組合會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シテ定款ノ定ムル方法ニ依リ其ノ通知ヲ發スヘシ

前項ノ期間ハ定款ノ規定ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十九條　組合會ニ於テハ代議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

同一事項ニ付招集シタル第二回以後ノ組合會ニ於テ代議員ノ定數三分ノ一以上出席スルトキハ會議ヲ開クコトヲ得

第二十條　組合會ノ議決ハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十一條　定款ノ變更ハ組合會ニ於テ代議員ノ定數三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

地區又ハ組合員ノ營業ノ種類ノ增減ニ關スル定款ノ變更ハ前項ノ決議ノ外編入又ハ削除セラルヘキ區域若ハ營業ノ種類ニ屬スル組合員タルヘキ者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面及決議錄謄本並第二項ノ場合ニ於テハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第二十二條　組合員ノ少數ナル組合ニ在リテハ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フルコトヲ得

總會ニ於ケル各組合員ノ表決權ハ平等トス

總會ニ出席セサル組合員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

組合會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第二十三條　組合ニ評議員會ヲ置ク但シ組合員少數ナル組合ニ在リテハ評議員會ヲ置カサルコトヲ得

評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十四條　評議員會ノ職務權限左ノ如シ

一　組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト
二　組合ノ財産及業務ノ狀況ヲ監査シ毎事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト
三　組長ノ諮詢ニ應スルコト
四　其ノ他定款ノ規定ニ依リ其ノ職務權限ニ屬スル事項

第二十五條　評議員會ハ組長之ヲ招集ス

評議員ノ三分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ招集スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間內ニ評議員會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十六條　第十九條及第二十條ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第二十七條　組合會總會及評議員會ノ議長ハ決議錄ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺印スヘシ

一　開會ノ日時及場所
二　代議員若ハ評議員ノ定數又ハ組合員ノ數
三　出席者ノ員數
四　議事ノ要領
五　議決シタル事項
六　贊否ノ數

第二十八條　組合ノ役員及檢査員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第二十九條　組合ハ檢査員ノ資格、選任、解任及給與ニ關スル規定ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十條　組合ノ檢査員ノ服務ニ關スル規定中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

組合ノ檢査員ノ職務ヲ停止シ又ハ給與ヲ減額セムトスルトキハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條　組合ノ役員及檢査員ノ解任認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十二條　組合ノ事業年度ハ一年トス

第三十三條　組合經費ノ豫算及徵收法ノ認可申請ハ事業年度二月前ニ經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後三月內ニ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　組合ニ於テ定款ノ施行ニ關スル規定ヲ設ケタルトキハ臺灣總督ニ之ヲ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條　役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選擧ノ手續ヲ行フ者ナキトキハ知事又ハ廳長ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第三十六條　組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ組合會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

清算人ハ其ノ氏名住所ヲ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

第三十七條　前條ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ知事又ハ廳長之ヲ選任スヘシ

第三十八條　清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ知事又ハ廳長ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條　清算カ結了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

第四十條　聯合會ヲ設置若ハ解散シ之ニ加入シ又ハ之ヨリ脱退セムトスルニハ組合會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

脱退ニ關スル組合會ノ決議ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條　聯合會ヲ設置セムトスルトキハ聯合會ヲ組織スヘキ組合ハ組合會若ハ總會ニ於テ創立委員ヲ選定スヘシ

創立委員ハ創立委員會ヲ開キ全員ノ同意ヲ以テ定款ノ作成其ノ他必要ナル事項ヲ議定スヘシ

創立委員會ヲ終リタルトキハ創立委員ハ定款其ノ他議定シタル事項ノ認可申請書ニ各組合ノ創立委員選定ニ關スル決議錄謄本及創立委員會ノ決議錄謄本ヲ添附シ臺灣總督ニ提出スヘシ

聯合會ノ定款ニハ第十三條第一項第一號乃至第三號第五號第八號乃至第十一號ニ掲クル事項並所屬組合ノ名稱加入脱退權利義務代表員ノ定數及任期ニ關スル規定ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條及第八條ノ規定ハ創立委員會ニ之ヲ準用ス

第四十二條　聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ所屬組合ノ代表員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十三條　第一條第十二條第十三條第二項第十四條第十六條乃至第二十條第二十一條第一項第四項及第二十三條乃至第三十九條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十七條第四項第三十條第二項第三十七條及第三十八條ノ規定ニ依ル知事又ハ廳長ノ處分ハ臺灣總督之ヲ行ヒ第三十六條第二項及第三十九條ノ屆出ハ臺灣總督ニ之ヲ爲スヘシ

第四十四條　知事又ハ廳長ハ組合又ハ聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ業務ノ執行若ハ財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第四十五條　組合ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ知事又ハ廳長ニ委任ス

一　役員、檢査員ノ選任及解任ノ認可
二　重要物産同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員若ハ檢査員ノ選任又ハ解任
三　同法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員解任ノ認可
四　檢査員ノ服務ニ關スル規定ノ認可
五　同法第十五條第二號及第三號ノ處分

第四十六條　知事又ハ廳長ハ第三條第一項第十一條第一項第三十條第二項第三十七條第三十八條及前條ノ規定ニ依リ處分シタルトキ又ハ第三十六條第二項及第三十九條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ臺灣總督ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第四十七條　地區二以上州廳ニ亙ルトキノ知事又ハ廳長ハ主タル事務所所在地ノ知事又ハ廳長トス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

●臺灣漁業組合規則

（大正十三年三月八日臺灣總督府令第二十三號）

臺灣漁業組合規則左ノ通相定ム

臺灣漁業組合規則

第一條　臺灣ニ於ケル漁業組合ニ關シテハ漁業組合令ニ依ル但シ同令中第四十七條ノ規定ヲ除ク

第二條　漁業組合令中區裁判所トアルハ地方法院單獨判官又ハ地方法院支部單獨判官、區裁判所出張所トアルハ地方法院出張所、郡長又ハ市長トアルハ郡守又ハ市尹トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市街地信用組合ノ拂戻準備金管理規程

（大正七年七月四日臺灣總督府令第四十七號　改正　大正九年第八七號、一〇年第七號）

市街地信用組合ノ拂戻準備金管理規程左ノ通相定ム

市街地信用組合ノ拂戻準備金管理規程

第一條　市街地信用組合ノ拂戻準備金ノ管理ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一　金錢又ハ國債證券ノ供託
二　郵便貯金法ニ依ル貯金又ハ國債證券保管

第二條　削除

第三條　第一條ノ國債證券ノ見積價格ハ事業年度ニ從ヒ毎六月末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ハ事業年度ニ從ヒ六月毎ニ遲滯ナク第一條ノ規定ニ依ル管理ノ手續ヲ爲シ同法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ額ヲ記載シタル書面及管理ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨知事又ハ廳長ニ屆出ヘシ

第五條　拂戻準備金ハ知事又ハ廳長ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ引出スコトヲ得ス

前項ノ承認ノ申請ハ其ノ事由ヲ具シタル書面ニ産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ現在額竝證券ヲ引出スモノニ在リテハ證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額及枚數ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●産業組合法施行規則

（大正八年七月二十二日樺太廳令第二十號）

産業組合法施行規則左ノ通定ム

産業組合法施行規則

第一條　産業組合設立許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具シタル調書ヲ添附スヘシ

一　組合ヲ設立セムトスルニ至リタル動機及組合ノ設立ヲ必要トスル重ナル事由
二　區域內ニ於ケル金融、重ナル物産ノ販賣及需要品購買ノ狀況其ノ他特殊ノ事情アルトキハ其ノ事情
三　區域內ニ於ケル職業別ノ戸數（同業者ノミヲ以テ設立スルモノニ在リテハ同業者ノ數）
四　設立者ノ引受ケタル出資口數
五　事業計劃ノ概要

定款ニハ設立者ノ住所及職業ヲ記載スヘシ

第二條　産業組合聯合會設立許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具シタル調書ヲ添附スヘシ

一　前條第一項第一號、第四號及第五號ノ事項
二　設立當初ニ於テ加入スヘキ組合又ハ聯合會カ最近三年間ニ於テ爲シタル毎年度借入金ノ總額竝借入ヲ爲シタル組合又ハ聯合會ノ數及最近三年間ニ於ケル毎年度末預金ノ總額又ハ有價證券ノ價額竝預金又ハ有價證券ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ數
三　設立當初ニ於テ加入スヘキ組合又ハ聯合會カ聯合會ノ取扱フヘキ重ナル物品ニ付最近三年間ニ於テ購買又ハ販賣シタル物品ノ各年度ニ於ケル種目別ノ數量及價額
四　組合又ハ聯合會ノ加入ニ關スル總會決議錄

第三條　信用組合ノ區域內ニ住居スル者ニ非サレハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戻ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

豫約者ハ其ノ貯金カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最少額ト同額ニ達シタル後ニ非サレハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三年ヲ經過シ組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ爲スヘシ

第四條　出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ

在ラス

第五條　第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第六條　準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第七條　組合若ハ聯合會カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收シ又ハ新ニ出資口數ヲ增加スル者ヨリ增口金ヲ徴收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脫退シタル組合員又ハ組合若ハ聯合會ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戾スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第八條　總代會ハ組合ニ在リテハ百人以上ノ組合員、聯合會ニ在リテハ十以上ノ所屬組合及所屬聯合會ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選擧ニ關スル規定ヲ設クヘシ

第九條　理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第十條　組合及聯合會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　産業組合法第十六條ノ二第一項ノ屆書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第十二條　組合又ハ聯合會ハ其ノ貸借勘定及金錢、物品ノ受拂殘高組合又ハ聯合會ノ財產ニ對スル組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ持分、加工ノ功程設備ノ利用其ノ他事業ノ狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル帳簿ヲ備ヘ事件發生ノ都度之カ整理ヲ爲スヘシ

産業組合法第一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ受入及拂戾ニ付テハ組合員ノ貯金ト區別シテ整理スヘシ

第十三條　登記又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

前項ノ屆書ハ樺太廳ニ於ケル受付ノ日ニ到達シタルモノト看做ス組合又ハ聯合會ヨリ提出シタル組合原簿及聯合會原簿ニ付亦同シ

第十四條　樺太廳長官ニ提出スル組合原簿、聯合會原簿、又ハ其記載事項ノ變更ノ屆書ニハ記載事項又ハ其ノ變更ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　組合又ハ聯合會ノ財產目錄ハ第一號樣式ニ、貸借對照表ハ第二號樣式ニ、事業報告書ハ第三號樣式ニ、剩餘金處分案ハ第四號樣式ニ依リ作製スヘシ

第十六條　組合又ハ聯合會ノ理事ハ左ノ一ニ該當スルトキハ直ニ其ノ事由又ハ事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

一　設立許可後一月ヲ經テ出資第一回ノ拂込ヲ完了セサルトキ

二　事業執行細則其ノ他ノ規定ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキ

三　組合長又ハ聯合會長ヲ選任シ若ハ其ノ變更アリタルトキ

第十七條　組合又ハ聯合會ノ理事又ハ監事ハ左ノ一ニ該當シタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ具シ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

一　拂込濟出資金ノ三分ノ一以上ニ相當スル缺損ヲ生シタルトキ

二　組合又ハ聯合會カ訴訟ノ當事者ト爲リタルトキ又ハ訴訟確定シ若ハ和解シタルトキ

三　理事、清算人若ハ債權者カ破產宣告ノ請求ヲ爲シ又ハ裁判所ヨリ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四　前各號ノ外組合又ハ聯合會ノ存續上重要ナル障碍發生シタルトキ

前項第二號及第三號ニ付テハ清算人ニ之ヲ準用ス

第十八條　理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滯ナク産業組合法第三十條第一項ニ揭クル書類及決議錄ノ謄本ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第十九條　理事ハ總會又ハ總代會招集ノ通知ヲ發シタルトキハ其ノ附議事項、日時及場所ヲ記載シ少クトモ開會五日前ニ所轄支廳長ニ屆出ツヘシ

第二十條　總會又ハ總代會ノ議長ハ左ノ事項ヲ記載シタル決議錄ヲ作リ監事又ハ出席組合員二人以上ト共ニ署名捺印スヘシ

一　開會ノ日時、場所

二　組合員ノ總數

三　出席組合員ノ數及委任狀ヲ提出シタル組合員ノ數

四　缺席組合員ノ數

五　議事ノ要領

六　議決シタル事項及贊否ノ數

七　閉會ノ日時

第二十一條　組合又ハ聯合會カ借入金ヲ爲サムトスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ信用組合又ハ信用組合聯合會カ一事業年度ニ於ケル組合員又ハ所屬組合若ハ所屬聯合會ニ對シテ爲ス貸付額又ハ貸付金ノ利率ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十二條　前條第三項ニ依ル借入額最高限度ノ認可申請書ニハ借入金ノ豫定用途ヲ記載スヘシ

借入金ヲ前項ノ豫定用途以外ニ充用シタルトキハ理事ハ直ニ其ノ金額及用途ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第二十三條　組合又ハ聯合會カ借入金ヲ爲シタルトキハ其ノ借入先、借入年月日、金額、利率及償還期限ヲ、償還シタルトキハ償還先借入及償還年月日及金額ヲ遲滯ナク樺太廳長官ニ報告スヘシ

第二十四條　定款變更認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

定款變更事項中登記事項ニ異動ヲ生スヘキモノアルトキハ決議錄二通添附スヘシ

第二十五條　理事又ハ監事ノ變更屆書ニハ其ノ變更カ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議錄其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ各二通添附スヘシ

第二十六條　出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第二十四條第一項ニ揭ケタル書類ノ外財產目錄貸借對照表、産業組合法第四十條ノ規定ニ依リ公告及催告ヲ爲シタルコト竝同法第四十一條ノ規定ニ依リ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十七條　剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價格若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年一割二分ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十八條　産業組合法第八十條第一項但書ニ依ル聯合會ノ理事又ハ監事ノ選任認可申請書ニハ總會又ハ總代會決議錄及本人ノ履歷書ヲ添附スヘシ

第二十九條　産業組合法第五十八條ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ同條第二項ノ場合ニ在リテハ理由書及總組合員ノ同意ヲ證スル書面、同條第三項ノ場合ニ在リテハ第二十六條ニ揭ケタル書類ヲ添附スヘシ

第三十條　組合又ハ聯合會ハ第五號樣式ニ依ル指示事項錄ヲ備付クヘシ

第三十一條　組合長又ハ聯合會長任期滿了其ノ他ノ事故ニ依リ更迭ノ場合ハ帳簿、書類、金錢及物品ニ目錄ヲ添ヘ之カ受渡ヲ爲スヘシ

前任者ニ於テ前項ノ引繼ヲ爲シ得サル事情アルトキハ他ノ理事代リテ之ヲ爲スヘシ

第三十二條　組合又ハ聯合會ノ簿書中左ニ揭クルモノハ永年其ノ他ノモノハ十年以上保存スヘシ

一　組合員名簿

二　組合又ハ聯合會ノ財產ニ對スル組合員又ハ所屬組合若ハ所屬聯合會ノ持分ヲ記載シタル帳簿

三　定款、諸規程及例規書類

四　令達、申請及指令書類

五　總會又ハ總代會決議錄

六　産業組合法第三十條第一項ニ揭ケタル書類

第三十三條　産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ屆書ニハ其ノ事由ヲ記載シ解散ノ當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第三十四條　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第三十五條　合併ノ認可申請書ニハ第二十六條ニ揭ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存續スル組合若ハ聯合會又ハ合併ニ因リテ設立スル組合若ハ聯合會ノ定款竝産業組合法第六十三條ノ二ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第六十二條第二項但書ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ前項ニ揭ケタル書類ノ外組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十六條　組織變更ノ認可申請書ニハ組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ責任ヲ減少スルトキハ尙第二十六條ニ揭ケタル書類ヲ添附スヘシ

第三十七條　第二十五條ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ屆書ニ之ヲ準用ス

第三十八條　第十八條ノ規定ハ清算人カ産業組合法第七十一條ノ規定ニ依ル承認ヲ經タル場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條　清算結了ノ屆書ニハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

第四十條　樺太廳支廳長カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ樺太廳長官ノ指揮ヲ請フヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年十二月樺太廳令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

（樣式略ス）

●樺太ニ於ケル漁業組合ニ關スル件

（明治四十四年三月二十八日勅令第三十三號）
改正　大正三年第一五一號

朕樺太ニ於ケル漁業組合ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樺太ニ於ケル漁業組合及漁業組合聯合會ニ關シテハ漁業組合令ニ依ル但シ登記ヲ爲スヘキ期間ハ之ヲ二倍トシ地方長官ノ職權ハ樺太廳長官之ヲ行ヒ同令第四條ノ郡長、島司、市長、北海道廳支廳長又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區長ハ樺太廳支廳長トス

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●漁業組合令施行規則

（大正八年四月十八日樺太廳令第十二號）

漁業組合令施行規則左ノ通定ム

漁業組合令施行規則

第一條　本令ニ於テ組合令ト稱スルハ漁業組合令、組合ト稱スルハ漁業組合、聯合會ト稱スルハ漁業組合聯合會、支廳長ト稱スルハ所轄樺太廳支廳長ヲ謂フ

第二條　左ニ揭クル事項ハ之ヲ支廳長ニ委任ス

一　組合令第二十條第一項第二號ノ決議ノ認可ニ關スル件

二　組合令第二十五條第四項ノ規定ニ依ル屆出ニ關スル件

三　組合令第三十二條第三項ノ規定ニ依ル理事又ハ監事選任認可ニ關スル件

四　組合令第三十六條第二項ノ規定ニ依ル報告ニ關スル件

五　組合令第三十八條第三項ノ規定ニ依ル假理事選任ニ關スル件

六　組合令第四十一條ノ規定ニ依ル屆出ニ關スル件

七　組合令第四十三條ノ規定ニ依ル報告ニ關スル件

第三條　發起人組合令第十一條ノ規定ニ依リ創立總會招集ノ通知ヲ發スルトキハ同時ニ其ノ通知事項ヲ支廳長ニ屆出ツヘシ

第四條　組合ニ於テ處務規程、議事細則其ノ他業務施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其ノ謄本ヲ、總會又ハ總代會ヲ終了シタルトキハ其ノ決議錄ノ謄本ヲ支廳長ニ提出スヘシ但シ他ノ書類ニ添附シ提出濟ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　組合令第二十條第一項第一號及第二號ノ決議ハ遲クトモ事業年度開始一月前ニ之ヲ爲スヘシ

第六條　組合令第二十五條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ求ムヘキ通常總會ハ遲クトモ事業年度終了後三月內ニ之ヲ開クヘシ

第七條　理事ハ總會又ハ總代會招集ノ通知ヲ發スルトキハ同時ニ其ノ通知事項ヲ、會議ヲ中止シ、延期シ又ハ會議流會シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支廳長ニ屆出ツヘシ

前項ノ規定ハ監事カ組合令第三十六條第三項ノ規定ニ依リ總會ヲ招集スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條　總會ノ議長ハ決議錄ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ議長及出席員二人以上之ニ署名捺印スヘシ

一　開會ノ日時及場所

二　組合員ノ總數

三　出席組合員ノ數

四　委任組合員ノ數

五　缺席組合員ノ數

六　議事ノ要領

七　議決シタル事項及贊否ノ數

八　閉會ノ日時

決議錄ハ通常ト臨時トヲ通シテ會議ノ回數ヲ付スヘシ

前二項ノ規定ハ總代會ニ之ヲ準用ス

第九條　組合ハ總代ヲ選擧シタルトキハ其ノ住所、氏名及選擧年月日ヲ、解任シタルトキハ其ノ氏名、解任年月日及解任ノ事由ヲ支廳長ニ屆出ツヘシ

第十條　理事組合令第二十三條ノ規定ニ依リ專決處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ事項及事由ヲ支廳長ニ報告スヘシ

第十一條　理事又ハ理事ノ職務ヲ行フ者退職シタルトキハ引繼書ヲ作成シ其ノ末尾ニ引繼年月日ヲ記載シ後任者ト共ニ署名捺印スヘシ

第十二條　組合ハ事務員ヲ雇入レタルトキハ其ノ住所、氏名及雇入年月日ヲ、解雇シタルトキハ其ノ氏名、解雇年月日及解雇ノ事由ヲ支廳長ニ屆出ツヘシ

事務員雇入ノ屆書ニハ其ノ事務員ノ履歷書ヲ添附スルコトヲ要ス

第十三條　組合經費ノ收支豫算書、收支決算書、剩餘金處分書、財產目錄及事業報告書ノ方式及記載事項ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第十四條　組合加入金ノ收入ハ基金ニ、各積立金ノ利子ハ各其ノ積立金ニ積立ツヘシ

第十五條　組合經費ノ收支豫算ニ定メタル金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス但シ總會又ハ總代會ノ決議ヲ經タルトキハ同一款內ニ屬スル各項間ニ限リ之ヲ流用スルコトヲ得

第十六條　現金ハ總テ郵便局又ハ銀行ニ預入スヘシ但シ三十圓未滿ハ組合ニ於テ直接之ヲ保管スルコトヲ得

第十七條　組合ハ積立金ヲ支出セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ支廳長ノ認可ヲ受クヘシ但シ遭難救恤資金ヲ其ノ目的ニ支出スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　積立金ノ種類及其ノ支出金額

二　積立金ノ現在額

三　支出ノ目的及其ノ理由

四　支出ノ方法

五　支出ノ目的カ貸付ナルトキハ組合員一人ニ對スル貸付金額ノ最高限度、回收方法及回收期

六　前各號ノ外參考トナルヘキ事項

第十八條　組合ノ起債認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ決議錄ノ外組合ノ現在財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

一　起債金額

二　起債ノ目的及其ノ理由

三　借入先

四　償還ノ方法

五　償還年月日

六　利率

七　擔保ヲ必要トスルトキハ其ノ方法

八　組合員ノ財產見積額
九　起債ノ目的カ貸付ナルトキハ組合員一人ニ對スル貸付金額ノ最高限度、回收方法及回收期
十　前各號ノ外參考トナルヘキ事項

起債ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク契約書ノ謄本ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ但シ樺太地方費金ノ借入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　組合ハ負債ヲ償還シタルトキハ遲滯ナク其ノ償還金額、支拂利息金額、償還ノ方法及償還年月日ヲ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第二十條　組合ハ其ノ取得シタル定置漁業權ヲ貸付セムトスルトキハ總會又ハ總代會ノ決議ヲ經ヘシ

前項ノ決議ハ支廳長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

漁業權貸付認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ決議錄ノ謄本ヲ添附スヘシ
一　漁業權ノ免許番號
二　貸付契約ノ要領
三　貸付ヲ受クヘキ者ノ選定ノ方法及其ノ選定セラレタル者ノ住所、氏名、職業並信用程度
四　前各號ノ外參考トナルヘキ事項

前三項ノ規定ハ貸付契約ヲ變更シ又ハ解除スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　組合ノ共同施設及其ノ施行ニ關スル決議ハ支廳長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十二條　組合ハ組合令第六十七條ノ規定ニ依リ聯合會ノ創立委員ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ住所、氏名ヲ支廳長ニ屆出ツヘシ

第二十三條　聯合會ノ創立委員會ヲ開催セムトスルトキハ創立委員ヨリ開會五日前ニ開會ノ日時及場所ヲ支廳長ニ屆出ツヘシ

第二十四條　組合ニ於テ聯合會ノ總會ヲ組織スル委員ヲ選任シタルトキハ其ノ住所、氏名及選任年月日ヲ、解任シタルトキハ其ノ氏名、解任年月日及解任ノ事由ヲ支廳長ニ屆出ツヘシ

第二十五條　第二條、第四條乃至第八條、第十條乃至第十九條及第二十一條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第八條第一項第二號、第三號及第五號ノ組合員ハ之ヲ委員トス

第二十六條　本令ノ規定ニ依リ支廳長ニ於テ又ハ支廳長ニ對シテ爲スヘキ事項ハ聯合會ノ區域二以上ノ支廳ノ管轄ニ亘ル場合ニ於テハ樺太廳長官ニ於テ又ハ樺太廳長官ニ對シテ之ヲ爲スモノトス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於ケル水產組合規則

（大正六年六月十五日內務省令第四號）

明治四十一年十月內務省令第十八號樺太ニ於ケル水產組合規則ノ件左ノ通改正ス

樺太ニ於ケル水產組合規則ハ大正五年農商務省令第十五號水產組合規則ヲ準用ス

●水產業ニ關スル會社又ハ組合監督ノ件

（明治四十一年九月二十八日關東都督府令第五十六號）

水產業ニ關スル會社又ハ組合監督ノ件左ノ通相定ム

第一條　水產業ニ關シ會社又ハ組合ヲ設ケムトスルトキハ關東【都督】ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　關東【都督】ハ會社又ハ組合ノ監督ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第三條　會社又ハ組合カ法令定款若ハ關東【都督】ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ關東【都督】ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ニ於ケル住宅組合ニ關スル件

（大正十一年十一月十六日勅令第四百九十四號）

朕關東州ニ於ケル住宅組合ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州ニ於ケル住宅組合ニ關シテハ住宅組合法ニ依ル但シ主務大臣又ハ地方長官ノ職務ハ關東長官之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州住宅組合ニ關スル勅令施行規則

（大正十一年十一月三十日關東廳令第八十八號）

關東州住宅組合ニ關スル勅令施行規則左ノ通定ム

關東州住宅組合ニ關スル勅令施行規則

第一條　住宅組合ノ區域ハ住宅ヲ供給スヘキ地域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二條　住宅組合ノ設立許可ノ申請書ニハ定款ノ外事業方法書及組合員調書ヲ添附スヘシ

第三條　住宅組合ハ設立當初ノ組合員全員ニ對スル事業計畫ヲ完了スヘキ時期ニ依リ其ノ存立期間ヲ定ムヘシ

第四條　住宅組合法第三條ニ規定スル附屬設備ハ家屋ニ相應スル門、牆塀、物置、井戸其ノ他居住ノ爲必要ナル設備ニ限ル

第五條　住宅組合ノ供給スル住宅ハ一戸ニ付家屋各階ノ床面積合計五十坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ關東長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ設立許可申請書ニ坪數ノ制限超過ヲ必要トスル理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第六條　住宅組合ハ定款ヲ以テ住宅ノ使用、讓渡ノ時期及手續ヲ定ムヘシ

第七條　住宅ノ所有權ノ讓渡ニ關シテハ出資金ヲ以テ其ノ對價トス

第八條　組合員タル資格ニ關スル定款ノ規定ニハ他ノ住宅組合ノ組合員ニ非サルコトヲ要スル旨ヲ定ムヘシ

第九條　住宅組合ハ持分ノ相續又ハ讓受ニ依ル場合ヲ除クノ外新ニ組合員ヲ加入セシムルコトヲ得ス但シ現ニ供給スヘキ住宅アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　住宅組合法第二條ノ規定ニ依ル住宅用地ノ貸付又ハ讓渡ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十一條　出資一口ノ金額ハ三百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　第一回拂込ノ金額ハ出資一口ニ付其ノ金額ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス但シ關東長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ五十分ノ一迄下スコトヲ得

前項但書ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ設立許可申請書ニ其ノ理由書ヲ添附スヘシ

第十三條　住宅組合ハ其ノ設立許可ヲ受ケタル日ヨリ一月內ニ組合員ヲシテ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ其ノ一月ヲ超ユルモ仍拂込ヲ終ラサルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ調査シ之ヲ關東長官ニ報告スヘシ

第十四條　住宅組合ハ出資第一回拂込ヲ終リタルトキハ直ニ財產目錄及貸借對照表ヲ調製スヘシ

第十五條　住宅組合出資拂込ノ完了ニ至ラサル組合員ニ住宅ノ所有權ヲ讓渡スル場合ニ在リテハ組合ハ之ニ對シ讓渡ノ條件トシテ未拂込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定シ又ハ相當ノ擔保ヲ提供セシムヘシ

第十六條　住宅組合總會ヲ開カムトスルトキハ五日以前ニ其ノ日時、場所及會議事項ヲ主タル事務所所在地ノ民政署長又ハ民政支署長ニ報告スヘシ但シ組合員ヨリ總會招集ノ請求アリタルトキハ其ノ理由書ヲ添附スヘシ總會ヲ終リタルトキハ二週間內ニ其ノ會議錄ノ謄本ヲ添ヘ主タル事務所所在地ノ民政署長又ハ民政支署長ニ報告スヘシ

第十七條　住宅組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ルヘシ

第十八條　住宅組合ノ理事ハ每年度豫算及事業計畫書ヲ調製シ年度開始ノ二月前迄ニ總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ初年度ノ豫算及事業計畫書ニ付テハ設立許可ノ後二月內ニ總會ノ決議ヲ經ヘシ

第十九條　住宅組合ノ理事ハ每年度決算書ヲ調製シ次ノ通常總會ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條　住宅組合ノ豫算、事業計畫書、決算書及事業報告書ハ總會ノ決議又ハ承認ヲ經タル後一月內ニ關東長官ニ提出スヘシ

第二十一條　住宅組合借入金ヲ爲サムトスルトキハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ借入ニ關スル總會決議錄ノ謄本ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
一　借入先
二　金額
三　利率
四　用途
五　償還期限
六　償還方法
七　償還財源

第二十二條　住宅組合借入金ヲ償還シタルトキハ其ノ都度左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク之ヲ關東長官ニ報告スヘシ
一　借入金總額
二　償還金額（元金何程利子何程）
三　償還年月日
四　償還先

第二十三條　定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更理由書及總會決議錄ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ定款ノ變更ニシテ總組合員ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲモ添附スヘシ

第二十四條　事業方法書ヲ變更セムトスルトキハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ其ノ變更理由書及總會決議錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二十五條　住宅組合ニ於テ議事細則、事業執行細則其ノ他ノ規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク其ノ謄本ヲ添ヘ關東長官ニ報告スヘシ之ヲ改廢シタルトキ亦同シ

第二十六條　住宅組合ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ
一　組合員名簿
二　役員名簿
三　住宅臺帳
四　出資拂込表
五　出資總額表
六　財產臺帳
七　預金臺帳
八　借入金臺帳
九　出納日記帳
十　勘定元帳
十一　處務日誌

第二十七條　住宅組合ノ書類ハ左ノ區別ニ依リ編綴スヘシ
一　定款及例規書類
二　總會ノ決議錄及關係書類
三　財產目錄、貸借對照表及事業報告書
四　組合員ノ加入、脫退、出資ニ關スル書類
五　監督官廳ニ關スル書類
六　工事ニ關スル書類
七　土地ニ關スル書類
八　住宅ニ關スル書類
九　借入金ニ關スル書類
十　會計ニ關スル書類
十一　登記ニ關スル書類
十二　其ノ他ノ書類

第二十八條　登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

第二十九條　關東長官ニ組合原簿ヲ提出スルトキハ其ノ記載事項ニ關スル監事ノ證明書ヲ添附スヘシ其ノ記載事項變更ノ屆出ヲ爲ストキ亦同シ但シ組合員ノ氏名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

無限責任組合ニ於テ產業組合法第十六條ノ六第二項ノ規定ニ依リ組合原簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲモ添附スヘシ

第三十條　理事又ハ監事ノ變更ノ屆書ニハ其ノ變更カ總會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ總會決議錄ノ謄本其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第三十一條　出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第二十三條ニ揭ケタル書類ノ外財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第三十二條　登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル屆書ニハ產業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ手續ヲ履ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十三條　產業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第三十一條ニ揭ケタル書類ヲ添附スヘシ

第三十四條　組織變更ニシテ組合員ノ責任ヲ減少スル場合ニ在リテハ其ノ認可申請書ニ第三十一條ニ揭ケタル書類ヲ添附スヘシ

第三十五條　組合員ノ保證金額ヲ減少シ又ハ產業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依ル責任期間ノ短縮ヲ爲シタル場合ニ於テ產業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ終リタルトキハ遲滯ナク之ヲ證スル書面ヲ關東長官ニ提出スヘシ

第三十六條　住宅組合ハ其ノ訴訟又ハ和解ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ關東長官ニ屆出ツヘシ

第三十七條　住宅組合ニ於テ破產宣告ノ請求ヲ爲シタルトキ若ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ理事又ハ清算人ハ直ニ其ノ事由ヲ具シ關東長官ニ屆出ツヘシ

第三十八條　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會決議錄、財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第三十九條　產業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ屆書ニハ其ノ事由ヲ記載シ且監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第四十條　合併ノ認可申請書ニハ第三十一條ニ揭ケタル書類並合併契約書、合併後存續スル住宅組合又ハ合併ニ因リテ設立スル住宅組合ノ定款及設立者ハ各住宅組合ニ於テ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ合併ニ付總組合員ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ前項書類ノ外其ノ同意ヲ證スル書面ヲモ添附スヘシ

第四十一條　住宅組合又ハ其ノ利害關係人ハ產業組合法第七十三條ノ二又ハ第七十三條ノ三ノ規定ニ依リ清算人ノ選任又ハ解任ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ關東長官ニ具申スヘシ

第四十二條　第三十條ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ屆書ニ付之ヲ準用ス

第四十三條　清算人ハ財產目錄及貸借對照表ニ付總會ノ承認ヲ經タルトキハ遲滯ナク關東長官ニ之ヲ提出スヘシ

第四十四條　清算結了ノ屆書ニハ總會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

第四十五條　住宅組合ノ區域二以上ノ民政署又ハ民政支署ノ管轄ニ捗リ又ハ其ノ事務所所在地ト組合ノ區域トカ民政署又ハ民政支署ノ管轄ヲ異ニスル場合ニ在リテハ主タル事務所所在地ノ民政署長又ハ民政支署長ニ於テ之ヲ監督ス

第四十六條　設立許可申請書、組合員ニ關スル調書、事業方法書其ノ他ノ書類ハ別記第一號乃至第十九號樣式ニ依リ作製スヘシ

第四十七條　本令ニ依リ關東長官ニ提出スル書類ハ總テ三通トス

附　則

本令ハ大正十一年勅令第四百九十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

住宅組合設立許可申請書

今般住宅組合法ニ依リ何々責任何々住宅組合設立致候ニ付御許可相成度別紙定款、組合員ニ關スル調書、事業方法書相添ヘ此段及申請候也

大正　年　月　日

住所
設立者　何　某　印

關東長官宛

（第二號樣式）

事業方法書

一　事業計畫ノ大要
全期間ニ亘ル事業ノ施行方法及經營ノ大要
二　火災其ノ他ノ事由ニ因リ住宅滅失ノ場合ニ於ケル處理方法
三　出資口數增減ノ場合ニ於ケル缺員後ノ拂込金ノ計算方法
四　初年度收支豫算表
五　各人別建築費表

出資口數	出資金額	延建坪	建築費	單價	附屬設備費	單價	建設費合計	氏名
	圓		圓	圓	圓	圓	圓	

六　借入金償還年次表（借入先 利率）

年度	償還期日	元金償還額	利子支拂額	元利合計	未償還額
		圓	圓	圓	圓

備考　借入先ヲ異ニスル毎ニ所表ト爲スヘシ

七　借入金償還財源表

年度	收入ノ部							支出ノ部				收支差引
	出資拂込額	地代	預金利子	保險料	組合費	何々	計	維持費	借入金償還元金及利子	何々	計	
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

（第三號樣式）

組合員ニ關スル調書

職業	住所	氏名	生年月日

出資口數	出資總金額	拂込方法及金額	供給ヲ受クヘキ住宅延坪數	資產月收	家族人員	備考
				圓		

（第四號樣式）

組合豫算書

大正　年度何々責任何々住宅組合收支豫算

收入

豫算			豫算說明				
科目		豫算高	種目	本年度豫算高	前年度豫算高	增減	附記
款	項						
		圓		圓	圓	圓	

收入合計							
支出							
經常部（臨時部）							
豫算			豫算說明				
科目		豫算高	種目	本年度豫算高	前年度豫算高	增減	附記
款	項						
		圓		圓	圓	圓	
經常部（臨時部）計							

備考　決算書ハ豫算書ニ準シ調製スヘシ

（第五號樣式）

何々住宅組合大正　年度事業計畫書

一　住宅ノ種類、棟數及戶數

種類別ニ棟數及戶數ヲ揭記シ家屋ノ構造坪數疊數ヲ示シタル略圖ヲ添附スルコト

二　住宅用地

イ　地名　番地及坪數

ロ　購入又ハ借受方法

三　住宅建設費

一戶當建設費

四　工事ノ著手及竣工豫定年月日

五　繼續事業ト爲スモノニ付テハ尙其ノ翌年度以後ニ於ケル計畫ノ大要

（第六號樣式）

組合員名簿（用紙美濃紙）

帳簿

表紙

何々責任何々住宅組合

組合員名簿

裏

表紙ヲ除キ何枚

理事　何　某

監事　何　某

加入年月日	出資一口ノ金額	職業	住　　氏名

年月日	摘要	取得		讓渡		減少		現在口數	出資總額
		番號	口數	番號	口數	番號	口數		

大正　年　月　日脫退

出資拂込

拂込年月日	同口數	拂込金額	累計	拂込年月日	同口數	拂込金額	累計
		圓	圓			圓	圓

（第七號樣式）

役員名簿

役員別	選任年月日	住所	氏名

（第八號樣式）

住宅臺帳

住宅番號／住宅ノ種類	建坪及室數	敷地坪	出資月	地代	火災保險	管理費	使用開始年月日	所有權移轉年月日	氏名	備考
				圓	圓	圓				

（第九號樣式）

出資拂込表

年月日	事由	拂込	拂戾	累計
		圓	圓	圓

（第十號樣式）

出資總額表

年月日	事由	增		減		累計	
		口數	金額	口數	金額	口數	金額
			圓		圓		圓

（第十一號樣式）

財產臺帳

建物ノ部

建築年月日	番號	種別	坪數	建築費	時價算定價格
				圓	圓

土地ノ部

年月日	摘要	地目	地番	段別	地價	購入價格	時價算定又ハ處分
					圓	圓	圓

備考　借地ノ場合ハ本表ニ準シ借地臺帳ヲ調製スヘシ

（第十二號樣式）

預金臺帳

年月日	摘要	預入	引出	殘高	利率	備考
		圓	圓	圓		

（第十三號樣式）

借入金臺帳（甲）

債權者住所氏名	借入年月日	借入金額	償還期日	利率
事由				

元金償還			利子支拂		
償還年月日	金額	備考	支拂年月日	金額	備考
	圓			圓	

借入金現在表（乙）

年月日	債權者	借入金	償還金	現在高	利率	備考
		圓	圓	圓		

注意　本表ハ貸借對照表ノ借入金ト符合スヘキモノトス

（第十四號樣式）

出納日記帳

年月日	元帳口座	摘要	受入	拂出	殘高	取扱者印
			圓	圓	圓	

備考

一殘高欄ノ金額ハ現金ノ在高ト符合スルコトヲ要ス

一每月末ノ計、累計及年度末ニ計ヲ設クルコトヲ要ス

（第十五號樣式）

勘定元帳

年月日	摘要	受入	拂出	殘高
		圓	圓	圓

（第十六號樣式）

處務日誌

年月日	摘要

注意　重要ト認ムル事項ノ生シタル都度記載スヘシ

（第十七號樣式）

財產目錄

資產			負債		
種目	摘要	金額	種目	摘要	金額
拂込未濟出資金	口數	圓	借入金		圓
預金	金種類及各金額		何々		
住宅	棟數及建坪數				
住宅用地	地目及各面積				
什器	種類及點數				
現金					
何々					
合計			合計		

差引金

（第十八號樣式）

貸借對照表

貸方		借方	
種目	金額	種目	金額
	圓		圓
計		計	

（第十九號樣式）

何々住宅組合總會決議錄

一　開會及閉會ノ日時　大正　年　月　日午前何時開會 午後何時閉會

二　開會ノ場所　……………

三　出席人員　總組合員何名ノ內出席者何名委任狀ニ依ル者何名計何名

四　決議事項　一定款變更ノ件

「何々」ヲ「何々」ニ變更

一何々ノ件

何々

滿場異議ナク可決

右總會ノ顚末ニ相違無之候也

大正　年　月　日

議長（組合長）　何　某印

決議錄署名人　何　某印

同　何　某印

●貸家業組合規則

（大正八年八月三日關東廳令第三十五號）

改正　大正八年第五三號

貸家業組合規則左ノ通定ム

貸家業組合規則

第一條　大連市竝其ノ隣接地域內及旅順市ニ於テ貸家業ヲ營ム者ハ本令ニ依リ組合ヲ設クヘシ

前項ノ區域內ニ於テ貸家ヲ有スル者ハ之ヲ貸家業者ト看做ス

第二條　前條ノ區域內ニ於テ貸家業ヲ營ム者ハ組合ニ加入スヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ關東長官ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　當該民政署長ハ營業者中ヨリ創立委員五名ヲ選定シ其ノ氏名及住所ヲ公告スヘシ

創立委員ハ定款ヲ作リ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　組合ノ設置アリタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク組合員ノ總會ヲ招集スヘシ

前項ノ總會ヲ招集スルニハ少クトモ五日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第五條　前條ノ總會ニ於テハ役員ヲ選擧シ最初ノ事業年度ノ經費ノ豫算及徵收方法ヲ議定スヘシ

第六條　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ總會ノ承認ヲ經ヘシ

第七條　組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　組合ノ名稱及目的
二　事務所ノ所在地
三　組合員ノ權利、義務ニ關スル事項
四　役員ノ定數、權限、任期、選任及解任ニ關スル事項
五　會議ニ關スル事項
六　處務、會計ニ關スル事項
七　違約處分ニ關スル事項
八　其ノ他必要ト認ムル事項

第八條　組合ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

組合長　一人
副組合長　一人
會計役　一人
評議員　若干人

第九條　前條役員ノ內評議員定員ノ三分ノ一以內ハ當該民政署長之ヲ選定シ其ノ他ハ組合員ノ互選トス

組合役員ニ選定又ハ選擧セラレタル者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第十條　組合長ハ組合一切ノ事務ヲ擔任シ總會及役員會ノ議長トナリ外部ニ對シテ組合ヲ代表ス

副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會計役ハ組合ノ會計事務ヲ掌理シ其ノ責ニ任ス

評議員ハ組合長ノ諮問ニ應シ又ハ業務ノ執行及財產ノ狀況ヲ監査ス

副組合長又ハ評議員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組合長、副組合長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

第十一條　組合ノ會議ハ總會及役員會ノ二種トス

役員會ハ第八條ニ揭クル役員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條　組合長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ每事業年度少クトモ一回一定ノ時期ニ於テ總會ヲ招集スヘシ

組合長必要ト認ムルトキ又ハ役員會ノ決議若ハ組合員五分ノ一以上ノ請求アルトキハ組合長ハ臨時ニ總會ヲ招集スルコトヲ得

總會及役員會ノ會議ニ關スル事項ハ定款ノ定ムル所ニ依ル

第十三條　總會及役員會ノ議長ハ決議錄ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺印スヘシ

一　開會ノ日時及場所
二　役員ノ定數又ハ組合員ノ數
三　出席者ノ員數
四　議事ノ要領
五　議決シタル事項
六　贊否ノ數

第十四條　左ノ事項ハ總會ニ於テ決議又ハ施行スヘシ

一　組合定款ノ變更
二　役員ノ選擧
三　組合經費ノ豫算竝徵收方法
四　組合業務報告
五　其ノ他組合長ニ於テ必要ト認メ又ハ當該民政署長ニ於テ指定シタル事項

第十五條　左ノ事項ハ役員會ノ決議ヲ經ヘシ

一　組合會ニ議スヘキ事項
二　組合定款施行ノ爲必要ナル規程ノ設定又ハ變更
三　組合費決算
四　組合業務執行ノ綱領
五　貸家料定率
六　貸家ニ關スル紛議ノ調停
七　其ノ他組合ニ關スル重要ノ事項

第十六條　左ノ事項ハ當該民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

一　組合經費ノ豫算竝徵收方法
二　貸家料定率
三　組合員ノ違約處分
四　其ノ他當該民政署長ニ於テ特ニ指定シタル事項

前項各號ノ事項ハ當該民政署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ更正シテ之ヲ認可スルコトヲ得

第十七條　組合定款ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　理由書
二　法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面

第十八條　總會又ハ役員會ノ權限ニ屬スル事項ヲ執行セサルトキハ關東長官ハ職權ヲ以テ選定又ハ決定スルコトアルヘシ

第十九條　總會若ハ役員會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法律、命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ又ハ組合ノ目的ニ違反シタルトキ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ關東長官ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條　組合員ハ定款及規程ヲ遵守シ總會及役員會ノ決議ニ服從シ且定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第二十一條　組合員ニシテ組合役員ノ處分ニ不服アルトキハ三日以內ニ當該民政署長ノ裁定ヲ受クルコトヲ得

當該民政署長ノ行政處分ニ不服アルトキハ五日以內ニ關東長官ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ處分ノ執行ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條　本令又ハ本令ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

附　則

第二十三條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條　第一條ノ隣接地域ハ別ニ之ヲ告示ス

第九章　勸業

第一款　博覽會　共進會　展覽會

●內國勸業博覽會開設方

（明治十年十二月二十八日太政官布告第八十八號）

內國勸業博覽會ノ儀明治十年ヲ以テ第一會トシ爾後五ヶ年目每ニ（明治十四年ヲ以テ第二會トス）被開候條此旨布告候事

但本會開設ノ場所及日限諸規則等ハ三ヶ年前ニ布告スヘキ事

（明治三十八年十二月二十八日勅令第二百八十四號）

朕第六回內國勸業博覽會開設延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

明治四十年ニ開設スヘキ第六回內國勸業博覽會ハ之ヲ延期ス其ノ開設ノ期日ハ追テ之ヲ定

●內國勸業博覽會ノ賞牌ヲ製造物品又ハ看板廣告等ヘ付スルヲ許ス

（明治十一年四月二日內務省布達甲第九號）

明治十年內國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌ハ受領人ノ適宜ニ任セ右賞牌ノ寫ヲ製造ノ物品又ハ其外ト包ミ或ハ看板廣告書等ノ類ヘ相付ケ候義ハ不苦候條此旨爲心得布達候事

●博覽會共進會ノ褒證亡失者ヘ證明狀附與方

（明治十七年二月二十七日農商務省告示第二號）

內外博覽會及ヒ共進會ニ於テ授與ノ褒證水火盜難ニ罹リ失ヒタル者ヨリ請求候節ハ證明狀附與可致候條右等事故有之候ハヽ管轄廳ヘ願出ヘシ管轄廳ニ於テハ其ノ失ヒタル事由及年月日ヲ取調當省ヘ具申致スヘシ

但官廳出品ニ係ル分モ本文ニ準ス

右告示候事

●地方開設ノ小博覽會ヘ審査官派出方

（明治十一年十一月二十一日內務省達乙第七十七號）

府縣

各府縣ニ於テ小博覽會興行候節往々審査官派出之儀願出候處右ハ其出品物產ノ景況ニヨリ自然全國一般ノ勸業上ニ可相關ト認定候者ニ限リ派出爲致候條兼テ可相心得此旨相達候事

●道府縣聯合共進會規則

（明治四十三年三月二十五日農商務省令第三號）

改正 大正九年第一二號、一二年第一二號

道府縣聯合共進會規則左ノ通相定ム

道府縣聯合共進會規則

第一條 道府縣聯合シテ產業ニ關スル共進會ヲ開設セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ共進會開設地ノ地方長官ハ申請書ニ規則書、出品ノ點數及人員豫定書竝經費豫算書ヲ添ヘ前年度五月三十一日限農商務大臣ニ差出スヘシ

共進會開設ノ認可アリタル後前項ノ規則ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 道府縣聯合共進會ノ聯合區域ハ六道府縣以上十五道府縣以下トス但シ特別ノ事由ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 特種ノ出品種類ニ付開設スル道府縣聯合共進會ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

但シ四道府縣以上聯合スルコトヲ要ス

第五條 道府縣ハ五年目以後ニ非サレハ同種ノ物品ニ付聯合共進會ヲ開設スルコトヲ得ス但シ第三條ニ依リ開設シタル後前條ニ依リ開設シ又ハ前條ニ依リ開設シタル後第三條ニ依リ開設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事由ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ得タル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第六條 道府縣聯合共進會規則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 聯合道府縣名
二 開設地及會期
三 出品人ノ資格
四 出品ノ類別及各出品人ノ差出スヘキ數量
五 參考品ノ陳列ヲナストキハ之ニ關スル規定
六 出品願書及出品解說書ニ關スル規定
七 出品物搬出入ニ關スル規定
八 出品ノ陳列及賣買ニ關スル規定
九 出品物ノ危險負擔ニ關スル規定
十 審査及褒賞ニ關スル規定
十一 觀覽ニ關スル規定
十二 規則違反者處分ニ關スル規定
十三 庶務ニ關スル規定
十四 其ノ他必要ト認ムル事項

第七條 農商務大臣ハ審査長審査官及審査員ヲ命シ審査ヲ爲サシメ優等ト認ムルモノニ褒賞ヲ授與ス

審査員ニ關スル經費ハ聯合府縣ノ負擔トス

第八條 褒賞ヲ左ノ四種トス

一等賞金牌 種牛、乳牛、種馬、種緬羊、種山羊、種豚、種鷄、卵鷄又ハ種鶩ノ出品ニ付テハ紫白ノ綬ヲ付ス
二等賞銀牌 同上紅白
三等賞銅牌 同上綠白
四等賞褒狀

第九條 農商務大臣ハ出品ト同種ノ產業ニ關シ功勞顯著ナリト認ムル者ニ對シ其人ノ存亡ニ拘ラス功勞賞杯ヲ授與ス

第十條 聯合道府縣ノ地方長官ハ功勞賞ヲ授與スルニ適當ナリト認ムル者ノ事績調書及履歷書ヲ共進會開會當日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ開會期間カ三十日以下ナルトキハ開會當日ノ四十日前ニ差出スヘシ

第十一條 農商務大臣ハ道府縣聯合共進會ノ定ムル規定ニ違反シ又ハ出品若ハ褒賞ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シタル出品人ニ對シ情狀ニ依リ褒賞ヲ授與セス若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條 出品又ハ審査ニ關シ詐欺ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ道府縣聯合共進會ノ定ムル規定ニ違反シテ出品ヲ損壞傷害又ハ撤去シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條 道府縣聯合共進會ハ前二條ニ依ル處分ヲ受ケタル者ニ出品ヲ許可スルコトヲ得ス但シ處分ヲ受ケタル後十年ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本則ノ規定ハ北海道一圓ヲ出品區域トスル道廳開設ノ畜產共進會ニ付之ヲ準用ス

附 則

第十五條 明治四十一年省令第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十六條 本則施行前道府縣聯合共進會開設ニ付農商務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ本則ニ依リ認可ヲ得タルモノト看做ス

●工藝展覽會規程

（昭和二年五月二十日商工省告示第十二號）

工藝展覽會規程ヲ左ノ通定メ大正二年七月農商務省告示第二百四十五號工藝展覽會規程ハ之ヲ廢止ス

工藝展覽會規程

第一章 總則

第一條 工藝品ノ改善發達ヲ圖ル爲每年一回工藝展覽會ヲ開ク、開催地、會場、會期其ノ他ノ事項ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第二條 本會ニ左ノ二部ヲ置ク

第一部 圖案
第二部 工藝品

第一部ニ出品スル圖案ニハ之ヲ應用シテ製作シタル物品ヲ、第二部ニ出品スル工藝品ニハ其ノ圖案ヲ添附スルコトヲ妨ゲズ

第三條 出品ハ鑑査ニ合格シタルモノニ限リ之ヲ陳列ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ出品ハ二點ヲ限リ鑑査ヲ要セズシテ之ヲ陳列ス

一 工藝審査委員會委員タル者又ハ委員タリシ者
二 褒賞一等賞又ハ二等賞ヲ授與セラレタルコトアル者

第四條 出品ノ搬入及搬出ニ要スル費用ハ總テ出品人ノ負擔トス

第五條 出品ノ保管ニ關シテハ十分ノ注意ヲ爲スト雖モ出品ノ亡失、毀損、汚染其ノ他ノ損害ニ對シテハ別ニ定ムルモノノ外其ノ責ニ任セズ

第六條 出品人ノ承諾及商工省ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ出品ヲ撮影又ハ模寫スルコトヲ得ズ

商工省ハ出品ヲ撮影若ハ模寫シ又ハ之ヲ刊行スルコトアルベシ

第二章 出品

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ出品スルコトヲ得ズ

一 製作後三年以上ヲ經タルモノ
二 本會、其ノ他博覽會、共進會、展覽會又ハ品評會ニ陳列セラレタルコトアルモノ（但シ本會ニ對スル出品ヲ豫選スル爲各地方ニ於テ開ク展覽會、品評會ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ）
三 販賣ノ爲店舖ニ陳列セラレタルコトアルモノ
四 風敎ヲ害スル虞アルモノ

第八條 出品セントスル者ハ附屬樣式ノ申込書ヲ商工省ニ差出スベシ

申込書ノ差出期日及出品ノ受理期間ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第九條 出品ヲ受理シタルトキハ出品受領證

ヲ交付ス

第十條 鑑査不合格ノ通知アリタルトキハ出品人ハ遲滯ナク其ノ出品ヲ搬出スベシ、若シ通知ヲ發シタル日ヨリ二十日ヲ經ルモ搬出セザルトキハ商工省ニ於テ適宜之ヲ處分スルコトアルベシ

第十一條 出品人ハ陳列ノ位置、配列等ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第三章 鑑査及審査

第十二條 陳列品ハ總テ審査ヲ受クベキモノトス但シ第三條各號ノ一ニ該當スル者又ハ學校其ノ他營利ヲ目的トセザル團體ノ出品ハ特ニ出品人ノ請求アル場合ノ外ハ審査ヲ行ハズ

第十三條 鑑査及審査ハ工藝審査委員會之ヲ行フ

第十四條 鑑査又ハ審査ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第四章 褒賞及協贊賞

第十五條 審査ノ結果優等ノ出品ノ圖案者又ハ製作者ニ對シテハ褒賞ヲ授與ス

前項ノ圖案者又ハ製作者ガ出品人ニ非ザル場合ニ於テハ圖案者又ハ製作者ニ授與スル褒賞ガ一等賞及二等賞ナル場合ニ限リ協贊賞ヲ其ノ出品人ニ授與ス

第十六條 褒賞ハ左ノ四等級トス

一等賞 二等賞 三等賞 褒狀

第十七條 受賞ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第五章 雜則

第十八條 陳列品ハ非賣品ノ外購買ノ申込ニ應ズルモノトス

陳列品ノ購買申込ハ本會ニ於テ之ヲ取扱フ

出品人ニ於テ本會ヲ經ズシテ出品ノ賣買契約ヲ爲サントスルトキハ本會ノ承認ヲ受クベシ

第十九條 陳列品ヲ購買セントスル者ハ其ノ旨ヲ本會ニ申出デ代金又ハ手附金ヲ支拂フベシ

前項ノ手附金ハ代價ノ三分ノ一以上トス

手附金ヲ納付シタル買主本會ノ閉會後七日以內ニ殘額代金ヲ支拂ハザルトキハ手附金ハ之ヲ拋棄シタルモノト看做シ當該出品人ノ所得トス

第二十條 陳列品ハ閉會中之ヲ搬出スルコトヲ得ズ

第二十一條 出品人又ハ買主ハ陳列品ヲ閉會後指定ノ期間內ニ搬出スベシ

前項ノ期間內ニ搬出セザルトキハ商工省ニ於テ適宜之ヲ處分スルコトアルベシ

出品人又ハ買主陳列品ヲ搬出セントスルトキハ出品受領證又ハ代金領收證ヲ差出スベシ

第二十二條 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムル者ハ入場ヲ禁ジ又ハ退場セシムルコトアルベシ

第二十三條 觀覽人ハ靜肅ヲ旨トシ且ツ係員ノ指揮ニ從フベシ

（附屬樣式）

出品申込書

私儀工藝展覽會規程ニ依リ左記目錄ノ通出品致度此段申込候也

年 月 日

住所
職業
出品人 氏 名㊞

商工大臣宛

記

部名	番號	形狀模樣	物質	品名	圖案者製作者	箇數	代價	備考

一 番號ノ欄ニハ二點以上ノ出品ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ出品ヲ區別スル番號ヲ記載スルモノトス
二 圖案ノ出品ニハ品名ノ欄ニ之ヲ應用スベキ物品ヲ記載スベシ
三 一點ノ出品ガ數箇ノ物ヨリナルトキハ箇數ノ欄ニ其ノ箇數ヲ記載スベシ
四 非賣品ハ代價ノ欄ニ其ノ旨ヲ記載スベシ
五 左ノ事項ハ之ヲ備考ノ欄ニ記載スベシ
　イ 本規程第二條第二項ニ依リ添附スルモノ
　ロ 第七條各號ノ一ニ該當スルヤ否ヤ
　ハ 鑑査ヲ要セザル出品ニハ其ノ旨及其ノ理由
　ニ 審査ヲ行ハザル出品ニシテ特ニ之ヲ請求セントスルモノニ付テハ其ノ旨
　ホ 追注文ニ應ジ得ル者ニ在リテハ其ノ旨
　ヘ 出品搬出ノ方法（會場若ハ事務所ニ於テ出品ヲ引取ルヤ又ハ運送ニ依リ送付ヲ受クルヤノ別）

●特許局發明展覽會規程

（大正七年七月十六日農商務省告示第二百四十二號）

特許局發明展覽會規程左ノ通定ム

特許局發明展覽會規程

第一章 總則

第一條 發明、實用新案、意匠及商標ニ關シ其ノ發達ヲ期スル爲メ發明展覽會ヲ開ク會期、會場其ノ他必要ノ事項ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第二條 出品ハ左ノ四部ニ分ツ

第一部 發明
第二部 實用新案
第三部 意匠
第四部 商標

第一部ヲ機械、化學、電氣ノ三類ニ分ツ

第三條 出品ハ鑑査ニ合格シタルモノニ限リ之ヲ許ス

第四條 出品ノ荷造、運送、陳列及裝飾等ニ關スル費用ハ總テ出品人ノ負擔トス

第五條 本會ハ會場全體ニ對シ相當ノ注意ヲ爲スト雖モ會期中ニ發生シタル亡失、毀損、汚染其ノ他一切ノ損害ニ對シ其ノ責ニ任セス

第六條 特許局長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ出品物ヲ撮影又ハ模寫スルコトヲ得ス

特許局ハ出品物ヲ撮影若ハ模寫シ又ハ之ヲ印行スルコトアルヘシ

第二章 出品

第七條 左ニ揭クルモノハ出品スルコトヲ得ス

一、特許發明、登錄實用新案、登錄意匠ニ付テハ登錄アリタル時ヨリ七年其ノ特許又ハ登錄ニ係ラサルモノニ在リテハ公ニ知ラレタル時ヨリ五年ヲ經過シタルモノ
二、本會、內國勸業博覽會又ハ外國博覽會等ニ陳列シタルコトアルモノ但シ陳列後其ノ考案、設計、製作又ハ構想應用等ニ關シ改良擴張ヲ爲シタルモノハ此限ニ在ラス
三、特許又ハ登錄ニ係ラサル出品ニシテ特許法上、實用新案法、意匠法又ハ商標法上不適當ナリト認ムルモノ

特許局長必要アリト認ムルトキハ前項第一號又ハ第二號ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第八條 出品ヲ爲サムトスル者ハ申込書、解說書竝出品計畫書又ハ出品物ヲ特許局陳列館ニ差出スヘシ

第九條 出品ヲ受理シタルトキハ直ニ受領證ヲ交付ス

第十條 鑑査不合格ノ通知アリタルトキハ出品人ハ遲滯ナク之ヲ搬出スヘシ若シ通知ヲ發シタル日ヨリ二十日ヲ過ルモ之ヲ搬出セサルトキハ特許局ニ於テ適宜之ヲ處分スヘシ

第十一條 出品人ハ陳列ノ位置配列等ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十二條 出品人ハ會期中陳列所ヲ閉鎖シ又ハ陳列品ヲ搬出スルコトヲ得ス

第三章 鑑査及審査

第十三條 出品ノ鑑査ハ特許局之ヲ行フ

第十四條 出品ノ鑑査ハ發明、實用新案、意匠ニ在リテハ其ノ考案、設計、製作等、商標ニ在リテハ其ノ構想、應用、價値等ニ關シ現物又ハ出品計畫書ニ付之ヲ行フ

第十五條 陳列品ノ容積、重量又ハ點數ニ付テハ鑑査ノ際之カ制限ヲ爲スコトアルヘシ

第十六條 陳列品ニ付テハ總テ審査ヲ拒ムコトヲ得ス但シ官廳、學校其ノ他營利ヲ目的トセサル團體ノ出品ハ此限ニ在ラス

前項ノ審査ハ都合ニ依リ之ヲ行ハサルコトアルヘシ

第十七條 陳列品ノ審査ハ農商務大臣ノ任命又ハ囑託シタル審査委員之ヲ行フ

第十八條 農商務大臣ハ審査委員中ヨリ審査委員長一名ヲ命ス

第十九條 審査ハ各部每ニ、第一部ニ在リテハ更ニ各類每ニ之ヲ行フ

第二十條 審査ハ審査委員ノ投票ニ依リテ之

ヲ行フ審査委員ハ陳列品ニ就キ各評點ヲ附シ之ヲ審査委員長ニ差出スヘシ

第二十一條　擬賞ハ審査委員會ニ於テ委員過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス審査委員會ハ審査委員ノ半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

第二十二條　陳列品ノ考案者ト製作者ト異ナルトキハ其ノ孰レニ若ハ共ニ擬賞ヲ爲スヘキヤハ審査委員ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條　鑑査又ハ審査ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四章　褒賞及買上

第二十四條　擬賞ノ結果優等ノ出品ニ對シテハ褒賞ヲ授與ス

第二十五條　褒賞ハ左ノ四種トス

一等賞
二等賞
三等賞
褒狀

第二十六條　出品人ハ受賞ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條　優良ナル陳列品ハ特許局ニ於テ買ヒ上クルコトアルヘシ特許局ニ於テ買ヒ上クヘキ陳列品ハ審査委員ノ意見ヲ聽キ之ヲ選定ス

第五章　雜則

第二十八條　陳列品ヲ購買セムトスル者ハ其ノ旨ヲ係員ニ申出テ其ノ代金ノ支拂ヲ爲スヘシ但シ會期中其陳列品ヲ引取ルコトヲ得ス

第二十九條　即時ニ代金ヲ支拂ハサルトキハ手附ヲ以テ賣買契約ヲ爲スコトヲ得、手附ノ金額ハ代金ノ三分ノ一以上トス

前項ノ買主カ閉會後五日以內ニ殘餘代金ノ支拂ヲ爲ササル時ハ手附金ハ之ヲ拋棄シタルモノト見做シ當該出品人ノ所得トス

第三十條　陳列品中賣約濟ノ物ハ買主ニ於テ之ヲ撤出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ代金受領證ヲ提示シ其ノ買主タルコトヲ證明スヘシ

第三十一條　陳列品ノ搬出期間ハ閉會後五日以內トス期間內ニ搬出セサルトキハ特許局ニ於テ適宜之ヲ處分スヘシ

第三十二條　觀覽時間ハ開會中每日午前九時ヨリ午後五時マテトス但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ觀覽ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十三條　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムル者ハ入場ヲ禁シ又ハ退場セシムルコトアルヘシ

第三十四條　觀覽人ハ靜肅ヲ旨トシ且ツ係員ノ指揮ニ從フヘシ

●共進會及品評會褒賞授與規則

（明治四十一年八月二十五日臺灣總督府令第四十三號）

共進會及品評會褒賞授與規則左ノ通相定ム

共進會及品評會褒賞授與規則

第一條　數廳又ハ數農會聯合シテ一廳以上ヲ出品區域トシ地方重要物產及其ノ生產、製造ニ關スル共進會又ハ品評會ヲ開設シ褒賞ノ授與ヲ申請スルトキハ臺灣總督ハ出品者ニ對シ本令ニ依リ褒賞ヲ授與ス一廳又ハ一農會カ一廳以上ヲ出品區域トシ共進會又ハ品評會ヲ開設スル場合ニ於テ開設者ノ申請ニ依リ必要ト認ムルトキ亦同シ

第二條　前條ニ依リ褒賞授與ノ申請ヲ爲サムトスルトキハ共進會又ハ品評會主催地廳長若ハ農會長ヨリ申請書ニ其ノ規則書、出品點數見込書及收支豫算書ヲ添附シ之ヲ臺灣總督ニ提出スヘシ

第三條　褒賞授與ノ許可アリタルトキハ共進會又ハ品評會ハ審査委員長及審査委員ヲ置クヘシ審査委員長ハ臺灣總督之ヲ命ス

臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ審査委員ヲ命スルコトアルヘシ

審査委員長及前項ノ審査委員ニ對スル經費ハ關係廳若ハ農會ノ負擔トス

第四條　審査委員長ハ出品ノ優劣及出品者ノ出品ニ關スル功績ヲ審査シ擬賞ヲ爲スヘシ

審査委員ハ審査委員長ノ事務ヲ補佐シ審査ニ從事スヘシ

第五條　褒賞ノ等級ハ一等、二等、三等及四等ノ四種トス但シ各等級ニ對スル褒賞ハ其ノ都度之ヲ定ム

前項ノ褒賞中三等及四等ニ屬スルモノハ主催地廳長之ヲ授與ス

第六條　褒賞授與ノ申請ヲ爲ササル廳又ハ農會カ共進會又ハ品評會ヲ開設シ其ノ審査委員長又ハ審査委員ノ派遣ヲ申請スルトキハ第三條及第四條ノ規定ヲ準用ス農會カ共進會又ハ品評會ノ開設ニ付補助金ノ交付ヲ受ケタル場合亦同シ

第七條　本令ニ依ル共進會又ハ品評會ハ閉會後三十日以內ニ左ノ事項ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

一　開會及閉會ノ年月日
二　出品區域
三　出品ノ種類及點數
四　出品人員
五　受賞人員但シ各褒賞ノ等級及種類ヲ區別スヘシ
六　來觀人員
七　收支決算
八　會場及出品ノ狀況

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　勸業諮問會並委員

●地方勸業諮問會並勸業委員設置心得

（明治十六年五月十六日太政官布達第十三號）

各地方ノ便宜ニ從ヒ左ノ條項ニ照準シテ勸業諮問會並勸業委員ヲ設置スルコトヲ得

第一條　諮問會ハ各府縣勸業事務ニ付府知事【縣令】ノ諮問ニ備フルモノトス

第二條　諮問會員ハ府知事【縣令】ニ於テ管內農商工事ニ名望アル者ヲ選テ之ニ充ツ其人員並處務ノ順序等總テ府知事【縣令】適宜之ヲ定ム可シ

第三條　諮問會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業【費】ヲ以テ支辨ス可シ

第四條　勸業委員ハ【區】町村若クハ聯合【區】町村ニ於テ勸業ノ事ヲ擔任シ又ハ郡【區】長戶長ノ諮問ニ備フルモノトス

第五條　勸業委員ノ人員選擧方法及ヒ處務ノ順序等ハ【區】町村會又ハ聯合【區】町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事【縣令】ノ裁可ヲ受ク可シ

第六條　【區】町村若クハ聯合【區】町村ニ於テ農業會商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルトキハ勸業委員ヲシテ會員タラシムルコトヲ得

第七條　府知事【縣令】ニ於テ勸業委員ノ設置及第六條ノ各會設立ヲ要用ト認ムルトキハ誘導シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得此場合ニハ【農商務卿】ニ稟議シテ認可ヲ請ク可シ

第八條　勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會諸費ハ【區】町村及聯合【區】町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルコトヲ得但有志者ヲ以テ組織スル者ハ此例ニ非ラス

第九條　【農商務卿】及主務ノ官署ハ各地方勸業上ノ件ニ付諮問會又ハ第六條各會ノ意見ヲ問フコトアル可シ

諮問會又ハ第六條ノ各會ハ勸業上公益ノ件ニ付【農商務卿】及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

右布達候事

（明治十六年七月二十日農商務省達第八號　改正　明治一九年第一號、第四號、農商務省訓令第二〇號）

府縣

本年五月第拾三號布達相成候ニ就テハ左ノ條項爲心得相達候事

第一　諮問會ニ諮問スヘキ事項

一　海陸運漕ノ利害（道路港灣ノ開墾修築）ニ關スル事
二　溝渠用惡水疏通ニ關スル事
三　農商工水產山林鑛山ノ利害及改良保護ニ關スル事
四　農商工水產山林鑛山ニ關スル統計ノ事

第二　諮問會員ノ定限

會員ハ任期ニ定限ナク又其數ヲ限ラスト雖モ五十名ヲ超ユヘカラス

縣會議員學務委員衞生委員戶長等ノ職務アルモノト雖モ農商工事ニ名望アルモノハ之ニ諮問會員ヲ兼務セシムルモ妨ケナシ

【農商務省】官吏及【農商工上等會員】又ハ府知事【縣令】ノ許可ヲ得タル該府縣ノ官吏ハ會場ニ列シ意見ヲ陳ルヿヲ得ヘシ但會員ノ數ニ加ヘス

第三　諮問會會頭

府知事【縣令】之ヲ勤ムヘシ但【書記官】又ハ各課長ヲシテ代理セシムルヿヲ得

第四　諮問會說明委員及書記

府知事【縣令】其屬官中ヨリ之ヲ命スヘシ

第五　諮問會開會ノ期節又ハ臨時開會ヲ要スヘキ場合

通常府縣會開會以前ヲ以テ通常諮問會開會ノ期節トシ其臨時開會ノ場合ハ府知事【縣令】ノ見込ニ依ルヘシ

第六　諮問會則ノ要旨及諸說ノ採擇

會則ハ總テ談話ノ體ヲ用ヒ諸說ノ採擇ハ會頭ノ意見ニアルヘシ但場合ニヨリ會員ノ意見ヲ識別スヘキ爲メ起立ノ作用ニ依ルモ妨ナシ

第七　諮問會員ノ招集

會員ノ招集ハ府知事【縣令】ノ達書ヲ以テシ通常開會ノ日數ハ概ネ十五日以內臨時開會ノ日數ハ概ネ七日以內トスヘシ

第八　諮問會費

旅費日當ハ府縣會議員ノ旅費日當ニ超ヘサル額ヲ目途トシ府縣會議ニ附スル等ハ總テ【府縣會規則】ノ成法ニ依ルヘシ

諮問會員ニ年手當ヲ給スルノ必要アル片ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨スルヿヲ得其他開會ノ費用ハ府縣廳中費ヲ以テ支辨スヘシ

第九　勸業委員ノ擔任

勸業委員ハ府知事【縣令】ノ裁可ヲ受ケタル處務順序ニ依リ請持部內ノ農商工事ノ上進ヲ圖リ及府縣廳郡【區】役所ノ指揮スル處ノ事務並戶長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨スヘシ

第十　郡【區】長戶長諮問ノ事項

諮問ノ事項ハ概ネ第一ノ事項ニ依ルヘシ諮問ハ勸業委員各人ニ諮問スヘキモノトス

第十一　勸業委員ノ選擧

勸業委員ハ每郡【區】役所管轄部內ニ四名以內トス但一部內四名ヲ以テ積算シ其總人員內ニ於テ甲乙部互ニ其人員ヲ增減スルハ妨ナシ

勸業委員ノ選擧ハ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ選擧セシメ府知事【縣令】之ヲ選拔スルノ場合アルヘシ

第十二　農業會商業會工業會勸業會及同業會

各會ハ名稱ヲ一ニシテ檢束スルモノニ非ス譬ヘハ農業會中ニ農議會アリ商業會中ニ商法會議所アリ同業會中ニ單一種ノ同業會或ハ各種同業會ヲ聯合シタル同業會アルノ類トス

第十三　勸業委員ノ設置及各會設立ノ誘導

準則ヲ設ケテ論達シ或ハ郡【區】長【戶長】ニ指示スル等同一ニ施行セント圖ルヿアル片ハ稟議シテ認可ヲ請クヘシト雖モ有志者ヲ說諭奮起セシムル等ノ如キハ認可ヲ請ク可キ限ニ非ス

第十四　勸業委員費

旅費日當額ハ【區】町村會若クハ聯合【區】町村會又ハ關係各業者ノ議決ヲ經ル等總テ【區町村會法】ノ成法ニ依ルヘシ

勸業委員ニ月手當金ヲ給スヘキ必要アルトキハ之ヲ【區】町村費ヨリ支辨シ或ハ府縣會ノ決議ヲ經テ全部若クハ其幾分ヲ地方稅中勸業費ヨリ支出スルコトヲ得其月手當額ハ一名金五圓以內トス但第十一項第一ノ總人員ニ對シ一名金五圓ヲ以テ積算シ其金額內ニ於テ互ニ增減支給スルハ妨ナシ

勸業上ニ關シ勸業委員ヲ北海道廳府縣廳ヘ招喚スヘキ要用アルトキハ其旅費日當ハ地方稅中勸業費ヨリ支給スヘシ

第十五　項施行ノ後本省ヘ報告スヘキ件

諮問會員ノ人名
開會ノ筆記
勸業委員ノ人員
各會設置ノ位地及名稱
已上ニ關スル諸費用ノ豫算決定額

第三款　商品陳列館

●【農商務省】商品陳列館規則

（大正十年九月九日農商務省告示第二百二號）

農商務省商品陳列館規則左ノ通改正ス

明治三十年告示第二十八號ハ之ヲ廢止ス

【農商務省】商品陳列館規則

第一條　本館ハ商品ノ改良及販路ノ擴張ヲ圖ル爲メ左ニ揭クル業務ヲ行フ

一　內外商品見本及參考物品ノ蒐集並展示
二　內外商工業者ノ紹介
三　商品及商工業ニ關スル質疑應答
四　內外商工時報、商工人名錄其ノ他必要ナル各種印刷物ノ發刊
五　圖書室ノ公開
六　講話會及講習會ノ開設
七　意匠圖案ノ改良指導
八　其ノ他商品ノ改良及販路ノ擴張ニ關スル施設

第二條　本館ハ前條第一號ニ該當スル業務ヲ行フニ付適當ナル出品又ハ寄贈ヲ受諾ス

出品ノ荷造及運送ニ要スル費用ハ出品者ノ負擔トス

出品ノ保管ニ關シテハ十分ノ注意ヲ爲スト雖モ水火盜難其ノ他避クヘカラサル災害ニ由ル亡失、毀損、汚染等一切ノ損害ニ對シ其ノ責ニ任セス

第三條　第一條第三號及第三號ノ業務ニ關シ特ニ費用ヲ要スルトキハ依賴者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第四條　本館備付ノ參考品ハ地方商品陳列所、實業學校、博覽會、共進會等ヘ出品又ハ貸與スルコトアルヘシ

第五條　本館陳列品ノ觀覽及圖書ノ閱覽ハ無料トス

第六條　本館陳列品ノ觀覽及圖書ノ閱覽ハ大祭祝日ノ翌日及十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄休止スル外每日左記時間中トス

自一月八日至二月末日	午前九時開館	午後四時閉館
自三月一日至十月三十一日	午前八時開館	午後四時閉館
自十一月一日至十二月二十四日	午前九時開館	午後四時閉館

時宜ニ依リ前項ノ時間ヲ伸縮シ又ハ觀覽ヲ停止スルコトアルヘシ

●道府縣市立商品陳列所規程

（大正九年四月二十三日農商務省令第四號　改正　大正九年第二〇號）

道府縣市立商品陳列所規程左ノ通定ム

第一條　商品陳列所ハ左ノ業務ヲ行フ

一　商品ノ見本及參考品ノ陳列展覽
二　商品ノ試賣
三　商品ニ關スル各種ノ調査
四　商取引ニ關スル各種ノ紹介
五　圖書其ノ他刊行物ノ發行蒐集及展覽
六　其ノ他商品ノ改良及販路擴張ニ必要ナル事項

第一條ノ二　商品陳列所ノ產業職員左ノ如シ

所長
主事
技師
主事補
技手

所長ハ主事又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　道府縣市ニ於テ商品陳列所ヲ設立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　名稱及位置
二　業務ノ種類
三　建物ノ種別坪數及圖面
四　設立費及維持費
五　開所年月日
六　所長ノ氏名及履歷
七　規則

前項第一號乃至第三號ニ揭クル事項ヲ變更

セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第七號ニ揭クル事項ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第三條　商品陳列所ノ經費豫算ハ每會計年度開始前農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第四條　商品陳列所ノ每年度業務成績ハ翌年五月三十一日迄ニ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第五條　道府縣市ニ於テ商品陳列所ヲ廢止シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第六條　本規程ニ依リ市ニ於テ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

第七條　本規程ハ大正九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　本規程施行前ニ設立シタル道府縣市立商品陳列所ハ本規程施行ノ日ヨリ一年內ニ第二條ノ規定ニ準シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四款　研究及獎勵

●理化學ヲ研究スル公益法人ノ國庫補助ニ關スル法律

大正五年三月七日
法律第十六號
改正　大正一二年第四〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル理化學ヲ研究スル公益法人ノ國庫補助ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

第一條　產業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其ノ成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ目的トスル公益法人ノ一ニ對シ政府ハ本法施行ノ日ヨリ十七年ヲ限リ每年二十五萬圓以內ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ノ總額ハ四百十五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　前條法人ノ業務ハ農商務大臣ノ監督ニ屬ス

農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ指揮監督シ之カ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正六年勅令第三十二號ヲ以テ同年三月二十六日ヨリ施行）

●產業試驗費講習費國庫補助法

明治三十九年三月十日
法律第九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル產業試驗費講習費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、大藏大臣副署）

產業試驗費講習費國庫補助法

第一條　本法ニ於テ試驗場ト稱スルハ農事工業及水產ニ關スル試驗場、講習所ト稱スルハ農事工業及水產ニ關スル講習所ニシテ主務大臣ノ定メタル規程ニ依リ設立シタルモノヲ謂フ

第二條　本法ニ依リテ交付スル補助金ニ充ツル爲國庫ハ每年金二十萬圓以內ヲ支出ス

第三條　主務大臣ハ府縣ニ於テ設立シ又ハ北海道地方費ヲ以テ設立シタル試驗場又ハ講習所ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

主務大臣ハ補助金ノ用途ヲ指定スルコトヲ得

第四條　補助金ノ交付ハ五箇年ヲ以テ一期トス但シ用途ヲ指定スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ期間滿了ノ後仍必要アルトキハ補助ヲ繼續スルコトヲ得

第五條　補助金ノ年額ハ試驗場又ハ講習所ノ經費總額ノ二分ノ一以內トス

第六條　主務大臣ハ郡市區立ノ試驗場又ハ講習所ニシテ成績顯著ナルモノニ對シ特種ノ試驗ニ要スル材料、機械又ハ裝置ノ費用ヲ補助スルコトヲ得但シ其ノ府縣ニ於テ設立シ又ハ北海道地方費ヲ以テ設立シタル試驗場又ハ講習所ニシテ同種ノ試驗ヲ行フモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ補助金ノ額ハ材料、機械又ハ裝置ニ要スル費用ノ二分ノ一以內トス

第七條　試驗場又ハ講習所ニシテ其ノ管理不適當ナリト認メタルトキ、補助年期間其ノ經費ヲ繼續支出セサルトキ又ハ主務大臣ノ定メタル規程若ハ補助ノ條件ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ補助ヲ廢止シ、停止シ又ハ其ノ額ヲ減スルコトヲ得

第八條　主務大臣ハ工業ニ關スル實驗ヲ工場ニ囑託シ第二條ニ定ムル金額內ニ於テ其ノ費用ヲ支給スルコトヲ得

附　則

第九條　本法ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

府縣農事試驗場國庫補助法ハ之ヲ廢止ス

第十條　試驗場又ハ講習所ニシテ府縣農事試驗場國庫補助法ニ依リ補助ヲ受クルモノハ其ノ補助年期間本法ニ依リ補助ヲ受クルモノト看做ス

●產業試驗費講習費國庫補助法施行規則

明治三十九年三月三十一日
農商務省令第十號
改正　大正元年第一〇號

產業試驗費講習費國庫補助法施行規則左ノ通相定ム

產業試驗費講習費國庫補助法施行規則

第一條　明治三十九年法律第九號產業試驗費講習費國庫補助法ニ規定スル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條　北海道及府縣試驗場講習所補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ハ申請書ニ其ノ試驗場、講習所ノ收支豫算書ヲ添附シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

前項ノ收支豫算書ニハ前年度豫算額及之ニ對スル比較增減ヲ示シ且其ノ細目ニ付詳細ナル說明ヲ附スヘシ

試驗場、講習所カ新ニ設立セラレタル場合ニ於テハ其ノ年度ニ限リ前項ノ規定ヲ適用セス

第三條　地方長官ハ補助年期間內年度ノ收支豫算ヲ每年一月末日迄ニ、豫算ヲ變更シ又ハ豫算ノ追加ヲ爲シタルトキハ二十日以內ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第四條　補助金額ハ月割ヲ以テ交付ス但シ用途ヲ指定シ特別ニ交付スル補助金ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　補助金ハ四月及十月ニ交付ス但シ新ニ許可シタル場合又ハ用途ヲ指定シタル場合ニ於テ交付スル補助金ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　郡市區、試驗場、講習所試驗材料、機械又ハ裝置ノ費用補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ郡市區長ハ申請書ニ材料、機械裝置ニ要スル費用概算書及詳細ナル說明書ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條　地方長官ハ每年道會又ハ府縣會ノ承認ヲ經テ補助ヲ受ケタル試驗場、講習所ノ前年度收支決算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

前項ノ規定ハ郡市區、試驗場、講習所ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ郡市區長ヨリ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

第八條　本則ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年農商務省令第十九號府縣農事試驗場國庫補助法施行規則ハ之ヲ廢止ス

●發明獎勵費交付規則

大正六年十月十三日
農商務省令第二十八號
改正　大正七年第二三號
昭和二年商工省令第三號

發明獎勵費交付規則左ノ通定ム

發明獎勵費交付規則

第一條　優良ナル發明ヲ誘掖獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ每年豫算ノ範圍內ニ於テ發明獎勵費ヲ交付ス

第二條　獎勵費ノ交付ハ左ニ揭クル事項ニ付之ヲ爲スモノトス

一　有益ナル發明ノ見本製作竝之ニ關スル試驗及研究
二　發明ニ關スル共進會ノ開設
三　發明獎勵ニ關スル講演會ノ開催
四　發明ノ懸賞募集
五　發明ノ表彰
六　發明ニ關スル研究室ノ設置
七　道、府縣發明品陳列所ノ設置竝道、府縣陳列所ニ於ケル發明品ノ陳列
八　其ノ他商工大臣ニ於テ發明獎勵ノ爲必要ト認メタル事項

第三條　發明者、其ノ承繼人、發明ノ實施計畫者又ハ發明研究者ニシテ前條第一號ニ揭クル事項ニ付獎勵費ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ費用ノ豫算、補助ヲ受ケムトスル金額及補助ヲ必要トスル理由ヲ具シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

發明獎勵ヲ目的トスル公益法人ニシテ前條第一號ニ揭クル事項ニ付補助金ヲ交付スル爲獎勵費ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ補助豫定書、審查其ノ他補助金交付ニ關スル規程及審查員ノ氏名ヲ記載シタル書面ヲ添附シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第四條　道、府縣、發明獎勵ヲ目的トスル公益法人其ノ他商工大臣ノ適當ト認ムル團體ニシテ發明品共進會ヲ開設シ又ハ其ノ開催ニ係ル共進會ニ發明ニ關スル出品ヲ爲ス爲費用ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書、收支豫算書、共進會規則、審查規程及審查員ノ氏名ヲ記載シタル書面ヲ添附シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第五條　第三條ノ規定ハ道、府縣、發明獎勵ヲ目的トスル公益法人其ノ他商工大臣ノ適當ト認ムル團體ニシテ第二條第三號乃至第五號ニ揭クル事項ニ付獎勵費ノ交付ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五條ノ二　第二條第六號ニ揭クル事項ニ付獎勵費ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ計畫ノ說明書、費用ノ豫算、補助ヲ受ケムトスル金額、補助ヲ必要トスル理由、法人ニ在リテハ尙定款竝最近ノ財產目錄及貸借對照表ヲ具シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第五條ノ三　道、府縣ニシテ第二條第七號ニ揭クル事項ニ付獎勵費ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ計畫ノ說明書、費用ノ豫算、補助ヲ受ケムトスル金額及陳列所規則ヲ具シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第六條　獎勵費交付ノ許可ヲ受ケタル者獎勵費交付申請書又ハ添附書類ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ商工大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第六條ノ二　第二條第六號ニ揭クル事項ニ付獎勵費ノ交付ヲ受ケタル者ハ商工大臣ノ指定スル期間每年其ノ研究ノ狀況ヲ報告スヘシ

第二條第六號ニ揭クル事項ニ付獎勵費ノ交付ヲ受ケテ爲シタル設備ハ商工大臣ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第七條　獎勵費ハ見本又ハ施行報告書及收支計算書ノ提出又ハ實地檢查ノ後之ヲ交付スルモノトス

商工大臣必要ト認メタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス獎勵費ノ交付ヲ爲スコトヲ得

第八條　前條第二項ノ規定ニ依リ獎勵費ノ交付ヲ受ケタル者豫定ノ施行ヲ終了シタルトキハ其ノ報告書及收支計算書ヲ其ノ施行終了後一月內ニ商工大臣ニ提出スヘシ

第九條　第七條第二項ノ規定ニ依リ獎勵費ノ交付ヲ受ケタル者ノ經費支出額カ其ノ豫算額ニ達セサルトキハ商工大臣ハ其ノ交付シタル獎勵費ノ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　獎勵費交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獎勵費ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ許可ノ條件ニ違反シタルトキ、本則ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ其ノ負擔ヲ減少シ其ノ他不正ノ行爲若ハ甚シキ怠慢アリト認ムルトキハ商工大臣ハ獎勵費交付ノ許可ヲ取消シ、獎勵費ノ金額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル獎勵費ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得

獎勵費ノ交付ヲ受ケタル者第八條ノ手續ヲ怠リタルトキ亦前項ニ同シ

第十一條　本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十二條　本則ノ規定ハ實用新案、意匠及商標ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●製鐵業獎勵法

大正十五年三月三十一日
法律第四十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル製鐵業獎勵法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏、商工大臣副署）

製鐵業獎勵法

第一條　一ノ場所ニ於テ一年三萬五千瓲以上ノ製銑能力及一年三萬五千瓲以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第二條　主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間內ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　第一條ノ規定ニ該當セサル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ第一條ノ規定ニ該當スルニ至ルヘキ設備ヲ增設シタルトキハ其ノ增設シタル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者作業上必要ナル場合ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ其ノ場所ニ於テ製銑又ハ製鋼ノ設備ヲ增設シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條　主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十瓲以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル鍛鋼品又ハ鑄鋼品製造事業者ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百瓲以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル低燐銑鐵製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ付亦前項ニ同シ

第五條　第一條乃至前條ニ規定スル製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實アル者ハ前事業者カ本法ニ依ル營業稅、營業收益稅及所得稅免除期間內ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ繼承ス

第七條　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ主務官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　製鐵事業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製鐵事業者ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

一　第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ムトキ
二　主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ第一條ニ規定スル設備ヲ完成スルニ至ルヘキトキ
三　二以上ノ製鐵事業者ノ事業ニシテ主務官廳ニ於テ其ノ作業ノ狀況ニ依リ第一條ニ規定スル製鐵事業ニ準スヘキモノト認メタルトキ

第九條　帝國內ニ於テ製造シタル鋼材カ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條　詐欺ノ行爲ヲ以テ前二條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ償還セシム

第八條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者本法、本法ニ基キテ發スル命令又ハ交付ノ條件ニ違反シタルトキハ其ノ金額ヲ償還セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十一條　第一條ニ規定スル製鐵事業ノ爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ主務官廳ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十二條　本法ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ土地收用法ノ適用ヲ受ケ又ハ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニシテ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ本法施行後五年間仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ從前ノ規定ニ於テ開業ノ年又ハ能力增加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間トアルハ之ヲ開業ノ年又ハ能力增加ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間トシ營業稅トアルハ營業稅及營業收益稅トス

（大正十五年勅令第五十七號ヲ以テ同年四月十日ヨリ施行）

● 製鐵業獎勵法施行令

（大正十五年四月九日 勅令第五十八號）

朕製鐵業獎勵法施行令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、商工大臣副署）

製鐵業獎勵法施行令

第一條　製鐵業獎勵法第一條乃至第四條ニ規定スル製鐵事業ハ銑鐵、鋼鐵、壓延鋼材（軌條及繼目板ヲ含ム）、鍛鋼製品若ハ鑄鋼製品ノ素材又ハ商工大臣ノ指定シタル副生物ノ製造ニ關スル事業トス

製鐵業獎勵法第一條乃至第三條ニ規定スル製鐵事業ハ製銑ニ在リテハ一ノ爐ニ付一日ノ製銑量百瓲以上ノ能力ヲ有スル設備ヲ有スルモノ、製鋼ニ在リテハ一ノ爐ニ付一回ノ製鋼量平爐ニ在リテハ二十五瓲以上、轉爐ニ在リテハ五瓲以上ノ能力ヲ有スル設備ヲ有スルモノトス

製鐵業獎勵法第四條第二項ノ低燐銑鐵製造事業ハ燐ノ標準含有量萬分ノ三以下ノ銑鐵ノ製造事業トス

第二條　製鐵業獎勵法第二條乃至第四條及第八條第二號ノ期間ハ製鐵能力一年三萬五千瓲未滿ノ場合ニ在リテハ二年以內、十萬瓲未滿ノ場合ニ在リテハ三年以內、二十萬瓲未滿ノ場合ニ在リテハ五年以內、二十萬瓲以上ノ場合ニ在リテハ七年以內ニ於テ商工大臣之ヲ定ム

前項ノ期間ハ商工大臣災害其ノ他已ムヲ得サル事由アリト認ムルトキハ三年ヲ限リ之ヲ延長スルコトヲ得

第三條　所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ所得ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受クヘキ事業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トノ存スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第四條　營業稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ營業稅法第十三條ノ規定ニ依リ營業名及課稅標準ヲ申告スルトキ又ハ營業收益稅法第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受クヘキ事業ト其ノ他ノ事業トノ存スルトキハ之ヲ區別シタル內譯書ヲ添附スヘシ

第五條　製鐵業獎勵法第八條第一號及第二號ノ獎勵金ハ本令施行後ノ製造ニ係ル銑鐵ヲ其ノ製造者カ鋼鐵ノ製造ニ使用シタル場合ニ之ヲ交付ス

商工大臣作業ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル事由アリト認ムルトキハ本令施行後ノ製造ニ係ル銑鐵ヲ其ノ製造者カ鋼鐵ノ製造ニ使用セサル場合ト雖前項ノ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

製鐵業獎勵法第八條第三號ノ獎勵金ハ銑鐵製造事業者及鋼鐵製造事業者間ニ於ケル繼續シテ熔銑ヲ供給スルコトヲ目的トスル契約ニ基キ本令施行後ノ製造ニ係ル熔銑カ鋼鐵ノ製造ニ使用セラレタル場合ニ其ノ銑鐵製造者ニ之ヲ交付ス

前三項ノ獎勵金ハ國ノ工場ニハ之ヲ交付セス

第六條　獎勵金ノ金額ハ前條第一項及第三項ノ場合ニ在リテハ鋼鐵ノ製造ニ使用シタル銑鐵一瓲ニ付六圓以內、同條第二項ノ場合ニ在リテハ製鋼ノ用ニ供セラルルコトヲ證明シタル場合ハ銑鐵一瓲ニ付五圓以內、其ノ他ノ場合ハ銑鐵一瓲ニ付三圓以內トス

第七條　製鐵業獎勵法第九條ノ獎勵金ハ左ニ揭クル鋼材ニシテ本令施行後ノ製造ニ係リ其ノ製造者又ハ其ノ製造者ヨリ之ヲ讓受ケタル者カ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用シタルモノニ付之ヲ交付ス但シ國ノ工場ニ於テ製造セラレタル鋼材ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　鋼塊及鋼片（鍛造用ノモノ）

二　條及竿（テー形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及タービンブレーディングヲ含ム）

三　板

四　筒及管（鑄タルモノヲ除ク）

前項第一號ニ揭クル鋼材ヲ其ノ製造者カ加工シテ讓渡シタルトキハ其ノ素材タル鋼材ニ付獎勵金ヲ交付ス

第八條　前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ者カ鋼材ヲ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用セムトスル場合ニ在リテハ其ノ使用ノ前、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ前ニ其ノ鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場ヲ記載シタル屆書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

前項ノ屆書ニハ其ノ鋼材カ海軍艦船以外ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラルル場合ニ於テハ造船者又ハ船舶修繕者カ商工大臣ノ定ムル事項ニ付管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ屆書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付遲滯ナク商工大臣ニ屆出ツヘシ

第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付造船者又ハ船舶修繕者カ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ツヘシ

第九條　第七條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ規定ニ依リテ屆出ヲ爲シタル鋼材カ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ海軍官憲ノ鋼材使用證明書ヲ添附シ、其ノ他ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ鋼材使用說明書及造船者又ハ船舶修繕者カ受ケタル管海官廳ノ竣工承認書ヲ添附シ獎勵金交付申請書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

第十條　第七條ノ獎勵金ノ金額ハ左ノ區別ニ依ル

一　鋼塊及鋼片	其ノ價額ノ一割五分
二　條及竿	一瓲ニ付十八圓三十三錢
三　板	
甲　厚三粍ヲ超エサルモノ	一瓲ニ付二十三圓三十三錢
乙　其ノ他	一瓲ニ付十八圓三十三錢
四　筒及管	
甲　內徑百五十粍ヲ超エサルモノ	其ノ價額ノ一割八分
乙　其ノ他	其ノ價額ノ一割五分
五　關稅定率法別表輸入稅表第四六二號ノ二特殊鋼ニ該當スルモノ	其ノ價額ノ一割八分

前項第一號、第四號及第五號ノ價額ハ第八條第一項ノ使用又ハ引渡ノ時ニ於ケル其ノ鋼材ト同種ノ鋼材ノ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ヲ標準トシテ商工大臣之ヲ定ム

第十一條　輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ器具、機械其ノ他ノ材料ノ種類ハ第一條ニ規定スル製鐵事業ノ爲必要ナル物ニシテ商工大臣ノ指定シタルモノニ限ル

第十二條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告ヲ爲ス場合ニ於テ商工大臣ノ輸入認可書ヲ添附スヘシ

前項ノ輸入申告ハ製鐵事業者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

第十三條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入稅ヲ追徵ス但シ其ノ物ヲ製鐵業獎勵法ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ使用セムトスル場合ニ於テ商工大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ旨稅關ニ申告シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　商工大臣必要ト認ムルトキハ營業稅、營業收益稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ニ對シ製鐵事業ニ關スル書類又ハ製鐵原料若ハ製品ノ試料ノ提出ヲ命シ又ハ當該官吏ヲシテ製鐵事業ニ關スル設備、帳簿其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

輸入稅ノ免除ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ニ對シ亦同シ

商工大臣必要ト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ニ對シ前項ノ書類又ハ試料ノ提出ヲ命シ、當該官吏ヲシテ前項ノ檢査ヲ爲サシメ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條　收稅官吏又ハ稅關官吏必要ト認ムルトキハ前條第一項ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十六條　第二條、第五條、第八條乃至第十條及第十四條中商工大臣トアルハ製鐵業獎勵法ヲ朝鮮ニ施行スル範圍ニ於テハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ大正十五年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

製鐵業獎勵法附則第二項ニ規定スル製鐵事業ニ付テハ土地ノ收用使用又ハ輸入稅ノ免除ニ關シ仍舊製鐵業獎勵法施行令ニ依ル

製鐵業獎勵法附則第三項ニ規定スル製鐵事業ニ付テハ第一條第一項第三項及第二條ノ規定ヲ準用ス

本令施行前大正十年七月二十日以後ノ製造ニ係ル第七條ノ鋼材ニシテ第八條第一項ノ使用又ハ引渡カ本令施行前ナルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ、本令施行後ナルモノニ付テハ本令ノ規定ニ準シ獎勵金ヲ交付ス

● 製鐵業獎勵法施行規則

（大正十五年四月九日 商工省令第二號）

製鐵業獎勵法施行規則ヲ左ノ通改正ス

製鐵業獎勵法施行規則

第一條　製鐵業獎勵法施行令第一條ノ副生物ノ種類左ノ如シ

鑛滓綿
鑛滓煉瓦
鑛滓瓦
高爐セメント
タール
無水タール
輕油
中油
重油
ピッチ
アムモニア
アムモニア水
硫酸アムモニア
粗製ナフサリン
アンスラシン
ベンゾール
トルオール
キシロール
ソルベントナフサ

第二條　製鐵業獎勵法第二條乃至第四條及第八條第二號ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ工事著手前左ニ揭クル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

一　製鐵所ノ名稱及位置

二　事業資金ノ總額及其ノ出資方法

三　設備ノ概要及設計圖

四　生產ノ順序方法

五　生產豫定額（種類別ニ記載スヘシ）

六　工事ノ著手及完成ノ時期

七　工事計畫ノ概要及其ノ豫算（年度割ヲ示スヘシ）

八　原料取得ノ計畫

九　營業稅、營業收益稅及所得稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得サル製鐵事業ヲ併セ營ム場合ニ於テハ其ノ事業ノ概要

前項ノ申請書ニハ工事施行仕樣書及製鐵事業者法人ナルトキハ其ノ定款ヲ添附スヘシ

第三條　製鐵業獎勵法第二條乃至第四條及第八條第二號ノ認可ヲ受ケタル者其ノ設備ヲ完成シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨商工大臣ニ屆出ツヘシ

第四條　製鐵業獎勵法第六條ニ規定スル製鐵事業者ハ其ノ繼承シタル事業ニ付遲滯ナク第二條第一項第一號乃至第五號、第八號及第九號ニ揭クル事項ヲ商工大臣ニ屆出ツヘシ

第五條　製鐵業獎勵法第八條第一號ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第二條第一項第一號乃至第五號、第八號及第九號ニ揭クル事項ヲ豫メ商工大臣ニ屆出ツヘシ但シ製鐵業獎勵法第二條、第三條及第八條第二號ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

製鐵業獎勵法第八條第三號ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ豫メ商工大臣ニ屆出ツヘシ

一　各製鐵所ノ名稱及位置

二　各製鐵所ノ事業資金ノ總額及其ノ出資方法

三　各製鐵所設備ノ概要及設計圖

四　各製鐵所間ノ作業聯絡ノ方法（作業聯絡ノ關係ヲ明ニスル圖面ヲ添附スヘシ）

五　熔銑ノ供給豫定額及其ノ熔銑ヲ使用シテ製造スル鋼鐵ノ生產豫定額

六　熔銑ヲ供給スル製鐵所ニ於ケル銑鐵生產豫定額及其ノ原料取得ノ計畫

七　各製鐵所間ニ於ケル繼續シテ熔銑ヲ供給スルコトヲ目的トスル契約

前二項ノ規定ニ依リ屆出テタル事項ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ツヘシ

第六條　製鐵業獎勵法第八條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ製鐵業獎勵法施行令第六條ノ區別ニ從ヒ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ銑鐵ノ數量ヲ具シテ獎勵金ノ交付ヲ商工大臣ニ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　銑鐵ノ生產額及繰越額（既ニ獎勵金ノ交付ヲ申請シタルモノヲ除ク）ヲ記載シタル書類

二　銑鐵製造事業者其ノ製造シタル銑鐵ヲ製鋼用トシテ他ノ鋼鐵製造事業者ニ供給シタル場合ニ於テハ製鋼ノ用ニ供セラルルコトヲ證スル書類竝引渡ノ數量及時期ヲ明ニスル書類

第七條　營業稅、營業收益稅及所得稅ノ免除ヲ受ケ若ハ受ケムトスル者作業ヲ開始シ又ハ休止シタルトキハ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ツヘシ

第八條　製鐵業獎勵法施行令第八條第一項ノ屆出ヲ爲シタル者其ノ屆書ニ記載シタル鋼材ヲ引渡シタルトキハ遲滯ナク引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造時期、製造工場及引渡時期ヲ商工大臣ニ屆出ツヘシ

第九條　製鐵業獎勵法施行令第八條第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

甲　船舶建造ノ場合

一　造船者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　船舶ノ製造番號

四　船舶ノ建造ニ使用スヘキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量

五　起工及竣工ノ期日

乙　船舶修繕ノ場合

一　船舶修繕者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　特定ノ船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱、其ノ他ノ場合ニ在リテハ一年ヲ超エサル一定ノ期間

四　前號ノ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材又ハ前號ノ期間內ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量

第十條　製鐵業獎勵法施行令第九條ノ鋼材使用說明書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　鋼材ノ使用者及使用工場

二　船舶ノ建造ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ製造番號、船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱

三　使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場

四　鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

第十一條　輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ物ノ種類左ノ如シ

一　碎鑛機、鐵鑛選別機、磁選機竝燒結機、原料壓榨機及其ノ附屬裝置

二　製銑爐、熱風爐、骸炭爐、混銑爐、製鋼爐、瓦斯發生爐、均熱爐又ハ加熱爐ノ構成金物及其ノ附屬機械（但シ送風機ハ每分二百立方米以上ノ送風能力ヲ有スルモノニ限ル）

三　製銑爐、熱風爐、骸炭爐、混銑爐及製鋼爐ノ耐火材料

四　鑄銑機

五　乾風裝置及其ノ附屬機械

六　瓦斯淸淨裝置（瓦斯除塵機ヲ含ム）及其ノ附屬機械

七　洗炭裝置及其ノ附屬機械

八　骸炭爐副生物捕集裝置及其ノ附屬機械

九　壓延用ロール機（引拔機ヲ含ム）及其ノ附屬裝置

十　壓延工場用ノ輸送テーブル、鋸斷機、剪斷機、卷束機及機械的冷却裝置

十一　精整用ノ鑽孔機、穿孔機、矯正機、鋸斷機、剪斷機及鋼管螺絲切機

十二　ロール仕上機

十三　鋼材鍛錬用ノ機錘、水壓機及其ノ附屬裝置

十四　五百馬力以上ノ瓦斯機關、瓦斯發電機、排汽發電機及其ノ附屬裝置

十五　壓延用ロール機（引拔機ヲ含ム）ノ附屬原動機及其ノ原動機ノ附屬裝置

十六　原料又ハ製品輸送用ノ起重機及連續的輸送裝置

十七　材料强弱試驗機

十八　前各號ニ揭クル機械ノ部分品（但シ壓延用ロールハ徑七百五十耗以上ノチルドロールニ限ル）竝其ノ機械ト共ニ一組トシテ輸入セラルル附屬品、附屬原動機及其ノ原動機ノ附屬裝置

十九　徑五百四十耗以上ノ電氣爐用炭素電極

第十二條　製鐵業奬勵法第十一條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

一　輸入セムトスル物ノ品名、數量、性質、能力及價額

二　輸入セムトスル物ノ用途及之ヲ使用スヘキ工場其ノ他ノ設備ノ說明

三　輸入ヲ必要トスル事由

四　製造者及輸出者

五　輸入豫定ノ時期及港

第十三條　製鐵業奬勵法施行令第十三條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

一　輸入認可書寫

二　用途ヲ變更セムトスル物ノ品名、數量、用途及之ヲ使用スヘキ工場其ノ他ノ設備ノ說明

三　用途ノ變更ヲ必要トスル事由

第十四條　輸入税ノ免除ヲ受ケタル物ヲ目的タル用途ニ供シタルトキハ遲滯ナク左ニ揭クル事項ヲ商工大臣ニ屆出ツヘシ

一　輸入認可書寫

二　輸入シタル物ノ品名及數量

三　使用工場名及使用時期

四　輸入ノ時期及港

輸入税ノ免除ヲ受ケタル物ヲ目的タル用途ニ供セサルニ至リタルトキハ遲滯ナク其ノ事由竝前項第一號、第二號及第四號ニ揭クル事項ヲ商工大臣ニ屆出ツヘシ

第十五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ハ原料及燃料ノ取得及消費、製品ノ生產及販賣又ハ引渡其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスヘキ書類帳簿ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クヘシ

第十六條　營業税、營業收益税及所得税ノ免除ヲ受ケ若ハ受ケムトスル者又ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケ若ハ受ケムトスル者ハ其ノ製鐵事業ニ付毎年一月三十一日迄ニ其ノ前年ノ事業報告書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

前項ノ事業報告書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　營業概況

（一）事業資金ノ總額及內譯

（二）從業者數（職員ト勞働者トヲ區別シテ記載スヘシ）

（三）生產及販賣ノ數量及價額

（四）收支決算

（五）其ノ他營業概況ヲ明ニスヘキ事項

二　設備概況

（一）敷地面積

（二）工場建物ノ棟數及建坪

（三）銑鐵、鋼鐵及鋼材ノ製造ノ設備及能力

（四）原動機ノ種類、用途、數及實馬力

（五）輸送設備

（六）其ノ他主要ナル設備

三　作業概況（主要ナル設備毎ニ記載スヘシ）

（一）操業開始ノ時期

（二）操業日數

（三）勞働者數及其ノ延工數

（四）生產額

（五）主要ナル原料及燃料ノ使用額（生產地別ニ記載スヘシ）

營業税、營業收益税及所得税ノ免除ヲ受クルコトヲ得サル製鐵事業ヲ併セ營ム場合ニ於テハ前項第一號及第二號ニ揭クル事項ニ付テハ其ノ區別ヲ明ニスヘシ

附　則

本則ハ大正十五年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第九條ノ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項ニ付テハ大正十五年五月十四日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

製鐵業奬勵法附則第二項ニ規定スル製鐵事業ニ付テハ第一條、第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用ス

製鐵業奬勵法附則第三項ニ規定スル製鐵事業ニ付テハ第三條及第四條ノ規定ヲ準用ス

●海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則

（大正十年十月十日海軍省令第十七號　改正　大正一一年第一九號）

海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則左ノ通定ム

海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則

第一條　製鐵業奬勵法施行令第五條ノ四ニ依リ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル鋼材ニ付海軍官憲ノ鋼材使用證明書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ本則ニ依リ鋼材使用證明申請ヲ爲スヘシ

第二條　鋼材使用證明申請ハ其鋼材カ海軍工作廳ニ於ケル海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ在リテハ當該海軍工作廳長、海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ノ爲ニ使用セラレタル場合ニ在リテハ其工場所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ニ之ヲ爲スヘシ

鋼材カ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場ト異リタル工場（以下下請工場ト稱ス）ニ於ケル該艦船ノ一部分ノ製作ニ使用セラレタル場合ニ在リテハ前項ノ申請ハ當該下請工場タル海軍工作廳長又ハ當該下請工場所在地方ニ駐在スル海軍造船監督官ニ之ヲ爲シ其ノ證明ヲ受ケタル後當該船體ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス海軍工作廳長又ハ當該船體ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場所在地方ニ駐在スル海軍造船監督官ノ證明ヲ受クヘシ

第三條　鋼材使用證明申請ヲ爲サムトスル者ハ製鐵業奬勵法施行令第五條ノ三第一項ノ屆書ヲ農商務大臣ニ提出スルト同時ニ前條ノ申請ヲ爲スヘキ海軍工作廳長又ハ海軍造船監督官ニモ提出スヘシ

前項ノ屆書ハ鋼材製造者其ノ鋼材ヲ海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス者ニ引渡ス場合ニ在リテハ其ノ引取人ト連署スルコトヲ要ス

第一項ノ屆書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ヲ遲滯ナク海軍工作廳長又ハ海軍造船監督官ニ屆出ツヘシ

第四條　前條ノ屆書ニ記載シタル鋼材ヲ海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ノ爲使用セムトスル者ニ引渡シタルトキハ其ノ都度引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造工場製造時期及引渡時期ヲ海軍造船監督官ニ屆出ツヘシ

第五條　鋼材使用證明申請ハ左ノ事項ヲ具備シタル申請書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地

二　鋼材ヲ製造シタル工場ノ名稱及位置

三　鋼材ヲ使用シタル工場ノ名稱及位置

四　鋼材カ使用セラレタル艦船ノ名稱又ハ假稱呼及第二條第二項ノ場合ニ在リテハ該部分品ノ名稱

五　使用鋼材ノ種類、數量及用途

六　鋼材ノ製造者カ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲ爲シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材ノ引渡時期

第六條　第四條ノ屆書及前條ノ申請書ニ記載スヘキ物品ノ種類及數量ニ付テハ其ノ名稱、鋼質、寸法、個數、重量及用途ヲ明ニスヘシ

第七條　海軍工作廳長又ハ海軍造船監督官ハ必要アルトキハ申請書ニ具備セル事項ノ補正ヲ命スルコトヲ得

第八條　申請書ハ二通トシ申請者署名捺印スルコトヲ要ス

第九條　海軍工作廳長又ハ海軍造船監督官ハ申請書ヲ調査シ證明ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ申請書一通ノ末尾ニ證明ノ旨、番號及年月日ヲ記入シ署名捺印ノ上申請者ニ交付スヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●染料製造奬勵ニ關スル法律

（大正十四年三月三十日法律第二十九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル染料製造奬勵ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務、大藏大臣副署）

第一條　政府ハ染料ノ製造ヲ奬勵スル爲本法施行ノ日ヨリ六年ヲ限リ毎年百萬圓以內ノ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

前項奬勵金ノ總額ハ六年ヲ通シ四百萬圓以內トス

第一項ノ染料ノ品種ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　本法ニ依リ奬勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國法律ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リコールタール分溜物ノ處理ヲ以テ染料製造ノ工程ヲ開始スルコトヲ要ス

第三條　奬勵金ノ額ハ各品種ニ付其ノ市價及生產費ヲ標準トシ相當利益ヲ參酌シテ主務大臣毎年之ヲ定ム

第四條　詐欺ニ因リ會社カ奬勵金ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ受ケタル奬勵金ニ法定利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

前項ノ償還金ハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國税ニ次クモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十四年勅令第三百一號ヲ以テ同年十月十五日ヨリ施行）

●大正十四年法律第二十九號施行規則

（大正十四年十月十三日商工省令第十號）

大正十四年法律第二十九號施行規則左ノ通定ム

大正十四年法律第二十九號施行規則

第一條　大正十四年法律第二十九號ニ依リ奬勵金ヲ受クル會社ハ奬勵金ヲ受クヘキ染料ノ製造ニ必要ナル中間物ノ中左ニ揭クルモノハ自ラ之ヲ製造スヘシ

ニトロベンゾール
ニトロトルオール
アニリン
トルイヂン
ヂメチルアニリン
モノエチルアニリン
ヂエチルアニリン
エチルベンヂルアニリン
アセトアニリード
ベンヂヂン
ヂアニシヂン
ベンジルクロリード
サリチール酸
アミドサリチール酸
ミクラースケトン
テトラメチルヂアミドヂフェニル　メタン
無水フタール酸
ニトロナフタリン
ナフチルアミン
ナフトール
フェニルナフチルアミン
ナフチルアミンスルフォン酸
トリルナフチルアミンスルフォン酸
フェニルナフチルアミンスルフォン酸
アミドナフトールスルフォン酸
アミドナフトールヂスルフォン酸
フェニルアミドナフトールスルフォン酸
カルボニルアミドナフトールスルフォン酸
キナルヂン
アンスラキノーン
アミドアンスラキノーン
エチルカーバゾール
カーバゾールインドフェノール
オキシナフトエ酸

會社ハ特別ノ事由アルトキハ商工大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ揭クル中間物中其ノ一部ヲ自ラ製造セサルコトヲ得

第二條　奬勵金ヲ受ケムトスル會社ハ奬勵金ヲ受ケムトスル染料ノ名稱及一年間ノ製造豫定數量竝製造開始時期ヲ具シ商工大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　前條ノ許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　定款

二　株主名簿（各株主ニ付其ノ所有株式數ヲ記載シ且無記名ノ株式アルトキハ其ノ數ヲ附記スヘシ）

三　取締役及擔當技術者ノ名簿

四　最近ノ財產目錄、貸借對照表及收支決算書

五　奬勵金ヲ受ケムトスル染料ノ製造技術研究報告書（製品ノ見本ヲ添附スヘシ）

六　奬勵金ヲ受ケムトスル染料ノ製造ノ方法、設備（圖面ヲ添附スヘシ）、能力及豫定計畫（製造開始後二年間各營業年度別ニ記載スヘシ）ニ關スル說明書

七　奬勵金ヲ受ケムトスル染料ニ關スル收支計算見積書（設備ニ要スル資本ヲ各設備毎ニ明記スヘシ）

前項ノ添附書類中本則ノ規定ニ基キ既ニ商工大臣ニ提出シタルモノニ付テハ變更ナキ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル會社ハ其ノ營業年度ヲ終リタルトキハ奬勵金ヲ受クヘキ染料ノ其ノ年度內ニ製造シタル數量ヲ具シ奬勵金ノ交付ヲ商工大臣ニ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ大正十四年法律第二十九號第二條第一項ニ規定スル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

附　則

本則ハ大正十四年法律第二十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正十四年法律第二十九號第一條第三項ノ規定ニ依ル染料ノ品種指定

（大正十四年十月十三日勅令第三百二號）

朕大正十四年法律第二十九號第一條第三項ノ規定ニ依ル染料ノ品種指定ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、商工大臣副署）

大正十四年法律第二十九號第一條第三項ノ規定ニ依リ染料ノ品種ヲ指定スルコト左ノ如シ

一　ヴィクトリア　ブルー
二　マジェンタ
三　ローダミン　ジー
四　サフラニン
五　オーラミン
六　ダイレクト　ファスト　ブラック
七　ダイレクト　ブラック　ビー　エッチ
八　ダイレクト　コッパー　ブルー
九　ダイレクト　ブルー　六ビー
十　ダイレクト　ファスト　スカーレット
十一　ダイレクト　ヴァイオレット
十二　アシッド　ファスト　ブラック
十三　アシッド　ファスト　ブルー
十四　キノリン　エロー
十五　ウール　グリーン　エス
十六　アシッド　ヴァイオレット
十七　クローム　ブラック　エフ
十八　カーバゾール　ヴァット　ブルー
十九　アンスラキノーン　ヴァット　ブルー
二十　ベタ　ヒトロキシ　ナフトエ酸　アニリード

附　則

本令ハ大正十四年法律第二十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●水産冷藏獎勵規則

（大正十二年五月十五日農商務省令第十一號）

水産冷藏獎勵規則左ノ通定ム

水産冷藏獎勵規則

第一條　水産物ノ冷藏ヲ獎勵スル爲水産物ノ冷藏運搬船及冷藏庫竝水産物冷藏用氷雪ノ貯氷庫ニ對スル獎勵金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條　獎勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ地方公共團體、帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人又ハ帝國臣民ニ限ル但シ會社ニ在リテハ其ノ社員又ハ株主ノ全員カ帝國臣民ナルコトヲ要ス

第三條　冷藏運搬船ニ對スル獎勵金ハ冷藏設備ヲ有スル日本船舶ヲ新造シ若ハ改造シ又ハ日本船舶ニ冷藏設備ヲ新設シ、增設シ若ハ日本船舶ノ冷藏設備ヲ改造シタル船舶所有者ニ對シ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ交付ス

一　船體　新造費又ハ改造費ノ十分ノ二以内

二　機關　新造費又ハ改造費ノ十分ノ二以内

三　冷藏設備　新設費、增設費又ハ改造費ノ十分ノ五以内

前項ノ船體ノ新造費又ハ改造費ハ無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ新造費又ハ改造費ヲ包含ス

第四條　冷藏庫又ハ貯氷庫ニ對スル獎勵金ハ冷藏庫若ハ貯氷庫ヲ新設シ若ハ增設シ、建物ヲ冷藏庫若ハ貯氷庫ニ改造シ又ハ冷藏庫ノ冷藏設備若ハ貯氷庫ノ防熱設備ヲ增設シ若ハ改造シタル冷藏庫又ハ貯氷庫ノ所有者ニ對シ之ヲ交付ス但シ其ノ金額ハ新設費、增設費又ハ改造費ノ三分ノ一以内トス

第五條　獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

一　第一號樣式ニ依ル冷藏運搬船、冷藏庫又ハ貯氷庫ノ要綱書

二　圖面及仕樣書

三　第二號樣式ニ依ル業務目論見書

四　第三號樣式ニ依ル豫算書

獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者カ法人ナルトキハ前項ノ書類ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ但シ其ノ法人カ會社ニ非サルトキ又ハ會社カ帝國臣民ノミヲ以テ組織スルモノナルコトヲ定款ニ明示セルトキハ第二號ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要セス

一　定款又ハ寄附行爲

二　社員又ハ株主ノ氏名

三　代表者ノ氏名

第一項第二號ノ圖面ハ冷藏運搬船ニ在リテハ船體圖、機關圖及冷藏設備圖、冷藏庫又ハ貯氷庫ニ在リテハ建物圖及冷藏設備圖又ハ防熱設備圖ノ各種ニ分チ之ヲ作成スヘシ船體圖ハ中央截面圖、中心線縱截面圖竝各甲板及艙内平面圖、冷藏設備圖ハ冷藏機械圖、配管裝置圖及防熱設備圖トス

冷藏運搬船ヲ新造スル場合ニ於テハ前項ノ圖面ノ外木船ニ在リテハ船體線圖、鋼船ニ在リテハ船體線圖竝船體中心線縱截面、各甲板及艙内平面ノ鋼材配置圖ヲ作成スヘシ

第六條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ農商務大臣ノ指定シタル時期ニ於テ冷藏運搬船、冷藏庫又ハ貯氷庫ニ付農商務大臣ノ指定シタル檢査員ノ檢査ヲ受クヘシ

第七條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者工事ノ仕樣ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ冷藏運搬船ノ船體若ハ機關ノ製造所又ハ冷藏庫若ハ貯氷庫ノ所在ノ場所ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

農商務大臣前項ノ認可ヲ爲スニ際シ其ノ許可シタル獎勵金ノ額ヲ變更スルコトアルヘシ

第八條　農商務大臣ハ檢査員ノ報告ニ依リ獎勵金ヲ交付スヘキモノト認メタルトキハ檢査合格證ヲ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者ニ交付ス

獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者獎勵金ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ冷藏運搬船ニ在リテハ檢査合格證及船舶檢査證書寫ヲ、其ノ他ノモノニ在リテハ檢査合格證ヲ添ヘ請求書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第九條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ解散シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ其ノ相續人又ハ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニシテ引續キ其ノ事業ヲ營ムトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者獎勵金ノ交付ヲ受クル前ニ於テ其ノ事業ヲ讓渡セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依リ讓渡ノ認可ヲ受ケタルトキハ讓受人ヲ以テ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十一條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ檢査合格證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年間水産物ノ冷藏運搬、水産物ノ冷藏保管又ハ水産物冷藏用氷雪ノ貯藏若ハ水産物氷藏ノ爲其ノ冷藏運搬船、冷藏庫又ハ貯氷庫ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス但シ獎勵金交付ノ許可ノ條件ニ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ支障ナキ限リ其ノ業務以外ニ之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得

第十二條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ檢査合格證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ船體、機關、建物、冷藏設備、防熱設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ現狀ニ重大ナル變更ヲ爲サムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ檢査合格證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年間其ノ冷藏運搬船、冷藏庫又ハ貯氷庫ヲ外國人若ハ外國人ヲ社員、株主トスル會社ニ讓渡シ、貸付シ若ハ擔保ニ供シ又ハ其ノ事業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十四條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ檢査合格證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨農商務大臣ニ屆出ツヘシ

一　氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ

二　法人ノ代表者ヲ變更シタルトキ

三　冷藏運搬船、冷藏庫又ハ貯氷庫ヲ貸付シタルトキ

四　所有者又ハ使用者ノ變更アリタルトキ

五　冷藏運搬船滅失シ、沈沒シ捕獲セラレ又ハ修繕不能若ハ行方不明トナリタルトキ

六　冷藏庫又ハ貯氷庫滅失シ又ハ火災其ノ他ノ事變ニ因リ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲スヘキ者カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ、行方不明トナリタルトキハ其ノ戸主、家族又ハ管理人ヨリ、解散シタルトキハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ檢査合格證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年間每事業年度終了後二月内ニ第四號樣式ニ依ル業務報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十六條　農商務大臣及地方長官ハ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ニ對シ檢査合格證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年間何時ニテモ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ業務執行ノ狀況ヲ檢査シ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條　本則ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ冷藏運搬船ニ關スルモノニ在リテハ提出者ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ、其ノ他ノモノニ在リテハ冷藏庫又ハ貯氷庫ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第十八條　第十三條、第十四條第一項第一號乃至第三號、同條第二項、第十五條及第十六條ノ規定ハ冷藏運搬船、冷藏庫又ハ貯氷庫ノ貸付ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

第十九條　獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者若ハ其ノ承繼人又ハ前條ニ該當スル者本則ノ規定若ハ本則ノ規定ニ依ル處分又ハ獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキハ農商務大臣ハ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ニ對シ獎勵金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル會社又ハ其ノ承繼人タル會社ニシテ檢査合格證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ第二條但書ノ規定ニ該當セサルニ至リタルモノニ對シ亦同シ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

冷藏運搬船要綱書

一　船主及船名

二　船體ノ長、幅、深

三　外板及船骨材料

四　總噸數

五　機關ノ種類及數

六　實馬力又ハ純馬力

七　速力

八　冷室ノ數、各冷室ノ面積及容積竝最低保持溫度

九　冷藏品收容量

十　冷藏機械ノ種類及冷却力製氷量

十一　無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ發電機ノ負荷容量

十二　豫定起工年月日

十三　豫定竣工年月日

十四　製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

十五　製造又ハ据付場所

備考　船舶ノ改造又ハ冷藏設備ノ新設、增設若ハ改造ノ場合ニ於テハ現在及新計畫ニ區別シテ記載スヘシ

冷藏庫要綱書

一　冷藏庫及附屬建物ノ敷地坪數、建坪數（各階別）及所在ノ場所

二　外部建築材料ノ種類

三　冷室ノ數、各冷室ノ面積及容積竝最低保持溫度

四　冷藏品收容量

五　冷藏機械ノ種類及冷却力製氷量

六　豫定起工年月日

七　豫定竣工年月日

備考　冷藏庫又ハ冷藏設備ノ增設又ハ改造ノ場合ニ於テハ現在及新計畫ニ區別シテ記載スヘシ

貯氷庫要綱書

一　貯氷庫及附屬建物ノ敷地坪數、建坪數（各階別）及所在ノ場所

二　外部建築材料ノ種類

三　氷室ノ數、各氷室ノ面積及容積

四　貯藏量

五　豫定起工年月日

六　豫定竣工年月日

備考　貯氷庫又ハ防熱設備ノ增設又ハ改造ノ場合ニ於テハ現在及新計畫ニ區別シテ記載スヘシ

第二號樣式

冷藏運搬船業務目論見書

一　業務計畫ノ概要

二　冷藏品ノ種類及種類別冷藏溫度

三　冷藏品ノ冷藏方法

四　業務期間及航路

五　船員職務別人員表

六　業務豫算

　(一)起業費

　(二)收支

　(三)損益

冷藏庫業務目論見書

一　業務計畫ノ概要

二　冷藏品ノ種類及種類別冷藏溫度

三　冷藏品ノ冷藏方法

四　業務豫算

　(一)起業費

　(二)收支

　(三)損益

貯氷庫業務目論見書

一　業務計畫ノ概要

二　貯藏品又ハ氷藏品ノ種類

三　貯藏方法又ハ氷藏方法

四　業務豫算

　(一)起業費

　(二)收支

　(三)損益

第三號樣式

冷藏運搬船新造（船舶ノ改造、冷藏設備ノ新設、增設、改造）費豫算書

一　船舶

　(一)船體（艤裝、屬具、据付費ヲ含ム）

　(二)機關（据付費ヲ含ム）

二　冷藏設備

　(一)冷藏機械（据付費ヲ含ム）

　(二)原動機（傳導裝置費、機械据付費ヲ含ム）

　(三)配管裝置

　(四)防熱設備

三　無線電信裝置、無線電話裝置

冷藏庫新設（冷藏庫又ハ冷藏設備ノ增設、改造）費豫算書

一　建物

　(一)冷藏庫

　(二)機械室

　(三)附屬室

二　冷藏設備

　(一)冷藏機械（機械据付費、基礎工事費ヲ含ム）

　(二)原動機（傳導裝置費、機械据付費、基礎工事費ヲ含ム）

　(三)配管裝置

　(四)防熱設備

貯氷庫新設（貯氷庫又ハ防熱設備ノ增設、改造）費豫算書

一　建物

　(一)貯氷庫

　(二)附屬室

二　防熱設備

第四號樣式

冷藏運搬船業務報告書

一　船名

二　所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱

三　業務ノ概要

四　從業期間及航路

五　航海日數

六　冷藏品ノ種類別數量（航海別）

七　冷藏品ノ種類別冷藏溫度

八　冷藏品ノ運搬料（種類別、運搬距離別、季節別）

九　收支及損益

冷藏庫業務報告書

一　所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱

二　冷藏庫所在ノ場所

三　業務ノ概要

四　冷藏品ノ種類別數量（別記第一號表及第二號表ニ依リ記載スルコト）

五　冷藏品ノ種類別冷藏溫度

六　冷藏品ノ保管料（種類別、期間別、季節別）

七　收支及損益

貯氷庫業務報告書

一　所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱

二　貯氷庫所在ノ場所

三　業務ノ概要

四　貯藏品又ハ氷藏品ノ種類別數量

五　貯藏品ノ販賣數量（用途別）及販賣價額（卸、小賣別、四季別）又ハ氷藏品ノ保管料（種類別、期間別、季節別）

六　收支及損益

備　考

一　業務報告書ハ船舶每ニ又ハ倉庫ノ所在ノ場所每ニ之ヲ作成スヘシ但シ區分シ難キ事項ハ包括記載スルヲ妨ケス

二　種類ハ重要魚介別ニ記入スヘシ

三　數量ノ單位ハ可成貫ニ依ルヘシ但シ貫ニ依ラサル場合ハ記入單位ト貫トノ換算法ヲ記入スヘシ

別記第一號表

冷藏品ノ種類別出庫入庫數量表

數量＼種類		鮮魚介類	鯛	鰤	、	鹽魚介類	鮭	鱒	、
一月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
二月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
三月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
四月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
五月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
六月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
七月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
八月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
九月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
十月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
十一月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
十二月	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							
計	入庫數量	貫							
	出庫數量	貫							

別記第二號表

冷藏品ノ種類別及入庫期間別數量表（自何年何月何日 至何年何月何日）

冷藏期間別數量＼種類	鮮魚介類	鯛	鰤	、	鹽魚介類	鮭	鱒	、
五日以下								
十日以下								
一箇月以下								
三箇月以下								
三箇月以上								

●製鐵業奬勵法施行規則

（大正十五年五月十四日 朝鮮總督府令第四十五號）

製鐵業奬勵法施行規則左ノ通改正ス

製鐵業奬勵法施行規則

第一條　製鐵業奬勵法第八條第二號ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ工事著手前左ニ掲クル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

一　製鐵所ノ名稱及位置

二　事業資金ノ總額及其ノ出資方法

三　設備ノ概要及設計圖

四　生産ノ順序方法

五　生産豫定額（種類別ニ記載スヘシ）

六　工事ノ著手及完成ノ時期

七　工事計畫ノ概要及其ノ豫算（年度割ヲ示スヘシ）

八　原料取得ノ計畫

前項ノ申請書ニハ工事施行仕様書及製鐵事業者法人ナルトキハ其ノ定款ヲ添附スヘシ

第二條　製鐵業奬勵法第八條第二號ノ認可ヲ受ケタル者其ノ設備ヲ完成シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第三條　製鐵業奬勵法第八條第一號ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第一條第一項第一號乃至第五號及第八號ニ掲クル事項ヲ豫メ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ製鐵業奬勵法第八條第二號ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

製鐵業奬勵法第八條第三號ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ豫メ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

一　各製鐵所ノ名稱及位置

二　各製鐵所ノ事業資金ノ總額及其ノ出資方法

三　各製鐵所設備ノ概要及設計圖

四　各製鐵所間ノ作業聯絡ノ方法（作業聯絡ノ關係ヲ明ニスル圖面ヲ添附スヘシ）

五　熔銑ノ供給豫定額及其ノ熔銑ヲ使用シテ製造スル鋼鐵ノ生産豫定額

六　熔銑ヲ供給スル製鐵所ニ於ケル銑鐵生産豫定額及其ノ原料取得ノ計畫

七　各製鐵所間ニ於ケル繼續シテ熔銑ヲ供給スルコトヲ目的トスル契約

前二項ノ規定ニ依リ届出テタル事項ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第四條　製鐵業奬勵法第八條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ製鐵業奬勵法施行令第六條ノ區別ニ從ヒ奬勵金ノ交付ヲ受クヘキ銑鐵ノ數量ヲ具シテ奬勵金ノ交付ヲ朝鮮總督ニ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　銑鐵ノ生産額及繰越額（既ニ奬勵金ノ交付ヲ申請シタルモノヲ除ク）ヲ記載シタル書類

二　銑鐵製造事業者其ノ製造シタル銑鐵ヲ製鋼用トシテ他ノ鋼鐵製造事業者ニ供給シタル場合ニ於テハ製鋼ノ用ニ供セラルルコトヲ證スル書類竝引渡ノ數量及時期ヲ明ニスル書類

第五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者作業ヲ開始シ又ハ休止シタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第六條　製鐵業奬勵法施行令第八條第一項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ届書ニ記載シタル鋼材ヲ引渡シタルトキハ遲滯ナク引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造時期、製造工場及引渡時期ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第七條　製鐵業奬勵法施行令第八條第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

甲　船舶建造ノ場合

一　造船者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　船舶ノ製造番號

四　船舶ノ建造ニ使用スヘキ鋼材ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量

五　起工及竣工ノ期日

乙　船舶修繕ノ場合

一　船舶修繕者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　特定ノ船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱、其ノ他ノ場合ニ在リテハ一年ヲ超エサル一定ノ期間

四　前號ノ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材又ハ前號ノ期間内ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量

第八條　製鐵業奬勵法施行令第九條ノ鋼材使用説明書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　鋼材ノ使用者及使用工場

二　船舶ノ建造ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ製造番號、船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱

三　使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場

四　鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

第九條　奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ハ原料及燃料ノ取得及消費、製品ノ生産及販賣又ハ引渡其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスヘキ書類帳簿ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クヘシ

第十條　奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ハ其ノ製鐵事業ニ付毎年一月三十一日迄ニ其ノ前年ノ事業報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

前項ノ事業報告書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　營業概況

（一）事業資金ノ總額及内譯

（二）從業者數（職員ト勞働者トヲ區別シテ記載スヘシ）

（三）生産及販賣ノ數量及價額

（四）收支決算

（五）其ノ他營業概況ヲ明ニスヘキ事項

二　設備概況

（一）敷地面積

（二）工場建物ノ棟數及建坪

（三）銑鐵、鋼鐵及鋼材ノ製造ノ設備及能力

（四）原動機ノ種類、用途、數及實馬力

（五）輸送設備

（六）其ノ他主要ナル設備

三　作業概況（主要ナル設備毎ニ記載スヘシ）

（一）操業開始ノ時期

（二）操業日數

（三）勞働者數及其ノ延工數

（四）生産額

（五）主要ナル原料及燃料ノ使用額（生産地別ニ記載スヘシ）

附　則

本令ハ大正十五年四月十日ヨリ之ヲ適用ス

第七條ノ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項ニ付テハ大正十五年五月十四日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

●産業奬勵補助規程

（大正七年六月八日 樺太廳令第二十一號）

改正　大正八年第九號、一四年第二九號

産業奬勵補助規程左ノ通定ム

産業奬勵補助規程

第一條　國有未開地ノ貸付ヲ受ケ又ハ土地ヲ所有シ農業ヲ營ム者若ハ農業者ヲ以テ組織シタル組合ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ補助金ヲ交付スルコトアルヘシ

一　管外ヨリ家畜ヲ移入シタルトキ

二　管内ニ於テ種畜ノ資質アル家畜ヲ購入シタルトキ

三　農業、農産製造及農家ノ副業ニ要スル器具機械ヲ購入シタルトキ

前項第一號又ハ第二號ニ依リ既ニ補助ヲ受ケタル家畜ノ購入若ハ牧畜ヲ主トスル農業者カ爲シタル種畜ノ資質ナキ家畜ノ移入ニ對シテハ補助金ヲ交付セス

第二條　種牡牛馬ヲ所有シテ種付ヲ行ヒ若ハ種畜貸付規則ニ依リ種畜ノ貸付ヲ受ケタル者ニハ其ノ飼養費ヲ補助スルコトアルヘシ

第三條　産業ノ奬勵上必要ト認ムル工事又ハ事業若ハ産業ニ關スル品評會等ニ對シ其ノ經費ヲ補助シ又ハ器具機械ヲ貸付スルコトアルヘシ

第四條　補助ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類ヲ添附シ樺太廳長官ニ願出ツヘシ

一　家畜ニ付テハ其ノ所有竝移入又ハ購入ヲ證スル書類、血統證謄本、公獸醫ノ檢斷書、牛（馬）籍謄本、畜牛健康證但シ種畜以外ノモノハ血統證謄本ヲ要セス

二　器具機械ニ付テハ其ノ購入ヲ證スル書類

三　飼養費ニ付テハ種牡牛馬ノ種類、名號、年齡、毛色、體尺、特徴、飼養管理、種付ノ方法及飼養費豫算ヲ記載シタル書類　但シ貸付種畜ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

四　工事又ハ事業ニ付テハ其ノ種類、設計書、圖面、經營方法、資本金、生産見込額、經費收支豫算其ノ他必要ト認ムル事項ヲ記載シタル書類

五　品評會等ニ付テハ會則、經費收支豫算、出品種類、出品豫定人員及點數竝役員氏名ヲ記載シタル書類

前項ノ家畜及農具其ノ他ノ器具機械ハ指定ノ場所ニ於テ官吏吏員ノ檢査ヲ受クヘシ

第五條　補助金額ノ標準左ノ如シ

一　牛馬

種畜ノ資質アルモノ

牛　一頭ニ付金三百圓以内

馬　一頭ニ付金三百五十圓以内

其ノ他ノモノハ一頭ニ付金百圓以内

二　削除

三　種牡牛馬飼養費

牛　一頭ニ付　一月ヨリ四月ニ至ル四月間及十一月十二月ノ二月間ハ一月金十一圓以内五月ヨリ十月ニ至ル六月間ハ一月金七圓以内

馬　一頭ニ付　一月ヨリ四月ニ至ル四月間及九月ヨリ十二月ニ至ル四月間ハ一月金十四圓以内五月ヨリ八月ニ至ル四月間ハ一月金十圓以内

前項ニ掲クルモノノ外補助金額ノ標準ハ其ノ都度之ヲ定ム

第六條　補助金ハ特ニ指定シタルモノヲ除キ左ノ場合ニ於テ之ヲ交付ス

一　家畜及器具機械ニ付テハ第四條第二項ニ依ル檢査ヲ終了シタルトキ

二　飼養費ニ付テハ前月分ヲ其ノ翌月

三　工事又ハ事業ニ付テハ工事ヲ竣功シ又ハ其ノ事業ヲ終了シテ成績書等ヲ提出シタルトキ

四　品評會等ニ付テハ種類別出品人員、點數、等級別授賞數、觀覽人員、審査概評及經費收支決算ヲ報告シタルトキ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ實地檢査ヲ爲スコトアルヘシ

第七條　樺太廳長官ハ補助シタル家畜ノ飼養管理、種付、器具機械ノ保管、工事又ハ事業若ハ品評會等ニ對シ隨時官吏吏員ヲシテ監督指示セシメ又ハ關係帳簿書類等ノ檢査ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條　第一條ニ依リ補助ヲ受ケタル者ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ家畜ニ在リテハ三年間器具機械ニ在リテハ二年間之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第九條　補助ヲ受ケタル者ハ家畜ノ斃死、失踪若ハ癈疾ニ歸シタルトキ又ハ器具機械ヲ亡失シ又ハ毀損シテ使用ニ堪エサルニ至ラ

シメタルトキハ其ノ事由ヲ具シ五日以内ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ但シ前條ノ期間ヲ經過シタルモノ及貸付種畜ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第十條　私有又ハ部落有種牡牛馬ノ移入、購入又ハ飼養費ノ補助ヲ受ケタル者ハ其ノ種付頭數、種付回數及配合牝畜ノ分娩頭數竝其ノ性ヲ記載シタル報告書ヲ翌年一月十日迄ニ樺太廳長官ニ差出スヘシ

第十一條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ補助ヲ取消シ若ハ補助金ノ全部又ハ一部ヲ返納セシムルコトアルヘシ

一　第六條第二項ノ檢査ニ合格セサルトキ
二　第七條ノ指示ニ從ハサルトキ又ハ帳簿書類ノ檢査ヲ拒ミタルトキ
三　第八條ニ違反シタルトキ
四　第九條ノ屆出又ハ第十條ノ報告ヲ怠リタルトキ
五　許可ノ條件ニ違反シタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農事獎勵補助規程ハ之ヲ廢止ス但シ同規程ニ依リ補助金ノ交付ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ規程ヲ適用ス

●工藝作物獎勵規程

（大正二年六月樺太廳令第十四號）

工藝作物獎勵規程

第一條　本島產工藝作物獎勵ノ爲本規程ニ依リ其ノ種苗ヲ配付シ又ハ生產物ヲ購入ス

第二條　配付スヘキ種苗及購入スヘキ工藝作物ノ種類、數量及購入價格ハ每年別ニ之ヲ定ム

第三條　工藝作物栽培ノ目的ヲ以テ種苗ノ配付ヲ受ケムトスル者ハ每年四月十日迄ニ所轄支廳ニ願出ツヘシ

第四條　種苗ノ配付ヲ受ケタル者ハ指定ノ方法ニ依リ栽培スヘシ

第五條　配付シタル種苗ノ栽培ニ關シテハ隨時吏員ヲ派遣シ必要ト認ムル事項ヲ指示スルコトアルヘシ

第六條　種苗ノ配付ヲ受ケタル者ハ七月二十日其ノ作物ノ概況ヲ所轄支廳ニ報告スヘシ

第七條　種苗ノ配付ヲ受ケタル者其ノ收穫ヲ終リタルトキハ指定ノ標本ヲ添ヘ作物ノ種類、作付段別、收穫量竝作付概況ヲ收穫後十日以内ニ所轄支廳ニ報告スヘシ

第八條　種苗ノ配付ヲ受ケタル者ハ種子又ハ標本トシテ收穫物ノ讓受ヲ希望スル者アルトキハ其ノ希望ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　工藝作物ノ購入ヲ受ケムトスル者ハ每年九月三十日迄ニ所轄支廳ニ願出ツヘシ

第十條　購入スヘキ工藝作物ハ指定ノ期日及場所ニ於テ檢査ヲ受ケ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第十一條　本規則第四條、第六條、第七條及第八條ニ違反シ若ハ第五條ノ指示ニ從ハス又ハ配付ヲ受ケタル種苗ヲ當初ノ目的ニ使用セス又ハ目的以外ニ費消シタルトキハ現品ノ返還ヲ命シ又ハ代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●椰子栽培獎勵規則

（大正十一年九月一日南洋廳令第十九號）

椰子栽培獎勵規則左ノ通定ム

椰子栽培獎勵規則

第一條　椰子樹ノ新植ヲ爲シ又ハ椰子林ノ整理ヲ爲スモノニシテ支廳長ニ於テ適當ナリト認ムル者ニハ當該年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ下付ス

第二條　獎勵金ヲ下付スヘキ場合及其ノ金額ノ範圍左ノ如シ

一　一町步以上町當百本乃至二百本植ノ新植ヲ爲ス場合一町步ニ付二十圓以内
二　一町步以上町當百本乃至二百本ニ間伐補植、雜草木ノ刈除ヲ爲ス場合一町步ニ付十圓以内

第三條　獎勵金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ第一號樣式ニ依リ每年三月末日限リ所轄支廳長ニ願出ツヘシ

第四條　獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニシテ新植又ハ整理ヲ了シタルトキハ第二號樣式ニ依リ十日内ニ所轄支廳長ニ屆出ツヘシ

第五條　獎勵金ノ下付ヲ受ケタル者ハ爾後二箇年間其ノ椰子林ノ補植ヲ爲シ年二回雜草木ノ刈除ヲ爲スヘシ

第六條　支廳長ハ補助金ノ下付ヲ受ケタル者ニ對シ必要ナル事項ニ付命令ヲ發スルコトヲ得

第七條　第五條又ハ第六條ニ依リ發スル命令ニ違反シ若ハ成績不良ト認ムルトキハ獎勵金ノ下付ヲ取消シ若ハ減額シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ一部若ハ全部ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第三條ノ獎勵金下付出願期限ハ十月三十一日迄トス

第一號樣式

椰子栽培獎勵金下付願

一所　在　地　何島何村字何（官有貸下地、私有地、島民有借地）
一種　類　何々
一新植（整理）面積　何町步
一新植樹數及其ノ方法（整理方法）　三角植（方形植）何本一町步ニ付何本正（間伐何本、補植何本、雜草木刈除一町步ニ付何本ニ整理シ總樹數何本）
一施　業　期　間　年月日開墾植付著手年月日終了（年月日雜草荊蕀刈拂間伐補植著手年月日終了）
一經費又ハ所要ノ人夫數

右椰子栽培獎勵規則ニ依リ獎勵金下付相成度此段相願候也

年　月　日

住　所　氏　名印

何支廳長殿

備考　借地ニ在リテハ其ノ權利ヲ證明スヘキ書類寫ヲ添付スヘシ

第二號樣式

椰子新植（整理）終了屆

一指令年月日及番號
一所　在　地　何島何村字何（官有貸下地、私有地、島民有借地）
一種　類　何々
一新植（整理）面積　何町步
一新植樹數及其ノ方法（整理方法）　三角植（方形植）何本一町步ニ付何本正（間伐何本、補植何本雜草荊蕀刈拂一町步ニ付何本植ニ整理シ總樹數何本）
一施　業　期　間　年月日開墾植付著手年月日修了（年月日雜草荊蕀刈拂間伐補植著手年月日修了）

右椰子栽培獎勵規則ニ依リ及屆出候也

年　月　日

住　所　氏　名印

何支廳長殿

●商工業補助規則

（大正十一年九月一日南洋廳令第二十號）

商工業補助規則左ノ通定ム

商工業補助規則

第一條　左ノ業務ヲ營ム者ニシテ支廳長ニ於テ適當ト認ムル者ニハ當該年度豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ設備費又ハ營業費ニ對シ補助金ヲ下付ス

一　洗濯業
二　靴業
三　理髮業
四　仕立業
五　旅館業
六　前號ノ外支廳長ニ於テ必要ト認ムル業務

第二條　補助金ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ每年三月末日限リ所轄支廳長ニ願出ツヘシ

一　出願者ノ住所、氏名、年齡及業務ノ經歷
二　業務ノ種類
三　業務ノ場所
四　前條第一號乃至第四號ノ業務ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ從業者ノ氏名、年齡及業務ノ經歷
五　前各號ノ外設備費ノ補助ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ其ノ設備及之ニ要スル經費調書營業費ノ補助ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ其ノ營業計劃及收支豫算調書
六　旅館業ヲ營ム者ニ在リテハ前各號ノ外家屋ノ構造、間取、坪數ヲ知ルニ足ルヘキ圖面

第三條　補助金下付ノ指令ヲ受ケタル者其ノ設備ヲ整ヘ又ハ業務ヲ開始シタルトキハ十日内ニ所轄支廳長ニ屆出ツヘシ

第四條　補助金ヲ受ケタル者ハ翌年四月中ニ前年度ニ於ケル業務ノ成績及收支決算ヲ所轄支廳長ニ屆出ツヘシ

第五條　補助金ノ下付ヲ受ケタル者ハ所轄支廳長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ當該年度間十日以上引續休業シ又ハ廢業スルコトヲ得ス

第六條　支廳長ハ補助金ノ下付ヲ受ケタル者ニ對シ必要ナル事項ニ付命令ヲ發スルコトヲ得

第七條　第五條又ハ第六條ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキハ補助金ノ下付ヲ取消シ若ハ補助金ヲ減額シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ一部若ハ全部ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第二條ノ補助金下付出願期限ハ十月三十一日迄トス

第十章　移住　拓殖

第一款　移住

●北海道移住民規則

（明治三十九年七月三日內務省令第二十二號　改正　明治四三年第二〇號）

明治三十年四月拓殖務省令第三號北海道移住民規則左ノ通改正ス

北海道移住民規則

第一條　開墾ノ目的ヲ以テ北海道ニ移住セントスルモノハ現住地ノ市區町村長ノ證明ヲ受クルコトヲ得但移住者ノ便宜ニ依リ郡長ノ證明ヲ受クルモ妨ナシ

第二條　削除

第三條　第一條ノ願出アリタルトキハ郡市區町村長ハ之ヲ調査シ確實ト認ムルモノニ限リ證明ヲ與フヘシ

第四條　前條ノ證明ヲ有シ規約ヲ締結シテ團結移住ヲ爲サントスルモノ、爲メニ北海道廳長官ハ別ニ定メタル規定ニ從ヒ其ノ出願ニ依リ開墾地ノ豫定存置ヲ爲スコトアルヘシ

第五條　證明ヲ受ケタル後一箇年ヲ經過シタルトキハ豫定存置ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニアラサレハ府縣ニ於テ北海道ニ移住スヘキ小作人ヲ募集シ又ハ小作人ヲシテ北海道ニ移住セシムルコトヲ得ス

一　國有未開地ノ貸付賣拂許可書又ハ北海道廳長官北海道廳支廳長ノ證明書ヲ有スル本人又ハ代理人
二　北海道移住民ノ募集ヲ業トスルモノニシテ其ノ募集人員ニ付豫メ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケタルモノ

第七條　當該官吏又ハ市町村吏員ヨリ前條ノ指令書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　第六條第七條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條　第六條ニ依ル小作人ノ募集又ハ移住ヲ妨害シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

●北海道移住民ニ對スル汽車電車汽船ノ特別取扱方

（大正二年五月二十四日內務省告示第三十一號　改正　大正三年第四一號、四年第九號、第三四號、七年第二號、八年第三六號、九年第五三號、一〇年第二號、一三年第七六八號、一四年第二九號）

北海道移住民ニ對スル汽車電車汽船ノ特別取扱方左ノ通改定ス

第一條　北海道以外ノ地ヨリ北海道ニ移住スル者ニシテ汽車、電車、汽船ノ特別取扱ヲ受ケントスルトキハ居住地ノ府縣廳、島廳、郡市區役所、警察署、北海道廳移住民取扱事務所、北海道廳ヨリ派遣シタル移住民取扱員又ハ地方長官ニ於テ指定シタル警察分署、町村役場ニ申出テ割引證ノ下付ヲ請フヘシ

居住地ニ於テ割引證ヲ受ケサル者ハ旅行先ノ當該官公署、北海道廳移住民取扱事務所又ハ北海道廳ヨリ派遣シタル移住民取扱員ニ其ノ下付ヲ請フコトヲ得

第二條　前條ノ割引證ヲ携帶スル者ハ移住ノ往路ニ限リ左ノ區別ニ依ル割引ヲ以テ乘車乘船スルコトヲ得但シ急行券ヲ要スル急行車船又ハ優等級ノ車船室ニ乘ルコトヲ得ス

鐵道省所管ノ鐵道汽船	五割引
東武鐵道株式會社ノ鐵道	同
水戸鐵道株式會社ノ鐵道	同
上武鐵道株式會社ノ鐵道	同
川越鐵道株式會社ノ鐵道	同
青梅鐵道株式會社ノ鐵道	同
上野鐵道株式會社ノ鐵道	同
足尾鐵道株式會社ノ鐵道	同
龍ケ崎鐵道株式會社ノ鐵道	同
小坂鐵道株式會社ノ鐵道	同
越後鐵道株式會社ノ鐵道	同
魚沼鐵道株式會社ノ鐵道	同
駿豆電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同
豐川鐵道株式會社ノ鐵道	同
尾西鐵道株式會社ノ鐵道	同
西尾鐵道株式會社ノ鐵道	同
近江鐵道株式會社ノ鐵道	同
河南鐵道株式會社ノ鐵道	同
南海鐵道株式會社ノ鐵道	同
高野登山鐵道株式會社ノ鐵道	同
播州鐵道株式會社ノ鐵道	同
中國鐵道株式會社ノ鐵道	同
伊豫鐵道株式會社ノ鐵道	同
高松電氣軌道株式會社ノ鐵道	同
東讚電氣軌道株式會社ノ鐵道	同

島原鐵道株式會社ノ鐵道	同
苫小牧輕便鐵道株式會社ノ鐵道	同
日本郵船株式會社ノ汽船	同
關西汽船同盟ノ汽船	
關西汽船同盟航路	同
大阪商船會社尼崎汽船部ノ内地非同盟航路	同
内國通運株式會社ノ汽船	同
銚子汽船株式會社ノ汽船	同
陸奥灣汽船合資會社ノ汽船	同
新潟縣藤田儲吉ノ汽船（北越丸）	二割五分引
新潟運送株式會社ノ汽船（大平丸）	同
越佐汽船株式會社ノ汽船（度津丸）	同
富山縣南島間作ノ汽船（志賀丸）	五割引
原田商行ノ汽船	同
中越汽船株式會社ノ汽船	同
北洋汽船株式會社ノ汽船	同
隱岐汽船株式會社ノ汽船	同
兵庫縣横山汽船部ノ汽船	同
奥澤汽船合資會社ノ汽船	同
山口縣島谷德三郎ノ汽船	同
宇和島運輸株式會社ノ汽船	同
東豫運輸株式會社ノ汽船	同
南豫運輸株式會社ノ汽船	同
石崎汽船部ノ汽船	同
住友別子鑛業所ノ汽船（御代島丸、木津川丸、第一四坂丸、第二四坂丸）	同
阿波共同汽船株式會社ノ汽船	同
大川運輸株式會社ノ汽船	同
熊本縣高田義丸ノ汽船	同
九州汽船株式會社ノ汽船	同
對馬運輸株式會社ノ汽船	同
長崎縣岩崎福夬ノ汽船	同
長崎縣一瀬貞吉ノ汽船	同
北海道石垣隈太郎ノ汽船	同
北海道吉田庄作ノ汽船（北海丸、第二松前丸）	同
北海道渡邊熊四郎ノ汽船（日ノ丸、福山丸）	同
北海道能登善吉ノ汽船（福島丸、函館丸）	同
北海道工藤嘉七ノ汽船（茅部丸、鳳至丸）	同
北海道平出商店海運部ノ汽船	同
北海道澤口庄作ノ汽船（幸明丸、勢至丸）	同
北海道西出孫左衞門ノ汽船（福重丸）	同
北海道渡邊政次郎ノ汽船（平安丸）	同
北海道酒谷長一郎ノ汽船（豐漁丸）	同
北海道入江函館出張店扱ノ汽船	同
北海道阿部新七扱ノ汽船	同
北海道飯岡新吉扱ノ汽船	同
北海道宮本武之助扱ノ汽船	同
北海道樋口多喜藏扱ノ汽船	同
北海道齊藤清七扱ノ汽船	同
北海道高松庫太郎扱ノ汽船	同
北海道藤里英三ノ汽船（第一浚波丸、第二浚波丸、第一生田丸、枝幸丸）	同
北海道藤山要吉ノ汽船	同
北海道橋本清吉ノ汽船（北球丸）	同
北海道岩田榮造ノ汽船（室蘭丸）	同
北海道吉田三郎右衞門ノ汽船	同
北海道從二宇左衞門ノ汽船（金川丸、萬歳丸）	同
北海道山本久右衞門ノ汽船	同
北海道舩村佐助ノ汽船（第二新湊丸）	同
北海道山本厚三ノ汽船	同
北海道花田傳作ノ汽船	同
北海道吉田榮ノ汽船	同
北海道堀田久ノ汽船	同
北海道相田周平ノ汽船	同
北海道濱名甚五郎ノ汽船	同
北海道服部回漕店扱ノ汽船	同
北海道保坂回漕店扱ノ汽船	同
北海道高橋倉太郎ノ汽船	同
北海道巴回漕店ノ汽船	同
北海道金澤長太郎ノ汽船	同
北海道齊藤丈雄ノ汽船	同
北海道村田喜三郎ノ汽船	同
北海道服部佐吉ノ汽船	同
北海道前田榮次郎ノ汽船	同
北海道前田利一ノ汽船	同
北海道澤口庄助ノ汽船	同
北海道西出孫左衞門ノ汽船（生玉丸、榮久丸、福重丸）	同
北海道山崎松藏ノ汽船（隆陽丸）	同
北海道澤口啓藏ノ汽船（英航丸）	同
北海道佐藤一郎ノ汽船	同
北海道犬山慶五郎ノ汽船（札幌丸、鳥羽丸）	同
北海道大家善太郎ノ汽船	同
北海道上林回漕店扱ノ汽船	同
北海道泉谷回漕店扱ノ汽船	同
北海道島谷回漕店扱ノ汽船	同
北海道佐野回漕店扱ノ汽船	同
北海道大島商店回漕部扱ノ汽船	同
北海道藤野函館支店ノ汽船	同
北海道昌榮商會ノ汽船	同
北海道對馬汽船部ノ汽船	同
北海道板村商船部扱ノ汽船	同
吉田回漕合名會社扱ノ汽船	同
丸一本間合名會社ノ汽船	同
合資會社佐藤商會ノ汽船	同
樺太汽船合資會社ノ汽船	同
噴火灣汽船株式會社ノ汽船	同
日高汽船株式會社ノ汽船	同
釧勝興業株式會社ノ汽船	同
板谷商船株式會社ノ汽船	同
安田商事合名會社運搬部ノ汽船（酒田丸）	同
幌泉汽船株式會社ノ汽船（帝淨丸）	同
室蘭運輸合名會社ノ汽船（いろは丸）	同
千島汽船株式會社ノ汽船	同
北海產業合資會社ノ汽船（築榮丸）	同
壽都汽船株式會社ノ汽船	同
北日本汽船株式會社ノ汽船	同

第三條　鐵道省線及之ト連帶運輸ノ取扱ヲ爲ス地方鐵道、軌道又ハ汽船（以下單ニ連帶線ト謂フ）ニシテ各連絡驛行ノモノニ對シテハ連絡割引乘車船券ヲ發賣ス

第四條　鐵道省線及連帶線ニ於テハ移住民ノ手荷物ハ一般旅客ノ手荷物ト同一トシ其ノ無賃制限斤量ヲ超過スル分ニ對シテハ普通手荷物運賃ノ五割引トス但シ割引運賃ノ最低額ハ金拾五錢トス

鐵道省線ニ於テハ家具及農具ノ類ハ大貨物扱トシ普通運賃ノ二割引トシ其ノ最低運賃ヲ金貳拾錢トス此ノ場合ニ於テハ第八條所定ノ割引證ニ必要事項ヲ記入ノ上荷物運送狀ト共ニ之ヲ發送驛ニ提出スルモノトス

鐵道省線及連帶線以外ノ地方鐵道、軌道又ハ汽船ニ於ケル手荷物制限外斤量ニ對スル運賃割引ハ第二條ノ例ニ依ル

第五條　荷物ニハ住所、氏名及送先驛ヲ記載シタル強靭ナル荷札ヲ附著スルノ外更ニ左ノ如ク記載シタル白布ヲ四ツ折トシ荷物ノ兩端ニ蝶形ニ結ヒ付クルモノトス

一尺二寸

二寸五分

何驛行　移住民荷物何箇ノ口何號
何國何郡何村字何行
何府縣何郡何村字何
何驛出　何　某

第六條　割引證ハ避クヘカラサル事故ニ依リ滅失シタル場合ノ外再ヒ之ヲ下附セス

割引證ヲ所持シテ乘車セル移住民ニシテ移住ニ關シ北海道廳又ハ支廳若ハ移住民取扱事務所ノ指示ヲ受ケンカ爲其ノ所在地ニ降車シタル場合ニ於テ移住地ヲ變更シ又ハ乘車切符ノ通用期限ヲ經過シタルモノアルトキハ北海道廳又ハ支廳若ハ移住民取扱事務所ハ更ニ移住地迄ノ割引券ヲ下附スルコトヲ得

第七條　當該官吏ニ於テ北海道移住民ニアラスシテ北海道移住民乘車船賃割引證ヲ携帶スル者ヲ發見シタルトキハ其ノ割引證ヲ沒收スルコトヲ得

第八條　割引證ノ樣式左ノ如シ但シ從來ノ樣式ニ依ル割引證ハ大正十四年三月三十一日迄之ヲ使用スルコトヲ得

（本片ハ青森若クハ北海道内上陸地ノ移民取扱事務所ニ於テ切取ルモノトス）

○　縣　郡　村字　○

（全戸主／一部非戸主）移住者　外　名内（男　人／女　人）

移住ノ目的		
信頼者ノ住所氏名	國　郡　村	
發著驛（港）	發驛（港）	著驛（港）
荷物個數	大荷物	手荷物
割引證交付官公署名	交付年月日及番號	大正　年　月　日第　號

●備考（一）本欄記事ハ割引證交付ノ官公署ニ於テ記入スヘシ但荷物個數ノ欄ニ限リ北海道廳移民取扱事務所ニ於テ記入スルモノトス

（二）全戸トハ人員ノ如何ニ拘ラス一家中始メテ北海道ニ移住スルモノヲ云ヒ一部トハ一家中ノ先住者ヲ頼リテ移住スルモノヲ云フ

（三）信頼者トハ北海道ニ於ケル移住者ノ頼リ先ヲ云フ

表

北海道移住者タルコトヲ確認シテ本證ヲ交付ス　交付官公署長印

住所

職　氏名　年齢

妻　年齢

父　年齢

母　年齢

長男　年齢

北海道移住者割引證　鐵道省印　三等

何々行

大正　年　月　日　交付官公署印

第　號（急行料金ヲ要スル急行列車及上等ノ車船室ニ乘ル場合ハ割引セス）

右何人

北海道移住者汽車汽船運賃割引證　自　至	同右	同右
同上	同上	同上
同上	同上	同上

一寸七分　一寸七分　一寸七分

二寸四分　一寸二分　一寸二分　一寸二分

裏

第　號　大正　年　月　日　官公署交付	同右	同右
同上	同上	同上
同上	同上	同上

取扱檢印

攜帶心得

一　本證ハ一家族中移住スヘキ者ニ對シ一枚（割引證切取片ノ餘分ハ之ヲ切離シ必要ノ分ノミヲ附シテ）ヲ交付スルモノトス但シ家族多數ニシテ割引證切取片ニ不足ヲ生スルトキハ二枚以上交付スルコトアルヘシ

二　本證ハ他人ニ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得サルモノトス

三　本證ヲ攜帶スル者ハ移住者ノ爲ニ設ケラレタル特典ヲ受ケ得ルモノトス

四　本證ハ乘車券又ハ乘船券購求ノ際係員ニ差出シ割引證ノ切取ヲ受クルモノトス

五　本證記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所在ノ官公署ニ本證ヲ提出シテ再交付ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

六　移住地ニ到著シタルトキハ移住者取扱官ニ本證ヲ提出シ上陸月日及取扱官ノ記名捺印ヲ受クヘキモノトス否ラサレハ未開地貸付其ノ他ノ特典ヲ受ケ得サルコトアルヘシ

七　官公吏ニ於テ移住者取扱上本證ノ一覽ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

八　本證記載事項ニ加除訂正ヲ受ケ若ハ移住調ヲ受ケタルトキハ其ノ都度取扱檢印ノ欄ヘ其ノ事由ヲ記シ取扱者ノ押印ヲ受クルモノトス

九　本證ヲ使用セサルトキハ速カニ交付ヲ受ケタル官公署ニ返付スヘキモノトス

十　本證ノ有效期間ハ交付ノ日ヨリ六十日間トス

●北海道移住民汽車賃汽船賃割引券取扱方

（明治三十六年十一月三十日内務省訓令第十二號）
改正　明治三九年第一一號

北海道廳　府縣

【本年内務省告示第九十號】ニ依ル北海道移住民ノ汽車賃汽船賃割引券取扱方左ノ通定ム

第一條　割引券ノ下附ヲ請フ者アルトキハ左ノ事項ヲ調査シテ之ヲ下附スヘシ

一　一時ノ出稼ニアラサル者
二　生業ノ目的ヲ以テ移住スル者
三　移住ニ要スル旅費ヲ辨シ得ル者

第二條　告示第三條但書ニ依リ特ニ乘降地ヲ指定シタル官公署ハ乘車五日以前ニ其ノ乘降スヘキ驛名竝ニ乘車人員ヲ鐵道作業局運輸部ニ通知スヘシ但割引券下附後ニ在リテハ之ヲ訂正スヘシ

第三條　割引券ハ移住季節前所要數ヲ豫定シテ之ヲ内務省ニ請求シ送付ヲ受ケタル割引券ハ自ラ下附スルモノヲ除キ直ニ所屬官公署ニ分配スヘシ但臨時入用ノ場合ハ當該官公署（警察分署町村役場ヲ除ク）ヨリ直接之ヲ内務省ニ請求スルコトヲ得

第四條　割引券ノ受拂ヲ爲シタル官公署ニ於テハ割引券受拂簿竝ニ下附簿ヲ設ケテ左ノ事項ヲ記入スヘシ

受拂簿ニ記入スヘキ事項

受入ノ年月日、員數竝ニ送越ノ官公署、拂出ノ年月日、分配及下附ノ員數、棄却ノ事由及員數竝ニ每月末現在高

下附簿ニ記入スヘキ事項

券面ノ番號、下附ノ年月日、受領人ノ住所、身分、職業、移住ノ目的、氏名、年齡竝券面ニ記載シタル家族ノ名、年齡

●北海道移住民渡航船舶取締規則

（明治三十一年八月十六日内務省令第八號）

北海道移住民渡航船舶取締規則左ノ通相定ム

北海道移住民渡航船舶取締規則

第一條　北海道移住民一百名以上ヲ搭載セントスル船舶ハ其都度左ノ事項ヲ掲記シ船長又ハ船舶所有者ヨリ所轄警察署ヘ届出ツヘシ其寄港及著港シタル場合亦同シ但一時間以内ノ寄港ニシテ移住民ヲ搭載セサル場合ハ此限ニアラス

一　船名　船籍地　登簿噸數　旅客定員
　船舶所有者及船長ノ氏名
二　發航ノ日時　寄港地著港地及其日時
三　搭載スル移住民ノ員數船賃及貨物運搬賃
四　食料ノ種類及其供給ノ方法
五　移住民又ハ回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ト特別ノ契約アルトキハ其契約

第二條　前條ノ届出ヲ受ケタル警察署ハ直ニ其船舶ヲ臨檢スヘシ

第三條　前條ノ臨檢ヲ爲シタル警察署ハ第一條各號ノ事項及發航日時ヲ直ニ其寄港地及著港地ノ各警察署ヘ通報スヘシ

第四條　第一條ノ船舶ハ第二條ノ臨檢ヲ受ケタル後ニアラサレハ發航スルコトヲ得ス

第五條　回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ハ移住民渡航ノ都度左ノ事項ヲ掲記シ所轄警察署ヘ届出ツヘシ但移住民十名以下ナルトキハ此限ニアラス

一　船名及發航日時
二　移住民ノ員數船賃及渡航周旋料又ハ手數料
三　移住民又ハ船舶所有者若ハ船長トノ契約
四　移住民ヲ投宿セシメタルトキハ其月日

第六條　前條ノ渡航周旋料又ハ手數料ヲ不當ナリト認ムルトキハ所轄警察署ハ之ヲ低減セシムルコトヲ得

第七條　回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者正當ノ理由ナクシテ第五條ノ發航日時ニ移住民ヲ出發セシメサルトキハ其出發延期ノ爲ニ生スル移住民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第八條　回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ハ第五條ノ船賃宿泊料渡航周旋料又ハ手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移住民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條ノ届出ヲ爲サスシテ航行シ又ハ同條若ハ第五條ノ場合ニ於テ虛欺ノ届ヲ爲シタル者
二　第四條ノ臨檢以前ニ發行シタル者
三　第五條ノ届出ヲ爲サスシテ周旋ヲ爲シタル者
四　第八條ニ違背シ金錢又ハ物品ヲ受ケタル者
五　船舶内ニ於テ天災其他避クヘカラサル事故ニ由ルニアラスシテ飲食物ノ供給ヲ怠リタル者

第十條　前條ハ商事會社ニ在リテハ其所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役又ハ使用人ニ之ヲ適用ス

●移住奬勵補助規則

（大正十五年六月二十三日樺太廳令第十九號）

移住奬勵補助規則左ノ通定ム

移住奬勵補助規則

第一條　樺太ニ新ニ移住シ樺太廳長官ノ指定シタル國有未開地ノ貸付ヲ受ケ農業ヲ營ム者ニハ本令ニ依リ補助ヲ爲スコトヲ得但シ樺太ニ上陸シタル翌月ヨリ六月以内ニ本籍地又ハ寄留地町村長ノ移住證明書ヲ添附シ指定地ノ貸付願ヲ提出シタルコトヲ要ス

第二條　前條ノ指定地ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　補助ハ第一期及第二期ニ分ツ

第一期補助ヲ受クル者ハ指定地ノ貸付ヲ受ケ該地域内ニ住居ヲ構ヘタルコトヲ要ス

第二期補助ヲ受クル者ハ指定地ノ貸付ヲ受ケタル翌年七月末日マテニ貸付地ヲ一町歩以上開墾作付シタルコトヲ要ス

第四條　單身移住者ニハ第一期補助ヲ爲サズ但シ前條第三項ノ期間内ニ家族ヲ呼寄セタルトキハ第一期補助額相當ノ金額ヲ併セテ補助スルコトアルヘシ

第五條　第三條第三項ノ開墾作付地ニハ直徑五寸以下ノ根株ヲ殘存スルコトヲ得ズ

創蒔、燒蒔、坪蒔又ハ耕作面積ノ三割以上ノ牧草ノ栽培地ハ開墾作付地ニ通算セズ

第六條　補助ヲ受ケムトスル者ハ別記書式ノ願書ヲ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ニ提出シ第三條乃至第五條ノ實蹟ニ付キ檢査ヲ受クヘシ

第七條　補助金額ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

第一期補助　金百五十圓以内
第二期補助　金百五十圓以内

土地ノ狀況及開墾ノ難易ニ依リ必要アリト認メタルトキハ各期ノ補助額ヲ增減スルコトアルヘシ但シ兩期分ヲ合算シテ四百圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第八條　補助ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル時ハ本令ニ依ル補助ヲ取消シ又ハ補助金ノ全部若ハ一部ノ返納ヲ命ズルコトアルヘシ

一、土地貸付ノ契約ヲ解除セラレタルトキ
二、許可ヲ受ケズシテ貸付地ノ借地權ヲ讓渡シタルトキ
三、自己ノ便宜ニ依リ貸付地ヲ返還シタルトキ
四、本令及補助指令ニ定メタル條件ニ違背シタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年四月樺太廳令第八號移住奬勵補助規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ本令施行前移住シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

別記

書式

移住奬勵補助願

一　第一期補助（又ハ第二期補助）

右ハ移住奬勵補助規則ニ依リ相當御補助相成度此段相願候也

大正　年　月　日

本籍
住所　　　氏　　名㊞

樺太廳長官　　殿

記

一、樺太ニ上陸シタル年月日及地名
（大正　年　月　日上陸）
二、貸付地及許可年月日番號
（郡町村大字字番地未開地　坪）大正　年　月　日（第　號許可）
三、開墾作付シタル反別
（町　段　歩）

●樺太移住民汽車電車汽船ノ特別取扱方

（大正十年五月五日内閣告示第三號）
改正　大正一二年第一號、一四年第二號
昭和二年第二號

樺太移住民ニ對スル汽車電車汽船ノ特別取扱方左ノ通定メ大正二年十一月内務省告示第七十六號ハ之ヲ廢止ス

樺太移住民汽車電車汽船ノ特別取扱方

第一條　樺太移住民ニシテ汽車、電車、汽船ノ特別取扱ヲ受ケムトスル者ハ居住地ヲ管轄スル北海道廳、同支廳、府縣廳、府縣支廳、府縣支廳出張所、市區役所若ハ警察署、樺太移住民取扱所、樺太廳ヨリ派遣シタル移住民取扱員又ハ地方長官ニ於テ指定シタル町村役場ニ申出テ割引證ノ交付ヲ受クヘシ居住地ニ於テ割引證ノ交付ヲ受ケサル者ハ旅行先ノ當該官公署、樺太移住民取扱所又ハ樺太廳ヨリ派遣シタル移住民取扱員ニ其ノ交付ヲ請フコトヲ得

第二條　前條ノ割引證ヲ携帶スル者ハ移住ノ順路ニ依ル往路ニ限リ左ノ區別ニ依リ無賃又ハ割引ヲ以テ乘車乘船スルコトヲ得但シ急行料金ヲ要スル急行車乘車船又ハ上級ノ車船室ニ乘ルコトヲ得ス

樺太廳所管ノ鐵道竝之ト連帶運輸ノ取扱ヲ爲ス樺太地方鐵道及軌道	無賃
鐵道省所管ノ鐵道、汽船（鐵道省線）竝ニ之ト連帶運輸ノ取扱ヲ爲ス地方鐵道、軌道又ハ汽船	五割引
藝備鐵道株式會社ノ鐵道	同
日本郵船株式會社ノ汽船（函館樺太線）	同
大阪商船株式會社ノ汽船（内地航路各港相互間但シ沖繩方面航路ヲ除ク）	同
北日本汽船株式會社ノ汽船	同
函館商船株式會社ノ汽船	同
尼崎汽船株式會社ノ汽船	同
千島汽船株式會社ノ汽船	同
藤山汽船部ノ汽船	同
佐々木漁業汽船株式會社ノ汽船	同
宇和島運輸株式會社ノ汽船	同
島谷汽船株式會社ノ汽船	同
直江津汽船株式會社ノ汽船	三割引
新潟汽船株式會社ノ汽船	二割五分引

第三條　鐵道省線及之ト連帶運輸ノ取扱ヲ爲ス鐵道、軌道又ハ汽船（連帶線）ノ各驛間ニ付テハ連絡割引乘車船券ヲ發賣ス

第四條　鐵道省線ニ於テハ移住民ノ荷物輸送ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ取扱フ連帶線ニ於テモ省線ト荷物ノ連帶運輸ヲ爲ス場合亦同シ

一　手荷物ハ無賃制限斤量ヲ超過スル分ニ對シテハ普通運賃ノ五割引トシ其ノ最低運賃ヲ金十五錢トス
二　家具及農具ノ類ハ總テ大貨物扱トシ普通運賃ノ二割引トシ其ノ最低運賃ヲ金二十錢トス

樺太廳所管ノ鐵道、之ト連帶運輸ノ取扱ヲ爲ス樺太地方鐵道及軌道竝前項以外ノ鐵道及汽船ニ於ケル手荷物制限外斤量ニ對スル運賃ハ第二條ノ例ニ依ル

第五條　移住民ノ荷物ニハ住所氏名及送先驛ヲ記載シタル強靭ナル荷札ヲ附著スルノ外更ニ左ノ如ク記載シタル白布ヲ四ツ折トシ荷物ノ兩端ニ蝶形ニ結ヒ付クルモノトス

二寸五分

何驛行移住民荷物何箇ノ口何號
（樺太）何郡何村字何行
何府縣何郡何村字何
何驛出　何　某

一尺二寸

第六條　割引證ハ避クヘカラサル事故ニ依リ滅失シタル場合ノ外再ヒ之ヲ交付セス

割引證ヲ所持シテ乘車船シタル移住民カ移住ノ途中移住ニ關シ樺太廳、同支廳、同支廳出張所又ハ樺太移住民取扱所ノ指示ヲ受ケムカ爲其ノ所在地ニ降車船シタル場合ニ於テ移住地ヲ變更シ又ハ乘車船切符ノ通用期限ヲ經過シタルトキハ更ニ移住地迄ノ割引證ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第七條　當該官吏ニ於テ樺太移住民ニアラスシテ樺太移住民乘車船賃割引證ヲ携帶スル者ヲ發見シタルトキハ其ノ割引證ヲ沒收ス

第八條　割引證ノ樣式ハ左ノ如シ

從來ノ樣式ニ依ル割引證ハ發行ノ日ヨリ六十日間之ヲ有效トス

表

樺太移住者タルコトヲ確認シテ本證ヲ交付ス

交付官公署長印

住所

職

氏　年　名齡
妻　年　誰齡
父　年　誰齡
母　年　誰齡
長男　年　誰齡

樺太移住者割引證

鐵道省印

三等

樺太何々行

大正　年　月　日

交付官公署印

第　號（急行料金ヲ要スル急行列車及上級ノ車船室ニ乘ル場合ハ割引セス）

右何人

二寸四分

裏

樺太移住者（汽車汽船）運賃割引證　自　至	同　右	同　右	一寸七分	第　號　官公署　大正　年　月　日　交付	同　右	同　右
同　上	同　上	同　上	一寸七分	同　上	同　上	同　上
同　上	同　上	同　上	一寸七分	同　上	同　上	同　上
一寸二分	一寸二分	一寸二分				

取扱檢印									

携帶心得

一　本證ハ一家族中移住スヘキ者ニ對シ一枚（割引證切取片ノ餘分ハ之ヲ切離シ必要ノ分ノミヲ附シテ）ヲ交付スルモノトス但シ家族多數ニシテ割引證切取片ニ不足ヲ生スルトキハ二枚以上交付スルコトアルヘシ
二　本證ハ他人ニ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得サルモノトス
三　本證ヲ携帶スル者ハ移住者ノ爲ニ設ケラレタル特典ヲ受ケ得ルモノトス
四　本證ハ乘車券又ハ乘船券購求ノ際係員ニ差出シ割引證ノ切取ヲ受クルモノトス
五　本證記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所在ノ官公署ニ本證ヲ提出シテ再交付ヲ受クルコトヲ得ルモノトス
六　移住地ニ到著シタルトキハ移住者取扱官ニ本證ヲ提出シ上陸月日及取扱官ノ記名捺印ヲ受クヘキモノトス否ラサレハ未開地貸付其ノ他ノ特典ヲ受ケ得サルコトアルヘシ
七　官公吏ニ於テ移住者取扱上本證ノ一覽ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス
八　本證記載事項ニ加除訂正ヲ受ケ若ハ移住調ヲ受ケタルトキハ其ノ都度取扱檢印ノ欄ヘ其ノ事由ヲ記シ取扱者ノ押印ヲ受クルモノトス
九　本證ヲ使用セサルトキハ速カニ交付ヲ受ケタル官公署ニ返付スヘキモノトス
十　本證ノ有效期間ハ交付ノ日ヨリ六十日間トス

●開墾地移住民ニ對スル汽車電車汽船ノ特別取扱方

（大正十一年二月二十四日農商務省告示第五十一號）
改正　大正一一年第三八二號、一三年第二四七號、一四年第五二號

開墾地移住民ニ對スル汽車電車汽船ノ特別取扱方左ノ通定メ大正十一年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

開墾地移住民ニ對スル汽車電車汽船ノ特別取扱方

第一條　本土、四國、九州及沖繩ニ於ケル農業ヲ目的トスル開墾地ニ移住スル者ニシテ汽車電車汽船ノ特別取扱ヲ受ケムトスル者ハ居住地ヲ管轄スル北海道廳、同支廳、府縣廳、郡役所、島廳又ハ市區町村役場ニ申出テ割引證ノ交付ヲ受クヘシ居住地ニ於テ割引證ノ交付ヲ受ケサル者ハ旅行先ノ當該官公署ニ其ノ交付ヲ請フコトヲ得

第二條　前條ノ割引證ヲ携帶スル者ハ移住ノ順路ニ依ル往路ニ限リ左ノ割引ヲ以テ乘車乘船スルコトヲ得但シ急行料金ヲ要スル急行列車又ハ上級車船室ニ乘ルコトヲ得ス

一　鐵道省所管ノ鐵道、汽船竝之ト連帶運輸ノ取扱ヲ爲ス地方鐵道、軌道又ハ汽船　五割引

二　其ノ他ノ鐵道、軌道又ハ汽船

京濱電氣鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
王子電氣軌道株式會社ノ鐵道	同
玉川電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同
京成電氣軌道株式會社ノ鐵道	同
城東電氣軌道株式會社ノ鐵道	同
阪神急行電鐵株式會社ノ鐵道	同
大阪電氣軌道株式會社ノ鐵道	同
北大阪電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同
相模鐵道株式會社ノ鐵道	同
熱海軌道組合ノ鐵道	同
佐世保輕便鐵道株式會社ノ鐵道	同
東京電燈株式會社前橋支店ノ鐵道	同
行田馬車鐵道株式會社ノ鐵道	同
吾妻軌道株式會社ノ鐵道	同
赤見鐵道株式會社ノ鐵道	同
下野電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同
北勢鐵道株式會社ノ鐵道	同
三重鐵道株式會社ノ鐵道	同
四日市鐵道株式會社ノ鐵道	同
伊勢鐵道株式會社ノ鐵道	同
中勢鐵道株式會社ノ鐵道	同
伊勢電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同
瀨戸電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同
愛知電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同
安倍鐵道株式會社ノ鐵道	同
駿遠電氣株式會社ノ鐵道	同
江若鐵道株式會社ノ鐵道	同
竹鼻鐵道株式會社ノ鐵道	同
上田溫泉電軌株式會社ノ鐵道	同
角田軌道株式會社ノ鐵道	同
牡鹿軌道株式會社ノ鐵道	同
大崎水電株式會社ノ鐵道	同
秋保石材軌道株式會社ノ鐵道	同
信達軌道株式會社ノ鐵道	同
横山鑛業部尾小屋鐵道ノ鐵道	同
三蟠輕便鐵道株式會社ノ鐵道	同
鞆輕便鐵道株式會社ノ鐵道	同
藝備鐵道株式會社ノ鐵道	同
可部軌道株式會社ノ鐵道	同
新宮鐵道株式會社ノ鐵道	同
野上輕便鐵道株式會社ノ鐵道	同
有田鐵道株式會社ノ鐵道	同
和歌山水力電氣株式會社ノ鐵道	同
阿波電氣軌道株式會社ノ鐵道	同
高松電氣軌道株式會社ノ鐵道	同
四國水力電氣株式會社ノ鐵道	同
愛媛鐵道株式會社ノ鐵道	同
宇和島鐵道株式會社ノ鐵道	同
住友合資會社別子鑛業所ノ鐵道	同
土佐電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同
九州水力電氣株式會社前原營業所ノ鐵道	同
三潴軌道株式會社ノ鐵道	同
鞍手軌道株式會社ノ鐵道	同
南筑軌道株式會社ノ鐵道	同
朝倉軌道株式會社ノ鐵道	同
柳河軌道株式會社ノ鐵道	同
筑後軌道株式會社ノ鐵道	二割引
肥前電氣鐵道株式會社ノ鐵道	五割引
九州電燈鐵道株式會社ノ鐵道	同
佐賀軌道株式會社ノ鐵道	同
祐德軌道株式會社ノ鐵道	同
菊池軌道株式會社ノ鐵道	同
宮崎縣營ノ鐵道	同
大隅鐵道株式會社ノ鐵道	同
沖繩縣營ノ鐵道	同
日本郵船株式會社ノ汽船	同
東京灣汽船株式會社ノ汽船	同
大阪商船株式會社ノ汽船	同
合名會社尼崎汽船部ノ汽船	同
五島汽船運輸株式會社ノ汽船	同
九州汽船株式會社ノ汽船	同
對馬商船株式會社ノ汽船	同
佐世保汽船株式會社ノ汽船	同
濱名湖巡航船株式會社ノ汽船	同
太湖汽船株式會社ノ汽船	同
湖南汽船株式會社ノ汽船	同
三陸汽船株式會社ノ汽船	同
石卷運輸造船株式會社ノ汽船	同
丸中汽船株式會社ノ汽船	同
合同汽船株式會社ノ汽船	同
石崎汽船株式會社ノ汽船	同
瀨戸內商船株式會社ノ汽船	同
廣島縣木村伊勢松ノ汽船	同
同縣小西常吉ノ汽船	同
同縣松岡柳次ノ汽船	同
愛媛縣村山幸造ノ汽船	同
九州炭業株式會社ノ汽船	同
大阪府住友吉左衞門ノ汽船	同
攝陽商船株式會社ノ汽船	同
宇和島運輸株式會社ノ汽船	同
土佐沿岸汽船株式會社ノ汽船	同
鹿兒島郵船株式會社ノ汽船	同
鹿兒島商船株式會社ノ汽船	同
鹿兒島灣內汽船株式會社ノ汽船	同
太洋商船株式會社ノ汽船	同
日東汽船株式會社ノ汽船	同
大島汽船株式會社ノ汽船	同

第三條　鐵道省線及連帶線ノ各驛間ニ付テハ連絡割引乘車船券ヲ發賣ス

第四條　鐵道省線ニ於テハ移住民ノ荷物輸送ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ取扱フ連帶線ニ於テモ省線ト荷物ノ連帶運輸ヲ爲ス場合亦同シ

一　手荷物ハ無賃制限斤量ヲ超過スル分ニ對シテハ普通運賃ノ五割引トス

二　家具及農具ノ類ハ總テ大貨物取扱トシ普通運賃ノ二割引トス

第二條第二號ニ揭クル鐵道、軌道又ハ汽船ニ於ケル手荷物無賃制限斤量超過分及大貨物ニ對スル運賃割引ハ前項ノ例ニ依ル但シ鞍手軌道株式會社ノ大貨物取扱ハ五割引トス

第五條　移住民ノ荷物ニハ住所氏名及送先驛ヲ記載シタル强靱ナル荷札ヲ附著スルノ外更ニ左ノ如ク記載シタル白布ヲ四ツ折トシ荷物ノ兩端ニ蝶形ニ結ヒ付クルモノトス

二寸五分

何驛行移住民荷物何箇ノ口何號
何府縣何郡何村字何行
何府縣何郡何村字何
何驛出　何　某

一尺二寸

第六條　割引證ハ避クヘカラサル事故ニ依リ滅失シタル場合ニハ再ヒ交付ヲ受クルコトヲ得

割引證ヲ所持シテ乘車船シタル移住民カ移住ノ途中疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ依リ降車船シタル場合ニ於テ乘車船切符ノ通用期限ヲ經過シタルトキハ更ニ移住地迄ノ割引證ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第七條　當該官吏ニ於テ開墾地移住民ニアラスシテ開墾地移住民ノ乘車船賃割引證ヲ携帶スルモノヲ發見シタルトキハ其ノ割引證ヲ沒收ス

第八條　割引證ノ樣式ハ左ノ如シ但シ從來ノ樣式ニ依ル割引證ハ大正十四年三月三十一日迄之ヲ使用スルコトヲ得

表

開墾地移住者タルコトヲ確認シテ本證ヲ交付ス

交付官公署長　印

住所
職

氏名　年齡
妻　年齡
父　年齡
母　年齡
長男　年齡

開墾地移住者割引證

鐵道省

三等

何府縣何郡何村何開墾地行

大正　年　月　日

右何人

第　　號（急行料金ヲ要スル急行列車及上級ノ車船室ニ乘ル場合ハ割引セス）

交付官公署印

開墾地移住者 汽車汽船運賃割引證 自　至 上	同 右 上	同 右 上	第　號 官公署 大正　年　月　日交付 上	同 右 上	同 右 上
同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上

一寸七分　一寸七分　一寸七分

一寸二分　一寸二分　一寸二分　一寸二分　一寸二分

二寸四分

取扱檢印

線路變更人員異動ニ付書換交付ス

大正　年　月　日

携帶心得

一　本證ハ一家族中移住スヘキ者ニ對シ一枚（割引證切取片ノ餘分ハ之ヲ切離シ必要ノ分ノミヲ附シテ）ヲ交付スルモノトス但シ家族多數ニシテ割引證切取片ニ不足ヲ生スルトキハ二枚以上交付スルコトアルヘシ

二　本證ハ他人ニ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得サルモノトス

裏

何警察署

三　本證ヲ携帶スル者ハ移住者ノ爲ニ設ケラレタル特典ヲ受ケ得ルモノトス

四　本證ハ乘車券又ハ乘船券購求ノ際係員ニ差出シ割引證ノ切取リヲ受クルモノトス

五　本證記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所在ノ官公署ニ本證ヲ提出シテ再交付ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

六　移住地ニ到著シタルトキハ移住者取扱官ニ本證ヲ提出シ上陸月日及取扱官ノ記名捺印ヲ受クヘキモノトス否ラサレハ未開地貸付其ノ他ノ特典ヲ受ケ得サルコトアルヘシ

七　官公吏ニ於テ移住者取扱上本證ノ一覽ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

八　本證記載事項ニ加除訂正ヲ受ケ若クハ移住調ヲ受ケタルトキハ其ノ都度取扱檢印ノ欄ヘ其ノ事由ヲ記シ取扱者ノ押印ヲ受クルモノトス

九　本證ヲ使用セサルトキハ速カニ交付ヲ受ケタル官公署ニ返付スヘキモノトス

十　本證ノ有效期間ハ交付ノ日ヨリ六十日間トス

第二款　拓殖會社

●東洋拓殖株式會社法

（明治四十一年八月二十七日法律第六十三號）

改正　明治四三年第四九號　大正六年第二三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル東洋拓殖株式會社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、大藏、農商務、司法大臣副署）

東洋拓殖株式會社法

第一章　總則

第一條　東洋拓殖株式會社ハ朝鮮及外國ニ於ケル拓殖資金ノ供給其ノ他拓殖事業ノ經營ヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條　東洋拓殖株式會社ノ資本ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第三條　東洋拓殖株式會社ノ株式ハ總テ記名式トシ日本人ニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第四條　東洋拓殖株式會社ノ資本增加ハ株金全額ノ拂込アルコトヲ要セス

第四條ノ二　東洋拓殖株式會社ノ定款變更ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五條　東洋拓殖株式會社ノ存立時期ハ設立登記ノ日ヨリ百年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第六條　東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ京城、奉天其ノ他ノ地ニ置ク

第二章　役員

第七條　東洋拓殖株式會社ニ總裁一人、理事三人以上、監事二人以上ヲ置ク

第八條　總裁ハ東洋拓殖株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ理事中一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ總裁ヲ補助シ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監査ス

第九條　總裁ハ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選擧シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス

第十條　總裁、及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章　營業

第十一條　東洋拓殖株式會社ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一　拓殖ノ爲必要ナル資金ノ供給
二　拓殖ノ爲必要ナル農業、水利事業及土地ノ取得、經營、處分
三　拓殖ノ爲必要ナル移住民ノ募集及分配
四　移住民ノ爲必要ナル建築物ノ築造、賣買及貸借
五　移住民又ハ農業者ニ對シ拓殖ノ爲必要ナル物品ノ供給及其ノ生產シタル物品ノ分配
六　委託ニ因ル土地ノ經營及管理
七　其ノ他拓殖ノ爲必要ナル事業ノ經營

前項第七號ノ事業ヲ經營シ又ハ外國ニ於テ前項第一號乃至第六號ノ事業ヲ營マムトスルトキハ其ノ事業及地域ニ付豫メ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　政府ハ必要ト認ムルトキハ前條第一項第一號以外ノ業務ニ使用スル資金ノ額ヲ制限スルコトヲ得

第十三條　第十一條第一項第一號ノ資金供給ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

一　移住民ニ對シ二十五年以內ノ年賦償還又ハ五年以內ノ定期償還ノ方法ニ依ル移住費ノ貸付
二　生產者ニ對シ其ノ生產物ヲ擔保トスル一年以內ノ貸付
三　三十年以內ノ年賦償還又ハ五年以內ノ定期償還ノ方法ニ依ル不動產、鐵道、鑛業權其ノ他不動產上ノ權利ヲ擔保トスル貸付
四　公共團體又ハ特別ノ法令ニ依リ組織シタル產業ニ關スル組合ニ對シ三十年以內ノ年賦償還又ハ五年以內ノ定期償還ノ方法ニ依ル無擔保貸付
五　農業者二十人以上連帶シテ債務ヲ負フ者ニ對シ五年以內ノ定期償還ノ方法ニ依ル無擔保貸付
六　移民取扱業其ノ他拓殖事業ヲ營ムコトヲ目的トスル會社ノ株券又ハ債券ノ應募、引受
七　移民取扱業其ノ他拓殖事業ヲ營ムコトヲ目的トスル會社ノ株券又ハ債券ヲ質トスル五年以內ノ定期償還ノ方法ニ依ル貸付
八　法令ノ規定ニ依リ設定シタル財團其ノ他確實ナル物件ヲ擔保トスル三十年以內ノ年賦償還又ハ五年以內ノ定期償還ノ方法ニ依ル貸付

前項第二號ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ手形割引ノ方法ニ依ルコトヲ得

第十三條ノ二　東洋拓殖株式會社ハ定期預リ金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ定期預リ金ハ前條第一項第二號又ハ第七號ノ貸付ニ充ツル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十四條　不動產ヲ擔保トスル貸付金額ハ東洋拓殖株式會社ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以內トス

第十五條　不動產ヲ擔保トスル貸付ニ付テハ第一順位ノ擔保ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ東洋拓殖株式會社ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一順位ノ擔保ト爲ルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　貸付金ノ年賦償還ニ付テハ五年以內ノ据置年限ヲ定ムヘシ

第十七條　年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ但シ据置年限間ノ利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ東洋拓殖株式會社ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手數料ヲ要求スルコトヲ得

第十九條　左ノ場合ニ於テハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

一　債務者カ貸付ノ目的ニ反シテ貸付金ヲ使用シタルトキ
二　債務者カ年賦金ノ拂込ヲ遲延シ催告ヲ受クルモ尙拂込ヲ爲ササルトキ
三　擔保タル不動產ノ全部又ハ一部カ公用ノ爲收用セラルルトキ但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動產ヲ以テ增擔保トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項第三號ノ場合ニ於テ其ノ收用カ一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條　擔保物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十四條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ增擔保ヲ要求シ又ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條　營業上ノ餘裕金ハ一時國債證券若ハ政府ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ買入レ又ハ政府若ハ政府ノ指定シタル銀行ニ預ケ金ヲ爲スノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十二條　東洋拓殖株式會社ハ營業上必要アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二十二條ノ二　東洋拓殖株式會社ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得

東洋拓殖株式會社ハ日本勸業銀行ノ貸付ヲ代理シタル場合ニ於テハ日本勸業銀行ニ對シ債務者ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

第四章　東洋拓殖債券

第二十三條　東洋拓殖株式會社ハ拂込資本額ノ十倍ヲ限リ東洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得

東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第百九十九條ノ規定ヲ適用セス

第二十四條　東洋拓殖債券ヲ發行セムトスル場合ニ於テハ每回其ノ金額、條件並發行及償還ノ方法ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條　東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ數回ニ分チ拂込ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十六條　東洋拓殖債券ハ全額拂込ノ後ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第二十七條　東洋拓殖債券ノ所有者ハ東洋拓殖株式會社ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第二十八條　東洋拓殖株式會社ハ社債借換ノ爲一時第二十三條ノ制限ニ依ラス東洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以內ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊東洋拓殖債券ヲ償還スヘシ

第二十九條　東洋拓殖債券ノ据置年限ハ五年以內トシ其ノ償還期限ハ三十年以內トス

第三十條　東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ東洋拓殖債券ノ買入消却ヲ爲スコトヲ得

第五章　準備金

第三十一條　東洋拓殖株式會社ハ每營業期ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章　政府ノ監督及補助

第三十二條　政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十三條　政府ハ東洋拓殖株式會社監理官ヲ置キ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監視セシム

東洋拓殖株式會社監理官ハ何時ニテモ東洋拓殖株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコトヲ得

東洋拓殖株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ東洋拓殖株式會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

東洋拓殖株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十四條　政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第三十五條　東洋拓殖株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルモノト認ムルトキハ政府ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解職スルコトヲ得東洋拓殖株式會社ノ役員ニ於テ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキ亦同シ

第三十六條　東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條　東洋拓殖株式會社ニ於テ移住規則其ノ他ノ規定ヲ定ムルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條ノ二　東洋拓殖株式會社ノ貸付金ノ利子及割引料ノ最高步合ハ每營業年度ノ初ニ於テ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十八條　東洋拓殖株式會社ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條　政府ハ東洋拓殖株式會社ニ對シ設立登記ノ日ヨリ起算シ八年間ヲ限リ每年金三十萬圓ヲ每營業期ニ割當テ補給スヘシ但シ每營業期ニ於ケル利益配當カ拂込資本額ニ對シ年八分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル金額ヲ補給金ノ內ヨリ控除ス

第四十條　利益配當カ拂込資本額ニ對シ年一割ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ先ツ之ヲ前條補給金ノ償還ニ充ツヘシ

前項ノ償還ヲ終ヘタルトキハ該超過金額ハ其ノ半額ヲ特別積立金トスヘシ

第四十條ノ二　政府ノ所有スル株式ニ對シテハ大正六年度以降大正十三年度迄ノ營業期ノ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス但シ每營業期ニ於ケル利益配當カ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込資本額ニ對シ年八分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對スル配當ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ配當シ尙殘餘アルトキハ平等ニ配當スヘシ

第七章　罰則

第四十一條　東洋拓殖株式會社ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一　本法ニ於テ政府ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
二　第十一條ノ規定ニ依ラス業務ヲ營ミタルトキ
三　第十二條又ハ第三十四條ノ規定ニ基キ發シタル命令ニ違反シタルトキ
三ノ二　第十三條、第十四條乃至第十七條ノ規定ニ違反シ資金ヲ供給シタルトキ
三ノ三　第十三條ノ二第二項ノ規定ニ違反シ預リ金ヲ使用シタルトキ
四　第二十一條ノ規定ニ違反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
五　第二十三條ノ規定ニ違反シ東洋拓殖債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
六　第二十八條ノ規定ニ違反シ東洋拓殖債券ノ償還ヲ爲ササルトキ
七　第三十一條、第四十條又ハ第四十條ノ二ノ規定ニ違反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十二條　東洋拓殖株式會社ノ總裁又ハ理事第十條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條　前二條ニ規定セル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第四十四條　政府ハ設立委員ヲ命シ韓國政府ノ命シタル設立委員ト共同シテ東洋拓殖株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十五條　設立委員ハ定款ヲ作リ政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スヘシ

第四十六條　設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込書ヲ政府ニ差出シ東洋拓殖株式會社設立ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十七條　設立認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第四十八條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ東洋拓殖株式會社總裁ニ引渡スヘシ

第四十九條　第一期ノ理事及監事ハ株主總會ノ選擧ニ依ラス之ヲ任命ス其ノ他ノ條件ニ付テハ第九條ノ例ニ依ル但シ第九條ノ任期滿了後最近ノ定時株主總會會日迄留任スルコトヲ得

第十一章　特許　實用新案　意匠　商標

第一款　特許

●特許法（大正十年四月三十日法律第九十六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル特許法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

特許法

第一章　總則

第一條　新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得

第二條　特許權者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付獨立ノ特許ニ代ヘ追加ノ特許ヲ受クルコトヲ得

第三條　左ニ掲クル發明ニ付テハ之ヲ特許セス

一　飮食物又ハ嗜好物
二　醫藥又ハ其ノ調合法
三　化學方法ニ依リ製造スヘキ物質
四　秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衞生ヲ害スルノ虞アルモノ

第四條　本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　特許出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用ヰラレタルモノ
二　特許出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ

第五條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキ亦前項ニ同シ

第六條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖內ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品ノ爲其ノ者ノ發明ヲ第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

前項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖內ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　特許出願ハ一發明每ニ之ヲ爲スヘシ但シ二以上ノ發明カ牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラ

ス

第八條　同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ特許ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ特許シ協議調ハサルトキハ共ニ特許セス

第九條　二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上ノ出願ト爲シタルトキハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ、獨立ノ特許出願ヲ追加ノ特許出願ニ變更シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條　特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ三十日ヲ、出願公告アリタル場合ニ於テハ出願公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無效トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無效ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ承繼人カ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ屆出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル法定又ハ指定ノ期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依ル

一　期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ暦ニ從フ月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス

特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テノ法定又ハ指定ノ期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其ノ期間ノ末日トス

第十四條　被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無效トス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ヲ受ケタルトキハ其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十五條　特許出願ニ係ル發明カ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス、特許ヲ受クルノ權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

收用及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル手續並民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

特許權者又ハ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ主張ヲ爲スモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條　特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ニシテ前條第三項ニ規定スル代理人ニ非サルモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ特許局ニ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條　特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十九條　特許局長官ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

特許局長官又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ辨理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

前二項ニ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シ爲シタル行爲ハ之ヲ無效ト爲スコトヲ得

第二十條　特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辨理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十一條　數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ屆出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　特許權者帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサルトキハ第十六條第二項ノ代理人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以テ民事訴訟法第十七條ノ財產所在地ト看做ス

第二十三條　特許局長官ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條　出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキ又ハ登錄ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外特許局

長官ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠カ宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以內ニシテ其ノ期間滿了後一年以內ノ請求ニ依リ特許局長官ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十五條　天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ法定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以內ニシテ其ノ期間滿了後一年以內ノ請求ニ依リ特許局長官又ハ審判長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ第七十四條ニ規定スル特許異議ノ申立期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ承繼人ニ及フ

第二十八條　特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得

第二十九條　本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中斷中止及中斷中止シタル手續ノ續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條　特許ニ關シ證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本若ハ圖面ノ調製ヲ求メ又ハ書類ノ閱覽若ハ謄寫ヲ爲サムトスル者ハ特許局長官ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長官ニ於テ祕密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セス

第三十一條　軍事上祕密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十二條　外國人ニシテ帝國內ニ住所ヲモ營業所ヲモ有セサルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ヲ除クノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

第三十三條　特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章　特許權

第三十四條　特許權ハ登錄ニ依リ發生ス

第三十五條　特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス

特許權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權ト牴觸スル場合又ハ特許發明カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登錄實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ特許權者ハ實用新案權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ特許發明ヲ實施スルコトヲ得ス

第三十六條　特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一　研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施

二　單ニ帝國內ヲ通過スルニ過キサル運輸具又ハ其ノ裝置

三　特許出願ノ際ヨリ帝國內ニ在ル物

第三十七條　特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條　特許ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一發明ニ對スル二以上ノ特許中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原特許權者

二　特許ヲ無效トシ同一發明ニ付正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原特許權者

三　前二號ニ揭クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル特許權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第五十二條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登錄ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

特許權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三十九條　特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ特許發明ニ付原權利ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條　特許發明カ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第一項ノ規定ニ依ル制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

收用、實施及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國內ニ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長官ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條　前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セサル場合ニ於テハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スコトヲ得

實施權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十三條　特許權ノ存續期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了ス

第十條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ニ付出願公告アリタルトキハ前項ノ十五年ノ期間ハ其ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ第一項ノ十五年ノ期間ハ無效ト爲リタル特許ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ存續期間ハ原特許權ノ殘期間トス

第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ存續期間ニ付亦同シ

特許權ノ存續期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第四十四條　特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セスシテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十五條　特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

特許權ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限

ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十六條　追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス

第四十七條　特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

第四十八條　特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得ス

第四十九條　特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ他人ノ特許發明ノ實施ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ實施セラルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第五十條　第四十一條又ハ前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス但シ第四十一條ノ決定、審決又ハ判決ノ確定前ト雖決定、審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第五十一條　第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ特許權ニ附隨ス

特許發明ノ實施權ニシテ前項ノ實施權ニ非サルモノハ其ノ實施ノ事業ト共ニスル場合又ハ特許權者ノ承諾アル場合ニ於テハ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十二條　特許發明ノ實施權ハ之ヲ登錄シタルトキハ其ノ特許權ヲ爾後取得シタル者及其ノ特許權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十四條第二項又ハ第三十七條乃至第三十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第五十三條　特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ揭クル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一　特許請求範圍ノ減縮
二　誤記ノ訂正
三　不明瞭ナル記載ノ釋明

特許權者ハ錯誤ニ因リ二以上ノ發明ヲ一特許出願ニ包含セシメタルコトヲ疏明シタル場合ニ限リ各發明每ニ各別ノ特許權ト爲スノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部、前項ノ場合ニ於テハ其ノ各發明カ特許出願ノ際獨立シテ新規ノ發明ナルコトヲ要ス

第五十四條　前條ノ場合ニ於テハ特許請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第五十五條　特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有スル者、質權者又ハ第十四條第二項若ハ第四十八條ノ規定ニ依ル實施權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許權ヲ抛棄シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル許可ノ審判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五十六條　先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘキ補償金其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ實施ニ對シテ受クヘキ金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第五十七條　特許カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　特許カ第一條乃至第三條、第八條又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シテ與ヘラレタルトキ
二　特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シテ與ヘラレタルトキ
三　特許發明ノ明細書又ハ圖面ニ其ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載セス又ハ其ノ實施ヲ不能若ハ困難ナラシムル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ
四　特許カ第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ與ヘラレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ
五　特許カ第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許カ第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

第五十三條ノ許可カ同條第三項又ハ第五十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

特許又ハ第五十三條ノ許可ハ特許權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第五十八條　特許カ無效ト爲リタルトキハ特許權ハ初ヨリ存在セサリシモノト看做ス但シ前條第一項第五號ノ規定ニ依リ特許カ無效ト爲リタルトキハ特許權ハ特許カ同號ニ該當スルニ至リタル時ヨリ存在セサリシモノト看做ス

第五十三條ノ許可カ無效ト爲リタルトキハ初ヨリ許可ナカリシモノト看做ス

特許ノ取消又ハ第四十二條ノ規定ニ依ル實施權ノ取消アリタルトキハ特許權又ハ實施權ハ爾後其ノ效力ナキモノトス

第五十九條　特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第六十條　特許カ取消サレ若ハ無效ト爲リ又ハ特許權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ニ規定スル追納期間ノ滿了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加ノ特許權ト爲ル

第三章　登錄、特許權、公報及明細書、特許標記竝特許料

第六十一條　特許局ニ特許原簿ヲ備ヘ特許權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條　特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス第五十三條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第六十三條　特許局ハ特許公報及特許發明明細書ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他特許發明ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質ニ依リ其ノ物ニ附スルコト能ハサルトキハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ之ヲ附スヘシ

特許權者ハ實施權者又ハ第三十六條第一號ノ實施ヲ爲ス者ニ對シ特許標記ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

特許標記ヲ附セサリシ爲特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラスシテ特許權ヲ侵害シタル者ニ

對シテハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ特許ニ係ル物ノ要部ヲ分離シテ販賣又ハ頒布スル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ特許料トシテ第四十三條第一項ニ規定スル十五年ノ各年ニ付每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　每年十圓
二　第四年及第五年　每年十五圓
三　第六年乃至第九年　每年二十五圓
四　第十年乃至第十二年　每年三十五圓
五　第十三年乃至第十五年　每年五十圓

特許權存續期間延長ノ登錄ヲ受クル者又ハ其ノ特許證主ハ特許料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　每年百圓
二　第四年乃至第六年　每年百五十圓
三　第七年乃至第十年　每年二百圓

追加ノ特許權ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時特許料トシテ每件一時ニ三十圓ヲ納付スヘシ特許權存續期間延長ノ場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ登錄ヲ受クル時特許料トシテ每件一時ニ六十圓ヲ納付スヘシ

第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ各別ノ特許權ニ付原特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ但シ既納ノ特許料ノ金額ハ納付スヘキ特許料ノ金額中ニ之ヲ充當ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタル場合又ハ第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テハ特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ原特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ

前六項ノ規定ハ國ニ屬スル特許權ニ付之ヲ適用セス

第六十六條　前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料ハ一時ニ之ヲ前納シ其ノ第四年以後ノ特許料及前條第二項ノ規定ニ依ル特許料ハ前年ニ之ヲ納付スヘシ但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス

特許局長官ハ前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料又ハ前條第三項ノ規定ニ依ル特許料ヲ納付スヘキ者カ其ノ特許發明ノ發明者又ハ其ノ相續人ナル場合ニ於テ之ヲ納付スルノ資力ナシト認ムルトキハ二年以內之カ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得

第六十七條　利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付スルコトヲ得

第六十八條　既納ノ特許料ハ之ヲ還付セス

第六十九條　特許證主ハ特許料ヲ納付スヘキ期限ヲ經過シタル後ト雖六月間ヲ限リ特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ニ規定スル特許料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間內ニ特許料ヲ追納セサルトキハ特許料ヲ納付スヘキ期限經過ノ時ニ遡リ特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四章　審査

第七十條　特許ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第七十一條　第九十一條ノ規定ハ審査官ノ審査ノ干與ヨリノ除斥ニ付之ヲ準用ス

第七十二條　審査官ハ出願ヲ拒絕スヘキモノト認メタルトキハ出願人ニ對シ拒絕ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定シテ之ニ意見書提出ノ機會ヲ與フヘシ

第七十三條　審査官ハ出願拒絕ノ理由ヲ發見セサルトキハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定スヘシ

前項ノ規定ニ依ル決定アリタルトキハ特許局ハ出願年月日、發明者ノ氏名、出願人ノ氏名名稱及住所竝出願ノ要旨ヲ特許公報ニ揭載シテ出願公告ヲ爲スヘシ

出願公告アリタルトキハ其ノ出願ニ係ル發明ニ付出願公告ノ時ヨリ特許權ノ效力ヲ生シタルモノト看做ス

特許局ハ出願公告ト同時ニ出願書類及其ノ附屬物件ヲ特許局ニ於テ竝命令ノ定ムル所ニ依リ出願書類及其ノ附屬物件ヲ其ノ他ノ場所ニ於テ公衆ノ閲覽ニ供スヘシ

特許局ハ出願人ノ請求ニ依リ出願公告ノ決定アリタル日ヨリ六月以內出願公告ヲ猶豫スルコトヲ得

軍事上祕密ヲ要スル發明ノ出願ニ付テハ出願公告ノ決定ヲ爲サスシテ査定ヲ爲スヘシ

第七十四條　出願公告アリタルトキハ何人ト雖出願公告ノ日ヨリ二月以內ニ特許局ニ特許異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

特許異議ノ申立ハ特許異議申立書ヲ提出シテ之ヲ爲シ理由ヲ之ニ記載スヘシ

利害關係人ハ特許異議ノ決定アル迄其ノ特許異議ニ參加スルコトヲ得

特許異議ノ參加ニ關シテハ審判ノ參加ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十五條　特許異議ノ申立アリタルトキハ審査官ハ特許異議申立書ノ副本ヲ出願人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與フヘシ

審査官ハ前條第一項ニ規定スル特許異議申立期間及前項ノ期間ノ經過後特許異議ノ決定ヲ爲シ同時ニ其ノ出願ニ對シ特許スヘキヤ否ヲ査定スヘシ

特許異議ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

特許異議ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

審査官ハ特許異議申立ノ結果必要アルトキハ特許發明ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ヲ命スルコトヲ得

第七十六條　特許異議ニ關シ爲シタル證據調ノ費用ニ付テハ審判ニ關スル費用ノ規定ヲ準用ス

第七十七條　特許異議ノ申立ナキトキハ審査官ハ査定ヲ爲スヘシ

第七十八條　出願公告後出願ノ抛棄、取下若ハ無效處分アリタルトキ、拒絕ノ査定若ハ審決確定シ若ハ判決アリタルトキ又ハ第五十八條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外特許カ無效ト爲リタルトキハ第七十三條第三項ノ規定ニ依ル效力ハ初ヨリ生セサリシモノト看做ス

第七十九條　第十條又ハ第十一條ニ規定スル正當權利者ノ出願アリタルトキハ審査官ハ既ニ出願公告ヲ爲シタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク査定ヲ爲スヘシ

第八十條　第百條及第百十八條第一項ノ規定ハ審査ニ付之ヲ準用ス

第八十一條　査定ニハ理由ヲ附スヘシ

第八十二條　本法ニ規定スルモノノ外審査ニ關スル書類ニシテ送達スヘキモノ及送達ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條　民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許又ハ拒絕査定確定アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五章　審判、抗告審判及出訴

第八十四條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第五十七條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無效
二　特許權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第八條ノ規定ニ違反シ又ハ第五十七條第一項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第八十五條　前條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ特許又ハ第五十三條ノ許可ノ登錄ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル期間ハ第五十七條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第八十六條　審判ノ請求ハ審判請求書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第八十七條　審判ノ請求カ判然許スヘカラサルモノ、法令ニ定メタル方式ニ適セサルモノ又ハ期間ヲ經過シタルモノナルトキハ審判長ハ直ニ決定ヲ以テ之ヲ却下ス

前項ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第一項ノ決定ニ不服アル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ民事訴訟法中即時抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十八條　審判長ハ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘ其ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ

審判ニ關シテハ當事者ノ提出シタル書類ニ對シ相手方ヲシテ答辯書ヲ提出セシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ對スル意見書ヲ提出セシムルコトヲ得

第八十九條　審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ之ヲ行フ合議ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス

審判長ハ審判官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

審判長ハ其ノ審判事件ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九十條　審判官ハ各審判事件ニ付特許局長官之ヲ指定ス

審判官中審判ニ干與スルニ故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス

第九十一條　審判官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ノ干與ヨリ除斥セラル

一　其ノ事件ニ付當事者、參加人又ハ特許異議申立人ナルトキ

二　前號ニ掲クル者又ハ其ノ配偶者ノ親族ナルトキ

三　第一號ニ掲クル者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

四　其ノ事件ニ付第一號ニ掲クル者ノ代理人ト爲リタルトキ

五　其ノ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六　其ノ事件ニ付審査官又ハ審判官トシテ査定又ハ審決ニ干與シタルトキ

七　其ノ事件ニ付直接ノ利害關係ヲ有スルトキ

第九十二條　審判官カ前條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除斥セラルルトキ又ハ偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アルトキハ當事者又ハ參加人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

第九十三條　第九十一條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除斥セラルヘシトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ハ審判ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得

偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ハ當事者又ハ參加人カ其ノ覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九十四條　忌避ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因ハ之ヲ疏明スヘシ忌避ヲ申請セラレタル審判官ノ職務上ノ陳述ハ之ヲ其ノ疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得

當事者又ハ參加人カ申立又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ニハ其ノ申立又ハ陳述ノ後ニ忌避ノ原因發生シ又ハ忌避ノ原因ヲ覺知シタルコトヲ疏明スヘシ

第九十五條　忌避ノ申請アリタルトキハ忌避ヲ申請セラレタル審判官以外ノ審判官ニシテ特許局長官ノ指定シタルモノノ審判ニ依リ其ノ許否ヲ決定ス

前項ノ規定ニ依ル決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第九十六條　忌避ヲ申請セラレタル審判官ハ忌避申請ノ許否ノ決定アル迄其ノ審判事件ニ關シ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但シ偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲サレタル忌避ノ申請ノ場合ニ於テ猶豫スヘカラサル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ書面審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ公益又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條　利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第九十九條　參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

審判長ハ參加申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者及參加人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ異議申立ノ機會ヲ與フヘシ

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許否ヲ決定ス

第九十五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル決定ニ付之ヲ準用ス

第百條　審判ニ於テハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ハ前二項ノ規定ニ依ル證據調ニ付之ヲ準用ス但シ特許局ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第百一條　當事者又ハ參加人カ法定若ハ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲サス又ハ期日ニ出頭セサルトキト雖審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得

第百二條　審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得但シ答辯書ノ提出アリタル後ニ於テハ相手方ノ承諾ヲ要ス

第百三條　審判ニ於テハ當事者又ハ參加人ノ申立テサル理由又ハ取下ケタル理由ニ付テモ之ヲ審理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ニ付當事者又ハ參加人ニ期間ヲ指定シテ意見申立ノ機會ヲ與フヘシ

第百四條　審判官ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル二以上ノ審判ニ付其ノ審理又ハ審決ノ併合ヲ爲スコトヲ得

審判官ハ前項ノ規定ニ依リ審理又ハ審決ノ併合ヲ爲シタル場合ニ於テ更ニ審理又ハ審決ノ分離ヲ爲スコトヲ得

第百五條　審判ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外審決ヲ以テ之ヲ終了ス

前項ノ審決ニハ理由ヲ附スヘシ

事件カ審決ヲ爲スニ熟シタルトキハ審判長ハ審理ノ終結ヲ當事者及參加人ニ通知スヘシ

審判長ハ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ終結ヲ通知シタル後ト雖申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ審理ノ再開ヲ爲スコトヲ得

審決ハ審理ノ終結ノ通知ヲ發シタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第百六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百七條　第八十二條ノ規定ハ審判ニ付之ヲ準用ス

第百八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用セス

第百九條　査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第百六條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百十條　第八十六條乃至第百八條ノ規定ハ抗告審判ニ付之ヲ準用ス但シ審判官ノ合議ハ三人又ハ五人ヲ以テ之ヲ爲シ第九十二條乃至第九十四條及第百一條ニ於テ當事者又ハ參加人トアルハ當事者、參加人又ハ特許異議申立人トス

第百十一條　抗告審判ニ於テハ審判請求ノ理由ヲ變更シ又ハ新ナル事實若ハ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第百十二條　抗告審判ニ於テハ其ノ事件ニ付審決ヲ爲スヘシ

第百十三條　第七十二條ノ規定ハ拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ査定ノ理由ト異ル拒絶ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條乃至第七十九條ノ規定ハ拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ノ請求ヲ理由アリトスル場合ニ之ヲ準用ス但シ特許スヘキ出願ニシテ出願公告アリタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク審決ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第五十三條ノ許可ヲ與ヘサル審決ニ對スル抗告審判ニ付之ヲ準用ス

第百十四條　拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル審決アリタル場合ニ於テハ其ノ事件ニ付テハ審査官ヲ羈束ス

第百十五條　抗告審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ審決カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル出訴及其ノ裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

大審院ノ判決ニ於テ審決破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ羈束ス

第百十六條　第十五條、第四十條又ハ第五十條ニ規定スル補償金額ノ通知又ハ決定若ハ審決ヲ受ケタル者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ通知又ハ決定若ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十七條　特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登錄アリタルトキハ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第百十八條　審判又ハ抗告審判ニ於テ必要アルトキハ民事又ハ刑事ノ訴訟手續ノ完結ニ至ル迄其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許ニ關シ審決ノ確定又ハ判決アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第百十九條　審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ負擔ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事件ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム

審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ハ請求ニ依リ特許局長官之ヲ決定ス

費用ノ負擔及額ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百二十條　審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ノ決定竝本法ニ規定スル補償金額ノ確定ノ決定及審決ハ强制執行ニ關シテハ民事訴訟法第五百五十九條第一號ノ規定ニ依ル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第六章　再審

第百二十一條　左ニ掲クル審判若ハ抗告審判又ハ出訴ニ付爲シタル確定審決又ハ判決ヲ以テ終結シタル事件ハ取消ノ請求又ハ原狀回復ノ請求ニ依リ之ヲ再審スルコトヲ得

一　特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力、特許權ノ範圍又ハ實施權ノ取得ニ關スル審判

二　前號ノ審判ノ審決ニ對スル抗告審判

三　前號ノ抗告審判ノ審決ニ對スル出訴

民事訴訟法第四百六十八條ノ規定ハ取消ノ請求ニ付、同法第四百六十九條及第四百七十條ノ規定ハ原狀回復ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第百二十二條　再審ハ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

審決ノ確定又ハ判決ノ前ニ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ審決確定シ又ハ判決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審判、抗告審判又ハ出訴ノ手續ニ於テ當事者カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシコトヲ理由トシテ再審ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ニ規定スル期間ハ當事者又ハ其ノ法律上代理人カ送達ニ依リ審決又ハ判決アリタルコトヲ知リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ再審ヲ請求スルコトヲ得ス

第百二十三條　審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ノ請求及其ノ後ノ手續ニ付テハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外各其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十四條　民事訴訟法第四百六十七條第二項、第四百七十一條、第四百七十二條第一項第二項及第四百七十五條乃至第四百八十二條ノ規定ハ審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ニ關シ之ヲ準用ス

第百二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ノ效力ハ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニ於テ再審請求ノ登錄前ニ善意ニ輸入若ハ移入シ又ハ帝國内ニ於テ製作若ハ取得シタル物ニ及ハス

一　無效ト爲リタル特許權カ再審ニ依リ回復シタルトキ

二　特許權ノ範圍ニ屬セストノ審決確定シ又ハ判決アリタルモノニ付再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタルトキ

第百二十六條　前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十七條　實施權ノ取得ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ再審請求ノ登錄前ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條第三項及第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　第三者カ請求人及被請求人ノ共謀ニ依リ其ノ第三者ノ權利又ハ利益ヲ詐害スル目的ヲ以テ審決又ハ判決ヲ爲サシメタルコトヲ理由トスル不服ノ申立ニ付テハ原狀回復ノ請求ニ依ル再審ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ請求人及被請求人ヲ以テ共同被請求人トス

第七章　罰則

第百二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　特許權ヲ侵害シタル者

二　特許權ヲ侵害スヘキ物ヲ輸入又ハ移入シタル者

三　特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ特許前ニ侵害シタル者

四　特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ侵害スヘキ物ヲ特許前ニ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百三十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ特許ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三　特許ニ係ラサル物ニシテ其ノ物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四　特許ニ係ラサル物又ハ特許ニ係ラサル方法ニ依リ製作シタル物ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物若ハ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

五　特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第百三十一條　第百二十九條第一項ニ掲クル

行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スル旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百三十二條　法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百三十三條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル特許出願中ノ發明又ハ特許出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第百三十五條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ特許ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理ヲ業トシ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第百三十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十七條　舊法ニ依ル特許、特許權ノ改訂又ハ分割ノ許可、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ特許ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第百三十八條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ其ノ出願ニ係ル發明カ本法ニ依ル特許出願ニ係ル發明ニ牴觸スルトキハ其ノ發明者ハ之ヲ先ニ發明ヲ爲シタル者ト看做ス

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル補償金額ニ對スル不服申立ノ期間ニ付亦同シ

第百三十九條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ發明ヲ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以內ニシテ本法施行ノ日ヨリ二年以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第百四十條　舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ト看做ス

第百四十一條　本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第百四十二條　特許カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第三十五條乃至第三十七條ノ規定及同法第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十三條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

特許カ舊法施行前無效ト爲リタル場合ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セス

第百四十三條　舊法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ第五十一條第二項ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第百四十四條　舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ經過シタル特許料及追加特許料ニ付亦前項ニ同シ

第百四十五條　特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ特許料又ハ追加特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル特許料又ハ追加特許料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料又ハ追加特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間內ニ特許料又ハ追加特許料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ特許權又ハ追加特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第百四十六條　舊法ニ依ル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ許可アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ許可カ同條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第百四十七條　前條ノ規定ニ依ル無效ノ審判ハ本法施行前登錄セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

●特許法施行令

（大正十年十二月十六日勅令第四百六十號）（總理、農商務大臣副署）

（大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行）

朕特許法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許法施行令

第一章　軍事上祕密ヲ要スル發明

第一條　主務大臣カ軍事上祕密ヲ要スト認メタル發明ニ付特許ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ發明ノ明細書及圖面其ノ他祕密ヲ要スル物件ヲ密封シ封印シテ特許局長官ニ之ヲ差出スヘシ

特許權者カ軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ付特許法第五十三條ノ許可ノ審判ノ請求ヲ爲ス場合亦前項ニ同シ

第二條　特許局長官ハ前條第一項ノ規定ニ依ラサル特許ノ出願アリタル場合ニ於テ其ノ發明カ軍事上祕密ヲ要スルモノト認メタルトキハ遲滯ナク之ヲ主務大臣ニ移牒シ意見ヲ求ムヘシ

第三條　第一條ノ出願又ハ請求アリタルトキハ特許局長官ハ特ニ審査官又ハ審判官一人ヲ指定シ之ヲ審査又ハ審判セシム

特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ許可スヘシトノ審決確定シタルトキハ特許局長官ハ出願又ハ請求ニ係ル書類及物件ヲ密封シ之ニ封印スヘシ

拒絶ノ査定若ハ審決確定シ又ハ許可セストノ審決確定シタルトキハ特許局長官ハ出願又ハ請求ニ係ル書類及物件ヲ密封シ封印シテ主務大臣ニ之ヲ交付スヘシ

第四條　前條ノ規定ハ第一條第一項ノ規定ニ依ラサル特許ノ出願アリタル場合ニ於テ其ノ發明カ軍事上祕密ヲ要スル爲主務大臣ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　第三條第二項ノ規定又ハ前條ニ依リ準用スル同項ノ規定ニ依リ密封シタル書類及物件ハ主務大臣ノ請求又ハ承諾アリタル場合ヲ除クノ外之ヲ開封スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ開封シタル書類及物件ハ特許局長官更ニ之ヲ密封シ封印スヘシ

第六條　主務大臣ハ前條第一項ニ規定スル書類及物件ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル書類及物件ハ主務大臣更ニ密封シ封印シテ之ヲ還付スヘシ

第七條　軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ對スル審判又ハ抗告審判ノ請求ハ主務大臣密封シタル書類及物件ノ開封ヲ承諾シタル場合ニ限リ之ヲ受理スルコトヲ得

前項ノ審判又ハ抗告審判ノ審決ニハ理由ヲ附セス

第八條　軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ關スル審判又ハ抗告審判ノ口頭審理ハ之ヲ公開セス

第九條　軍事上祕密ヲ要スル特許發明カ祕密ニスルノ必要ナキニ至リタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ特許局長官ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ特許發明ヲ特許公報及特許發明明細書ニ記載スヘシ

第二章　特許權ノ存續期間ノ延長

第十條　重要ナル發明ノ特許權者カ正當ノ事由ニ依リ其ノ特許權ノ存續期間內ニ其ノ發明ヨリ生スヘキ相當ノ利益ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ存續期間ノ延長ヲ出願スルコトヲ得

第十一條　存續期間ノ延長ヲ出願スル者ハ存續期間滿了ノ日前六月乃至一年內ニ願書ニ特許發明ノ重要ナル事由、其ノ發明ノ實施ノ狀況、其ノ發明ニ關スル收支計算及相當ノ利益ヲ得サリシ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添附シ特許局長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願人記名捺印スヘシ

一　特許番號及發明ノ名稱

二　出願人ノ氏名名稱及住所

三　延長ノ期間

第十二條　特許局長官ハ意見書ヲ作リ之ヲ前條ノ願書ニ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十三條　存續期間延長ノ出願ニ付テハ農商務大臣ハ五人又ハ七人ノ審査委員ヲ命シ之ヲ審査セシムヘシ

第十四條　前條ノ審査ヲ終リタルトキハ農商務大臣ハ出願ノ許否ヲ決定スヘシ

決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第十五條　農商務大臣ハ決定ヲ爲シタルトキハ決定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

農商務大臣ハ出願ニ係ル期間ヲ短縮シ又ハ制限ヲ附シテ出願ヲ許可スルコトヲ得

第十六條　軍事上祕密ヲ要スル發明ニ係ル特許權ニシテ國ニ屬スルモノニ付主務大臣カ其ノ存續期間ノ延長ヲ出願シタルトキハ農商務大臣ハ前六條ノ規定ニ拘ラス其ノ出願ヲ許可スヘシ

軍事上祕密ヲ要スル發明ニ係ル特許權ニシテ國ニ屬セサルモノニ付存續期間延長ノ出願アリタル場合ニ於テ主務大臣カ其ノ延長ヲ必要ト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第十七條　存續期間延長ノ許可アリタルトキハ特許局長官ハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付スヘシ

第三章　審判其ノ他ノ手續ニ關スル費用

第十八條　審判及抗告審判ノ費用ニ關スル各當事者、參加人及參加申請人ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第七十二條乃至第七十八條、第八十條乃至第八十二條、第八十三條第一項及第八十六條ノ規定ヲ準用ス

第十九條　特許異議、特許法第五十三條ノ許可ニ付テノ許可異議又ハ此等ノ異議ノ參加ニ關シ生シタル證據調ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十條　前二條ノ費用及抗告審判ノ審決ニ對スル出訴ノ費用ノ額ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第二十一條　第十八條及前條ノ規定ハ再審ノ費用ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第二百七十九號、明治四十二年勅令第二百九十八號、同年勅令第二百九十九號及同年勅令第三百一號ハ之ヲ廢止ス

●特許法施行規則

（大正十年十二月十七日農商務省令第三十三號）（改正　大正一一年第三〇號）

特許法施行規則左ノ通定ム

特許法施行規則

第一章　總則

第一條　特許局ニ對シテ爲ス出願、請求其ノ他ノ手續ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

書面ハ一件每ニ一通ヲ作リ之ニ差出人ノ住所又ハ居所及差出ノ年月日ヲ記載シ差出人記名捺印スヘシ

第二條　書面ハ日本語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書其ノ他ノ書類ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其ノ譯文ヲ添附スヘシ

第三條　特許局ニ書面ヲ差出ス者ハ相手方ニ送付スル爲必要ナル員數ノ副本ヲ差出スヘシ但シ相手方數人アル場合ニ於テ特許法第二十一條第一項但書ノ代表者アルトキハ其ノ代表者ノ數ニ應スル副本ヲ差出スヲ以テ足ル

第四條　特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ承繼人タルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第五條　代理人カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第六條　特許法第十七條又ハ第二十一條第二項ニ規定スル屆出ヲ爲ス者ハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第七條　外國人カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ國籍ヲ證スル書面及萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ナル場合ニ在リテハ尙同盟國中ノ一國ノ版圖內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

前項ノ外國人カ法人ナルトキハ其ノ法人タルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第八條　前四條ノ規定ニ依リ差出スヘキ證明書ハ同時ニ數箇ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ一ノ手續ニ付之ヲ差出シ其ノ他ノ手續ニ付テハ其ノ旨ヲ表示シテ其ノ差出ヲ省略スルコトヲ得

第九條　他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタル者ハ前五條ノ場合ニ於テ其ノ事項ニ變更ナキトキハ其ノ謄本ヲ以テ證明書ニ代フルコトヲ得但シ特許局長官必要ト認ムルトキハ證明書ノ差出ヲ命スルコトヲ得

第十條　特許局ニ對シ特許權又ハ特許出願後其ノ出願ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ス者ハ之ニ其ノ特許番號又ハ願書番號及發明ノ名稱ヲ表示シ審判、抗告審判、再審ノ請求後其ノ請求ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ス者ハ之ニ審判番號又ハ抗告審判番號ヲ表示スヘシ

第十一條　特許局ニ對シテ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニシテ法令ニ規定シタル方式ニ違背シ若ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出サス又ハ手數料ヲ納付セス又ハ差出シタル書類、雛形若ハ見本ニ不明瞭若ハ不完備ナル場合ニ於テハ特許局長官ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外期間ヲ指定シテ其ノ訂正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルコトヲ得ス

特許局ニ書類、雛形、見本ヲ差出シタル者ハ審査、審判又ハ抗告審判ニ繫屬中ニ限リ之ヲ訂正スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルコトヲ得ス

出願公告ノ決定アリタル後ニ於テハ出願人ハ特許法第七十五條第五項ノ命令ニ依ル場合ヲ除クノ外明細書、圖面、雛形又ハ見本ヲ訂正シ又ハ補充スルコトヲ得ス

第十二條　前條ノ規定ノ適用ニ付テハ獨立ノ特許出願ヲ追加ノ特許出願ニ、追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ變更シ又ハ明細書ニ記載シタル事項ノ範圍內ニ於テ特許請求ノ範圍ヲ增減變更スルハ其ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

第十三條　審査、審判、抗告審判又ハ再審ニ關シ審判長又ハ審査官ハ必要ト認ムルトキハ當事者、特許異議申立人若ハ參加人ニ對シ期間ヲ指定シテ書類其ノ他ノ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十四條　特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ差出ノ際其ノ旨ヲ申出ツヘシ

前項ノ雛形若ハ見本又ハ特許局ニ差出シタル證據物件ハ特許局ヨリ還付ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ其ノ受取ノ手續ヲ爲スヘシ

差出人カ第一項ノ申出又ハ前項ノ手續ヲ爲

ササルトキハ特許局長官ハ其ノ雛形又ハ見本ヲ處分スルコトヲ得

第十五條　特許局長官、審判長又ハ審査官ハ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許法又ハ本則ニ依リ其ノ指定シタル期日又ハ期間ヲ變更スルコトヲ得

相手方アル事件ノ期日又ハ期間ノ變更ノ請求ハ其ノ合意又ハ顯著ナル事由アル場合ニ限リ之ヲ許可ス

第十六條　特許法第二十四條第二項又ハ第二十五條ニ規定スル請求ヲ爲ス者ハ請求書ニ障礙ノ事實竝其ノ發生及消除ノ年月日ヲ記載シ且之ヲ疏明シ同時ニ其ノ懈怠シタル手續ヲ追完スヘシ

第十七條　特許願書又ハ差出スヘキ期日若ハ期間ノ定アル書類若ハ物件ノ郵便ニ依ル差出ハ郵便物受領證ニ依リテ差出シタル日時ヲ證シタル場合ニ在リテハ其ノ日時ニ於テ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ消印記號ニ記載シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ郵便物ニシテ郵便物受領證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證スルコト能ハサルモノ又ハ消印記號ナキカ若ハ其ノ不明ナルモノハ特許局カ之ヲ受領シタル日時ニ於テ差出ノ效力ヲ生ス

第十八條　前條ノ郵便物ヲ除クノ外書類又ハ物件ノ差出ハ特許局カ之ヲ受領シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第十九條　審査ニ關スル書類ニシテ法令ニ送達スヘシトノ規定アルモノ、期日若ハ期間ヲ指定セルモノ又ハ送達ニ依リ期間ノ進行ヲ始ムルモノハ郵便ニ依リ又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ送達ス

郵便ニ依リ送達ヲ爲ストキハ遞信省令又ハ朝鮮總督府令ノ定ムル特別ノ手續又ハ書留郵便ニ依ル

特許局ノ使丁ヲ以テ送達ヲ爲ストキハ使丁ハ其ノ書類ノ封皮ニ送達ノ年月日ヲ記載シテ記名捺印シ其ノ書類ヲ受取リタル者ハ受領ノ年月日ヲ記載シタル受領證ヲ使丁ニ交付スヘシ但シ受取人受領證ノ交付ヲ拒ミタルトキ又ハ受領證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述ヘタルトキハ使丁ハ其ノ旨ヲ記載シタル調書ヲ作リ記名捺印スヘシ

第二十條　審判、抗告審判又ハ再審ニ關スル書類ハ郵便ニ依リ又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ送達ス此ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第百三十八條乃至第百四十條、第百四十二條、第百四十四條乃至第百四十九條、第百五十一條第一項第二項、第百五十四條及第百五十五條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　住所又ハ居所ノ知レサル爲書類ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ特許局長官、審判長又ハ審査官ハ官報及特許公報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告シ且特許局ノ掲示板ニ之ヲ掲示スヘシ此ノ場合ニ於テ官報公告ノ日ヨリ二十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ官報及特許公報ノ公告ハ同一事件ニ付同一人ニ對シテ爲ス送達ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ノ掲示板ニ掲示シタル日ニ於テ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二十二條　特許法第十六條第三項ニ規定スル代理人ノ選任ノ登錄ナキ場合ニ於テ帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル特許權者又ハ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ニ對シテ爲ス送達ハ第十九條及第二十條ノ規定ニ拘ラス郵便ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書類ヲ郵便ニ付シタル日ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第二十三條　特許局長官又ハ審判長特許法第二十八條ノ規定ニ依リ承繼人ニ對シ手續ヲ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第二十四條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ死亡シタルトキハ承繼人カ其ノ手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス

第二十五條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權若ハ之ニ關スル權利カ破產財團ニ屬スルトキハ其ノ手續ハ破產管財人カ之ヲ受繼キ又ハ破產手續ノ解止アルマテ之ヲ中斷ス

第二十六條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ法定代理人カ死亡シ若ハ其ノ代理權カ消滅シタルトキハ法定代理人又ハ本人カ其ノ手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス

第二十七條　委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テ出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ死亡シ若ハ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ法定代理人カ死亡シ若ハ其ノ代理權カ消滅シタルトキハ其ノ届出アリタル場合ニ限リ其ノ手續ハ届出ノ時ヨリ其ノ受繼アルマテ之ヲ中斷ス

第二十八條　前四條ノ規定ニ依リ手續ノ中斷アリタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第二十九條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ委任ニ因ル代理人カ死亡シ又ハ訴訟能力ヲ失ヒタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ本人又ハ代理人カ其ノ手續ヲ受繼クマテ之ヲ中止スルコトヲ得

第三十條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ戰時兵役ニ服スルトキ又ハ戰爭其ノ他ノ障礙ニ因リ特許局ト交通ノ絶エタル地ニ在ルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ障礙ノ止ムマテ其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

第三十一條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ノ中斷及中止ハ期間ノ進行ヲ止メ及中斷又ハ中止ノ終リタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムル效力ヲ有ス

特許局長官、審判長又ハ審査官ハ中斷及中止ノ間其ノ事件ニ關スル手續ヲ續行スルコトヲ得ス

第三十二條　中斷又ハ中止シタル出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ受繼ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ特許局ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ受繼アリタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第三十三條　中斷又ハ中止シタル出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ニ付當事者、承繼人又ハ代理人カ其ノ受繼ヲ怠リタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ期間ヲ指定シテ受繼ヲ命スルコトヲ得

前項ノ期間內ニ受繼ナキトキハ特許局長官又ハ審判長ハ期間滿了ノ日ニ於テ其ノ受繼アリタルモノト看做スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ各當事者ニ通知スヘシ

第三十四條　書類ノ謄本若ハ圖面ノ調製ヲ求メ又ハ書類、雛形若ハ見本ノ閲覽若ハ謄寫ヲ爲サムトスル者ハ口頭ヲ以テ之ヲ申請スルコトヲ得

第三十五條　書類ノ謄本ニハ其ノ末尾ニ原本ト相違ナキコトヲ認證スル旨ヲ記載シ特許局官吏之ニ記名捺印スヘシ

書類ノ謄本ノ交付ヲ申請スル者カ其ノ用紙ヲ差出シタルトキハ之ヲ用ヰテ謄本ヲ作成スルコトヲ得

第三十六條　特許局長官必要ト認ムルトキハ特許權者又ハ特許法第四十一條ノ規定ニ依ル實施權者ニ對シ特許發明實施ノ狀況ノ報告ヲ命スルコトヲ得

第二章　出願

第三十七條　特許ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ明細書及必要ナル圖面ヲ添ヘ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ書類及圖面ニハ各其ノ副本一通ヲ添附スヘシ爾後差出スヘキ明細書及圖面ニ付亦同シ

出願人カ發明者ニ非サル場合ニ於テハ願書ニ發明者ノ氏名及住所ヲモ記載シ發明者數人アルトキハ尙共同ノ發明ニ係ル事項ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第三十七條ノ二　出願人カ特許ヲ受クルノ權利ノ信託ノ受託者ナル場合ニ於テハ尙特許登錄令第六十條第一項ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ信託ノ受託者カ出願人名義變更届ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱

二　發明ノ性質及目的ノ要領

三　圖面ノ略解

四　發明ノ詳細ナル說明

五　發明相互ノ關係

六　特許請求ノ範圍

發明ノ名稱ハ其ノ發明ノ內容ヲ簡明ニ表示スヘシ

發明ノ性質及目的ノ要領ニハ其ノ發明ノ特徵及直接ノ效果ヲ簡明ニ記載スヘシ

發明ノ詳細ナル說明ニハ其ノ發明ノ構成、作用、效果及實施ノ態樣ヲ記載スヘシ

發明相互ノ關係ニハ追加ノ特許出願ニ在リテハ其ノ原發明ノ改良又ハ擴張ノ態樣ヲ、他ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル發明ノ特許出願ニ在リテハ其ノ實施ノ態樣ヲ、特許法第七條但書ノ規定ニ依ル特許出願ニ在リテハ各發明ノ牽連スル態樣ヲ記載スヘシ

特許請求ノ範圍ニハ發明ノ構成ニ缺クヘカラサル事項ノミヲ一項ニ記載スヘシ但シ發明實施ノ態樣ヲ別項ニ附記スルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ其ノ附記タル旨ヲ明示スヘシ

特許法第七條但書ノ規定ニ依リ特許出願ヲ爲ス場合ニ於テハ權利ヲ請求スル各發明ニ付亦前項ニ同シ

第三十九條　數人共同シテ特許ヲ出願シ又ハ特許法第十二條第三項ニ規定スル名義變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ出願人又ハ届出人ノ權利ニ付持分ノ定アルトキ、特許法第四十四條第二項ノ同意アルトキ又ハ同法第四十七條若ハ民法第二百五十六條第一項但書ノ契約アルトキハ願書又ハ届書ニ其ノ旨ヲ記載シ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第四十條　特許出願ニ付條約ニ依ル優先權ヲ主張セムトスル者ハ願書ニ最初ニ出願シタル條約國ノ認證ニ係ル出願年月日ヲ記載シタル書面、發明ノ明細書及圖面ノ謄本又ハ其ノ政府ノ發行シタル公報若ハ特許證ヲ添附スヘシ

第四十一條　特許法第六條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ博覽會開會ノ年月日及出品ノ年月日ヲ證スル書面竝其ノ出品シタル發明ニ關スル說明書及必要ナル圖面ヲ添附スヘシ

第四十二條　特許局長官特許願書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ其ノ番號ヲ出願人ニ通知スヘシ

第四十三條　特許法第八條但書又ハ第十二條第三項但書ノ場合ニ於テハ特許局長官ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ期間內ニ協議ニ依リ權利者ヲ定メ之ヲ届出ツヘキ旨ヲ出願人又ハ關係人ニ通知スヘシ

前項ノ期間內ニ届出ナキトキハ特許局長官ハ協議調ハサルモノト看做スコトヲ得

第四十四條　二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上ノ出願ト爲サムトスル者ハ其ノ一發明ニ付テハ出願ヲ訂正シ同時ニ他ノ各發明ニ付新ナル出願ヲ爲スヘシ

第三章　審査

第四十五條　特許法第七十三條第五項ニ規定スル出願公告ノ猶豫ノ請求ハ出願公告ノ決定アルマテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求書ニハ猶豫期間ヲ記載スヘシ

第四十六條　特許異議ノ決定ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ記名捺印スヘシ

一　願書番號

二　發明ノ名稱

三　出願人、特許異議申立人及參加人竝此等ノ代理人ノ氏名名稱

四　決定ノ主文及理由

五　決定ノ年月日

第四十七條　查定ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ記名捺印スヘシ

一　願書番號

二　發明ノ名稱

三　出願人及代理人ノ氏名名稱

四　出願公告ノ年月日

五　查定ノ主文及理由

六　查定ノ年月日

出願公告ノ年月日ニハ特許法第七十九條ノ規定ニ依リ查定ヲ爲ス場合ニ在リテハ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願又ハ無效ト爲リタル特許ノ出願公告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十八條　查定アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ謄本ヲ出願人ニ送達スヘシ

出願公告ノ決定、特許異議ノ決定、參加許否ノ決定又ハ證據決定アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ謄本ヲ出願人、特許異議申立人、參加人及參加申請人ニ送付スヘシ

第四十九條　特許出願人カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ナルニ因リ其ノ特許出願ニ付拒絶ノ查定、審決又ハ判決アリタル場合ニ於テ特許局長官必要ト認ムルトキハ其ノ旨ヲ特許法第十條ニ規定スル正當權利者ニ通知スヘシ

第五十條　第五十六條、第六十一條、第六十四條及第六十七條ノ規定ハ審査ニ關シ之ヲ準用ス

第四章　審判、抗告審判及再審

第五十一條　審判又ハ抗告審判ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者及代理人ノ氏名名稱及住所又ハ居所

二　審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示

三　一定ノ申立及理由

利害關係人カ審判ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ其ノ利害關係ヲ記載スヘシ

特許又ハ實用新案ノ登錄ニ係ラサルモノニ關シ特許權ノ範圍ノ確認審判ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ說明書及必要ナル圖面ヲ差出スヘシ

第五十二條　共有ニ係ル特許權ニ付特許權者ニ對シ審判又ハ抗告審判ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ共有者ノ全員ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ

第五十三條　特許法第四十九條ニ規定スル審判ノ請求書ニハ第五十一條ニ揭クル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ尙補償金額ノ計算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

一　實施ヲ要スル特許發明ノ特許番號及名稱

二　實施セラルヘキ特許發明又ハ登錄實用新案ノ特許番號又ハ登錄番號及名稱竝其ノ特許又ハ登錄ノ年月日

第五十四條　特許法第五十三條ノ審判ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ訂正シタル明細書又ハ圖面ヲ添附スヘシ

第三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條　特許法第五十三條第二項ノ審判ヲ請求スル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ請求書ニ尙其ノ追加ノ特許權ノ特許番號[illegible]ヘキ特許權ヲ表示スヘシ

第五十六條　審判又ハ抗告審判ノ請求書、答辯書其ノ他審判又ハ抗告審判ニ關シ特許局ニ差出ス書面ニハ必要ナル證據方法ヲ記載シ證據物件アルトキハ之ヲ添附スヘシ

前項ノ證據物件カ書面ナル場合ニ在リテハ尙其ノ謄本ヲ、其ノ他ノモノナル場合ニ在リテハ尙其ノ圖面又ハ雛形若ハ見本ヲ特許局及相手方ノ數ニ應シテ差出スヘシ但シ雛形又ハ見本ヲ差出ス場合ニ於テハ其ノ圖面一通ヲ、其ノ圖面ヲ調製スルコト能ハサルトキハ說明書ヲ添附スヘシ

第五十七條　口頭審理ニ依リ審判ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ審判長ハ期日ヲ定メ當事者、特許異議申立人及參加人ニ通知スヘシ

第五十八條　審判又ハ抗告審判ノ當事者ハ口頭審理ニ於テ演述スヘキ事項ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ特許局ニ差出スヘシ

第五十九條　口頭審理ニ於テハ日本語ヲ用ウヘシ但シ日本語ニ通セサル者ハ通事ヲ用ウルコトヲ得

第六十條　口頭審理ニ於テハ調書ヲ作リ審判長及之ヲ作リタル官吏之ニ記名捺印スヘシ

第六十一條　審判又ハ抗告審判ノ請求ノ取下アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ旨ヲ相手

方ニ通知スヘシ

第六十二條　審決又ハ決定アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ謄本ヲ當事者、特許異議申立人、參加人及參加申請人ニ送達スヘシ

第六十三條　審決ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ記名捺印スヘシ

一　審判番號又ハ抗告審判番號
二　當事者、參加人及代理人ノ氏名名稱及住所又ハ居所
三　審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
四　當事者及參加人ノ申立及理由ノ要領
五　審決ノ主文及理由
六　審決ノ年月日

査定ニ對スル抗告審判ノ審決ニハ倘出願公告ノ年月日ヲ記載スヘシ

特許法第五十三條第二項ノ許可ノ審決ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ノ特許番號及附隨スヘキ特許權ヲ主文中ニ表示スヘシ

第六十四條　參加ノ許否決定ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ記名捺印スヘシ

一　審判番號又ハ抗告審判番號
二　當事者及代理人ノ氏名名稱
三　參加申請人及代理人ノ氏名名稱及住所又ハ居所
四　決定ノ主文及理由
五　決定ノ年月日

第六十五條　拒絕ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決アリタルトキハ特許局長官ハ審査官ヲシテ更ニ審査ヲ爲サシムヘシ

大審院ニ於テ審決ヲ破毀シ其ノ事件ヲ特許局ニ差戻シタル場合ニ於テハ特許局長官ハ抗告審判ニ關スル規定ニ依リ更ニ審判ヲ爲サシムヘシ

第六十六條　特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無效トスル審決又ハ判決アリタル場合ニ於テ特許局長官必要ト認ムルトキハ其ノ旨ヲ特許法第十一條ニ規定スル正當權利者ニ通知スヘシ

第六十七條　審判、抗告審判又ハ出訴ノ費用ノ額ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ費用計算書三通及其ノ費用ヲ要シタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ之ヲ特許局長官ニ差出スヘシ

第六十八條　第四十五條、第四十六條、第四十七條第二項及第四十九條ノ規定ハ査定ニ對スル抗告審判ニ關シ之ヲ準用ス

第四十六條ノ規定ハ特許法第五十三條ノ許可ノ審判及抗告審判ニ關シ之ヲ準用ス

第六十九條　本章ノ規定ハ再審ニ關シ之ヲ準用ス

第五章　特許證、特許標記及特許料

第七十條　特許證ハ別記書式ニ依リ之ヲ作リ明細書及必要ナル圖面ヲ添附スヘシ

第七十一條　特許證カ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ特許證主ハ其ノ事由ヲ疏明シテ特許證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ毀損ニ因ル場合ニ於テハ其ノ特許證ヲ差出スヘシ

第七十二條　特許證ノ再下付アリタルトキハ舊特許證ハ之ヲ無效トス此ノ場合ニ於テハ特許局長官ハ官報及特許公報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

特許法第五十三條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ特許證ヲ下付シタルトキ亦前項ニ同シ

第七十三條　特許標記ニハ物ノ特許發明ニ在リテハ「特許」ノ文字及其ノ特許番號ヲ、方法ノ特許發明ニ在リテハ「方法特許」ノ文字及其ノ特許番號ヲ表示スヘシ

特許法第六十四條第四項ノ場合ニ於ケル特許標記ニハ前項ニ依ル記載ニ「一部」ノ文字ヲ加フヘシ

第七十四條　特許料ハ左ノ各號ニ定ムル期間內ニ之ヲ納付スヘシ

一　特許法第六十五條第一項ノ第一年乃至第三年分ノ特許料、同條第三項ノ特許料又ハ同條第六項ノ規定ニ依リ正當權利者ノ納付スヘキ特許料ハ特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日
二　削除
三　特許法第六十五條第五項ノ特許料ハ許可ノ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日
四　追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタル場合ニ於テ特許法第六十五條第六項ノ規定ニ依リ納付スヘキ特許料ハ獨立ノ特許權ト爲リタル日ヨリ三十日

前項ノ期間ハ三十日內ヲ限リ請求ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第七十五條　特許料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十六條　特許法第六十六條第二項ノ規定ニ依リ特許料ノ納付ノ猶豫又ハ減免ヲ請求スル者ハ請求書ニ所轄市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ證明書ニハ請求人ノ職業、財產及納税額ヲ記載スヘシ

第七十七條　特許證主特許料ヲ納付セサルトキハ特許局長官ハ其ノ旨ヲ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ全員ニ通知スヘシ

附則

第七十八條　本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十九條　特許法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第八十條　特許法第百三十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ處理ニ付テハ仍特許法施行細則ニ依ル

別記

第一號書式

特許第何號

特許證

國籍(外國人ノ場合)
住所(居所)
氏　名(名稱)

發明者　何縣何誰
發明ノ名稱　何々
出願公告　年月日

前記發明ハ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名　印

第二號書式

特許第何號(原特許番號)

特許證(追加ノ特許證)

國籍(外國人ノ場合)
住所(居所)
氏　名(名稱)

發明者　何縣何誰
發明ノ名稱　何々
存續期間　自年月日　至年月日

第何號特許(追加ノ特許)ニ係ル前記發明ニ付特許法第五十三條第一項ノ規定ニ依リ明細書(圖面)ノ訂正ヲ許可スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名　印

第三號書式

特許第何號(原特許番號)ノ一(二、三)

特許證(追加ノ特許證)

國籍(外國人ノ場合)
住所(居所)
氏　名(名稱)

發明者　何縣何誰
發明ノ名稱　何々
存續期間　自年月日　至年月日

第何號特許ニ係ル前記發明ニ付特許法第五十三條第二項ノ規定ニ依リ何箇ノ特許權ト爲スコトヲ許可スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名　印

第四號書式

特許第何號

追加ノ特許證

國籍(外國人ノ場合)
住所(居所)
氏　名(名稱)

發明者　何縣何誰
發明ノ名稱　何々
原特許權特許第何號
原特許權ノ存續期間　自年月日　至年月日

前記發明ハ追加ノ特許トシテ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名　印

第五號書式

特許第何號(原特許番號)

特許證(追加ノ特許證)

國籍(外國人ノ場合)
住所(居所)
氏　名(名稱)

發明者　何縣何誰
發明ノ名稱　何々
延長ノ期間　自年月日　至年月日

前記特許權(追加ノ特許權)ノ存續期間延長ノ許可アリタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名　印

●特許登錄令

（大正十年十二月十六日勅令第四百六十一號）
改正　大正一一年第五一七號

朕特許登錄令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

特許登錄令

第一章　總則

第一條　特許ニ關スル登錄ハ左ニ掲クル事項ニ付之ヲ爲ス

一　特許權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限又ハ特許法第四十條ノ制限
二　特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決
三　特許法第十六條第三項ニ規定スル代理人ノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅

第二條　假登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
二　前條第一號ニ掲クル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セムトスルトキ但シ其ノ請求權ハ始期附又ハ停止條件附ナルコト其ノ他將來ニ於テ確定スヘキモノナルコトヲ妨ケス

第三條　豫告登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　登錄原因ノ無效又ハ取消ニ依ル登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタルトキ但シ登錄原因ノ取消ニ依ル訴ニ付テハ其ノ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ場合ニ限ル
二　特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力、特許權ノ範圍若ハ實施權ノ取得ニ關スル審判若ハ再審ノ請求アリタルトキ、實施權許與ノ請求アリタルトキ又ハ特許若ハ實施權許與ノ取消ノ請求アリタルトキ

第四條　左ニ掲クル事項ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

一　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正
二　質權ノ移轉
三　一部抹消登錄ノ回復

第五條　左ニ掲クル事項ノ登錄ハ登錄上利害關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ登錄ノ申請書ニ登錄上利害關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

一　特許法第四十四條ノ制限ノ變更
二　特許權以外ノ權利ノ變更
三　登錄ノ更正

第六條　特許權又ハ之ニ關スル權利ニ關シ登錄シタル權利ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

登錄ノ前後ハ登號用紙中同區ニ爲シタル登錄ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登錄ニシテ受付番號アルモノニ付テハ受付番號ニ依ル

第七條　附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依リ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第八條　假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

第九條　詐欺又ハ強迫ニ依リテ登錄ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第十條　他人ノ爲登錄ヲ申請スル義務アル者ハ其ノ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但シ其ノ登錄ノ原因カ自己ノ登錄ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　特許發明ノ明細書及圖面竝特許信託原簿ハ之ヲ特許原簿ノ一部ト看做ス

審決ノ原本又ハ判決ノ謄本ニ依リ第一條第二號ニ掲クル事項ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ原本又ハ謄本ハ之ヲ特許原簿ノ一部ト

看做ス

第十二條　特許原簿及受付簿ノ樣式並其ノ記載ニ關スル手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十三條　特許原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ回復ニ關スル手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二章　登錄手續

第一節　通則

第十四條　登錄ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請又ハ囑託ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ依ル登錄ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請ニ依ル登錄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條　左ニ揭クル事項ノ登錄ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

一　特許權ノ設定、特許ノ無效、拋棄ニ依ラサル特許權ノ消滅又ハ訴願ノ裁決若ハ再審ノ確定審決若ハ判決ニ依ル特許權ノ回復

二　特許權ノ存續期間ノ延長、特許法第四十條ノ制限又ハ特許法第六十條ノ規定ニ依ル特許權ノ變更

三　特許法第五十三條ノ許可又ハ其ノ許可ノ無效若ハ回復

四　特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決

五　特許法第四十一條ノ規定ニ依ル實施權許與、其ノ許與ノ取消、訴願ノ裁決ニ依ル實施權ノ回復又ハ確定審決若ハ判決ニ依ル實施權ノ設定若ハ消滅

第十六條　登錄ノ申請ハ登錄權利者及登錄義務者之ヲ爲スヘシ但シ申請書ニ登錄義務者ノ承諾書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條　判決又ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ依ル登錄ノ申請ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第十八條　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ノ申請ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第十九條　特許法第十六條第三項ニ規定スル登錄ノ申請ハ本人又ハ受任者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得代理人ノ表示ノ變更又ハ代理人ノ表示若ハ代理權ノ更正ノ登錄ノ申請ニ付亦同シ

第二十條　假登錄ハ第十六條ノ場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ依リ假登錄義務者ノ住所若ハ居所又ハ特許法第二十二條ノ規定ニ依ル財産所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ特許局ニ之ヲ囑託スヘシ

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者カ假登錄原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スヘシ

第一項ノ申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　官廳又ハ公署ハ其ノ爲シタル處分ニ基ク處分ノ制限ノ登錄又ハ其ノ抹消登錄ヲ遲滯ナク特許局ニ囑託スヘシ公賣其ノ他法令ノ規定ニ依ル處分ニ基ク權利移轉ノ登錄ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ當該官廳又ハ公署ハ登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正又ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ依ル權利移轉ノ登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第二十二條　特許法第四十條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ特許權ヲ收用シ又ハ特許發明ヲ實施スル場合ニ於テハ主務官廳ハ特許權移轉ノ登錄又ハ實施權設定ノ登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　第三條第一號ニ揭クル訴ヲ受理シタル裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ其ノ豫告登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第三條第二號ニ揭クル請求アリタルトキハ職權ヲ以テ其ノ豫告登錄ヲ爲ス

第二十四條　登錄ノ申請書ハ一件每ニ一通ヲ作リ之ニ左ニ揭クル事項ヲ記載シ申請人記名捺印スヘシ

一　特許番號及發明ノ名稱並登錄ノ目的カ特許權以外ノ權利ニ關スル場合ニ於テハ尙其ノ權利ノ表示

二　申請人ノ氏名名稱及住所又ハ居所並代理人ニ依リテ申請スル場合ニ於テハ尙其ノ氏名名稱及住所又ハ居所

三　申請人カ外國人ナル場合ニ在リテハ其ノ國籍及萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ナル場合ニ在リテハ尙同盟國中ノ一國ノ版圖內ニ於ケル住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所

四　登錄原因及其ノ日附

五　登錄ノ目的

六　年月日

第二十五條　數箇ノ特許權、實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關スル權利ヲ目的トスル質權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ登錄原因カ同一ナルトキハ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　登錄ノ申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一　登錄原因ヲ證スル書面

二　削除

三　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

四　申請人カ外國人ナル場合ニ在リテハ其ノ國籍ヲ證スル書面及萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ナル場合ニ在リテハ尙同盟國中ノ一國ノ版圖內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スルコトヲ證スル書面

五　申請人カ外國法人ナル場合ニ在リテハ其ノ法人タルコトヲ證スル書面

六　代理人又ハ代表者ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

特許法第十六條第三項ノ規定ニ依リ登錄ヲ受ケタル代理人又ハ同法第十七條若ハ第二十一條第一項但書ノ規定ニ依リ屆出テタル代理人若ハ代表者カ其ノ權限內ニ於テ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ第一項第六號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

登錄原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第一項第三號乃至第五號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第二十七條　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ第二十四條ニ揭クル事項ノ外債權者ノ氏名名稱及住所又ハ居所並代位原因ヲ記載シ債權者之ニ記名捺印シ且前條第一項各號ニ揭クル書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ之ニ添附スヘシ但シ登錄上代位原因明ナル場合ニ於テハ之ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第二十八條　登錄原因ニ登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第二十九條　登錄原因ニ持分ノ定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ一部移轉ノ登錄ヲ申請スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ特許法第四十四條第二項ノ同意、同法第四十七條ノ契約又ハ民法第二百五十六條第一項但書ノ契約アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第三十條　抹消シタル登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十一條　左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル戶籍若ハ登記簿ノ謄本若ハ抄本又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

一　登錄原因カ相續其ノ他ノ一般承繼ナルトキ

二　申請人カ登錄權利者又ハ登錄義務者ノ相續人其ノ他ノ一般承繼人ナルトキ

三　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ヲ申請スルトキ

第三十二條　數箇ノ申請書ニ依リ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ第二十六條第一項第一號乃至第五號又ハ前條ノ書面カ一通ナルトキハ一ノ申請書ニ之ヲ添附シ他ノ申請書ニハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ第二十六條第一項第三號乃至第五號又ハ前條ノ書面ヲ差出シタル者ハ其ノ事項ニ變更ナキトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ更ニ其ノ書面ヲ申請書ニ添附セサルコトヲ得但シ特許局長官必要ト認ムルトキハ其ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三十三條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ記名捺印セシメ其ノ書面ノ添附ニ代フルコトヲ得

第三十四條　削除

第三十五條　削除

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

一　事件カ登錄スヘキモノニ非サルトキ

二　申請書カ方式ニ適合セサルトキ

三　第二十四條第一號ノ事項カ特許原簿ト符合セサルトキ

四　第三十一條第二號ニ規定スル書面ヲ添附スル場合ヲ除クノ外申請書ニ揭クル登錄義務者ノ表示カ特許原簿ト符合セサルトキ

五　申請人カ登錄名義人ナル場合ニ於テ其ノ表示カ特許原簿ト符合セサルトキ

六　代理人又ハ代表者ノ表示カ特許原簿又ハ屆出ト符合セサルトキ

七　申請書ニ揭クル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ

八　申請書ニ必要ナル書面ヲ添附セサルトキ

九　登錄稅ヲ納付セサルトキ

前項ノ規定ニ依ル却下ニハ理由ヲ附スヘシ

第三十七條　行政區劃又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ特許原簿ニ記載シタル行政區劃又ハ其ノ名稱ハ之ヲ變更シタルモノト看做ス大字若ハ字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキ亦同シ

第三十八條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ第二十七條ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ亦之ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル通知ハ登錄權利者、登錄義務者又ハ債權者カ多數ナル場合ニ於テ其ノ代表者ナキトキハ其ノ一人ニ對スル通知ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十九條　前條ノ場合ニ於テ登錄ノ錯誤又ハ遺漏カ特許局ノミノ過誤ニ出テタルトキハ登錄上利害關係ヲ有スル第三者アル場合ヲ除クノ外遲滯ナク其ノ登錄ノ更正ヲ爲シ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條　特許權又ハ之ニ關スル權利ニシテ工場財團又ハ之ニ準スヘキモノニ屬スルコトノ登錄アルモノニ付變更、制限又ハ消滅アリタルトキハ特許局ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ管轄登記所又ハ之ニ準スヘキモノニ通知スヘシ

第二節　特許權及實施權ニ關スル登錄手續

第四十一條　特許權移轉ノ登錄又ハ特許權ノ登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ追加ノ特許權又ハ特許法第四十九條ノ規定ニ依ル實施權アルトキハ同時ニ其ノ追加ノ特許權又ハ實施權ニ付テモ同一事項ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第四十二條　特許權ノ制限附移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ制限ヲ記載シ尙登錄原因ニ報酬又ハ其ノ支拂時期ノ定アルトキハ亦之ヲ記載スヘシ

第四十三條　實施權ノ設定、保存又ハ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ範圍ヲ記載シ尙登錄原因ニ報酬若ハ其ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ特許法第五十一條第二項ノ承諾アルトキハ亦之ヲ記載スヘシ

實施權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ特許發明實施ノ事業ト共ニ移轉スルトキハ申請書ニ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三節　質權ニ關スル登錄手續

第四十四條　質權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權ノ目的タル權利及債權額ヲ記載シ尙登錄原因ニ存續期間、辨濟期、利息、違約金若ハ賠償額ニ關スル定若ハ民法第三百四十六條但書ノ規定ニ依ル定アルトキ又ハ債權ニ條件ヲ附シタルトキハ亦之ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ質權設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ尙債務者ヲ表示スヘシ

質權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スヘシ

第四十五條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル質權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價額ヲ記載スヘシ

第四十六條　債權ノ一部讓渡又ハ代位辨濟ニ依ル質權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スヘシ

第四十七條　未登錄ノ制限附移轉ノ特許權若ハ未登錄ノ實施權又ハ之ヲ目的トスル質權ニ關スル登錄ハ之ヲ命スル裁判ニ依リ自己ノ權利ヲ登錄スル者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ官廳又ハ公署カ未登錄ノ權利ニ關スル登錄ヲ特許局ニ[illegible]テ其ノ權利[illegible]

第四節　抹消ニ關スル登錄手續

第四十八條　特許權又ハ之ニ關スル權利ノ拋棄ニ依ル抹消ノ登錄ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第四十九條　登錄シタル權利カ人ノ死亡ニ依リテ消滅シタル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル[illegible]準スヘキ書面ヲ添附シテ登錄權利者ノミニテ[illegible]得

第五十條　登錄權利者カ登錄義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ登錄ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書又ハ元本ノ受取證書[illegible]濟證書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ質權ニ關スル登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十一條　假登錄ノ抹消ハ假登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登錄名義人ノ承諾書又ハ其ノ者

ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上利害關係ヲ有スル者ノミニテ假登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十二條　登錄ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第五十三條　第三條第一號ノ豫告登錄アリタル場合ニ於テ訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ抛棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ抛棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登錄ノ抹消ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第三條第二號ノ豫告登錄アリタル場合ニ於テ審判若ハ再審ノ請求ヲ却下シタル決定確定シタルトキ、請求ヲ否認シタル審決確定シ若ハ判決アリタルトキ、請求ノ取下アリタルトキ又ハ請求ノ抛棄アリタルトキハ職權ヲ以テ豫告登錄ヲ抹消ス實施權許與ノ請求若ハ特許若ハ實施權許與ノ取消ノ請求ヲ却下シタルトキ又ハ請求ノ取下アリタルトキ亦同シ

第五節　信託ニ關スル登錄手續

第五十四條　特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ニ付テハ受託者ヲ登錄權利者トシ委託者ヲ登錄義務者トス

第五十五條　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財産ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ倘登錄ノ目的タル特許權又ハ之ニ關スル權利カ信託財産ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五十七條　信託ノ登錄ノ申請ハ信託ニ依ル特許權ノ移轉又ハ特許權ニ關スル權利ノ設定若ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ受益者又ハ委託者カ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　受託者更迭ノ場合ニ於テ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ移轉ノ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ更迭ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第五十九條　受託者ノ任務カ死亡、破産、禁治産、準禁治産又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ依リテ終了シタルトキハ前條ノ登錄ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ依リテ終了シタルトキ亦同シ

第六十條　信託ノ登錄ノ申請書ニハ第二十四條ニ掲クル事項ノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　委託者、受託者及受益者ノ氏名、名稱及住所又ハ居所竝信託管理人アル場合ニ於テハ倘其ノ氏名、名稱及住所又ハ居所
二　信託ノ目的
三　信託財産ノ管理方法
四　信託終了ノ事由
五　其ノ他信託ノ條項

前項ニ掲クル事項ハ職權ヲ以テ特許信託原簿ニ之ヲ登錄スヘシ

第六十一條　裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク特許信託原簿ノ登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第六十二條　前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條　裁判所カ信託財産ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク特許信託原簿ノ記載ヲ特許局ニ囑託スヘシ

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條　第五十八條又ハ第五十九條ノ場合ニ於テ特許原簿ノ登錄ヲ爲シタルトキハ特許局ハ職權ヲ以テ特許信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第六十五條　第五十八條、第五十九條及第六十一條乃至第六十三條ノ場合ヲ除クノ外第六十條第一項ニ掲クル事項ノ變更ニ關スル特許信託原簿ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六十六條　第六十二條ニ規定スル登錄ヲ爲シタルトキハ特許局ハ職權ヲ以テ特許原簿ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第六十七條　信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利カ移轉ニ依リ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登錄抹消ノ申請ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ信託終了ニ依リ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條　第四十一條ノ規定ハ特許權ノ信託ノ登錄若ハ其ノ抹消又ハ第六十五條ニ規定スル特許信託原簿ノ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第三章　異議及訴願

第六十九條　登錄ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ其ノ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以內ニ特許局長官ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

異議ノ決定ハ理由ヲ附シテ之ヲ爲スヘシ

第七十條　異議ノ決定ニ不服アル者ハ農商務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

附　則

第七十一條　本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十二條　舊特許原簿ハ之ヲ本令ニ依ル特許原簿ト看做ス

第七十三條　舊令ニ依リ爲シタル登錄ニ關スル處分及手續ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第七十四條　特許法第百三十八條第一項ノ規定ニ依ル處理ニ關スル登錄ニ付テハ仍舊令ニ依ル

第七十五條　本令施行ノ際現ニ繫屬スル登錄ニ關スル處分及手續ニ付テハ仍舊令ニ依ル

第七十六條　舊特許法第三十五條ノ規定ニ依ル實施權ノ保存ノ登錄ニ付テハ仍舊令ニ依ル

●特許登錄令施行規則

（大正十年十二月十九日 農商務省令第三十九號）
（改正　大正一一年第二九號 昭和二年商工省令第四號）

特許登錄令施行規則左ノ通改正ス

特許登錄令施行規則

第一章　登錄ニ關スル帳簿

第一條　特許原簿ハ第一號樣式ニ、特許信託原簿ハ第一號ノ二樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第二條　特許原簿ハ一特許權ニ付一用紙ヲ備フ

特許信託原簿ハ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ニ付各一用紙ヲ備フ

第三條　受付簿ハ第二號樣式ニ依リ每年之ヲ作ルヘシ

第四條　特許原簿ノ特許番號欄ニハ特許番號ヲ記載ス

表題部ノ表示欄ニハ特許權ノ表示ヲ爲シ竝其ノ變更、消滅、特許法第四十條ノ制限及特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ノ確認ニ關スル確定審決又ハ判決ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區ノ事項欄ニハ特許權ノ設定、移轉及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區ノ事項欄ニハ特許法第四十四條ノ規定ニ依ル制限附移轉ノ特許權及之カ目的トスル質權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區ノ事項欄ニハ實施權及之ヲ目的トスル質權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區ノ事項欄ニハ特許權ヲ目的トスル質權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

代理人欄ニハ特許登錄令第一條第三號ニ掲クル事項ヲ記載ス

追加特許番號欄ニハ其ノ追加ノ特許權ノ特許番號ヲ記載ス

特許料金欄ニハ特許料及其ノ納付年月日又ハ其ノ納付ノ猶豫若ハ減免ニ關スル事項ヲ記載ス

第四條ノ二　特許信託原簿ノ特許信託番號欄ニハ特許信託原簿ニ始メテ登錄ヲ爲シタル順序ニ依リ特許信託番號ヲ記載ス

表示欄ニハ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ竝其ノ變更及消滅又ハ其ノ權利ニ關スル信託ノ終了ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

事項欄ニハ特許登錄令第六十條第一項ニ掲クル事項及其ノ變更ヲ記載シ順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第二章　申請及囑託手續

第五條　登錄申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ申請人カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

前項ノ契印ナキモノニ付テハ登錄官吏ニ於テ契印スヘシ

第六條　特許登錄令第二十七條但書ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第七條　質權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ先順位ノ質權ノ登錄アルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條　登錄稅法第十一條第三號又ハ第六號ニ規定スル事項ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ

第八條ノ二　登錄稅法施行規則第四條第一項ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ登錄官吏ハ後ニ登記又ハ登錄ヲ申請スヘキ登記所又ハ登錄官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

登錄稅法施行規則第四條第一項ノ場合ニ於テ既ニ登記所又ハ登錄官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ登錄申請書ニ其ノ登記所又ハ登錄官廳ノ交付シタル受領證ヲ添附スヘシ

第三章　登錄手續

第一節　通則

第九條　表示欄ニ登錄ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登錄ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第十條　附記ニ依ル登錄ノ番號ヲ記載スルニハ主登錄ノ番號ヲ記載シ其ノ左側ニ附記ノ順序ニ依リ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登錄ノ番號ノ左側ニ前項ノ附記ノ番號ヲ記載スヘシ

第十一條　特許原簿又ハ特許信託原簿ニ住所ヲ記載スヘキ場合ニ於テ住所ナキ者ニ付テハ居所ヲ記載シ外國人ニ付テハ倘其ノ國籍ヲ記載スヘシ

第十二條　異議ノ決定又ハ訴願ノ裁決ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ相當欄ニ原因及其ノ日附ヲ記載スヘシ

第十三條　變更又ハ更正ノ登錄ヲ爲シタルトキハ變更又ハ更正アリタル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第十四條　抹消ノ登錄ヲ爲スニハ其ノ原因、日附及抹消ヲ爲ス旨ヲ記載シタル後抹消スヘキ登錄ヲ朱抹スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登錄アルトキハ當該登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登錄ヲ抹消スルニ依リテ其ノ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載シ其ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

追加ノ特許權ニ付抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ追加ノ特許權カ附隨スル特許權ノ登錄用紙中當該追加ノ特許權ノ特許番號ヲ朱抹スヘシ

第十五條　回復ノ登錄ヲ爲スニハ其ノ原因、日附及回復ヲ爲ス旨ヲ記載シタル後抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

第十六條　表示欄、事項欄又ハ代理人欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ末尾ニ登錄年月日ヲ記載シ登錄官吏之ニ捺印スヘシ

第十七條　表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縱線ヲ割シ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ割シ餘白ト分界スヘシ

代理人欄、追加特許番號欄又ハ特許料金欄ニ登錄又ハ記載ヲ爲シタルトキハ同欄ニ縱線ヲ割シ餘白ト分界スヘシ

第十七條ノ二　特許原簿ノ登錄用紙中同一事項欄ニ同一順位ヲ以テ設定又ハ移轉ノ登錄ト信託ノ登錄トヲ爲シタルトキハ事項欄ニ縱線ヲ割シテ其ノ各登錄ヲ分界スヘシ

第十七條ノ三　特許原簿ニ信託ノ登錄ヲ爲ストキハ特許信託番號ヲ記載スヘシ

第十八條　登錄用紙中或欄カ登錄又ハ記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ登錄用紙ヲ起シ特許番號欄又ハ特許信託番號欄ニ前用紙ノ特許番號又ハ特許信託番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ「第二」ノ文字ヲ記載シ且前用紙ヲ編綴セル特許原簿又ハ特許信託原簿ノ册數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前用紙中特許番號又ハ特許信託番號ノ左側ニ「第一」ノ文字ヲ記載シ且特許番號欄又ハ特許信託番號欄ニ新用紙ヲ編綴セル特許原簿又ハ特許信託原簿ノ册數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前用紙中他ノ欄ニ餘白アルトキハ其ノ欄ニ登錄又ハ記載スヘキ事項ハ仍其ノ欄ニ登錄又ハ記載スヘシ

第十九條　前條ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二節　職權ニ依ル登錄手續

第二十條　職權ニ依ル登錄ハ其ノ原因ノ發生シタル順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ但シ特許權ノ設定、特許法第五十三條第二項ノ許可及特許權存續期間延長ノ登錄ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

特許料ノ納付ノ猶豫又ハ免除ノ處分アリタル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ノ適用ニ關シテハ其ノ處分ノ順序ヲ以テ料金納付ノ順序ト看做ス

第二十一條　特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ特許番號欄ニ特許番號ヲ記載シ表示欄ニ出願日附、出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附、願書番號、特許發明ノ名稱、査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附竝特許法第十一條ノ規定ニ依リ特許權ヲ設定シタル場合ニ在リテハ倘其ノ旨、無效ト爲リタル特許ノ特許番號、其ノ登錄ノ日附及其ノ出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附ヲ記載シ甲區事項欄ニ特許權者ノ氏名名稱及住所竝特許法施行規則第三十九條ニ掲クル事項アル場合ニ在リテハ倘其ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十二條　追加ノ特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ前條ノ規定ニ依ルノ外表示欄ニ原特許權ノ特許番號、其ノ登錄ノ日附及其ノ出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附竝其ノ追加ノ特許ナルコトヲ記載スヘシ

前項ノ登錄ヲ爲シタルトキハ原特許權ノ登錄用紙中追加特許番號欄ニ其ノ追加ノ特許權ノ特許番號ヲ記載スヘシ

第二十三條　追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ表示欄ニ其ノ變更ノ登錄ヲ爲スヘシ

第二十四條　特許權存續期間延長ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ[illegible]リタル旨、其ノ[illegible]シタルトキハ[illegible]

第二十五條　[illegible]爲スニハ表[illegible]附ヲ記載スヘシ

第二十六條　[illegible]ノ登錄ヲ爲ス[illegible]又ハ判決ノ番[illegible]決アリタル旨[illegible]ニ變更アリタ[illegible]ヲ記載スヘシ

第二十七條　[illegible]ニ依リ特許權[illegible]場合ニ於テ[illegible]ニ付新ニ登錄[illegible]許ノ特許番號[illegible]文字ヲ記載シ[illegible]表示欄ニ記載[illegible]サルモノヲ轉[illegible]決ノ番號、許[illegible]タル旨及其ノ[illegible]

アリタル場合ニ在リテハ尙其ノ名稱ヲ記載シ相當區事項欄ニ原特許ノ登錄用紙中登錄セラレタル特許權其ノ他ノ權利ニ關スル事項ヲ轉寫シ審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ且甲區以外ノ相當區事項欄ニ轉寫シタル權利ニ關スル事項中ニ甲特許權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ原特許ノ登錄用紙中特許番號ノ左側ニ「ノ一」ノ文字ヲ記載シ表示欄ニ甲特許權ノ表示ヲ爲シ審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附竝特許發明ノ名稱ニ變更アリタル場合ニ在リテハ尙其ノ名稱ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ヲ特許第何號ニ移シタル旨竝乙特許權ヲ登錄シタル特許原簿ノ册數及丁數ヲ記載シ甲區以外ノ相當區事項欄ニ其ノ登錄ニ係ル權利ノ表示ヲ爲シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ト共ニ其ノ權利ノ目的ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ乙特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ確定審決若ハ判決ニ關スル事項又ハ特許法第四十條ノ制限若ハ特許權存續期間延長ノ許可ニ附シタル制限ニ關スル事項ヲ轉寫シタルトキハ其ノ登錄中ニ甲特許權ト共ニ確定審決若ハ判決又ハ制限ノ目的タル旨ヲ記載シ甲特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ登錄ニ係ル事項ノ表示ヲ爲シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ト共ニ確定審決若ハ判決又ハ制限ノ目的ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

第二十九條　第二十七條ノ場合ニ於テ登錄名義人カ登錄上乙特許權ニ關シ其ノ權利ナキトキ又ハ許可ノ審決確定若ハ判決前ニ其ノ權利ノ消滅ヲ當該登錄名義人カ承認シタルコトヲ證スル書面若ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出シタルトキハ甲特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ登錄ニ係ル事項ノ表示ヲ爲シ且其ノ旨ヲ記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登錄用紙中ニ其ノ權利ニ關スル事項ヲ轉寫スルコトヲ要セス

第二十七條ノ場合ニ於テ甲特許權カ前項ニ規定スル場合ニ該當スルトキハ甲特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ登錄ニ係ル權利及乙特許權ノ表示ヲ爲シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ其ノ權利ヲ特許第何號ノ登錄用紙ニ移シタル旨ヲ記載シ其ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

前二項ノ規定ハ原特許ノ登錄用紙中表示欄ニ記載シタル事項カ甲特許權又ハ乙特許權ノミニ關スルモノナル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　第二十七條ノ場合ニ於テ原特許ノ登錄用紙中代理人欄ニ特許登錄令第一條第三號ニ揭クル事項ノ登錄アルトキハ乙特許權ノ登錄用紙中代理人欄ニ之ヲ轉寫スヘシ

第三十一條　第二十七條ノ場合ニ於テ原特許ノ登錄用紙中追加ノ特許權ノ特許番號ノ記載アルトキハ乙特許權ノ登錄用紙中追加特許番號欄ニ之ヲ轉寫スヘシ但シ追加ノ特許權カ許可ノ確定審決又ハ判決ニ依リ乙特許權ノミニ對スルモノト爲リタル場合ニ在リテハ甲特許權ノ登錄用紙中追加ノ特許權ノ特許番號ヲ朱抹シ甲特許權ノミニ對スルモノト爲リタル場合ニ在リテハ乙特許權ノ登錄用紙ニ之ヲ轉寫スルコトヲ要セス

前項ノ場合ニ於テハ當該追加ノ特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ原特許權ノ變更ノ登錄ヲ爲スヘシ

第三十二條　前五條ノ規定ハ特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ特許權ヲ三以上ノ特許權ト爲シタル場合ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、審決確定シ又ハ判決アリタル旨、其ノ日附及確定審決又ハ判決ノ要旨ヲ記載シ再審ノ確定審決又ハ判決ノ登錄ヲ爲ス場合ニ在リテハ尙之ニ反スル確定審決又ハ判決ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第三十四條　特許法第四十一條ノ規定ニ依ル實施權ノ許與ノ登錄ヲ爲スニハ實施セラルヘキ發明ノ特許權ノ登錄用紙中丙區事項欄ニ處分又ハ訴願ノ裁決ノ年月日、實施權ノ範圍、補償金額及其ノ支拂時期竝實施權者ノ氏名名稱及住所ヲ記載スヘシ

第三十五條　前條ノ規定ハ特許法第四十九條ノ規定ニ依ル實施權設定ノ登錄ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ登錄ヲ爲ストキハ實施ヲ要スル發明ノ特許權ノ登錄用紙中丙區事項欄ニ前條ニ揭クル事項ノ外實施セラルヘキ發明ノ特許權ノ特許番號及其ノ特許權カ實施權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第三十六條　特許カ無效ト爲リ又ハ拋棄ニ依ル場合ヲ除クノ外特許權カ消滅シタルトキハ其ノ特許權ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第三十七條　特許法第五十三條ノ許可カ無效ト爲リタルトキハ其ノ許可ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第三十八條　特許法第五十三條第二項ノ許可カ無效ト爲リタル場合ニ於テハ乙特許權ノ登錄用紙中其ノ登錄ヲ朱抹シ甲特許權ノ登錄用紙中第二十七條乃至第三十一條ノ規定ニ依リ記載シタル事項ハ之ヲ朱抹シ第二十九條第二項第三項及第三十一條但書ノ規定ニ依リ朱抹シタル事項ニシテ消滅ニ係ラサルモノハ之ヲ相當欄ニ回復シ且乙特許權タリシ部分ノミニ關スル旨ヲ記載シ第二十九條第一項第三項及第三十一條但書ノ規定ニ依リ乙特許權ノ登錄用紙ニ轉寫セサリシ事項ハ之ヲ相當欄ニ表示シ且許可ノ無效ニ依リ甲特許權タリシ部分ノミニ關スルモノト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲特許權ノ登錄用紙中許可ノ登錄後ニ爲シタル登錄アルトキハ相當欄ニ其ノ事項ノ表示ヲ爲シ且甲特許權タリシ部分ノミニ付登錄アリタルモノナル旨ヲ記載シ乙特許權ノ登錄用紙中許可ノ登錄後ニ爲シタル登錄アルトキハ甲特許權ノ登錄用紙中相當欄ニ之ヲ移シ且許可ノ無效ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨、其ノ日附及乙特許權タリシ部分ノミニ付登錄アリタルモノナル旨ヲ記載スヘシ

第三十九條　前條ノ場合ニ於テ許可ノ登錄後甲特許權又ハ乙特許權ニ對スル追加ノ特許權設定ノ登錄アリタルトキハ當該追加ノ特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ原特許權ノ變更ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四十條　前二條ノ規定ハ特許權ヲ三以上ノ各別ノ特許權ト爲ス許可ノ登錄アリタル後其ノ許可カ無效ト爲リタル場合ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第四十一條　訴願ノ裁決、取消處分又ハ確定審決若ハ判決ニ依リ實施權カ消滅シタルトキハ其ノ實施權ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第四十二條　訴願ノ裁決又ハ再審ノ確定審決若ハ判決ニ依ル特許權ノ回復、特許法第五十三條ノ許可ノ回復又ハ訴願ノ裁決ニ依ル實施權ノ回復アリタルトキハ回復ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四十三條　特許登錄令第三條第二號ノ豫告登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判又ハ再審ノ請求アリタル場合ニ在リテハ審判又ハ再審ノ請求書受付ノ年月日、審判又ハ抗告審判番號及一定ノ申立ヲ、其ノ他ノ請求アリタル場合ニ在リテハ請求書受付ノ年月日及其ノ請求アリタル旨ヲ記載スヘシ但シ實施權ニ關スル豫告登錄ハ丙區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第四十四條　信託財產ニ屬スル特許ヲ受クルノ權利ニ付第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ同一順位ヲ以テ信託ノ登錄ヲ爲スヘシ

實施ヲ要スル發明ノ特許權カ信託財產ニ屬スル場合ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲ストキ亦前項ニ同シ

第四十四條ノ二　第二十三條、第二十七條、第三十二條、第三十六條乃至第四十二條及前條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ特許權又ハ之ニ關スル權利カ信託財產ニ屬スルトキハ同時ニ特許信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第三節　申請及囑託ニ依ル登錄手續

第四十五條　登錄申請書ノ提出アリタルトキハ受付簿ニ受付年月日、受付番號、特許番號、登錄ノ目的及申請人ノ氏名名稱ヲ記載シ申請書ニ受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

前項ノ受付番號ハ受付ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ同一ノ特許權ニ關シ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受付番號ヲ附スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ申請人カ多數ナルトキハ申請書ニ揭クル代表者又ハ筆頭者ノ氏名名稱及他ノ人員ノ數ヲ記載スヘシ

第四十六條　受付番號ハ每年之ヲ更新スヘシ

第四十七條　登錄ハ受付番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第四十五條第二項ノ規定ニ依リ同一ノ受付番號ヲ附シタルモノニシテ同一ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スヘキモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第四十八條　表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受付ノ年月日、受付番號、登錄原因、其ノ日附及登錄ノ目的ヲ記載スヘシ

事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受付ノ年月日、受付番號、登錄權利者ノ氏名名稱及住所、登錄原因、其ノ日附竝登錄ノ目的其ノ他申請書ニ揭クル事項ニシテ登錄スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載スヘシ

特許登錄令第二十七條、第五十六條又ハ第六十五條第二項ニ規定スル申請ニ依リ事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ前項ニ揭クル事項ノ外債權者又ハ受益者若ハ委託者ノ氏名名稱及住所竝代位原因ヲ記載スヘシ

代理人欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受付ノ年月日、受付番號、代理人ノ氏名名稱及住所、登錄原因、其ノ日附竝登錄ノ目的其ノ他申請書ニ揭クル事項ニシテ代理權ニ關スルモノヲ記載スヘシ

第四十九條　登錄シタル質權ノ順位ノ讓渡又ハ拋棄ニ依ル變更登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ質權ノ登錄ノ順位番號ノ左側ニ變更登錄ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第五十條　特許登錄令第二十五條ニ規定スル質權ノ設定ノ登錄ハ其ノ各特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ且其ノ登錄中ニ他ノ特許權、實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利カ共ニ質權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第五十一條　前條ノ登錄アリタル後其ノ一ノ特許權、實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關スル權利ヲ目的トスル質權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ノ表示ヲ爲シ且其ノ權利ヲ目的トスル質權カ消滅シタル旨ヲ記載シ前條ノ規定ニ依リ爲シタル登錄中消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十二條　特許登錄令第四十七條ニ規定スル申請又ハ囑託ニ依リ登錄ヲ爲ストキハ登錄用紙中相當區事項欄ニ權利者ノ氏名名稱及住所竝裁判又ハ囑託ニ依リ何權利ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第五十三條　特許登錄令第二十一條第一項ニ規定スル權利移轉ノ登錄ヲ爲シタルトキハ同條ニ規定スル處分ノ制限ノ登錄ヲ抹消シ公賣處分ニ依ル場合ニ於テ其ノ權利ヲ目的トスル質權ノ登錄アルトキハ尙其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ權利ノ信託ノ登錄アルトキハ尙其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十四條　特許登錄令第二十二條ニ規定スル特許權移轉ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ特許權以外ノ權利ニ關スル登錄又ハ其ノ特許權若ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄アルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十四條ノ二　第四十四條ノ二ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條　假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第五十六條　假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

第五十七條　假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第五十八條　特許登錄令第三條第一號ニ依ル豫告登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第五十九條　登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面ニ特許番號、申請書受付ノ年月日、受付番號、順位番號、登錄年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ特許局ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付スヘシ但シ申請書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコト能ハサルモノノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ登錄權利者又ハ第二項ニ規定スル債權者、受益者若ハ委託者ニ登錄原因ヲ證スル書面ニ記載スヘキ事項登錄ノ原因及其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ通知スヘシ

特許登錄令第二十七條、第五十六條又ハ第六十五條第二項ニ規定スル申請ニ依リ登錄ヲ完了シタルトキハ前項ノ規定ニ依リ登錄權利者ニ還付スヘキ書面ハ之ヲ債權者又ハ受益者若ハ委託者ニ還付スヘシ此ノ場合ニ於テハ登錄權利者ニ前項但書ニ揭クル事項及債權者又ハ受益者若ハ委託者ノ氏名名稱ヲ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ登錄義務者ニ特許番號、登錄權利者ノ氏名名稱、登錄ノ原因及其ノ日附、登錄ノ目的、登錄年月日竝登錄濟ノ旨ヲ通知スヘシ但シ登錄義務者カ共有者ノ一人ナル場合ニ於テハ尙他ノ共有者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第六十條　削除

第六十一條　削除

第六十二條　特許登錄令第四十七條第二項ニ規定スル登錄ヲ完了シタルトキハ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示、登錄原因、其ノ日附、登錄權利者ノ氏名名稱及住所、登錄ノ目的及登錄濟ノ旨ヲ特許權者、制限附移轉ノ特許權者及特許權以外ノ權利者ニ通知スヘシ

第六十二條ノ二　特許登錄令第五十五條、第五十八條、第五十九條、第六十五條第一項又ハ第六十七條ニ規定スル申請ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ前條ニ揭クル事項ヲ受益者ニ通知スヘシ

附則

第六十三條　本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條　特許登錄令第五十九條乃至第六十一條ノ規定ニ依リ舊特許登錄令ニ依ル場合ニ於ケル登錄手續ニ付テハ仍舊則ニ依ル

第六十五條　舊特許登錄令附則第二項ニ規定スル舊特許原簿ニ登錄セラレタル權利ニ關シ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ新特許原簿中相當欄ニ舊特許原簿中抹消ニ係ラサル登錄ヲ移シ且其ノ末尾ニ舊特許原簿第何册第何丁ヨリ移シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ舊特許原簿中相當欄ニ新特許原簿第何册第何丁ニ移シタル旨ヲ記載シ其ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

第一號樣式

特許番號		
表題部	表示番號	
	表示欄	
甲區	順位番號	
	事項欄	
乙區	順位番號	
	事項欄	
丙區	順位番號	
	事項欄	
丁區	順位番號	
	事項欄	
代理人欄		
特許料金欄		

追加特許番號欄	

第一號ノ二様式

特許信託番號		
信託財産	表示番號	
	表示欄	
信託ノ當事者及條項	順位番號	
	事項欄	

第二號様式

備考	申請人ノ氏名稱	登錄ノ目的	特許番號	受付番號	受付年月日

●滅失特許原簿回復規則

（大正十二年十月二十三日農商務省令臨第六號）

改正　大正一四年商工省令第四號

特許登錄令第十三條ノ規定ニ依リ滅失特許原簿回復規則左ノ通定ム

滅失特許原簿回復規則

第一條　特許原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ商工大臣ハ三月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其ノ期間内ニ登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ仍其ノ特許原簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示ス

前項ノ規定ニ依リ商工大臣ノ定メタル期間經過後ニ於テハ毎一件三圓ノ手數料ヲ納付シテ登錄ノ回復ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第二條　前條ノ場合ニ於テハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ回復ヲ申請スルコトヲ得

第三條　登錄回復ノ申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ但シ登錄回復ノ目的カ特許權ニ關スル權利ニ關スルトキハ第一號乃至第三號及第七號ノ事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

一　特許出願ノ年月日
二　願書番號
三　出願公告ノ年月日
四　登錄年月日
五　順位番號
六　受付年月日及受付番號
七　最近ニ納付シタル特許料及其ノ納付ノ年月日

第四條　登錄回復ノ申請書ニハ特許證、登錄濟證、特許權存續期間延長許可決定書又ハ專用免許ニ關スル指令書及特許料ノ領收書ヲ添附スヘシ

滅失、紛失其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ前項ノ書類ヲ添附スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及登錄通知書、特許原簿ノ謄本又ハ抄本、特許公報其ノ他證憑トナルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五條　登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ目的カ特許權ニ關スルトキハ特許發明ノ明細書及圖面ヲ差出スヘシ

前項ノ明細書及圖面ハ特許局備付ノ特許發明明細書ニ記載シタルモノヲ援用スル旨ヲ申請書ニ表示シテ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許原簿ニ其ノ旨ヲ記載シ且其ノ援用セラレタル特許發明明細書ハ特許原簿ノ一部トシテ之ヲ保存スヘシ

第六條　第一條ノ規定ニ依ル登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲ストキハ登錄用紙中特許番號欄ニ特許番號ヲ記載シ表示欄ニ特許權ノ表示ヲ爲シ表示番號欄ニ前登錄ノ番號ヲ、相當區順位番號欄ニ前登錄ノ順位番號ヲ、事項欄ニ前登錄ノ事項ヲ記載スヘシ

第七條　滅失シタル特許原簿ニ特許登錄令第三條第二號ノ請求ニ基ク豫告登錄アリタルコト明カナルニ至リタルトキハ職權ヲ以テ其ノ登錄ノ回復ヲ爲ス

第八條　登錄ノ回復ニ際シ特許登錄令第十一條第二項ノ規定ニ依リ特許原簿ノ一部ト看做サレタル審決ノ原本又ハ判決ノ謄本ハ特許公報中審決又ハ判決ノ記載セラレタルモノヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ記載シタル特許公報ハ特許原簿ノ一部トシテ之ヲ保存スヘシ

第九條　第一條第一項ノ期間内ニ爲シタル申請ニ依ル登錄ノ完了セサル間ニ於テ滅失シタル特許原簿ニ登錄アリタル特許權又ハ之ニ關スル權利ニ關シ新ニ登錄ヲ爲スヘキトキハ第六條ノ規定ニ準シ假設特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ登錄濟證ニ假設特許原簿ニ登錄シタル旨ヲ記載スヘシ

第一條第一項ノ期間内ニ爲シタル申請ニ依ル登錄完了シタルトキハ商工大臣其ノ旨ヲ告示ス

第十條　假設特許原簿ニ爲シタル登錄ハ登錄回復ノ申請ニ依ル登錄ノ完了後遲滯ナク之ヲ特許原簿ニ移スヘシ此ノ場合ニ於テ回復シタル登錄アルトキハ新登錄ノ順位番號欄ニハ回復シタル登錄ノ順序ヲ追ヒテ新ナル順位番號ヲ記載シ其ノ左側ニ假設特許原簿ニ於ケル順位番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ假設特許原簿第何冊何丁ヨリ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登錄官吏之ニ捺印スヘシ

特許原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ假設特許原簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十一條　假設特許原簿ノ登錄ヲ特許原簿ニ移シタルトキハ登錄權利者ニ對シ本登錄濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ回復シタル登錄ト移シタル登錄ト牴觸スルトキハ當事者ニ對シ同時ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

登錄權利者カ本登錄濟證ノ下付ヲ申請スル場合ニ於テハ假設特許原簿ニ於ケル登錄ノ登錄濟證ヲ提出スヘシ

第十二條　登錄回復ノ手續ニ付テハ本則ニ規定スルモノノ外特許登錄令及特許登錄令施行規則ニ依ル

第十三條　通知ニ依リテ爲シタル登錄ノ回復手續ニ付テハ申請ニ依ル登錄回復ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十二年十月二十三日農商務省告示第二百四十三號參看）

●特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件

（大正十年十二月十六日勅令第四百六十五號）

改正　大正一一年第五一八號

朕明治四十二年勅令第三百三號特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

第一條　特許法、實用新案法、意匠法若ハ商標法又ハ之ニ基キテ發スル勅令ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一	特許出願	毎一件	十圓
二	追加ノ特許出願	毎一件	五圓
三	特許異議ノ申立又ハ特許法第五十三條ノ許可ニ付テノ許可異議ノ申立	毎一件	五圓
四	特許異議又ハ特許法第五十三條ノ許可ニ付テノ許可異議ノ參加申請	毎一件	三圓
五	特許出願人ノ名義變更屆	毎一件	五圓
六	追加ノ特許出願人ノ名義變更屆	毎一件	三圓
七	特許證複本ノ申請	毎一件	五圓
八	追加ノ特許證複本ノ申請	毎一件	三圓
九	特許權存續期間延長ノ出願	毎一件	五十圓
十	特許ノ取消ノ請求	毎一件	二十圓
十一	實施權許與ノ請求	毎一件	二十圓
十二	實施權許與ノ取消ノ請求	毎一件	二十圓
十三	特許出願公告猶豫ノ請求	毎一件	三圓
十四	實用新案登錄出願	毎一件	五圓
十五	實用新案ノ登錄異議ノ申立又ハ實用新案法第十四條ノ許可ニ付テノ許可異議ノ申立	毎一件	三圓
十六	實用新案ノ登錄異議又ハ實用新案法第十四條ノ許可ニ付テノ許可異議ノ參加申請	毎一件	二圓
十七	實用新案登錄出願人ノ名義變更屆	毎一件	三圓
十八	實用新案登錄證複本ノ申請	毎一件	二圓
十九	實用新案登錄出願公告猶豫ノ請求	毎一件	二圓
二十	意匠登錄出願	毎一件	二圓
二十一	意匠ヲ祕密ニセムトスルノ請求	毎一件	二圓
二十二	意匠登錄出願人ノ名義變更屆	毎一件	一圓
二十三	意匠登錄證複本ノ申請	毎一件	一圓
二十四	商標又ハ標章ノ登錄出願	毎一件	七圓
二十五	團體標章ノ登錄出願	毎一件	三十圓
二十六	商標、標章又ハ團體標章ノ登錄異議ノ申立	毎一件	五圓
二十七	商標、標章又ハ團體標章ノ登錄異議ノ參加申請	毎一件	三圓
二十八	商標又ハ標章ノ登錄出願人ノ名義變更屆	毎一件	三圓
二十九	團體標章登錄出願人ノ名義變更屆	毎一件	十五圓
三十	商標權又ハ標章權存續期間更新ノ登錄出願	毎一件	十圓
三十一	團體標章權存續期間更新ノ登錄出願	毎一件	五十圓
三十二	法定期間延長ノ請求	毎一件	一圓
三十三	期間ノ懈怠ノ結果ヲ免レムトスル請求	毎一件	三圓
三十四	證明ノ申請	毎一件	一圓
三十五	書類ノ謄本ノ申請		謄本一枚ニ付二十錢歐文書類ハ百語ニ付二十錢百語ニ滿タサルモノ亦同シ但シ書類中圖面アルトキハ其ノ部分ニ關シテハ圖面調製ノ例ニ依ル寫眞ニ依ル場合ニ於テハ四ツ切一枚ニ付五圓以下ニ於テ特許局ノ定ムル所ニ依ル
三十六	圖面ノ調製ノ申請		圖面一枚ニ付一圓以上三十圓以下ニ於テ特許局ノ定ムル所ニ依ル但シ寫眞ニ依ル場合ニ於テハ四ツ切一枚ニ付五圓以下トス
三十七	書類ノ閲覽又ハ謄寫ノ申請	毎一件	一時間二十五錢一時間ニ滿タサルモノ亦同シ
三十八	實用新案又ハ意匠ノ登錄出願ノ査定ニ對スル抗告審判ノ請求	毎一件	十二圓
三十九	審判、抗告審判又ハ再審ノ請求	毎一件	二十圓
四十	審判、抗告審判又ハ再審ノ參加申請	毎一件	五圓
四十一	即時抗告	毎一件	二圓
四十二	費用額決定ノ請求	毎一件	一圓
四十三	費用額決定又ハ補償金額ノ確定ノ決定若ハ審決ノ執行力アル正本ノ請求	毎一件	一圓

受託者カ信託ニ依リ前項ニ揭クル手續ヲ爲ストキハ前項ニ規定スル手數料ノ外尚第一號、第二號、第五號、第六號、第二十四號、第二十五號、第二十八號又ハ第二十九號ノ場合ニ在リテハ毎一件一圓ヲ、第十四號、第十七號、第二十號又ハ第二十二號ノ場合ニ在リテハ毎一件五拾錢ヲ手數料トシテ納付スヘシ

第二條　前條第二十號乃至第二十二號ニ規定スル手數料ハ自己ノ登錄意匠ニ類似スル意匠ニ付テハ各其ノ半額トス

第三條　前二條ノ規定ハ國カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス

第四條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行

ス

特許法第百三十八條第一項、實用新案法第三十六條第一項、意匠法第三十五條第一項及商標法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル手續ニ關スル手數料ニ付テハ仍舊令ニ依ル

●特許法施行規則、實用新案法施行規則、意匠法施行規則及商標法施行規則ニ依ル請求、申請及屆出ニ關スル手數料ノ件

（大正十年十二月十七日農商務省令第三十七號）
改正　大正一一年第五號

特許法施行規則、實用新案法施行規則、意匠法施行規則及商標法施行規則ニ依ル請求、申請及屆出ニ關スル手數料ノ件左ノ通定ム

第一條　特許法施行規則、實用新案法施行規則、意匠法施行規則又ハ商標法施行規則ニ依リ請求、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　特許證再下付ノ請求　每一件　五圓
二　追加ノ特許證再下付ノ請求　每一件　三圓
三　實用新案登錄證再下付ノ請求　每一件　二圓
四　意匠登錄證再下付ノ請求　每一件　一圓
五　意匠法施行規則第六條ノ規定ニ依ル請求　每一件　一圓
六　商標權又ハ標章權ニ關スル商標法施行規則第七條第一項但書ノ請求　每一件　二圓
七　團體標章權ニ關スル商標法施行規則第七條第一項但書ノ請求　每一件　十圓
八　商標、標章又ハ團體標章ニ關スル商標法施行規則第五條ノ屆出　每一件　二圓
九　特許法施行規則第七十四條第二項又ハ實用新案法施行規則第七條、意匠法施行規則第十一條若ハ商標法施行規則第十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法施行規則第七十四條第二項ノ請求　每一件　一圓
十　指定期日又ハ指定期間ノ變更ノ請求　每一件　一圓
十一　雛形又ハ見本ノ閲覽ノ申請　每一件　二十錢

第二條　前條第四號ニ規定スル手數料ハ自己ノ登錄意匠ニ類似スル意匠ニ付テハ各其ノ半額トス

第三條　前二條ノ規定ハ國カ請求、申請又ハ屆出ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス

第四條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年農商務省令第五十二號ハ之ヲ廢止ス

特許法施行規則、實用新案法施行規則、意匠法施行規則及商標法施行規則ノ各附則ノ規定ニ依リ舊令ニ依ル手續ニ關スル手數料ニ付テハ仍舊令ニ依ル

●特許、實用新案及商標ニ關スル書類ノ閲覽ニ關スル件

（大正十年十二月十七日農商務省令第三十八號）

特許、實用新案及商標ニ關スル書類ノ閲覽ニ關スル件左ノ通定ム

特許、實用新案及商標ノ出願竝特許法第五十三條及實用新案法第十四條ノ審判ノ請求ニ關スル左ノ書類ハ大阪市ニ於テ之ヲ公衆ノ閲覽ニ供ス

一　特許出願及特許法第五十三條ノ審判ノ請求ニ關シテハ願書、請求書、明細書及圖面ノ副本竝特許公報
二　實用新案登錄出願及實用新案法第十四條ノ審判ノ請求ニ關シテハ實用新案公報
三　商標登錄出願ニ關シテハ商標公報、著色限定ノ商標登錄出願ニ關シテハ尙願書ノ副本及見本

公衆ノ閲覽ニ供スヘキ場所ハ別ニ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

●特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル明細書、說明書、圖面、雛形、見本及商標ノ印版ノ調製心得

（大正十年十二月十九日農商務省告示第三百十號）

明治四十二年農商務省告示第四百二十五號左ノ通改正シ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル明細書、說明書、圖面、雛形、見本及商標ノ印版ノ調製心得

第一　特許出願ニ關スル明細書及實用新案登錄出願ニ關スル說明書ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ

一　明細書及說明書ハ美濃紙二ツ折ニシテ凡ソ其ノ上部ニ三「センチメートル」（曲尺一寸）、下部ニ二・四「センチメートル」（八分）、左ニ〇・六「センチメートル」（二分）及右ニ三「センチメートル」（一寸）ヲ餘シ楷書又ハ行書ニテ鮮明ニ十二行二十四字詰ニ記載スヘシ
二　明細書及說明書中圖面ト對照シテ說明スルモノアルトキハ其ノ指示スヘキ部分ニ適當ナル名稱及符號ヲ用ウヘシ

第二　特許出願又ハ實用新案登錄出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ但シ圖面ノ副本ハ寫眞又ハ靑色寫眞ヲ用ウルコトヲ得

一　圖面ハ礬水引美濃紙、覆寫紙（トレーシング、ペーパー）又ハ覆寫布（トレーシング、クロース）ヲ用ヰ凡ソ其ノ上部ニ二・七「センチメートル」（曲尺九分）、下部ニ二・一「センチメートル」（七分）、左ニ〇・六「センチメートル」（二分）、右ニ五・五「センチメートル」（一寸八分）ヲ餘シ縦二二・八「センチメートル」（曲尺七寸五分）、横一三・六「センチメートル」（四寸五分）以內ノ面內ニ製圖法ニ則リ濃墨ニテ鮮明ニ之ヲ記載スヘシ但シ特ニ細密ヲ要スルモノハ縦又ハ横ノ長サヲ二倍ト爲スコトヲ得
二　圖面ハ繪具又ハ墨ヲ以テ著色スルコトヲ得ス
三　圖面ニハ中心線ヲ用ウルコトヲ得ス但シ說明ニ必要ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
四　截斷面ヲ現ハスニハ平行線ヲ濃墨ヲ以テ斜ニ引クヘシ其ノ截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ヲ異ニシタル斜線ヲ用ウヘシ
五　截斷面圖ノ必要アル場合ニハ他圖ニ於テ其ノ斷面ニ相當スル部分ニ鎖線ヲ引キテ其ノ如何ナル部分ナルカヲ示スコトヲ要ス
六　凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲圖面ニ陰ヲ施ス必要アルトキハ線ヲ用ヰ濃墨ニテ鮮明ニ畫クヘシ射影ハ成ルヘク施スヘカラス若シ其ノ必要アル場合ニ於テハ線ヲ用ヰ濃墨ニテ畫クヘシ
七　圖ノ離レタルモノハ一箇每ニ番號ヲ附シ又一部分ニシテ數圖ニ亙ルモノアルトキハ必ス同一ノ符號ヲ用ウヘシ但シ番號及符號ハ濃墨ニテ明瞭ニ之ヲ記スヘシ
八　符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサルトキハ其ノ部分ヨリ少シク離シテ之ヲ記シ他線ト判然區別シ得ヘキ線ヲ以テ其ノ部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニハ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得サルトキハ其ノ部分ニ限リ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ
九　圖面ノ各葉ニハ出願人記名捺印スヘシ

第三　特許及實用新案ニ關シテ差出スヘキ雛形又ハ見本ハ堅牢ナル材料ヲ用ヰ三〇・三「センチメートル」（曲尺一尺）立方以內ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四　意匠登錄ノ出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ

一　圖面ハ礬水引美濃紙、覆寫紙（トレーシング、ペーパー）又ハ覆寫布（トレーシング、クロース）ヲ用ヰ凡ソ其ノ上部ニ一・八「センチメートル」（曲尺六分）、下部ニ一・二「センチメートル」（四分）、左ニ〇・六「センチメートル」（二分）、右ニ四・二「センチメートル」（一寸四分）ヲ餘シ縦二四・二「センチメートル」（曲尺八寸）、横一四・五「センチメートル」（四寸八分）ノ面內ニ鮮明ニ之ヲ記載スヘシ
二　紙面ニ貼附シタル寫眞ヲ差出シ圖面ノ差出ニ代フル場合ニ於テハ前號ノ例ニ準シ之ヲ貼附スヘシ但シ寫眞ニハ臺紙ヲ附スヘカラス
三　紙面ニ貼付シタル雛形又ハ見本ヲ差出シ圖面ノ差出ニ代フル場合ニ於テハ紙面ノ上部ニ一・八「センチメートル」（曲尺六分）、下部ニ一・二「センチメートル」（四分）、左ニ〇・六「センチメートル」（二分）、右ニ四・二「センチメートル」（一寸四分）ヲ餘シ縦二四・二「センチメートル」（曲尺八寸）、横一四・五「センチメートル」（四寸八分）以內ノ面內ニ其ノ雛形又ハ見本ヲ貼附スヘシ
四　圖面ノ各葉ニハ出願人記名捺印スヘシ

第五　意匠ニ關シテ差出スヘキ雛形又ハ見本ハ三〇・三「センチメートル」（曲尺一尺）立方以內ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第六　商標見本ハ強靱ナル紙料ヲ用ヰ其ノ長サ及幅ハ各二〇「センチメートル」（曲尺六寸六分）以內ノ面內ニ容易ニ變色又ハ褪色セサル繪具ヲ以テ之ヲ鮮明ニ顯ハスヘシ

第七　色彩ヲ限定セル商標ノ印版ニ在リテハ相接スル二色ヲ分明ニ區別スル必要アル場合ニハ境界線ヲ用フルコトヲ要ス尙其ノ商標ヲ構成スルモノト誤認セラルヘキ虞アル線、點又ハ地紋ヲ以テ色ヲ施シタル部分ヲ顯ハスコトヲ得ス

●特許局陳列館規程

（大正十三年十二月二十日農商務省告示第二百八十六號）

特許局陳列館規程左ノ通定メ特許局特許品陳列所規程及大正十三年八月農商務省告示第百四十三號特許局圖書閲覽規程ハ之ヲ廢止ス

特許局陳列館規程

第一章　通則

第一條　陳列品ノ觀覽、出品及圖書ノ閲覽ハ之ヲ無料トス

第二條　特許局長官必要ト認ムルトキハ觀覽又ハ閲覽ヲ拒絕シ又ハ圖書ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　特許局陳列館ニ於テハ日曜日、祝日、祭日及十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄ハ公衆ノ觀覽又ハ閲覽ヲ許サス

第四條　觀覽及閲覽時間ハ左ノ通トス但シ特許局長官必要ト認ムルトキハ臨時其ノ時間ヲ變更シ觀覽又ハ閲覽ヲ停止スルコトアルヘシ

四月一日ヨリ七月二十日迄
午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス
七月二十一日ヨリ八月三十一日迄
午前八時ヨリ午十二時迄
九月一日ヨリ十月三十一日迄
午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス
十一月一日ヨリ三月三十一日迄
午前九時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

第二章　出品

第五條　發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル見本、雛形及參考品ヲ出品又ハ寄贈セムトスル者ハ別記樣式ニ依リ其ノ申込ヲ爲スヘシ

第六條　出品又ハ寄贈ノ承諾ノ通知ヲ受ケタル者其ノ搬入豫定期日迄ニ其ノ物品ヲ差出ササルトキハ其ノ承諾ヲ取消スコトアルヘシ

第七條　出品物又ハ寄贈物ハ特許局陳列館宛差出シ且ツ其ノ入荷目錄ヲ荷造內ニ封入スヘシ

第八條　出品物又ハ寄贈物ニ關スル運賃其ノ他ノ費用ハ出品者又ハ寄贈者ノ負擔トス

第九條　出品者又ハ寄贈者ハ特許局長官ノ許可ヲ得テ出品物又ハ寄贈物ニ付實演ヲ爲シテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ得

前項ノ實演ニ關シテハ總テ特許局長官ノ指揮ニ從フヘシ

第十條　特許局長官ハ陳列ノ都合ニ依リ期間ヲ指定シテ出品物ノ取換又ハ引取ヲ命スルコトアルヘシ

出品者指定セラレタル期間內ニ出品物ノ取換又ハ引取ヲ爲サヽルトキハ特許局長官ニ於テ適宜之ヲ處分スヘシ但シ出品者ハ事由ヲ具シ其ノ期間ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

出品者ハ特許局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ出品物ヲ取換ヘ又ハ其ノ返還ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　出品者特殊ノ設備ヲ要シタル出品物ヲ引取リタル場合ニ於テハ自費ヲ以テ其ノ設備ヲ除去シ其ノ場所ヲ原狀ニ回復スヘシ

第十二條　出品物ノ亡失又ハ毀損ニ付テハ損害賠償ノ責ニ任セス

第十三條　陳列品ハ博覽會、共進會又ハ學校等ヘ出品又ハ貸與スルコトアルヘシ

前項ニ規定スル陳列品ノ出品又ハ貸與ニ關シテハ出品者ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三章　圖書

第十四條　圖書ヲ閲覽セムトスル者ハ閲覽證ノ交付ヲ受ケ之ニ所定ノ事項ヲ記入シテ差出スヘシ

第十五條　圖書ハ之ヲ閲覽室外ニ持出スコトヲ得ス

第十六條　圖書ハ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十七條　閲覽ヲ了リタル圖書ハ遲滯ナク之ヲ返還スヘシ閲覽時間ノ經過シタルトキ亦同シ

（別記樣式）

出品（寄贈）申込書

物品ノ名稱	特許又ハ登錄番號	工場所在地	搬入豫定期日	其他
數量	單價	販賣所		

右ノ物品陳列ノ爲貴館ヘ出品（寄贈）致度候也

年　月　日

住所

氏　名　印

特許局陳列館御中

●特許法意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件

（明治四十三年八月二十九日勅令第三百三十六號）

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ特許法、意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

第一條　本令施行前特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ同一ノ事項ニ付特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮ニ及ハサルモノトス

第二條　韓國特許令、韓國意匠令又ハ韓國實用新案令ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ハ特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタルモノト看做ス

前項ノ特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ本令施行前同一ノ事項ニ付特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮以外ニ及ハサルモノトス

第三條　本令施行ノ際同一人ニシテ同一發明ニ付特許法及韓國特許令ニ依リ發生シタル特許權ヲ有スルトキハ其ノ存續期間ノ短キモノハ消滅スルモノトス

第四條　特許法ニ依リ發生シタル特許權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ、第二條第一項ノ規定ニ依ル特許權ノ效力ハ朝鮮以外ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一　本令施行ノ際現ニ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ若ハ設備ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ノ特許發明ノ實施

二　本令施行ノ際現存スル物及前號ニ依リ製作シタル物

第五條　韓國特許令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ特許法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六條　前三條ノ規定ハ意匠又ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第七條　韓國特許令、韓國意匠令及韓國實用新案令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權意匠權商標權實用新案權及著作權ノ效力ニ關スル件

（明治四十四年五月二十六日勅令第百六十七號）

（明治四十四年三月帝國議會承諾）

朕明治四十一年勅令第二百一號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

第一條　帝國臣民カ帝國ニ於テ享有スル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス

第二條　特許法、意匠法、商標法、實用新案法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治四十四年五月二十八日ヨリ之ヲ施行ス

●工業所有權戰時法

（大正六年七月二十一日法律第二十一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工業所有權戰時法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法、農商務大臣副署）

工業所有權戰時法

第一條　工業所有權ニ關スル敵國人ノ出願又ハ請求ニ付テハ戰時中特許又ハ登錄ヲ停止ス

前項ノ出願又ハ請求ニ係ル發明、意匠又ハ考案カ戰時中左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ出願又ハ請求ニ付テハ特許又ハ登錄ヲ爲サス

一　帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用ヰラレタルモノ

二　容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ

第二條　敵國人ハ戰時中工業所有權ニ關シ審判若ハ抗告審判ノ請求又ハ抗告審判ニ對スル出訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　戰時中ニ發生シタル特許權ニ對シテハ敵國人ハ萬國工業所有權保護同盟條約第四條ノ優先權ヲ主張スルコトヲ得ス

第四條　時局ノ關係ニ於テ軍事上又ハ公益上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵國人ニ屬スル特許又ハ商標ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第五條　敵國人ニ屬スル特許發明ハ免許ヲ受ケタル者之ヲ專用スルコトヲ得前條ノ規定ニ依リ取消サレタル特許發明ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル專用權ノ存續期間ハ當該特許權ノ殘期間ノ範圍內ニ於テ定メタル期間トス

專用權ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　第四條ノ規定ニ依リ登錄ヲ取消サレタル商標ト同一又ハ類似ノ商標ニシテ同一商品ニ使用スヘキモノハ之ヲ登錄セス

第七條　敵國人ニ非サル者ノ出願、請求若ハ出訴又ハ特許權若ハ商標權ニシテ其ノ利益カ主トシテ敵國人ニ歸スルモノニ付テハ前六條ノ規定ヲ準用ス

第八條　戰爭終了ノ際ニ於ケル必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　本法ニ依ル專用權ヲ侵害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正六年勅令第百四十號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行）

第一條　工業所有權戰時法ハ朝鮮及臺灣ニ之ヲ施行ス

第二條　帝國臣民カ工業所有權戰時法第五條ノ規定ニ依リ帝國ニ於テ享有スル專用權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス

第三條　工業所有權戰時法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正六年勅令第百四十三號）

●工業所有權戰時法施行令

（大正六年九月十二日勅令第百四十一號）

朕工業所有權戰時法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法、農商務大臣副署）

工業所有權戰時法施行令

第一條　工業所有權戰時法ニ依ル特許又ハ商標登錄ノ取消ハ職權ヲ以テ、特許發明ノ專用免許ハ申請ニ因リ農商務大臣之ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依ル處分ハ時局ノ關係ニ於テ軍事上又ハ公益上必要アルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ農商務部內ノ高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ農商務大臣ノ命シタル五人又ハ七人ノ調査委員ノ審査ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第二條　專用ノ免許ハ同時ニ免許ヲ爲シ又ハ既ニ爲シタル免許ノ趣旨ニ反セサルトキニ限リ數人ニ對シ各別ニ之ヲ爲スコトヲ得

專用ノ免許ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第三條　專用權ハ登錄ニ依リ發生ス

第四條　專用權ノ讓渡ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條　專用權ノ讓渡、變更、處分ノ制限、取消若ハ拋棄ニ依ル消滅又ハ專用免許ノ條件ノ附加若ハ變更ハ登錄スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付亦前項ニ同シ

第六條　專用ノ免許ヲ申請スル者ハ一件每ニ手數料五十圓ヲ納付スヘシ

第七條　專用權者ハ農商務大臣カ第一條第三項ノ調査委員ノ審査ヲ經テ定メタル標準ニ依リ專用料ヲ納付スヘシ

前項ノ標準ハ當該特許發明ノ實施ニ依ル生產物ノ價額ノ百分ノ三乃至十ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ之ニ依ラサルコトヲ得

第八條　農商務大臣ハ何時ニテモ專用權者ヲシテ其ノ事業若ハ財產ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ事業若ハ財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第九條　前三條ノ規定ハ國ノ專用ニ付之ヲ適用セス

第十條　專用權者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ專用ノ免許ヲ取消スコトヲ得

一　正當ノ事由ナクシテ專用權發生ノ日ヨリ三月內ニ當該特許發明ノ實施ノ準備ニ著手セサルトキ

二　當該特許發明ヲ適當ニ實施セサルトキ

三　專用免許ノ條件ニ違反シタルトキ

四　專用料ノ納付ヲ怠リタルトキ

五　第八條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス、不正ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ妨ケタルトキ

農商務大臣軍事上又ハ公益上必要ト認ムルトキハ專用ノ免許ヲ取消スコトヲ得

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工業所有權戰時法施行規則

（大正六年九月十二日農商務省令第二十二號）

工業所有權戰時法施行規則左ノ通定ム

工業所有權戰時法施行規則

第一條　專用ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書面ヲ添附シ農商務大臣ニ申請書ヲ差出スヘシ

一　資力、經驗其ノ他當該特許發明ノ實施ニ適當ナル資格ヲ有スルコトヲ疏明スル書面

二　事業計畫書及收支豫算書

三　申請人ハ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スルトキハ其ノ關係ヲ證スルニ足ル書面

四　法人ニ在リテハ定款竝最近ノ財產目錄及貸借對照表

第二條　專用免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當該特許發明ノ特許番號、名稱、特許ノ年月日及特許權者ノ氏名又ハ名稱及住所

二　專用セムトスル期間

三　事業期ヲ定メタルトキハ其ノ事業期

四　當該特許發明ノ專用ヲ必要トスル理由

專用免許申請ノ手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼付シ之ヲ納付スヘシ

第三條　專用免許ノ申請カ繫屬スル場合ニ於テ當該特許發明ニ付專用免許ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第四條　專用免許ノ申請アリタル場合ニ於テ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ限リ其ノ申請ノ許否ニ關シ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

第五條　專用免許ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ意見書ヲ作リ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ官報及公報ニ公告スヘシ

一　特許又ハ商標登錄取消ノ處分アリタルトキ

二　專用免許ノ申請アリタルトキ

三　專用免許ノ申請ニ付許否ノ處分アリタルトキ

四　專用權ノ消滅シタルトキ

第七條　專用權者ハ毎年二月末日迄ニ前年ニ於ケル當該特許發明ノ實施報告書及收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ別ニ事業期ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ事業期終了後二月內ニ之ヲ差出スヘシ

法人ニ在リテハ前項ノ書類ニ事業報告書ヲ添附スヘシ

第八條　專用料額ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ專用權者ニ通知スヘシ

專用權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ收入印紙ヲ以テ特許局ニ專用料ヲ納付スヘシ

第九條　專用權者其ノ事業計畫ヲ變更シタルトキ又ハ其ノ事業ヲ休止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十條　專用權讓渡ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ原因ヲ證スル書面、發明實施ノ事業ト共ニスル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル書面、發明實施ノ事業ト共ニセサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ疏明スル書面及讓受人ニ關シ第一條各號ニ定メタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ認可アリタルトキハ遲滯ナク認可ノ日ニ至ル迄ノ實施報告書及收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

相續ニ因ル專用權ノ移轉アリタル場合ニ於テハ其ノ原因ヲ證スル書面ヲ添附シ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十一條　專用權消滅シタルトキハ專用權者ハ其ノ消滅ノ日ニ至ル迄ノ實施報告書及收支計算書ヲ添付シ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十二條　敵國人ニ非サル者ノ出願又ハ請求ニ付戰時中特許又ハ登錄ヲ停止スル場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ出願人又ハ請求人ニ通知スヘシ

第十三條　敵國人ニ非サル者ニ屬スル特許又ハ商標ノ登錄カ工業所有權戰時法第四條ノ規定ニ依リ取消サレタル場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ特許權者又ハ商標權者ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ敵國人ニ非サル者ニ屬スル特許發明ニ付專用ヲ免許シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　工業所有權戰時法施行令及本則ノ規定ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ特許局長ヲ經由スヘシ

附　則

本則ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件

（大正九年一月十日勅令第九號）

朕工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

特許權ト其ノ特許發明ニ付工業所有權戰時法ニ依リ發生シタル專用權トハ各別ニ存續ス

前項ノ特許權及專用權カ一人ニ歸シタルトキハ其ノ專用權ハ消滅ス但シ其ノ特許權又ハ

專用權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工業所有權戰時法登錄令（大正六年九月十二日勅令第百四十二號）

朕工業所有權戰時法登錄令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

工業所有權戰時法登錄令

第一條　左ニ揭クル事項ニ關スル登錄ハ本令ニ依ル

一　工業所有權戰時法ニ依ル特許ノ取消

二　專用免許ノ申請、專用權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限若ハ消滅又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去

三　專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅

第二條　特許ノ取消アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

第三條　專用免許ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四條　左ノ場合ニ於テハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

一　專用ノ免許アリタルトキ

二　專用權讓渡ノ認可アリタルトキ

三　相續ニ因ル專用權ノ移轉ノ屆出アリタルトキ

四　職權ニ因ル專用權ノ變更アリタルトキ

五　專用免許ノ條件ノ附加、變更又ハ除去アリタルトキ

六　專用權ノ存續期間滿了シタルトキ、專用權拋棄ノ屆出又ハ專用免許ノ取消アリタルトキ其ノ他專用權ノ消滅シタルトキ

第五條　第三條ノ規定ニ依ル登錄ハ專用免許ノ申請ノ却下又ハ取下アリタルトキハ特許局長之ヲ抹消スヘシ

第六條　工業所有權戰時法ニ依ル商標ノ登錄ノ取消ニ關シテハ本令中特許ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條　工業所有權戰時法ニ關スル登錄ニ付本令ニ規定ナキモノニ付テハ特許登錄令ヲ準用ス

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工業所有權戰時法登錄令施行規則（大正六年九月十二日農商務省令第二十三號）

工業所有權戰時法登錄令施行規則左ノ通定ム

工業所有權戰時法登錄令施行規則

第一條　工業所有權戰時法登錄令ニ依ル特許ノ取消ニ關スル事項ハ特許原簿ノ表示欄ニ之ヲ記載シ專用免許ノ申請、專用權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限若ハ消滅又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去及專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ關スル事項ハ特許原簿ノ丙區事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二條　職權ニ因ル登錄ハ處分、屆出又ハ申請アリタル順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第三條　特許ノ取消アリタルトキハ原因及其ノ年月日ヲ記載シ特許權ノ表示、表示番號及特許番號ヲ朱抹スヘシ

第四條　專用免許申請ノ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、申請者ノ氏名又ハ名稱及住所竝申請ノ要旨ヲ記載スヘシ

第五條　專用權設定ノ登錄ヲ爲スニハ專用權者ノ氏名又ハ名稱及住所、免許アリタル旨及其ノ日附、專用ノ期間、條件ヲ附シタルトキハ其ノ條件竝專用料ノ標準ヲ記載スヘシ

第六條　讓渡ニ因ル專用權移轉ノ登錄ヲ爲スニハ讓渡認可申請書受附ノ年月日、受附番號、專用權ノ表示、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、認可アリタル旨及其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ記載スヘシ

相續ニ因ル專用權移轉ノ登錄ヲ爲スニハ屆書受附ノ年月日、受附番號、專用權ノ表示、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、原因、其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ記載スヘシ

第七條　專用權ノ變更又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去ノ登錄ヲ爲スニハ專用權ノ表示、原因、其ノ日附、變更セラレタル事項又ハ附加、變更若ハ除去セラレタル條件ヲ記載シタル後變更又ハ除去シタル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第八條　專用權消滅ノ登錄ヲ爲スニハ專用權ノ表示、原因及其ノ日附ヲ記載シ專用權ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

拋棄ニ因ル專用權消滅ノ登錄ヲ爲スニハ前項ニ記載シタル事項ノ外屆書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ

第九條　商標ノ登錄ニ關シテハ本則中特許ノ取消ニ關スル規定及明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登錄ニ關スル件施行規則第八條ノ規定ヲ準用ス

第十條　工業所有權戰時法登錄令ニ依ル登錄ニ關シテハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外特許登錄令施行規則ヲ準用ス

附　則

本則ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　實用新案

●實用新案法（大正十年四月三十日法律第九十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル實用新案法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

實用新案法

第一條　物品ニ關シ形狀、構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ型ニ付實用新案ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル實用新案ニ付テハ之ヲ登錄セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀ヲ有スルモノ

二　秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衞生ヲ害スルノ虞アルモノ

第三條　本法ニ於テ實用新案ノ新規ト稱スルハ實用新案カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　登錄出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條　同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登錄ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登錄シ協議調ハサルトキハ共ニ登錄セス

第五條　特許出願者又ハ意匠登錄出願者カ其ノ特許出願又ハ意匠登錄出願ヲ其ノ出願ニ係ル型ニ付テノ實用新案登錄出願ニ變更シタルトキハ其ノ實用新案登錄出願ハ特許出願又ハ意匠登錄出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許出願又ハ意匠登錄出願ニ付特許又ハ登錄スヘカラストノ查定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ查定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　實用新案權ハ登錄ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登錄實用新案ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

實用新案權ハ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル特許權若ハ意匠權ト牴觸スル場合又ハ登錄實用新案カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル特許發明若ハ登錄意匠ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ實用新案權者ハ特許權者又ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス

第七條　實用新案登錄出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第八條　登錄ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スル二以上ノ登錄中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原實用新案權者

二　登錄ヲ無效トシ同一又ハ類似ノ實用新案ニ付正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原實用新案權者

三　前二號ニ揭クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル實用新案權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

實用新案登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト牴觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ特許權又ハ意匠權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登錄ナキモ特許法第五十二條第一項又ハ意匠法第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

實用新案權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條　實用新案登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト牴觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原特許權者又ハ原意匠權者ハ其ノ登錄實用新案ニ付原權利ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第十條　實用新案權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無效ト爲リタル登錄ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條　實用新案權者ハ他人ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登錄實用新案ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登錄實用新案ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルコトヲ得ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十三條　登錄實用新案ノ實施權ハ之ヲ登錄シタルトキハ其ノ實用新案權ヲ爾後取得シタル者及其ノ實用新案權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第十四條　實用新案權者ハ登錄實用新案ノ圖面又ハ說明書カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ揭クル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ圖面又ハ說明書ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一　登錄請求範圍ノ減縮

二　誤記ノ訂正

三　不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部カ登錄出願ノ際獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條　前條ノ場合ニ於テハ登錄請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第十六條　登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ登錄ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

第十四條ノ許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

登錄又ハ第十四條ノ許可ハ實用新案權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第十七條　特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　登錄スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登錄シ實用新案登錄證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルト

キ亦同シ

第十九條　特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登錄實用新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上祕密ヲ要スル登錄實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　實用新案ノ登錄ヲ受クル者又ハ登錄證主ハ登錄料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　毎年　七圓
二　第四年乃至第六年　毎年　十五圓
三　第七年乃至第十年　毎年　二十五圓

第二十一條　實用新案登錄ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第十六條ノ規定ニ依ル登錄又ハ許可ノ無效
二　實用新案權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ實用新案ノ登錄又ハ第十四條ノ許可ノ登錄ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル期間ハ第十六條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條　第十一條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第二十五條　査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　特許法第六條、第十條乃至第三十三條、第三十六條、第四十條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條第六項第七項、第六十六條乃至第六十九條、第七十一條乃至第八十三條、第八十六條乃至第百五條、第百七條、第百八條、第百十條乃至第百二十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者
二　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者
三　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者
二　登錄實用新案ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ實用新案登錄標記ヲ附シ又ハ實用新案登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者
三　登錄實用新案ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ實用新案登錄標記ヲ附シ又ハ實用新案登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者
四　登錄實用新案ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登錄實用新案ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十九條　第二十七條第一項ニ揭クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條　法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十一條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル實用新案登錄出願中ノ考案又ハ實用新案登錄出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ實用新案ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理ヲ業ト爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　舊法ニ依ル實用新案ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第三十六條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル實用新案登錄ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

舊法ニ依リ實用新案ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル補償金額ニ對スル不服申立ノ期間ニ付亦同シ

第三十七條　本法施行前發生シタル實用新案權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十八條　實用新案ノ登錄カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十九條　舊法ニ依ル實用新案ノ登錄ニ關シテハ本法施行後ニ登錄カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第四十條　前條ノ規定ニ依ル無效ノ審判ハ本法施行前爲サレタル實用新案ノ登錄ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

（大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行）

● 實用新案法施行規則

（大正十年十二月十七日農商務省令第三十四號）

改正　大正一一年第三一號

實用新案法施行規則左ノ通改正ス

實用新案法施行規則

第一條　實用新案ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ圖面及說明書ヲ添ヘ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

第二條　說明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　實用新案ノ名稱
二　圖面ノ略解
三　實用新案ノ性質、作用及效果ノ要領
四　考案相互ノ關係
五　登錄請求ノ範圍

考案相互ノ關係ニハ他ノ特許發明、登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル實用新案ノ登錄出願ニ付其ノ實施ノ態樣ヲ記載スヘシ

登錄請求ノ範圍ニハ實用新案カ物品ノ形狀、構造又ハ組合ハセノ孰レニ係ルカヲ記載スヘシ

第三條　實用新案法第五條ノ規定ニ依リ特許出願又ハ意匠登錄出願ヲ實用新案登錄出願ニ變更セムトスル者ハ新ナル出願ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許出願又ハ意匠登錄出願ニ付差出シタル圖面カ變更ヲ要セサルモノナルトキハ第一條ニ規定スル圖面ノ提出ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四條　實用新案登錄證ハ別記書式ニ依リ之ヲ作リ圖面及說明書ヲ添附スヘシ

第五條　實用新案登錄ノ標記ニハ「登錄新案」ノ文字及其ノ登錄番號ヲ表示スヘシ

第六條　實用新案法第二十條ノ第一年乃至第三年分ノ登錄料又ハ實用新案法第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第六十五條第六項ノ規定ニ依リ正當權利者ノ納付スヘキ登錄料ハ登錄スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ納付スヘシ

第七條　特許法施行規則第一條乃至第三十六條、第三十七條第二項第三項、第三十七條ノ二、第三十八條第二項、第三十九條乃至第四十三條、第四十五條乃至第五十三條、第五十四條第一項、第五十五條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第二項、第七十四條第二項、第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第八條　本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條　實用新案法第三十六條ノ規定ニ依リ爲スヘキ處理ニ付テハ仍舊則ニ依ル

別記

第一號書式

登錄第何號
實用新案登錄證
國籍（外國人ノ場合）
住所（居所）
氏　名（名稱）
考案者　何縣何誰
實用新案ノ名稱　何々
前記實用新案ハ登錄スヘキモノト確定シタリ仍テ實用新案原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス
年　月　日　特許局長官　氏　名印

第二號書式

登錄第何號
實用新案登錄證
國籍（外國人ノ場合）
住所（居所）
氏　名（名稱）
考案者　何縣何誰
實用新案ノ名稱　何々
存續期間　自年月日　至年月日
第何號登錄ニ係ル前記實用新案ノ說明書（圖面）ニ付實用新案法第十四條ノ規定ニ依リ訂正ヲ許可スヘキモノト確定シタリ仍テ實用新案原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス
年　月　日　特許局長官　氏　名印

● 軍事上祕密ヲ要スル實用新案竝實用新案ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件

（大正十年十二月十六日勅令第四百六十二號）

朕軍事上祕密ヲ要スル實用新案竝實用新案ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

第一條　軍事上祕密ヲ要スル實用新案ニ付テハ特許法施行令第一章ヲ準用ス

第二條　實用新案ニ關スル審判、抗告審判、出訴及再審竝登錄異議、實用新案法第十四條ノ許可ニ付テノ許可異議及此等ノ異議ノ參加ニ關スル費用ニ付テハ特許法施行令第三章ヲ準用ス

第三條　實用新案ニ關スル登錄ニ付テハ特許登錄令ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第二百九十七號ハ之ヲ廢止ス

● 實用新案ノ登錄ニ關スル件

（大正十年十二月十九日農商務省令第四十號）

實用新案ノ登錄ニ關スル件左ノ通定ム

實用新案ニ關スル登錄ニ付テハ特許登錄令施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年農商務省令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

● 滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル件

（大正十二年十月二十三日農商務省令第七號）

滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ滅失特許原簿回復規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三款　意匠

● 意匠法

（大正十年四月三十日法律第九十八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル意匠法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

意匠法

第一條　物品ニ關シ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ意匠ニ付意匠ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル意匠ニ付テハ之ヲ登錄セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模樣ヲ有スルモノ
二　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
三　世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第三條　本法ニ於テ意匠ノ新規ト稱スルハ意匠カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂

フ

一　登錄出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用ヰラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

意匠ニシテ自己ノ登錄意匠ノミニ類似スルモノハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

第四條　同一又ハ類似ノ意匠ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登錄ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登錄シ協議調ハサルトキハ共ニ登錄セス

第五條　意匠登錄出願者ハ命令ノ定ムル類別內ニ於テ其ノ意匠ヲ現スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第六條　意匠登錄出願者ハ登錄ノ日ヨリ三年以內其ノ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得

第七條　實用新案登錄出願者カ其ノ實用新案登錄出願ヲ其ノ出願ニ係ル意匠ニ付テノ意匠登錄出願ニ變更シタルトキハ其ノ意匠登錄出願ハ實用新案登錄出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ實用新案登錄出願ニ付登錄スヘカラストノ查定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ查定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　意匠權ハ登錄ニ依リ發生ス

意匠權者ハ其ノ登錄意匠ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

自己ノ登錄意匠ニ類似スル意匠ノ意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スルモノトス

意匠權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權若ハ商標權ト牴觸スル場合又ハ登錄意匠カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登錄實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ意匠權者ハ實用新案權者ノ實施許諾又ハ商標權者ノ許諾アルニ非サレハ其ノ登錄意匠ヲ實施スルコトヲ得ス

第九條　意匠登錄出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第十條　登錄ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登錄中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原意匠權者

二　登錄ヲ無效トシ同一又ハ類似ノ意匠ニ付正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原意匠權者

三　前二號ニ揭クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル意匠權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

意匠登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ登錄意匠ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登錄ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

意匠權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十一條　意匠登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ登錄意匠ニ付原權利ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第十二條　意匠權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無效ト爲リタル登錄ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條　意匠權者ハ他人ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登錄意匠ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施許諾ヲセサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登錄意匠ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十四條　前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルコトヲ得ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十五條　登錄意匠ノ實施權ハ之ヲ登錄シタルトキハ其ノ後其ノ意匠權ヲ取得シタル者及其ノ意匠權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第九條乃至第十一條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十三條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第十六條　意匠權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル物品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

第十七條　登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄カ登錄ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ登錄ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四　登錄カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五　登錄カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

登錄ハ意匠權消滅後ト雖前項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第十八條　特許局ニ意匠原簿ヲ備ヘ意匠權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　登錄スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ意匠原簿ニ登錄シ意匠登錄證ヲ下付ス

第二十條　意匠ノ登錄ヲ受クル者又ハ登錄證主ハ登錄料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　每年　三圓

二　第四年乃至第十年　每年　五圓

自己ノ登錄意匠ニ類似スル意匠ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ每件一時ニ三圓ヲ納付スヘシ

第十六條ノ規定ニ依リ分割シテ移轉セラルル意匠權ノ登錄ヲ受クル者又ハ登錄證主ハ其ノ意匠權ニ付原意匠權ノ當該年分ヨリノ登錄料ヲ納付スヘシ

第二十一條　意匠登錄ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第十七條ノ規定ニ依ル登錄ノ無效

二　意匠權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審查官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審查官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　第十三條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第二十四條　查定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ查定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　特許法第六條、第十條乃至第十四條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第三十六條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條第一項、第五十九條、第六十四條、第六十五條第六項第七項、第六十六條第一項、第六十七條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第百五條、第百七條、第百十條乃至第百十二條、第百十三條第一項及第百十四條乃至第百二十八條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

二　他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

三　他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ意匠ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　登錄意匠ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ意匠登錄標記ヲ附シ又ハ意匠標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三　登錄意匠ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ意匠登錄標記ヲ附シ又ハ意匠登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四　登錄意匠ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登錄意匠ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十八條　第二十六條第一項ニ揭クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ查定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル意匠登錄出願中ノ考案又ハ意匠登錄出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十二條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ意匠ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　舊法ニ依ル意匠ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ意匠ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第三十五條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル意匠登錄ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十六條　本法施行前發生シタル意匠權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第九條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十七條　意匠ノ登錄カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第十條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十八條　本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ノ經過シタル意匠料ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十九條　意匠料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ意匠登錄ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ意匠料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル意匠料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ意匠料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間內ニ意匠料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ意匠權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四十條　舊法ニ依ル意匠ノ登錄ニ關シテハ本法施行[illegible]舊法第十二條ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

●意匠法施行規則

（大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行）

（大正十年十二月十七日農商務省令第三十五號）
（改正　大正一一年第三三號）

意匠法施行規則左ノ通定ム

意匠法施行規則

第一條　意匠ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ第十條ニ定ムル類別每ニ願書ヲ作リ之ニ圖面四通及必要ナル說明書ヲ添ヘ特許局ニ差出スヘシ但シ圖面ノ中一通ハ登錄ヲ受ケムトスル際之ヲ差出スコトヲ妨ケス

願書ニハ意匠ノ名稱及登錄請求ノ範圍ヲ記載シ自己ノ登錄意匠又ハ出願ノ意匠ニ類似スル意匠ノ登錄出願ノ場合ニ在リテハ尚之ト類似スル意匠ノ[illegible]登錄請求ノ範圍ニハ意匠ノ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ノ孰レニ係ルカヲ記載スヘシ

第一項ノ圖面ハ紙面ニ貼附シタル雛形、見本又ハ變色セサル寫眞ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二條　出願人ハ意匠ノ登錄出願ニ於テ錯誤ニ因リ二以上ノ類別ニ互ル二以上ノ物品ヲ指定シタルトキハ願書ヲ訂正シ之ヲ二以上

ノ出願ト爲スコトヲ得

第三條　意匠法第七條ノ規定ニ依リ實用新案登録出願ヲ意匠登録出願ニ變更セムトスル者ハ新ナル出願ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ實用新案登録出願ニ付差出シタル圖面カ變更ヲ要セサルモノナルトキハ其ノ圖面ヲ以テ第一條第一項ニ規定スル圖面ニ充ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四條　意匠法第六條ノ規定ニ依リ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スル者ハ其ノ登録出願ノ際圖面其ノ他ノ物件ヲ密封シ「祕密意匠」ト朱書シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

第五條　前條ノ規定ニ依リ密封シタル物件ハ意匠權者ノ承諾アリタル場合及其ノ意匠ニ關スル審査、審判、抗告審判若ハ再審ノ利害關係人又ハ裁判所ヨリ請求アリタル場合ヲ除クノ外意匠權者以外ノ者ニ之ヲ示スコトヲ得ス

第六條　特許局長官ハ祕密ニスヘキ登録意匠ニ付利害關係人カ登録意匠ナルコトヲ認識スルニ足ルヘキモノヲ差出シテ請求スル場合ニ限リ其ノ登録ノ存否、登録番號、登録ノ年月日、意匠ヲ現スヘキ物品竝意匠權者ノ氏名名稱及住所又ハ居所ヲ其ノ者ニ示スコトヲ得

第七條　意匠登録證ハ別記書式ニ依リ之ヲ作リ圖面ヲ添附スヘシ

第八條　意匠登録ノ標記ニハ「登録意匠」ノ文字及其ノ登録番號ヲ表示スヘシ

第九條　意匠法第二十條第一項ノ第一年乃至第三年分ノ登録料、同條第二項ノ登録料又ハ意匠法第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第六十五條第六項ノ規定ニ依リ正當權利者ノ納付スヘキ登録料ハ登録スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ納付スヘシ

第十條　意匠登録出願者ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ現ハスヘキ物品ヲ指定スヘシ

第一類　被服及被服地
衣服、袴、帶、襟、領巻、肩掛、涎掛、手袋、足袋等

第二類　頭飾、服飾及裝身具
櫛、簪、根掛、胸飾、領飾、釦鈕、指環、徽章等

第三類　携帶品
紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手提鞄等

第四類　傘、杖及鞭

第五類　化粧用品及衞生具
石鹼、紙石鹼、化粧刷毛、齒刷子、垢摺、鑢等

第六類　家具、室內及屋外ノ裝飾品
棚、箪笥、机、椅子、卓子、寢臺、額、屏風、衝立、暖爐、火鉢、花瓶、旗、幕等

第七類　飲食器及庖厨具
膳、椀、皿、鉢、杯、菓子器、箸、茶器、珈琲具、鐵瓶、土瓶、鍋、釜、「バケツ」、手桶等

第八類　敷物
緞通、油團、花莚等

第九類　文房具
硯、筆筒、文鎭、水滴、印材、肉池、硯箱、筆、墨、「インキ」壺、「ペン」軸等

第十類　燈器
燭臺、手燭、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈、提燈、燈蓋、火屋等

第十一類　時計及計器
懷中時計、置時計、掛時計、羅針器、寒暖計、晴雨計、度量衡器等

第十二類　建築物ノ附屬品
障子、襖、扉、欄間、欄干、引手、釘隱、樋等

第十三類　他類ニ屬セサル織物、編物、組物及其ノ製品
袱紗、手巾、卓被、「レース」、羽織紐、帶締紐、時計紐、飾緒等

第十四類　冠物
帽子、頭巾、笠等

第十五類　履物及其ノ附屬品
下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等

第十六類　扇及團扇

第十七類　樂器、玩具及遊戲具

第十八類　菓子及其ノ他ノ食用品

第十九類　容器及包裝
壜、罐、箱、紙袋、紙牌等

第二十類　車輛及其ノ附屬品
人力車、自轉車、自働車、「タイヤー」、鎖車等

第二十一類　紙、皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品
紋紙、紋革、擬革紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短册、書簡箋、書簡筒等

第二十二類　他類ニ屬セサル金屬製品及石材製品

第二十三類　他類ニ屬セサル木、竹、骨、角、齒牙、甲殼類ノ製品

第二十四類　他類ニ屬セサル物品

第十一條　特許法施行規則第一條乃至第三十六條、第三十七條第三項、第三十七條ノ二、第三十八條第二項、第三十九條乃至第四十三條、第四十七條乃至第五十三條、第五十五條乃至第六十二條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第二項、第七十四條第二項、第七十五條及第七十七條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第十二條　本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　意匠法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第十四條　意匠法第三十五條ノ規定ニ依リ爲スヘキ處理ニ付テハ仍意匠法施行細則ニ依ル

別記

第一號書式

登録第何號

意匠登録證

國籍（外國人ノ場合）
住所（居所）
氏　名（名稱）

案出者　何縣何誰
意匠ノ名稱　何々
登録請求ノ範圍　何々
意匠ヲ現スヘキ物品　何々
前記意匠ハ登録スヘキモノト確定シタリ仍テ意匠原簿ニ登録シ本證ヲ下付ス
年　月　日　特許局長官　氏　名　印

第二號書式

類似意匠登録第何號

類似意匠登録證

國籍（外國人ノ場合）
住所（居所）
氏　名（名稱）

案出者　何縣何誰
意匠ノ名稱　何々
登録請求ノ範圍　何々
意匠ヲ現スヘキ物品　何々
合體スヘキ意匠權登録第何號　何々
前記意匠ハ登録スヘキモノト確定シタリ仍テ意匠原簿ニ登録シ本證ヲ下付ス
年　月　日　特許局長官　氏　名　印

第三號書式

登録第何號（原登録番號）ノ二（三）

意匠登録證

國籍（外國人ノ場合）
住所（居所）
氏　名（名稱）

案出者　何縣何誰
意匠ノ名稱　何々
登録請求ノ範圍　何々
意匠ヲ現スヘキ物品　何々
意匠權存續期間　自年月日　至年月日
何年何月何日前記ノ物品ニ限リ意匠權分割移轉ノ登録ヲ爲シタリ仍テ本證ヲ下付ス
年　月　日　特許局長官　氏　名　印

●意匠ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登録ニ關スル件

（大正十年十二月十六日勅令第四百六十三號）

朕意匠ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

第一條　意匠ニ關スル審判、抗告審判、出訴及再審ニ關スル費用ニ付テハ特許法施行令第三章ヲ準用ス

第二條　意匠ニ關スル登録ニ付テハ特許登録令ヲ準用ス

第三條　意匠法第十六條ノ規定ニ依ル移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ移轉ニ係ル物品ヲ記載スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第二百九十五號ハ之ヲ廢止ス

●意匠登録規則

（大正十年十二月十九日農商務省令第四十一號）

意匠登録規則左ノ通定ム

意匠登録規則

第一條　意匠ニ關スル登録ニ付テハ特許登録令施行規則ヲ準用ス

第二條　意匠原簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第三條　意匠原簿ノ表題部中第一區ニハ意匠權、第二區ニハ類似ノ意匠權ニ關スル事項ヲ記載ス

第四條　意匠權設定ノ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ意匠ヲ現スヘキ物品ノ類別及物品ヲ記載スヘシ

第五條　類似ノ意匠權設定ノ登録ヲ爲スニハ前條ノ規定ニ準シ最先ニ發生シタル意匠權ノ登録用紙ニ之ヲ爲シ倘表示欄ニ類似ノ意匠ナル旨及其ノ番號ヲ記載スヘシ

第六條　意匠權分割移轉ノ登録ヲ爲スニハ特許登録令施行規則第二十七條乃至第三十二條ノ規定ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ但シ各登録用紙中表示欄ニ爲スヘキ意匠權ノ表示ハ第四條及第五條ノ規定ニ準シ之ヲ爲シ倘移轉シタル意匠權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ登録權利者ノ氏名名稱及住所ヲ記載スヘシ

前項ノ登録ヲ完了シタルトキハ分割移轉スヘキ部分ノ權利ニ對スル登録證ヲ作リ之ヲ登録權利者ニ下付スヘシ

附　則

本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年農商務省令第四十七號ハ之ヲ廢止ス

（別記様式）

登録番號			
表題部	第一區	表示番號	
		表示欄	
	第二區	表示番號	
		表示欄	
甲區	順位番號		
	事項欄		
乙區	順位番號		
	事項欄		
丙區	順位番號		
	事項欄		
丁區	順位番號		
	事項欄		
代理人欄			
意匠料金欄			

●滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件

（大正十二年十月二十三日農商務省令臨第八號）

滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ滅失特許原簿回復規則ヲ準用ス

第二條　意匠權ニ關スル登録ノ回復ヲ申請スル者ハ申請書ニ其ノ意匠ヲ現スヘキ物品及其ノ類別ヲ記載シ圖面三通ヲ添附スヘシ

第三條　登録回復ノ手續ニ付テハ本令ニ規定スルモノノ外意匠登録規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四款　商標

●商標法

（大正十年四月三十日法律第九十九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商標法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

商標法

第一條　自己ノ生產、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得

登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル商標ニ付テハ之ヲ登録セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二　國旗、軍旗、勳章、褒章、記章又ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ

三　白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジェネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

四　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

五　他人ノ肖像、氏名名稱又ハ商號ヲ有スルモノ但シ其ノ他人ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　同一又ハ類似ノ商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ

七　政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ外國ニ於ケル官設若ハ官許ノ博覽會ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ其ノ圖形ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

八　取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラルル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

九　他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

十　登録失效ノ日ヨリ一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ但シ其ノ他人ノ商標カ登録失效前一年以上使用セサリシモノナル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

十一　商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ

商標ノ要部ト認メラルルノ虞アル部分カ分離シテハ前條第二項ニ規定スル特別顯著ノ要件ヲ具備セサル爲又ハ前項第六號ニ該當スル爲登録ヲ受クルコトヲ得サルモノナル場合ト雖出願人カ其ノ部分自體ニ付權利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタルトキハ其ノ商標ヲ登録ス

第三條　同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ相類似スルモノ又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ同一ノモノ若ハ相類似スルモノハ聯合ノ商標トシテ出願シタル場合ニ限リ之ヲ登録ス

第四條　同一又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ノ登録出願カ競合スルトキハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議調ハサルトキハ共ニ登録セス

政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖內ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品シタル商品ニ使用シタル商標ニ付其ノ開會ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ商標ノ使用者カ其ノ商標ノ登録ヲ出願シタルトキハ其ノ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ニ規定スル出品ニ付豫メ屆出ツヘキコトヲ規定シタル場

合ニ於テ其ノ屆出ヲ怠リタル者ニ付之ヲ適用セス

第二項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖內ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル商品ニ使用スル商標ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　商標登錄出願者ハ命令ノ定ムル類別內ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第六條　商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコトヲ得

商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利ノ承繼ハ承繼人カ出願人名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ屆出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條　商標權ハ登錄ニ依リ發生ス

商標權者ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ專用スルノ權利ヲ有ス

商標權カ其ノ登錄商標ノ使用ノ態樣ニ依リ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル意匠權ト牴觸スル場合ニ於テハ商標權者ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ態樣ニ於テ登錄商標ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條　商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ氏名名稱若ハ商號又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登錄後惡意ヲ以テ氏名名稱又ハ商號ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

商標權ノ效力ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ權利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタル部分自體ニ及ハス

第九條　他人ノ登錄商標ノ登錄出願前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登錄ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ標章ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十條　商標權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了ス

第十一條　前條ノ存續期間ハ更新登錄ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ更新登錄ノ出願ニ係ル商標カ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號又ハ第十一號ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコトヲ得

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十三條　商標權ハ商標權者カ其ノ營業ヲ廢止シタル場合ニ於テハ消滅ス

外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標ノ商標權ハ其ノ本國ニ於ケル商標權消滅シタル場合ニ於テハ消滅ス

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消スヘシ

一　商標權者正當ノ理由ナクシテ帝國內ニ於テ登錄ノ日ヨリ一年間其ノ商標ヲ使用セサリシトキ又ハ引續キ三年間其ノ商標ノ使用ヲ中止シタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品中其ノ一ニ使用シ又ハ聯合ノ商標中其ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以內ニ商標權移轉ノ登錄ヲ申請セサルトキ

外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セス

第十五條　商標權者故意ニ其ノ登錄商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消サレタル者ハ取消ノ審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　商標ノ登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第一條乃至第四條又ハ前條第二項ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄カ商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利ノ承繼人ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

商標權存續期間更新ノ登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第十一條但書ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ商標權者ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ハ商標權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第十七條　特許局ニ商標原簿ヲ備ヘ商標權ノ設定、移轉、變更、消滅其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　登錄スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登錄ス

第十九條　特許局ハ商標公報ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他登錄商標ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

第二十條　商標ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ每件一時ニ三十圓ヲ納付スヘシ

商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ每件一時ニ五十圓ヲ納付スヘシ

第二十一條　商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願アリタルトキハ審查官ヲシテ之ヲ審查セシム

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第十四條、第十五條又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル商標ノ登錄ノ取消

二　第十六條ノ規定ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ノ無效

三　商標權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審查官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審查官ハ第二條第一項第五號第八號乃至第十號、第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前條第一項第二號ノ無效ノ審判ハ登錄ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號第十一號、第十一條但書、第十五條第二項又ハ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條又ハ第三十三條ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　特許法第十三條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第四十五條、第五十八條第一項第三項、第六十八條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項、第七十四條乃至第七十七條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第百五條、第百七條、第百九條乃至第百十五條、第百十七條乃至第百二十四條及第百二十八條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス但シ第七十三條第一項第二項第四項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願ニ付之ヲ準用セス

第二十五條　登錄無效ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ登錄商標ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ登錄商標カ再審ニ依リ登錄ヲ回復シタル商標ニ牴觸スル爲第二條第一項第九號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ其ノ登錄ヲ無效トセラレタル場合ニ於テモ其ノ商標ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業ト共ニ其ノ商標ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ノ標章ヲ專用セムトスル者ハ標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

前項ノ標章ハ之ヲ商標ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十七條　同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ設立シタル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益ヲ增進スルヲ目的トスルモノハ其ノ團體員ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ標章ヲ專用セシムル爲其ノ標章ニ付團體標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

團體標章ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ商標ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ受ケムトスル法人ハ其ノ定款ニ於テ其ノ團體標章ノ使用ニ關スル事項ヲ定メ特許局長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第二十九條　團體標章權ノ侵害ニ因ル損害賠償請求權ハ團體員ニ生シタル損害ヲモ包含ス

第三十條　第二十七條ノ法人ノ合併又ハ分割ノ場合ニ於テ一ノ法人カ他ノ法人ニ團體標章ノ登錄出願ヨリ生シタル權利又ハ團體標章權ヲ移轉セムトスルトキハ特許局長官ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ取消スヘシ

一　法人カ團體員ヲシテ第二十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ特許局長官ノ認可ヲ受ケタル定款ノ規定ニ違反シテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ其ノ使用ヲ放任シタルトキ

二　法人カ團體員ニ非サル者ヲシテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放任シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ取消サレタル法人ハ取消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ團體標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　團體標章ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ每件一時ニ百圓ヲ納付スヘシ

團體標章權存續期間更新ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ每件一時ニ百五十圓ヲ納付スヘシ

第三十三條　前六條ノ規定ハ公法人カ其ノ地域內ニ於ケル營業者ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ專用セシムル爲團體標章ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

二　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付シ若ハ販賣シ又ハ其ノ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三　他人ノ登錄商標ヲ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ僞造又ハ模造シタル者

四　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル同一又ハ類似ノ商品ヲ交付、販賣ノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

五　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

六　他人ノ登錄商標ヲ僞造若ハ模造スルノ目的又ハ僞造若ハ模造セシムルノ目的ヲ以テ其ノ用具ヲ製作、交付、販賣又ハ所持スル者

七　同一又ハ類似ノ商品ニ關シ他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用井ル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ商標若ハ商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　登錄ヲ受ケサル商標ニシテ商標登錄標記ヲ附シ若ハ商標登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三　登錄ヲ受ケサル商標ニシテ商標登錄標記ヲ附シ若ハ商標登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ營業ニ用井ル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十六條　法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ查定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十八條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ商標ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十九條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ商標ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第四十一條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願又ハ商標登錄ノ取消ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第四十二條　舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ニ關シテハ本法施行後ニ登錄カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ此ノ場合ニ於テ舊法附則第二項ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同項ノ規定ノ適用ノ範圍

内ニ於テ同項ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ効力ヲ有ス

第四十三條　登錄カ舊法第一條又ハ第二條第五號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無效ノ審判ハ本法施行前爲サレタル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

登錄カ舊法第二條第八號第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無效ノ審判ハ商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄カ商標公報ニ掲載セラレタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十四條　本法施行前舊法第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

（大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行）

●商標法施行規則

（大正十年十二月十七日農商務省令第三十六號）
改正　大正一一年第三三號

商標法施行規則左ノ通定ム

商標法施行規則

第一條　商標ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ第十五條ニ定ムル類別每ニ願書ヲ作リ之ニ商標見本五通及必要ナル說明書ヲ添ヘ特許局ニ差出スヘシ

商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登錄ニ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ其ノ色ヲ指定シ願書ノ副本一通及着色シタル商標見本五通ヲ差出スヘシ

聯合ノ商標ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ之ト聯合スヘキ商標ヲ表示スヘシ

第二條　出願人ハ商標ノ登錄出願ニ於テ錯誤ニ因リ二以上ノ類別ニ亘ル二以上ノ商品ヲ指定シタルトキハ願書ヲ訂正シ之ヲ二以上ノ出願ト爲スコトヲ得

第三條　數人共同シテ商標ノ登錄ヲ出願スル場合ニ於テハ營業ヲ共ニスルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第四條　外國ノ登錄商標トシテ商標ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ其ノ本國ノ登錄證又ハ其ノ商標及指定商品カ本國ノ登錄ニ係ルモノナルコト竝本國ノ登錄年月日ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條　商標法第四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ博覽會ノ開會前三月内ニ其ノ旨ヲ特許局ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆書ニハ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定シ商標見本ヲ添附スヘシ

第六條　商標法第六條第三項ニ規定スル名義變更ノ屆出ヲ爲ス者ハ屆書ニ營業ト共ニスルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第七條　商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ其ノ期間滿了ノ日前三月乃至一年内ニ願書ヲ特許局ニ差出スヘシ但シ期間滿了ノ日ヨリ三十日前ニ限リ遲滯ノ事由ヲ疏明シテ之ヲ差出スコトヲ得

前項ノ願書ニハ商標見本五通及營業ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標ノ商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ其ノ商標權カ現ニ本國ニ於テ存續スルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第八條　聯合ノ商標ヲ登錄スヘシトノ査定又ハ審決ノ主文中ニハ之ト聯合スル商標ノ登錄番號又ハ願書番號ヲ記載スヘシ

第九條　商標法第二十八條、第三十條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ特許局長官ノ認可ヲ受クヘキ定款又ハ之ニ準スヘキ書面ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　團體標章ヲ使用スル者ノ範圍ニ關スル事項
二　團體標章ノ使用ノ條件及之ニ違反シタル者ニ對スル制裁ニ關スル事項
三　團體標章權ノ侵害ニ因ル各使用者ノ損害ノ補償ニ關スル事項
四　其ノ他團體標章ノ使用ニ關シ必要ト認ムル事項

第十條　出願公告ノ決定ヲ受ケタル者ハ三十日内ニ於テ特許局長官カ指定シタル期間内ニ商標ノ印版一箇ヲ特許局ニ差出スヘシ

商標ニ關スル登錄異議申立ノ結果商標ニ變更アリタルトキハ登錄料納付ノ際新ニ印版一箇ヲ差出スヘシ

第十一條　前條ノ規定ニ依リ差出スヘキ印版ハ木版、細網版其ノ他活版印刷ニ適スルモノニシテ其ノ長サ及幅各十「センチメートル」（曲尺三寸三分）以內、厚サ二・四「センチメートル」（曲尺七分九厘二毛）ノモノナルコトヲ要ス但シ文字ヨリ成ル商標ノ印版ノ長サ及幅ハ各六・五「センチメートル」（曲尺二寸一分四厘五毛）以內トスヘシ

印版ハ一箇ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ

第十二條　特許法施行規則第十四條ノ規定ハ商標ノ印版ニ付之ヲ準用ス

第十三條　商標法第二十條ノ登錄料ハ登錄スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ納付スヘシ

第十四條　商標法第十八條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ特許局長官ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

第十五條　商標登錄出願者ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第一類　化學品、藥劑及醫療補助品
酸類、鹽類、亞爾加里、漂白粉、樹脂、膠、燐、酒精、偏里設林、規那鹽、莫兒比涅、丁幾劑、舍利別、煎劑、水劑、浸劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、香精、石灰、硫黃、鑛水、麝香、打粉、食鹽、艾、黑燒、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、繃帶、綿紗、綿撒絲、脫脂綿、海綿、「オブラート」、氷囊、水枕等

第二類　染料、顏料、媒染料及塗料
藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、群青、洋靛、鉛白、胡粉金、銀粉、藤黃、染齒料、綠礬、明礬、漆、假漆「ペイント」、澁、靴墨、革油、防鏽料、防水料、耐火塗料等

第三類　香料及他類ニ屬セサル化粧品
香水、香油、香袋、髮膏、白粉、化粧下等

第四類　石鹼

第五類　齒磨及他類ニ屬セサル洗料
齒磨粉、煉齒磨、齒磨液、洗粉、洗煉、洗液等

第六類　他類ニ屬セサル金屬及其ノ半加工品
銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、軌條、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、「アルミニューム」、「ニッケル」、水銀、卑金屬ノ合金等

第七類　他類ニ屬セサル金屬製品
鑄物、打物、彫鏤品、編物、琺瑯鐵器、銅箔、錫箔等

第八類　利器及尖刃器
鎌、鋸、鑿、錐、鏨、斧、鉞、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鑢、針、魚串、釘、鳶嘴等

第九類　貴金屬、其ノ模造物「アルミニューム」金、「ニッケル」銀、「ブリタニヤ、メタル」及他類ニ屬セサル其ノ製品
金、銀、白金、四分一、紫銅其ノ他貴金屬ノ合金、鍍品、「モール」、金箔、銀箔、彫鏤品等

第十類　寶玉類、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品
金剛石、珊瑚、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉、彫鏤品等

第十一類　鑛物類

第十二類　石材、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品
大理石、花崗石、人造石、砥石等

第十三類　漆喰及土砂ノ類
漆喰、「セメント」、石膏、土瀝青、土砂、火山灰等

第十四類　他類ニ屬セサル陶器、磁器、七寶製品、土器、瓦及煉瓦ノ類

第十五類　玻璃竝他類ニ屬セサル玻璃製品、及琺瑯質品
玻璃板、玻璃管、玻璃壜、玻璃球等

第十六類　護謨、「エボナイト」、「ガタペルチヤ」、「ラバーサブスチュート」及他類ニ屬セサル其ノ軟質製品

第十七類　他類ニ屬セサル機械器具及其ノ各部竝各種ノ調帶「ホース」及「パッキング」
汽罐、汽機、織機、紡績機、裁縫機、印刷機、揚水機、消火器、潛水器「パルプ」、「コック」、皮革調帶、護謨調帶、綿布調帶、護謨「ホース」、布「ホース」、「アスベスト、パッキング」、「ゴム、パッキング」等

第十八類　理化學、醫術、測定、寫眞、敎育用ノ器械器具、眼鏡及算數器ノ類竝其ノ各部
試驗管、外科用器械、齒科用具、度量衡器、感光膜、活動寫眞映畫、製圖器、體操用器具、望遠鏡、顯微鏡等

第十九類　農工器具
犂、鋤、鍬、稻扱、桑扱、唐箕、耙、釘抜、鐵槌、鑢盤、鉸廻シ、「スコップ」、「ショーベル」、鶴嘴等

第二十類　車輛、船舶其ノ他運搬用機械器具及其ノ各部
荷車、馬車、人力車、自動車、自轉車、小兒用車、航空機、鐵道車、車輪、「タイヤ」、「サドル」、「ペダル」等

第二十一類　時計竝其ノ各部及附屬品

第二十二類　樂器、蓄音機竝其ノ各部及附屬品
「ピヤノ」、「オルガン」、「ヴァイオリン」、「マンドリン」、箏、三絃、胡弓、琵琶、月琴、木琴、笛、「ハーモニカ」、撥、樂器絃、蓄音機、音譜盤、蓄音機用針等

第二十三類　銃砲、彈丸及爆發物類
大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、綿火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火、水雷等

第二十四類　蠶種、野蠶種及繭

第二十五類　眞綿、木棉綿、麻、羽及毛ノ類竝其ノ半加工品

第二十六類　生絲、絹絲、人造絹絲、野蠶絲、天蠶絲、金絲及銀絲

第二十七類　綿絲

第二十八類　毛絲

第二十九類　麻絲及第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類

第三十類　絹織物

第三十一類　木綿織物

第三十二類　毛織物

第三十三類　麻織物

第三十四類　第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物

第三十五類　他類ニ屬セサル絲類ノ編物、組物、撚物、「レース」、「ドロン、ウォーク」、刺繡品及各種ノ紐類

第三十六類　被服、手巾、釦鈕及裝身用「ピン」ノ類
衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、領飾、襟、襦衣、「ヅボン」下、胴締、手袋、足袋、「ハンカチーフ」、手拭、「タオル」、袱紗、風呂敷、甲掛、「カフス、ボタン」、「ネックタイ、ピン」、「ブローチ」等

第三十七類　寢具及他類ニ屬セサル室內裝置品
寢臺、蒲團、枕、蚊帳、座蒲團、屛風、額、卓被、窓掛、敷物等

第三十八類　日本酒類及其ノ模造品
清酒、味淋、白酒、燒酎、濁酒、直シ等

第三十九類　第三十八類ニ屬セサル各種ノ酒類及其ノ模造品
葡萄酒、「シャンパン」、麥酒、「ブランデイ」、「ベルモット」、「ウヰスキー」等

第四十類　氷及清涼飲料類
曹達水、蜜柑水、「ラムネ」、「サイダー」、果實「シラップ」、果實液等

第四十一類　醬油、「ソース」及酢ノ類

第四十二類　砂糖及蜜ノ類
白砂糖、黑砂糖、「ザラメ」、氷砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第四十三類　菓子及麪麭ノ類
干菓子、蒸菓子、掛ケ物、「ビスケット」、「カステーラ」、「ドロップス」、「アイスクリーム」、飴、餠、砂糖漬、炒豆等

第四十四類　茶、珈琲、「ココア」及珈琲入角砂糖ノ類竝其ノ模造品

第四十五類　他類ニ屬セサル食料品及加味品
肉類、越幾斯類、卵、鰹節、海苔、昆布、荒布、佃煮、味噌、香物、甘酒、漬物、胡椒等

第四十六類　獸乳、其ノ製品及其ノ模造品
牛乳、羊乳、「コンデンスミルク」、乳粉、「バタ」、人造「バタ」、「チーズ」等

第四十七類　穀菜類、種子、果物、穀粉、澱粉及其ノ製品
米、麥、粟、黍、稗、豆、蕈、乾瓢、球根、麴種、「モヤシ」、「ベーキング、パウダー」、「イースト、パウダー」、麥粉、葛粉、麩類、湯葉、豆腐、豆乳、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

第四十八類　煙草類

第四十九類　煙草具及袋物
煙管、煙草入、煙管筒、薄荷「パイプ」、紙入、貨幣入、名刺入、信玄袋、「オペラバッグ」等

第五十類　紙及他類ニ屬セサル其ノ製品
日本紙、西洋紙、板紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、帳簿、水引等

第五十一類　文房具
筆、墨、印肉、印材、「インキ」、印刷「インキ」、石筆、鉛筆、萬年筆、「ペン」、「ペン」軸、硯、「インキ」壺、文鎭、筆筒、筆架、石盤、紙綴具、鉛筆削、「ブロッター」、「シース」等

第五十二類　皮革、其ノ模造品及他類ニ屬セサル其ノ製品竝各種ノ鞄類
毛皮、柔革、擬革紙、擬革布、馬具、革文匣、締革、「キャットガット」等

第五十三類　固形燃料類
石炭、「コークス」、薪、炭、附木、懷爐灰等

第五十四類　燐寸

第五十五類　油脂及蠟ノ類
石油、菜子油、魚油、獸脂、木蠟、蜜蠟、蠟燭等

第五十六類　肥料
干鰯、鯡粕、油粕、肉粉、骨粉、血粉、糠、燐酸肥料、調合肥料、硫酸安母尼亞等

第五十七類　木竹材、籐、木皮、竹皮及經木ノ類

第五十八類　他類ニ屬セサル木、竹、籐、木皮、竹皮類ノ製品、其ノ漆塗品及蒔繪品ノ類
指物、挽物、曲物、編物、組物、桶、經木眞田等

第五十九類　骨、角、齒牙及甲殼ノ類、他類ニ屬セサル其ノ製品及其ノ模造品、他類ニ屬セサル「エボナイト」製品及「ガタペルチヤ」ノ硬質製品竝「セルロイド」及他類ニ屬セサル其ノ製品

第六十類　藁、草及他類ニ屬セサル其ノ製品
麥稈、疊表、莚、蓆、笠、繩、麥稈眞田等

第六十一類　傘、杖、靴、履物及其ノ附屬品
傘、洋傘、杖、靴、下駄、草履、雪駄、鼻緖、爪掛等

第六十二類　扇子及團扇ノ類

第六十三類　燈器及其ノ各部
洋燈、燭臺、提燈、火屋、燈蓋、瓦斯「バーナー」、瓦斯「マントル」、燭心等

第六十四類　頭飾品、調髮具及「リボン」ノ類、造花竝刷子類
櫛、笄、簪、「ヘヤ、ピン」、「ヘヤ、ネット」、手絡、根掛、髮止、髷形、元結、髱、附髷、入毛、髮芯、髮掛「リボン」、裝飾「リボン」、齒刷子、化粧刷毛、埃取刷子等

第六十五類　玩具及運動遊戲具
鞠、碁、將棊、人形、獨樂、弓、球突具、押繪、骨牌、野球具、庭球具、卓球具、擊劍柔道具等

第六十六類　圖畫、寫眞及印刷物類
書籍、新聞紙、雜誌、「アルバム」等

第六十七類　燻料
線香、炷香、煉香、粉末香、蚊除線香、蚊除炷香、蚊除粉末香等

第六十八類　他類ニ屬セサル研磨料
磨粉、磨液、艶出布、艶出紙、研磨布、研磨紙等

第六十九類　電氣機械器具及其ノ各部竝電氣絶緣材料
發電機、電動機、廻轉變流機、整流機、周波數變換機、電信機、電話機、變壓器、電氣開閉器、電流制限器、電流制御器、抵抗器、電熱器、電氣扇風機、電鈴、眞空球、電氣醫療器、電氣測定器、電池、蓄電器、白熱電燈、弧光燈、懷中電燈、被覆電線、電氣絶緣用碍子、電氣機械器具用炭素、電氣絶緣用板、電氣絶緣用布、電氣絶緣用紙、電

氣絶緣用護謨製品、電氣絶緣用混和物等

第七十類　他類ニ屬セサル商品

第十六條　特許法施行規則第一條乃至第三條、第五條乃至第三十六條、第三十七條ノ二、第三十九條乃至第四十三條、第四十六條乃至第四十八條、第五十條乃至第五十二條、第五十五條乃至第六十五條、第六十七條乃至第六十九條、第七十四條第二項及第七十五條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條　本則ハ商標法第二十六條ノ標章又ハ同法第二十七條若ハ第三十三條ノ團體標章ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第十八條　本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　商標法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第二十條　商標法第四十一條ノ規定ニ依リ爲スヘキ處理ニ付テハ仍商標法施行細則ニ依ル

第二十一條　舊商標法ニ依リ發生シタル商標權又ハ標章權ニ付テハ其ノ商標又ハ標章ヲ使用スヘキ商品ノ類別ハ仍從前ノ例ニ依ル

●商標ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件（大正十年十二月十六日勅令第四百六十四號）

朕商標ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

勅令第四百六十四號

第一條　商標ニ關スル審判、抗告審判、出訴及再審竝登錄異議及其ノ參加ニ關スル費用ニ付テハ特許法施行令第三章ヲ準用ス

第二條　商標ニ關スル登錄ニ付テハ特許登錄令ヲ準用ス

第三條　商標權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ營業ト共ニスルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

商標法第十二條第二項ノ規定ニ依ル移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ移轉ニ係ル商品ヲ記載スヘシ

聯合ノ商標ノ一商標權ノ移轉ノ登錄又ハ其ノ商標權ノ登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ同時ニ他ノ商標權ニ付テモ同一事項ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第四條　營業ノ廢止ニ依ル商標權ノ登錄ノ抹消ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

商標法第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ノ一部ニ係ル營業ノ廢止ニ依ル登錄ノ一部抹消ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ營業ノ廢止ニ係ル商品ヲ記載スヘシ

第五條　本令ハ商標法第二十六條ノ標章又ハ同法第二十七條若ハ第三十三條ノ團體標章ニ關スル登錄ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第二百九十六號ハ之ヲ廢止ス

●商標登錄規則（大正十年十二月十九日農商務省令第四十二號）

商標登錄規則左ノ通定ム

商標登錄規則

第一條　商標ニ關スル登錄ニ付テハ特許登錄令施行規則ヲ準用ス

第二條　商標原簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第三條　商標原簿ノ聯合商標登錄番號欄ニハ其ノ登錄商標ニ聯合スヘキ商標ノ登錄番號ヲ記載ス

第四條　商標權設定ノ登錄ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ商標ヲ使用スル商品ノ類別及商品竝外國ノ登錄商標ナル場合ニ在リテハ尙其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五條　聯合ノ商標權設定ノ登錄ヲ爲スニハ前條ニ規定スル事項ノ外表示欄ニ聯合ノ商標ナル旨ヲ記載シ其ノ登錄用紙中聯合商標登錄番號欄ニ他ノ聯合ノ登錄商標ノ登錄番號ヲ記載シ他ノ聯合ノ商標權ノ登錄用紙中聯合商標登錄番號欄ニ其ノ登錄番號ヲ記載スヘシ

登錄商標カ聯合ノ商標ト爲リタルトキハ表示欄ニ聯合ノ商標ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

第六條　商標權存續期間更新ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ出願日附、願書番號、查定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附竝商標ヲ使用スル商品ニ變更アリタル場合ニ在リテハ尙其ノ商品ヲ記載スヘシ

第七條　聯合ノ商標權設定ノ登錄アリタル後其ノ一ノ商標權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ聯合ノ商標權ノ登錄用紙中聯合商標登錄番號欄ノ番號ヲ朱抹スヘシ

第八條　商標權ノ分割移轉ノ登錄ヲ爲スニハ特許登錄令施行規則第二十七條乃至第三十二條ノ規定ニ準シ其ノ登錄ヲ爲スヘシ但シ各登錄用紙中表示欄ニ爲スヘキ商標權ノ表示ハ第四條ノ規定ニ準シ之ヲ爲シ尙移轉シタル商標權ノ登錄用紙中甲區事項欄ニ登錄權利者ノ氏名名稱及住所ヲ記載スヘシ

第九條　商品ノ一部ニ係ル營業ノ廢止ニ依ル商標權ノ一部抹消ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ變更ノ登錄ヲ爲スヘシ

第十條　本則ハ商標法第二十六條ノ標章又ハ同法第二十七條若ハ第三十三條ノ團體標章ニ關スル登錄ニ付之ヲ準用ス

附　則

本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年農商務省令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

（別記樣式）

登錄番號		
表題部	表示番號	
	表示欄	
甲區	順位番號	
	事項欄	
代理人欄		
聯合商標登錄番號欄		

●滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件（大正十二年十月二十三日農商務省令臨第九號）

滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ滅失特許原簿回復規則ヲ準用ス

第二條　商標權ニ關スル登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ申請書ニ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品及其ノ類別ヲ記載シ聯合ノ商標ニ在リテハ尙之ト聯合スル商標ノ登錄番號ヲ記載スヘシ

第三條　前條ノ申請書ニハ一商標每ニ其ノ商標見本五通ヲ添附シ商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登錄ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ色ヲ記載シ著色シタル商標見本五通ヲ添附スヘシ

第四條　外國登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標權ニ關スル登錄ノ回復ニ付テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ本國ノ登錄證又ハ其ノ商標及指定商品カ本國ノ登錄ニ係ルモノナルコト竝本國ノ登錄年月日ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條　商標法第二十七條又ハ第三十三條ノ團體標章ノ登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニハ申請書ニ特許局長官ノ認可シタル定款ヲ添附スヘシ

第六條　登錄回復ノ手續ニ付テハ本令ニ規定シタルモノノ外大正十年勅令第四百六十四號及商標登錄規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件（明治四十三年八月二十九日勅令第三百三十七號）

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

第一條　本令施行ノ際同一人ニシテ同一商品ニ使用スヘキ類似商標ニ付商標法及韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ商標ハ聯合商標トス

第二條　商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ、韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ本令施行後六月間ハ其ノ商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三條　商標カ商標法第二條第四號又ハ第五號ニ該當スル場合ニ於テハ商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ、韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ其ノ效力ヲ有セス

第四條　明治四十三年勅令第三百三十六號第一條乃至第三條及第五條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第五條　韓國商標令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十四年三月帝國議會承諾）

第五款　辨理士

●辨理士法（大正十年四月三十日法律第百號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル辨理士法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

辨理士法

第一條　辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條　左ノ條件ヲ具フル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス

一　帝國臣民又ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二　帝國内ニ住所ヲ有スルコト

三　辨理士試驗ニ合格シタルコト

辨理士試驗ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨理士タル資格ヲ有ス

一　辯護士法ニ依リ辯護士タル資格ヲ有スル者

二　高等試驗ノ行政科試驗若ハ司法科試驗又ハ判事檢事登用試驗ニ合格シタル者

三　特許局ニ於テ高等官ニ在職シテ二年以上審判又ハ審査ノ事務ニ從事シタル者

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ辨理士試驗委員ノ銓衡ニ依リ第二條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨理士タル資格ヲ有ス

一　學位ヲ有スル者

二　帝國大學ノ學部又ハ之ト學科程度同等以上ト認ムル内外國ノ學校ニ於テ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者

三　特許局ニ於テ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ事務ニ從事シタル者

第五條　左ニ揭クル者ハ辨理士タルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第二十二條、特許法第百二十九條、第百三十條、第百三十三條若ハ第百三十五條、實用新案法第二十七條、第二十八條、第三十一條若ハ第三十三條、意匠法第二十六條、第二十七條、第三十條若ハ第三十二條又ハ商標法第三十四條、第三十五條若ハ第三十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三　破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四　業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者又ハ業務禁止ノ處分アリタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過セサル者

第六條　特許局ニ辨理士登錄簿ヲ備ヘ辨理士ニ關スル事項ヲ登錄ス

辨理士タラムトスル者ハ辨理士登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

辨理士ノ登錄ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　辨理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ

第八條　辨理士ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事件ニ付其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

一　相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件

二　裁判所又ハ特許局ニ在職中取扱ヒタル事件

第九條　辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關スル事項ニ付裁判所ニ於テ本人ト共ニ出頭シテ本人ノ爲演述ヲ爲スコトヲ得其ノ演述ハ本人即時ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキニ限リ本人自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依リ帝國臣民ニ非サル辨理士出頭シテ演述ヲ爲サムトスルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　辨理士ハ特許局所在地ニ辨理士會ヲ設立スヘシ

辨理士會ハ支部ヲ設クルコトヲ得

第十一條　辨理士會ハ辨理士ノ風紀ヲ保持シ業務ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第十二條　辨理士會ハ法人トス

第十三條　辨理士會ハ農商務大臣之ヲ監督ス

第十四條　辨理士會ハ會則ヲ設ケ役員ニ關スル事項、會議ニ關スル事項、辨理士ノ風紀保持ニ關スル事項、謝金及手數料ニ關スル事項其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル事項ヲ規定スヘシ

會則ハ特許局長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ會則ノ變更ニ付亦同シ

第十五條　辨理士會ノ設立ノ手續、機關ノ組織及監督ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　辨理士ハ辨理士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十七條　辨理士本法又ハ辨理士會ノ會則ニ違反スル行爲アルトキハ農商務大臣ハ辨理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

辨理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　辨理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一　譴責

二　五百圓以下ノ過料

三　一年以內業務ノ停止

四　業務ノ禁止

第十九條　辨理士會ハ辨理士ニ對シ懲戒ノ必要アリト認メタルトキハ特許局長官ヲ經由

シテ農商務大臣ニ申告スヘシ

第二十條　農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依ル辨理士會ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ辨理士懲戒委員會ヲ招集ス

第二十一條　過料ヲ完納セサルトキハ特許局長官ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　辨理士又ハ辨理士タリシ者故ナク其ノ業務上知得タル發明者、考案者、特許出願者又ハ登錄出願者ノ發明、考案又ハ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附　則

第二十三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　特許辨理士令及特許辨理士組合規則ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第二十六條　第五條第一號ニ該當スル者ヲ除クノ外舊特許法第九十二條、第九十三條若ハ第九十七條、舊實用新案法第二十二條、第二十三條若ハ第二十五條若ハ第二十九條又ハ舊商標法第二十三條、第二十四條若ハ第二十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ハ辨理士タルコトヲ得ス但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル資格ヲ有スル者ハ辨理士タル資格ヲ有スル者ト看做ス

第二十八條　本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル者ハ辨理士ト看做ス

第二十九條　特許辨理士登錄簿ハ辨理士登錄簿ト看做ス

第三十條　第十六條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ起算シ六月間之ヲ適用セス

（大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行）

●辨理士法施行令

（大正十年十二月十六日勅令第四百六十六號）

朕辨理士法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

辨理士法施行令

第一章　辨理士試驗

第一條　辨理士試驗ハ毎年一回東京ニ於テ之ヲ行フ其ノ期日及場所ハ農商務大臣之ヲ定メ豫メ官報ヲ以テ公告ス

第二條　辨理士試驗ハ辨理士試驗委員之ヲ行フ

辨理士試驗委員ハ委員長一人常任委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ外必要アルトキハ試驗施行毎ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　委員長、常任委員及臨時委員ハ特許局高等官、司法省高等官及辨理士ノ中ヨリ農商務大臣之ヲ命ス

第四條　委員長ハ常任委員及臨時委員ヲ監督シ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第五條　辨理士法第五條又ハ第二十六條ノ規定ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ第八條第二項ノ規定ニ依リ選擇シタル科目ヲ記載シ履歷書ヲ添附シ之ヲ委員長ニ差出スヘシ

第七條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ十圓ヲ納付スヘシ

手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

手數料ハ願書ヲ取下ケタルトキ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖之ヲ還付セス

第八條　試驗ハ筆記及口述トシ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

一　特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル法令及條約類

二　民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法及國際私法

三　應用理學及應用化學

筆記試驗ハ受驗者ノ選擇ニ依リ前項第一號及第二號ノ科目又ハ同項第一號及第三號ノ科目ニ付之ヲ行フ

口述試驗ハ第一項第一號ノ科目ニ付之ヲ行フ

第九條　不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケムトシタル者ハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス試驗合格決定後發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第十條　試驗合格者ヲ定ムル方法ハ辨理士試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

第十一條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ授與ス

第十二條　試驗合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二章　辨理士ノ登錄

第十三條　辨理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ氏名、住所及事務所ヲ記載シ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ特許局長官ニ差出スヘシ

第十四條　登錄料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第十五條　特許局長官ハ辨理士ノ登錄ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ登錄ヲ拒否シタルトキハ申請人ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依ル登錄ノ拒否ノ通知ニハ理由ヲ附スヘシ

第十六條　登錄ノ拒否ノ通知ヲ受ケタル者其ノ拒否ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十七條　特許局長官ハ辨理士登錄簿ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　氏名及住所

二　事務所

三　登錄ノ年月日

四　辨理士會加入及脫退ノ年月日

五　懲戒

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長官ハ辨理士ノ登錄ヲ抹消スヘシ

一　登錄抹消ノ申請アリタルトキ

二　死亡シタルトキ

三　辨理士タル資格ヲ具ヘサルカ又ハ具ヘサルニ至リタルトキ

第十九條　特許局長官ハ前條第三號ノ規定ニ依リ登錄ヲ抹消シタルトキハ登錄ヲ抹消セラレタル者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依ル通知ニハ理由ヲ附スヘシ

第二十條　前條ノ通知ヲ受ケタル者登錄ノ抹消ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條　特許局長官ハ辨理士ノ登錄又ハ其ノ抹消若ハ回復ヲ爲シタルトキハ官報、特許公報、實用新案公報及商標公報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十二條　辨理士ハ其ノ氏名、住所又ハ事務所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ特許局長官ニ屆出ツヘシ

辨理士死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ親族ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ特許局長官ニ屆出ツヘシ

第三章　辨理士會

第二十三條　辨理士會ハ毎年定期總會ヲ開ク

辨理士會ハ必要アル場合ニ於テハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

總會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會務ニ付議決ス

第二十四條　辨理士會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　理　事　若干人

二　常議員　若干人

理事ハ會則ノ定ムル所ニ依リ辨理士會ヲ代表シ會務ヲ執行ス

常議員ハ會務執行ノ狀況ヲ監査シ會則ノ定ムル事項ニ付審議ス

理事及常議員ハ總會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ選任ス

第二十五條　辨理士會ハ農商務大臣又ハ特許局長官ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

辨理士會ハ農商務大臣又ハ特許局長官ニ建議スルコトヲ得

第二十六條　辨理士會ハ左ノ事項ヲ遲滯ナク特許局長官ニ報告スヘシ

一　會員ノ加入及脫退

二　役員ノ選任及解任

三　總會ノ決議

四　特許局長官ニ於テ報告ヲ求メタル事項

第二十七條　農商務大臣ハ總會ノ決議又ハ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第四章　辨理士懲戒委員會

第二十八條　辨理士懲戒委員會ハ委員長一人委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員會ニ豫備委員四人ヲ置ク

委員長ハ特許局長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員及豫備委員ノ內各二人ハ特許局高等官ノ中ヨリ、其ノ他ノ委員及豫備委員ハ辨理士ノ中ヨリ農商務大臣之ヲ命ス

第二十九條　委員會ノ議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第三十條　委員長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員之ヲ代理ス

委員中闕員アルトキ、事故アル者アルトキ又ハ委員長ヲ代理スル者アルトキハ委員長ノ指名シタル豫備委員之ヲ代理ス

第三十一條　委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス但シ補闕ノ爲命セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第三十二條　委員會ニ書記三人ヲ置ク

書記ハ特許局判任官ノ中ヨリ農商務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第三十三條　辨理士法第十九條ノ規定ニ依ル申告ハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　委員會ノ招集アリタルトキハ委員長ハ懲戒スヘキ行爲及證據ヲ示シテ其ノ旨ヲ本人ニ通知シ且期間ヲ指定シテ之ニ辯明ノ機會ヲ與フヘシ

第三十五條　委員會ハ必要アリト認ムルトキハ口頭審理ノ期日ヲ定メ本人ノ出頭ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ本人ハ他人ヲシテ辯護セシメ又ハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

第三十六條　辨理士會カ辨理士法第十九條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル場合ニ於テハ委員會ハ前條ノ期日ヲ辨理士會ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ辨理士會ハ其ノ代表者ヲシテ口頭審理ニ出頭シテ辯論ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　委員長、委員及豫備委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ干與スルコトヲ得ス

第三十八條　委員會ノ審理手續ハ委員會之ヲ定ム

第三十九條　委員會議決ヲ爲シタルトキハ委員長ハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

附　則

第四十條　本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

特許辨理士試驗規則ハ之ヲ廢止ス

第四十一條　農商務大臣ハ辨理士會ノ設立ニ關スル事務ヲ行ハシムル爲本令施行後三十日以內ニ辨理士中ヨリ三十人ノ設立委員ヲ選任スヘシ

第四十二條　設立ニ關スル事務ハ設立委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第四十三條　設立委員ハ選任ノ日ヨリ六十日以內ニ設立總會ヲ招集スヘシ

第四十四條　設立總會ニ於テハ辨理士會ノ會則ヲ議定シ役員ヲ選任スヘシ

第四十五條　設立總會ノ議事ハ出席シタル辨理士ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

●朝鮮ニ於ケル特許辨理士ニ關スル件

（明治四十三年八月二十九日勅令第三百三十九號）

朕朝鮮ニ於ケル特許辨理士ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

韓國特許辨理士令ニ依ル登錄ハ特許辨理士令ニ依ル登錄ト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二章　度量衡

●度量衡法

（明治四十二年三月八日法律第四號）（改正　大正八年第五〇號、一〇年第七一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル度量衡法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

度量衡法

第一條　度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

メートルハ融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際メートル原器ノ示ス所ノ長トス

キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス

第二條　メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルメートル原器ニ依リ、キログラムハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

第三條　度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度	ミクロン	メートルノ百萬分ノ一
	ミリメートル	メートルノ千分ノ一
	センチメートル	メートルノ百分ノ一
	デシメートル	メートルノ十分ノ一
	メートル	
	キロメートル	千メートル
面積	平方ミリメートル	平方メートルノ百萬分ノ一
	平方センチメートル	平方メートルノ一萬分ノ一
	平方デシメートル	平方メートルノ百分ノ一
	平方メートル	
	平方キロメートル	百萬平方メートル
量	立方センチメートル	立方メートルノ百萬分ノ一
	立方デシメートル	立方メートルノ千分ノ一
	立方メートル	
衡	ミリグラム	キログラムノ百萬分ノ一
	グラム	キログラムノ千分ノ一
	キログラム	
	トン	千キログラム

前項ニ規定スル度量衡又ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量衡ニシテ土地又ハ液體ノ計量其ノ他特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　溫度、密度、壓力、工率其ノ他ノ狀態及能率ノ計量ノ單位ニシテ度量衡又ハ度量衡ニ非サル他ノ單位ニ依リテ定ムルモノニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　第二條ニ揭クル度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス

農商務大臣ハ前項ノ原器ニ依リ製作シタル副原器二組ヲ以テ前項ノ原器ニ代用ス

副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス

第五條ノ二　本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依ラサル度量衡又ハ計量ノ單位ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外取引上又ハ證明上ニ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第六條　度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ業ヲ營マムトスル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

第七條　度量衡器ヲ製作、輸入、移入又ハ修覆シタル者ハ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外其ノ檢定ヲ受クヘシ

檢定ニ合格シタル度量衡器ニハ檢定證印ヲ附ス

檢定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

一　檢定證印ナキモノ

二　修覆ヲ爲シタル後其ノ檢定ヲ受ケス又ハ檢定ニ合格セサルモノ

三　變造シタルモノ

四　勅令ノ定ムル公差以上ノ差狂ヲ生シタルモノ

五　命令ノ定ムル構造ヲ具備セサルニ至リタルモノ

第八條ノ二　度量衡器ニ非サルモノ及前條各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外取引上又ハ證明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ之ヲ使用シ又ハ使用ニ供スル爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條ノ三　度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ニシテ其ノ表記正味量カ實量ヲ超過スルモノハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

商品ノ度量衡ニ依ル量目ノ表記ハ正味量ノ表記ニ非サルコト明ナル場合ヲ除クノ外之ヲ正味量ノ表記ト看做ス

第九條　度量衡器ノ製作、修覆、取締及其ノ使用ノ制限竝度量衡ノ計量ノ取締ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　當該官吏ハ度量衡器ノ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ店舖、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際度量衡ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第十一條　當該官吏ハ第八條第二號乃至第五號ニ該當スル度量衡器ノ證印ヲ除去シ若ハ消印ヲ附シ又ハ其ノ度量衡器ヲ破毀シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條ノ二　當該官吏ハ度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ニシテ其ノ表記正味量カ實量ヲ超過スルモノノ表記ヲ更正シ又ハ消去シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條　度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ當該官廳ノ命ニ從ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第八條、第八條ノ二又ハ第八條ノ三第一項ニ違反シタル者

二　度量衡ノ計量ヲ僞ル目的ヲ以テ不正ニ度量衡器ヲ使用シタル者

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　免許ヲ受ケスシテ度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ業ヲ營ミタル者

二　度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣營業ノ停止中其ノ營業ヲ爲シタル者

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第五條ノ二ニ違反シタル者

二　當該官吏ノ訊問ニ對シ虚僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者

第十六條　度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者、業務上取引若ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル者又ハ度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ヲ販賣スル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十七條　度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者、業務上取引若ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル者又ハ度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ヲ販賣スル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ヲ科スルコトヲ得ス

第十九條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條　第六條乃至第八條ノ二、第九條乃至第十一條及第十二條乃至前條ハ勅令ヲ以テ定ムル計量器ニ之ヲ準用ス

第二十一條　本法中罰則ニ關スル規定ハ公務所ニ之ヲ適用セス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

刑法施行法第二十五條第一項第三號中「第七節及ヒ」ヲ削ル

本法施行前ニ於ケル度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ仍其ノ效力ヲ有ス

（明治四十二年勅令第百六十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

附　則（大正十年法律第七十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從來慣用ノ度量衡ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内仍之ヲ用ウルコトヲ得

本法施行前檢定ヲ受ケタル度量衡器又ハ計量器ニシテ第三條第一項ノ規定又ハ同條第二項若ハ第四條ニ基キテ發スル勅令ニ依ル度量衡又ハ計量ノ單位ニ依ラサルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ檢定ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

●度量衡法施行令

（大正十三年勅令第百十六號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

（明治四十二年六月二十五日勅令第百六十九號）（改正　大正五年第一二七號、九年第一九二號、一〇年第一七六號、一二年第一〇〇號、一三年第一一七號）

朕度量衡法施行令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

度量衡法施行令

第一條　土地又ハ液體ノ計量其ノ他特殊ノ場合ニ用ウル度量衡ニ付テハ度量衡法第三條第一項ノ規定ニ依ルノ外尚其ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

土地又ハ水面ノ面積

アール	百平方メートル
ヘクタール	百アール

海面ニ於ケル長

海里	千八百五十二メートル

量

液體、瓦斯體、粒狀物又ハ粉狀物ノ量

ミリリットル	リットルノ千分ノ一
デシリットル	リットルノ十分ノ一
リットル	立方デシメートル
ヘクトリットル	百リットル
キロリットル	千リットル

衡

寶石ノ重量

カラット	二百ミリグラム

第一條ノ二　度量衡法第三條第一項及前條ニ規定スル度量衡中其ノ名稱ノ略字ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

ミクロン	μ
ミリメートル	mm又ハ粍
センチメートル	cm又ハ糎
デシメートル	dm
メートル	m又ハ米
キロメートル	km又ハ粁
アール	a
ヘクタール	ha
海里	浬

量

立方センチメートル	cc
ミリリットル	ml又ハ竓
デシリットル	dl又ハ竕
リットル	l又ハ立
ヘクトリットル	hl又ハ竡
キロリットル	kl又ハ竏

衡

ミリグラム	mg又ハ瓱
グラム	g又ハ瓦
キログラム	kg又ハ瓩
トン	t又ハ瓲
カラット	ct

第一條ノ三　度量衡法第四條ノ規定ニ依リ計量ノ單位ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　力ノ單位ハメガダイントス

メガダインハ一キログラムノ質量ノ物體ニ働クトキ一秒ニ付毎秒十メートルノ速度ノ増加ヲ與フル力ヲ謂フ

力ノ單位ニハ重量キログラムヲ用ウルコトヲ得一重量キログラムハ之ヲ〇、九八メガダイントス

二　壓力ノ單位ハバールトス

バールハ一メガダインノ力ヲ一平方センチメートルノ面積ニ受クル壓力ヲ謂フ

壓力ノ單位ニハ平方センチメートルニ付重量キログラムヲ用ウルコトヲ得平方センチメートルニ付一重量キログラムハ之ヲ〇、九八バールトス

バールハ之ヲ氣壓ト稱スルコトヲ得

三　仕事ノ單位ハジュールトス

ジュールハ一メガダインノ力ニ抵抗シテ十センチメートルノ長タケ物體ヲ動カストキ爲サルル仕事ヲ謂フ

仕事ノ單位ニハキログラムメートルヲ用ウルコトヲ得一キログラムメートルハ之ヲ九、八ジュールトス

四　工率ノ單位ハキロワットトス

キロワットハ一秒ニ付千ジュールノ工率ヲ謂フ

五　密度ノ單位ハ一氣壓ニ於テ四度ノ温度ヲ有スル純粹ノ水ノ密度トス

六　温度ノ單位ハ度トス

度ハ一定ノ體積ヲ保タシメツツ一定質量ノ完全瓦斯ノ温度ヲ融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ温度ヨリ一、〇一三三氣壓ニ於テ沸騰スル純粹ノ水ノ蒸氣ノ温度迄變セシムル間ニ於テ生スル壓力ノ増加ノ百分ノ一ノ壓力ヲ其ノ完全瓦斯ニ生スル温度ヲ謂フ

融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ温度ハ之ヲ零度トス

度ハ之ヲ攝氏度ト稱スルコトヲ得

前項第一號及第四號ニ於テ秒トハ平均太陽日ノ八萬六千四百分ノ一ヲ謂フ

第一條ノ四　前條ニ規定スル單位ノ倍數若ハ分數ノ名稱又ハ前條ニ規定スル單位ニ依リテ定ムル他ノ計量ノ單位ハ農商務大臣之ヲ定ム

第一條ノ五　度量衡法第二十條ノ規定ニ依リ計量器ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　晴雨計以外ノ計壓器

二　浮秤

三　物體ノ膨脹ニ依ル温度計

四　生絲纖度檢定器

五　乳脂計

第一條ノ六　第一條ノ三及第一條ノ四ノ規定ニ依ル單位ニ依リ計量スヘキ狀態又ハ能率ト異ル狀態又ハ能率ニ關シテハ任意ノ計量ノ單位ヲ用ウルコトヲ得

第一條ノ七　輸出又ハ輸入ニ係ル商品ニ關シテハ第一條、第一條ノ三若ハ第一條ノ四又ハ度量衡法第三條第一項ノ規定ニ依ラサル度量衡又ハ計量ノ單位ト雖之ヲ用ウルコトヲ得但シ輸入ニ係ル商品ヲ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ハ輸入ニ係ル商品ヲ更ニ輸出スル目的ヲ以テ販賣スル場合ニハ之ヲ適用セス

第二條　度量衡器又ハ計量器ノ製作ノ業ヲ營マムトスル者ハ農商務大臣、修覆又ハ販賣ノ業ヲ營マムトスル者ハ其ノ營業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

度量衡器ノ製作ノ免許ハ度器、量器又ハ衡器ニ付各別ニ之ヲ受クヘシ

計量器ノ製作ノ免許ハ玻璃製温度計及浮秤ト其ノ他ノ計量器トニ付各別ニ之ヲ受クヘシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ度量衡器又ハ計量器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ三年ヲ經タル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　度量衡法第十四條ノ規定ノ適用又ハ準用ニ依リ刑ニ處セラレタル者但シ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ三年ヲ經タル者ハ此ノ限ニ在ラス

三　度量衡法ニ依リ營業免許ヲ取消サレタル後二年ヲ經サル者及營業停止中ノ者

四　前二號ニ掲ケタル者ノ同居者、雇人其ノ他ノ從業者

五　破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

法定代理人ニ依リ免許ヲ出願シタル場合ニ於テ其ノ法定代理人カ前項各號ノ一ニ該當スルトキ亦前項ニ同シ

免許ヲ受ケタル者ニシテ第一項第一號、第二號又ハ第五號ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

法定代理人カ第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ法定代理人ニ依リ業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四條　度量衡器又ハ計量器ノ製作ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ身元保證金ヲ供託スヘシ

度器、量器又ハ玻璃製温度計及浮秤ノ製作	二千圓
衡器又ハ玻璃製温度計及浮秤以外ノ計量器ノ製作	五千圓

前項ノ身元保證金ハ國債證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五條　度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ノ期間ハ十五年トス

第六條　度量衡器又ハ計量器ノ製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ免許ノ區別ニ從ヒ度量衡器又ハ計量器ノ修覆及販賣ノ業ヲ營ムコトヲ得

度量衡器ノ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ取緒、皿紐、鉤紐及錘絲ニ付桿秤ノ修覆ノ業ヲ營ムコトヲ得但シ金屬ニ係ル修覆ハ此ノ限ニ在ラス

量器ノ製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ乳脂計ノ製作、修覆及販賣ノ業ヲ、衡器ノ製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ生絲纖度檢定器ノ製作、修覆及販賣ノ業ヲ營ムコトヲ得

第七條　度量衡器ノ檢定ハ之ヲ分チテ甲種檢定及乙種檢定トス

左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ニ付行フ檢定ヲ甲種檢定トス

一　鋼鐵製卷尺、縮尺又ハ二分ノ一ミリメートル以下ノ日盛アル度器

二　日盛アル玻璃製枡及化學用量器

三　秤量ニ於テ其ノ一萬分ノ一以下又ハ一ミリグラム未滿ノ重量ヲ感スル天秤

四　重量十ミリグラム未滿ノ分銅及之ヲ含メル組分銅

五　瓦斯「メートル」

前項以外ノ檢定ヲ乙種檢定トス

第八條　度量衡器ノ甲種檢定ハ農商務大臣之ヲ行ヒ乙種檢定ハ地方長官之ヲ行フ

計量器ノ檢定ハ農商務大臣之ヲ行フ

第九條　左ノ場合ニ於テハ度量衡器ノ檢定ヲ受クルコトヲ要セス但シ第一號ノ場合ニ於テハ豫メ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者輸出若ハ移出スヘキ度量衡器、取引若ハ證明以外ノ用ニ供スヘキ度量衡器又ハ特ニ農商務大臣ノ指定シタル用ニ供スヘキ度量衡器ヲ製作、輸入、移入又ハ修覆シタルトキ

二　度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ニ非スシテ取引若ハ證明以外ノ用ニ供スヘキ度量衡器ヲ製作、輸入、移入又ハ修覆シタルトキ

三　度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ノ爲シタル桿秤ノ修覆ニシテ其ノ取緒、皿紐、鉤紐又ハ錘絲ノ金屬ニ係ラサルトキ

四　水量「メートル」ヲ製作、輸入、移入又ハ修覆シタルトキ

五　特殊ノ種類又ハ構造ノ度量衡器ニシテ農商務大臣ノ指定シタルモノヲ製作、輸入、移入又ハ修覆シタルトキ

第十條　檢定ヲ行ヒタル度量衡器又ハ計量器左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス

一　第一表又ハ第二表ノ種類ニ屬シ農商務大臣ノ定ムル構造ニ關スル規定ニ適合シ且其ノ器差第三表又ハ第四表ノ公差ヲ超エサルモノ

二　特殊ノ種類又ハ構造ノモノニ在リテハ特ニ農商務大臣ノ定ムル規定ニ適合スルモノ

第十條ノ二　農商務大臣必要ト認ムルトキハ度量衡器ノ檢定ノ有效期間ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ有效期間ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ期限ヲ表示シタル檢定證印ヲ附ス

第十一條　檢定證印アル度量衡器ニシテ檢定ニ合格セサルトキハ其ノ檢定證印ヲ除去シ又ハ之ニ消印ヲ附ス

第十二條　農商務大臣必要ト認ムルトキハ度量衡器ノ製作、修覆ノ方法若ハ材料ヲ指定シ又ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十三條　度量衡器ノ取締ハ之ヲ分チテ第一種取締及第二種取締トス

業務上取引若ハ證明ノ爲使用シ又ハ使用ニ供スル爲所持スル度量衡器ニ付檢査ヲ行フヲ第一種取締トス

前項以外ノ取締ヲ第二種取締トス

第十四條　度量衡器及度量衡ノ計量ノ取締ハ地方長官之ヲ行フ

地方長官ハ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ取締ノ執行ヲ補助セシメ又ハ第二種取締若ハ度量衡ノ計量ノ取締ヲ執行セシムルコトヲ得

農商務大臣必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ第二種取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締ヲ執行